

田 谷 遺 跡

単独 7 軸道路整備推進事業（一）太田大泉線（（国）354 号）
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群 馬 県 太 田 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

田 谷 遺 跡

単独7軸道路整備推進事業(一)太田大泉線((国)354号)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



口絵1 田谷遺跡遠景(西から)



口絵2 田谷遺跡遠景(東から)



口絵3 1区1号方形周溝墓付近(上空から)



口絵4 3・4区の古墳時代および中世・近世の溝(北東から)

序

国道354号バイパス(東毛広域幹線道路)は、J R 高崎駅東口を起点とし、伊勢崎市・太田市・館林市等の東毛地域の主要都市を通り、東北自動車道館林インターチェンジを経て邑楽郡板倉町に至る全長58.6kmの主要幹線道路です。今回の発掘調査にかかる事業区間は平成26年4月に開通し、地域間交流の活発化・産業経済の活性化に寄与するものと期待されています。

ここに報告いたします田谷遺跡は、太田市東矢島町・西矢島町に所在し、平成24・25年度に群馬県太田土木事務所から委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施しました。整理作業は平成25～27年度に行い、本報告書が刊行されることとなりました。

田谷遺跡は矢島台地上に位置し、発掘調査の結果、旧石器時代の石器、古墳時代の方形周溝墓・竪穴住居・溝、奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物、中世の溝、近世の溝・土坑などが確認されました。この調査成果をまとめた本報告書が、地元太田市をはじめ、郷土群馬県の歴史を復元することに資すると考えます。

本報告書の刊行に至るまでには、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、諸機関並びに関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。心から感謝申し上げますとともに、本報告書が地域の歴史理解を深め豊かな社会と未来を目指すための一助として、広く活用されることを願い、序といたします。

平成27年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野 三智男

例 言

1. 本書は、平成23年度社会資本整備総合(活力基盤)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業、平成24年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業に伴い発掘調査され、平成24年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業、平成25年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業、平成26年度単独7軸道路整備推進事業(一)太田大泉線((国)354号)事業に伴い資料整理された田谷遺跡の調査成果を、発掘調査報告書として刊行したものである。

2. 遺跡は、群馬県太田市西矢島町173-1、東矢島町174-3、930-3、935、938-1、938-2、939-1、940-3、941-3、942-1、943-1、946-4、970-3、970-8、1206-1、1207-1、1207-2、1207-4、1208-1、1208-5、1208-10、1208-12、1209-1、1209-2、1211-1、1211-3、1212-1、1212-2、1212-3、1358、1360-1、1360-4、1362、1363-1、1363-2、1364、1369、1370、1371、1372、1373、1378-1、1379-1、1379-2、1380、1381-1、1383-1、1383-2、1383-8、1383-9、1396-1、1397他に所在する。

3. 事業主体は群馬県太田土木事務所である。

4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

5. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

(平成24年度)

履行期間 平成24年4月1日～平成25年1月31日

調査期間 平成24年4月1日～平成24年11月30日

調査担当 女屋和志雄(上席専門員)、都木直人(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社

地上測量委託 株式会社シン技術コンサル北関東支店

空中写真撮影委託 技研測量設計株式会社

(平成25年度)

履行期間 平成25年4月1日～平成25年8月31日

調査期間 平成25年4月1日～平成25年6月30日

調査担当 友廣哲也(上席専門員・調査統括)、都木直人(主任調査研究員)

遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社

地上測量委託 株式会社シン技術コンサル北関東支店

テフラ分析委託 株式会社火山灰考古学研究所

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

(平成25年度)

履行期間 平成25年3月29日～平成26年3月31日

整理期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日

整理担当 田村 博(主任調査研究員)

馬歯分析委託 宮崎重雄

(平成26年度)

履行期間 平成26年3月31日～平成26年12月31日

整理期間 平成26年4月1日～平成26年10月31日

整理担当 大西雅広(上席専門員・資料統括)、石田典子(主任調査研究員)、田村 博(主任調査研究員)
(平成27年度)

履行期間 平成27年 4月 1日～平成27年10月31日

整理期間 平成27年 4月 1日～平成27年 8月31日

整理担当 田村 博(主任調査研究員)

黒曜石原産地推定委託 株式会社パレオ・ラボ

7. 本書作成担当は次のとおりである。

編集 田村 博

本文執筆 第1章第2節:石守 晃(上席専門員・資料統括)、第3章第10節・第5章第2節:津島秀章(専門員(総括))、
第4章第2節～4節:別記委託、前記以外:田村 博

遺物観察 石器・石製品:岩崎泰一(上席専門員・資料1課長)・津島秀章・石田典子、縄文土器:石坂 茂(専門調査役)、
土師器・須恵器:徳江秀夫(資料部長)、中近世陶磁器・土器:大西雅広(上席専門員・調査統括)、金属器・木製品:関
邦一(補佐(総括))・資料統括)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺物写真撮影 石器・石製品:岩崎泰一・津島秀章・石田典子、縄文土器:石坂 茂、土師器・須恵器:佐藤元彦(補
佐(総括))・田村 博、中近世陶磁器・土器:大西雅広、金属器:関 邦一

保存処理 関 邦一

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

9. 出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。記して感謝いたします。

群馬県教育委員会、太田市教育委員会

凡 例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲したが、整理事業の過程で変更したものもある(第3章第1節参照)。

2. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標「世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)」による。主軸方位等の計算にもこれを用いた(第1章第4節参照)。

3. 本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。ただし、遺構によってはこの限りではない。

遺構平面図 方形周溝墓・溝 1 / 100、竪穴住居 1 / 60、竈・貯蔵穴 1 / 30、掘立柱建物・柵 1 / 80、茶毘・井戸・土坑・ピット 1 / 40。なお、平面図上の●は土器を、▲は石器・石製品を、■は鉄製品を表す。

遺構断面図 方形周溝墓・溝 1 / 40、その他は平面図に同じ。なお、断面図上のPは土器・陶磁器、Sは石器・石製品・自然礫を表す。

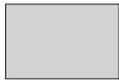
竪穴住居の床面積は周溝を含めた面積であり、プランメーターにより計測した。

4. 本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。ただし、遺物によってはこの限りではない。

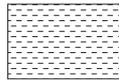
中近世陶磁器・土器 1 / 4、縄文土器・土師器・須恵器・石器(石鏃・旧石器以外)・石製品・木製品 1 / 3、金属器 1 / 2、石器(旧石器) 4 / 5、石器(石鏃)・銭貨 1 / 1。

5. 本報告書のスクリーン表現は以下の通り。

焼土・木器炭化



炭化物



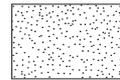
石器磨面



煤・黒色



粘土



攪乱



6. 本報告書における遺構等の略称は以下の通り。

周…方形周溝墓 住…竪穴住居、竈…竈、貯…貯蔵穴、掘…掘立柱建物、柵…柵、溝…溝状遺構、井…井戸、茶…茶毘遺構、土…土坑、ピ…ピット、P…柱穴(竪穴住居等)、外…遺構外

7. 本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図下に「L=○○m」のように表記した。

8. 本報告書における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帳』によった。

9. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下の通り(テフラの名称は町田 洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による)。

As-A…浅間A、As-B…浅間B、As-C…浅間C、As-YP…浅間板鼻黄色、As-0k1…浅間大窪沢1、As-0k2…浅間大窪沢2、As-BP…浅間板鼻褐色、AT…始良T n

目次

カラー口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真目次

第1章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査	3
第3節 発掘調査の経過	3
第4節 発掘調査の方法	4
第5節 整理作業の経過と方法	5
第2章 周辺の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8
第3節 基本土層	17
第3章 確認された遺構と遺物	18
第1節 概要	18
第2節 方形周溝墓	25
第3節 竪穴住居	34
第4節 掘立柱建物・柵	54
第5節 溝	74
第6節 井戸	146

第7節 茶毘遺構	157
第8節 土坑・ピット	157
第9節 遺構外出土遺物	265
第10節 旧石器	274
第4章 自然化学分析	296
第1節 概要	296
第2節 1区11号土坑出土の馬歯	297
第3節 テフラ分析	298
第4節 黒曜石製石器原産地推定	303
第5章 まとめ	306
第1節 地形と遺構の概況	306
第2節 旧石器時代	306
第3節 古墳時代	308
第4節 奈良・平安時代	311
第5節 中世	314
第6節 近世	317

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

付図 田谷遺跡全体図

插图目次

第1図	遺跡の位置	1	第64図	2区1・2号溝平面、2号溝出土遺物	85
第2図	調査区位置図	2	第65図	2区3号溝平面(1)	86
第3図	旧太田市地域地形分類図	6	第66図	2区3号溝平面(2)、4・5号溝平面、 4・5号溝出土遺物	87
第4図	周辺地形分類図	7	第67図	2区6・24号溝平面、6号溝出土遺物	89
第5図	周辺の遺跡	11	第68図	2区7号溝平面、出土遺物(1)	90
第6図	基本土層柱状図	17	第69図	2区7号溝出土遺物(2)	91
第7図	1区全体図	19	第70図	2区9～12号溝平面、11・12号溝出土遺物	94
第8図	2区全体図	20	第71図	2区13～16・19号溝平面	95
第9図	3区全体図	21	第72図	2区20・21・25～27号溝平面、26号溝 出土遺物	97
第10図	4区全体図	22	第73図	3区1～3号溝平面	99
第11図	5区全体図	23	第74図	3区4号溝平面	100
第12図	1区1号方形周溝墓平面	26	第75図	3区4号溝断面、出土遺物	101
第13図	1区1号方形周溝墓断面	27	第76図	3区5号溝・4区5号溝位置関係(1)	103
第14図	1区1号方形周溝墓遺物出土状況	28	第77図	3区5号溝平面	102
第15図	1区1号方形周溝墓出土遺物	29	第78図	3区5号溝出土遺物(1)	104
第16図	1区2号方形周溝墓平面	30	第79図	3区5号溝出土遺物(2)	105
第17図	1区2号方形周溝墓断面、3号方形周溝墓 平面	31	第80図	3区6号溝平面	107
第18図	1区4号方形周溝墓平面	32	第81図	3区6・7号溝断面、6号溝出土遺物	108
第19図	1区4号方形周溝墓断面、出土遺物	33	第82図	3区7号溝平面	109
第20図	1区1・2号竪穴住居掘方平面、1号竪穴住居 竈掘方平面、出土遺物	35	第83図	3区8～12号溝平面	111
第21図	1区3号竪穴住居掘方平面、炉掘方平面	36	第84図	3区13～15号溝平面	112
第22図	1 出土遺物	41	第85図	3区16～20・22号溝平面、20号溝出土遺物	115
第27図	2区3号竪穴住居掘方平面、3区1号竪穴住居 平面	43	第86図	3区21・23・24号溝平面	116
第28図	3区1号竪穴住居断面、竈平面、出土遺物	44	第87図	4区1・2号溝平面、2号溝出土遺物	118
第29図	3区2号竪穴住居平面、竈平面	45	第88図	4区3号溝平面	119
第30図	3区2号竪穴住居出土遺物	46	第89図	4区3号溝断面	120
第31図	4区1号竪穴住居平面、竈平面、出土遺物	47	第90図	4区3号溝出土遺物	121
第32図	4区2号竪穴住居掘方平面、出土遺物	48	第91図	4区4号溝平面	122
第33図	4区3号竪穴住居掘方平面	49	第92図	3区5号溝・4区5号溝位置関係(2)	123
第34図	4区4・5号竪穴住居平面	50	第93図	4区5号溝平面(1)	124
第35図	4区6号竪穴住居掘方・7号竪穴住居平面	51	第94図	4区5号溝平面(2)	125
第36図	4区8号竪穴住居平面、出土遺物	52	第95図	4区5号溝遺物出土状況(1)	126
第37図	4区9号竪穴住居掘方平面	53	第96図	4区5号溝遺物出土状況(2)	127
第38図	1区1号掘立柱建物平面、出土遺物	55	第97図	4区5号溝出土遺物(1)	128
第39図	1区2・3号掘立柱建物平面	56	第98図	4区5号溝出土遺物(2)	129
第40図	1区3号掘立柱建物断面	57	第99図	4区5号溝出土遺物(3)	130
第41図	1区4号掘立柱建物平面	58	第100図	4区5号溝出土遺物(4)	131
第42図	1区5号掘立柱建物平面、出土遺物	59	第101図	4区5号溝出土遺物(5)	132
第43図	1区6号掘立柱建物平面	60	第102図	4区5号溝出土遺物(6)	133
第44図	1区6号掘立柱建物断面、出土遺物	61	第103図	4区5号溝出土遺物(7)	134
第45図	1区7号掘立柱建物平面	62	第104図	4区5号溝出土遺物(8)	135
第46図	1区8号掘立柱建物平面	63	第105図	4区5号溝出土遺物(9)	136
第47図	1区9号掘立柱建物平面	64	第106図	4区5号溝出土遺物(10)	137
第48図	1区10号掘立柱建物平面	65	第107図	4区6・7号溝平面、7号溝出土遺物	138
第49図	3区1号掘立柱建物平面	66	第108図	4区8～17号溝平面	141
第50図	3区2・3号掘立柱建物平面	67	第109図	5区1～12号溝平面、1～4・6号溝断面	144
第51図	4区1・2号掘立柱建物平面	69	第110図	5区5・7～12号溝断面	145
第52図	4区3号掘立柱建物平面	70	第111図	1区1～3・5号井戸平面、3号井戸出土遺物	147
第53図	4区4号掘立柱建物平面	71	第112図	1区4・6号井戸平面、4号井戸 出土遺物	148
第54図	1区1号柵平面	72	第113図	1区7・8号井戸・2区1・2号井戸平面、 1区7号井戸・2区1号井戸出土遺物	150
第55図	1区2号柵平面、4区1号柵平面	73	第114図	1区9号井戸・2区3・4号井戸平面、 1区9号井戸出土遺物	151
第56図	1区1・2号溝平面	75	第115図	2区5～8号井戸平面、3区1・2号井戸 平面、出土遺物	153
第57図	1区3・4号溝平面、3号溝出土遺物	76	第116図	3区3・4号井戸平面、出土遺物	155
第58図	1区5・6号溝平面	78	第117図	3区5号井戸・4区1・2号井戸平面、3区 5号井戸・4区2号井戸出土遺物	156
第59図	1区7号溝平面、出土遺物	79	第118図	4区3号井戸平面、出土遺物	158
第60図	1区8号溝平面	80			
第61図	1区8号溝断面	81			
第62図	1区9・11号溝平面	82			
第63図	1区10・13号溝平面、12・14号溝平面	83			

第119図	1区1号茶毘遺構平断面	158	第169図	4区55～57号土坑平断面、57号土坑出土遺物、	
第120図	1区1・3・7号土坑平断面	158	5区1・2号土坑平断面	246	
第121図	1区8～14号土坑平断面	160	第170図	5区3～7号土坑平断面	247
第122図	1区15～20号土坑平断面	162	第171図	1区2・5・8～19号ピット平断面、17号ピット	
第123図	1区21～26号土坑平断面	164	出土遺物	251	
第124図	1区27～29号土坑、2区1・2・4号土坑		第172図	1区20～28・30・31・33号ピット平断面	252
平断面	166		第173図	1区34～41・43～49号ピット平断面	253
第125図	2区5・17・6～8号土坑平断面	168	第174図	1区50・51・53～58・60～65号ピット平断面	254
第126図	2区9～12号土坑平断面、10号土坑出土遺物	169	第175図	1区66～73号ピット・2区1～5号ピット	
第127図	2区13～16・18・19号土坑平断面	171	平断面	255	
第128図	2区20～23号土坑平断面	173	第176図	2区6～10号ピット・3区4～7・11～15号ピット	
第129図	2区24～29号土坑平断面	175	平断面	256	
第130図	2区30～34号土坑平断面	177	第177図	3区16～30号ピット平断面	257
第131図	2区35～40・42・43号土坑平断面	179	第178図	3区31～39号ピット・4区5～8号ピット平断面	258
第132図	2区44～49号土坑平断面	181	第179図	4区9～18・20～23号ピット平断面	259
第133図	2区50～55号土坑平断面	183	第180図	4区24・25・28～33・38～41号ピット平断面	260
第134図	2区56～62号土坑平断面	185	第181図	4区42～44・46～54号ピット平断面	261
第135図	2区63～69号土坑平断面	187	第182図	4区55～61・63・65・67～69号ピット平断面、	
第136図	2区70～74号土坑平断面	189	55号ピット出土遺物	262	
第137図	2区75～80号土坑平断面	191	第183図	4区70～81号ピット平断面	263
第138図	2区81～87号土坑平断面	193	第184図	4区82～87号ピット・5区1・2号ピット平断面	264
第139図	2区88～96号土坑平断面	196	第185図	遺構外出土遺物(1)	265
第140図	2区97～104号土坑平断面	198	第186図	遺構外出土遺物(2)	266
第141図	2区105～109号土坑平断面、105号土坑		第187図	遺構外出土遺物(3)	267
出土遺物	200		第188図	遺構外出土遺物(4)	268
第142図	2区110～115号土坑、3区2・3号土坑		第189図	遺構外出土遺物(5)	269
平断面	202		第190図	遺構外出土遺物(6)	270
第143図	3区6・8～10・20号土坑平断面	204	第191図	遺構外出土遺物(7)	271
第144図	3区11～13・16・19・21号土坑平断面	206	第192図	遺構外出土遺物(8)	272
第145図	3区23～28号土坑平断面	208	第193図	田谷遺跡、旧石器時代の石器出土状況	277
第146図	3区29～33号土坑平断面	210	第194図	2区第1文化層、出土石器(1)	278
第147図	3区34～40号土坑平断面	212	第195図	2区第1文化層、出土石器(2)	279
第148図	3区41～46号土坑平断面	214	第196図	2区第1文化層、出土石器(3)	280
第149図	3区47～52号土坑平断面	216	第197図	2区石器出土状況	281
第150図	3区50号土坑出土遺物(1)	217	第198図	2区第1文化層石器出土状況(1)	282
第151図	3区50号土坑出土遺物(2)	218	第199図	2区第1文化層石器出土状況(2)	282
第152図	3区50号土坑出土遺物(3)	219	第200図	2区第2文化層、出土石器	284
第153図	3区50号土坑出土遺物(4)	220	第201図	2区第2文化層石器出土状況(1)	285
第154図	3区53～59号土坑平断面、57号土坑出土遺物	222	第202図	2区第2文化層石器出土状況(2)	285
第155図	3区60号土坑平断面、遺物出土状況	224	第203図	15号調査坑、出土石器	286
第156図	3区60号土坑出土遺物(1)	225	第204図	15号調査坑、石器出土状況	286
第157図	3区60号土坑出土遺物(2)	226	第205図	4区出土石器	288
第158図	3区60号土坑出土遺物(3)	227	第206図	その他の出土石器	288
第159図	3区60号土坑出土遺物(4)	228	第207図	4区石器出土状況	289
第160図	3区61号土坑平断面、出土遺物	229	第208図	4区1・9号調査坑、石器出土状況(1)	290
第161図	4区1・2・4号土坑平断面	230	第209図	4区1・9号調査坑、石器出土状況(2)	290
第162図	4区5～8・10・11号土坑平断面、7号土坑		第210図	2区5トレンチの土層柱状図	299
出土遺物	232		第211図	2区5トレンチの火山ガラス比ダイヤグラム	300
第163図	4区13～15・18・20・21号土坑平断面、15号土坑		第212図	黒曜石産地分布図	303
出土遺物	234		第213図	黒曜石産地推定判別図	305
第164図	4区22～27号土坑平断面	236	第214図	田谷遺跡1・2区、中近世遺構と	
第165図	4区28～31・33・35号土坑平断面、30号土坑		調査前の地割り(1)	315	
出土遺物	238		第215図	田谷遺跡3・4区、中近世遺構と	
第166図	4区36～42号土坑平断面	240	調査前の地割り(2)	316	
第167図	4区43～47号土坑平断面	242	第216図	田谷遺跡5区、中近世遺構と調査前の地割り(3)	317
第168図	4区48～54号土坑平断面、52号土坑出土遺物	244			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表(1)	12	第17表	石器属性表(2)	292
第2表	周辺遺跡一覧表(2)	13	第18表	石器属性表(3)	293
第3表	周辺遺跡一覧表(3)	14	第19表	石器属性表(4)	294
第4表	周辺遺跡一覧表(4)	15	第20表	石器属性表(5)	295
第5表	遺構数量表	23	第21表	馬歯計測表	297
第6表	遺構名称変更一覧表	24	第22表	2区5トレンチにおける火山ガラス比分析結果	301
第7表	ピット一覧表(1)	248	第23表	屈折率測定結果	301
第8表	ピット一覧表(2)	249	第24表	黒曜石産地分析対象一覧表	303
第9表	ピット一覧表(3)	250	第25表	東日本黒曜石産地の判別群	304
第10表	遺構外出土遺物(非掲載)数量表	273	第26表	測定値および産地推定結果	304
第11表	2区第1文化層層位別出土点数	276	第27表	田谷遺跡周辺の旧石器時代石器群	308
第12表	2区第1文化層石材別器種点数	276	第28表	東毛地域方形周溝墓一覧表(1)	309
第13表	2区第2文化層層位別出土点数	283	第29表	東毛地域方形周溝墓一覧表(2)	310
第14表	2区第2文化層石材別器種点数	283	第30表	新田郡内郷推定地一覧表	313
第15表	4区出土石器石材別器種点数	287	第31表	邑楽郡内郷推定地一覧表	314
第16表	石器属性表(1)	291			

写真目次

PL.1	1.1区(西)調査区全景(上空から)			2.4区4・5号竪穴住居掘方全景(西から)	
	2.1区(東)調査区全景(上空から)		PL.18	1.4区4・5号竪穴住居掘方全景(南から)	
PL.2	1.2区調査区全景(東から)			2.4区6号竪穴住居全景(東から)	
	2.2区(西)調査区全景1(南から)		PL.19	1.4区7号竪穴住居全景(北東から)	
	3.2区(西)調査区全景2(南から)			2.4区8号竪穴住居全景(南西から)	
	4.2区(西)調査区全景3(南から)		PL.20	1.4区8号竪穴住居掘方全景(南から)	
	5.2区(西)調査区全景4(東から)			2.4区9号竪穴住居全景(東から)	
PL.3	1.3区(北)・4区(南西)調査区全景(上空から)		PL.21	1.1区1号掘立柱建物全景(上空から)	
	2.3区(南)調査区全景(上空から)			2.1区2号掘立柱建物全景(上空から)	
PL.4	1.4区(南西)調査区全景(上空から)		PL.22	1.1区4号掘立柱建物全景(上空から)	
	2.4区調査区全景(上空から)			2.1区3・5・6号掘立柱建物全景(上空から)	
PL.5	1.5区調査区全景東側(北から)		PL.23	1.1区6号掘立柱建物遺物出土状況(西から)	
	2.5区調査区全景西側(北から)			2.調査風景(南から)	
PL.6	1.1区1号方形周溝墓全景(上空から)			3.調査風景(南西から)	
	2.1区2号方形周溝墓北半部全景(上空から)			4.1区7号掘立柱建物全景(上空から)	
PL.7	1.1区2号方形周溝墓南半部全景(上空から)		PL.24	1.1区8～10号掘立柱建物全景(上空から)	
	2.1区3号方形周溝墓全景(上空から)			2.3区1・3号掘立柱建物全景(上空から)	
PL.8	1.1区4号方形周溝墓全景(上空から)		PL.25	1.3区2号掘立柱建物全景(北東から)	
	2.1区1号竪穴住居掘方全景(西から)			2.4区1号掘立柱建物全景(上空から)	
PL.9	1.1区2号竪穴住居掘方全景(西から)		PL.26	1.4区2号掘立柱建物全景(上空から)	
	2.1区3号竪穴住居全景(西から)			2.4区3号掘立柱建物全景(西から)	
PL.10	1.1区4号竪穴住居全景(北から)		PL.27	1.4区4号掘立柱建物全景(東から)	
	2.1区4号竪穴住居掘方全景(西から)			2.1区1号柵全景(上空から)	
PL.11	1.1区5号竪穴住居掘方全景(北西から)			3.1区2号柵全景(上空から)	
	2.1区6号竪穴住居掘方全景(西から)			4.4区1号柵全景(北西から)	
PL.12	1.1区4号竪穴住居竈掘方全景(西から)		PL.28	1.1区1号溝全景(上空から)	
	2.調査風景(北西から)			2.1区2号溝南部全景(上空から)	
	3.1区7号竪穴住居全景(北から)			3.1区3・4号溝全景(北から)	
	4.2区1号竪穴住居掘方全景(北西から)		PL.29	1.1区5号溝全景(北西から)	
PL.13	1.2区2号竪穴住居掘方全景(北西から)			2.1区6号溝全景(東から)	
	2.2区3号竪穴住居掘方全景(北西から)			3.1区7号溝全景(南西から)	
PL.14	1.3区1号竪穴住居掘方全景(東から)			4.1区8号溝全景(北東から)	
	2.3区2号竪穴住居全景(東から)		PL.30	1.1区8号溝全景(南西から)	
PL.15	1.3区2号竪穴住居掘方全景(南東から)			2.1区9号溝全景(北から)	
	2.3区2号竪穴住居竈全景(南東から)			3.1区10号溝全景(上空から)	
	3.3区2号竪穴住居竈掘方全景(南東から)			4.1区11号溝全景(上空から)	
	4.4区3号竪穴住居掘方全景(南から)		PL.31	1.2区1号溝全景(西から)	
	5.4区3号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)			2.2区2号溝全景(東から)	
PL.16	1.4区1号竪穴住居全景(南西から)			3.2区3・6号溝北部全景(西から)	
	2.4区1号竪穴住居掘方全景(南西から)		PL.32	1.2区3号溝南部全景(北から)	
PL.17	1.4区2号竪穴住居全景(南から)			2.2区5号溝全景(西から)	

3. 2区6号溝北部全景(東から)
4. 2区6号溝南部全景(南から)
- P L .33 1. 2区7号溝全景(南から)
2. 2区9・10号溝全景(北から)
3. 2区11・12号溝全景(南から)
- P L .34 1. 2区15号溝全景(南から)
2. 2区16号溝全景(東から)
3. 2区19号溝全景南部全景(北から)
4. 2区19号溝全景北部全景(北から)
- P L .35 1. 2区20・21号溝全景(北から)
2. 2区25号溝全景土層断面A-A' (南東から)
3. 2区26号溝全景(東から)
4. 2区27号溝全景(南から)
- P L .36 1. 3区1～3・10号溝、8・9・11・12・19号土坑(上空から)
2. 3区4号溝全景(西から)
3. 3区4号溝遺物出土状況(北から)
- P L .37 1. 3区5号溝南端部全景(北から)
2. 3区5号溝遺物出土状況(北から)
- P L .38 1. 3区6号溝北部～中央部全景(北西から)
2. 3区7号溝土層断面A-A' (東から)
3. 3区8・9号溝全景(上空から)
4. 3区11号溝全景(北から)
5. 調査風景(東から)
- P L .39 1. 3区12号溝全景(東から)
2. 3区13・14号溝全景(西から)
3. 調査風景(東から)
4. 3区15～20・24号溝全景(上空から)
- P L .40 1. 3区21号溝全景(北から)
2. 3区22号溝全景(北西から)
3. 3区23号溝全景(北から)
4. 3区23号溝土層断面A-A' (北から)
5. 調査風景(南から)
- P L .41 1. 4区1号溝全景(北から)
2. 4区2号溝全景(南から)
3. 4区3号溝全景(東から)
4. 4区4号溝全景(南から)
- P L .42 1. 4区5号溝全景(北西から)
2. 4区5号溝内2号ピット全景(東から)
3. 4区5号溝遺物出土状況1(北西から)
4. 4区5号溝遺物出土状況2(南東から)
5. 調査風景(西から)
- P L .43 1. 4区6号溝全景(上空から)
2. 4区7号溝全景(北から)
3. 4区8～10号溝全景(南から)
- P L .44 1. 4区11号溝全景(南から)
2. 4区12号溝全景(南から)
3. 4区16号溝全景(北から)
4. 4区13～15・17号溝全景(南西から)
- P L .45 1. 5区1号溝全景(北西から)
2. 5区2号溝全景(北西から)
3. 5区3・9号溝全景(北西から)
4. 5区5号溝全景(南西から)
- P L .46 1. 5区4号溝全景(北西から)
2. 5区6号溝全景(北西から)
3. 5区7・8号溝全景(北西から)
- P L .47 1. 5区10号溝全景(南西から)
2. 5区11号溝全景(南西から)
3. 5区12号溝全景(北西から)
4. 1区1号井戸全景(上空から)
5. 1区2号井戸全景(南から)
- P L .48 1. 1区3号井戸全景(東から)
2. 1区4号井戸全景(南西から)
3. 1区6号井戸全景(南東から)
4. 1区7号井戸全景(東から)
5. 1区8号井戸全景(西から)
6. 1区9号井戸全景(北西から)
7. 2区1号井戸全景(南から)
8. 2区2号井戸全景(南から)
- P L .49 1. 2区3号井戸全景(東から)
2. 2区4号井戸全景(東から)
3. 2区5号井戸全景(北から)
4. 2区6号井戸全景(北西から)
5. 2区7号井戸全景(南から)
6. 2区8号井戸全景(東から)
7. 3区1号井戸全景(南から)
8. 3区2号井戸全景(北から)
- P L .50 1. 3区3号井戸全景(北から)
2. 3区4号井戸全景(南西から)
3. 3区5号井戸全景(南から)
4. 4区1号井戸全景(東から)
5. 4区2号井戸全景(東から)
6. 4区3号井戸全景(南西から)
7. 4区3号井戸遺物出土状況(南から)
8. 1区1号茶毘全景(南から)
- P L .51 1. 1区1号土坑全景(北から)
2. 1区3号土坑全景(北から)
3. 1区7号土坑全景(南西から)
4. 1区9号土坑全景(東から)
5. 1区11号土坑全景(南から)
6. 1区11号土坑遺物出土状況(南から)
7. 1区12号土坑全景(東から)
8. 1区13号土坑全景(東から)
9. 1区14号土坑全景(東から)
- P L .52 1. 1区15号土坑全景(南から)
2. 1区16号土坑全景(南から)
3. 1区17号土坑全景(南から)
4. 1区18号土坑全景(上空から)
5. 1区19号土坑全景(南から)
6. 1区20・21号土坑全景(上空から)
7. 1区22号土坑全景(南西から)
8. 1区23号土坑全景(南西から)
9. 1区24号土坑全景(南東から)
10. 1区25号土坑全景(南東から)
11. 1区26号土坑全景(西から)
12. 1区27号土坑全景(南から)
- P L .53 1. 1区28号土坑全景(東から)
2. 1区29号土坑全景(南西から)
3. 2区1・2号土坑全景(西から)
4. 2区4号土坑全景(西から)
5. 2区6号土坑全景(南から)
6. 2区7号土坑全景(西から)
7. 2区5・17号土坑全景(南から)
8. 2区8号土坑全景(南から)
- P L .54 1. 2区9号土坑全景(南から)
2. 2区10号土坑遺物出土状況(南東から)
3. 2区11号土坑全景(東から)
4. 2区15号土坑全景(南から)
5. 2区16号土坑全景(南から)
6. 2区18号土坑全景(南から)
7. 2区20号土坑全景(南から)
8. 2区25号土坑全景(北から)
- P L .55 1. 2区19号土坑全景(西から)
2. 2区21・22号土坑全景(西から)
3. 2区23号土坑全景(北から)
4. 2区24号土坑全景(北から)
5. 2区26号土坑全景(南から)
6. 2区27号土坑全景(北西から)
7. 2区32号土坑全景(北から)
8. 2区33号土坑全景(南から)
- P L .56 1. 2区28号土坑全景(北から)
2. 2区30号土坑全景(南から)
3. 2区31号土坑全景(南東から)

	4. 2区34号土坑全景(西から)		7. 2区112号土坑全景(北から)
	5. 2区35号土坑全景(南東から)	P L .65	1. 2区109号土坑全景(北から)
	6. 2区37号土坑全景(南から)		2. 2区110号土坑全景(北から)
	7. 2区38号土坑全景(北東から)		3. 2区111号土坑全景(北から)
	8. 2区39号土坑全景(南から)		4. 2区113号土坑全景(南から)
P L .57	1. 2区36号土坑全景(南から)		5. 2区115号土坑全景(東から)
	2. 2区42号土坑全景(西から)		6. 2区114号土坑全景(北東から)
	3. 2区43号土坑全景(北から)		7. 調査風景(東から)
	4. 2区45号土坑全景(北から)		8. 3区2号土坑全景(北から)
	5. 2区47号土坑全景(東から)	P L .66	1. 3区3号土坑全景(北から)
	6. 2区49号土坑全景(北西から)		2. 3区6号土坑全景(南から)
	7. 2区50号土坑全景(北から)		3. 3区10号土坑全景(北から)
	8. 2区51号土坑全景(東から)		4. 3区13号土坑全景(西から)
P L .58	1. 2区52号土坑全景(南から)		5. 3区16号土坑全景(西から)
	2. 2区53・55号土坑全景(東から)		6. 3区20号土坑全景(北から)
	3. 2区54号土坑全景(南から)		7. 3区21号土坑全景(北から)
	4. 2区56号土坑全景(南から)		8. 3区24号土坑全景(南から)
	5. 2区65号土坑全景(南東から)		9. 3区26号土坑全景(北から)
	6. 2区66号土坑全景(南から)	P L .67	1. 3区25号土坑全景(南から)
	7. 2区68号土坑全景(北東から)		2. 3区27号土坑全景(南から)
P L .59	1. 2区58号土坑全景(西から)		3. 3区29号土坑全景(東から)
	2. 2区59号土坑全景(西から)		4. 3区30号土坑全景(南から)
	3. 2区60号土坑全景(西から)		5. 3区32号土坑全景(北から)
	4. 2区61・62号土坑全景(西から)		6. 3区36号土坑全景(東から)
	5. 2区63号土坑全景(北から)		7. 3区37号土坑全景(北東から)
	6. 調査風景(東から)	P L .68	1. 3区31号土坑全景(北から)
P L .60	1. 2区64号土坑全景(南から)		2. 3区33号土坑全景(南から)
	2. 2区67号土坑全景(東から)		3. 3区39号土坑全景(南東から)
	3. 2区69・74号土坑全景(北から)		4. 3区41号土坑全景(北から)
	4. 2区70号土坑全景(東から)		5. 3区42号土坑全景(北から)
	5. 2区71号土坑全景(東から)		6. 3区43号土坑全景(南から)
	6. 2区72号土坑全景(東から)		7. 3区44号土坑全景(東から)
	7. 2区75号土坑全景(南東から)	P L .69	1. 3区34・35号土坑全景(南から)
	8. 2区77号土坑全景(南から)		2. 3区38・40号土坑全景(北から)
P L .61	1. 2区73号土坑全景(北から)		3. 3区45号土坑全景(東から)
	2. 2区76号土坑全景(東から)		4. 3区46号土坑全景(東から)
	3. 2区78号土坑全景(西から)		5. 3区48号土坑全景(南から)
	4. 2区79号土坑全景(東から)		6. 3区51号土坑全景(南から)
	5. 2区80号土坑全景(西から)		7. 3区53号土坑全景(東から)
	6. 2区81号土坑全景(東から)	P L .70	1. 3区47号土坑全景(東から)
	7. 2区82号土坑全景(南東から)		2. 3区49号土坑全景(南から)
	8. 2区83号土坑全景(東から)		3. 3区50号土坑全景(南から)
	9. 調査風景(西から)		4. 3区54号土坑全景(南東から)
P L .62	1. 2区84号土坑全景(東から)		5. 3区55号土坑全景(南東から)
	2. 2区85号土坑全景(西から)		6. 3区56号土坑全景(北から)
	3. 2区86号土坑全景(南から)	P L .71	1. 3区59号土坑全景(東から)
	4. 2区87号土坑全景(北から)		2. 3区60号土坑全景(西から)
	5. 2区89・90号土坑全景(東から)		3. 3区61号土坑全景(南から)
	6. 2区91号土坑全景(北から)		4. 4区1号土坑全景(南から)
	7. 2区96号土坑全景(東から)		5. 4区2号土坑全景(南から)
	8. 2区99号土坑全景(東から)		6. 4区4号土坑全景(西から)
P L .63	1. 2区88号土坑全景(北から)	P L .72	1. 4区5号土坑全景(南から)
	2. 2区92・102号土坑全景(北から)		2. 4区6号土坑全景(西から)
	3. 2区93号土坑全景(西から)		3. 4区7号土坑全景(西から)
	4. 2区94号土坑全景(南から)		4. 4区8号土坑全景(南から)
	5. 2区95号土坑全景(南から)		5. 4区10号土坑全景(北から)
	6. 2区98号土坑全景(北から)		6. 4区11号土坑全景(南から)
	7. 2区103号土坑全景(南から)		7. 4区13号土坑全景(南から)
	8. 2区105号土坑全景(西から)	P L .73	1. 4区14号土坑全景(南西から)
	9. 2区107号土坑全景(西から)		2. 4区15号土坑全景(北西から)
P L .64	1. 2区97号土坑全景(西から)		3. 4区18号土坑全景(南西から)
	2. 2区100号土坑全景(東から)		4. 4区21号土坑全景(北西から)
	3. 2区101号土坑全景(南から)		5. 4区23号土坑全景(南から)
	4. 2区104号土坑全景(南から)		6. 4区24号土坑全景(東から)
	5. 2区106号土坑全景(南から)		7. 4区25号土坑全景(南から)
	6. 2区108号土坑全景(西から)		8. 4区26号土坑全景(西から)

- P L .74 1. 4区27号土坑全景(西から)
2. 4区29号土坑全景(南から)
3. 4区30号土坑全景(南西から)
4. 4区31号土坑全景(北東から)
5. 4区33号土坑全景(南から)
6. 4区35号土坑全景(南から)
7. 4区43・44号土坑全景(北から)
- P L .75 1. 4区38号土坑全景(北から)
2. 4区39号土坑全景(南から)
3. 4区41・42号土坑全景(北から)
4. 4区45・46号土坑全景(北から)
5. 4区47号土坑全景(南から)
6. 4区49号土坑全景(南東から)
7. 4区54号土坑全景(北から)
- P L .76 1. 4区56号土坑全景(西から)
2. 4区57号土坑全景(東から)
3. 調査風景(北東から)
4. 5区1号土坑全景(南から)
5. 5区4号土坑全景(西から)
6. 5区6号土坑全景(北から)
7. 5区7号土坑全景(西から)
8. 1区2号ピット全景(南から)
9. 1区5号ピット全景(南から)
- P L .77 1. 1区8号ピット全景(南から)
2. 1区9号ピット全景(南から)
3. 1区10号ピット全景(南から)
4. 1区13号ピット全景(西から)
5. 1区14号ピット全景(西から)
6. 1区15号ピット全景(南から)
7. 1区16号ピット全景(南から)
8. 1区17号ピット全景(西から)
9. 1区18号ピット全景(西から)
10. 1区19号ピット全景(南から)
11. 1区20号ピット全景(南から)
12. 1区23号ピット全景(南から)
13. 1区25号ピット全景(西から)
14. 1区26号ピット全景(南西から)
15. 1区27号ピット全景(東から)
- P L .78 1. 1区30号ピット全景(南から)
2. 1区31号ピット全景(南から)
3. 1区35号ピット全景(南から)
4. 1区36号ピット全景(南から)
5. 1区37号ピット全景(南から)
6. 1区38号ピット全景(南から)
7. 1区39号ピット全景(南から)
8. 1区40号ピット全景(南から)
9. 1区41号ピット全景(南から)
10. 1区43号ピット全景(南から)
11. 1区45号ピット全景(南から)
12. 1区47号ピット全景(南から)
13. 1区48号ピット全景(南から)
14. 1区49号ピット全景(南から)
15. 2区1号ピット全景(北西から)
- P L .79 1. 2区2号ピット全景(南から)
2. 2区4号ピット全景(東から)
3. 2区5・6号ピット全景(南から)
4. 2区7号ピット全景(北西から)
5. 2区8号ピット全景(南から)
6. 2区9号ピット全景(南から)
7. 2区10号ピット全景(北から)
8. 3区24号ピット全景(南から)
9. 3区25号ピット全景(南から)
10. 3区27・30・32号ピット全景(東から)
11. 3区31号ピット全景(東から)
12. 3区33・34号ピット全景(北から)
13. 3区39号ピット全景(南東から)
14. 4区8号ピット全景(北から)
15. 4区14号ピット全景(南東から)
- P L .80 1. 4区15号ピット全景(南西から)
2. 4区16号ピット全景(南から)
3. 4区18号ピット全景(南から)
4. 4区60号ピット全景(南から)
5. 4区68号ピット全景(南から)
6. 4区69号ピット全景(南から)
7. 4区70号ピット全景(南から)
8. 4区71号ピット全景(南から)
9. 4区74号ピット全景(東から)
10. 4区77号ピット全景(東から)
11. 4区79号ピット全景(東から)
12. 4区81号ピット全景(北西から)
13. 4区83・84号ピット全景(北西から)
14. 5区1号ピット全景(南から)
15. 5区2号ピット全景(南から)
- P L .81 1. 2区2号旧石器調査坑全景(西から)
2. 2区4号旧石器調査坑全景(西から)
- P L .82 1. 2区7号旧石器調査坑全景(西から)
2. 2区8号旧石器調査坑全景(東から)
- P L .83 1. 2区西部旧石器出土状況(南から)
2. 2区15号旧石器調査坑全景(東から)
3. 調査風景(北東から)
4. 調査風景(東から)
- P L .84 1. 4区1号旧石器調査坑全景(北から)
2. 4区9号旧石器調査坑全景(西から)
- P L .85 1区1・4号方形周溝墓、1区1・4号竪穴住居、2区2号竪穴住居出土遺物
- P L .86 3区1・2号竪穴住居出土遺物
- P L .87 4区1・2・8号竪穴住居、1区1・6号掘立柱建物、1区7号溝、2区2・5号溝出土遺物
- P L .88 2区6・7・11・26号溝出土遺物、3区4・5号溝出土遺物(1)
- P L .89 3区5号溝出土遺物(2)
- P L .90 3区6・20号溝出土遺物、4区2・3・5号溝出土遺物(1)
- P L .91 4区5号溝出土遺物(2)
- P L .92 4区5号溝出土遺物(3)
- P L .93 4区5号溝出土遺物(4)
- P L .94 4区5号溝出土遺物(5)
- P L .95 4区5号溝出土遺物(6)
- P L .96 4区5号溝出土遺物(7)
- P L .97 4区5号溝出土遺物(8)
- P L .98 4区5号溝出土遺物(9)
- P L .99 1区3・4・7・9号井戸、2区1号井戸出土遺物
- P L .100 3区1～5号井戸、4区2・3号井戸出土遺物
- P L .101 1区11号土坑、2区10・105号土坑出土遺物、3区50号土坑出土遺物(1)
- P L .102 3区50号土坑出土遺物(2)、3区57・60号土坑出土遺物(1)
- P L .103 3区60号土坑出土遺物(2)
- P L .104 3区60号土坑出土遺物(3)
- P L .105 3区61号土坑、4区7・15・30・52・57号土坑、1区17号ピット出土遺物
- P L .106 遺構外出土遺物(1)
- P L .107 遺構外出土遺物(2)
- P L .108 遺構外出土遺物(3)
- P L .109 遺構外出土遺物(4)
- P L .110 遺構外出土遺物(5)
- P L .111 旧石器時代の石器 2区第1文化層(1)
- P L .112 旧石器時代の石器 2区第1文化層(2)、2区第2文化層、2区15号調査坑、4区

第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

1. 事業実施に至る経緯

田谷遺跡の発掘調査は、平成23年度社会資本整備総合(活力基盤)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業および平成24年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業に伴い実施されたものである。

国道354号バイパス(東毛広域幹線道路)は、J R高崎駅東口を起点とし、伊勢崎市・太田市・館林市等の東毛地域の主要都市を經由し、東北自動車道館林インターチェンジを経て邑楽郡板倉町に至る全長58.6kmの主要幹線道路であり、本事業により地域間交流の活発化、産業

経済の活性化が期待され計画されたものである。

太田第二工区は、国道354号バイパス(東毛広域幹線道路)が暫定的に接続していた国道407号から市道小舞木寄木戸線までの区間である。当該工区は本報告書刊行に先立つ平成26(2014)年4月11日に、国道122号(八重筈道路)と同時に開通した。

2. 発掘調査に至る経緯

本事業は、平成23(2011)年度に群馬県太田土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課との協議を踏まえ、文化財保護課による試掘調査と調整を経て発掘調査が決定された。発掘調査は太田土木事務所の委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が行うこととなった。試掘調査の詳細については、第2節に記す。



第1図 遺跡の位置 (国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」(平成23年6月1日発行)使用)



第2図 調査区位置図 (この地図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図(平成23年測図)を使用し複製した)

なお、国道354号バイパス(東毛広域幹線道路)については、本事業以前に平成11(1999)年4月～平成12(2000)年3月に高林三入遺跡、平成14(2002)年7～11月に八反田遺跡、平成16(2004)年4～6月、8～9月に高林三入遺跡・八反田遺跡、平成18(2006)年4～5月に大泉町間之原遺跡Ⅲ、平成19(2007)年4～5月、10月に大泉町間之原遺跡Ⅳの調査が行われている。これらの遺跡については、平成17(2005)年11月に『高林三入遺跡・八反田遺跡』、平成20(2008)年11月に『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』の報告書が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団から刊行されている。

参考文献

群馬県2007『はばたけ群馬・県土整備プラン2008－2017』
 群馬県2013『はばたけ群馬・県土整備プラン2013－2022』
 群馬県2014『はばたけ群馬プラン・第14次群馬県総合計画・重点プロジェクト(平成26年4月1日改訂)』
 群馬県県土整備部道路整備課(道路企画室)2013『群馬がはばたくための7つの交通軸構想』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『年報』32
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『年報』33
 群馬県ホームページ <http://www.pref.gunma.jp/>
 マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top> 2015年5月1日

第2節 試掘調査

本遺跡は太田市の遺跡番号T0215で登録される周知の遺跡および遺跡番号T0237の条里制水田想定地とされる周知の遺跡の一角を占めている。本事業における調査範囲の確定のための試掘調査は、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成23(2011)年8月27～30日に3・4・5区、同年9月27・28日と同年10月14日に1区に対して実施された。これらの試掘調査は幅1m程のトレンチ掘削によって行われた。トレンチは8月29・30日の試掘調査では11箇所、9月27・28日の試掘調査では9箇所、10月14日の試掘調査では2箇所が設定された。

試掘調査の結果、9月27・28日実施の調査対象地区のうち1区東方に設定されたトレンチでは地表下160～170cmの深度で灰白色粘土層が確認されるまでの間、全く遺構、遺物は確認されなかった。一方、この1区東方のトレンチを除く各地区では、地表下40～100cm程の深度で黄褐色または黄灰色のローム面が確認され、その上

面において竪穴住居、溝、土坑等の遺構の存在を確認し、出土遺物を得た。

上記試掘調査成果に基づいて群馬県教育委員会文化財保護課は、9月27・28日調査のトレンチの調査範囲(1区東方)を除く本遺跡の事業区域内で、本調査が必要と判定された。

第3節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成24(2012)年度の4月から11月にかけての8ヶ月間で9,286㎡、翌平成25(2013)年度の4月から6月にかけての3ヶ月間で2,823㎡、合計12,109㎡を対象として実施した。

【平成24年度】

平成24年度の調査は、4月1日から11月30日までの8ヶ月間実施した。調査区は国道407号線沿いの1調査区を1区、薬王寺付近の調査区を西から2～5区と呼称した。平成24年度は1区および3～5区の調査を行った。

調査は1区西側から着手し、4月18日から重機による表土除去を行い、ローム層上面で古墳時代～中近世の遺構(第1面)を確認した。後世の攪乱により遺構の残存状態は良好といえる状態ではなかったが、方形周溝墓4基をはじめ、竪穴住居、掘立柱建物、溝、井戸などを確認した。6月4日、重機による1区東側の表土除去を開始し、続けて第1面の調査を行った。第1面の調査終了後、旧石器調査を行い、7月19日に埋戻しが終了した。1区調査終了後は、7月9日に4区東側と5区の表土除去を行い、4区東側から第1面の調査に着手し、竪穴住居、溝などを検出した。また、並行して7月20日から3区北側の表土除去を行い、第1面の調査に着手した。以後、3～5区の調査を並行して行い、第1面で竪穴住居、溝、井戸などを検出した。第1面終了後には旧石器調査を行い、10月26日に5区、11月13日に4区、11月28日に3区の埋戻しが終了した。

【平成25年度】

平成25年度の調査は、4月1日から6月30日までの3ヶ月間、2区と3区の一部の調査を実施した。

調査は、2区北側に隣接する薬王寺への進入路を確保

第1章 発掘調査の経過

しつつ2区東側から西側、中央部の順に着手し、4月11日から重機による表土除去を行い、ローム層上で古墳時代～中近世の遺構面(第1面)を確認した。5月17日から旧石器の調査を行い、As-BP前後の石器群を確認した。この間、2区と並行して3区の調査を行った。

以下、その詳細について調査日誌抄に記す。

【調査日誌抄】

平成24年度

4月2日(月)～17日(火) 調査準備。
4月18日(水) 1区西側、表土除去開始。
4月20日(金) 1区西側、第1面(古墳時代～中近世面)調査開始。
5月8日(火) 1区西側、表土除去終了。
6月4日(月) 1区東側、表土除去開始。
6月5日(火) 1区西側、第1面空中写真撮影。1区東側、第1面調査開始。
6月7日(木) 1区西側、旧石器確認調査開始。
6月13日(水) 1区東側、表土除去終了。
6月18日(月) 1区西側、埋戻し開始。
6月25日(月) 1区東側、旧石器確認調査開始。
6月26日(火) 1区西側、埋戻し終了。
6月29日(金) 1区東側、第1面空中写真撮影。
7月9日(月) 4区東側・5区、表土除去開始。
7月11日(水) 4区東側・5区、表土除去中断。
7月13日(金) 4区東側、第1面調査開始。
7月17日(火) 1区東側、埋戻し開始。
7月19日(木) 1区東側、埋戻し終了。
7月23日(月) 4区東側、表土除去再開。
7月24日(火) 4区東側、表土除去終了。
7月25日(水) 3区北側、表土除去開始。
7月31日(火) 3区北側、表土除去終了。5区、表土除去再開。
8月2日(木) 3区北側、第1面調査開始。
8月7日(火) 4区東側、第1面空中写真撮影。5区、第1面調査開始。
8月8日(水) 5区、表土除去終了。
8月27日(月) 4区東側一部、埋戻し開始。
8月28日(火) 4区東側、旧石器確認調査開始。
8月30日(木) 4区西側、表土除去。4区東側一部、埋戻し終了。5区、第1面全景写真撮影
8月31日(金) 4区西側、第1面調査開始。5区、旧石器確認調査開始。
9月26日(水) 3区北側・4区西側、第1面空中写真撮影。
10月3日(水) 4区西側、旧石器確認調査開始。
10月10日(水) 4区、旧石器調査拡張開始。
10月18日(木) 3区北側、旧石器確認調査開始。
10月25日(木) 5区、埋戻し開始。
10月26日(金) 5区、埋戻し終了。
10月29日(月) 3区南側、表土除去開始。3区北側、埋め戻し開始。
10月30日(火) 3区南側、第1面調査開始。
11月1日(木) 3区北側、埋戻し終了。
11月5日(月) 3区南側、表土除去終了。
11月7日(水) 4区、埋戻し開始。
11月13日(火) 4区、埋戻し終了。
11月20日(火) 3区南側、第1面空中写真撮影
11月26日(月) 3区南側、埋戻し開始。
11月28日(水) 3区南側、埋戻し終了。
11月30日(金) 調査終了。

平成25年度

4月1日(月)～10日(水) 調査準備。
4月11日(木) 2区東側、表土除去開始。
4月12日(金) 2区東側、第1面(古墳時代～中近世面)調査開始。
4月18日(木) 2区東側、表土除去終了。

4月22日(月) 2区西側、表土除去開始。
4月23日(火) 2区西側、表土除去終了。
5月2日(木) 2区東側・西側、第1面全景写真撮影、旧石器確認調査開始。
5月8日(水) 2区中央部、表土除去開始。
5月13日(月) 2区中央部、第1面調査開始。
5月16日(水) 2区中央部、表土除去終了。
5月17日(金) 2区中央部、旧石器確認調査開始。
5月20日(月) 2区、旧石器調査拡張開始。
5月28日(火) 3区調査開始。
6月5日(水) 3区調査終了。
6月21日(金) 2区、埋戻し開始。
6月25日(火) 2区、埋戻し終了。
6月28日(金) 調査終了。

第4節 発掘調査の方法

1. 座標の設定

発掘調査に用いた座標・グリッドは世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)を用い、10m×10mを基本とし、第7～11図のように設定した。なお、第IX系の原点は、北緯36° 00' 00"、東経139° 50' 00"(千葉県野田市)であり、本遺跡はX=29820～30002、Y=-40145～-40979に位置する。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=29900、Y=-40400」の場合、「900-400」のように表記した。

2. 調査の方法

表土除去は基本的に重機(バックホー)を用いて行った。表土除去後、平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、移植鍬等で掘削し、測量・写真等で記録した(遺構測量・遺構写真撮影については後述)。遺構番号は、通し番号とせず、調査区ごとに付した。埋め戻しは主として重機(バックホー)を用いて行った。

3. 遺構測量

遺構図は断面図・平面図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40で作図した。平面図は測量会社にデジタル測量を委託し、断面図は発掘作業員によりアナログ測量を行い、測量会社にそのデジタル化を委託した。

4. 遺構写真撮影

遺構写真は、調査担当者が撮影した。iso400ブローニー版モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影し、デジタルカメラでも撮影した(HD・DVDに記録データを保存)。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。また、調査区全景写真については、空中写真撮影を測量会社に委託した。

第5節 整理作業の経過と方法

田谷遺跡の整理作業は、平成24年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業、平成25年度社会資本整備総合(自活)(都)3・2・2東毛幹線(太田第二工区)事業、平成26年度単独7軸道路整備推進事業(一)太田大泉線((国)354号)事業に伴い実施されたものである。

整理期間は、平成25(2013)年度に4月から3月までの12ヶ月間、平成26(2014)年度に4月から10月までの7ヶ月間、平成27(2015)年度に4月から8月までの5ヶ月間である。

以下、その詳細について年度ごとに記す。

【平成25年度】

平成25年度の整理作業は、4月1日から3月31日までの12ヶ月間、太田土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。

整理作業は平成24年度調査分から着手し、25年度調査分については調査終了後の7月以降に順次、整理作業に取り込んだ。遺構図は、点検・修正・編集を行い、報告書掲載用のデジタルデータを作成した。遺物は、接合・復元したものを写真撮影・実測・トレースを行った。遺構写真は、デジタル写真から編集を行い、遺構写真図版の作成を行った。また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等を執筆した。

【平成26年度】

平成26年度の整理作業は、4月1日から10月31日までの7ヶ月間、前年度に引き続き太田土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。

整理作業は4～6月が2班体制、7～10月が1班体制で行った。前年度からの継続作業から着手し、遺物の写真撮影・実測・トレースを行い、遺構図・遺物図のデジタルデータを作成、写真図版は遺構・遺物ともデジタル写真から編集を行った。また、これらの作業と並行して本文原稿・遺物観察表等を執筆した。

【平成27年度】

平成27年度の整理作業は、4月1日から8月31日までの5ヶ月間、前年度に引き続き太田土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。

整理作業は前年度の継続作業から着手し、各デジタルデータを修正、本文原稿・遺物観察表等を執筆し、遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後に最終的なデジタル編集を行い、本報告書を作成した。遺物・図面・写真等の記録資料については、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納、保管した。

なお、整理作業において、遺構名等の変更が生じたが(第6表参照)、これに伴う遺物注記については書きかえを行っていない。

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

1. 地理的現況

田谷遺跡は東武鉄道伊勢崎線太田駅から南に約3km、太田市東矢島町・西矢島町に所在する。現在の太田市は、平成の大合併で平成17(2005)年3月に旧太田市と旧新田郡尾島町・新田町・敷塚本町の1市3町が合併して成立した。

太田市は東毛地域最大の市であり、地域の産業・交通等において重要な位置を占めている。『平成26年度群馬県市町村要覧』には、とくに工業において「輸送機器産業を中心として、大規模工業団地の造成による企業誘致により、北関東屈指の製造品出荷額を誇る」と記されている。そのため、産業人口構成において群馬県平均に比べ第二次産業人口の比率が高く、第一次産業・第三次産業人口の比率が低い傾向にある。交通網に着目すると、鉄道では、太田市東本町の太田駅から東武鉄道伊勢崎線・小泉線・桐生線の3路線が伸びており、市内には太田駅のほか8駅が設置されている。道路では、国道17号バイパス(上武道路)・50号・122号・354号・354号バイパス(東毛広域幹線道)・407号のほか、北関東自動車道が走り、太田市大原町(旧新田郡敷塚本町)に太田敷塚インターチェンジ、太田市東今泉町に太田桐生インターチェンジが設置されており、鉄道・道路とも利便性が高い。

2. 地形的概要

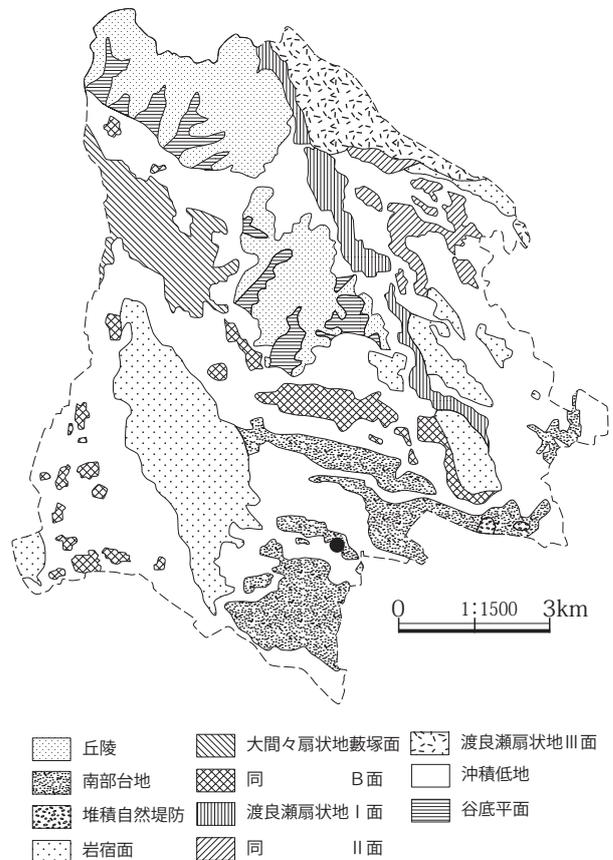
本遺跡は、太田市市街地の南に広がる「矢島台地」と呼ばれる台地上に位置する。遺跡の所在する太田市域の地形は、大きく市街地北側の金山丘陵・八王子丘陵、北西側の大間々扇状地、北東側の渡良瀬川扇状地、市街地南側の洪積台地に区分される。以下、その概要を記す。

太田市周辺においてもっとも顕著な地形は金山丘陵と、金山丘陵北の鞍部に続く八王子丘陵である。この金山丘陵・八王子丘陵の東側にはほぼ群馬・栃木県境に沿って矢場川とその東に渡良瀬川が流れ、丘陵との間に渡良

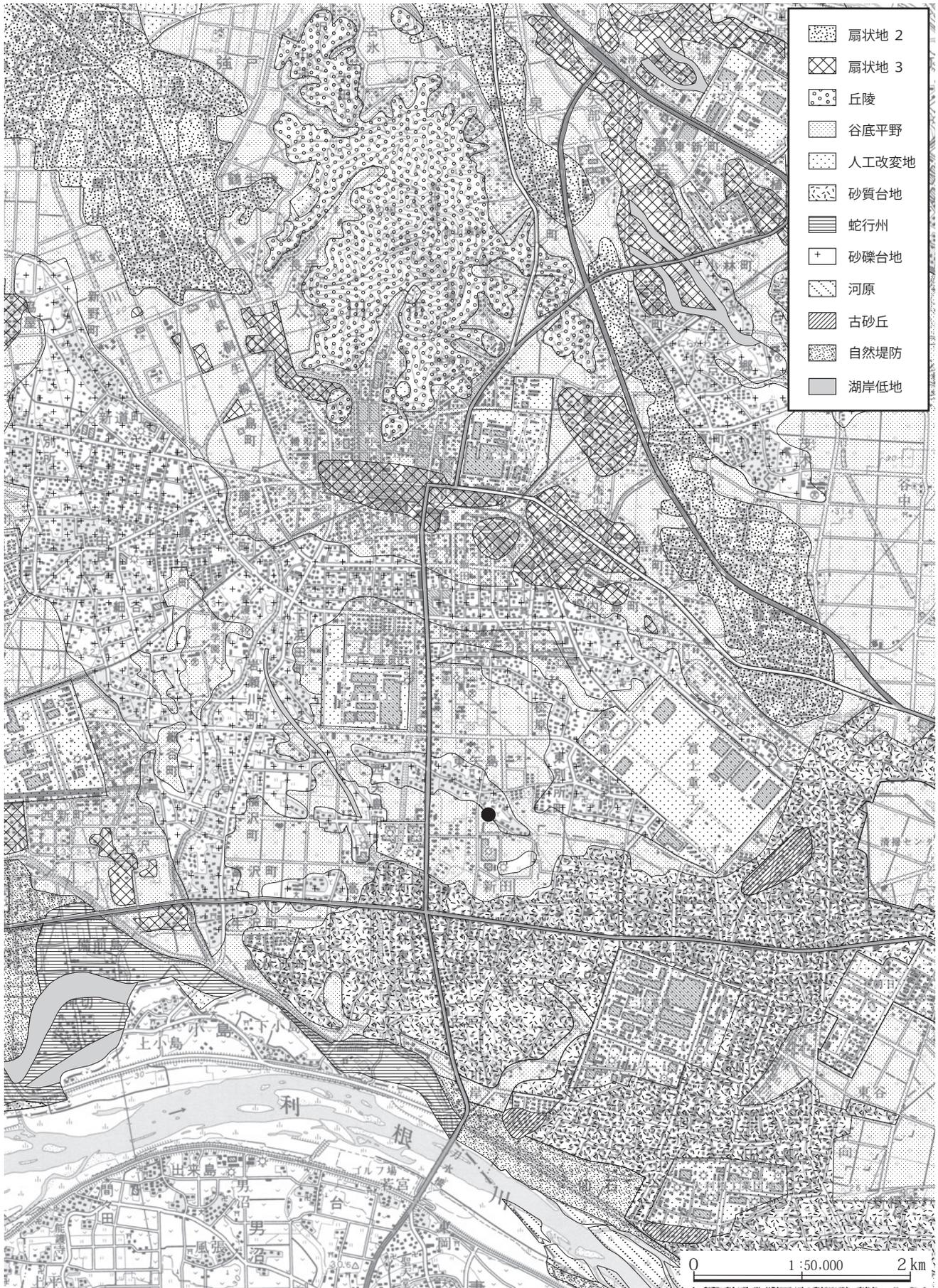
瀬川扇状地が形成されている。

太田市街地の北側に位置する金山丘陵は、その北に続く八王子丘陵とともに渡良瀬川構造線により足尾山地から分離された分離丘陵であり、最高点は丘陵中央部の金山城址付近(標高233.3m)にある。金山丘陵・八王子丘陵はいくつもの肢節をもつ。金山丘陵の主体をなす中央部分は古第三系の金山流紋岩類(熔結凝灰岩)からなり、金山流紋岩類は柱状節理が発達する。山麓部は南西に開く馬蹄形状に秩父古生層が取り巻き、丘陵北端部は新第三系の凝灰質泥岩・砂岩などからなる。

渡良瀬川扇状地は、桐生市相生町の標高110m付近を扇頂部に、金山丘陵・八王子丘陵と足尾山地に挟まれるかたちで、太田市下小林町付近から栃木県足利市御厨町の標高30m付近を扇端部としている。扇状地は形成期の



第3図 旧太田市地域地形分類図
(太田市1996『太田市史』通史編・自然図1-16に加筆修正)



第4図 周辺地形分類図

(地形分類は群馬県『土地分類基本調査・深谷』(1991)による。 国土地理院5万分の1地形図「深谷」(平成10年9月1日発行)使用)

異なる4つの扇状地面で形成されており、太田市台之郷町付近に断片的に分布する岩宿面(葦川台地)と、丘陵側から渡良瀬川方向へ弱い段丘崖が形成され、それぞれ扇状地Ⅰ面・Ⅱ面・Ⅲ面に区分されている。Ⅲ面が最も広く、Ⅰ面・Ⅱ面は岩宿面ほどではないが断片的である。各扇状地面は南北に長く分布し、東西幅が狭い。また、扇状地面上には、旧河道の痕跡が発達している。

これに対し金山丘陵・八王子丘陵の西側には、大間々扇状地が広がる。大間々扇状地は旧渡良瀬川が更新世に形成した扇状地で、南北約18km、東西約13kmに及ぶ大形扇状地である。大間々扇状地は、形成時期を異にする5つの地形面で構成されているが、早川以西の桐原面と、早川以東の藪塚面に扇状地地形の様子がよく残されている。桐原面はみどり市大間々町(旧山田郡大間々町)の標高200m付近を扇頂部に、伊勢崎市境町下湊名の標高50m付近を扇端部とする古期扇状地で、標高90m付近に湧水群がある。これによる扇状地の開析が著しく、台地と低地が複雑に入り組む地形が発達する。藪塚面は、みどり市大間々町(旧山田郡大間々町)の標高170m付近を扇頂部に、太田市新田大根町・新田小金井町の標高60m付近を扇端部とする新期扇状地で、その扇端部には「小金井」「市野井」など、湧水を示す「井」の付く地名があるほか、現在も豊富な湧水を誇る「重殿」「矢太神沼」「団蔵坊」等の湧水群がある。藪塚面は約23,000年前に離水した扇状地で、50,000年前に離水した桐原面に比べ地形的に若く、扇端部からの浸食谷の浸入も浅く、扇形の整った等高線配列を示す。

大間々扇状地の南方には洪積台地(木崎・由良台地)が広がる。木崎・由良台地は大間々扇状地藪塚面に先行する古い洪積台地(砂礫台地)であり、扇状地形成過程で浸食を免れた部分と推定される。台地は太田市新田町木崎付近、および太田市由良町・細谷町にかけて広がっている。

高林・邑楽台地は太田市高林西町から邑楽郡板倉町にかけて広がる洪積台地(砂質台地)である。台地の標高は太田南部で約35m、板倉町で約16mと東へゆるやかに低下している。邑楽台地には大泉町古海から館林市多々良沼に続く古砂丘があり、これが旧利根川の流路であるとされている。その流路は大きく蛇行しているが、基本的に東西方向を向いている。邑楽台地に続く高林台地には

古砂丘は確認されていないが、台地は東西方向に延び、これも旧河道跡を反映したものとする事ができよう。本遺跡の立地する矢島台地は南北約300~400m、東西約1.8kmの小規模な洪積台地(砂礫台地)である。地形的には起伏が少なくほぼ平坦であり、現在は西矢島町・東矢島町の集落と畑に利用されている。矢島台地の周辺には、北に飯塚台地と新井台地(以上、砂礫台地)、南に高林台地(砂質台地)があり、これらの洪積台地は金山丘陵から流れる八瀬川や八王子丘陵から流れる蛇川に浸食により分断され、周辺は沖積低地(谷底平野)となっている。矢島台地周辺の沖積低地は、台地との比高差約0.5~1mほどで、主に水田として利用されている。

参考文献

大泉町誌編集委員会1983a『大泉町誌』上
 大泉町誌編集委員会1983b『大泉町誌』下
 太田市1996a『太田市史』通史編・原始古代
 太田市1996b『太田市史』通史編・自然
 群馬県総務部市町村課2014『平成26年度群馬県市町村要覧』
 群馬県農政部土地改良課1992『土地分類基本調査深谷』
 群馬県農政部土地改良課1997『土地分類基本調査桐生及足利』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『石神遺跡』

第2節 歴史的環境

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、少ないながらも金山丘陵及び周辺の洪積台地上に分布している。金山丘陵周辺では、北関東自動車道関連事業の発掘で調査された峯山遺跡・八ヶ入遺跡(いずれも第5図範囲外)などで旧石器時代の遺物が確認された。峯山遺跡においては暗色帯からチャート製石器群、As-BP降灰前後の黒曜石製石器群が出土し、八ヶ入遺跡においてはAs-YP下から湧別技法による北方系細石刃石器群1,665点が出土している。本遺跡に近い高林三入遺跡(11)では暗色帯及びAs-BP降灰前後に残された石器ブロック・礫群が確認され、ナイフ形石器・剥片類が出土している。その他、東別所遺跡(47)では大形の槍先形尖頭器が出土している。本遺跡では、矢島台地上で初めて、As-YP下とAs-BP降灰前後の石器ブロックが確認された。

2. 縄文時代

縄文時代になると、遺跡数は増加する。前期終末から中期初頭、晩期に遺跡数が減少するものの、その増減傾向は県内縄文遺跡の増減傾向と同様である。県内の遺跡立地は赤城山麓など山麓域の遺跡では前期集落が丘陵性台地に、中期集落が低平な台地へ立地するとされているが、太田市域の場合、前期・中期の遺跡立地に差はなく、これは金山丘陵とくに東側斜面の傾斜が急で丘陵端部に居住空間を十分に確保できないことが、遺跡の立地に影響していると考えられる。太田市域の縄文遺跡は、金山丘陵西の沖積低地内の微高地、および金山丘陵東の扇状地面(Ⅲ面を除く)、市街地南の洪積台地などに分布している。

金山丘陵東の扇状地面からは、下宿遺跡(第5図範囲外)で草創期爪形文土器を伴う土坑が確認されたほか、北関東自動車道関連事業の発掘で大道東遺跡・鹿島浦遺跡・道原遺跡(いずれも第5図範囲外)などで中期末から後期前葉の集落が確認された。渡良瀬川扇状地の下小林立上遺跡(60)からは早期から後期の集落、石神遺跡(第5図範囲外)からは前期の土坑が確認された。これに対し、金山丘陵北西の沖積低地内の微高地からは、西長岡宿遺跡(第5図範囲外)で後期加曾利B式期の配石墓が確認されたほか、菅塩遺跡群(第5図範囲外)で早期(条痕文系土器群)から後・晩期にかけての土器群が出土している。その他、金山丘陵の縄文遺跡は峰山遺跡(第5図範囲外)で早期の土坑が確認されており、集落は丘陵裾部に存在すると考えられる。

本遺跡の立地する矢島台地周辺の縄文遺跡は、草創期爪形文土器が出土した五庵遺跡(27)、早期撚糸文土器が出土した小谷場古墳群(18)・古戸赤城遺跡(34)が知られている程度で、不明な点が多い。周辺域で比較的規模の大きな遺跡としては、本遺跡の東側約3.5kmの邑楽台地上に間之原遺跡・大泉町間之原遺跡(いずれも第5図範囲外)がある。間之原遺跡では前期関山期の環状集落のほか、中期加曾利E式期の大規模拠点集落が確認されている。同遺跡周辺には小町田遺跡(第5図範囲外)に同時期の小規模集落があり、拠点集落を中心に小規模集落が点在する様子が窺える。本遺跡の立地する矢島台地周辺は市街化が著しく遺跡分布は判然としないものの、こう

したあり方を踏まえるなら、本遺跡周辺にも小町田遺跡同様の小規模集落が広がる可能性は否定できない。

3. 弥生時代

太田市域の弥生時代の遺跡数は少なく、金山丘陵周縁や洪積台地周縁の沖積低地に面した地点にわずかながら分布している。市域の主な遺跡として渡良瀬川扇状地の磯之宮遺跡(第5図範囲外)で中期の集落が知られ、金山丘陵付近の焼山遺跡(第5図範囲外)や小丸山遺跡(第5図範囲外)で中・後期土器片が出土している。また、上強戸遺跡群(第5図範囲外)では低地部水田跡から12点の石鍬が出土しており、その開田時期が弥生中期にまで遡ることが想定されており、丘陵部周辺域では、谷地水田を生産域とする小規模集落が展開した可能性がある。後期集落の立地・規模も同様で、それは本地域が基本的に欠水地帯であることに起因すると考えられる。

本遺跡周辺においては、仙石道祖遺跡(39)から中期、高林三入遺跡(11)から後期の土器片が出土しているが、上述したような狭い沖積低地を臨んだ台地縁辺に弥生遺跡が立地する傾向は市街地南に広がる洪積台地でも同様である

4. 古墳時代

古墳時代前期になると、遺跡数は急増する。最も早いものとしては、運動公園内遺跡(49)で前期の竪穴住居が確認されている。少し遅れて宮西遺跡(2)・高林三入遺跡(11)・川向・中西田遺跡(51)・飯塚古墳群(55)などでは、4世紀前半の方形周溝墓を伴う集落が確認されている。また、この地域の古墳時代前期を代表する土器として石田川式土器があるが、その標式遺跡である石田川遺跡(第5図範囲外)は本遺跡の西南西約3kmに所在する。石田川式土器のS字状口縁台付甕は東海地方の弥生時代終末期の土器の流れを汲むことから、東海地方から石田川式土器を用いる人々の流入が考えられる。前期の集落は沖積低地内の微高地や扇状地端部、洪積台地の縁辺部に主に分布するが、中期以降の集落は洪積台地上に広く分布するようになる。中期の集落は川向・中西田遺跡・旧太田工業高校北裏遺跡(64)などで確認されており、後期の集落は宮西遺跡・川向・中西田遺跡・舞台A・D遺跡(87)などで確認されている。うち、舞台A・D遺跡は

6世紀初頭から7世紀中頃の65軒もの竪穴住居が検出された大規模集落であり、土坑から多量の炭化米も出土している。

古墳に目を向けると、前期に主軸全長124mの前方後円墳である朝子塚古墳(16)が築造される。中期には主軸全長210mの東日本最大の前方後円墳である太田天神山古墳(70)と主軸全長106mの帆立貝形古墳の女体山古墳(68)が築造され、後期には高林西原古墳群(20)・高林鶴巻古墳群(23)・東矢島古墳群(30)などの古墳群も台地上に築造されるようになる。太田天神山古墳は周囲に二重の周堀が巡らされ、前方部と後円部との間の鞍部には、主体部に用いられたと考えられる長持形石棺の部材が露出しており、墳丘上からは家・盾・水鳥などの形象埴輪や円筒埴輪が確認されている。長持形石棺は、畿内地域と山陽道・山陰道地域に集中しており、東日本において畿内地域の長持形石棺の典型を踏襲するものは太田天神山古墳の他、伊勢崎市安堀町お富士山古墳(第5図範囲外)のみである。『太田市史』では、旧太田工業高校北裏遺跡の中期集落は、太田天神山古墳などの築造に直接従事した人々の集落であったと推定している。古墳群のうち多くは破壊され消失しているが、東矢島古墳群(30)中の割地山古墳からは、弘仁9(818)年の地震で崩壊した主体部から馬具等が出土している。

後期には金井口埴輪窯跡(第5図範囲外)など金山丘陵東麓をはじめ八王子丘陵南西麓や成塚町付近では埴輪生産が行われ、亀山窯跡(第5図範囲外)など金山丘陵東麓から北東麓にかけて須恵器生産が始まる。このように、本遺跡周辺では多くの集落や生産遺跡が営まれるとともに大古墳の築造も見られるようになることから、古墳時代以降に急速に開発が進んだものと想定される。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上毛野国(和銅6(713)年までに上野国と改称)にあたり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれ(当初は13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)、そのうち新田郡には「新田・滓野・石西・淡甘・祝人・駅家」の6郷、山田郡の項目には「山田・大野・園田・真張」の4郷、邑楽郡の項目には「池田・疋太・八田・長良」の4郷が確認でき

る。『太田市史』によると、太田市域は金山丘陵を境に西側は新田郡、東側は山田郡に属し、南東部は一部邑楽郡に属した可能性があるという。金山丘陵南側の本遺跡周辺は郡境に近く、新田郡または邑楽郡の領域にあたる。

本遺跡周辺は奈良・平安時代においても継続して遺跡数が多い。洪積台地上の宮西遺跡(2)・川向・中西田遺跡(51)・北明泉寺遺跡(56)などで集落が確認されている。本遺跡においても、9世紀を中心に竪穴住居と掘立柱建物が確認されている。

本遺跡の南方、東矢島遺跡(29)周辺からは瓦が出土しており、寺院跡(東矢島廃寺(31))の存在が想定されている。川入遺跡(42)付近は邑楽郡衙推定地であり(『太田市史』では新田郡衙移転地の可能性も指摘される)、周辺には東山道武蔵道の存在が想定される。本遺跡の北東方では、川向・中西田遺跡(51)から「役」墨書土器や「園田」刻印瓦が出土している。この「園田」刻印瓦は上野国分寺建立にあたり山田郡園田郷から貢納されたものと同範型によるものであり、竪穴住居の竈構築材として使用されていた。山田郡園田郷の郷域推定のため貴重な資料である。

古墳時代後期に開窯された須恵器生産遺跡は、金山丘陵南東麓から東麓、北東麓から西麓にかけての金山丘陵側と、八王子丘陵南東麓地域に広がり、菅ノ沢I遺跡(第5図範囲外)などでは製鉄炉も確認されている。また、本遺跡周辺の沖積低地は条里制水田遺構(90、A～E)の存在が推定されており、台地上が居住域、沖積低地が稲作生産域として利用されたことがうかがえる。

6. 中世

天仁元(1108)年のAs-B降下後に上野国内では荘園開発への動きが活発になる。新田郡を中心に新田氏による新田荘の開発が進み、主な遺跡は現在、国史跡新田荘遺跡に指定されている。一方、邑楽郡では佐貫氏により佐貫荘の開発が進められ、山田郡では園田御厨、寮米保が成立した。なお、園田御厨は久寿元(1156)年に伊勢内宮禰宜荒木田成長により立荘され、新田荘は保元2(1157)年に新田義重が私領を花山院忠雅に寄進し成立したことが明らかであるが、佐貫荘については佐貫成光が邑楽郡古海郷に住み「古海入道」と号したことや佐貫広綱の地頭職補任は確認できるが荘園成立時期は不明であり、寮米保については成立時期のみならず規模も不明である。『上



第5図 周辺の遺跡

(国土地理院2万5千分の1地形図 深谷(平成10年9月1日発行)、上野境(平成22年12月1日発行、
妻沼(平成15年6月1日発行)、足利南部(平成22年12月1日発行)を使用)

第2章 周辺の環境

第1表 周辺遺跡一覧表(1)

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
1	田谷遺跡	○	○		○	○	○		散布地、集落、墓その他	本報告書、太田市教育委員会1994『市内遺跡』X、2004同20
2	宮西遺跡				○	○			集落、墓その他	太田市教育委員会1987『市内遺跡』Ⅲ、1994『埋蔵文化財発掘調査年報』4
3	矢島城跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
4	西矢島遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会2008『太田市内遺跡』3
5	八反田遺跡					○			その他	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
6	杉ノ下遺跡				○				散布地	太田市教育委員会2008『太田市内遺跡』3
7	家前遺跡				○				散布地	太田市教育委員会2010『太田市内遺跡』5、2011同6
8	岩瀬川遺跡				○				散布地	
9	道灌谷戸遺跡				○				散布地	
10	飯玉遺跡				○				散布地	太田市教育委員会2008『太田市内遺跡』3
11	高林三入遺跡	○		○	○				散布地、集落、墓その他	太田市教育委員会2009『太田市内遺跡』4、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
12	高沢遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会1996『埋蔵文化財発掘調査年報』6
13	高林城跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
14	西矢島古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳総覧』
15	新ヶ谷戸遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会1996『市内遺跡』XⅡ、1997同XⅢ、1998同XⅣ、同1999XⅤ、同2001XⅦ、2009『太田市内遺跡』4、2014同9
16	朝子塚古墳(沢野村46号古墳)				○				古墳	石塚久則1977「朝子塚古墳の測量調査」『太田市史編集だより』15、太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1993『埋蔵文化財発掘調査年報』3、2000『市内遺跡』XⅥ、群馬県1938『上毛古墳総覧』
17	高林遺跡(高林福島古墳群)				○				集落、古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1969『高林一〇二号古墳報告書』、2009『太田市内遺跡』4、2011同6、大塚初重・小林三郎1967「群馬県高林遺跡の調査」『考古学集刊』3-4、群馬県1938『上毛古墳総覧』
18	小谷場古墳群(牛沢遺跡)				○				集落、古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1992『埋蔵文化財発掘調査年報』2、群馬県1938『上毛古墳総覧』
19	小谷場遺跡				○				集落	
20	高林西原古墳群(西原古墳群)				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1993『埋蔵文化財発掘調査年報』3、群馬県1938『上毛古墳総覧』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『高林西原古墳群』、2013『高林西原古墳群(2)』、東毛病院宿舎遺跡調査会1993『西原古墳群』
21	高林不動古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳総覧』
22	高林不動遺跡				○				集落	
23	高林鶴巻古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1977『群馬県太田市沢野村六三号墳発掘調査概報』1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1、2008『太田市内遺跡』3、2011同6、群馬県1938『上毛古墳総覧』
24	高林環濠遺構(高林代官所址)						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
25	高林本郷遺跡				○	○			散布地、古墳	太田市教育委員会2013『太田市内遺跡』8、大塚初重1959「群馬県高林本郷」『日本考古学年報』12
26	梁場遺跡(高林梁場遺跡)				○	○			集落	太田市教育委員会1994『市内遺跡』X、1995『埋蔵文化財発掘調査年報』5
27	五庵遺跡(梁場遺跡)		○		○				集落	太田市教育委員会1994『市内遺跡』X、2009『太田市内遺跡』4、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『梁場遺跡』
28	向野遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会1994『埋蔵文化財発掘調査年報』4、1996同6、2010『太田市内遺跡』5、2012同7

第2表 周辺遺跡一覧表(2)

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
29	東矢島遺跡				○	○			散布地、集落	太田市教育委員会2009『太田市内遺跡』4、2011同6、2012同7
30	東矢島古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2000『市内遺跡』XVI、2009『太田市内遺跡』4、2010同5、群馬県1938『上毛古墳総覧』
31	東矢島廃寺					○			社寺	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
32	道知塚遺跡				○				散布地、古墳	太田市教育委員会1995『市内遺跡』XI、1999同XV
33	沖ノ林遺跡				○		○		散布地	太田市教育委員会1993『市内遺跡』IX、1995同XI、同1996XII、1996『埋蔵文化財発掘調査年報』6
34	古戸赤城遺跡 (古戸遺跡)		○						散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2010『太田市内遺跡』5、2012同7
35	毘沙門遺跡(寄木戸毘沙門遺跡・寄木戸東原遺跡)		○		○	○			散布地、集落	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員2008『寄木戸毘沙門遺跡・坂田遺跡II』、2009『寄木戸毘沙門遺跡II』、2013『寄木戸東原遺跡・横町遺跡II・西原遺跡』
36	西原遺跡				○	○			散布地、集落	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会2013『寄木戸東原遺跡・横町遺跡II・西原遺跡』
37	宮下遺跡		○		○	○			散布地、集落	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
38	和田遺跡		○		○	○			散布地、集落、古墳	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
39	仙石道祖遺跡	○	○	○	○	○	○		散布地、集落、城館、古墳	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会2006『仙石道祖遺跡I』、2007『仙石道祖遺跡II』
40	仙石専光寺付近遺跡(専光寺付近遺跡)		○	○	○	○	○		散布地、集落、横穴墓、生産遺跡	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会1988『専光寺付近遺跡(昭和62年度)』、1989同(昭和63年度)、1990同(平成元年度)
41	篠原遺跡				○	○			散布地、集落、生産遺跡	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
42	川入遺跡				○	○			散布地、集落、古墳	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
43	坂田遺跡		○		○	○			散布地、集落	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会2005『坂田遺跡』、2008『寄木戸毘沙門遺跡・坂田遺跡II』
44	松下遺跡			○					散布地	大泉町誌刊行委員会1983『大泉町誌』下
45	東別所本郷遺跡				○	○			散布地、古墳	太田市教育委員会1995『埋蔵文化財発掘調査年報』5
46	東別所新田遺跡				○				散布地	太田市教育委員会2011『太田市内遺跡』6、2013同8、2014同9
47	東別所遺跡	○							散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
48	内ヶ島南田遺跡				○				集落	太田市教育委員会2013『太田市内遺跡』8
49	運動公園内遺跡				○				集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
50	北原遺跡				○				集落	太田市教育委員会1995『埋蔵文化財発掘調査年報』5
51	川向・中西田遺跡(大塚・間之原遺跡川向・中西田地区)				○	○			集落、墓その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報(川向・中西田地区)-第1次調査』、1983『大塚・間之原遺跡川向・中西田地区(第2次)』1988『市内遺跡』IV、1989同V、1991同VII、2014『太田市内遺跡』9
52	房塚遺跡				○				散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
53	内ヶ島屋敷跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、太田市教育委員会1996『埋蔵文化財発掘調査年報』6、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
54	内ヶ島古墳群				○				古墳	太田市教育委員会2009『太田市内遺跡』4
55	飯塚古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1、群馬県1938『上毛古墳総覧』
56	北明泉寺遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会2008『太田市内遺跡』3、2010同5、2011同6

第2章 周辺の環境

第3表 周辺遺跡一覧表(3)

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
57	宮前遺跡				○				集落	太田市教育委員会1997『市内遺跡』XⅢ、2010『太田市内遺跡』5
58	大道端環濠						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』
59	中島遺跡				○	○			散布地	太田市教育委員会2013『太田市内遺跡』8
60	下小林上遺跡(上遺跡)			○	○				散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2013『太田市内遺跡』8、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚・上・雷遺跡』
61	下小林館跡(大倉城址)						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
62	大目山古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2014『太田市内遺跡』9、群馬県1938『上毛古墳総覧』
63	雷遺跡		○						散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2014『太田市内遺跡』9、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1980『庚塚・上・雷遺跡』
64	旧太田工業高校北裏遺跡(太田工業高等学校北裏遺跡)				○				集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2004『太田市内遺跡』20、太田市教育委員会・太田工業高等学校校地歴部1972『太田工業高等学校北裏遺跡発掘調査報告』、群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編2・原始古代
65	下小林高射砲陣地跡							○	その他	太田市1994『太田市史』通史編・近現代
66	下小林車塚古墳(休泊村4号古墳)				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳総覧』
67	女体山古墳東方遺跡		○		○				散布地、古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
68	女体山古墳(九合村68号古墳)				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県1938『上毛古墳総覧』、群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3・原始古代
69	目塚遺跡		○						散布地	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1987『市内遺跡』Ⅲ、2011『太田市内遺跡』6
70	太田天神山古墳(天神山古墳、九合村69号古墳)				○				古墳	岩槻達之1982『太田天神山古墳採集門筒埴輪』『太古』31、太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1982『天神山古墳外堀部発掘調査概報』、1990『天神山古墳外堀・A陪塚範囲確認調査』、1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1、1995同5、1995『市内遺跡』XⅠ、1999『天神山古墳外堀確認発掘調査』、2009『天神山古墳外堀確認調査報告書』、2014『太田市内遺跡』9、群馬県1938『上毛古墳総覧』、群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3・原始古代、群馬県教育委員会1970『史跡天神山古墳外堀部発掘調査報告書』
71	北田環濠遺構群						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
72	小舞木遺跡			○	○	○	○		集落、その他	太田市教育委員会2010『太田市内遺跡』5
73	飯田古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2011『太田市内遺跡』6、群馬県1938『上毛古墳総覧』
74	新井館跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
75	新井古墳群				○				古墳	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1974『新井八幡神社古墳発掘調査報告』、群馬県1938『上毛古墳総覧』
76	宮内遺跡				○	○			集落	太田市教育委員会2005『市内遺跡』21、2009『太田市内遺跡』4、2010同5、2011同6、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』、2012『浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡』
77	浜町古墳群				○				古墳	太田市教育委員会2012『太田市内遺跡』7、2013同8、2014同9、群馬県1938『上毛古墳総覧』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡』
78	浜町遺跡		○		○	○			集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『浜町遺跡』、2012『浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡』
79	本陣跡						○		城館	太田市教育委員会2003『市内遺跡』XⅨ

第4表 周辺遺跡一覧表(4)

	遺跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別	文献
80	稲荷前遺跡					○			集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』
81	神明古墳(太田町3号古墳)				○				古墳	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、太田市1996『太田市史』通史編・原始古代
82	今井屋敷跡						○		城館	太田市1997『太田市史』通史編・中世、群馬県教育委員会1989『群馬県の中世城館跡』、山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
83	屋敷内遺跡				○		○		古墳、墓その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『浜町屋敷内遺跡C地点』
84	塚畑遺跡				○				集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』
85	稲荷塚古墳(稲荷山古墳、太田町9号古墳)				○				古墳	群馬県1938『上毛古墳綜覧』、群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3・原始古代
86	三島木遺跡		○		○	○			集落	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』
87	舞台A・D遺跡				○	○			集落	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1981『舞台A遺跡の概要』、1983『舞台D遺跡確認調査の概要』、1984『舞台D遺跡』、1985『市内遺跡』Ⅱ、2010『太田市内遺跡』5
88	烏屑遺跡				○				散布地	
89	北松島遺跡				○				散布地	
90	飯塚条里水田跡					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会2010『太田市内遺跡』5、2013同8、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
A	条里水田推定地					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
B	条里水田推定地					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
C	条里水田推定地					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
D	条里水田推定地					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
E	条里水田推定地					○			その他	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、三友国五郎1960『関東地方の条里』『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8

野国郡村誌』15(新田郡)によると西矢島郷が新田荘・東矢島郷が佐貫荘に属すとされ、本遺跡周辺は両荘園の境界付近と推定される。両荘園の境界付近では、本遺跡北方の新田荘飯塚郷が嘉応年間(1169～71年)に佐貫荘に押領され、享徳3(1455)年に新田荘が奪還したことや、佐貫荘飯塚郷内名田一町が乾元2(1303)年に新田荘世良田長楽寺に寄進されたことなどが記録されている。

その後、山田郡においては延応2(1240)年に藺田御厨の半分が荒木田成康により随心院門跡に譲与され御厨機能の一部を失い、寮米保が貞治6(1367)年には鎌倉の覚園寺に寄進され御厨機能を失った。

邑楽郡においては南北朝動乱後に館林で舞木氏が台頭するが、永享の乱後の永享12(1440)年に舞木持広が謀殺

され、家臣の赤井氏の勢力が伸張する。その赤井氏も永禄5(1562)年に長尾景長(足利長尾氏)に追われた。小泉では延徳元(1489)年に小泉城(第5図範囲外)を築城した富岡直光以来、富岡氏が勢力を張った。

新田郡においては新田氏一族の岩松氏が勢力を保つが、のちに京兆家と礼部家に分裂、文明元(1469)年に礼部家に統一されるも、旧藺田御厨を中心とした下山田地域を根拠地とする家臣の横瀬氏(由良氏)が台頭し実権を奪われた。由良氏は東毛地域に勢力を伸張するが、天正13(1585)年に北条氏に敗れ桐生城(第5図範囲外)に退去した。

これらの動きの中で、本遺跡周辺にも多くの城館が築かれる。本遺跡の北約5kmの国史跡金山城(第5図範囲

外)をはじめ、林氏の矢島城跡(3)・牛沢氏の牛沢城跡(第5図範囲外)・由良氏の高林城跡(13)などの城跡・館跡があり、いずれも16世紀代までの存続期間である。本遺跡からも区画溝と推定される溝が数多く確認されており、屋敷跡の存在も想定される。

7. 近世

徳川家康江戸入府後、本遺跡を含む西矢島村・東矢島村は館林藩領(榑原氏→松平氏→徳川氏)となり、のち旗本領となっている。榑原氏の館林入封により邑楽郡92カ村・山田郡28カ村・新田郡44カ村・下野国(梁田郡・足利郡)29カ村は館林領(石高は寛文年間(1661～72年)に132,795石5斗8升2合5勺)と呼ばれるようになり、徳川氏入封によりその名が定着する。この館林領を潤す館林領用水組合は渡良瀬川から取水する待堰・矢場堰・三栗谷(市

場)堰・借宿堰からなり、その開削は元亀元(1570)年頃に遡る。東矢島村は矢場堰水門組合、西矢島村は新田待堰用水組合(うち待堰水門組合)に属した。近隣の小泉焼が広まるのも近世以降であり、近代以降に最盛期を迎える。本遺跡の北約3kmには日光例幣使街道がほぼ東西方向に走り、本陣跡(79)の所在する交通の要所でもあった。また、国道407号の旧道は、近世における古戸太田道であるとともに、前記の古代条里制水田推定地(90、A～E)の地割りとほぼ一致しており、古代以来近世までの土地利用を考える上で貴重な資料を提供している。本遺跡からはこの頃までを時期的下限とする耕作物貯蔵用の通称「イモ穴」と呼ばれる土坑が確認されるとともに、多量の小泉焼も遺構内外から出土している。

なお、本文中の遺跡名および遺跡範囲(第5図)は「マッピングぐんま」による。

参考文献

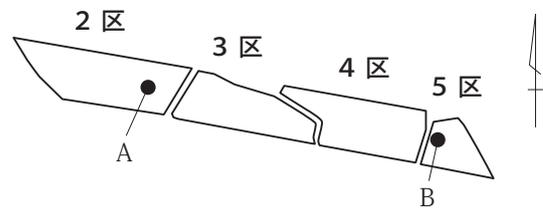
大泉町誌編集委員会1983『大泉町誌』下
 太田市1992『太田市史』通史編・近世
 太田市1996a『太田市史』通史編・原始古代
 太田市1996b『太田市史』通史編・自然
 太田市1997『太田市史』通史編・中世
 太田市教育委員会1987『市内遺跡』Ⅲ
 太田市教育委員会1994a『埋蔵文化財発掘調査年報』4
 太田市教育委員会1994b『市内遺跡』X
 太田市教育委員会2004『市内遺跡』20
 太田市教育委員会2011『太田市内遺跡』6
 京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇
 臨川書店
 群馬県史編さん委員会1881『群馬県史』資料編5
 群馬県文化事業振興会1986『上野国郡村誌』15
 群馬県文化事業振興会1986『上野国郡村誌』17
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『東長岡戸井口遺跡』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『梁場遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『東今泉鹿島遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009a『築前遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009b『峯山遺跡Ⅰ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010a『大道東遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010b『西長岡宿遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010c『八ヶ入遺跡Ⅰ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010d『峯山遺跡Ⅱ』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『石神遺跡』
 館林市史編さん委員会2007『館林市史』資料編2
 館林市史編さん委員会2011『館林市史』資料編1
 新田町企画調整課町誌編さん係1984『新田町誌』4
 待矢場両堰土地改良区1996『待矢場両堰土地改良区史』
 マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top> 2015年5月1日

第3節 基本土層

現表土以下の基本土層(柱状図)は第6図に示した。土層は1～4区が共通しており、5区のみ様相が異なっている。1～4区の現表土(I層)下は削平され、II～IV層は断片的であり、遺構の保存状態も良好であるとは言い難い状況であった。

本遺跡における調査着手以前の地形は、1区が低地、2～5区が台地であったが、調査の結果、1区は矢島台地本体から張り出した舌状の小台地、2～4区が矢島台地本体で2区西～南西側と4区北東端が台地縁辺にあたり、5区は低地であったことが確認された。なお、前記のとおり後世の削平・攪乱の影響を考えると、台地と周辺の低地との比高差は現状より大きかったと推定される。

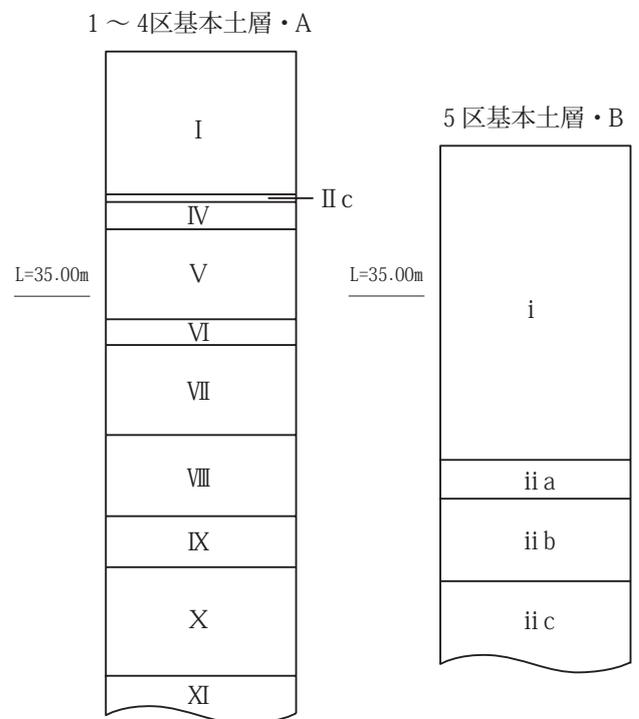


【1～4区基本土層・A】

- I層 現表土。
- II a層 暗褐色～黒褐色土。 灰白色粒子混入。
- II b層 暗褐色～黒褐色土。
- II c層 暗褐色～黒褐色土 ローム粒混入。
- III層 褐色土。ローム漸移層。
- IV層 As-YP。
- V層 黄褐色ローム。As-0k2?混入。
- VI層 明黄褐色ローム。As-0k1混入。一部粘質化。
- VII層 にぶい黄褐色ローム。硬質。As-BP混入最上部。一部粘質化。
- VIII層 にぶい黄褐色ローム。硬質。As-BP混入、下部に多い。
- IX層 にぶい黄褐色～褐色ローム。軟質。AT・As-BP混入最下部。
- X層 褐色～暗褐色ローム。粘性に富む。暗色帯。
- XI層 にぶい黄橙色ローム。粘質。

【5区基本土層・B】

- i層 現表土。
- ii a層 黒褐色土。水田耕作土。
- ii b層 黒色土。白色粒子含む。水田耕作土。
- ii c層 黒色土。水田耕作土。



第6図 基本土層柱状図

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 概要

本調査区は、地形的に矢島台地から延びる舌状の小台地(1区)、矢島台地(2～4区)、低地(5区)の3つに分けられる。本調査においては、舌状の小台地(1区)及び矢島台地(2～4区)から古墳時代・奈良・平安時代・中世・近世、低地(5区)から奈良・平安時代・中近世の遺構が確認された。また、旧石器ブロックは矢島台地(2・4区)において確認された。縄文時代の遺物も少ないながら調査区のほぼ全域から出土している。

旧石器時代の遺物は、2区のⅣ～Ⅶ層およびⅤ～Ⅷ層、4区から石器ブロックが確認された。

古墳時代の遺構は、1区から方形周溝墓4基、竪穴住居1軒、2～4区から竪穴住居6軒、溝2条、井戸6基、土坑1基が確認された。1区2～4号方形周溝墓は、削平され詳細は不明であるが、いずれも4世紀代と考えられる。1区1号方形周溝墓は長軸規模が30mを超え、5世紀末～6世紀の遺物が出土するなど、他の3基の方形周溝墓とは異なる点が目立つ。竪穴住居の多くは掘方まで削平されており、残存状態は良好とはいえない。そのような中で、3区1・2号竪穴住居は床面が残存し、比較的良好な状態である。3区5号溝・4区5号溝は調査区を跨ぎおそらく一体をなすと考えられ、2,200点以上の土器片と滑石製剣形石製品1点が出土した。出土遺物から、5世紀前半と考えられる。この溝については、豪族居館の区画溝と考えるのが妥当ではあるが、掘りも浅く内部が削平されており詳細は不明である。

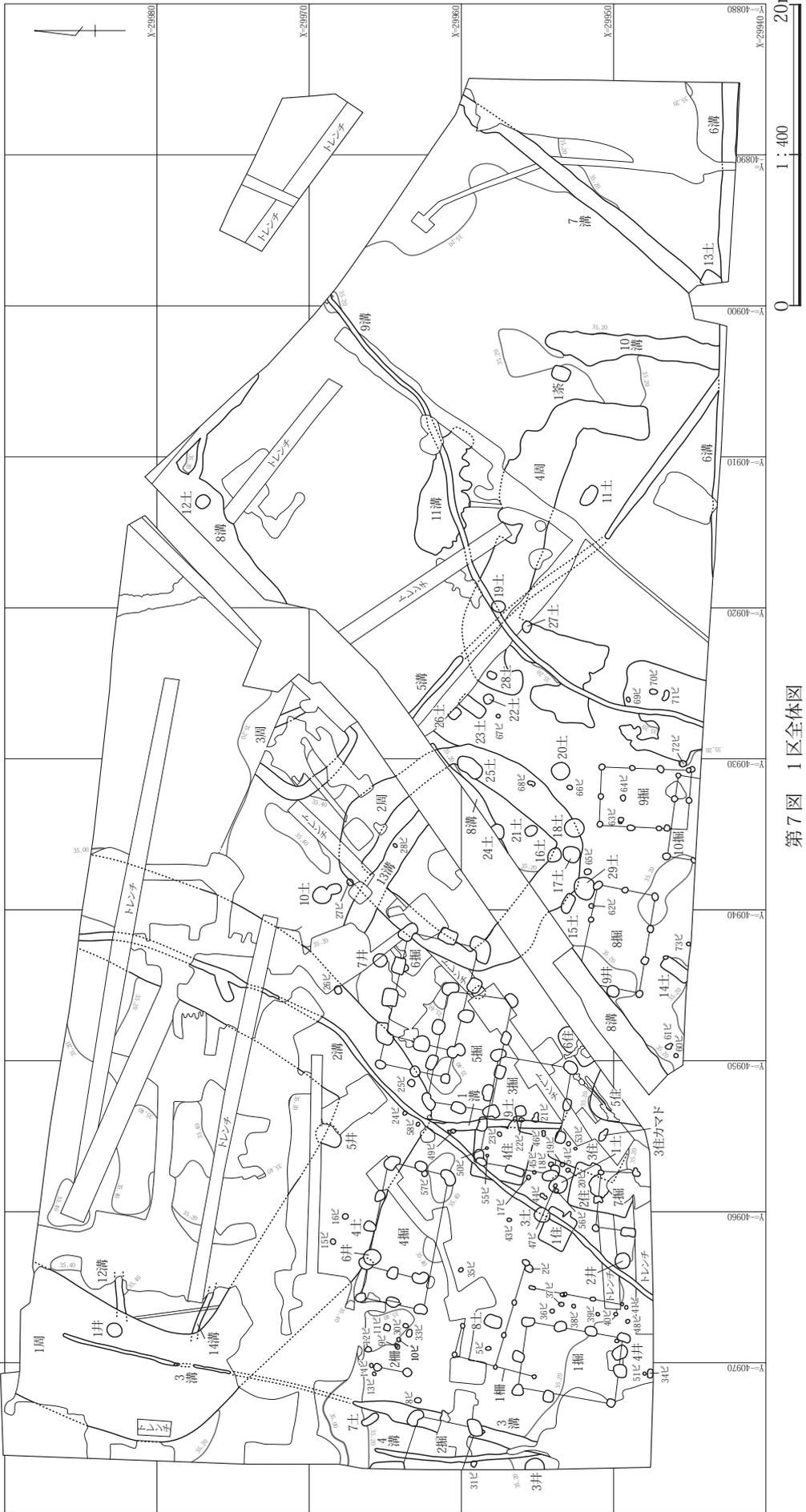
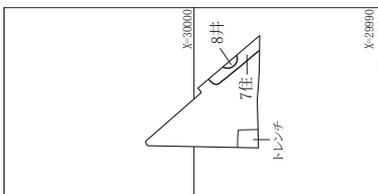
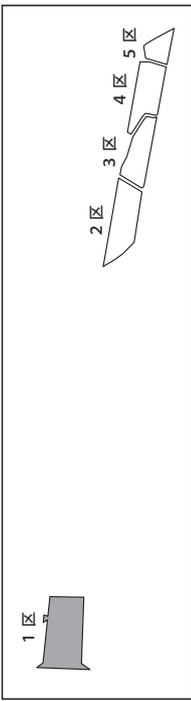
奈良・平安時代の遺構は、1区から竪穴住居2軒、掘立柱建物10棟、柵1基、井戸2基、ピット1基、2～4区から竪穴住居3軒、掘立柱建物7棟、柵1基、土坑1基、ピット1基、5区から溝12条が確認された。竪穴住居の多くは掘方まで削平されており、残存状態は良好とはいえない。1区の掘立柱建物は、一辺が1m近い大形柱穴で構成され、2間×3間または2間×3間+庇の2タイプがある。9世紀代と見られ、重複関係から竪穴住居よりは古く、少なくとも2時期以上の変遷が考えられ

る。うち、1区6号掘立柱建物P8からは「主」墨書土器が出土している。5区からは、灌漑用の溝12条が確認された。重複する様相から平安時代以降も継続して使用された生産域であったと考えられる。この他、詳細な時期は不明であるが、古墳時代～奈良・平安時代の遺構は、1区から竪穴住居4軒、溝6条、井戸1基、土坑1基、ピット8基、2～4区から竪穴住居5軒が確認されている。

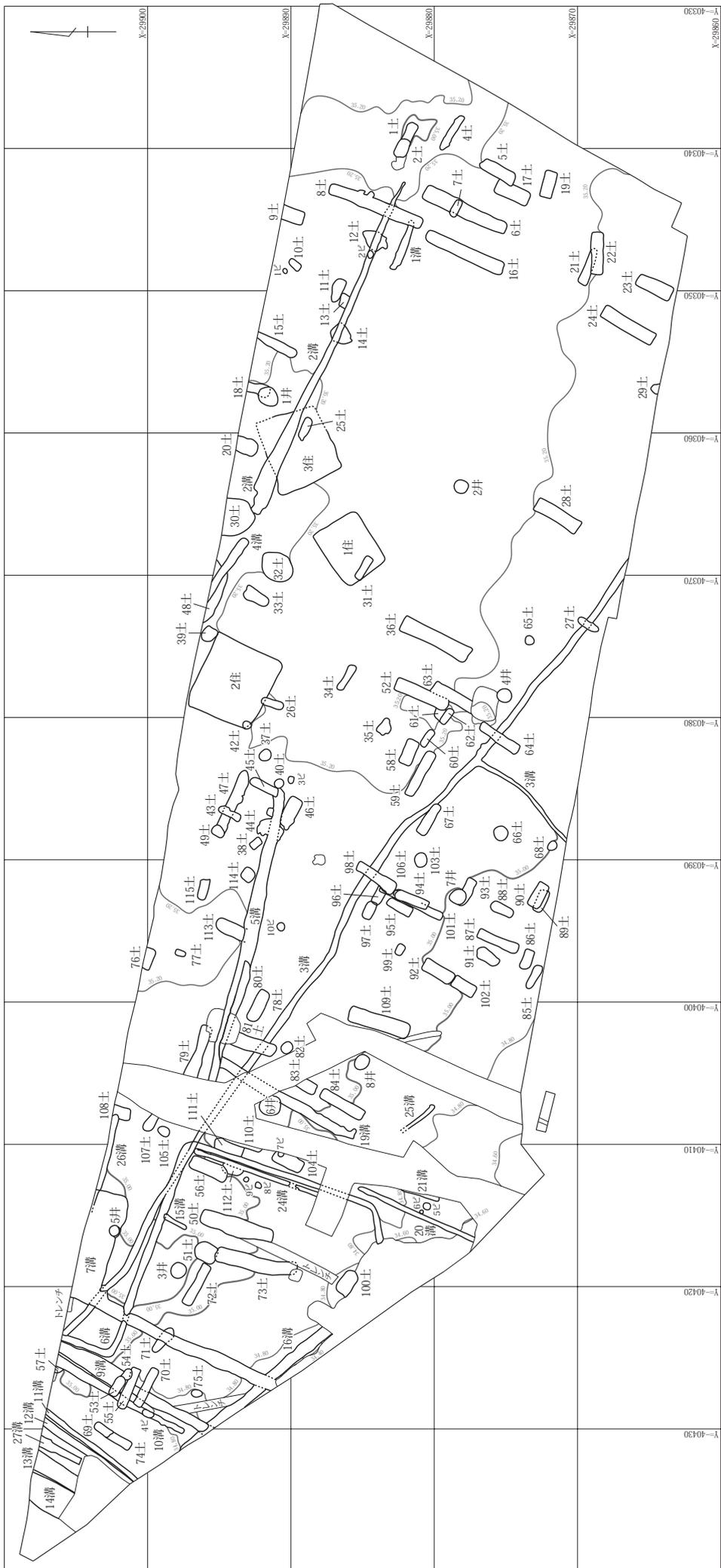
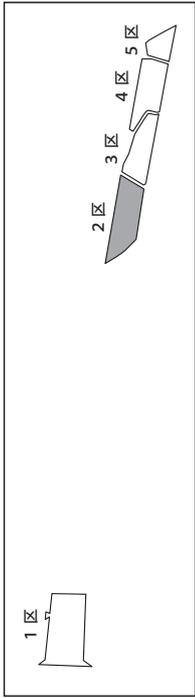
中世の遺構は、1区から溝2条、2～4区から溝12条が確認された。3区4・6・7号溝は45～70mにもなる区画溝で、重複関係から少なくとも2時期以上の変遷が推定される。3区6号溝が古く、3区4・7号溝に掘りなおしたのではないかと考えられる。4区3号溝は一辺が25mの方形区画となるが、埋没土および出土遺物の状況、調査前の土地区画と完全に一致することなどから、最終的な埋没は現代に下る可能性がある。

近世の遺構は1区から溝2条、井戸1基、2～4区から溝23条、井戸1基、土坑35基が確認された。2～4区の溝は、前出の4区3号溝をはじめ大半が調査区周辺の土地区画や道路の走向と一致する。土坑については、方形および長方形土坑が多く確認され、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。溝については中世から近世までのものが確認されているが、明らかに中世と推定される土坑は確認されていない。なお、遺構内外から出土した在地系土器は、所謂「小泉焼」である。この他、詳細な時期は不明であるが、中近世の遺構は、1区から溝1条、茶毘遺構1基、土坑11基、ピット9基、2～4区から溝26条、井戸2基、土坑146基、ピット8基、5区から土坑3基が確認された。

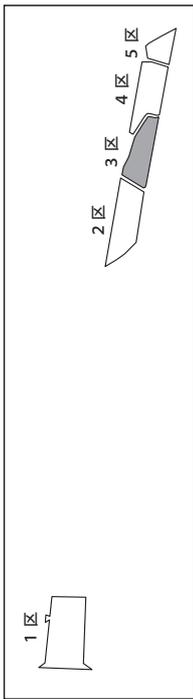
その他、時期不明の遺構として、1区から柵1基、溝3条、井戸6基、土坑13基、ピット45基、2～4区から井戸7基、土坑38基、ピット106基、5区から土坑4基、ピット2基も確認されている。



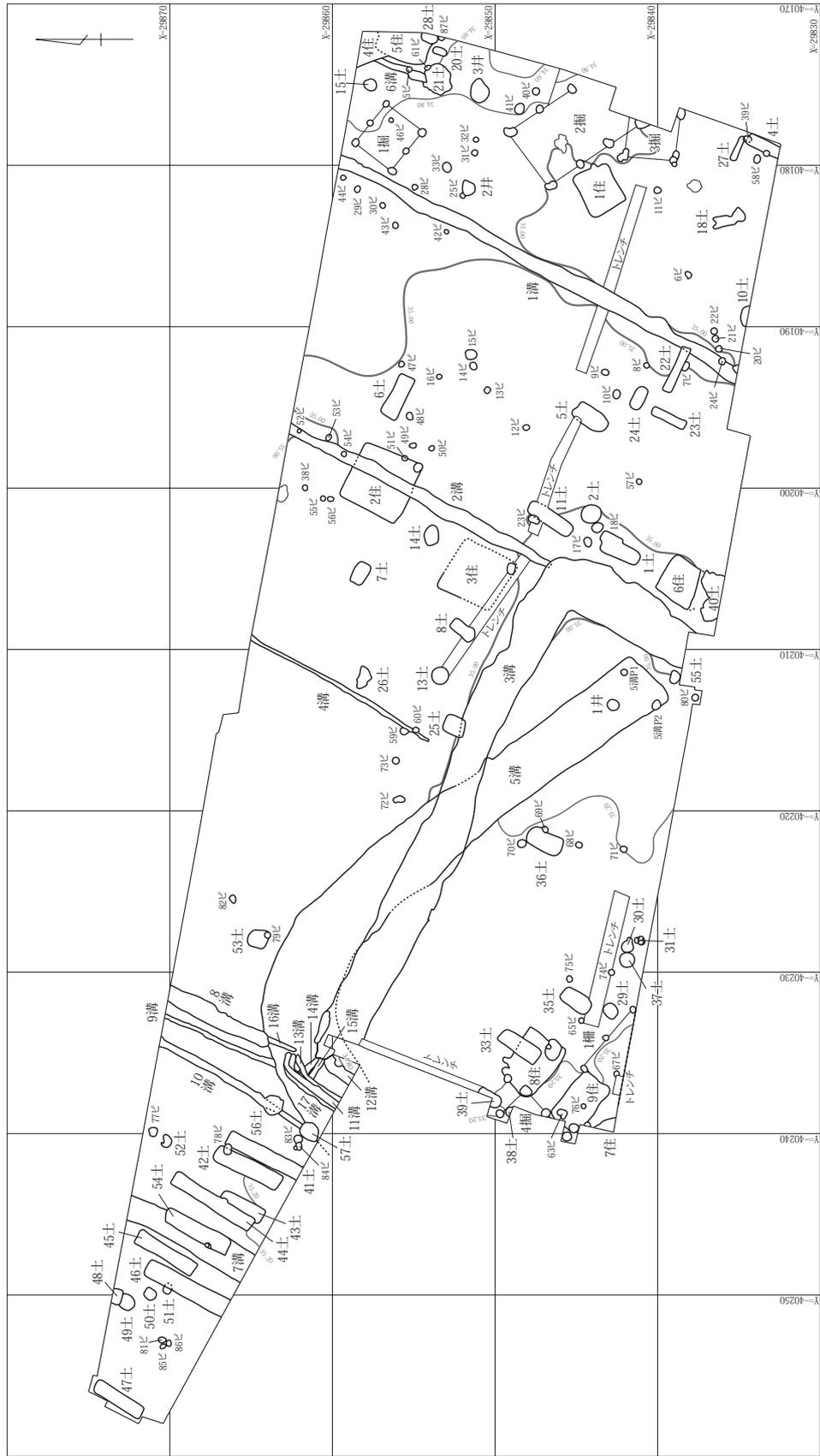
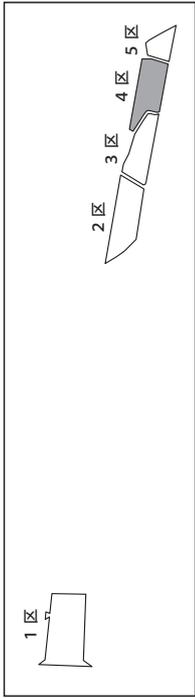
第7図 1区全体図



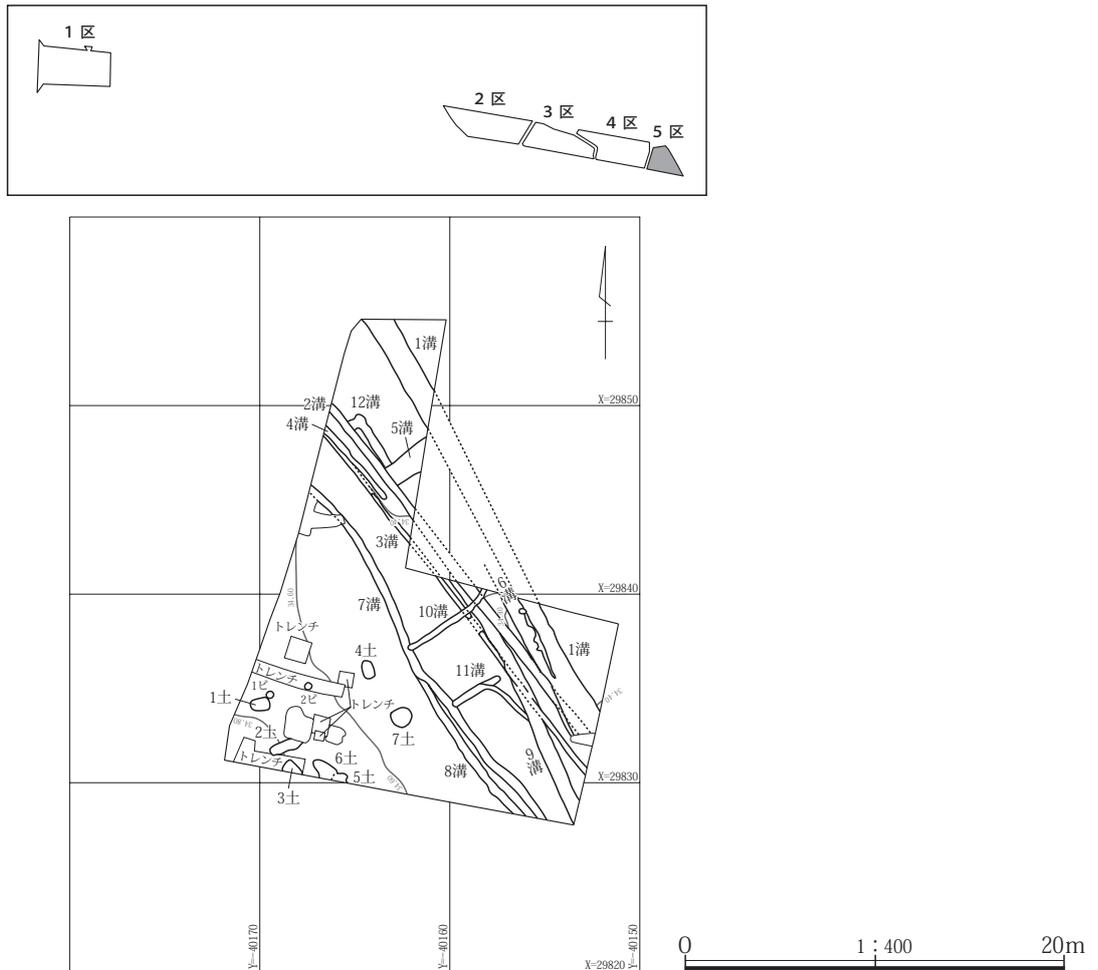
第8図 2区全体図



第9図 3区全体図



第10図 4区全体図



第11図 5区全体図

第5表 遺構数量表

	旧石器ブロック						方形周溝墓					竪穴住居					掘立柱建物							
	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計
旧石器時代			5		2	7						—						—						—
古墳時代						—	4					4	1	3	2	1		7						—
古墳～奈・平						—						—	4			5		9						—
奈良・平安時代						—						—	2			3		5	10		3	4		17
中世						—						—						—						—
中近世						—						—						—						—
近世						—						—						—						—
時期不明						—						—						—						—
	柵						溝					井戸					茶毘遺構							
	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計
旧石器時代						—						—						—						—
古墳時代						—			1	1		2			4	2		6						—
古墳～奈・平						—	6					6	1					1						—
奈良・平安時代	1			1		2					12	12	2					2						—
中世						—	2	3	6	3		14						—						—
中近世						—	1	8	11	7		27		2				2	1					1
近世						—	2	11	6	6		25	1		1			2						—
時期不明		1				1	3					3	5	6		1		12						—
	土坑						ピット																	
	1区	2区	3区	4区	5区	計	1区	2区	3区	4区	5区	計												
旧石器時代						—						—												
古墳時代			1			1						—												
古墳～奈・平		1				1	8					8												
奈良・平安時代				1		1	1			1		2												
中世						—						—												
中近世	11	81	33	29	3	157	9	1	3	4		17												
近世		18	11	6		35						—												
時期不明	13	13	8	13	4	51	45	9	30	67	2	153												

第3章 確認された遺構と遺物

第6表 遺構名称変更一覧表

区	調査時	本報告書	備考
1	1 墳	1 周	調査中に方形周溝墓に変更。
1	2 墳	2 周	
1	3 墳	3 周	
1	4 墳	4 周	
1	2 住P 1	7 掘P 5	
1	2 住P 2	2 住P 1	
1	2 住P 3	2 住P 2	
1	2 住P 4	2 住P 3	
1	4 住貯穴	3 掘P 3	
1	1 掘P 5	1 掘P 6	
1	1 掘P 6	1 掘P 7	
1	1 掘P 7	1 掘P 9	
1	1 掘P 8	1 掘P 5	
1	1 掘P 9	1 掘P 8	
1	2 掘P 3	2 掘P 4	
1	2 掘P 4	2 掘P 3	
1	6 掘P 10	6 掘P 11	
1	6 掘P 11	6 掘P 12	
1	6 掘P 12	6 掘P 13	
1	6 掘P 13	6 掘P 15	
1	6 掘P 14	6 掘P 10	
1	6 掘P 15	6 掘P 14	
1	9 掘P 11	9 掘P 8	
1	9 掘P 2	9 掘P 1	
1	9 掘P 3	9 掘P 2	
1	9 掘P 4	9 掘P 3	
1	9 掘P 5	9 掘P 4	
1	9 掘P 6	9 掘P 5	
1	9 掘P 7	9 掘P 6	
1	9 掘P 8	9 掘P 7	
1	5 溝	13 溝	5 溝中央の一部、2 周付近を分離。
1	5 溝	14 溝	5 溝北部の一部、1 周付近を分離。
1	2 土	3 掘P 9	
1	4 土	4 掘P 5	
1	5 土	3 掘P 9	
1	6 土	7 掘P 1	
1	1 ビ	7 掘P 2	
1	3 ビ	1 柵P 6	
1	4 ビ	1 柵P 7	
1	6 ビ	1 柵P 3	
1	7 ビ	1 柵P 2	
1	29 ビ	2 柵P 1	
1	32 ビ	2 柵P 2	
1	42 ビ	1 柵P 5	
1	52 ビ	1 柵P 1	
1	59 ビ	1 柵P 4	
2	8 溝	3 溝	3 溝と同一遺構のため番号統一。
2	17 溝	5 溝	5 溝と同一遺構のため番号統一。
2	18 溝	3 溝	3 溝と同一遺構のため番号統一。
2	22 溝	19 溝	19 溝と同一遺構のため番号統一。
2	23 溝	6 溝	6 溝と同一遺構のため番号統一。
2	3 土	—	欠番。
2	41 土	—	欠番。

区	調査時	本報告書	備考
2	1 池	—	欠番。
3	1 土	1 掘P 5	
3	4 土	3 掘P 3	
3	5 土	1 掘P 1	
3	7 土	1 掘P 2	
3	14 土	1 掘P 4	
3	15 土	1 掘P 6	
3	17 土	1 掘P 7	
3	18 土	1 掘P 7	
3	22 土	1 掘P 3	
3	1 ビ	3 掘P 1	
3	2 ビ	3 掘P 2	
3	3 ビ	3 掘P 4	
3	8 ビ	2 掘P 1	
3	9 ビ	2 掘P 3	
3	10 ビ	2 掘P 2	
4	1 住P 2	—	欠番。
4	1 住P 3	—	欠番。
4	1 住P 4	—	欠番。
4	8 住P 1	—	欠番。
4	8 住P 2	—	欠番。
4	8 住P 3	—	欠番。
4	8 住P 4	—	欠番。
4	9 住P 1	—	欠番。
4	9 住P 2	—	欠番。
4	4 掘P 3	4 掘P 1	
4	3 土	—	欠番。
4	9 土	3 住貯穴	
4	12 土	2 井	
4	16 土	—	欠番。
4	17 土	—	欠番。
4	19 土	3 井	
4	32 土	4 掘P 3	
4	34 土	4 掘P 2	
4	58 土	5 溝	5 溝南西端の落込み部分を分離。
4	1 ビ	3 掘P 4	
4	2 ビ	3 掘P 3	
4	3 ビ	3 掘P 5	
4	4 ビ	3 掘P 2	
4	19 ビ	2 掘P 6	
4	26 ビ	2 掘P 5	
4	27 ビ	2 掘P 1	
4	34 ビ	2 掘P 2	
4	35 ビ	2 掘P 3	
4	36 ビ	3 掘P 1	
4	37 ビ	2 掘P 7	
4	45 ビ	2 掘P 4	
4	62 ビ	1 柵P 1	
4	64 ビ	1 柵P 3	
4	66 ビ	1 柵P 2	
4	81 ビ	81 ビ	3 基同一番号(81 ビ)のため。
4	81 ビ	85 ビ	
4	81 ビ	86 ビ	

第2節 方形周溝墓

方形周溝墓は、1区から4基が確認された。いずれも後世の攪乱・削平により残存状況は良好とは言い難い。1区1号方形周溝墓は長軸規模が30mを超え、5世紀末～6世紀の遺物が出土するなど、他の3基の方形周溝墓とは異なる点が目立つ。1区2～4号方形周溝墓は4世紀代と考えられる。

1区1号方形周溝墓(第12～15図、P.L. 6・85)

位置 X=29961～989、Y=-40936～975。

重複 1区4～6号掘立柱建物、1～3・12・14号溝、1・5・6号井戸、15・16・24～26・58号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 北側が調査区外に延びる。推定方形。

長軸方位 N-30°-E。北側が調査区外のため長軸は推定。

規模 全長：長軸35.20m、短軸(27.80)m。方台部：長軸19.40m、短軸(20.40)m。

面積 全体：(794.98)m²、方台部：326.40m²

方台部(主体部) 盛土および主体部は確認されなかった。

周溝 幅8.20～5.60m、深さ0.20～0.30m。埋没土は黒褐色土主体、11層が観察された。1層はAs-B混土。断面形は浅い方形または逆台形状。

遺物 遺物は西側周溝に多く、とくに周溝底面より0.05～0.10m程の上位に堆積した黒褐色土(8層以下)から5世紀末～6世紀の遺物が集中して出土した。これに対し、より上層(7層以上)、とくに1層からは古墳時代から近世までの幅広い時期の遺物が出土した。埴輪については、図示した1点のみの出土であることから、本遺構に埴輪が廻らされていた可能性は低い。土師器杯5点(1～5)・高杯1点(6)・鉢1点(7)・埴1点(8)・小型甕1点(9)・甕3点(10～12)・手捏1点(13)、埴輪片1点(14)を図示した。他に、土師器片11,143g、須恵器片1,072g、古代瓦片375g、近世国産磁器片2g、国産施釉陶器片32g、在地系土器片104g、十能瓦片44g、時期不明土器片7749g、磨石1点、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため非掲載とした。土師器杯1点(外1)、須恵器

杯1点(外2)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 本遺構は本遺跡最大の方形周溝墓であるが、削平・攪乱が著しく、残存状況は良好とは言い難い。出土遺物から、本遺構の時期は6世紀代と推定され、方墳である可能性も考えられる。周溝埋没土にAs-B混土(1層)が観察され、近世遺物も出土したことから、近世遺構が重複した可能性がある。

1区2号方形周溝墓(第16・17図、P.L. 6・7)

位置 X=29952～967、Y=-40929～944

重複 1区6号掘立柱建物、8・13号溝、15～18・21・24・25・29号土坑、27・28・68号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 方形。

長軸方位 N-39°-E。

規模 全長：長軸15.10m、短軸12.74m。方台部：長軸9.70m、短軸8.80m。

面積 全体：169.60m²、方台部：89.2m²。

方台部(主体部) 盛土および主体部は確認されなかった。

周溝 幅1.30～2.60m、深さ0.05～0.15m。埋没土は黒色土主体、6層が観察された。断面形は浅い方形または逆台形状で、方台部側がほぼ垂直に立ち上がる。

遺物 土師器片15gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 本遺構は削平・攪乱が著しく、残存状況は良好とは言い難い。本遺構の時期は周溝の断面形が1区4号方形周溝墓に類似することから、4世紀代と推定される。

1区3号方形周溝墓(第17図、P.L. 7)

位置 X=29966～973、Y=-40925～932。

重複 なし。

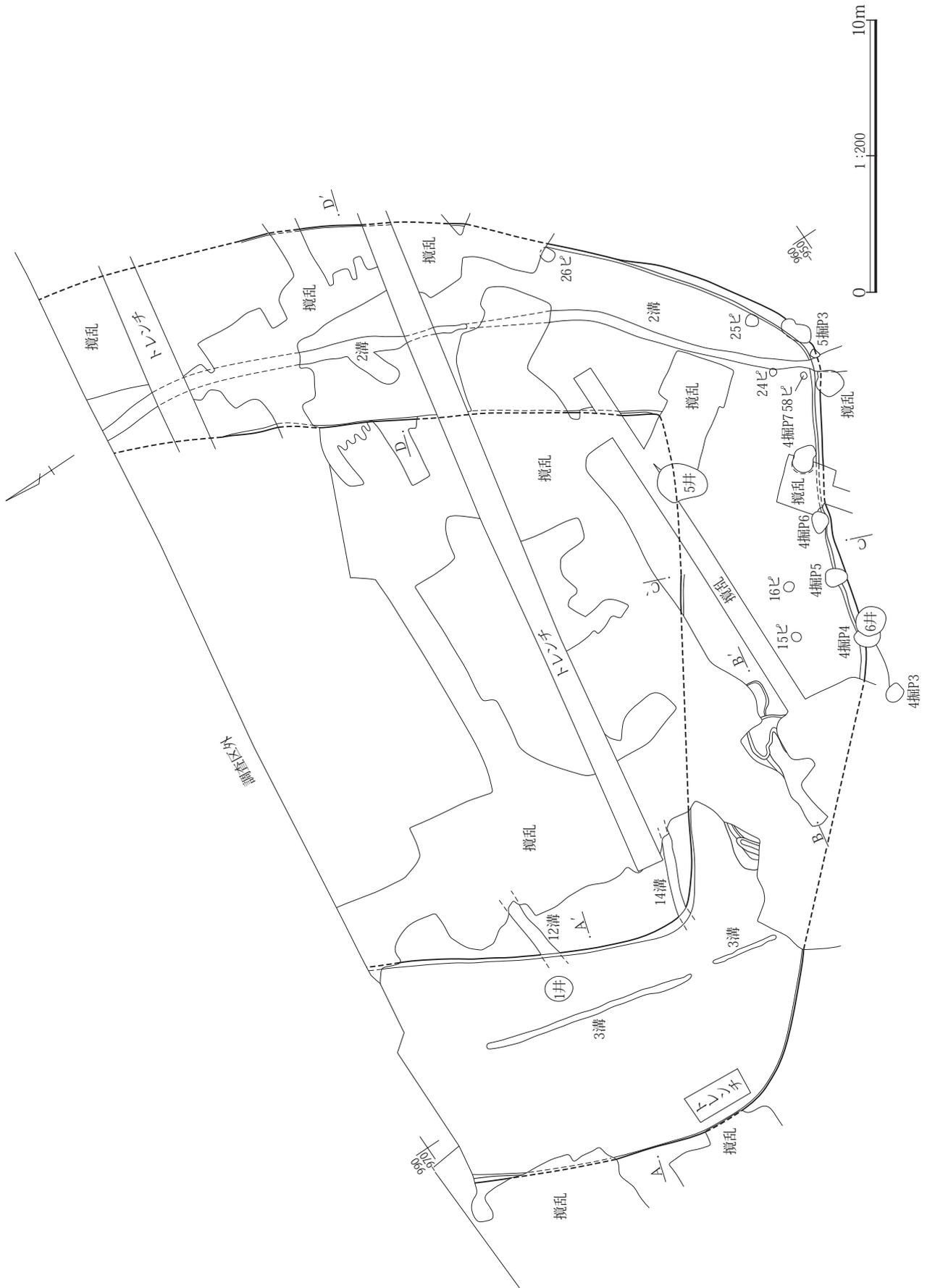
平面形状 北西側が耕作により攪乱されている。推定方形。

長軸方位 N-42°-E。

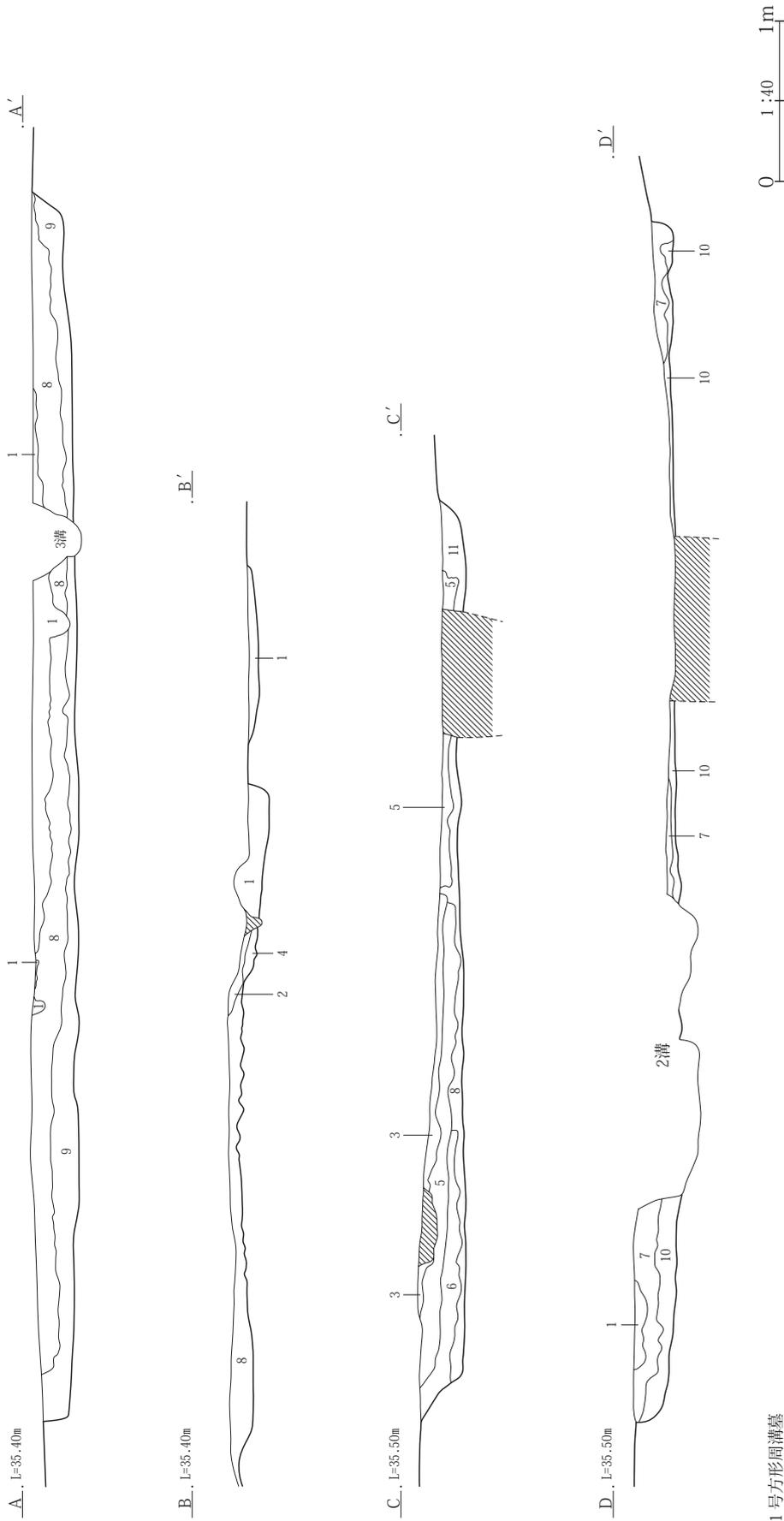
規模 全長：長軸6.54m、短軸(5.00)m。方台部：長軸5.12m、短軸(4.00)m。

面積 全体：(31.93)m²、方台部：(22.40)m²。

方台部(主体部) 盛土および主体部は確認されなかつ



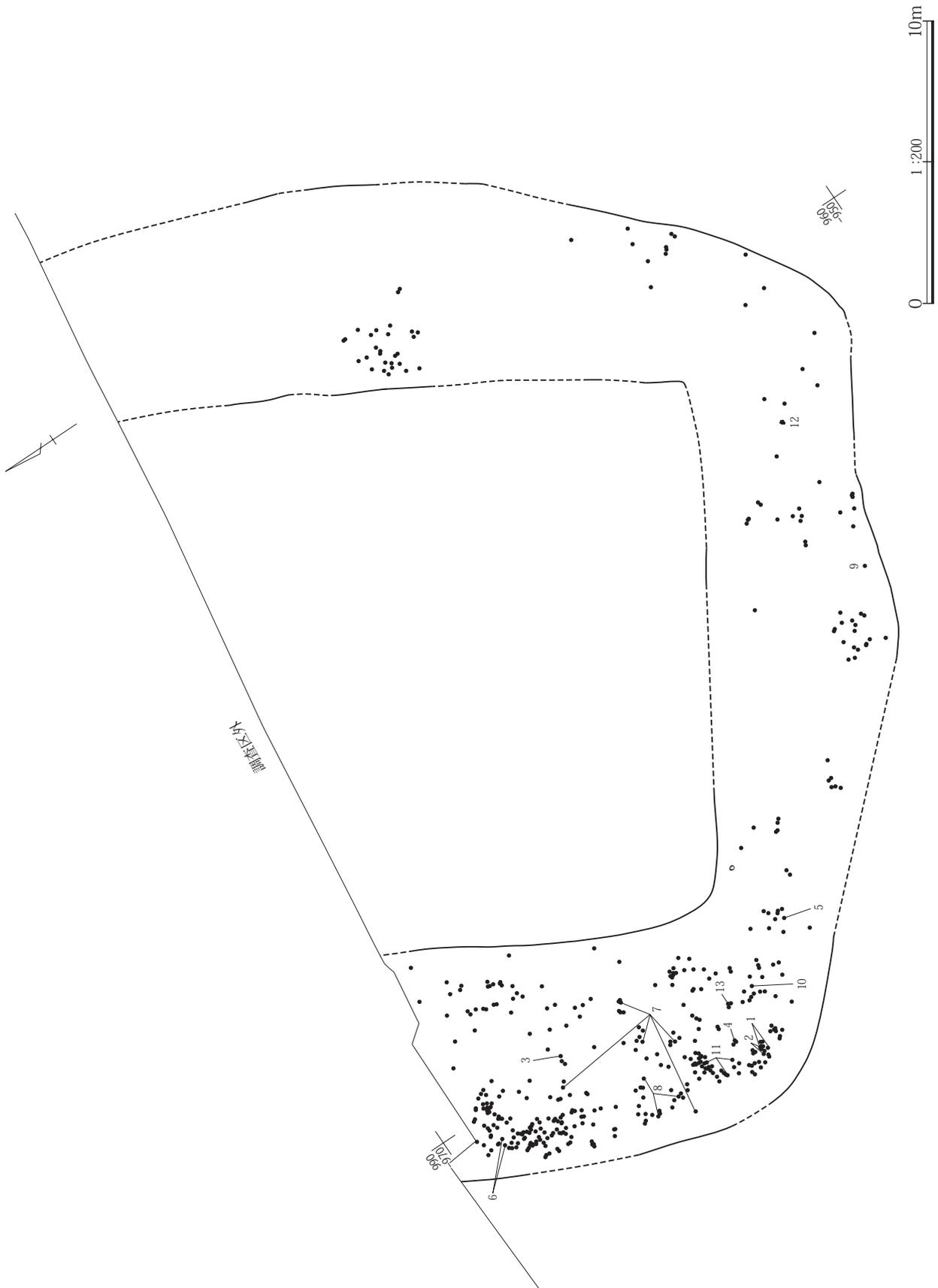
第12図 1区1号方形周溝墓平面



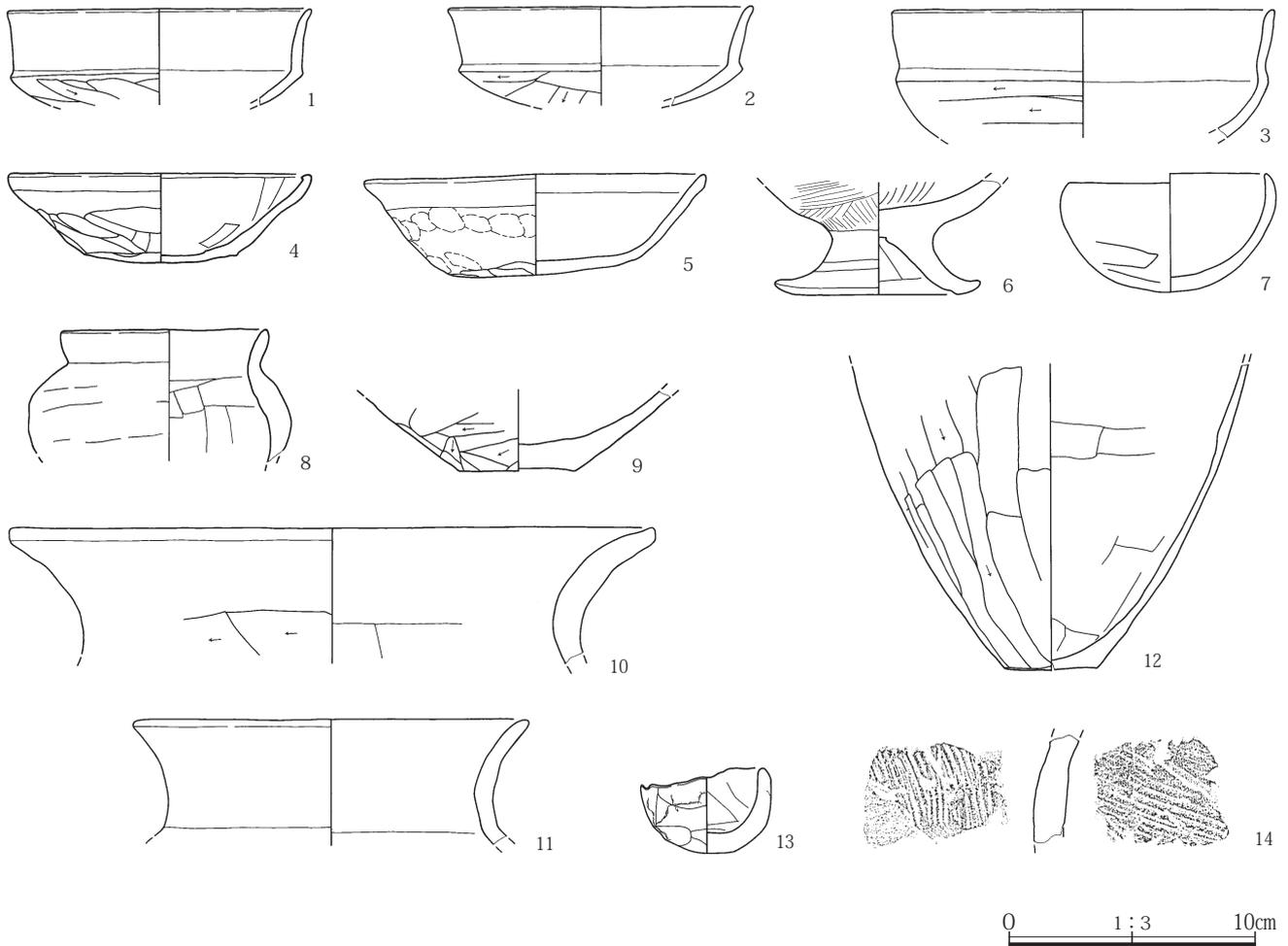
1区1号方形周溝墓

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 密 全体に攪拌されAs-B混入。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム粒・灰白色微砂微混。
3. 2層と同質 ローム・灰白色微砂各5%。
4. 2層と同質 ローム粒多い。
5. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
6. 5層と同質 ローム粒混入。
7. 5層と同質 ローム粒・灰白色微砂混入。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム少混。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 粘性に富む ローム粒混入。
10. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~2 cmローム塊20%。
11. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 φ 1~3 mmローム粒40%。

第13図 1区1号方形周溝墓断面



第14図 1区1号方形周溝墓遺物出土状態



第15図 1区1号方形周溝墓出土遺物

た。

周溝 幅0.50~1.00m、深さ0.05~0.15m。埋没土は黒褐色土主体、4層が観察された。断面形は浅い方形または逆台形状で、方台部側がほぼ垂直に立ち上がる。

遺物 なし。

所見 本遺構は削平・攪乱が著しく、残存状況は良好とは言いがたい。本遺構の時期は周溝の断面形が1区4号方形周溝墓に類似し、長軸方位が1区3号方形周溝墓とほぼ同じことから、4世紀代と推定される。

1区4号方形周溝墓(第18・19図、P L . 8・85)

位置 X=29944~959、Y=-40906~930

重複 1区5・6・9号溝、11・19・27・28号土坑、69~72号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定方形、東側周溝に広く断絶部分がある。

長軸方位 N-80°-W。南側が調査区外のため長軸は

推定。

規模 全長：長軸19.40m、短軸(17.70)m。方台部：長軸13.26m、短軸(14.40)m。

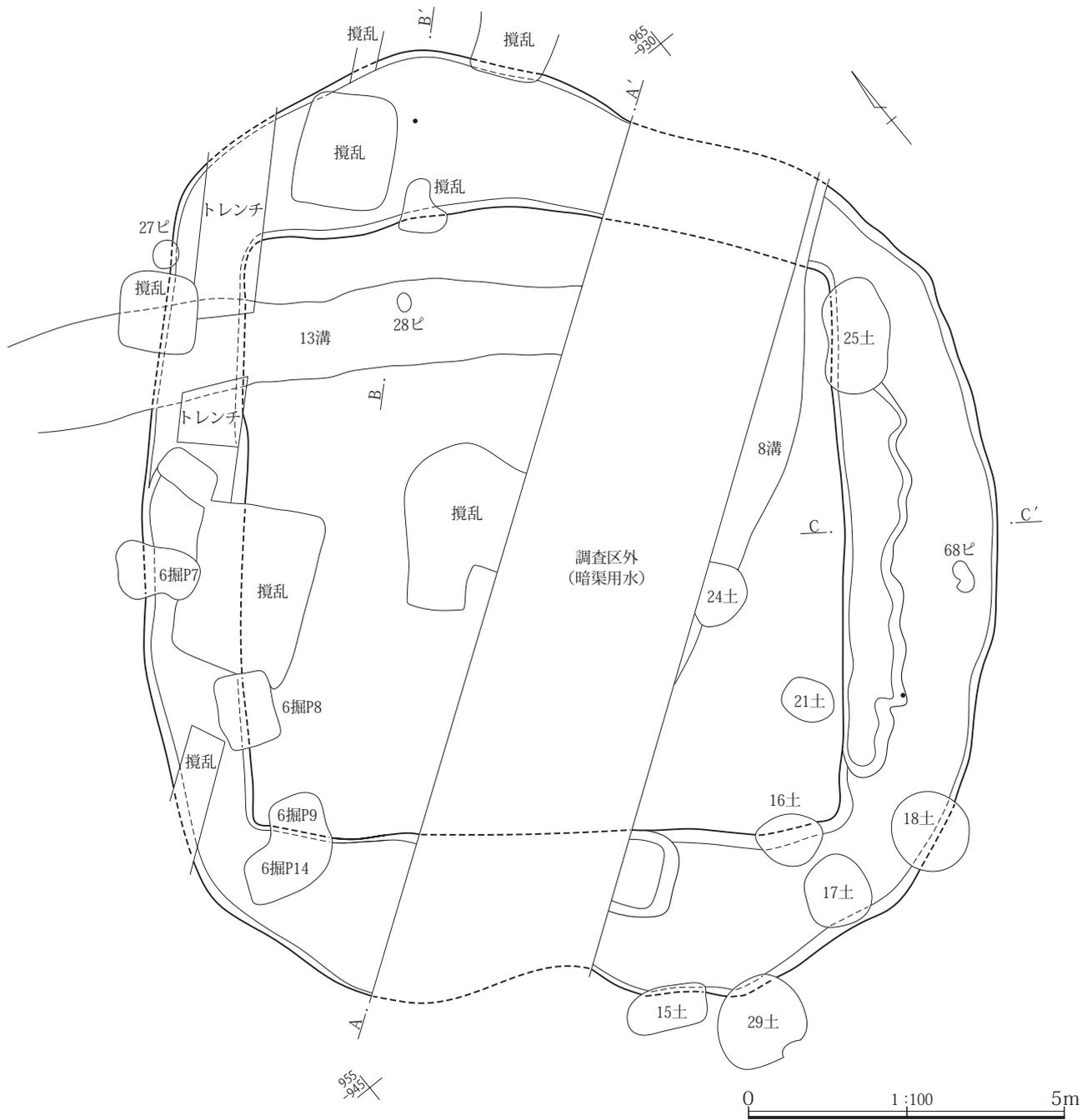
面積 全体：(310.06)m²、方台部：(156.50)m²。

方台部(主体部) 盛土および主体部は確認されなかった。

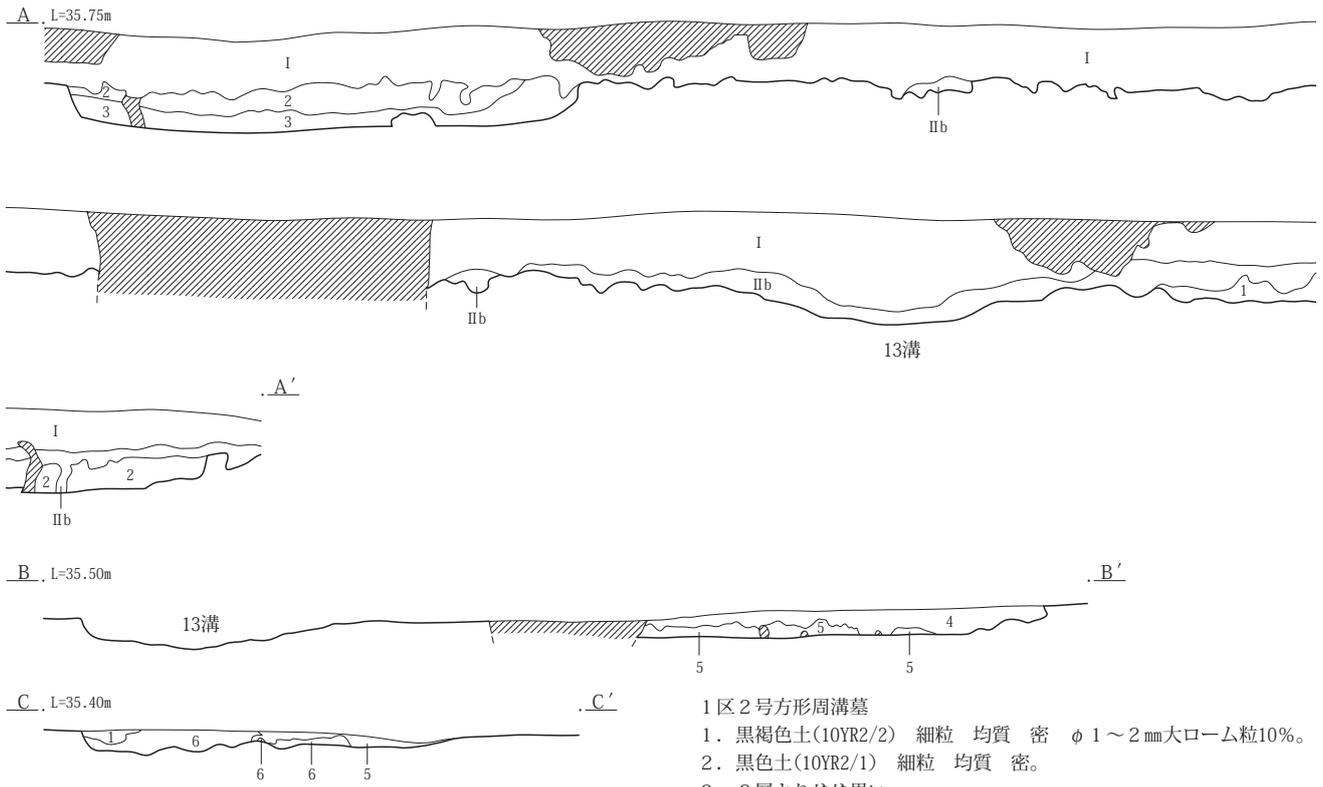
周溝 幅1.80~5.80m、深さ0.05~0.18m。埋没土は黒色土主体、9層が観察された。断面形は浅い方形または逆台形状で、方台部側がほぼ垂直に立ち上がる。

遺物 土師器壺1点(1)を図示した。他に土師器片127g、須恵器片5g、時期不明土器片7g、埴輪片33gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

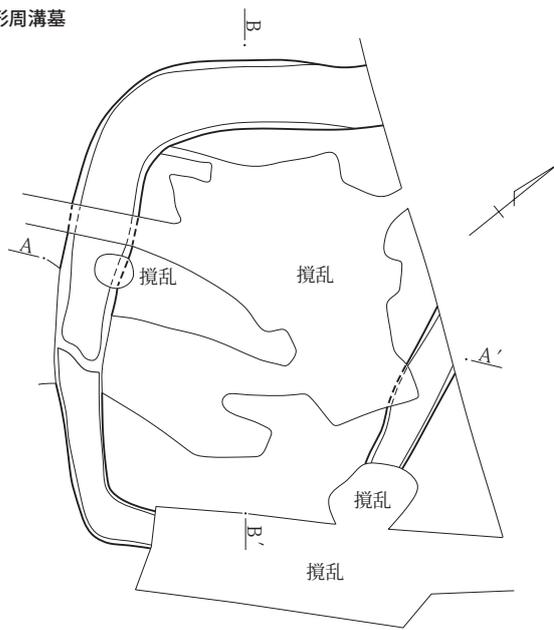
所見 本遺構は削平・攪乱が著しく、残存状況は良好とは言いがたい。本遺構の時期は出土遺物(1)から、4世紀代と推定される。本遺構に隣接する1区10・11号溝は、位置、埋没土および断面形から本遺構の一部である可能性がある。



第16図 1区2号方形周溝墓平面

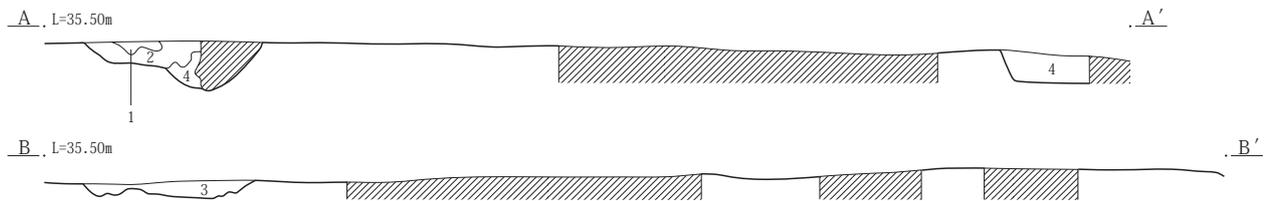


1区3号方形周溝墓



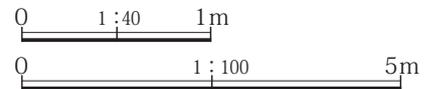
1区2号方形周溝墓

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mm大ローム粒10%。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
3. 2層よりやや黒い。
4. 2層と同質 ϕ 1mm以下灰白色粒混入 ϕ 2~3cmローム塊斑混。
5. 2層と同質 ϕ 1~2mmローム粒1%。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒30%。

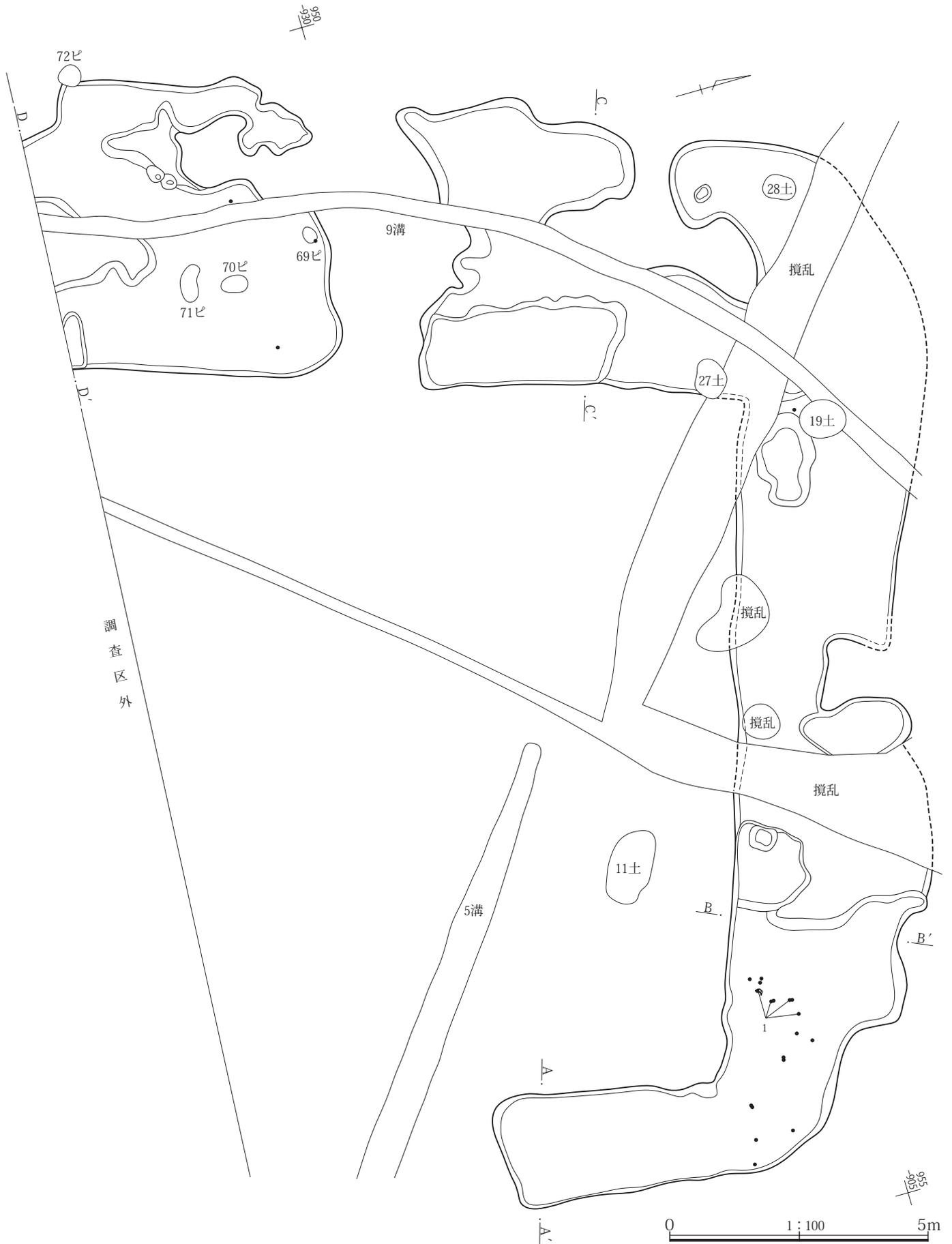


1区3号方形周溝墓

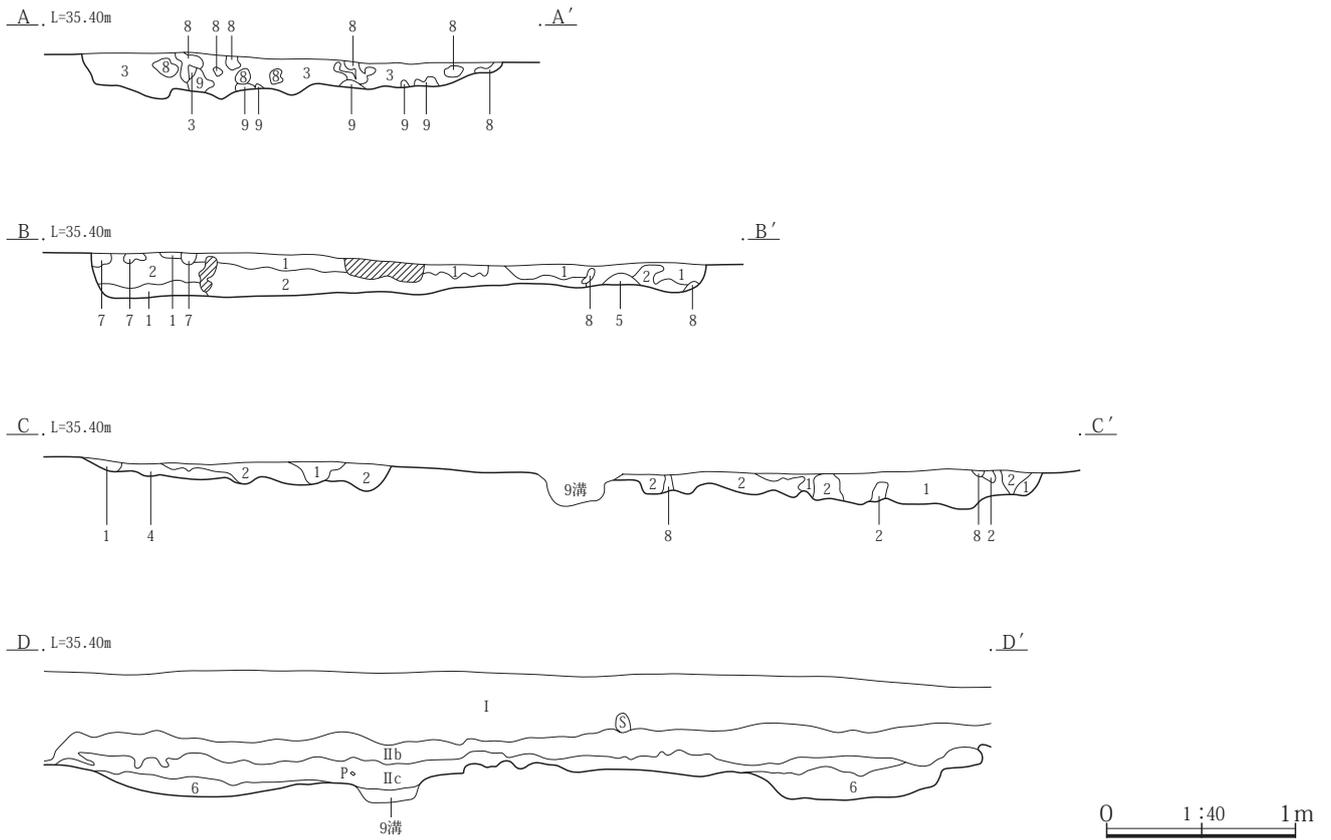
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1mm大ローム粒少混。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
3. 2層と同質 ローム粒が大粒で40%。
4. ローム塊。



第17図 1区2号方形周溝墓断面、3号方形周溝墓平面

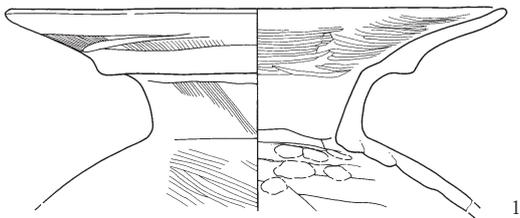


第18図 1区4号方形周溝墓平面



1区4号方形周溝墓

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~2cmローム塊・As-YP塊各15%。
3. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒15%。
4. 1層と同質 ローム粒20%。
5. 1層と同質 φ 1~3mmローム粒30%。
6. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒・As-YP塊40%斑混 灰白色粒少混。
7. 暗褐色土(10YR3/3)。
8. As-YP塊。
9. ローム塊。



0 1:3 10cm

第19図 1区4号方形周溝墓断面、出土遺物

第3節 竪穴住居

竪穴住居は、1区から7軒、2～4区から14軒が確認された。竪穴住居は1区の南半部と4区の南西端に小群を形成し、その他は調査区内に散在している。時代別に見ると、古墳時代のものが1区に1軒、2～4区に6軒、奈良・平安時代のものが1区に2軒、2～4区に3軒、詳細な時期は不明であるが古墳時代～奈良・平安時代のものが1区に4軒、2～4区に5軒となっている。後世の攪乱・削平により残存状況は良好とは言い難く、掘方のみ残存したものも多い。

1区1号竪穴住居(第20図、P.L. 8・85)

位置 X=29952～954、Y=-40959～962。

重複 1区2号溝、3号土坑と重複。本遺構が3号土坑より古く、2号溝より新しい。

平面形状 削平され掘方のみ残存。方形。

主軸方位 N-117°-E。

規模 長軸2.28m、短軸1.92m。

面積 4.96㎡。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

竈 東壁面の南よりに設置。掘方のみ残存。長さ0.79m、幅0.39m。

貯蔵穴 南隅に設置。円形、径0.37m、深さ0.04m。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より0～0.15mで掘方底面となる。概ね平坦。黒褐色土・ローム主体、2層が観察された。

遺物 土師器杯1点(1)・甕1点(2)を図示した。いずれも掘方からの出土で、甕(2)は竈付近から出土した。他に、土師器片108g、須恵器片46gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され掘方のみと残存状況は不良である。出土遺物(1・2)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

1区2号竪穴住居(第20図、P.L. 9)

位置 X=29948～952、Y=-40955～960

重複 1区3号竪穴住居、7号掘立柱建物と重複。本遺構が7号掘立柱建物より古く、3号竪穴住居より新しい。

平面形状 削平され掘方の一部のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-107°-E。掘方の一部のみのため主軸は推定。

規模 長軸4.22m以上、短軸(3.56)m。

面積 (13.84)㎡。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

炉・竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 3基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1：円形-径0.22-0.19。

P 2：楕円形-0.26-0.24-0.19。

P 3：楕円形-0.35-0.26-0.19。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より0～0.15mで掘方底面となる。やや凹凸あるが、概ね平坦。黒褐色土・ローム主体、3層が観察された。

遺物 土師器片15g、須恵器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され掘方の一部のみと残存状況は不良である。1区7号掘立柱建物との重複関係から、本遺構の時期は9世紀以前と推定されるが、出土遺物も小破片のみであり、詳しく判別できなかった。

1区3号竪穴住居(第21図、P.L. 9)

位置 X=29949～954、Y=-40954～957

重複 1区2号竪穴住居、7号掘立柱建物、1号溝、53・54号ピットと重複。本遺構が2号竪穴住居、7号掘立柱建物より古い。

平面形状 削平され周溝と炉のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-113°-E。周溝と炉のみのため主軸は推定。

規模 長軸(2.61)m、短軸(2.56)m。

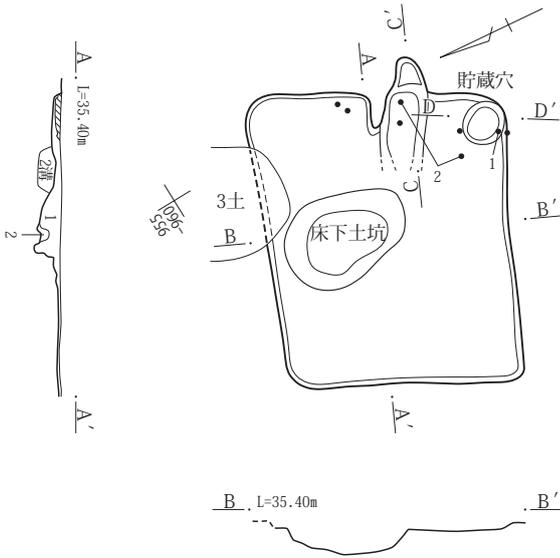
面積 (12.61)㎡。

埋没土層 周溝と炉のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

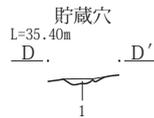
炉 長さ0.94m、幅0.45m。

1区1号竪穴住居掘方



1区1号住居A

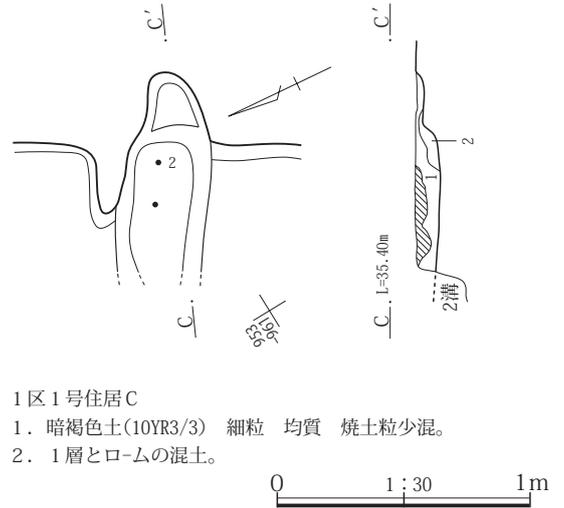
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒。均質。φ 1~20mmローム粒・塊15%。
2. ローム塊。



1区1号住居D

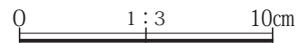
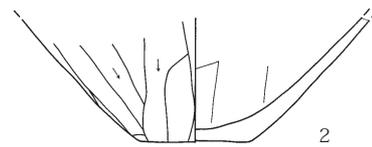
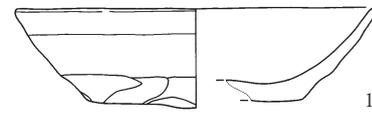
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒。ローム粒・焼土粒少混。

カマド掘方

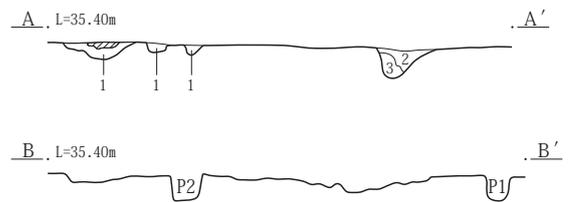
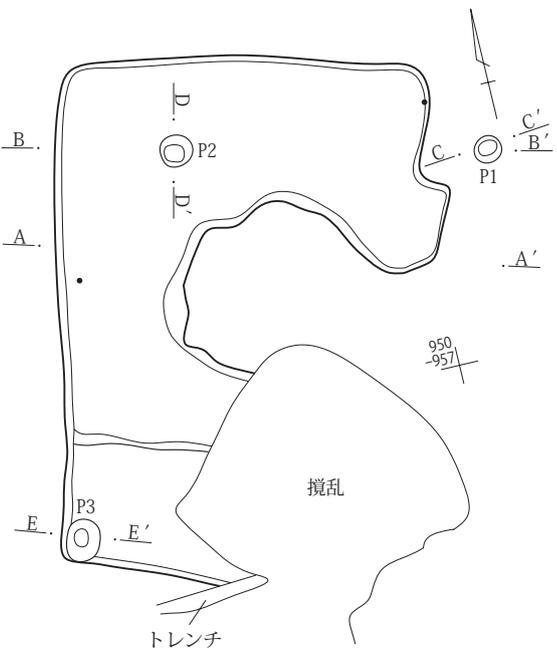


1区1号住居C

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 焼土粒少混。
2. 1層とロームの混土。

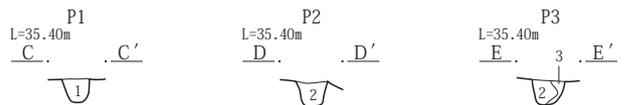


1区2号竪穴住居掘方



1区2号住居A B

1. 黒褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 φ 1~2 cmローム塊斑混。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 ローム粒斑混。
3. 黄褐色土に黒褐色土の細粒少混 全体が攪拌されている。

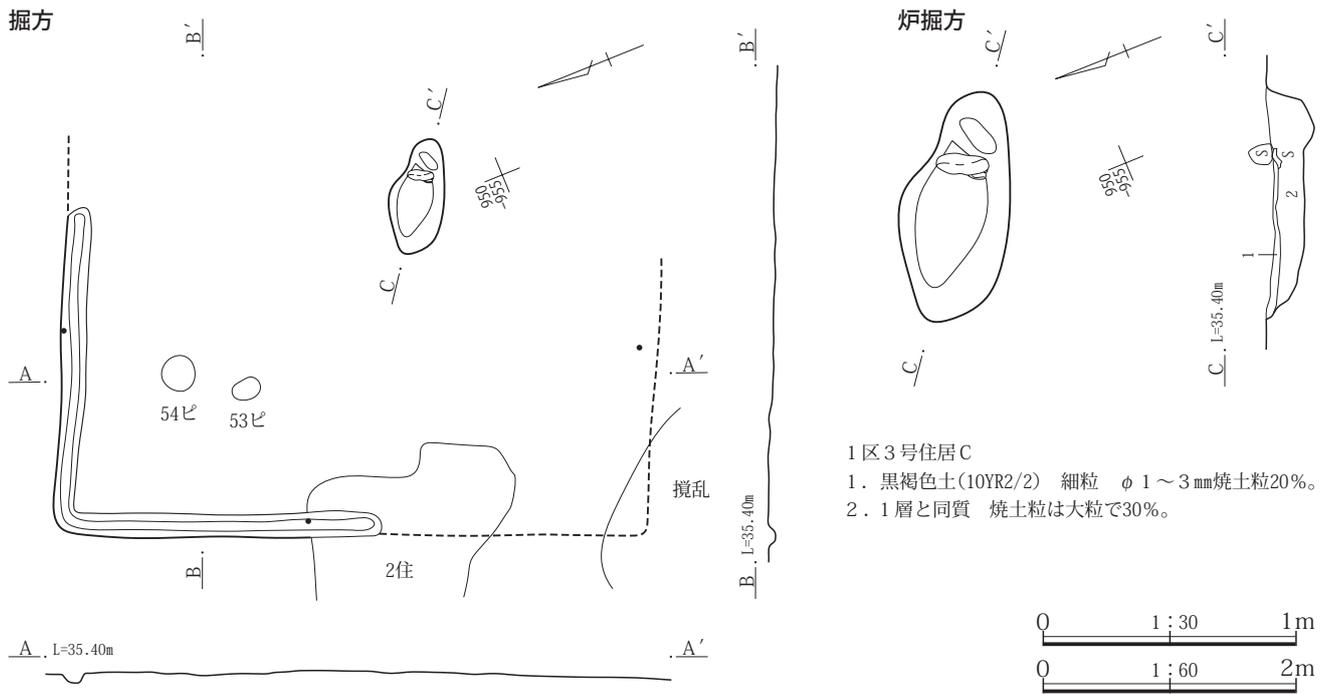


1区2号住居C~E

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒斑混。
3. ローム塊。



第20図 1区1・2号竪穴住居掘方平面断面、1号竪穴住居竈掘方平面断面、出土遺物



第21図 1区3号竪穴住居掘方平断面、炉掘方平断面

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 幅：0.27~0.31m、深さ0.02~0.10m。

掘方 周溝と炉のみのため詳細不明。

遺物 土師器片83g、須恵器片11g、不明土器片5gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され掘方の一部のみと残存状況は不良である。炉の存在から、本遺構の時期は5世紀後半以前と推定されるが、出土遺物も小破片のみであり、詳しくは判別できなかった。

1区4号竪穴住居(第22・23図、P L .10・12・85)

位置 X=29955~959、Y=-40954~958。

重複 1区1・2号溝、3号掘立柱建物、23・50・55号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 方形。

主軸方位 N-105°-E。

規模 長軸3.96m、短軸3.60m。

面積 14.20㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

床面 遺構確認面より約0.05mで床面となる。概ね平坦。

竈 東壁面の南よりに設置。遺構確認面から燃焼面まで浅く詳細不明。長さ1.21m、幅0.41m。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 2基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1：楕円形-0.30-0.24-0.17。

P 2：円形-径0.27-0.42。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より0~0.15mで床面となる。南東隅と中央部に凹みがあるが、概ね平坦。黒褐色土・ローム主体、4層が観察された。

遺物 土師器杯1点(1)・甕1点(4)、須恵器杯1点(2)・椀1点(3)を図示した。土師器杯(1)・甕(4)は竈から出土した。他に、土師器片1,132g、須恵器片259g、不明土器片24gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平されてはいるものの、本調査区内の他の竪穴住居に比べ残存状況は良好である。出土遺物(1~4)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

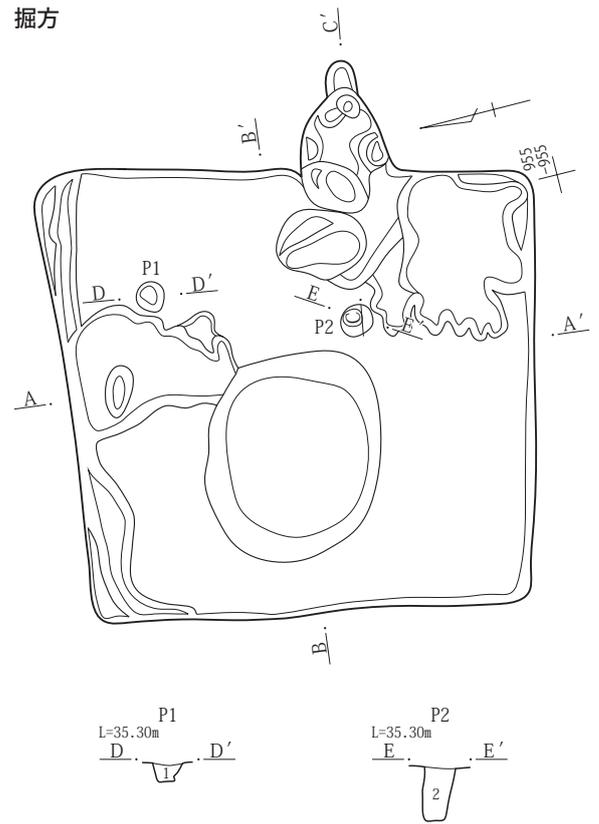
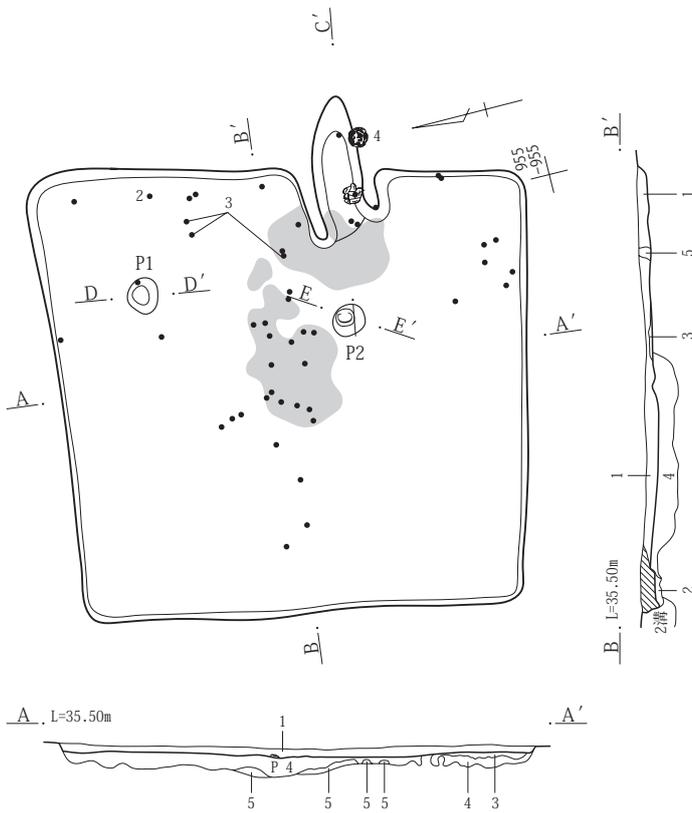
1区5号竪穴住居(第24図、P L .11)

位置 X=29948~951、Y=-40950~954。

重複 なし。

平面形状 南東側が調査区外に延びる。推定方形。

主軸方位 N-102°-E。南東側が調査区外のため主軸

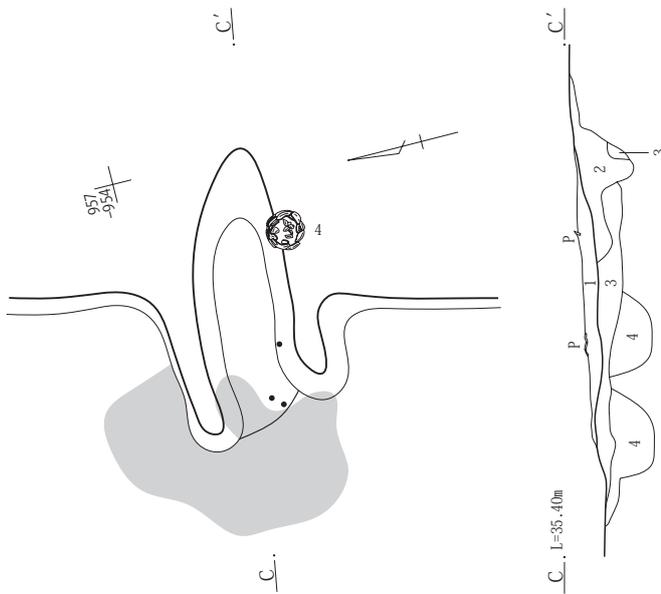
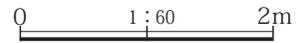


1区4号住居A B

1. 黒褐色土(10YR3/3) 細粒 φ 1 ~ 5mmローム粒・1~10mm焼土粒混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 φ 1 ~ 3mmローム粒混入。
3. 焼土層。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 密 φ 1 ~ 30mmローム粒・塊40%。
5. ローム塊。

1区4号住居D E

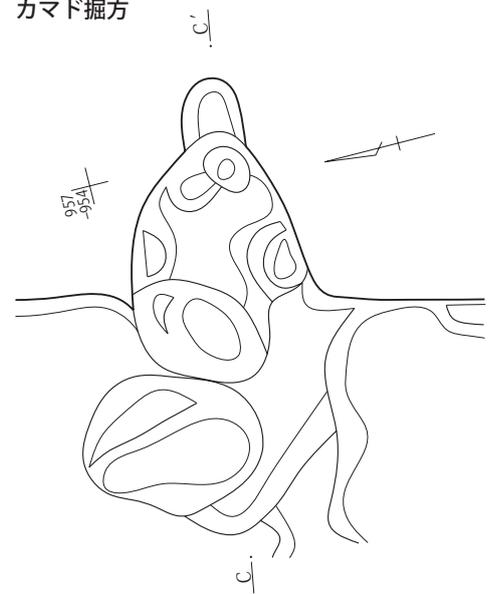
1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 ローム粒少混。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒・焼土粒各5%。



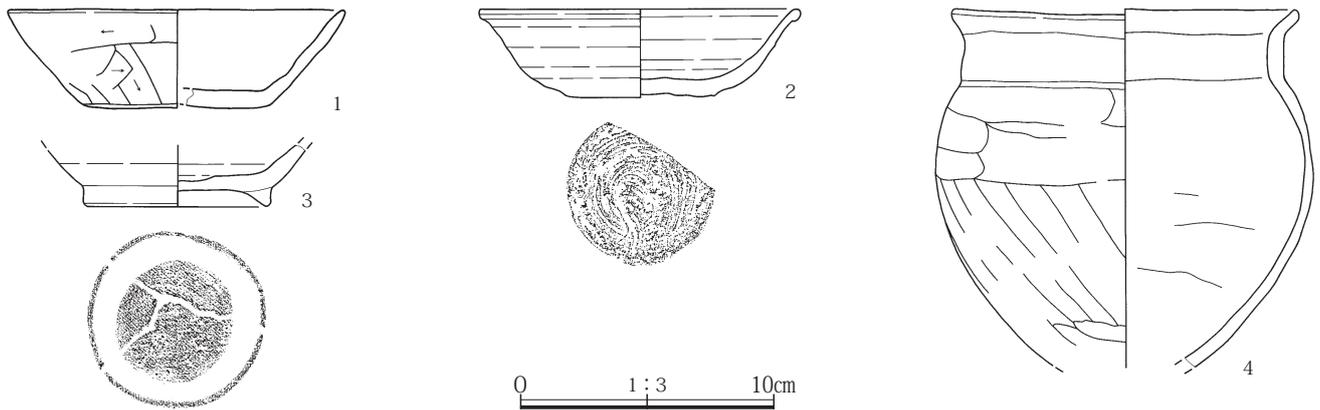
1区4号住居C

1. 黒褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 硬 φ 1 ~ 3mm焼土粒5% 炭化物混入。
2. 1層と同質 焼土粒多い。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 φ 1cmローム塊10%。
4. 3層と同質 焼土粒・灰・黒褐色土粒混入。

カマド掘方



第22図 1区4号竪穴住居平断面、竈平断面



第23図 1区4号竪穴住居出土遺物

は推定。

規模 長軸(3.59)m、短軸(3.30)m。

面積 (6.12)m²。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。調査区壁面にて確認。

床面 概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より0～0.15mで床面となる。溝状の窪みあり。暗褐色土・ローム主体、1層が観察された。

遺物 土師器片39g、須恵器片2gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。北東側大半が調査区外かつ出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区6号竪穴住居(第24図、P L .11)

位置 X = 29951～953、Y = -40947～950。

重複 なし。

平面形状 南東側大半が調査区外に延びる。推定方形。

主軸方位 N - 145° - E。南東側大半が調査区外のため主軸は推定。

規模 長軸(2.84)m、短軸(0.92)m。

面積 (3.31)m²。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。調査区壁面にて確認。

床面 概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より0～0.15mで床面となる。溝状の窪みあり。黒褐色土・ローム主体、3層が観察された。

遺物 土師器片52gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。南東側大半が調査区外かつ出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区7号竪穴住居(第24図、P L .12)

位置 X = 29996～999、Y = -40971～974。

重複 8号井戸と重複。本遺構が古い。

平面形状 北東側大半が調査区外に延びる。推定方形。

主軸方位 N - 50° - E。北東側大半が調査区外のため主軸は推定。

規模 長軸(3.55)m、短軸(0.53)m。

面積 (2.20)m²。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

床面 遺構確認面より約0.08mで床面となる。概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

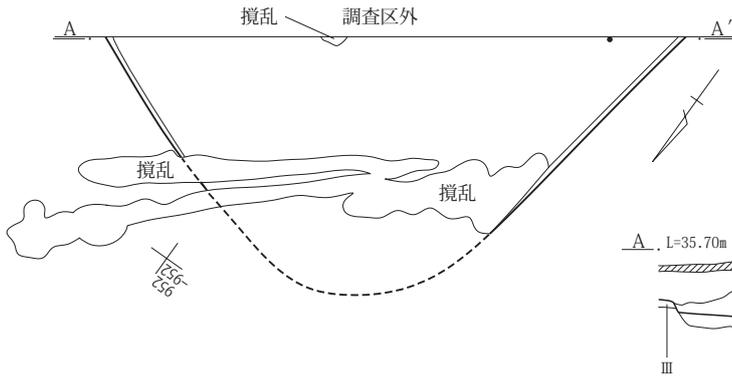
周溝 確認されなかった。

掘方 不明。

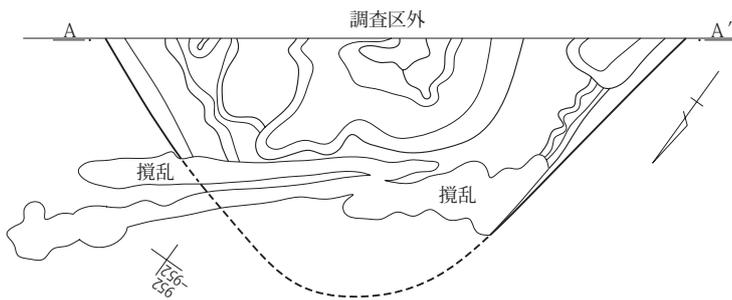
遺物 なし。

所見 北東側大半が調査区外かつ出土遺物なしのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区5号竪穴住居



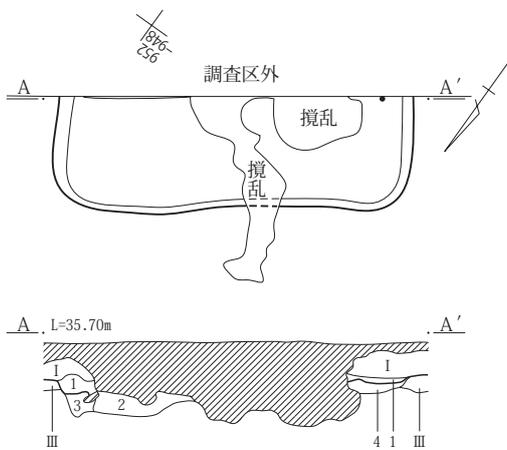
掘方



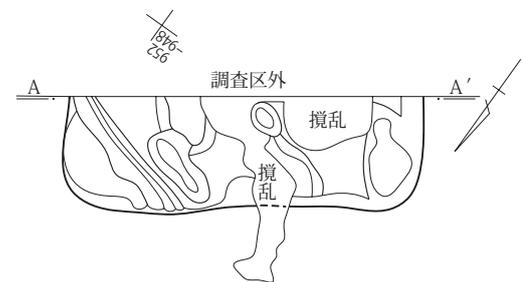
1区5号住居A

- 1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
- 2. 1層と同質 φ1~3cmローム塊40% 焼土粒少混。

1区6号竪穴住居



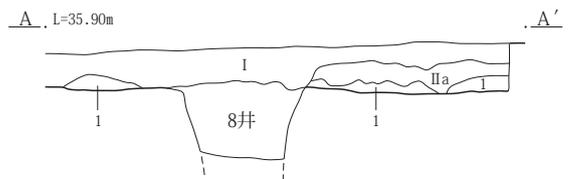
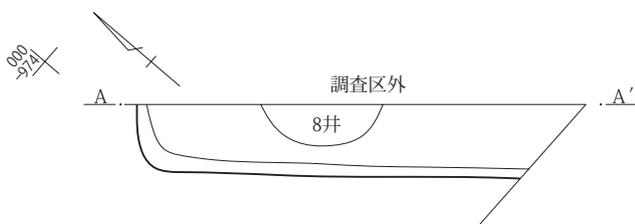
掘方



1区6号住居A

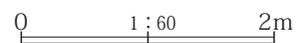
- 1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 粘性あり ローム粒少混。
- 3. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 φ1~2cmローム塊40%。
- 4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒・φ3cmローム塊混入。

1区7号竪穴住居



1区7号住居A

- 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム塊混入。



第24図 1区5~7号竪穴住居平面図

2区1号竪穴住居(第25図、P L .12)

位置 X = 29883 ~ 888、Y = -40365 ~ 370。

重複 2区31号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 方形。

主軸方位 N - 55° - E。

規模 長軸4.39m、短軸3.50m。

面積 14.85㎡。

埋没土層 遺構確認面にて床面確認のため、埋没土は確認されなかった。

床面 概ね平坦。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 東隅に設置。楕円形、長軸0.73m、短軸0.65m、深さ0.23m。

柱穴 3基が確認された。P3は掘方で確認。形状および規模は以下のとおり(平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P1 : 不整形-0.37-0.30-0.33。

P2 : 円形-径0.45-0.22。

P3 : 楕円形-0.30-0.25-0.31。

周溝 幅 : 0.07 ~ 0.21m、深さ0.05m。

掘方 遺構確認面より0.05 ~ 0.10mで掘方底面となる。平面図に表現されなかった浅い凹凸や壁際にピット状の窪みがあるが、概ね平坦。暗褐色土・ローム主体、1層が観察された。

遺物 土師器片161g、不明土器片40gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

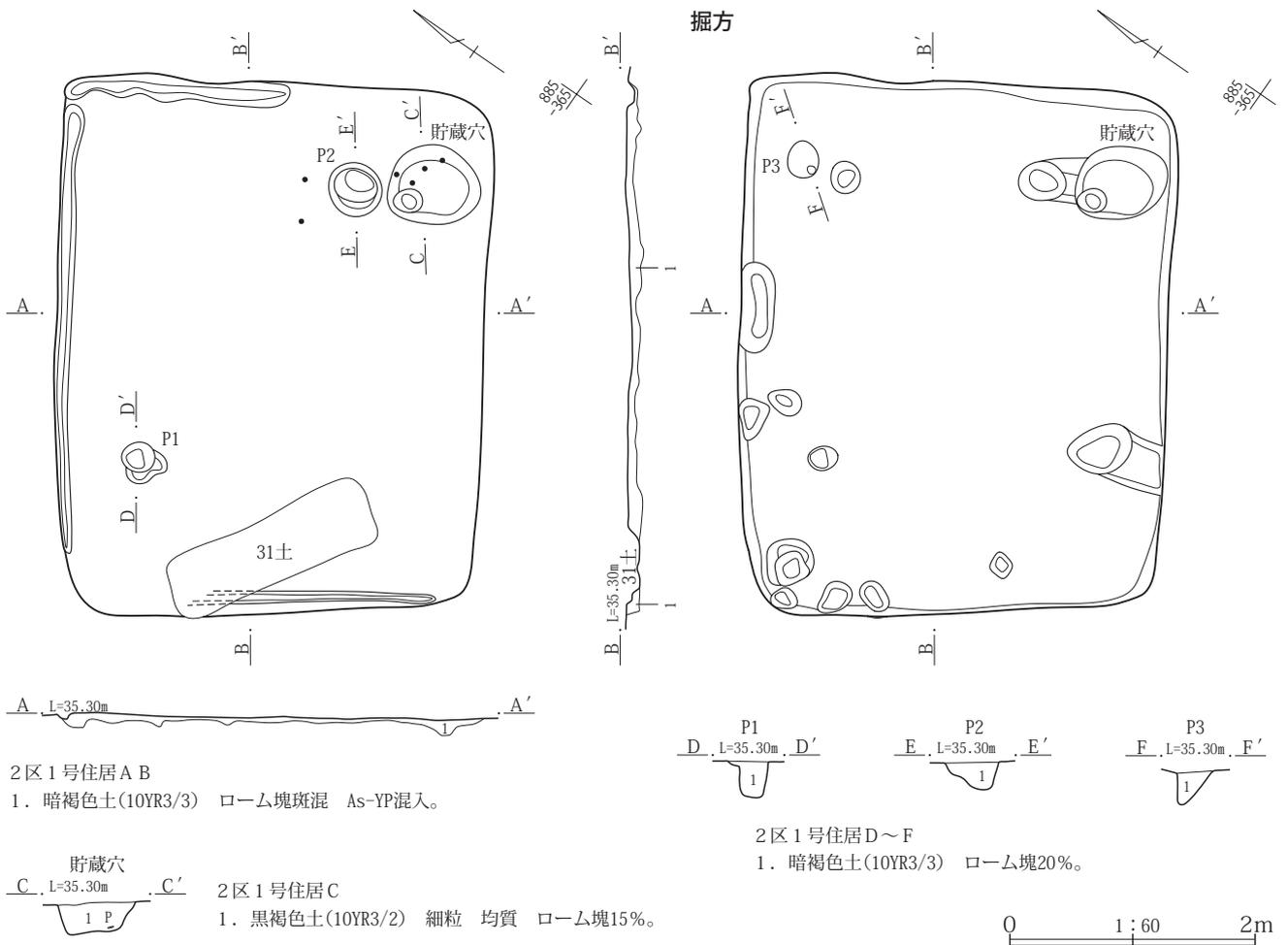
所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。2区2号竪穴住居と規模および掘方充填土がほぼ同じことから、本遺構の時期は5世紀前半と推定される。

2区2号竪穴住居(第26図、P L .13・85)

位置 X = 29890 ~ 897、Y = -40374 ~ 380。

重複 2区26・39・42号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 削平され掘方のみ残存。方形。



第25図 2区1号竪穴住居平面図

主軸方位 N-116°-E。

規模 長軸5.49m、短軸5.01m。

面積 26.85㎡。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 南隅に設置。方形、長軸0.93m、短軸0.82m、深さ0.21m。

柱穴 4基が確認された。すべて掘方で確認。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸

-深さ(単位m))。

P 1 : 楕円形-0.30-0.27-0.22。

P 2 : 楕円形-0.39-0.25-0.24。

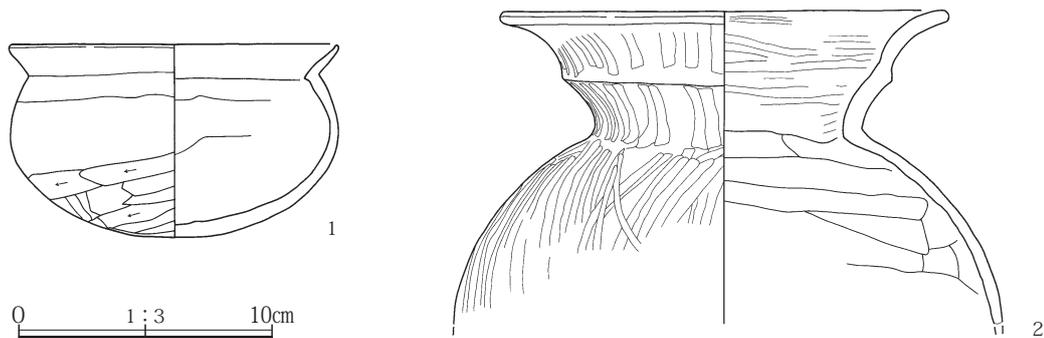
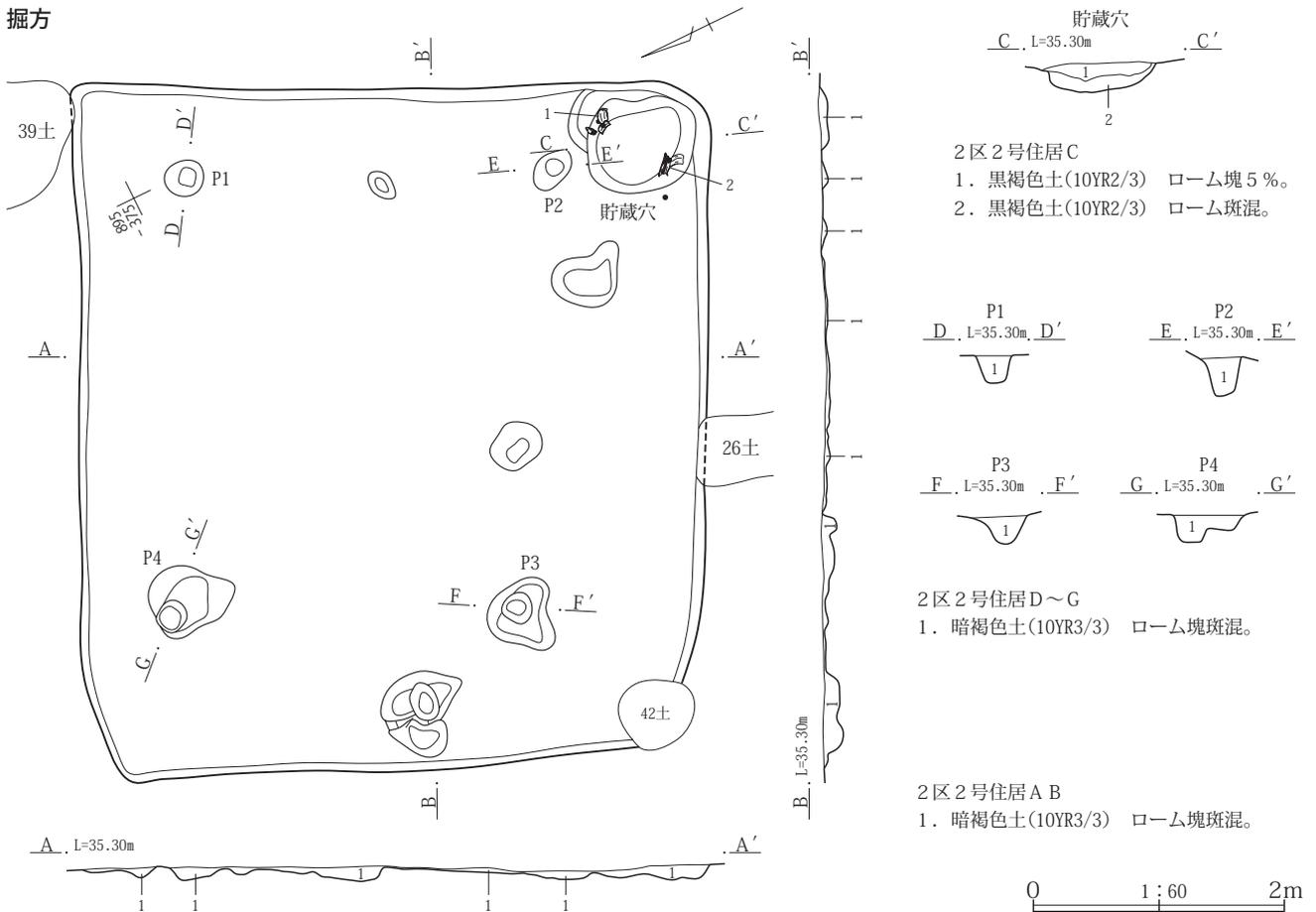
P 3 : 不整形-0.59-0.30-0.26。

P 4 : 不整形-0.63-0.57-0.26。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より0~0.05mで掘方底面となる。平面図に表現されなかった浅い凹凸やピット状の窪みがあるが、概ね平坦。暗褐色土・ローム主体、1層が観察された。

掘方



第26図 2区2号竪穴住居掘方平断面、出土遺物

遺物 土師器埴1点(1)・壺1点(2)を図示した。ともに貯蔵穴から出土した。他に、土師器片258gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。出土遺物(1・2)から、本遺構の時期は5世紀前半と推定される。

2区3号竪穴住居(第27図、P L.13)

位置 X=29886~892、Y=-40358~364。

重複 2区2号溝、25号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 削平され掘方のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-30°-E。

規模 長軸5.38m、短軸4.59m。

面積 23.29m²。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より0~0.10mで掘方底面となる。平面図に表現されなかった浅い凹凸や南東部に凹凸が著しいが、概ね平坦。暗褐色土・ローム主体、1層が観察された。

遺物 土師器片3gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。2区2号竪穴住居と規模および掘方充填土がほぼ同じことから、本遺構の時期は5世紀前半と推定される。

3区1号竪穴住居(第28図、P L.14・86)

位置 X=29857~862、Y=-40263~268。

重複 3区4号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 方形。

主軸方位 N-70°-W。

規模 長軸3.96m、短軸2.99m。

面積 12.76m²。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.05~0.15mで床面となる。概ね平坦。

竈 西壁面の北よりに設置。長さ0.88m、幅0.43m。遺構確認面から燃焼面まで浅いが、構築材の崩落が見られ、人為的に破壊された可能性がある。

貯蔵穴 北西隅に設置。楕円形、長軸0.57m、短軸0.44m、深さ0.34m。

柱穴 2基が確認された。すべて掘方で確認。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P1：楕円形-0.44-0.33-0.34。

P2：楕円形-0.23-0.17-0.18。

掘方 掘方底面より0~0.05mで床面となる。概ね平坦。褐灰色土・ローム主体、2層が観察された。

周溝 確認されなかった。

遺物 土師器甕2点(1・2)・土製品支脚1点(3)を図示した。甕1点(1)は竈付近、支脚は貯蔵穴(3)から出土した。他に、土師器片1,630g、須恵器片35gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構をはじめ3区の竪穴住居は削平されてはいるものの、他の調査区の竪穴住居に比べ残存状況は良好である。出土遺物(1~3)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

3区2号竪穴住居(第29・30図、P L.14・15・86)

位置 X=29850~853、Y=-40263~267。

重複 3区6号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 南西側大半が3区6号溝により掘削される。推定方形。

主軸方位 N-25°-W。南西側大半が3区6号溝による掘削のため主軸は推定。

規模 長軸(3.58)m、短軸(2.88)m。

面積 (7.29)m²。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

床面 遺構確認面より約0.05~0.18mで床面となる。概ね平坦。

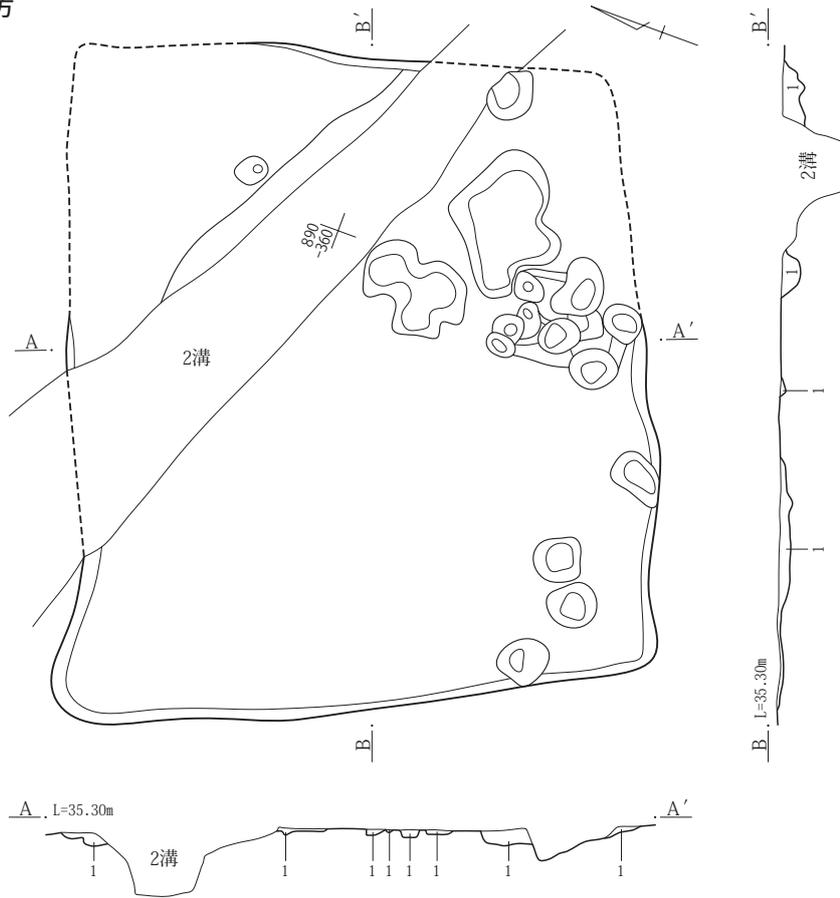
竈 北壁面に設置。長さ0.84m、幅0.43m。遺構確認面から燃焼面まで浅いが、構築材の崩落が見られ、人為的に破壊された可能性がある。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

2区3号竪穴住居掘方

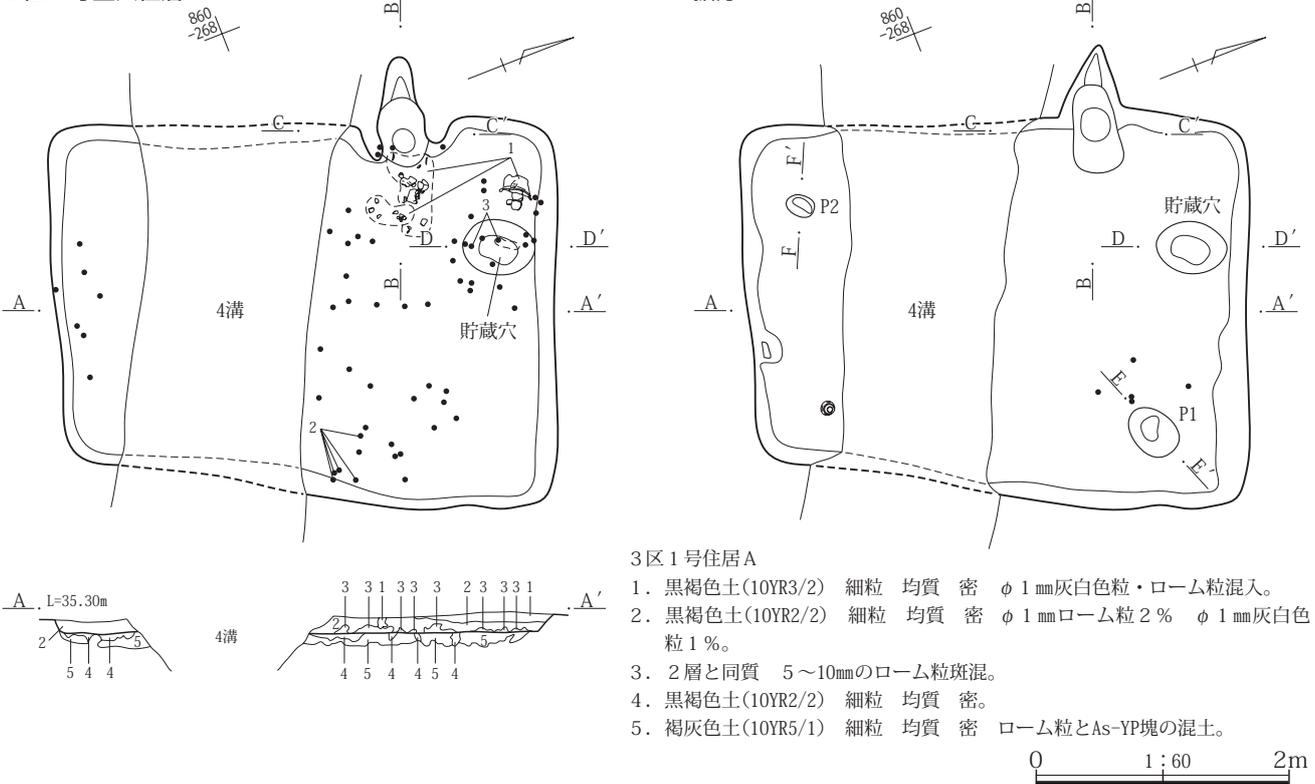


2区3号住居A B

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊斑混。

3区1号竪穴住居

掘方



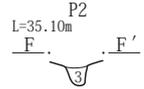
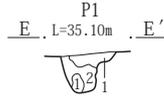
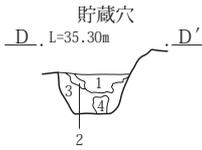
3区1号住居A

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mm灰白色粒・ローム粒混入。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒2% ϕ 1mm灰白色粒1%。
3. 2層と同質 5~10mmのローム粒斑混。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
5. 褐灰色土(10YR5/1) 細粒 均質 密 ローム粒とAs-YP塊の混土。

0 1:60 2m

第27図 2区3号竪穴住居掘方平断面、3区1号竪穴住居平断面

第3章 確認された遺構と遺物

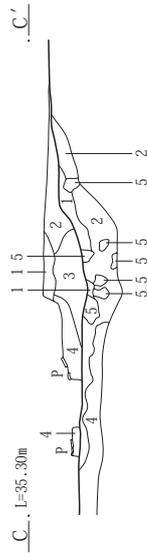
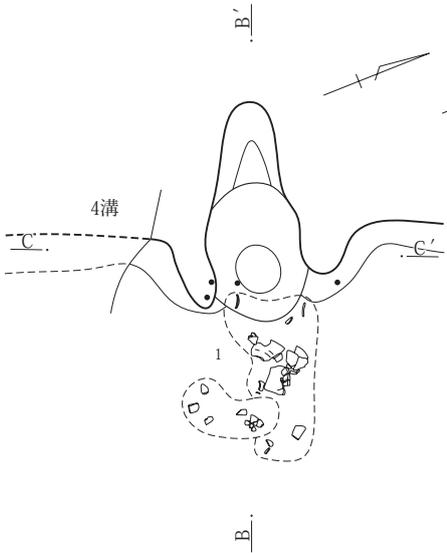
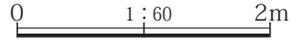


3区1号住居D

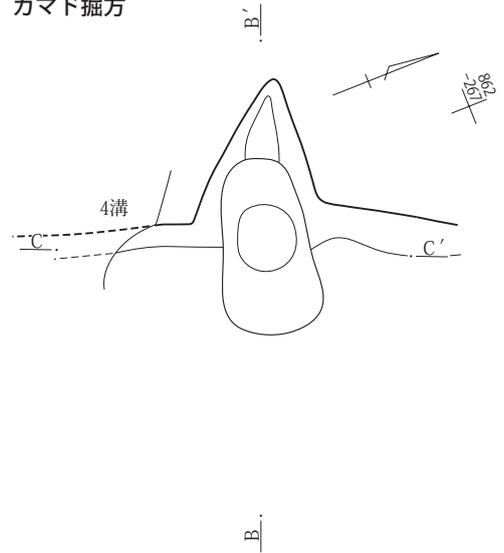
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒混入。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/6) 細粒 均質。
3. 1・2層とAs-YPの斑混土。
4. As-YP塊。

3区1号住居E F

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ1mmローム粒・As-YP塊混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム漸移層斑混。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1~3mmローム粒10%。

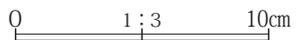
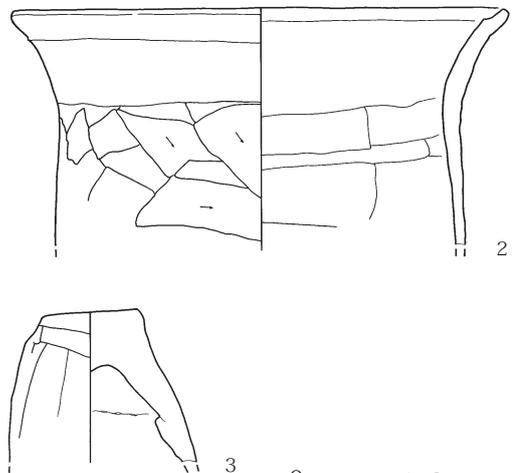
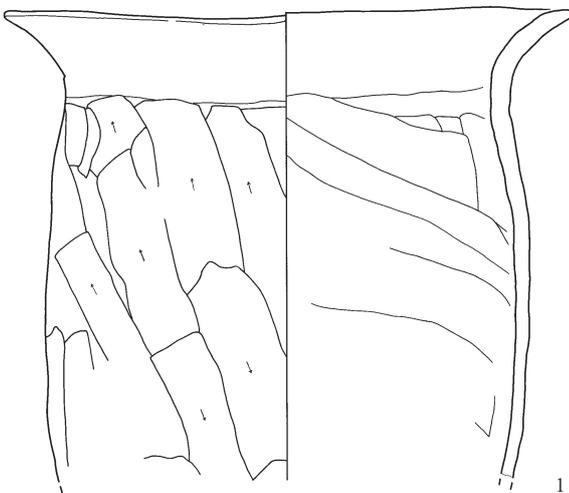


カマド掘方

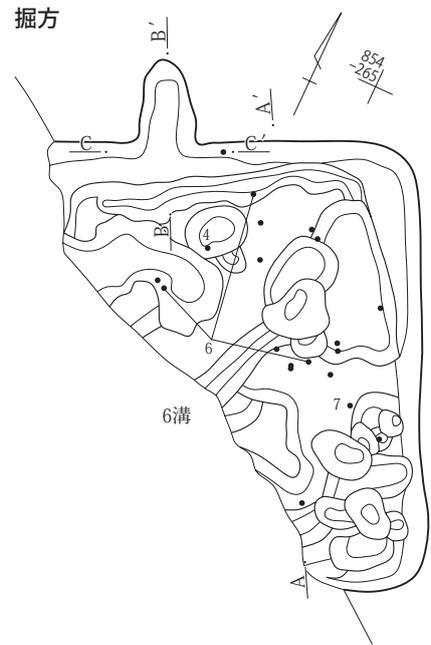
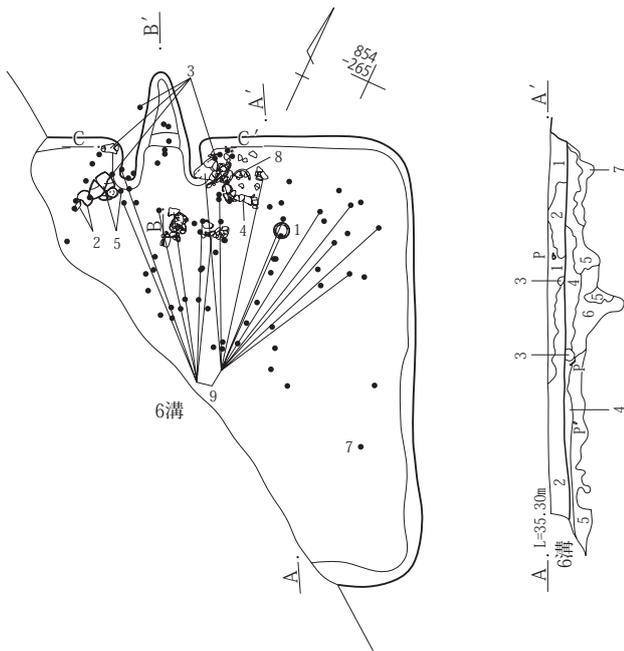


3区1号住居B C

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 粘性あり φ1mmローム粒・焼土粒混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒10%。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒 均質 密。
5. As-YP塊。

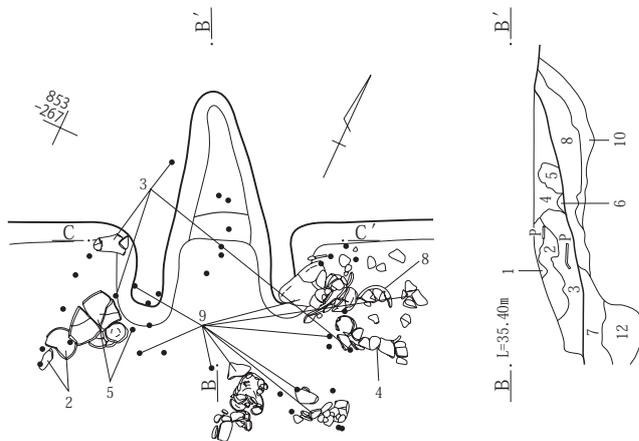
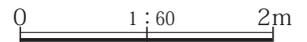


第28図 3区1号竪穴住居断面、竈平面、出土遺物

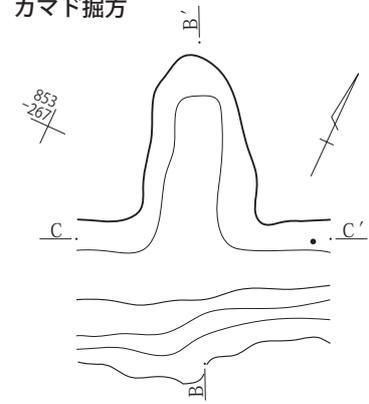


3区2号住居A

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒・灰白色粒5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 中央部 ϕ 1mmローム粒・壁際最大 ϕ 10mmローム粒混入。
3. ローム塊。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒15%。
5. 4層と同質 ϕ 1cmのローム粒斑混。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 下位にローム混入。
7. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 密 ϕ 1~2cmローム斑混。

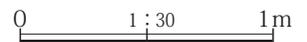
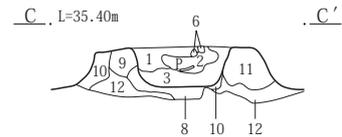


カマド掘方

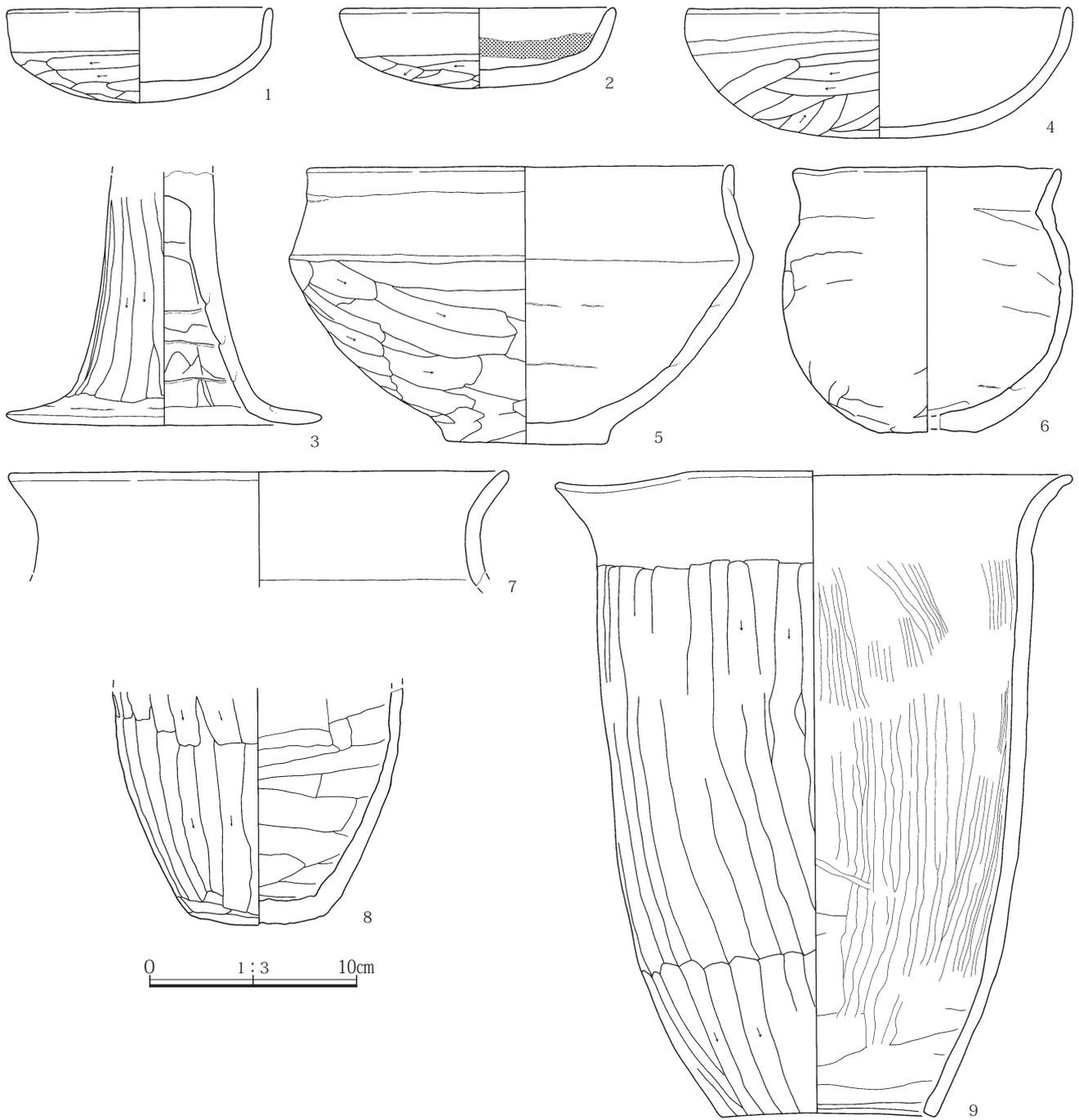


3区2号住居B C

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密。
2. ローム塊 1層と焼土粒混入 崩落した天井。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mm焼土粒混入。
4. 被熱した1層 最大 ϕ 5mm焼土粒15% 全体に赤化。
5. 焼土塊。
6. ローム塊。
7. 3層と同質 ϕ 1mm焼土粒3%。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 ϕ 1mm焼土粒3% 被熱による赤味か。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒・炭化物粒混入。
10. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密。
11. にぶい黄褐色土(10YR4/3)とロームの斑混土。
12. 11層と同質 ローム多い。



第29図 3区2号竪穴住居平断面、竈平断面



第30図 3区2号竪穴住居出土遺物

掘方 掘方底面より0.10~0.20mで床面となる。凹凸が著しい。黒褐色土・ローム主体、5層が観察された。

遺物 土師器杯2点(1・2)・高坏1点(3)・鉢2点(4・5)・小型甕1点(6)・甕2点(7・8)・甑1点(9)を図示した。竈付近に遺物が集中しているが、鉢1点(4)・小型甕1点(6)は掘方から出土した。他に、土師器片3,054gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

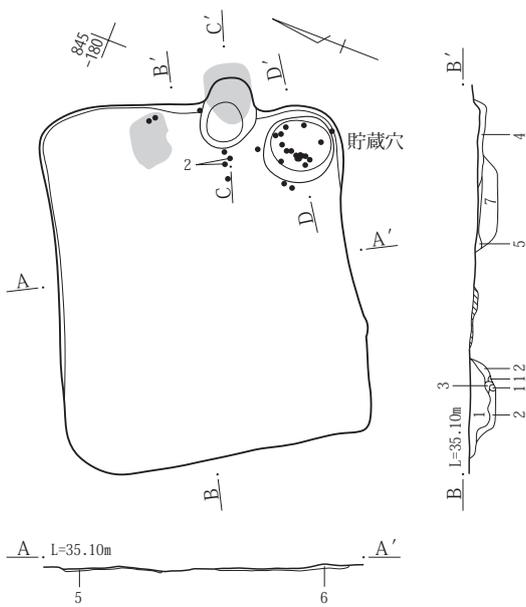
所見 本遺構をはじめ3区の竪穴住居は削平されてはいないものの、他の調査区の竪穴住居に比べ残存状況は良好である。出土遺物(1~9)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

4区1号竪穴住居(第31図、P L .16・87)

位置 X=29842~845、Y=-40179~183。

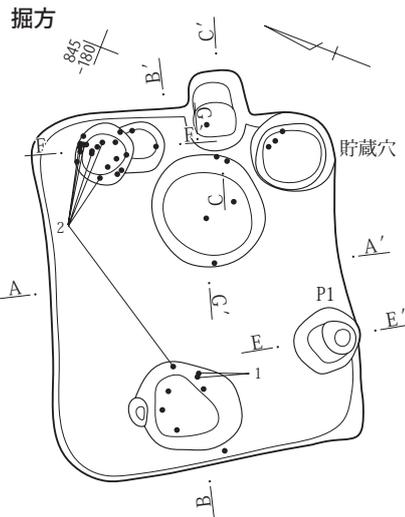
重複 なし。

第3節 竪穴住居



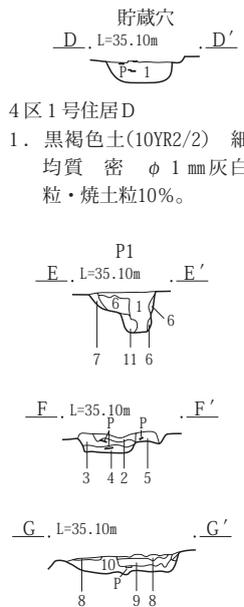
4区1号住居A B

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム粒・焼土粒少混。
2. 1層とロームの斑混土。
3. ローム塊。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・焼土粒少混。
5. 4層と同質 堅くしまる。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 焼土粒混入。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) ϕ 1~2cmローム塊15%、焼土粒混入。



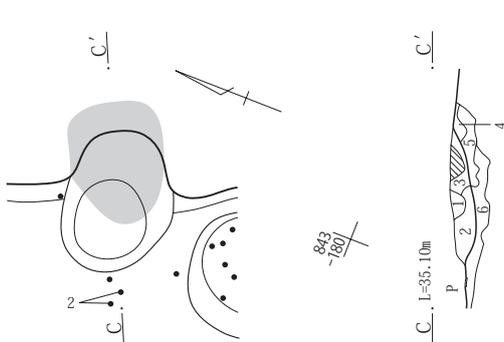
4区1号住居E~G

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 上位にローム粒多い。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 ローム粒・焼土粒混入。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 ローム粒・ ϕ 1~2mm焼土粒10%。
4. 3層と同質 焼土粒混入少ない。
5. 3層と大粒焼土粒の混土。
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)と ϕ 1cmローム塊の斑混土。
7. 6層と同質 ローム多い。
8. ロームを主とする黒褐色土(10YR3/1)との混土。
9. 8層と同質 ローム90%に黒褐色土少混。
10. 灰黄褐色土(10YR4/2) ϕ 1~2cmローム粒15%、焼土粒混入。
11. ローム塊。



4区1号住居D

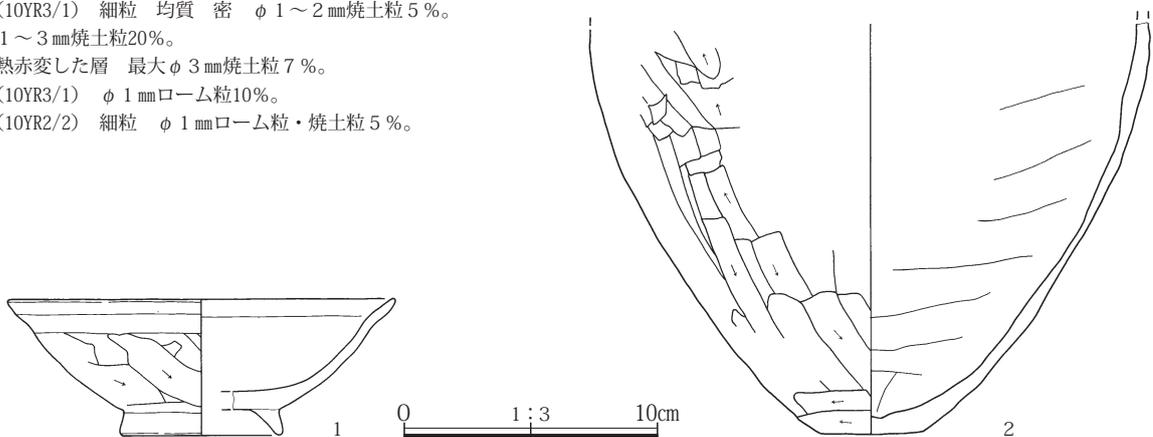
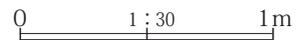
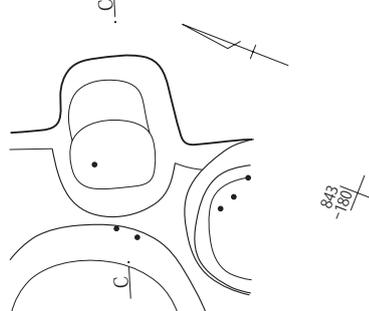
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mm灰白色粒・焼土粒10%。



4区1号住居C

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒15%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mm焼土粒5%。
3. 1層に ϕ 1~3mm焼土粒20%。
4. 1層が被熱赤変した層 最大 ϕ 3mm焼土粒7%。
5. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1mmローム粒10%。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 ϕ 1mmローム粒・焼土粒5%。

カマド掘方



第31図 4区1号竪穴住居平断面、竈平断面、出土遺物

平面形状 方形。

主軸方位 N-62°-E。

規模 長軸2.89m、短軸2.42m。

面積 7.01m²。

埋没土層 遺構確認面にて床面確認のため、埋没土は確認されなかった。

床面 概ね平坦。

竈 東壁面の南よりに設置。長さ0.55m、幅0.42m。袖は残存せず。遺構確認面から燃焼面まで浅く詳細不明。

貯蔵穴 東隅に設置。円形、径0.65m、深さ0.10m。

柱穴 1基が掘方で確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1：楕円形-0.51-0.44-0.31。

周溝 確認されなかった。

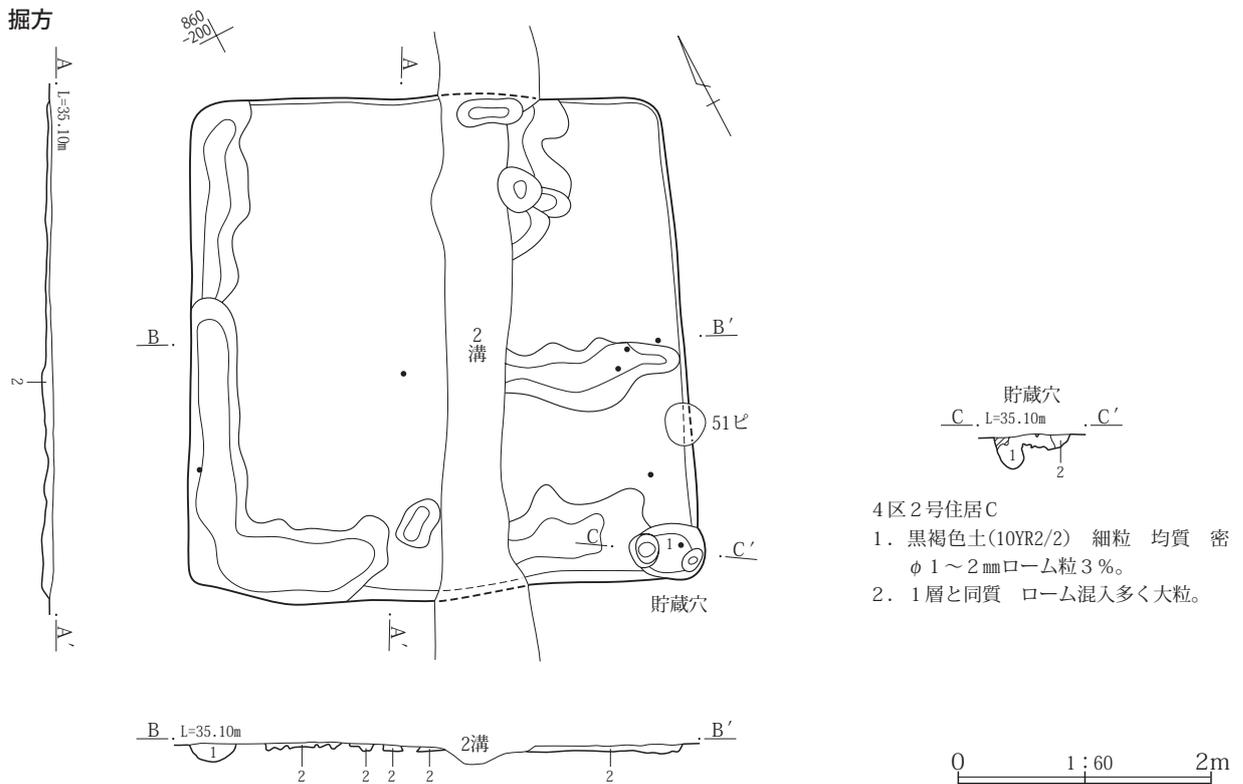
掘方 掘方底面より0~0.05mで床面となる。土坑状の窪みがあるが、概ね平坦。黒褐色土・灰黄褐色土主体、7層が観察された。

遺物 土師器碗1点(1)・甕1点(2)を図示した。甕(2)は掘方、碗(1)は床下土坑から出土した。他に、土師器片581g、須恵器片104gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。出土遺物(1・2)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

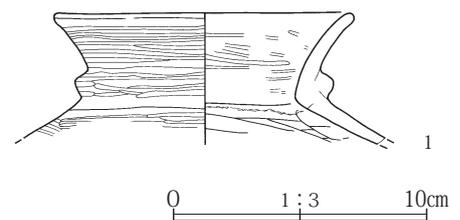
4区2号竪穴住居(第32図、P L.17・87)

位置 X=29854~859、Y=-40197~202。



4区2号住居A B

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~3cmローム塊斑混。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)と黒褐色土(10YR2/2)の斑混土 しまり弱い。



第32図 4区2号竪穴住居掘方平断面、出土遺物

重複 4区2号溝、51号ピットと重複。本遺構が2号溝より古い。

平面形状 削平され掘方のみ残存。方形。

主軸方位 N-28°-E。

規模 長軸4.00m、短軸3.83m。

面積 15.46㎡。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 南東隅に設置。楕円形、長軸0.50m、短軸0.43m、深さ0.16m。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より0.05~0.10mで遺構確認面となる。南東部に溝状の窪みがあるが、概ね平坦。にぶい黄褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器壺1点(1)を図示した。壺(1)は掘方貯蔵穴から出土した。他に、土師器片123gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。出土遺物(1)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

4区3号竪穴住居(第33図、P L .15)

位置 X=29848~853、Y=-40203~207。

重複 なし。

平面形状 削平され掘方の一部のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-26°-E。

規模 長軸推定3.65m、短軸推定3.58m。

面積 推定13.14㎡。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 南東隅に設置。方形、長軸0.71m、短軸0.45m、深さ0.49m。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 南西隅の一部のみのため、詳細不明。

遺物 土師器片103gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。掘方の

一部のみ確認であり、出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区4号竪穴住居(第34図、P L .17・18)

位置 X=29856~858、Y=-40171~173。

重複 4区5号竪穴住居、6号溝と重複。本遺構が6号溝より古く、5号竪穴住居より新しい。

平面形状 北側および東側大半が調査区外に延びる。推定方形。

主軸方位 N-70°-E。東側大半が調査区外のため主軸は推定。

規模 長軸(2.97)m、短軸(1.35)m。

面積 (4.75)㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。調査区壁面にて確認(1・2層)。

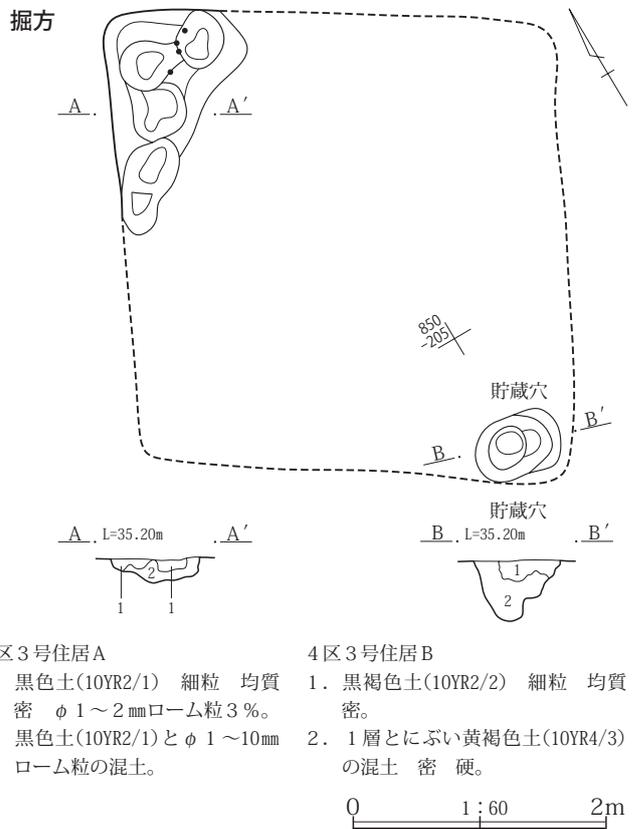
床面 概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 幅：0.13~0.27m、深さ0.07m。



第33図 4区3号竪穴住居掘方断面

掘方 掘方底面より0.05~0.15mで床面となる。長方形の窪みがあるが、概ね平坦。黒褐色土・灰黄褐色土・ローム主体、3層が観察された(3~5層)。

遺物 土師器片41gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。北側および東側大半が調査区外、かつ出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区5号竪穴住居(第34図、P L .17・18)

位置 X=29853~856、Y=-40171~173。

重複 4区4号竪穴住居、28号土坑、87号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 東側大半が調査区外に延びる。推定方形。

主軸方位 N-22°-E。東側大半が調査区外のため主軸は推定。

規模 長軸3.35m、短軸(2.07)m。

面積 (5.38)m²。

埋没土層 確認されなかった。

床面 概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より0.20~0.25mで床面となる。溝状およびピット状の窪みがあり。黒褐色土・ローム主体、2層が観察された(6・7層)。

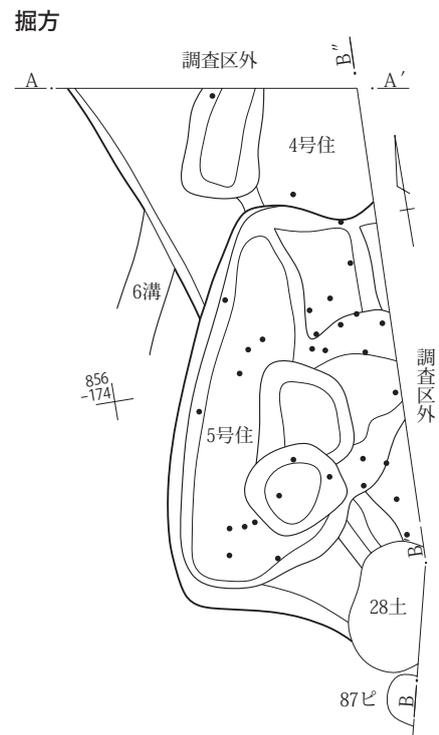
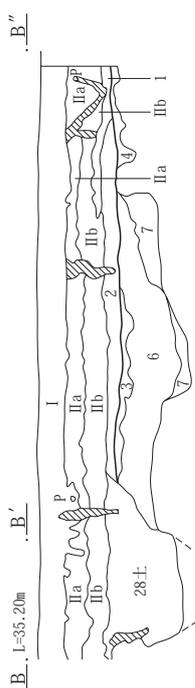
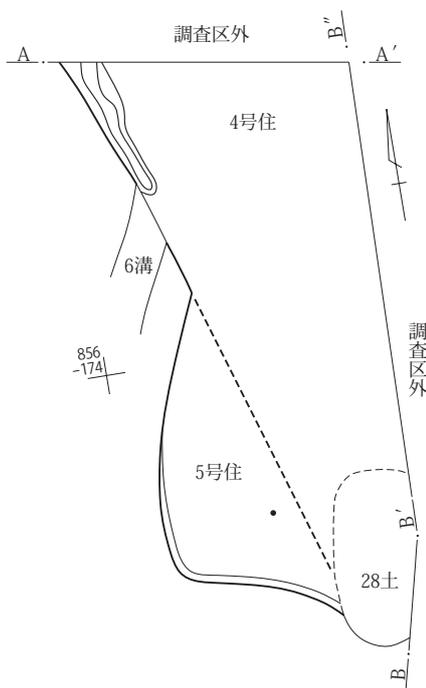
遺物 土師器片1,764g、須恵器片51gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。東側大半が調査区外、かつ出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区6号竪穴住居(第35図、P L .18)

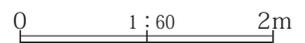
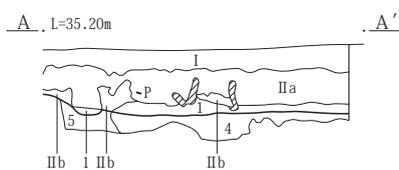
位置 X=29837~840、Y=-40204~207。

重複 なし。



4区4・5号住居A B

1. 黒褐~褐灰色土(10YR3/1~4/1) 均質 密 にぶい黄橙色土(10YR6/3)粒混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 φ1~5mmローム粒3%。
3. 黒褐色土(10YR3/2) φ1~10mmローム粒5%。
4. 黒褐色土(10YR3/2)とφ1~3cmローム粒の斑混土。
5. 4層と同質 ローム70%と多い。
6. 3層と同質 ローム20%と多い。
7. 灰黄褐色土(10YR5/2) 4層混入。



第34図 4区4・5号竪穴住居平面図

平面形状 削平され掘方のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-34°-E。

規模 長軸(2.53)m、短軸(2.53)m。

面積 (6.82)m²。

埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。

床面 確認されなかった。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より0~0.15mで掘方底面となる。凹凸が著しい。黒褐色土・ローム主体、2層が観察された。

遺物 土師器片94gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。掘方のみ確認であり、出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区7号竪穴住居(第35図、P.L.19)

位置 X=29842~844、Y=-40239~240。

重複 なし。

平面形状 一辺のみ確認。詳細不明

主軸方位 一辺のみのため不明。

規模 長軸(1.48)m、短軸(0.90)m。

面積 (0.71)m²。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

床面 遺構確認面より約0.05mで床面となる。概ね平坦。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

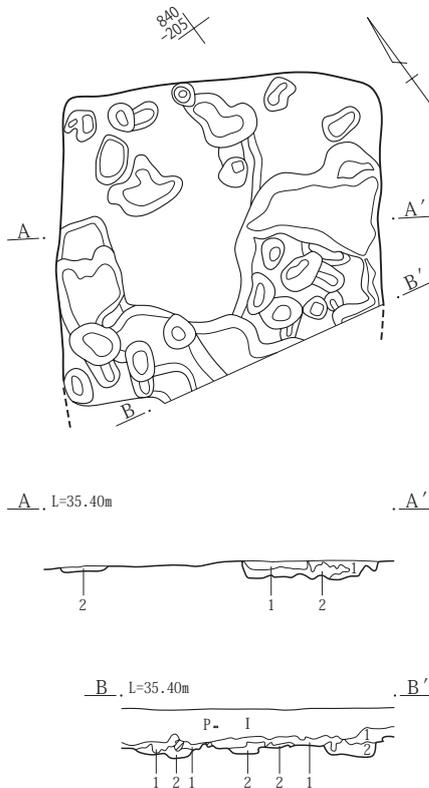
周溝 確認されなかった。

掘方 不明。

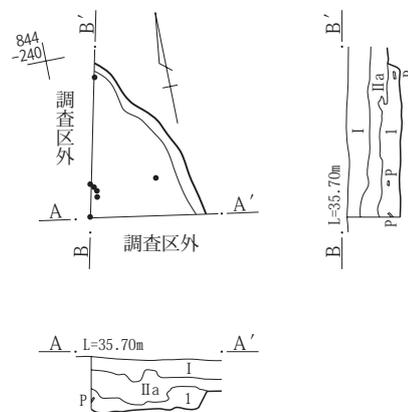
遺物 土師器片310gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 遺構も部分的に確認されたのみであり、出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区6号竪穴住居掘方



4区7号竪穴住居

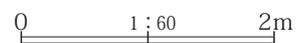


4区6号住居 A B

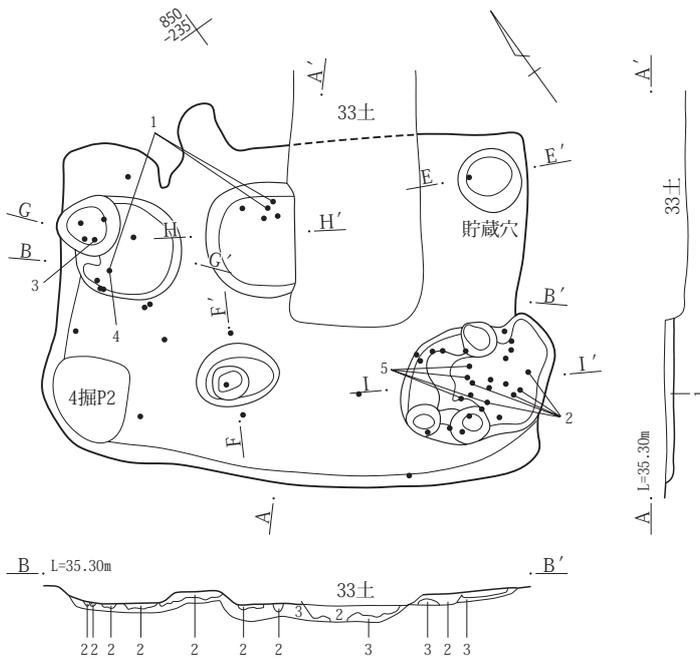
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 φ1~2mmローム粒15%。
2. ロームを主とする黒褐色土(10YR3/1)との混土。

4区7号住居 A B

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 床面近くにφ1cm前後ローム粒斑混。



第35図 4区6・7号竪穴住居掘方平断面



4区8号住居A B

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 口-ム粒少混。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mm口-ム粒・焼土粒3%。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1~3mm口-ム粒10% 焼土粒混入。

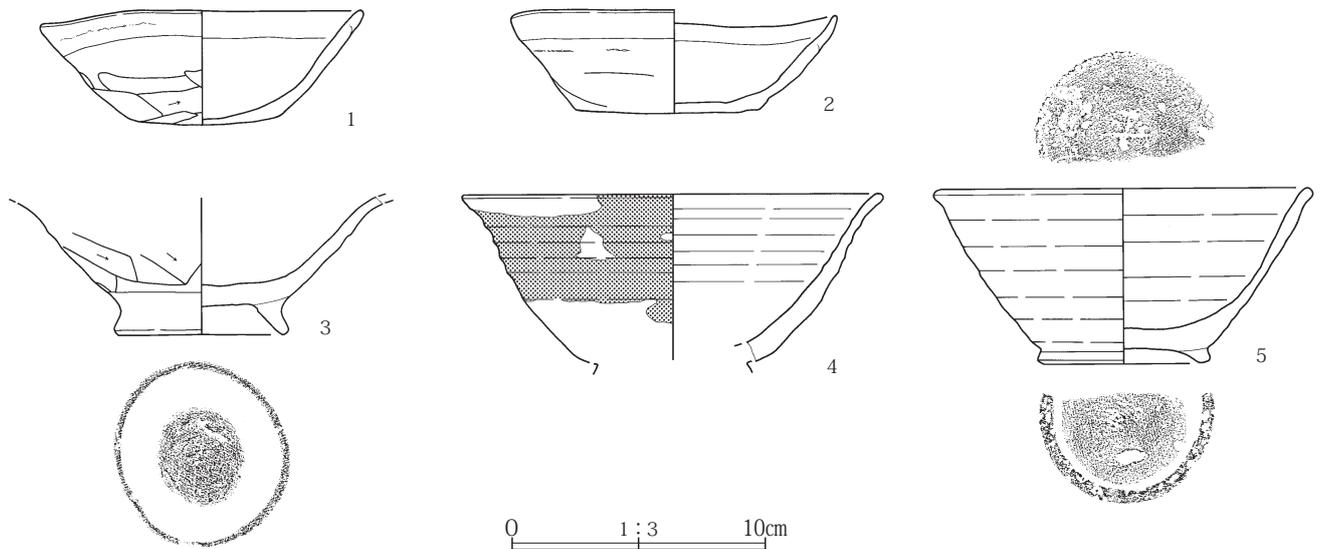
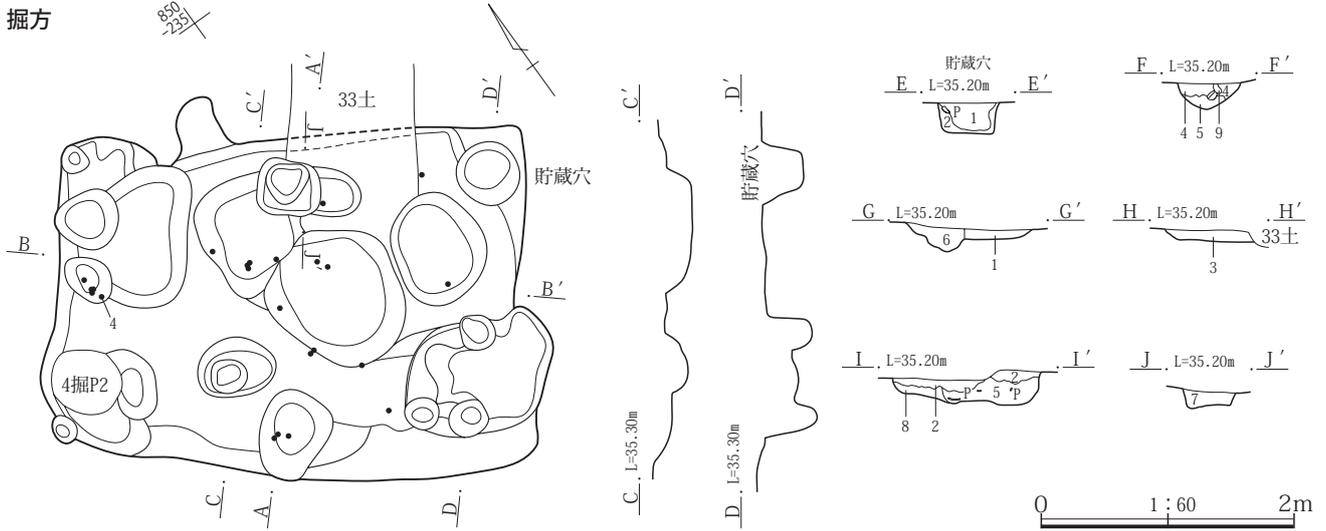
4区8号住居E

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mm口-ム粒3% 焼土粒・炭化物粒混入。
2. 1層と同質 φ1cm口-ム粒斑混。

4区8号住居F~I

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) φ1mm口-ム粒・灰白色粒3%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1mm口-ム粒5%。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1~5mm口-ム粒10%。
4. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1~2mm焼土粒5%。
5. 2層と同質 φ1~10mm焼土粒10%、一部炭化物粒混入。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1mm焼土粒15%。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mm口-ム粒3% 焼土粒混入。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mm口-ム粒混入。
9. 口-ム塊。

掘方



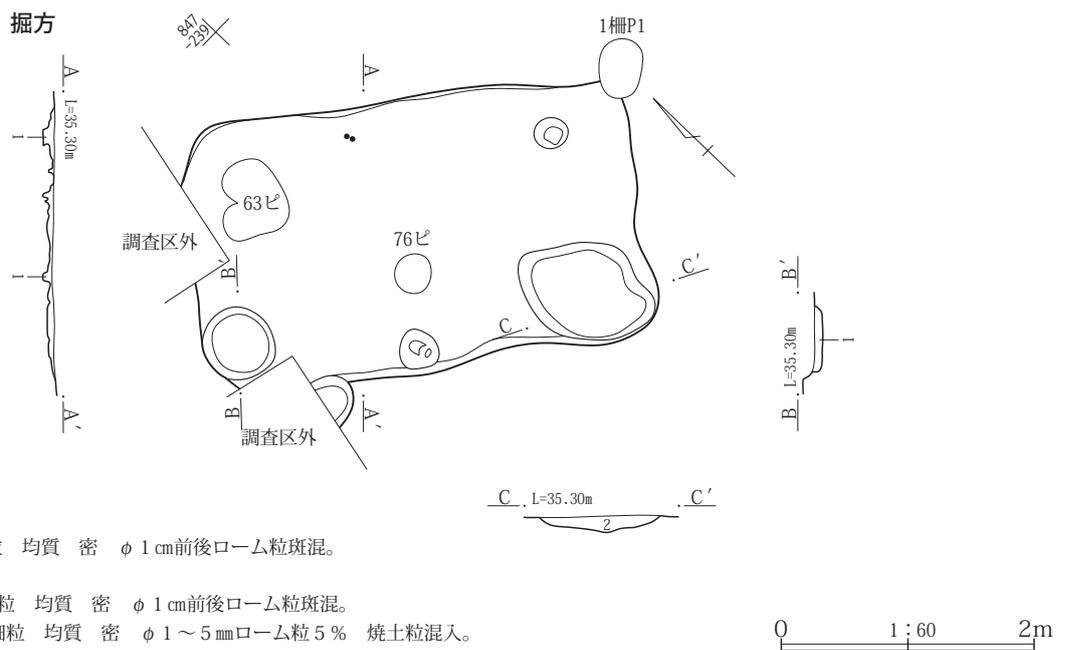
第36図 4区8号竪穴住居平断面、出土遺物

4区8号竪穴住居(第36図、P L .19・20・87)

位置 X=29845~849、Y=-40233~237。
 重複 4区4号掘立柱建物、33号土坑と重複。本遺構が33号土坑より古い。
 平面形状 方形。
 主軸方位 N-41°-E。
 規模 長軸3.90m、短軸2.80m。
 面積 8.18㎡。
 埋没土層 遺構確認面にて床面確認のため、埋没土は確認されなかった。
 床面 概ね平坦。
 竈 北西隅に設置。著しく削平され詳細不明。
 貯蔵穴 北東隅に設置。円形、径0.66m、深さ0.50m。
 柱穴 確認されなかった。
 周溝 確認されなかった。
 掘方 掘方底面より0.05~0.10mで床面となる。土坑状の窪みあり。黒褐色土主体、2層が観察された。
 遺物 土師器杯2点(1・2)・椀1点(3)、須恵器椀2点(4・5)を図示した。他に、土師器片1,617g、須恵器片78g、灰釉陶器片5g、時期不明土器片29gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。
 所見 本遺構は削平され残存状況は良好とはいえない。出土遺物(1~5)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

4区9号竪穴住居(第37図、P L .20)

位置 X=29842~846、Y=-40236~239。
 重複 4区1号柵、63・76号ピットと重複。本遺構が古い。
 平面形状 削平され掘方のみ残存。方形。
 主軸方位 N-51°-W。
 規模 長軸3.55m、短軸2.15m。
 面積 8.01㎡。
 埋没土層 掘方のみのため確認されなかった。
 床面 確認されなかった。
 竈 確認されなかった。
 貯蔵穴 確認されなかった。
 柱穴 確認されなかった。
 周溝 確認されなかった。
 掘方 遺構確認面より0~0.05mで掘方底面となる。土坑状の窪みがあるが、概ね平坦。黒褐色土・ローム主体。
 遺物 土師器片30g、須恵器片21gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。
 所見 本遺構は削平され残存状況は不良である。規模および主軸方位が隣接する4区8号竪穴住居とほぼ同じため、本遺構の時期は9世紀代と推定される。



第37図 4区9号竪穴住居掘方平面断面

第4節 掘立柱建物・柵

掘立柱建物・柵は1区から掘立柱建物10棟・柵2基、2～4区から掘立柱建物7棟・柵1基が確認された。掘立柱建物は、長軸方位などから1区の南半部を中心とするA群・B群と3・4区に散在するC群に分けられる。時代別に見ると、柵1基が時期不明の他は奈良・平安時代である。

各群のあり方を見ると、A群においては1区5号掘立柱建物が1区3・6号掘立柱建物と重複し、B群においては1区9号掘立柱建物が1区10号掘立柱建物と重複し、C群においては3区1号掘立柱建物が3区3号掘立柱建物と重複する。このことから、各群とも2段階以上の変遷が考えられるが、具体的な変遷過程については判別できなかった。

1区1号掘立柱建物(第38図、P L .21・87)

位置 X=29949～956、Y=-40964～972。

重複 1区1号柵、4号井戸、36～40・48号ピットと重複。本遺構が1号柵、4号井戸、36号ピットより古い。

平面形状 2間×3間+庇。棟柱を伴う。

長軸方位(棟方向) N-10°-E。

規模 長軸6.64m、短軸6.46m。

柱穴 13基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。P5・7に柱痕跡らしきものがある。

P1：長方形-0.87-0.53-0.40。

P2：長方形-0.80-0.63-0.58。

P3：楕円形-0.83-0.64-0.49。

P4：長方形-0.86-0.54-0.51。

P5：長方形-0.76-0.64-0.48。

P6：楕円形-0.75-0.70-0.47。

P7：長方形-0.77-0.66-0.49。

P8：長方形-0.53-(0.17)-0.41。

P9：楕円形-1.02-0.87-0.33。

P10：楕円形-0.23-0.19-0.14。

P11：楕円形-0.37-0.25-0.18。

P12：楕円形-0.45-0.25-0.24。

P13：楕円形-0.42-0.20-0.30。

P10～P13は底部分。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P1-P2：2.15。P2-P3：2.00。

P3-P4：2.10。P4-P5：2.30。

P5-P6：2.10。P6-P7：2.13。

P7-P8：4.05。P8-P9：2.42。

P9-P1：1.92。P10-P11：2.03。

P11-P12：1.98。P12-P13：2.08。

P10～P13は底部分。

遺物 P9から出土した須恵器椀1点(1)を図示した。他に、土師器片458g、須恵器片251g、不明土器片4gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区2号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区3～6号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(以下、A群とする)はほぼ同時期と推定される。出土遺物(1)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

1区2号掘立柱建物(第39図、P L .21)

位置 X=29958～966、Y=-40973～976。

重複 1区3・4号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側が調査区外に延びる。1間以上×2間。

長軸方位(棟方向) N-12°-E。西側が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(3.80)m、短軸3.80m。

柱穴 4基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P1：不整形-0.90以上-0.50以上-0.29。

P2：楕円形-1.22-0.64-0.31。

P3：不整形-(0.80)-0.67-0.36。

P4：長方形-1.08-0.84-0.38。

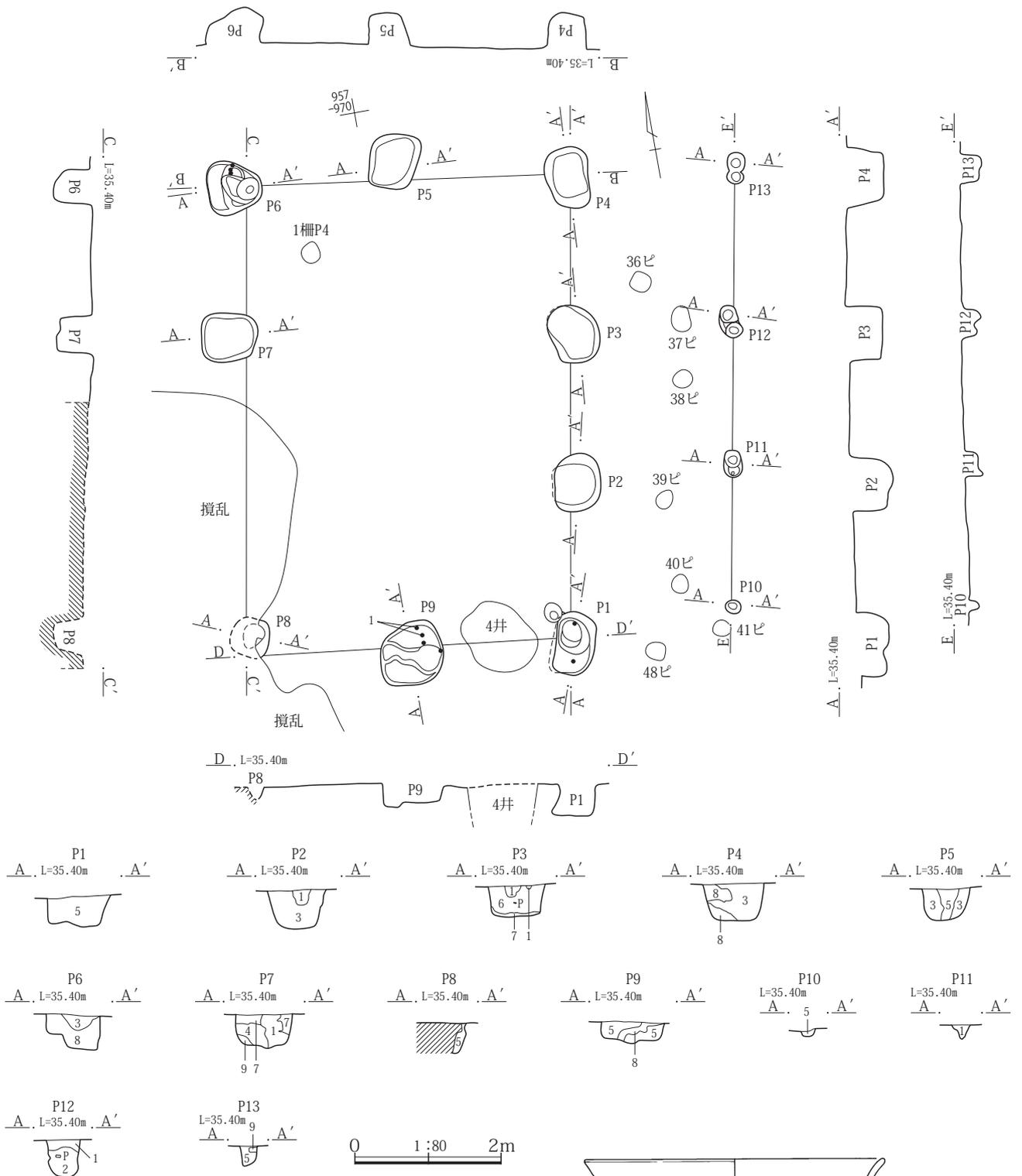
柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P1-P2：3.62。P2-P3：1.93。

P3-P4：1.90。

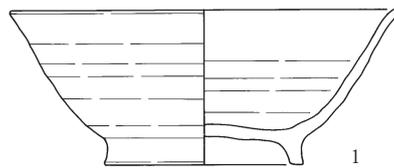
遺物 なし。

所見 本遺構の長軸方位は1区1号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区3～6号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(A群)はほ



1区1号掘立柱建物

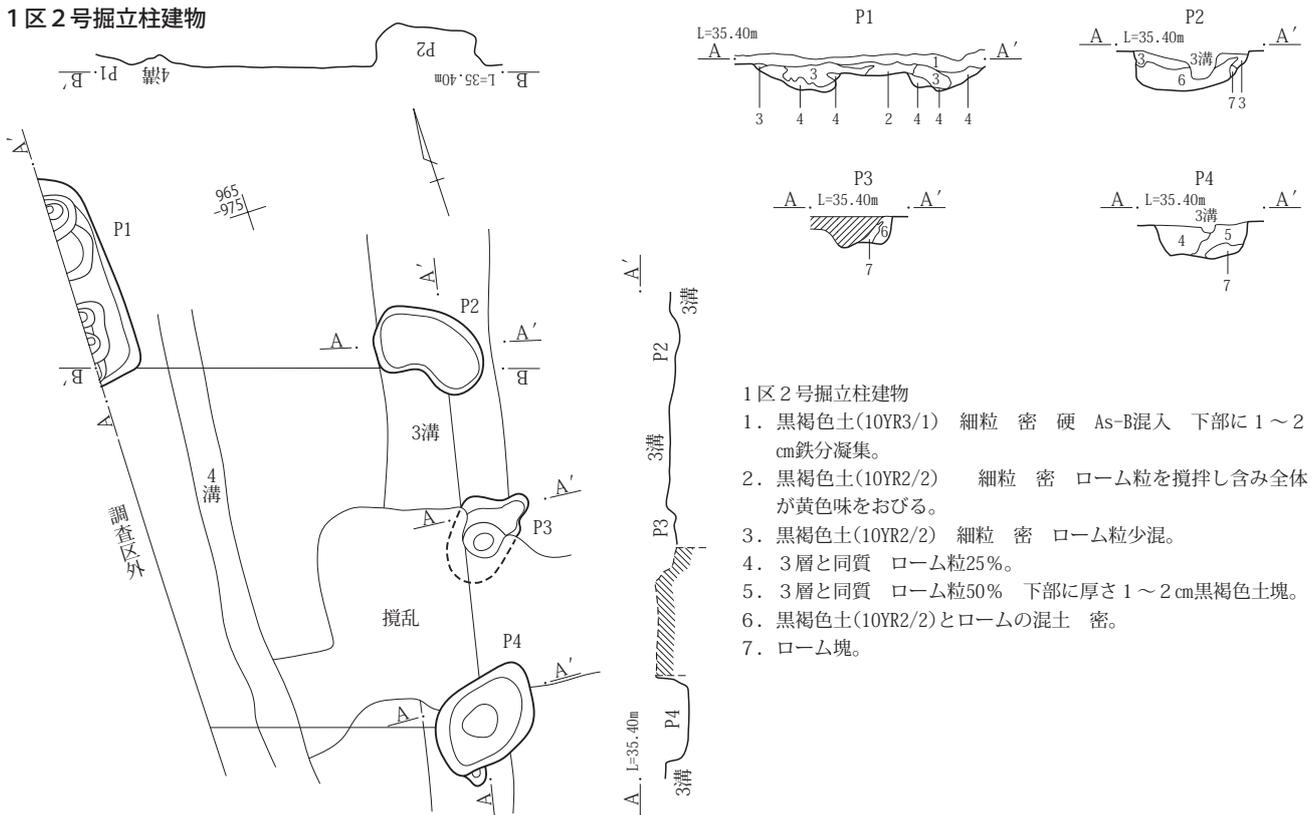
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム粒5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 密 ローム粒20%。
3. 黒色土(10YR2/1) 弾力に富む細粒。
4. 黒色土(10YR2/1) 細粒 密 粘性あり。
5. 4層と同質 ローム粒 焼土粒少混。
6. 4層と同質 φ1~2cmローム塊がレンズ状に混入。
7. 黒色土(10YR2/1)とロームの斑混土。
8. 黒色土(10YR2/1)とロームの縞状混土 密。
9. ローム塊。



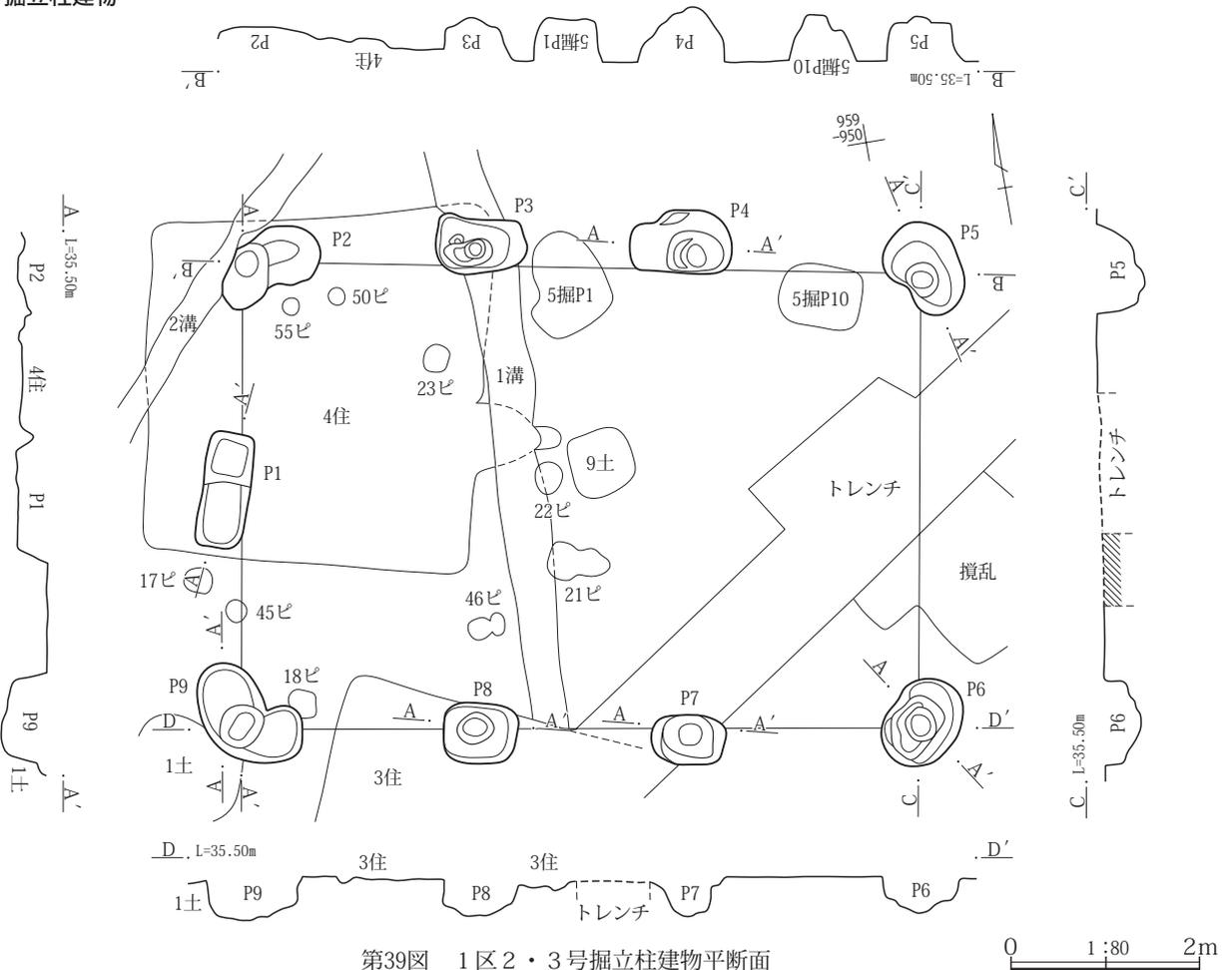
0 1:3 10cm

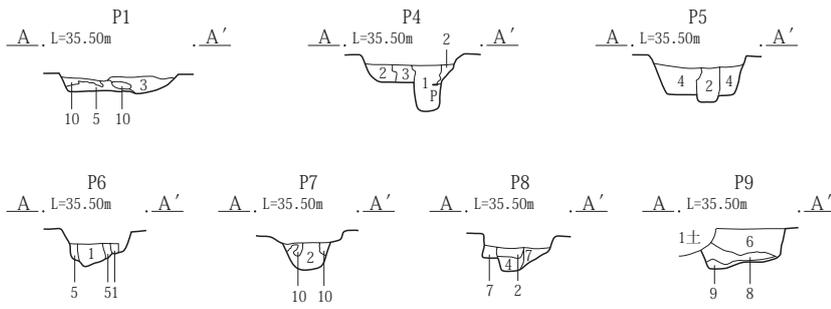
第38図 1区1号掘立柱建物平断面、出土遺物

1区2号掘立柱建物



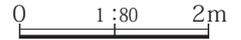
1区3号掘立柱建物





- 1区3号掘立柱建物
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 ローム粒3%。
 3. 1層と同質 ローム粒10%。
 4. 1層と同質 ローム粒30%。
 5. 1層と同質 ローム粒斑混。
 6. 1層と同質 ロームの縞状混。
 7. 黄橙色土(10YR7/6) 黒褐色土少混。
 8. 褐色土(10YR4/6) 密 硬 ローム粒斑混。
 9. 褐色土(10YR4/4) 粘性に富む。
 10. ローム塊。

第40図 1区3号掘立柱建物断面



ほぼ同時期と推定される。A群の他の掘立柱建物の時期から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

1区3号掘立柱建物(第39・40図、P L .22)

位置 X=29952~958、Y=-40949~957。

重複 1区3・4号竪穴住居、5号掘立柱建物、1号溝、1・9号土坑、18・21~23・45・46・50・55号ピットと重複。本遺構が3・4号竪穴住居、1号土坑、18号ピットより古い。

平面形状 2間×3間。東側の棟柱を欠く。

長軸方位(棟方向) N-79°-W。

規模 長軸7.15m、短軸4.98m。

柱穴 9基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。P 4~6・8に柱痕跡らしきものがある。

P 1：長方形-1.02-0.50-0.20。

P 2：不整形-0.72-0.42-0.14。

P 3：長方形-0.95-0.55-0.52。

P 4：楕円形-1.08-0.64-0.60。

P 5：楕円形-1.00-0.63-0.51。

P 6：楕円形-0.99-0.73-0.37。

P 7：長方形-0.90-0.53-0.43。

P 8：長方形-0.77-0.65-0.37。

P 9：不整形-1.16-0.65-0.58。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P 1-P 2：2.40。P 2-P 3：2.40。

P 3-P 4：2.34。P 4-P 5：2.40。

P 5-P 6：4.72。P 6-P 7：2.45。

P 7-P 8：2.27。P 8-P 9：2.46。

P 9-P 1：2.53。

遺物 土師器片10g、須恵器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区4~6号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区1・2号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(A群)はほぼ同時期と推定される。A群の他の掘立柱建物の時期から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

1区4号掘立柱建物(第41図、P L .22)

位置 X=29960~966、Y=-40956~966。

重複 1区1号方形周溝墓、6号井戸、57号ピットと重複。本遺構が6号井戸より古く、1号方形周溝墓より新しい。

平面形状 2間×3間。棟柱を伴い、西寄りの1箇所に束柱を持つ。

長軸方位(棟方向) N-73°-W。

規模 長軸9.07m、短軸4.04m。

柱穴 11基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。P 1・3・5・10に柱痕跡らしきものがある。

P 1：楕円形-0.90-0.61-0.76。

P 2：楕円形-0.83-0.63-0.40。

P 3：楕円形-0.68-0.56-0.55。

P 4：楕円形-0.96-(0.40)-0.57。

P 5：楕円形-0.80-0.60-0.68。

P 6：楕円形-0.78-0.60-0.45。

P 7：楕円形-1.13-0.72-0.30。

P 8：楕円形-0.80-0.64-0.67。

P 9：楕円形-1.18-0.78-0.73。

P 10：楕円形-1.10-0.63-0.63。

P 11：楕円形-0.80-0.66-0.53。

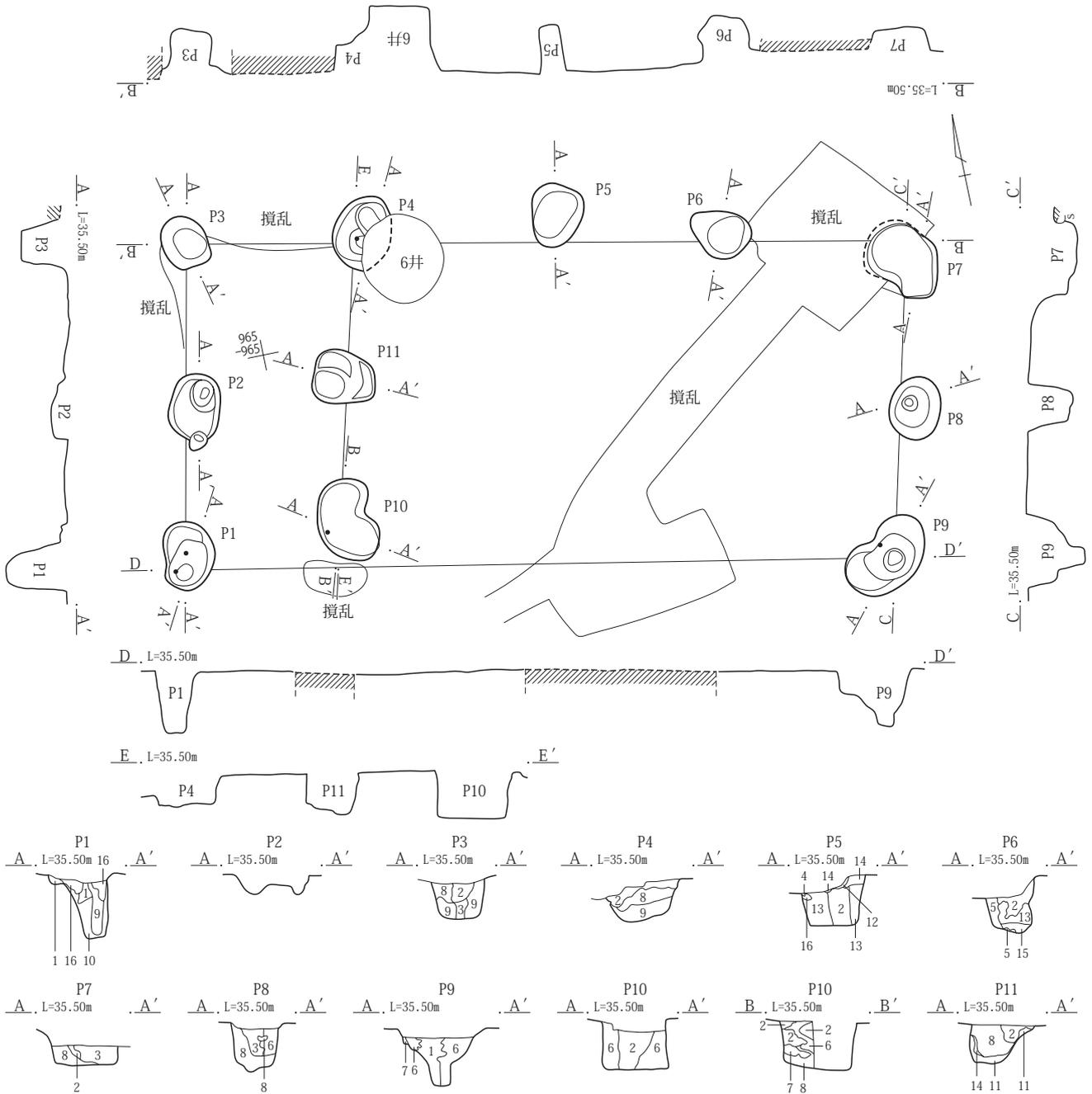
第3章 確認された遺構と遺物

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名:距離(単位m))。

- P 1 - P 2 : 2.30, P 2 - P 3 : 1.88,
- P 3 - P 4 : 2.32, P 4 - P 5 : 2.40,
- P 5 - P 6 : 2.22, P 6 - P 7 : 2.30,

- P 7 - P 8 : 2.06, P 8 - P 9 : 2.02,
- P 9 - P 10 : 7.10, P 10 - P 11 : 1.90,
- P 10 - P 1 : 2.20, P 11 - P 4 : 2.23,

遺物 土師器片238g、須恵器片37g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。



1区4号掘立柱建物

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 黒色土(10YR2/1)。 2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム粒少混。 3. しまりのない2層。 4. 2層と同質 ローム粒5%。 5. 2層と同質 ローム粒10%。 6. 2層と同質 ローム粒20%。 7. 2層と同質 ローム粒25%。 8. 2層と同質 ローム粒40%。 | <ul style="list-style-type: none"> 9. 暗褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 下位やや粗 ローム粒10%。 10. 9層とローム粒の混土。 11. 暗褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 鉄分凝集。 12. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 密 硬。 13. 12層と同質 ローム粒30%。 14. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 密 ローム粒10%。 15. 14層と同質 ローム粒25%。 16. ローム塊。 |
|--|--|

第41図 1区4号掘立柱建物平断面

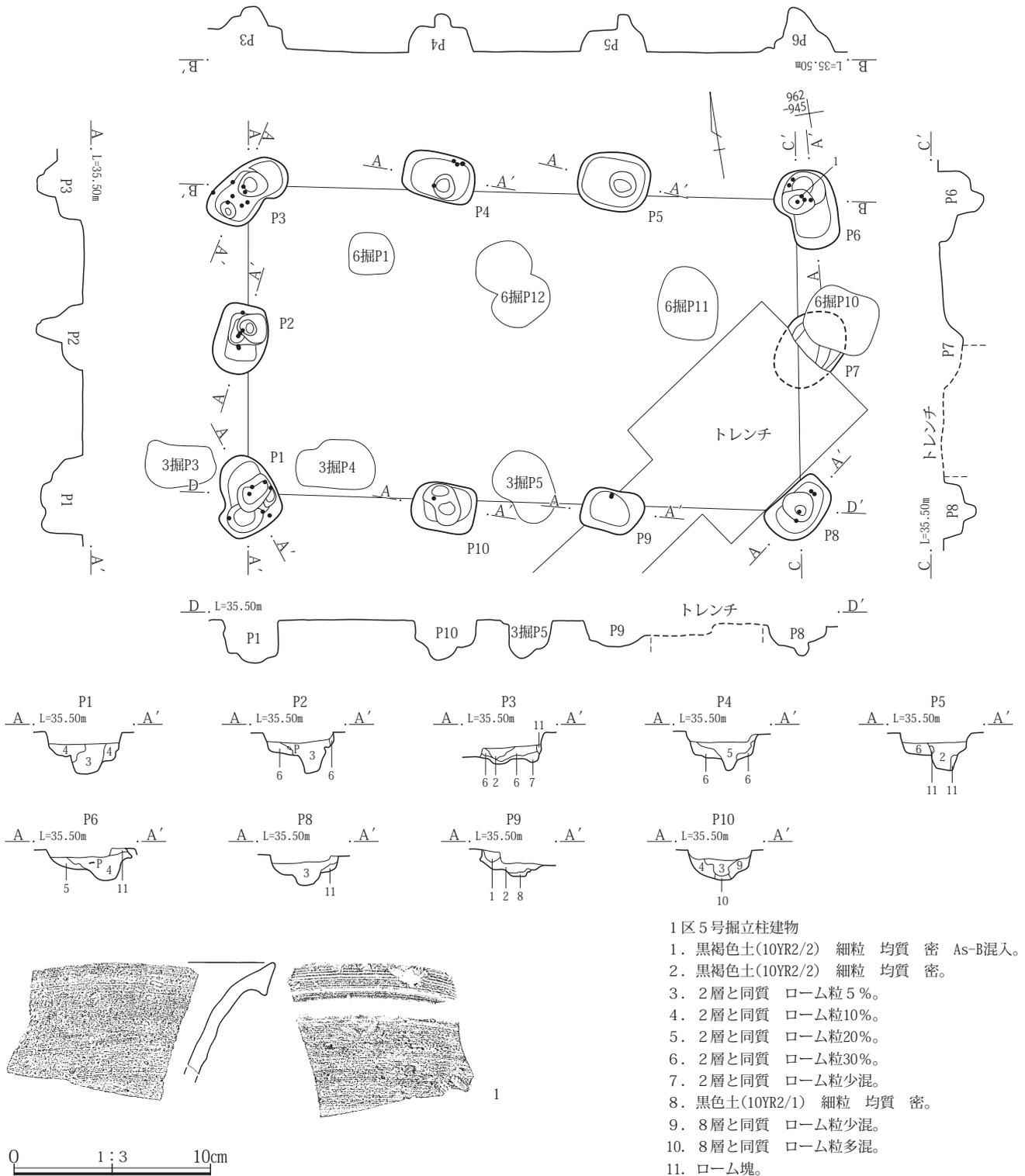
0 1:80 2m

所見 本遺構の西端は納戸様の構造と考えられる。本遺構の長軸方位は1区3・5・6号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区1・2号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(A群)はほぼ同時期と推定される。A群の他の掘立柱建物の時期から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

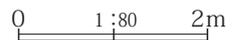
1区5号掘立柱建物(第42図、P L.22)

位置 X=29956~962、Y=-40944~953。

重複 1区1号方形周溝墓、3・6号掘立柱建物と重複。
本遺構が6号掘立柱建物より古く、1号方形周溝墓より新しい。



第42図 1区5号掘立柱建物平断面、出土遺物



平面形状 2間×3間。棟柱を伴う。

長軸方位(棟方向) N-79°-W。

規模 長軸7.42m、短軸4.20m。

柱穴 10基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。P1・2・4・5・10に柱痕跡らしきものがある。

P1：楕円形-1.03-0.87-0.58。

P2：長方形-0.97-0.70-0.63。

P3：楕円形-1.16-0.57-0.62。

P4：長方形-0.98-0.64-0.53。

P5：長方形-0.97-0.80-0.53。

P6：楕円形-1.10-0.64-0.61。

P7：不整形-(0.30)-0.83-0.29。

P8：長方形-0.92-0.60-0.43。

P9：長方形-0.80-0.56-0.35。

P10：長方形-0.87-0.66-0.48。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P1-P2：2.28。P2-P3：1.98。

P3-P4：2.52。P4-P5：2.42。

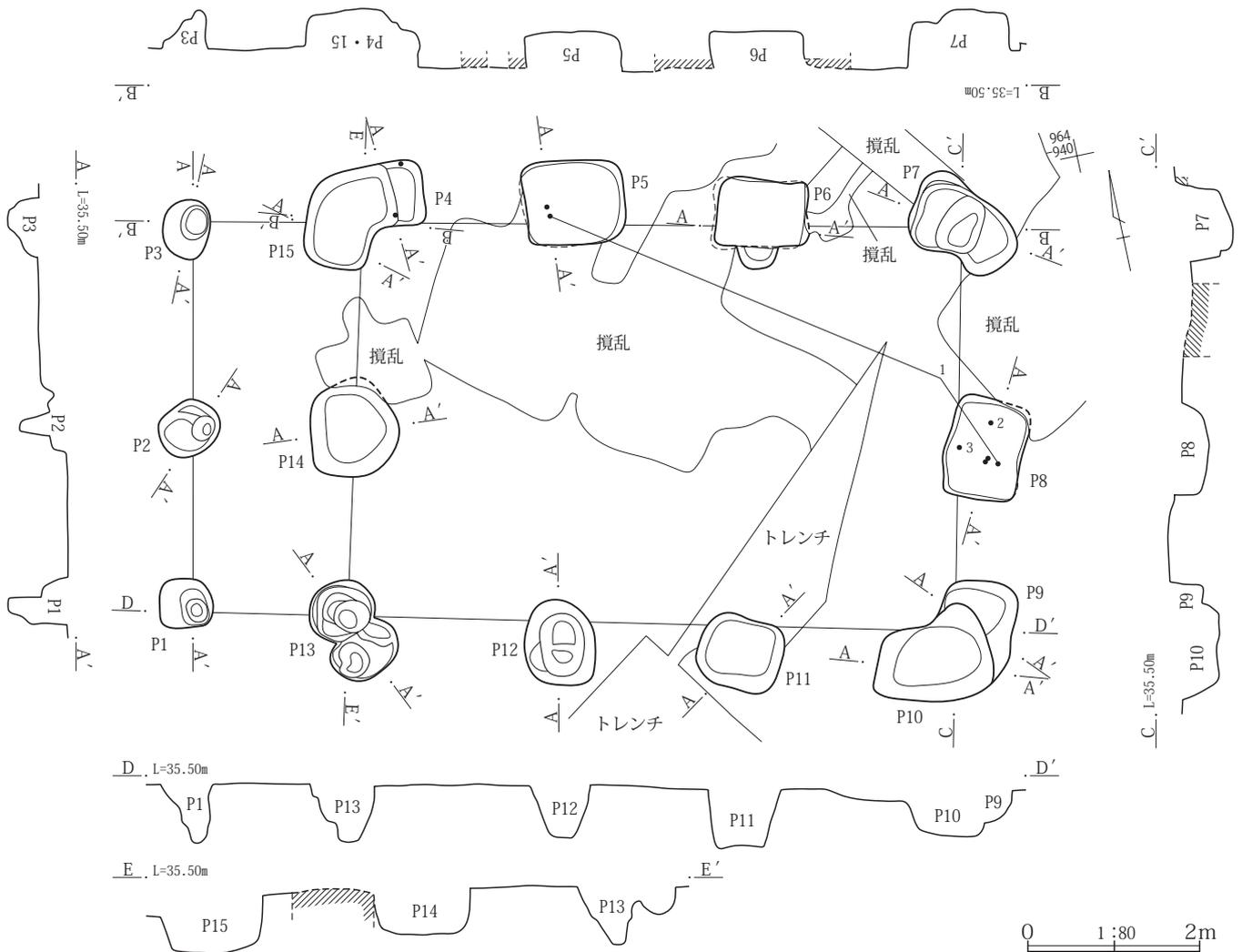
P5-P6：2.38。P6-P7：1.98。

P7-P8：2.24。P8-P9：2.44。

P9-P10：2.37。P10-P1：2.60。

遺物 P6から出土した須恵器甕1点(1)を図示した。他に、土師器片726g、須恵器片243g、不明土器片26g、灰釉陶器片12gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区3・4・6号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区1・2号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(A群)はほぼ同時期と推定される。出土遺物(1)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。



第43図 1区6号掘立柱建物平面断面

1区6号掘立柱建物(第43・44図、P L.22・23・87)

位置 X=29958~965、Y=-40941~951。

重複 1区1・2号方形周溝墓、5号掘立柱建物と重複。
本遺構が新しい。

平面形状 2間×3間。棟柱を伴い、西寄りの1箇所に
束柱を持つ。

長軸方位(棟方向) N-77°-W。

規模 長軸8.90m、短軸4.68m。

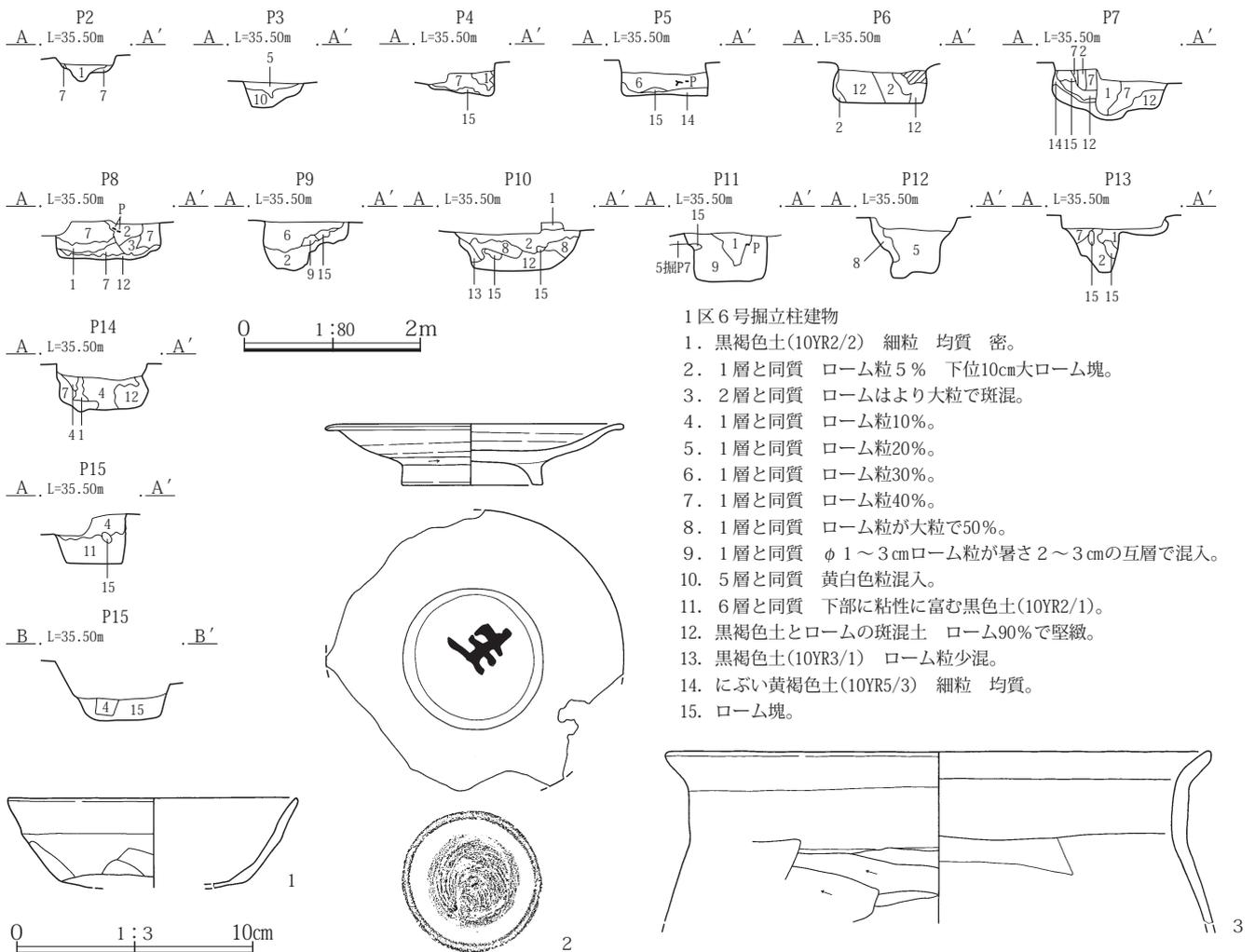
柱穴 15基が確認された。形状および規模は以下のと
おり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

- P 1：方形-(一辺0.60)-0.69。
- P 2：楕円形-0.70-0.62-0.54。
- P 3：楕円形-0.69-0.55-0.47。
- P 4：不整形-0.77-0.56-0.40。
- P 5：長方形-1.14-0.98-0.41。
- P 6：長方形-1.06-0.77-0.45。

- P 7：長方形-1.30-0.74-0.69。
- P 8：長方形-1.17-0.90-0.48。
- P 9：不整形-0.83-0.52-0.40。
- P 10：不整形-1.31-0.82-0.55。
- P 11：長方形-0.97-0.82-0.68。
- P 12：楕円形-1.00-0.81-0.69。
- P 13：不整形-1.18-0.52-0.46。
- P 14：楕円形-1.10-1.00-0.55。
- P 15：不整形-1.20-0.77-0.68。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離
(単位m))。

- P 1-P 2：2.14。P 2-P 3：2.38。
- P 3-P 4・15：2.00。P 4・15-P 5：2.48。
- P 5-P 6：2.21。P 6-P 7：2.25。
- P 7-P 8：2.55。P 8-P 9・10：2.07。
- P 9・10-P 11：2.35。P 11-P 12：2.18。



1区6号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ローム粒5% 下位10cm大ローム塊。
3. 2層と同質 ロームはより大粒で斑混。
4. 1層と同質 ローム粒10%。
5. 1層と同質 ローム粒20%。
6. 1層と同質 ローム粒30%。
7. 1層と同質 ローム粒40%。
8. 1層と同質 ローム粒が大粒で50%。
9. 1層と同質 φ1~3cmローム粒が暑さ2~3cmの互層で混入。
10. 5層と同質 黄白色粒混入。
11. 6層と同質 下部に粘性に富む黒色土(10YR2/1)。
12. 黒褐色土とロームの斑混土 ローム90%で堅緻。
13. 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒少混。
14. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒 均質。
15. ローム塊。

第44図 1区6号掘立柱建物断面、出土遺物

P12-P13 : 2.38. P13-P14 : 2.20.

P14-P4・15 : 2.36. P13-P1 : 1.86.

遺物 P6から出土した土師器杯1点(1)・甕1点(3)、P8から出土した須恵器皿1点(2)を図示した。P8から出土した皿(2)は、底部に「主」と読める墨書がある。他に、土師器片266g、須恵器片92gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の西端は納戸様の構造と考えられる。本遺構の長軸方位は1区3～5号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区1・2号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(A群)はほぼ同時期と推定される。出土遺物(1～3)から、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

1区7号掘立柱建物(第45図、P L .23)

位置 X=29948~951, Y=-40957~961.

重複 1区2・3号竪穴住居と重複。本遺構が2号竪穴住居より古く、3号竪穴住居より新しい。

平面形状 南側が調査区外に延びる。1間以上×2間。

長軸方位(棟方向) N-84°-W。南側が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸3.66m、短軸(2.20)m。

柱穴 5基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P1 : 長方形-(0.94)-0.50-0.39。

P2 : 楕円形-0.50-0.42-0.33。

P3 : 不整形-0.56-0.37-0.09。

P4 : 楕円形-0.37-0.30-0.31。

P5 : 不整形-0.50-0.34-0.28。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P1-P2 : 1.88. P2-P3 : 1.87。

P3-P4 : 1.79. P4-P5 : 2.20。

遺物 土師器片109gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区8・10号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区9号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(以下、B群とする)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)とB群の埋没土が類似し、かつ両群の掘立柱建物が重複しないことから、A群に近く9世紀代と推定される。

1区8号掘立柱建物(第46図、P L .24)

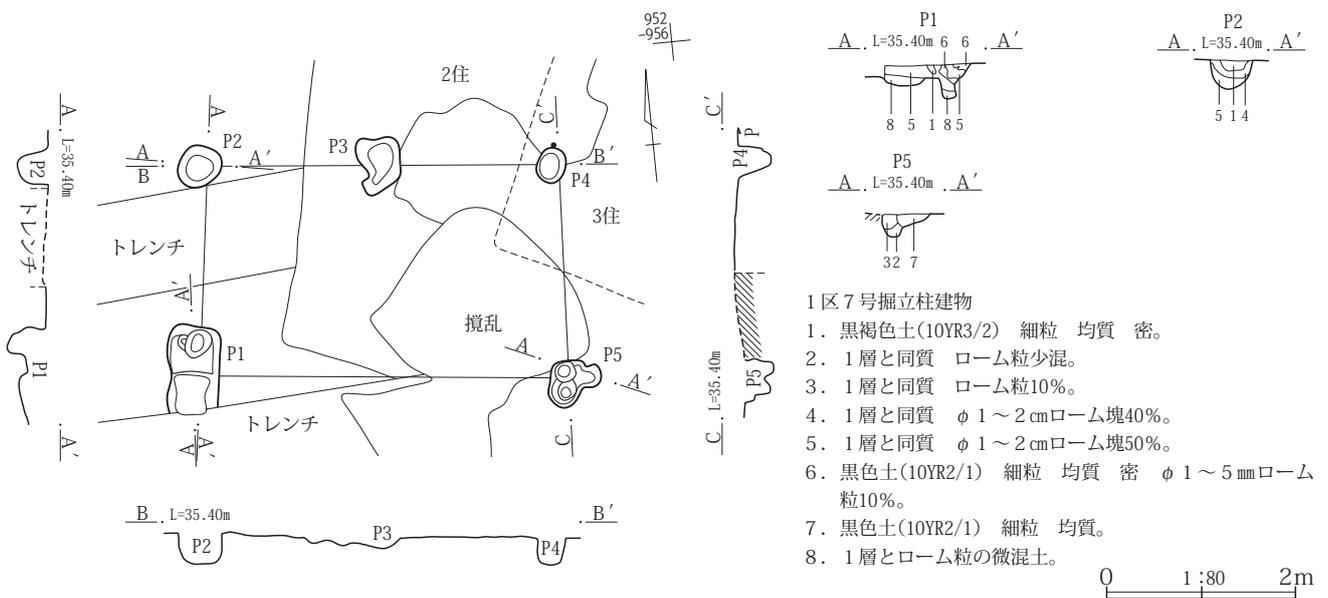
位置 X=29947~951, Y=-40938~945.

重複 1区8号溝、9号井戸、29号土坑、62号ピットと重複。本遺構が8号溝、9号井戸より古い。

平面形状 2間×3間。棟柱を伴う。

長軸方位(棟方向) N-81°-W。

規模 長軸6.52m、短軸3.83m。



第45図 1区7号掘立柱建物平断面

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

- P 1：方形—辺0.34—0.13。
- P 2：楕円形—0.65—0.45—0.24。
- P 3：楕円形—0.42—0.37—0.32。
- P 4：楕円形—0.52—0.40—0.32。
- P 5：長方形—0.47—0.40—0.15。
- P 6：長方形—0.48—0.40—0.39。
- P 7：楕円形—0.47—0.43—0.35。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

- P 1—P 2：2.40。P 2—P 3：1.82。
- P 3—P 4：1.95。P 4—P 5：2.32。
- P 5—P 6：2.18。P 6—P 7：2.04。

遺物 土師器片 5 g が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区7・10号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区9号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(B群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群とB群の埋没土が類似し、かつ両群の掘立柱建物が重複しないことから、A群に近く9世紀代と推定される。

1区9号掘立柱建物(第47図、P L .24)

位置 X = 29944~951、Y = -40930~934。

重複 1区10号掘立柱建物、63・64号ピットと重複。

平面形状 2間×3間。棟柱を伴う。

長軸方位(棟方向) N—4°—E。

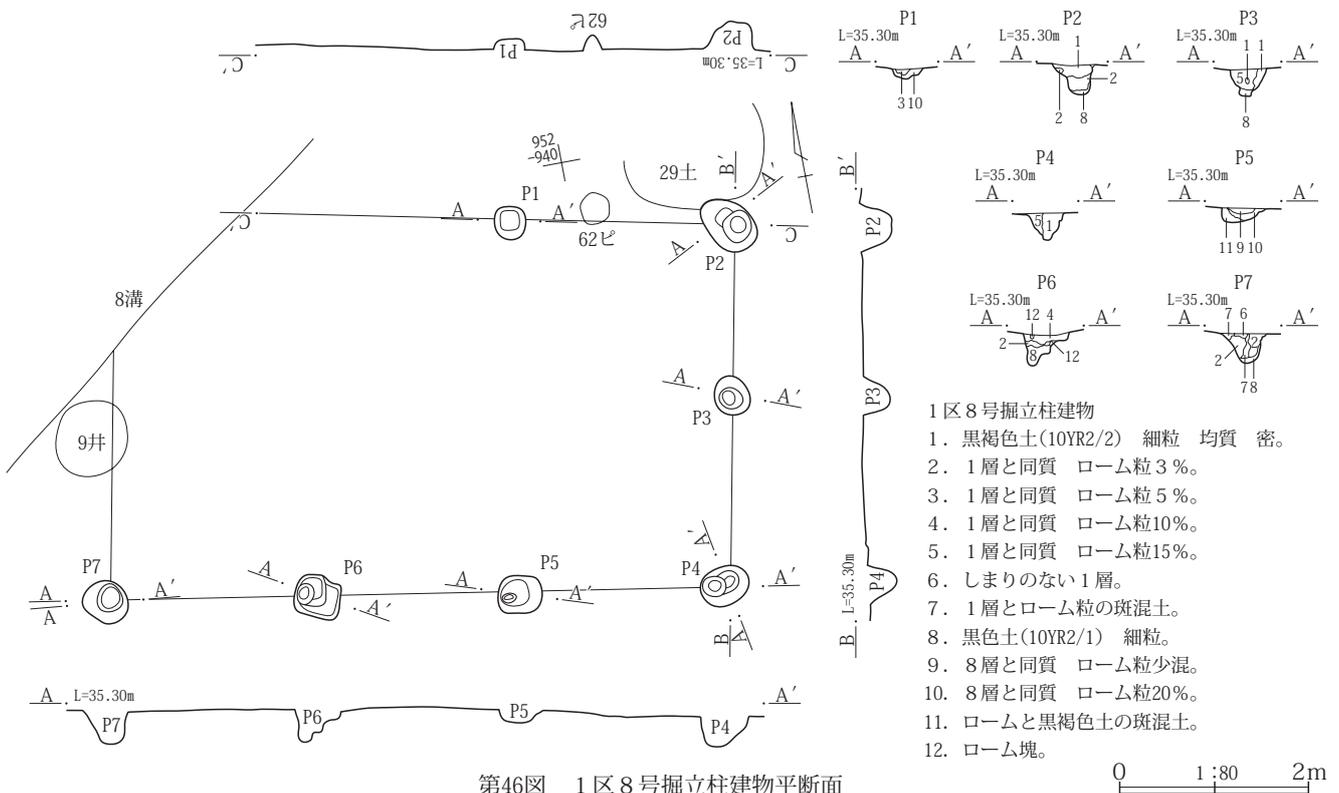
規模 長軸5.92m、短軸3.87m。

柱穴 10基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

- P 1：楕円形—0.37—0.30—0.18。
- P 2：楕円形—0.43—0.36—0.17。
- P 3：楕円形—0.39—0.31—0.23。
- P 4：方形—辺0.34—0.19。
- P 5：楕円形—0.43—0.37—0.36。
- P 6：楕円形—0.37—0.34—0.15。
- P 7：楕円形—0.51—0.48—0.28。
- P 8：楕円形—0.32—0.28—0.33。
- P 9：楕円形—0.38—0.24—0.19。
- P 10：方形—辺0.38—0.15。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

- P 1—P 2：1.88。P 2—P 3：2.00。
- P 3—P 4：1.87。P 4—P 5：1.91。



P 5 - P 6 : 2.03. P 6 - P 7 : 1.86.

P 7 - P 8・9 : 1.80. P 8・9 - P10 : 2.10.

遺物 土師器片21g、須恵器片92gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区7・8・10号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(B群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群とB群の埋没土が類似し、かつ両群の掘立柱建物が重複しないことから、A群に近く9世紀代と推定される。

1区10号掘立柱建物(第48図、P L.24)

位置 X=29944~946、Y=-40931~937.

重複 1区9号掘立柱建物と重複。

平面形状 南側が調査区外に延びる。1間以上×3間。

長軸方位(棟方向) N-82°-W。南側が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸5.40m、短軸(1.90)m。

柱穴 5基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1 : 楕円形-0.40-0.28-0.43。

P 2 : 楕円形-0.50-0.43-0.33。

P 3 : 長方形-0.40-0.35-0.33。

P 4 : 方形-一辺0.38-0.32。

P 5 : 楕円形-0.32-0.30-0.20。

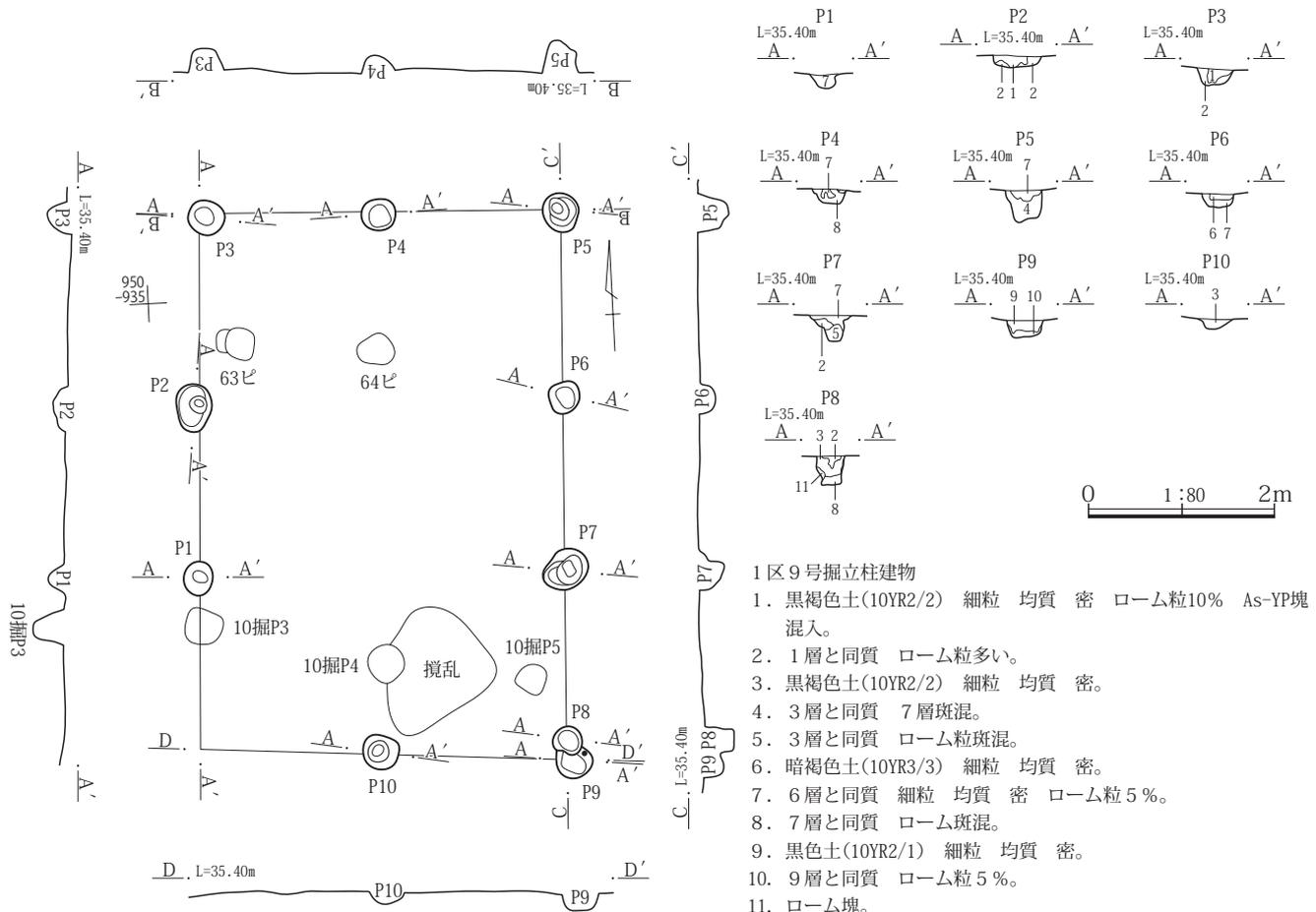
柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P 1 - P 2 : 1.68. P 2 - P 3 : 1.83。

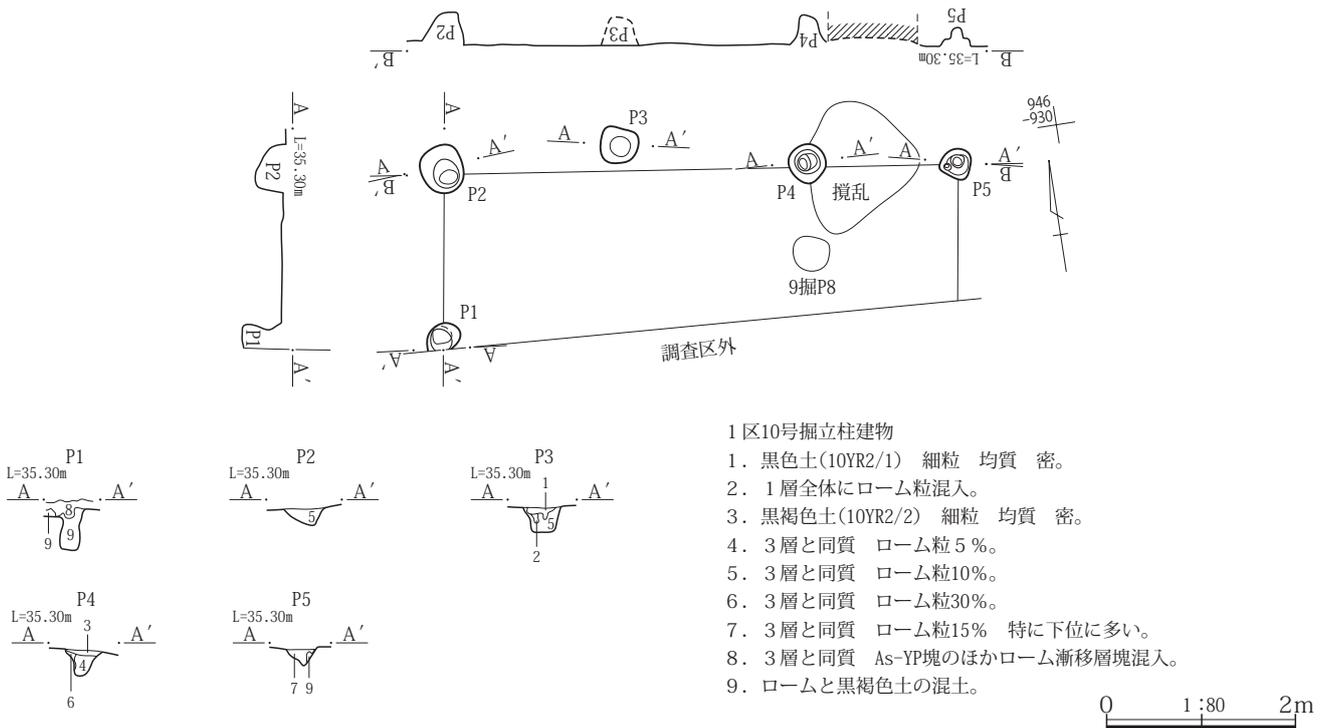
P 3 - P 4 : 1.90. P 4 - P 5 : 1.67。

遺物 なし。

所見 本遺構の長軸方位は1区7・8号掘立柱建物とほぼ同じであり、1区9号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(B群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群とB群の埋没土が類似し、かつ両群の掘立柱建物が重複しないことから、A群に近く9世紀代と推定される。



第47図 1区9号掘立柱建物平面断面



第48図 1区10号掘立柱建物平断面

3区1号掘立柱建物(第49図、P L .24)

位置 X=29854~860、Y=-40249~256。

重複 3区3号掘立柱建物、1・2・3号溝、2・3・9・10号土坑と重複。本遺構が1・3号溝、2・9・10号土坑より古い。

平面形状 北側が調査区外に延びる。1間×3間以上。

長軸方位(棟方向) N-51°-E。北側が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(5.20)m、短軸4.07m。

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

- P 1：長方形-0.72-0.60-0.63。
- P 2：長方形-0.76-0.55-0.57。
- P 3：長方形-0.65-0.42-0.34。
- P 4：楕円形-0.73-0.57-0.53。
- P 5：長方形-0.75-0.65-0.30。
- P 6：不整形-1.35-1.03-0.73。
- P 7：不整形-0.90-0.74-0.68。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

- P 1-P 2：1.65。P 2-P 3：1.69。
- P 4-P 5：1.76。P 5-P 6：1.58。

P 6-P 7：1.54。P 7-P 1：4.11。

遺物 土師器片388g、須恵器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は3区3号掘立柱建物、4区4号掘立柱建物とほぼ同じであり、3区2号掘立柱建物、4区1号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(以下、C群とする)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)・B群(1区7号掘立柱建物など)とC群の規模および埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

3区2号掘立柱建物(第50図、P L .25)

位置 X=29850~854、Y=-40259~263。

重複 3区7号ピットと重複。本遺構が古い。

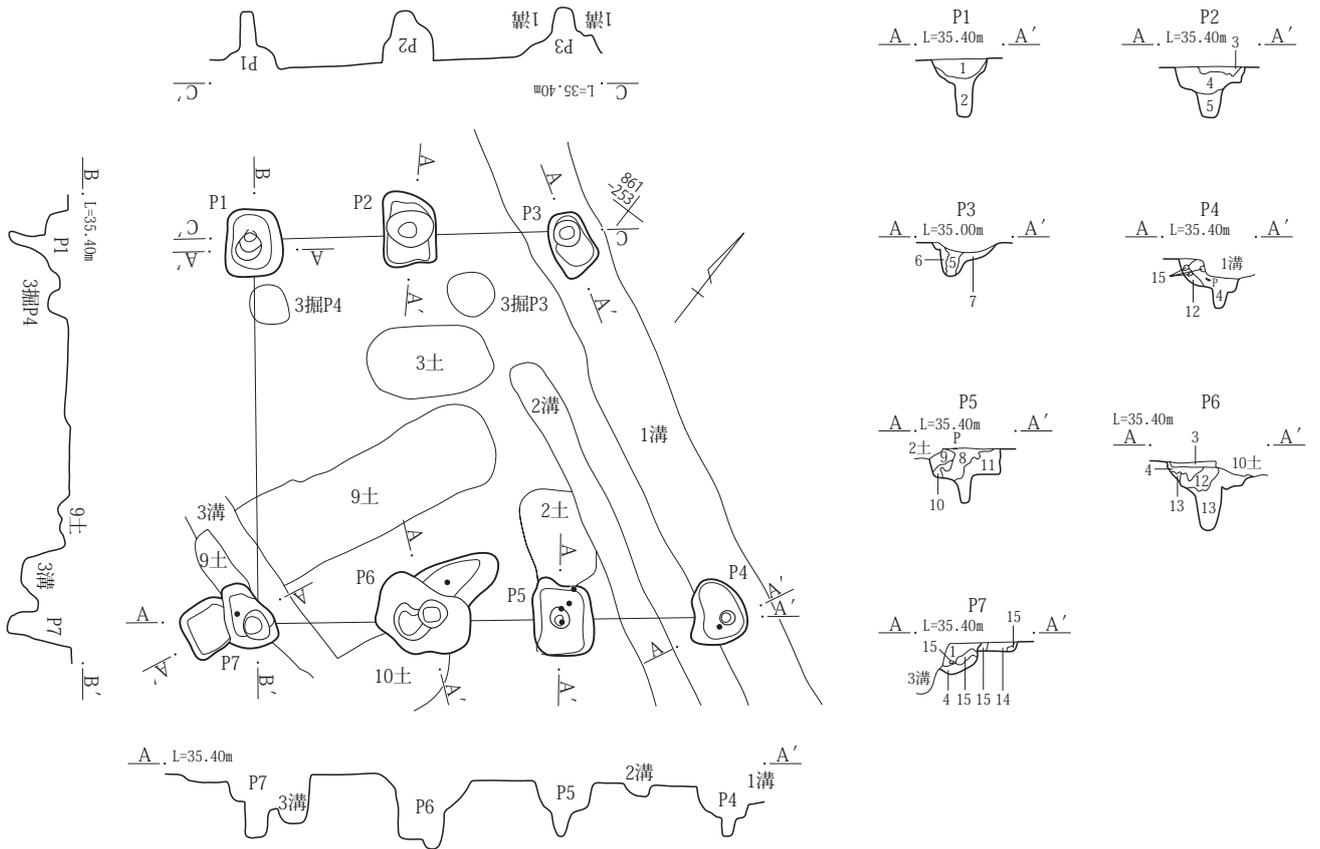
平面形状 1間以上×1間以上。

長軸方位(棟方向) N-46°-W。

規模 長軸(3.75)m、短軸(2.93)m。

柱穴 3基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

- P 1：楕円形-0.65-0.52-0.43。
- P 2：方形-一辺0.59-0.62。



3区1号掘立柱建物

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 灰白色砂混入。 2. 1層と同質 ローム塊斑混。 3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 ローム粒5%。 4. 3層と同質 ローム粒10%。 5. 3層と同質 ローム粒20%。 6. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質。 7. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ローム粒5%。 8. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 φ1~2mmローム粒30%。 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 8層と同質 ローム塊斑混。 10. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム粒・ローム塊3%。 11. 10層と同質 ローム粒10%。 12. 黄橙色土(10YR7/8) 細粒 均質 密 ローム粒30%。 13. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 細粒 均質 ローム粒30% As-YP塊混入。 14. にぶい黄褐色土(10YR5/3)と黄褐色土の混土。 15. ローム塊。 |
|---|---|

0 1:80 2m

第49図 3区1号掘立柱建物平断面

P3：楕円形-0.55-0.53-0.34。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P1-P2：3.24。 P3-P1：2.35。

遺物 土師器片144gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器高環1点(外11)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 本遺構の長軸方位は4区1号掘立柱建物とほぼ同じであり、3区1・3号掘立柱建物、4区4号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(C群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)・B群(1

区7号掘立柱建物など)とC群の規模および埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

3区3号掘立柱建物(第50図、P L.24)

位置 X=29856~861、Y=-40253~259。

重複 3区1号掘立柱建物、1・3号溝、1号井戸と重複。本遺構が1・3号溝、1号井戸より古い。

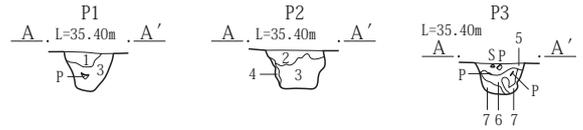
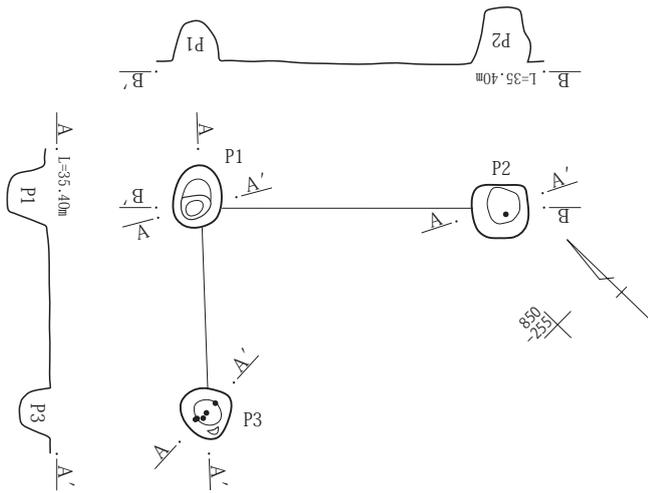
平面形状 1間×2間。

長軸方位(棟方向) N-49°-E。

規模 長軸(4.66)m、短軸(2.78)m。

柱穴 3基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

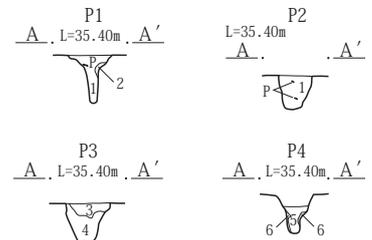
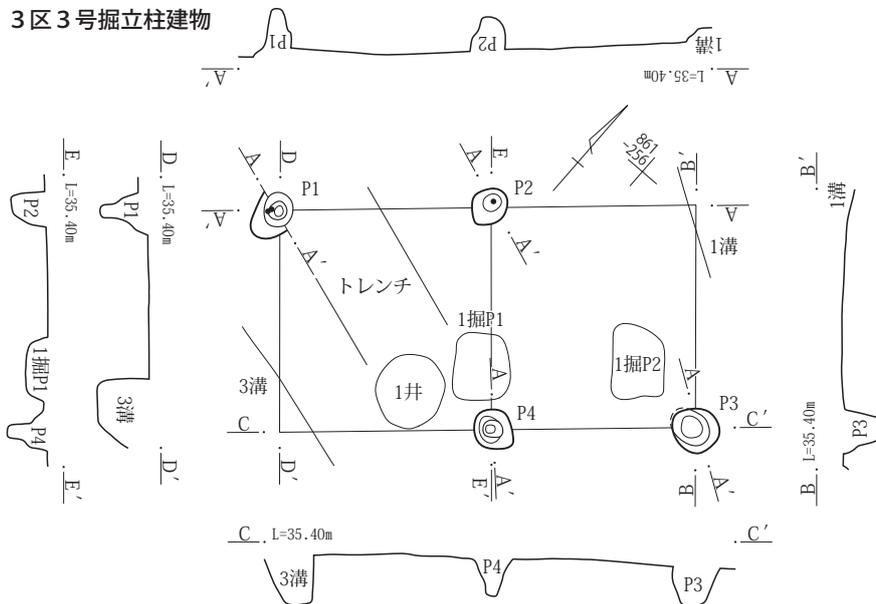
3区2号掘立柱建物



3区2号掘立柱建物

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ローム粒3%。
2. 1層と同質 φ1mmローム粒・灰白色粒・焼土粒混入。
3. 1層と同質 ローム粒15%。
4. 1層と同質 ローム粒20%。
5. 褐色土(10YR4/4)。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒3%。
7. 6層と同質 ローム粒10%。

3区3号掘立柱建物



3区3号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ1~2mmローム粒10%。
3. 1層と同質 φ1~2cm As-YP塊3%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
5. 4層と同質 φ1mmローム粒2%。
6. 黄褐色土(10YR5/6) 細粒 均質 密。

第50図 3区2・3号掘立柱建物平断面

- P 1 : 楕円形-0.37-0.31-0.52。
- P 2 : 楕円形-0.44-0.39-0.35。
- P 3 : 楕円形-0.50-0.48-0.42。
- P 4 : 方形-一辺0.43-0.42。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名:距離(単位m))。

- P 1 - P 2 : 2.21。 P 3 - P 4 : 2.10。
- P 4 - P 2 : 2.41。

遺物 土師器片68gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は3区1号掘立柱建物、4区4号掘立柱建物とほぼ同じであり、3区2号掘立柱建物、

4区1号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(C群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)・B群(1区7号掘立柱建物など)とC群の規模および埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

4区1号掘立柱建物(第51図、P L .25)

位置 X=29854~858、Y=-40176~180。

重複 4区46号ピットと重複。

平面形状 1間×2間。

長軸方位(棟方向) N-52°-W。

規模 長軸3.13m、短軸2.80m。

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。P

1・4・7に柱痕跡らしきものがある。

P 1：方形—一辺0.37—0.37。

P 2：方形—一辺0.36—0.31。

P 3：長方形—0.41—0.34—0.30。

P 4：楕円形—0.50—0.47—0.34。

P 5：楕円形—0.40—0.34—0.52。

P 6：長方形—0.55—0.40—0.12。

P 7：長方形—0.32—0.27—0.46。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

P 1—P 2：1.60。P 2—P 3：1.52。

P 3—P 4：2.82。P 4—P 5：1.62。

P 5—P 6・7：1.48。P 6・7—P 1：2.80。

遺物 土師器片163gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は3区2号掘立柱建物とほぼ同じであり、3区1・3号掘立柱建物、4区4号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の掘立柱建物(C群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)・B群(1区7号掘立柱建物など)とC群の規模および埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

4区2号掘立柱建物(第51図、P L .26)

位置 X=29840~849、Y=-40175~181。

重複 4区3号掘立柱建物と重複。

平面形状 東側が調査区外に延びる。1間×3間以上。

長軸方位(棟方向) N-33°-W。

規模 長軸(4.80)m、短軸4.14m。

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1：楕円形—0.79—0.50—0.53。

P 2：楕円形—0.48—0.44—0.55。

P 3：楕円形—0.58—0.43—0.40。

P 4：不整形—(0.50)—0.42—0.60。

P 5：楕円形—0.67—0.42—0.42。

P 6：楕円形—0.52—0.44—0.42。

P 7：不整形—0.74—0.36—0.63。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

P 1—P 2：2.45。P 2—P 3：2.37。

P 4—P 5：2.28。P 5—P 6：2.22。

P 6—P 7：2.16。P 7—P 1：4.14。

遺物 土師器片235g、不明土器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の時期は、本遺跡の他の掘立柱建物と埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

4区3号掘立柱建物(第52図、P L .26)

位置 X=29838~842、Y=-40176~179。

重複 4区2号掘立柱建物と重複。

平面形状 東側が調査区外に延びる。1間×1間以上。

長軸方位(棟方向) N-83°-W。

規模 長軸(3.35)m、短軸3.11m。

柱穴 5基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。P 1に柱痕跡らしきものが見られる。

P 1：不整形—0.66—0.36—0.47。

P 2：楕円形—(0.66)—0.50—0.58。

P 3：楕円形—(0.41)—0.38—0.38。

P 4：方形—一辺0.44—0.38。

P 5：楕円形—0.29—0.26—0.43。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

P 1—P 3~5：3.07。P 2—P 3~5：2.64。

遺物 土師器片69gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は1区7・8・10号掘立柱建物(B群)とほぼ同じであり、埋没土も類似することから、9世紀代と推定される。

4区4号掘立柱建物(第53図、P L .27)

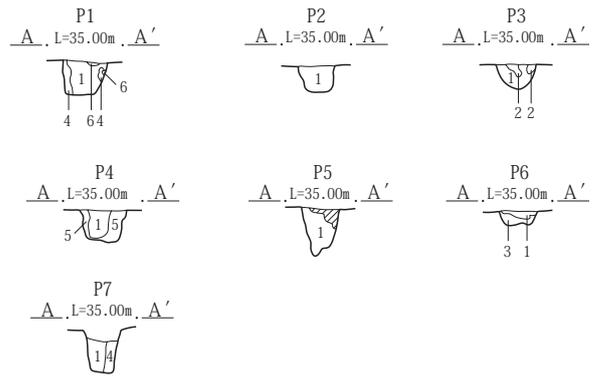
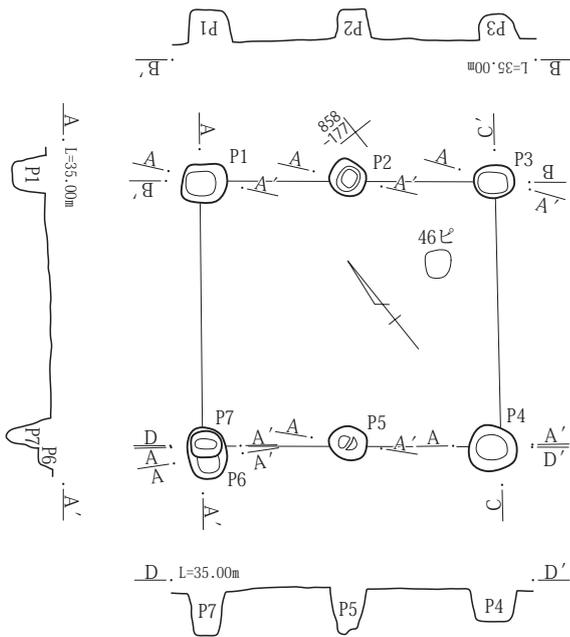
位置 X=29845~849、Y=-40237~240。

重複 4区8号竪穴住居、38号土坑と重複。

平面形状 西側が調査区外に延びる。1間以上×2間以上。

長軸方位(棟方向) N-48°-E。西側が調査区外のた

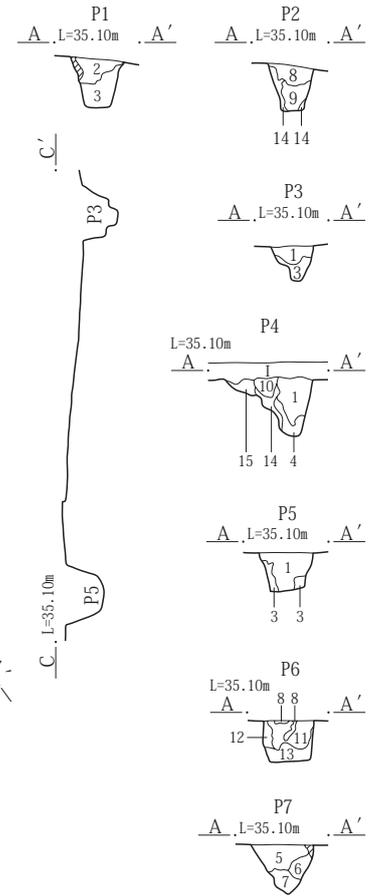
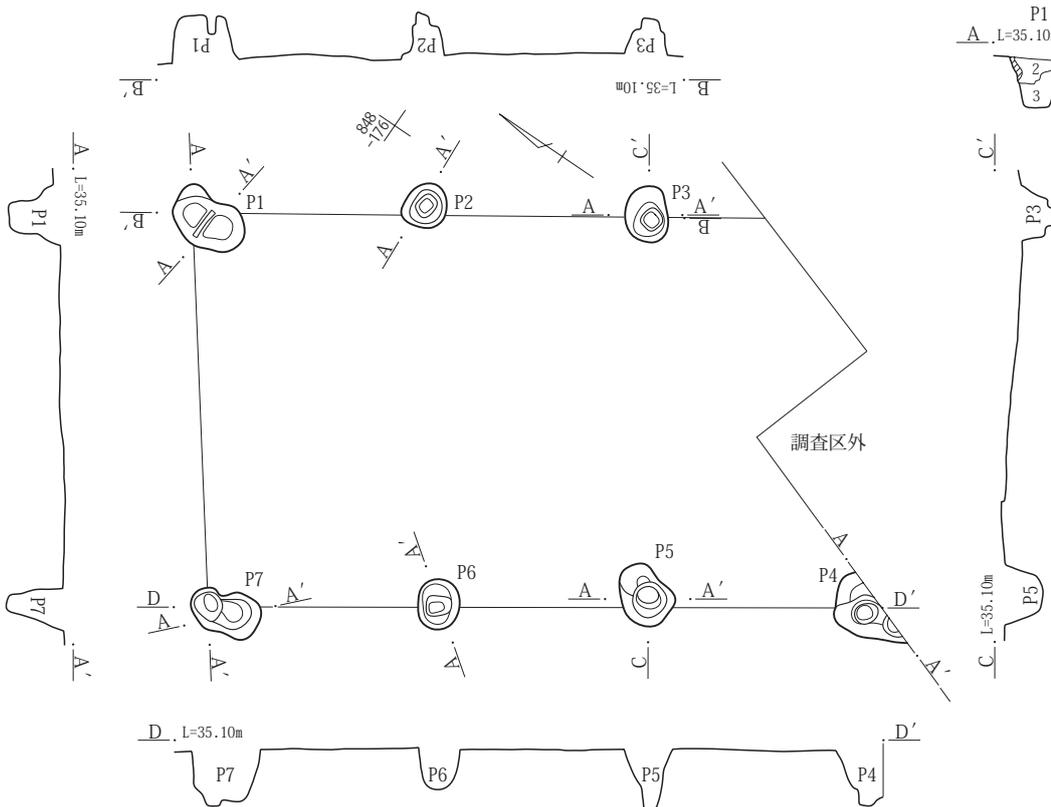
4区1号掘立柱建物



4区1号掘立柱建物

1. 黒色土(10YR2/1) φ 1~10mmローム粒10%。
2. 1層と同質 φ 1~5mmローム粒 5%。
3. 1層と同質 ローム粒15%。
4. 1層と同質 ローム粒20%。
5. 褐灰色土(10YR4/1) 細粒 均質 密。
6. ローム塊。

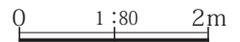
4区2号掘立柱建物



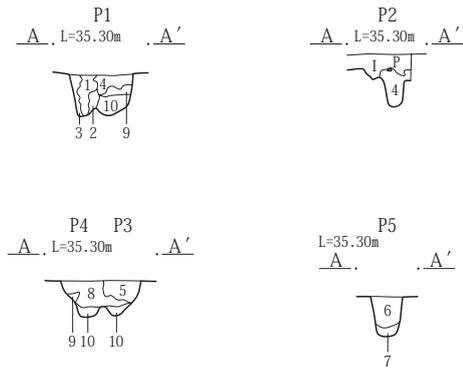
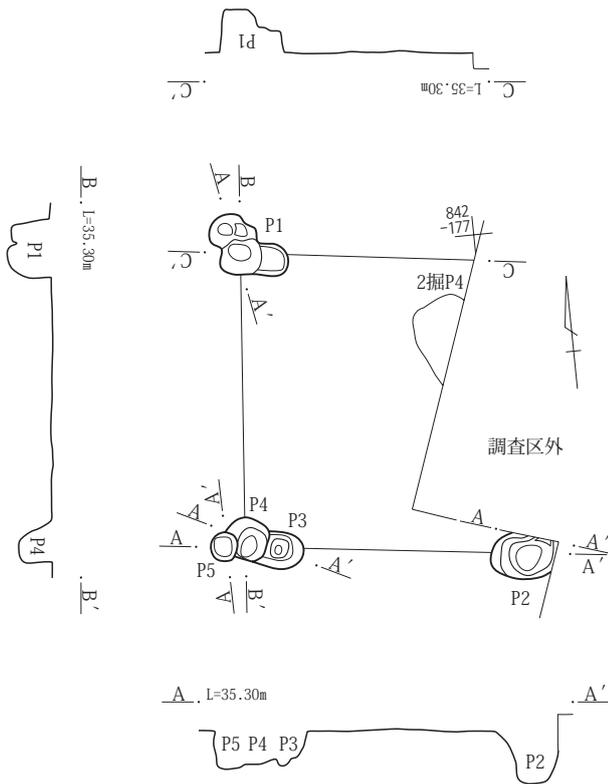
4区2号掘立柱建物

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ローム粒縞状混。
3. ロームを主とした黒~黒褐色土(10YR2/1~2)との混土。
4. 3層よりローム少ない。
5. 黒色土(10YR2/1) ローム粒斑状混 焼土粒少混。
6. 5層と同質 ローム粒30%。
7. As-YPブロックと6層の混土 密。

8. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
9. 8層とφ 1cmローム塊の混土。
10. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~2mmローム粒10%。
11. 黒色土(10YR2/1) φ 1~5mmローム粒 5%。
12. 黒褐色土(10YR3/1) φ 1~8mmローム粒20%。
13. 黒褐色土(10YR3/1) φ 1~5mmローム粒10% しまりゆるい。
14. 灰黄褐色土(10YR4/2) φ 1~10mmローム粒30%。
15. にぶい黄褐色土(10YR4/3)

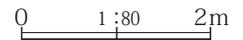


第51図 4区1・2号掘立柱建物平面図



4区3号掘立柱建物

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 ϕ 1mmローム粒5%。
2. 1層と同質 ϕ 1~2mmローム粒10%。
3. 1層と同質 ϕ 1~2mmローム粒20% 焼土粒混入。
4. 1層と同質 ϕ 1~15mmローム粒20%。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2cmローム塊斑混。
6. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
7. 6層と同質 ϕ 1cmローム粒20%。
8. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 硬 ϕ 1~2cmローム塊斑混。
9. ローム塊。
10. 黒色土(10YR2/2)とロームの斑混土。



第52図 4区3号掘立柱建物平断面

め長軸は推定。

規模 長軸(3.90)m、短軸(2.60)m。

柱穴 4基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1：楕円形—0.48—0.44—0.58。

P 2：楕円形—0.64—0.58—0.68。

P 3：楕円形—0.64—0.52—0.64。

P 4：楕円形—0.57—0.53—0.78。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名：距離(単位m))。

P 1—P 2：2.23。P 2—P 3：1.93。

P 3—P 4：1.99。

遺物 土師器片285g、須恵器片24gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の長軸方位は3区1・3号掘立柱建物とほぼ同じであり、3区2号掘立柱建物、4区1号掘立柱建物とほぼ直交することから、本遺構を含むこれら一群の

掘立柱建物(C群)はほぼ同時期と推定される。本遺構の時期は、前出A群(1区1号掘立柱建物など)・B群(1区7号掘立柱建物など)とC群の規模および埋没土が類似することから、9世紀代と推定される。

1区1号柵(第54図、P L .27)

位置 X = 29955~960、Y = -40963~970。

重複 1区1号掘立柱建物、2号ピットと重複。本遺構が2号ピットより古く、1号掘立柱建物より新しい。

平面形状 2間×3間か。掘立柱建物の可能性あり。

長軸方位 N-74°-W。

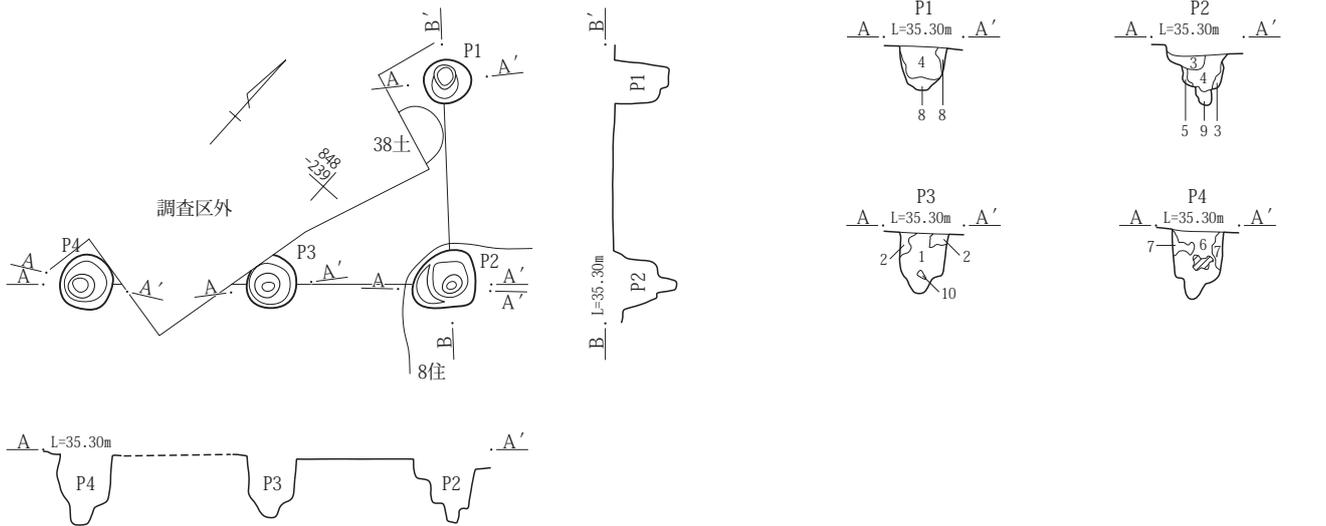
規模 長軸7.12m、短軸5.12m。

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1：楕円形—0.32—0.26—0.43。

P 2：円形—径0.32—0.38。

P 3：楕円形—0.28—0.22—0.20。



4区4号掘立柱建物

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒5% 焼土粒・炭化物粒混入。
2. 1層にローム塊混入。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒10%。
4. 3層と同質 ローム粒2%。
5. 3層と同質 ローム粒15%。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 粘性あり。
7. 6層と同質 ϕ 1~2mmローム粒・1cmローム塊混入。
8. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒10%。
9. ロームと黒褐色土(10YR2/2)の混土。
10. ローム塊。



第53図 4区4号掘立柱建物平断面

P 4 : 楕円形—0.30—0.24—0.29。

P 5 : 楕円形—0.55—0.50—0.64。

P 6 : 楕円形—0.34—0.28—0.40。

P 7 : 楕円形—0.34—0.28—0.20。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名:距離(単位m))。

P 1—P 2 : 2.00。 P 2—P 3 : 2.80。

P 3—P 4 : 2.60。 P 3—P 7 : 2.20。

P 5—P 6 : 2.80。 P 6—P 7 : 2.28。

遺物 土師器片12gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構は掘立柱建物の可能性もあるが、柱穴の配列・規模および調査時の所見により柵とした。出土遺物が小破片のみのため時期は判別できなかった。

1区2号柵(第55図、P L .27)

位置 X=29963~965、Y=-40970。

重複 なし。

平面形状 1間。

長軸方位 N-12°-E。

規模 2.00m。

柱穴 2基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名:平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1 : 楕円形—0.50—0.46—0.49。

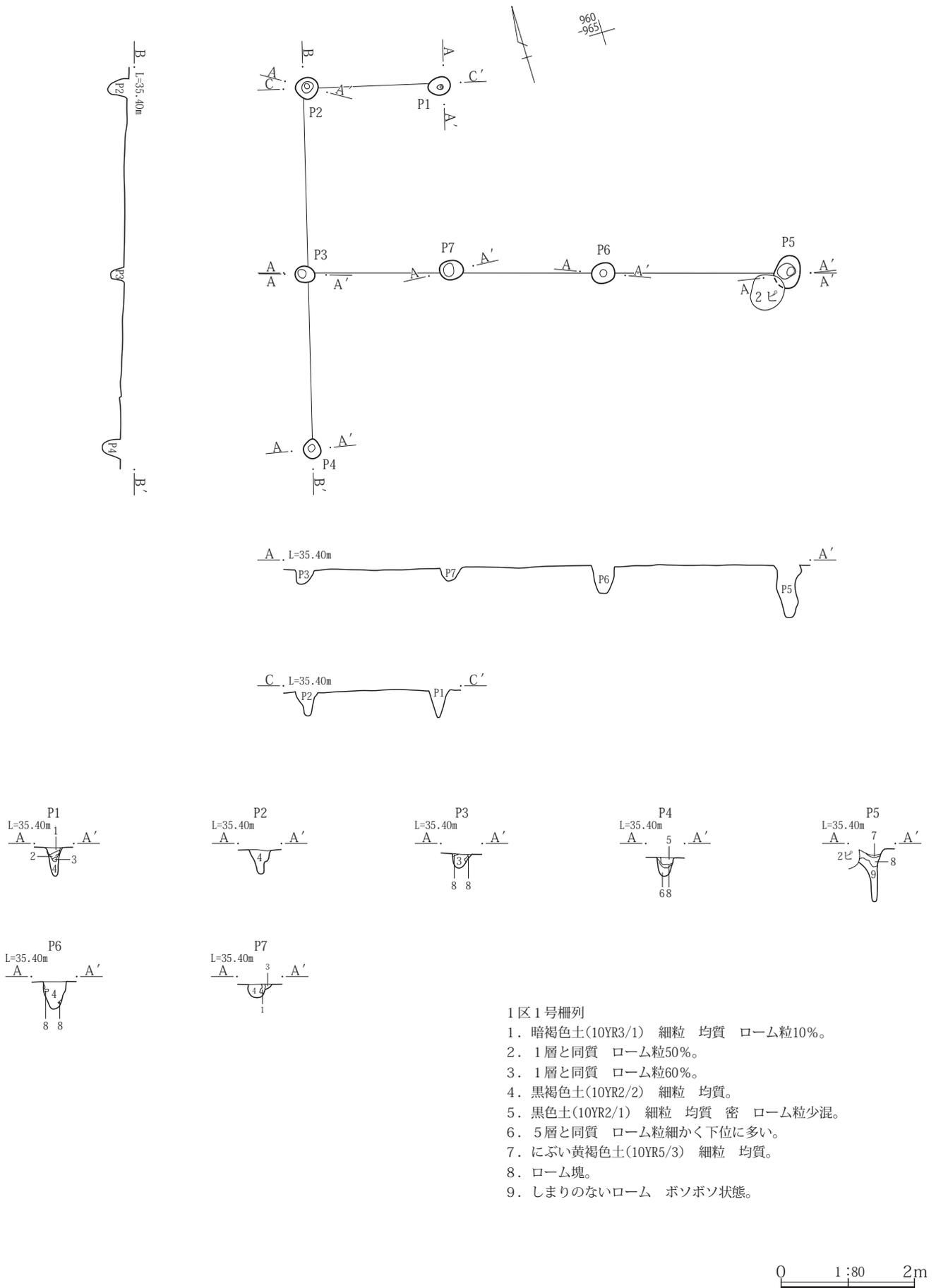
P 2 : 長方形—0.56—0.50—0.61。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名—柱穴名:距離(単位m))。

P 1—P 2 : 2.00。

遺物 土師器片73gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器甕1点(外22)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 本遺構の時期は、長軸方位が前出掘立柱建物A群とほぼ同じであることおよび埋没土も類似することから、9世紀代と推定される。



第54図 1区1号柵平断面

4区1号柵(第55図、P L .27)

位置 X=29841~845、Y=-40432~436。

重複 4区9号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南側が調査区外に延びる。2間以上。

長軸方位 N-50°-W。

規模 4.78m。

柱穴 2基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1：楕円形-0.47-0.32-0.52。

P 2：楕円形-0.37-0.33-0.32。

P 3：楕円形-0.40-0.34-0.59。

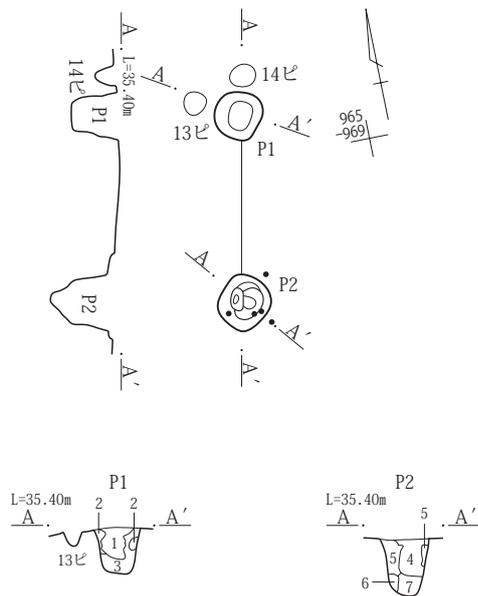
柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名：距離(単位m))。

P 1-P 2：2.28。P 2-P 3：2.40。

遺物 なし。

所見 本遺構の長軸方位は前出掘立柱建物C群とほぼ同じであり、規模および埋没土も類似する。このことから、本遺構の時期は9世紀代と推定される。

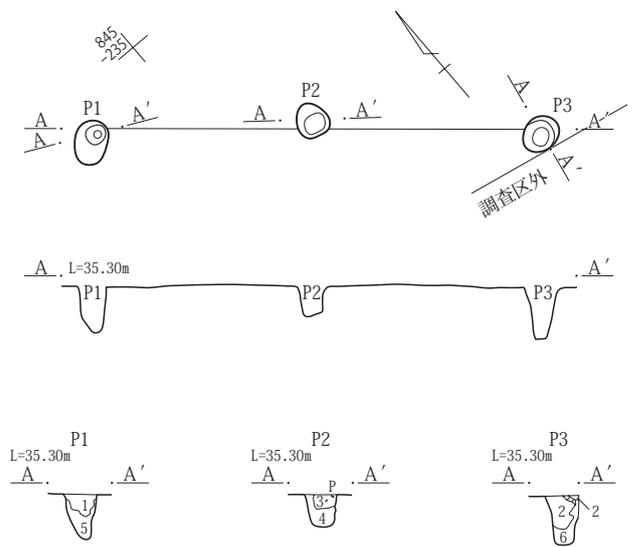
1区2号柵



1区2号柵列

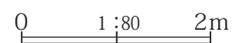
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒10% ローム塊混入。
2. 1層と同質 ローム塊多い。
3. 1層と同質 ローム粒15%。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ローム粒20%。
6. 5層と同質 ローム粒 40%。
7. しまりのない5層。

4区1号柵



4区1号柵列

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1mmローム粒 2%。
3. 1層と同質 φ 1mmローム粒 5%。
4. 1層と同質 φ 1cmローム塊10%。
5. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒15%。
6. 1層と同質 ローム粒斑混。



第55図 1区2号柵平面、4区1号柵平面

第5節 溝

溝は、1区から14条、2～4区から63条、5区から12条が確認された。溝の時期は古墳時代から近世にかけてと幅広いが、最も多いのが中近世の溝である。古墳時代のものが2～4区に2条、奈良・平安時代のものが5区に12条、中世のものが1区に2条、2～4区に12条、近世のものが1区に2条、2～4区に23条、詳細な時期は不明であるが古墳時代～奈良・平安時代のものが1区に6条、中近世のものが1区に1条、2～4区に26条、時期を判別できなかったものが1区に3条となっている。流水の形跡が見られるのは5区の12条のみであり、他の調査区のものには見られない。中世・近世の溝は調査区周辺の土地区画や道路の走向と一致するものが多く、区画溝と考えられる。

1区1号溝(第56図、P L .28)

位置 X=29953～962、Y=-40953～955。

重複 1区1号方形周溝墓、3・4号竪穴住居、3号掘立柱建物、2号溝、21・22・49号ピットと重複。本遺構が4号竪穴住居、2号溝より古く、1号方形周溝墓、21・22・49号ピットより新しい。

平面形状 北方向から南方向へほぼ直線。

長軸方位 N-5°-E。

規模 全長(8.90)m、幅0.38～0.56m、深さ0.07～0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片40g、須恵器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。1区1号方形周溝墓、4号竪穴住居との重複関係から、本遺構の時期は6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区2号溝(第56図、P L .28)

位置 X=29947～985、Y=-40941～966。

重複 1区1号方形周溝墓、1・4号竪穴住居、3号掘立柱建物、1号溝、3号土坑と重複。本遺構が1・4号

竪穴住居、3号土坑より古く、1号方形周溝墓、1号溝より新しい。

平面形状 北東方向から南西方向へほぼ直線。

長軸方位 N-29°-E・N-39°-E。

規模 全長(45.60)m、幅0.23～0.57m、深さ0.06～0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。一部ローム粒が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 土師器片65gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。1区1号方形周溝墓、1・4号竪穴住居との重複関係から、本遺構の時期は6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区3号溝(第57図、P L .28)

位置 X=29955～986、Y=-40968～975。

重複 1区1号方形周溝墓、2号掘立柱建物、4号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向へほぼ直線。

長軸方位 N-13°-E・N-16°-E。

規模 検出全長22.90m(断片的)、幅0.14～1.27m、深さ0.05～0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は浅い凹字状または逆台形。流水の形跡は見られない。

遺物 近世在地系土器皿1点(1)を図示した。他に、土師器片132g、埴輪片32g、灰釉陶器片38g、近世在地系土器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪、灰釉陶器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定される。

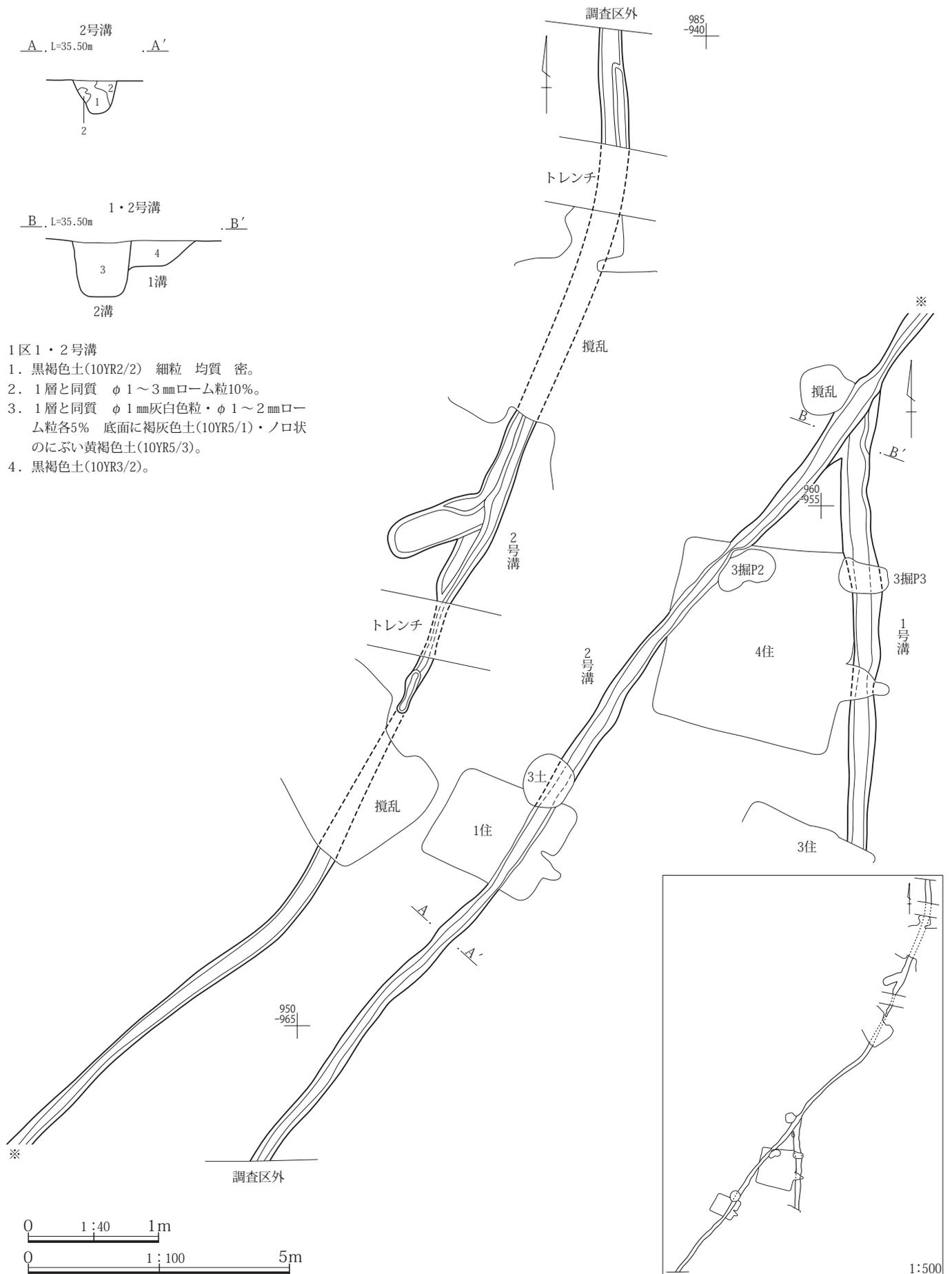
1区4号溝(第57図、P L .28)

位置 X=29954～965、Y=-40975～976。

重複 1区2号掘立柱建物、3号溝、31号ピットと重複。本遺構が3号溝より古く、31号ピットより新しい。

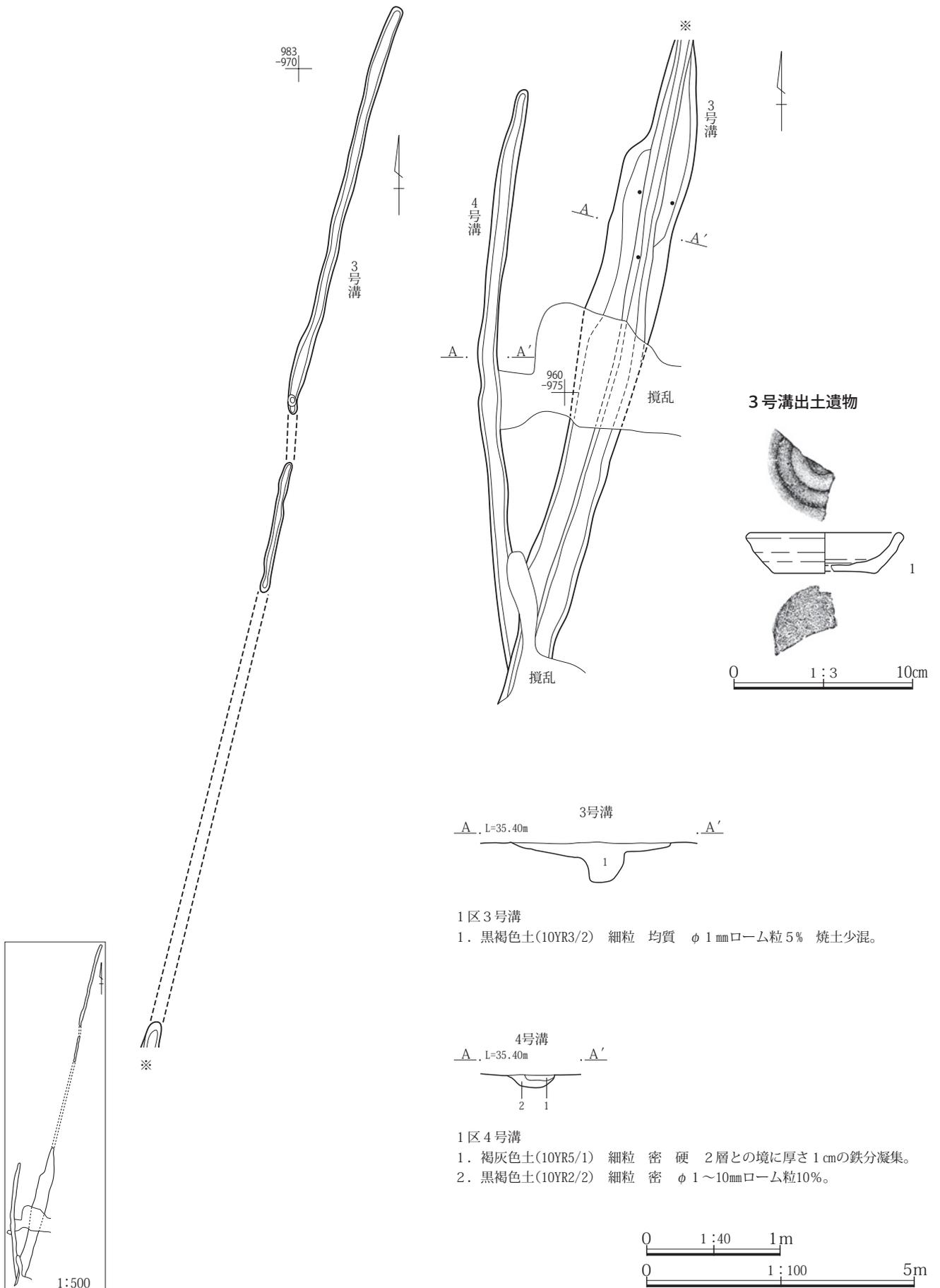
平面形状 北方向から南方向へほぼ直線。

長軸方位 N-5°-E。



- 1区1・2号溝
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~3mmローム粒10%。
 3. 1層と同質 φ 1mm灰白色粒・φ 1~2mmローム粒各5% 底面に褐灰色土(10YR5/1)・ノロ状のにぶい黄褐色土(10YR5/3)。
 4. 黒褐色土(10YR3/2)。

第56図 1区1・2号溝平面図



第57図 1区3・4号溝平面、3号溝出土遺物

規模 全長(10.86)m、幅0.27~1.27m、深さ0.09~0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は浅い皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片62gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。1区1・2号溝と埋没土および走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区5号溝(第58図、P L .29)

位置 X=29942~963、Y=-40904~926。

重複 1区4号方形周溝墓、6号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北西方向から東南方向へほぼ直線。

長軸方位 N-55°-W・N-67°-W。

規模 全長(30.00)m、幅0.40~0.60m、深さ0.08~0.30m。

埋没土層 暗褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。ローム粒が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 土師器片138g、須恵器片22g、近世在地系土器片40gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。1区6号溝との重複関係から、本遺構の時期は中世以降と推定されるが、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、近世に下る可能性がある。

1区6号溝(第58図、P L .29)

位置 X=29942~943、Y=-40885~918。

重複 1区4号方形周溝墓、5・10号溝、13号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南側大半が調査区外。西方向から東方向へほぼ直線。

長軸方位 N-88°-W。南側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 全長(32.80)m、幅(0.12~0.47)m、深さ0.14~

0.32m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は葉研状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片43g、近世国産施釉陶器片5g、国産焼締器片29g、在地系土器片62g、近現代土器300g、瓦片851g、ガラス片1g、時期不明土器片516gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から本遺構の時期は中世と推定されるが、出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから最終的な埋没は現代の可能性はある。

1区7号溝(第59図、P L .29・87)

位置 X=29944~960、Y=-40886~899。

重複 1区13号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北東方向から南西方向へほぼ直線。

長軸方位 N-40°-E。

規模 全長(20.20)m、幅0.90~1.28m、深さ0.39~0.48m。

埋没土層 暗褐色土主体、7層が観察された。断面形は逆台形状または葉研状。流水の形跡は見られない。

遺物 石製品1点(1)を図示した。他に、土師器片253g、須恵器片33g、中世国産焼締陶器片28g、近世国産磁器片14g、国産施釉陶器片86g、在地系土器片8g、近現代陶磁器3g、時期不明土器片60gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、打製石斧は混入と考えられる。打製石斧1点(外68)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

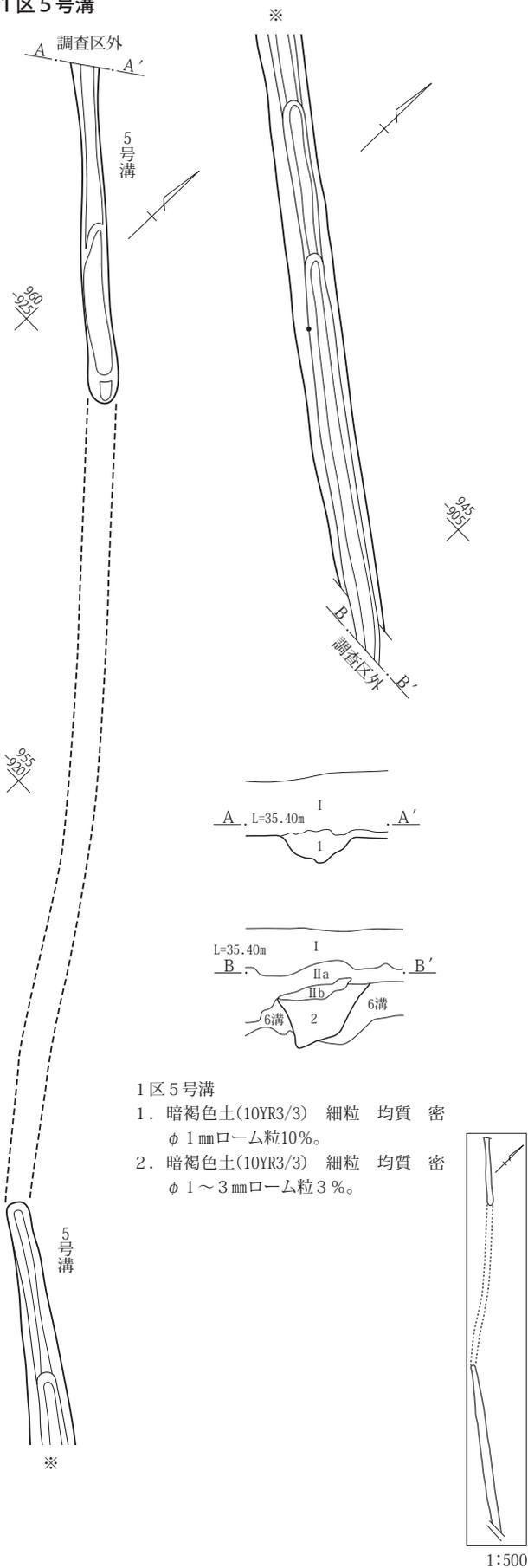
所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から中世と推定されるが、埋没土および出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は現代の可能性はある。

1区8号溝(第60・61図、P L .29・30)

位置 X=29947~979、Y=-40905~952。

重複 1区2号方形周溝墓、8号掘立柱建物、12・24号土坑と重複。本遺構が新しい。

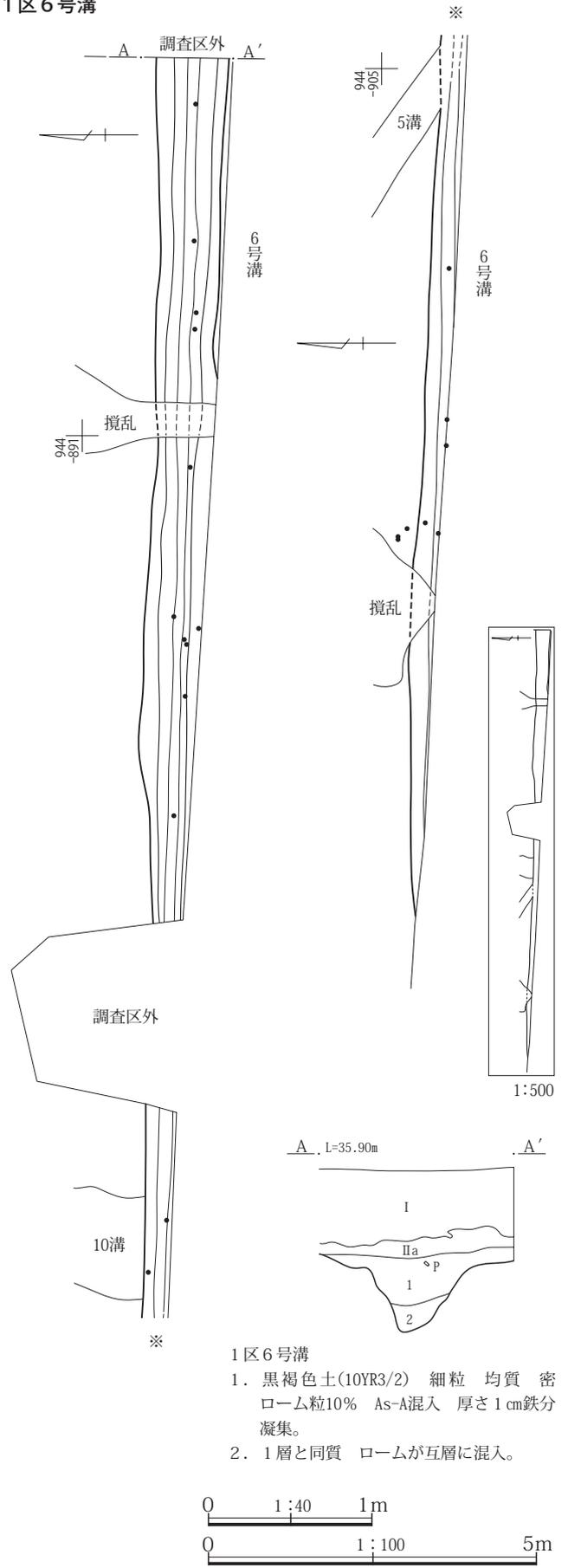
1区5号溝



1区5号溝

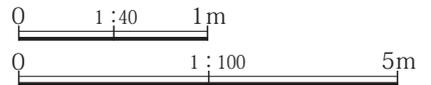
1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
φ 1mmローム粒10%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
φ 1~3mmローム粒3%。

1区6号溝

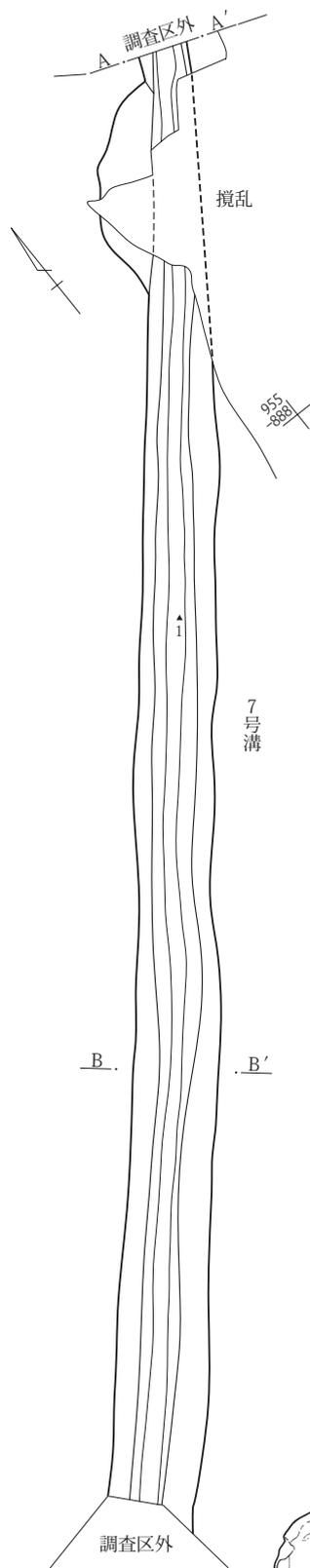


1区6号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密
ローム粒10% As-A混入 厚さ1cm鉄分凝集。
2. 1層と同質 ロームが互層に混入。



第58図 1区5・6号溝平面図



平面形状 北西側大半が暗渠水路。南西方向から北東方向へほぼ直線。

長軸方位 N-36°-E。北西側大半が暗渠水路のため長軸は推定。

規模 全長(34.00)m(断片的)、幅(0.18~2.47)m、深さ0.11~0.99m。

埋没土層 黒褐色土主体、12層が観察された。断面形は推定逆台形状また凹字状。流水の形跡は見られない。

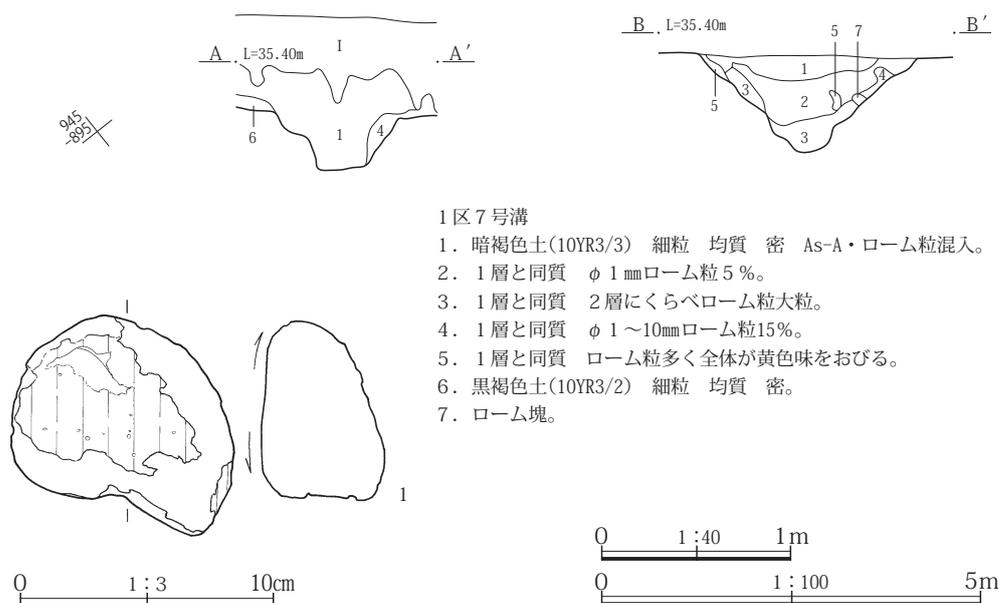
遺物 土師器片625g、須恵器片362g、近世国産磁器片48g、国産施釉陶器片165g、国産焼締器片52g、在地系土器片320g、十能瓦片939g、近現代陶磁器172g、土器片27g、時期不明土器片486g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器は混入と考えられる。

所見 明確な流水の形跡は見られないが、1区を斜めに横断する道路・暗渠とほぼ一致することから、本遺構は暗渠設置以前に水路として用いられたと考えられる。出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定されるが、最終的な埋没は暗渠設置時、すなわち現代の可能性はある。

1区9号溝(第62図、P L.30)

位置 X=29944~968、Y=-40899~927。

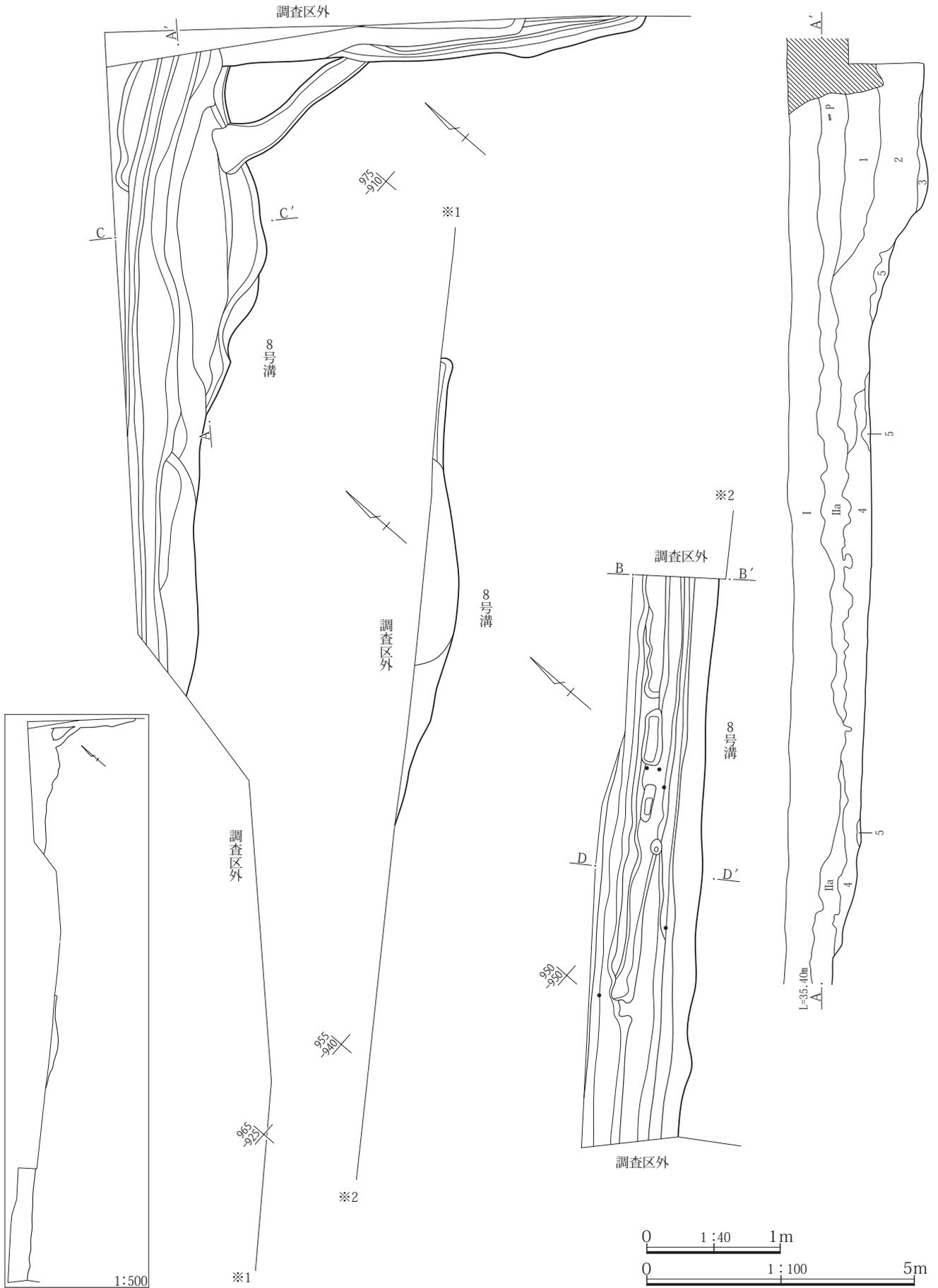
重複 1区4号方形周溝墓、11号溝、19号土坑と重複。本遺構が新しい。



1区7号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 As-A・ローム粒混入。
2. 1層と同質 φ1mmローム粒5%。
3. 1層と同質 2層にくらべローム粒大粒。
4. 1層と同質 φ1~10mmローム粒15%。
5. 1層と同質 ローム粒多く全体が黄色味をおびる。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
7. ローム塊。

第59図 1区7号溝平面断面、出土遺物



第60図 1区8号溝平面断面



第61図 1区8号溝断面

平面形状 北東方向から南西方向に蛇行。

長軸方位 N-22°-E・N-85°-E。

規模 全長(41.00)m、幅0.23~0.44m、深さ0.10~0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。下部にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。1区1・2号溝と埋没土および走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区10号溝(第63図、P L.30)

位置 X=29943~954、Y=-40901~904。

重複 1区6号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 南方向から北方向にほぼ直線。

長軸方位 N-6°-E。

規模 全長(11.43)m、幅1.32~2.10m、深さ0.04~0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、7層が観察された。断面形は凹凸あり不整形。流水の形跡は見られない。下位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 時期不明土製品11gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられるが、埋没土の状況および規模、走向から方形周溝墓

の残骸とも考えられ、近接する1区4号方形周溝墓の一部である可能性もあるが、出土遺物も小破片のみであり判断を下すことは困難である。1区11号溝と埋没土が類似し長軸方位がほぼ直交することから、本遺構の時期は11号溝と同じく9号溝より古い6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区11号溝(第62図、P L.30)

位置 X=29959~963、Y=-40908~916。

重複 1区9号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 西方向から東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-82°-W。

規模 全長8.30m、幅1.70~3.36m、深さ0.07~0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。断面形は凹凸あり不整形。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片76gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

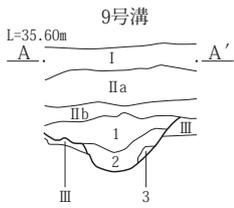
所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられるが、埋没土の状況および規模、走向から方形周溝墓の残骸とも考えられ、近接する1区4号方形周溝墓の一部である可能性もあるが、出土遺物も小破片のみであり判断を下すことは困難である。1区9号溝との重複関係から、本遺構の時期は9号溝より古い6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区12号溝(第63図)

位置 X=29982、Y=-40964~966。

重複 1区1号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

第3章 確認された遺構と遺物



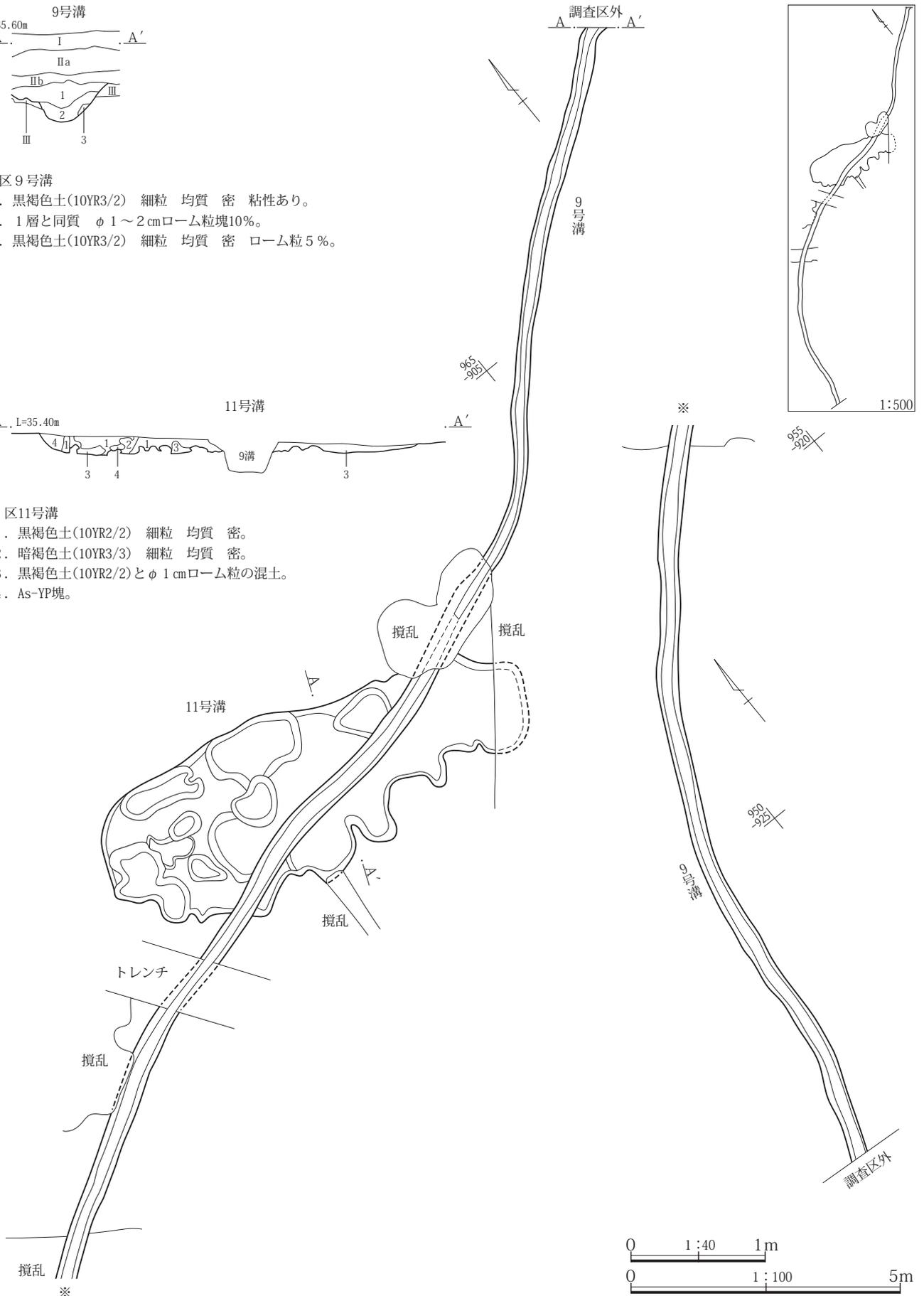
1区9号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 粘性あり。
2. 1層と同質 φ1~2cmローム粒塊10%。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ローム粒5%。



1区11号溝

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。
3. 黒褐色土(10YR2/2)とφ1cmローム粒の混土。
4. As-YP塊。



第62図 1区9・11号溝平面図

平面形状 西方向から東方向にほぼ直線。
 長軸方位 N-85°-E。
 規模 全長(2.53)m、幅0.45~0.55m、深さ0.10~0.18m。
 埋没土層 不明。
 遺物 なし。
 所見 1区1号方形周溝墓との重複関係から本遺構の時期は6世紀以降と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

1区13号溝(第63図)

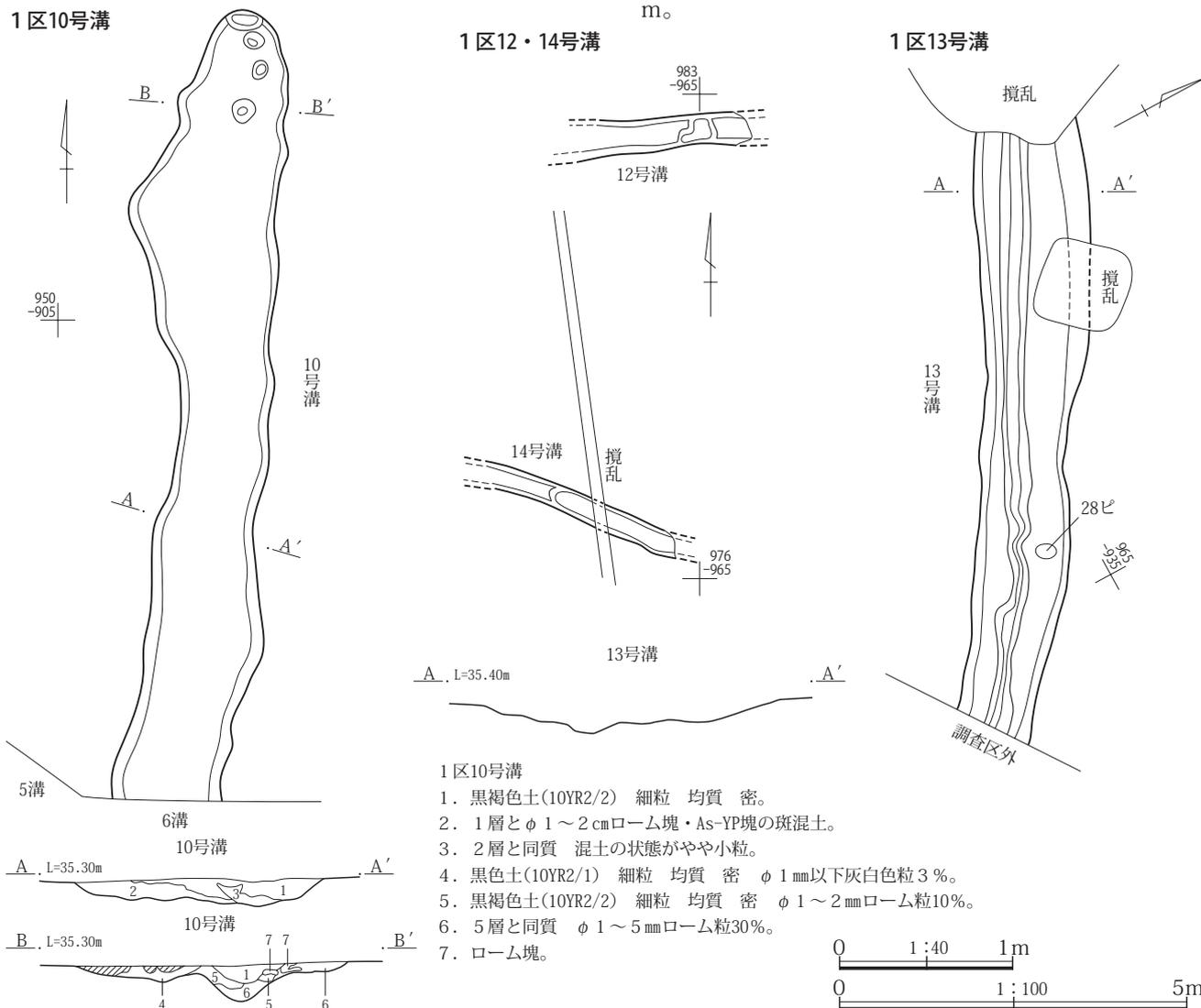
位置 X=29962~968、Y=-40933~942。
 重複 1区2号方形周溝墓、28号ピットと重複。本遺構が新しい。
 平面形状 北西方向から東南方向へほぼ直線。

長軸方位 N-55°-W。
 規模 全長(8.80)m、幅0.65~1.67m、深さ0.08~0.10m。
 埋没土層 不明。
 遺物 なし。
 所見 1区1号方形周溝墓との重複関係から本遺構の時期は6世紀以降と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

1区14号溝(第63図)

位置 X=29976~978、Y=-40965~968。
 重複 1区1号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。
 平面形状 北西方向から東南方向へほぼ直線。
 長軸方位 N-70°-W。
 規模 全長(3.10)m、幅0.30~0.35m、深さ0.05~0.08m。

1区10号溝



第63図 1区10・13号溝平断面、12・14号溝平面

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 1区1号方形周溝墓との重複関係から本遺構の時期は6世紀以降と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

2区1号溝(第64図、P L .31)

位置 X=29881~883、Y=-40345~349。

重複 2区8号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-68°-W。

規模 全長3.70m、幅0.36~0.60m、深さ0.04m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。2区8号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区2号溝(第64図、P L .31・87)

位置 X=29882~893、Y=-40342~366。

重複 2区3号竪穴住居、8・12~14・30号土坑・2号ピットと重複。本遺構が3号竪穴住居、8・12~14号土坑・2号ピットより新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-65°-W。

規模 全長25.57m、幅0.10~1.14m、深さ0.07~0.51m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状または凹字状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 肥前陶器・三島手皿1点(1)、瀬戸・美濃陶器天目碗1点(2)・腰鏝碗1点(3)、近世在地系土器焙烙1点(4)・不詳土製品1点(5)を図示した。他に、土師器片423g、埴輪片398g、近世国産磁器片27g、国産施釉陶器片140g、国産焼締陶器片333g、在地系土器片129g、十能瓦片68g、時期不明土器片231gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 位置関係から、本遺構は2区4号溝と一体である可能性がある。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、区画溝と考えられる。2区8号土坑との重複関係および出土遺物(1~5)から、本遺構の時期は近世と推定される。

2区3号溝(第65・66図、P L .31・32)

位置 X=29866~906、Y=-40368~423。

重複 2区6・7・19号溝、27・64・67・81・98号土坑と重複。本遺構が6号溝、27・64・67・81・98号土坑より古く、7号溝より新しい。

平面形状 南東方向から北西方向にほぼ直線状に走り、876-383付近で南西方向に分岐する。

長軸方位 N-55°-W・N-41°-E。

規模 全長(78.21)m、幅0.24~0.58m、深さ0.16~0.32m。

埋没土層 黒褐色土主体、5層が観察された。断面形は逆台形状または椀状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片64g、須恵器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。土師器手捏1点(外31)を、遺構外出土として第3章第9節に掲げた。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。2区6・7号溝、27・64・67・81・98号土坑との重複関係から、本遺構の時期は近世と推定される(2区7号溝の項も参照)。

2区4号溝(第66図)

位置 X=29893~896、Y=-40367~372。

重複 2区48号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

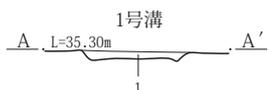
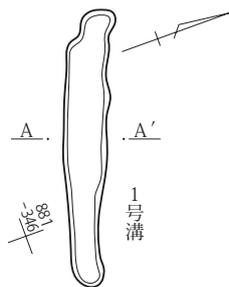
長軸方位 N-55°-W。

規模 全長(4.44)m、幅0.58~0.66m、深さ0.10~0.15m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。断面形は浅い逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 肥前磁器白磁(または染付)小杯1点(1)を図示した。他に、土師器片9g、時期不明土器片269gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

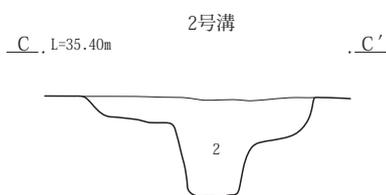
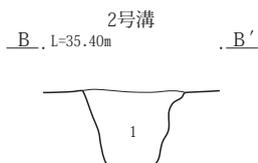
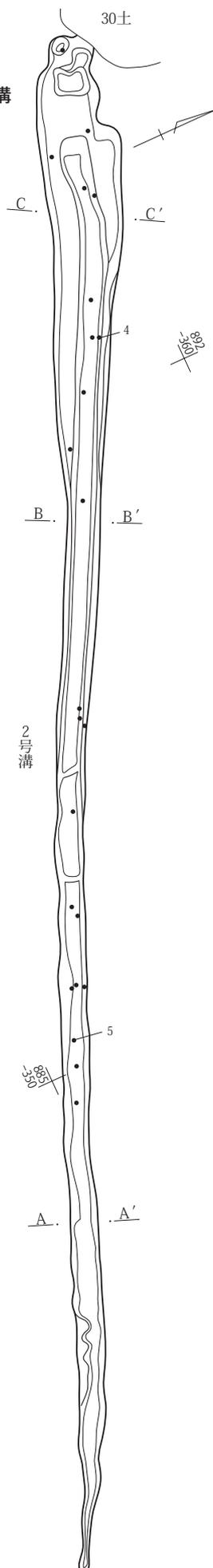
2区1号溝



2区1号溝

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊多混。

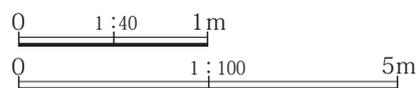
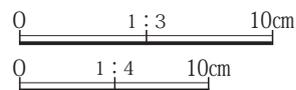
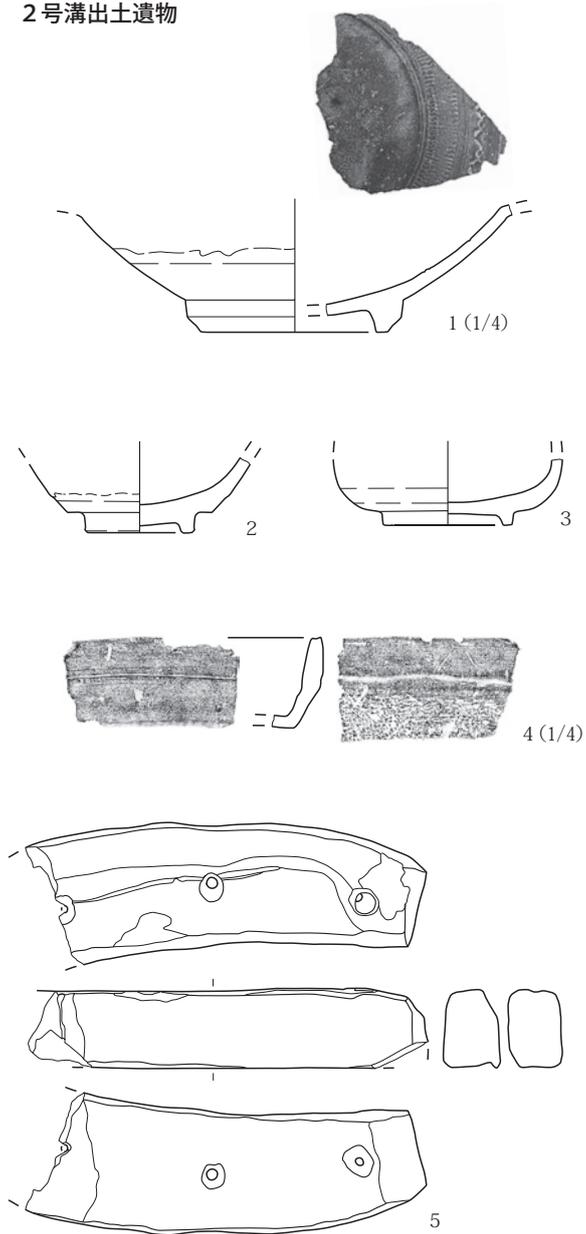
2区2号溝



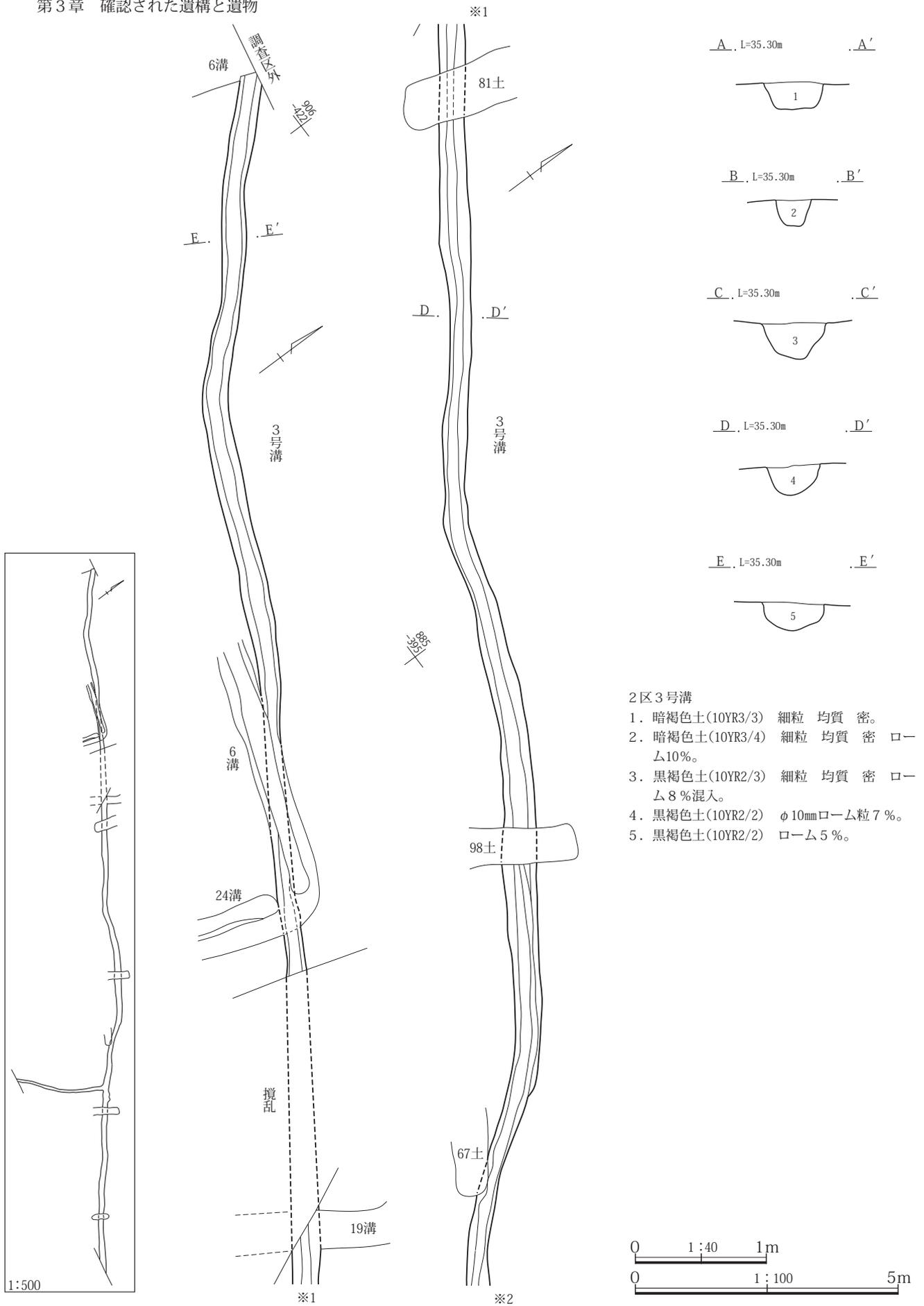
2区2号溝

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊10%。

2号溝出土遺物

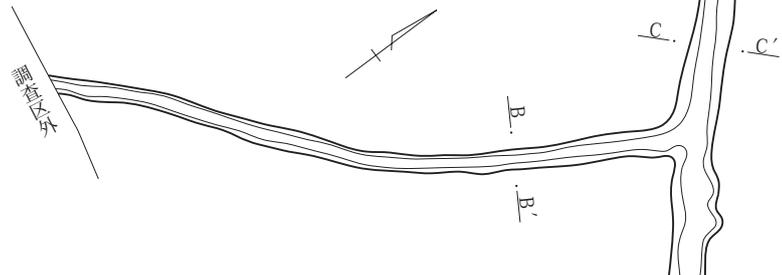


第64図 2区1・2号溝平断面、2号溝出土遺物

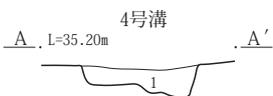
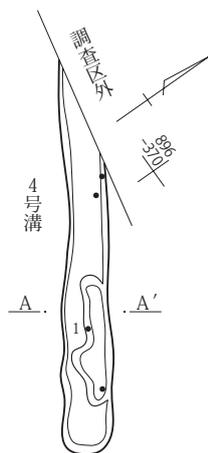


第65図 2区3号溝平面(1)・断面

2区3号溝



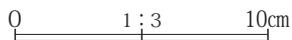
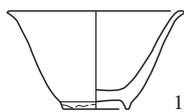
2区4号溝



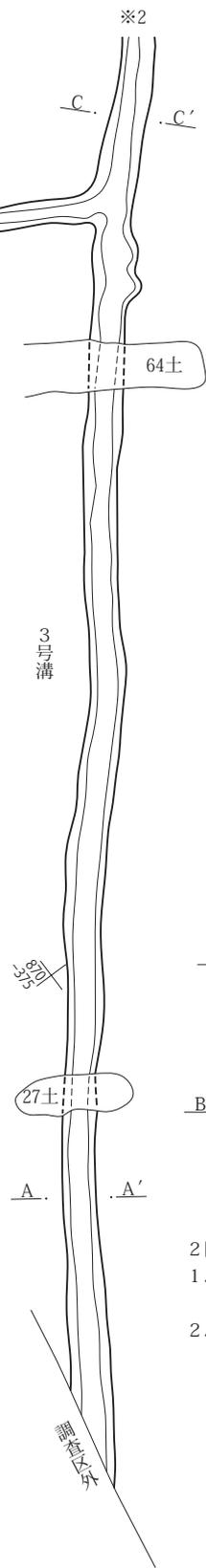
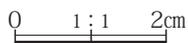
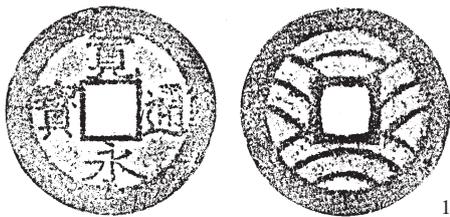
2区4号溝

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒少混。

4号溝出土遺物

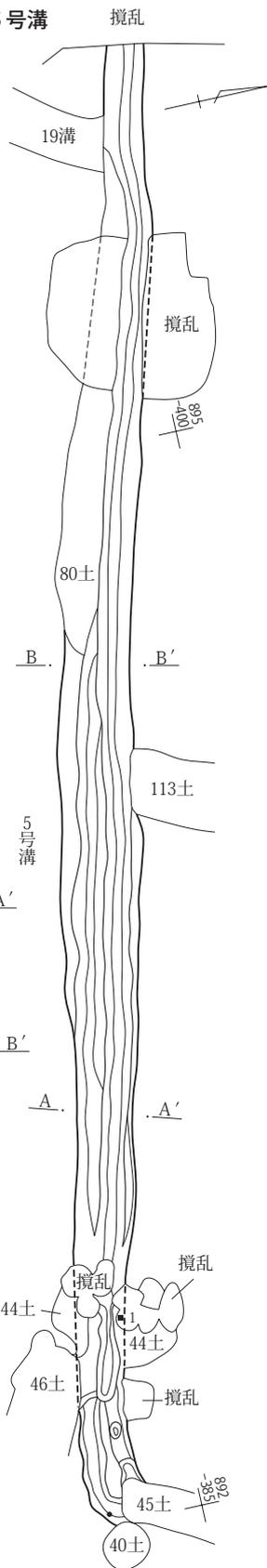


5号溝出土遺物

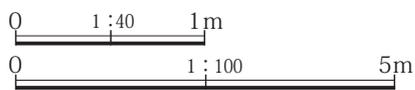


2区5号溝

第5節 溝



2区5号溝
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 3 cm
ローム塊20%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム
塊15%。



第66図 2区3号溝平面(2)、4・5号溝断面、4・5号溝出土遺物

所見 位置関係から、本遺構は2区2号溝と一体である可能性がある。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、区画溝と考えられる。出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定される。

2区5号溝(第66図、P L .32・87)

位置 X=29890~896、Y=-40385~406。

重複 2区19号溝、40・44~46・80・113号土坑と重複。本遺構が45・46・80号土坑より古い。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-71°-W。

規模 全長(21.15)m、幅0.56~1.16m、深さ0.23~0.46m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状または葉研状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 寛永通寶1点(1)を図示した。他に、土師器片141g、須恵器片4g、近世国産磁器片36g、在地系土器片3g、十能瓦片84g、近現代陶磁器片194g、ガラス片44g、時期不明土器片281g、瓦片3,454gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形および2区45・46・80号土坑との重複関係および出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定されるが、出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は現代の可能性はある。

2区6号溝(第67図、P L .31・32・88)

位置 X=29884~906、Y=-40410~425。

重複 2区3・7・15・24号溝、111号土坑と重複。本遺構が3・7・24号溝、111号土坑より新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向、東南東方向、南南西方向、西方向にほぼ垂直にくり返し曲がる。

長軸方位 N-70°-W・N-20°-E。

規模 全長(36.08)m、幅0.38~0.62m、深さ0.11~0.35m。

埋没土層 黒褐色土主体、6層が観察された。断面形は逆台形状。流水の痕跡は見られない。数度の掘り返しの

可能性があり、最終的な埋没は現代まで下るか。

遺物 砥石1点(1)、鉄製釘1点(2)を図示した。他に、土師器片84g、埴輪片79g、不明土器片5g、十能瓦片1,913g、近現代陶磁器片1,423g、土器片1,806g、瓦片3,692g、ガラス片171gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。埋没土および出土遺物(1・2)から、本遺構の時期は近世と推定されるが、出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は現代の可能性はある。

2区7号溝(第68・69図、P L 33・88)

位置 X=29890~905、Y=-40413~427。

重複 2区3・6・16・26号溝、5号井戸、71号土坑と重複。本遺構が3・6号溝、5号井戸より古く、71号土坑より新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向、南南西方向、南南東方向にほぼ垂直にくり返し曲がる。

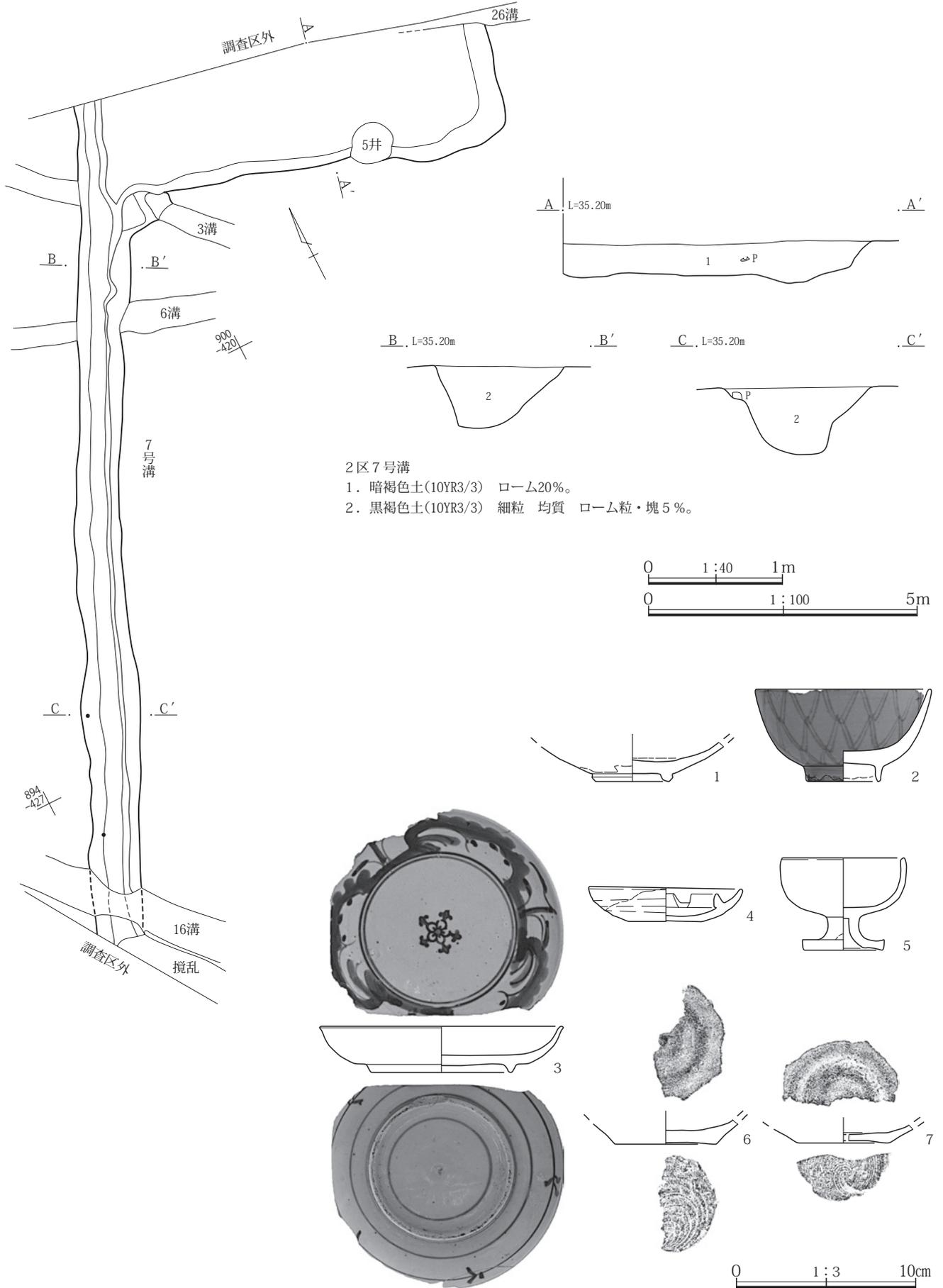
長軸方位 N-75°-W・N-26°-E。

規模 全長(23.77)m、幅0.84~2.28m、深さ0.03~0.54m。

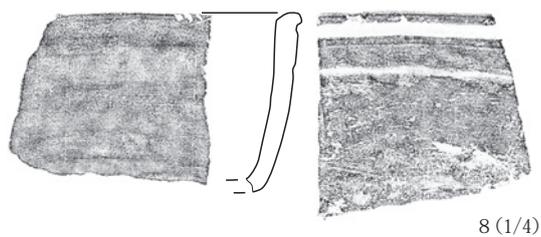
埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状。流水の痕跡は見られない。

遺物 肥前陶器青緑釉皿1点(1)、肥前磁器染付碗1点(2)・染付皿1点(3)、瀬戸・美濃陶器灯火受皿1点(4)・仏飯器1点(5)、在地系土器皿2点(6・7)・鉢1点(8)・焙烙1点(9)・十能瓦1点(10)・不詳土製品1点(11)、石製品1点(12)、鉄製品1点(13)、木製品4点(14~17)を図示した。他に、土師器片158g、須恵器片33g、埴輪片74g、近世中国磁器片7g、国産磁器片13g、国産施釉陶器片34g、国産焼締陶器片79g、在地系土器片730g、十能瓦片798g、近現代陶磁器片92g、不明土器片799g、瓦片478g、土製品91gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。須恵器甕1点(外29)、円筒埴輪片7点(外35~41)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

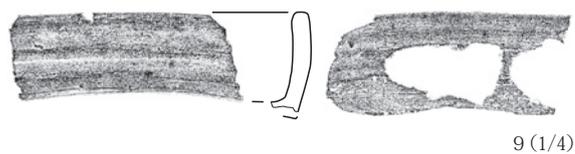
所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えら



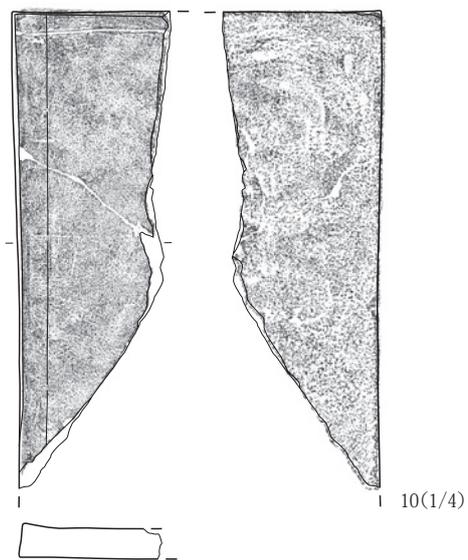
第68図 2区7号溝平断面、出土遺物(1)



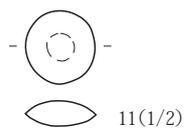
8 (1/4)



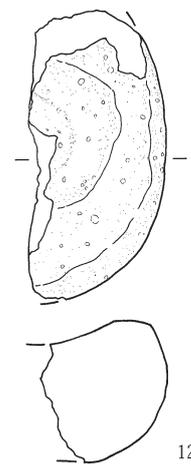
9 (1/4)



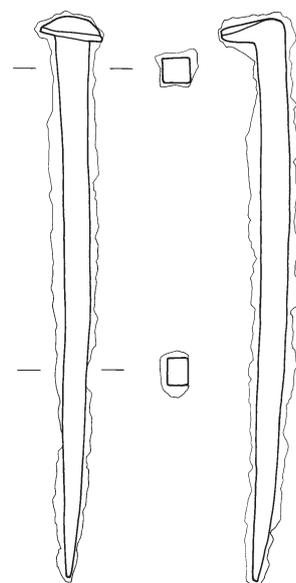
10(1/4)



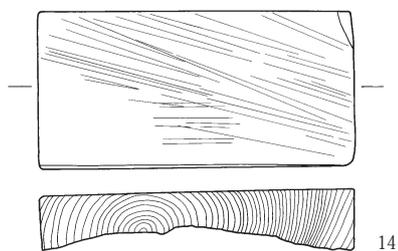
11(1/2)



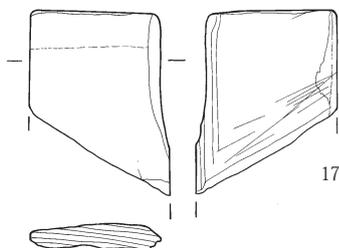
12



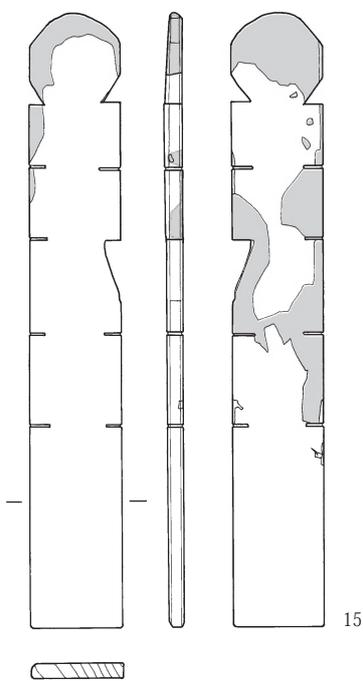
13(1/2)



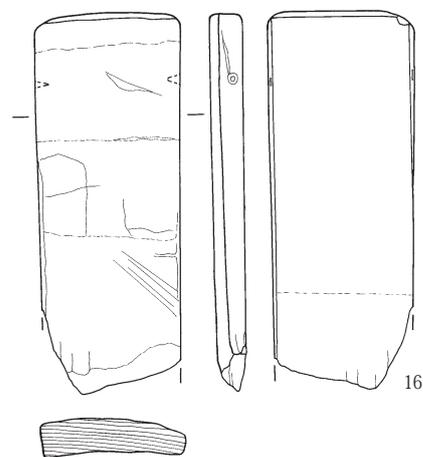
14



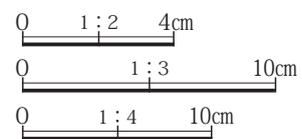
17



15



16



第69図 2区7号溝出土遺物(2)

れる。調査前の土地区画と一部一致する。出土遺物(1～17)から、本遺構の時期は近世と推定されるが、出土遺物に近現代遺物の小破片を含むことから最終的な埋没は現代の可能性もある。なお、2区における奈良・平安時代以前の遺構は竪穴住居3軒・土坑1基と少ないが、本遺構のように埋没土中から多くの土師器・須恵器・埴輪片が出土する中世遺構の溝・土坑等が存在することから、調査区周辺および溝の延長上に古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性がある。

2区9号溝(第70図、P L .33)

位置 X=29895～906、Y=-40424～430。

重複 2区16号溝、53～55・70号土坑と重複。本遺構が53～55・70号土坑より古い。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-30°-E。

規模 全長(12.00)m、幅0.71～1.38m、深さ0.21～0.42m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状または薬研状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片86g、須恵器片39g、埴輪片404gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。非掲載とした。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。石製品1点(外80)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 2区10号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形および2区53～55・70号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される(2区7号溝の項も参照)。

2区10号溝(第70図、P L .33)

位置 X=29897～906、Y=-40424～430。

重複 2区53・55・57・70号土坑、4号ピットと重複。本遺構が53・55・70号土坑、4号ピットより古く、57号土坑より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-30°-E。

規模 全長(10.14)m、幅0.38～0.68m、深さ0.03～0.26

m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状または皿状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片42gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区9号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致する。2区53・55・57・70号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区11号溝(第70図、P L .33・88)

位置 X=29900～907、Y=-40428～434。

重複 なし。

平面形状 南西方向から北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-38°-E。

規模 全長(7.86)m、幅0.30～0.40m、深さ0.22～0.33m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 瀬戸・美濃陶器筒形香炉1点(1)を図示した。他に、土師器片51g、埴輪片42gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 2区12～14・27号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。調査前の土地区画とほぼ一致する。出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定される。

2区12号溝(第70図、P L .33)

位置 X=29900～907、Y=-40429～434。

重複 なし。

平面形状 南西方向から北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-35°-E。

規模 全長(7.44)m、幅0.34～0.58m、深さ0.11～0.27m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。断面形は薬研状または凹字状。流水の形跡は見られない。

遺物 在地系土器鍋1点(1)を図示した。他に、土師器片39gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

た。出土遺物の土師器は混入と考えられる。

所見 2区11・13・14・27号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から、本遺構の時期は中世と推定されるが、出土遺物(1)から最終的埋没は近世まで下る可能性がある。

2区13号溝(第71図)

位置 X=29905~908、Y=-40432~434。

重複 2区14号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南西方向から北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-30°-E。

規模 全長(2.32)m、幅1.10~1.18m、深さ0.40m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片8g、須恵器片28g、近世国産施釉陶器片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった

所見 2区11・12・14・27号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。2区14号溝との重複関係および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、近世と推定される。

2区14号溝(第71図)

位置 X=29905~908、Y=-40433~436。

重複 2区13号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 南西方向から北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-33°-E。

規模 全長(2.31)m、幅1.94~2.15m、深さ0.79m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は薬研状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片12gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。出土遺物の土師器は混入と考えられる。

所見 2区11~13・27号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から、本遺構の時期は中世と推定される。

2区15号溝(第71図、P L.34)

位置 X=29897~898、Y=-40414~416。

重複 2区6号溝と重複。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-31°-E。

規模 全長(1.75)m、幅0.28~0.38m、深さ0.16~0.35m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片67gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致する、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区16号溝(第71図、P L.34)

位置 X=29887~897、Y=-40423~431。

重複 2区7・9号溝と重複。

平面形状 北西方向から南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-39°-W。

規模 全長(12.66)m、幅0.70~0.80m、深さ0.58~0.90m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状または薬研状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片80g、埴輪片20gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区19号溝(第71図、P L.34)

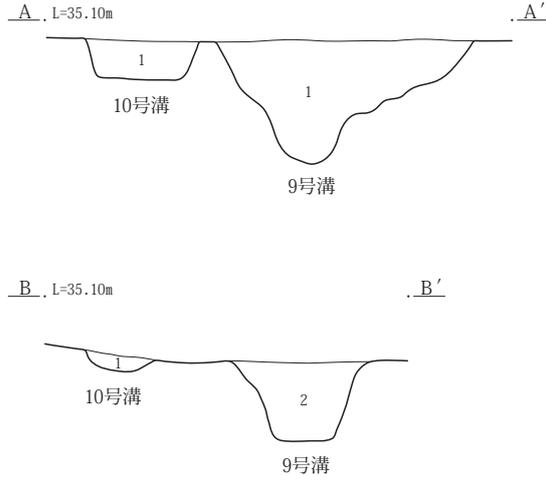
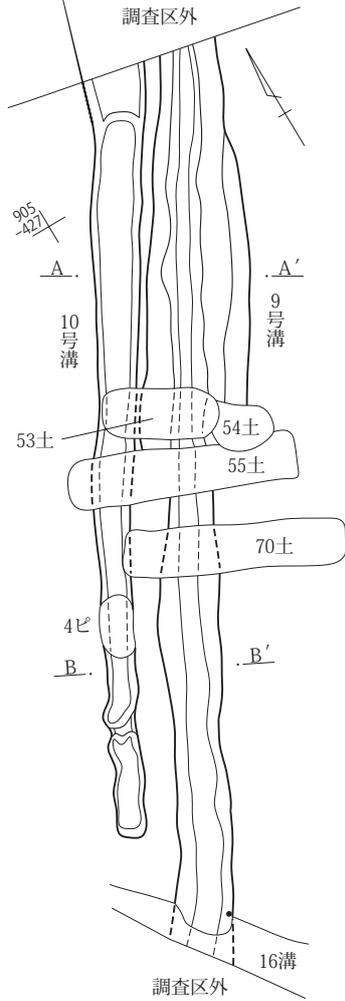
位置 X=29885~895、Y=-40403~409。

重複 2区3・5号溝、6号井戸と重複。本遺構が6号井戸より新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-29°-E。

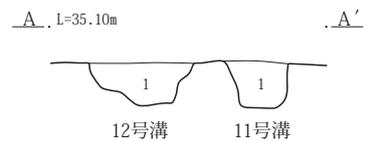
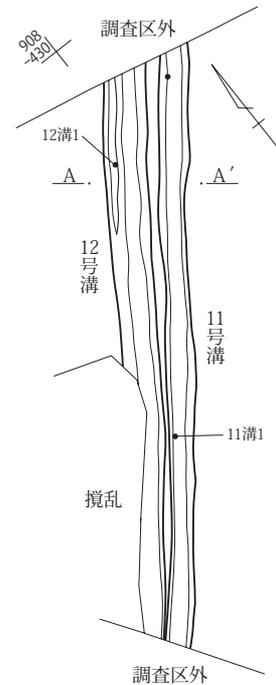
2区9・10号溝



2区9・10号溝

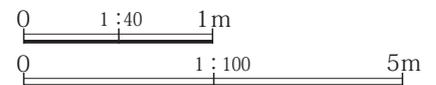
- 1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊20%。
- 2. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 ローム5%。

2区11・12号溝

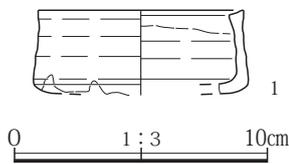


2区11・12号溝

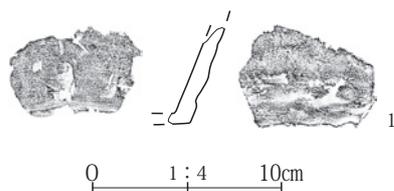
- 1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質。



11号溝出土遺物

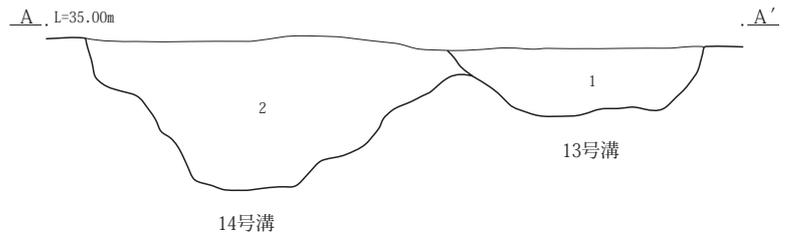
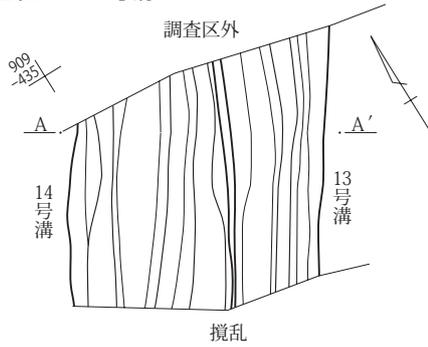


12号溝出土遺物



第70図 2区9～12号溝平断面、11・12号溝出土遺物

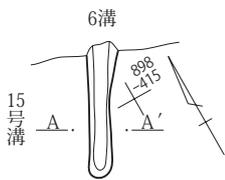
2区13・14号溝



2区13・14号溝

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ10mmローム粒3%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ10mmローム粒1%。

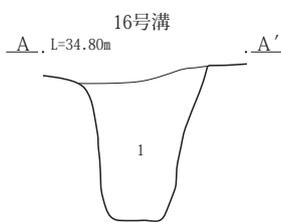
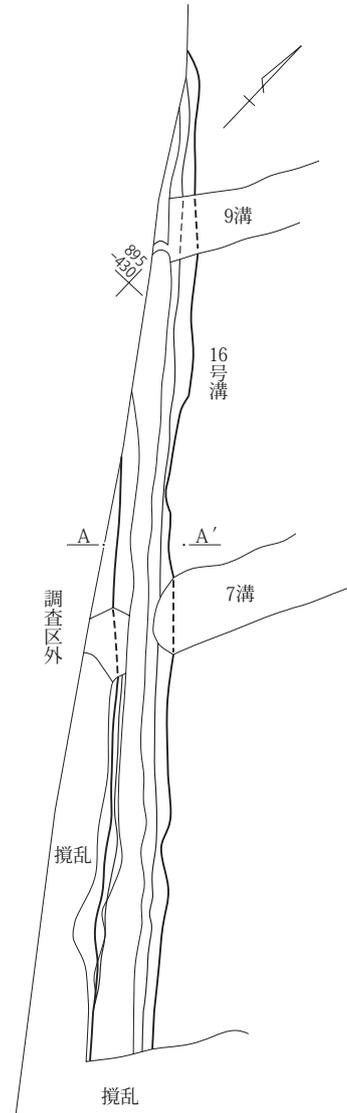
2区15号溝



2区15号溝

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム10%。

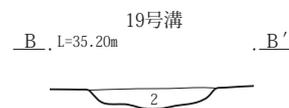
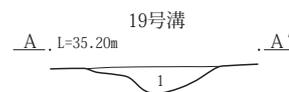
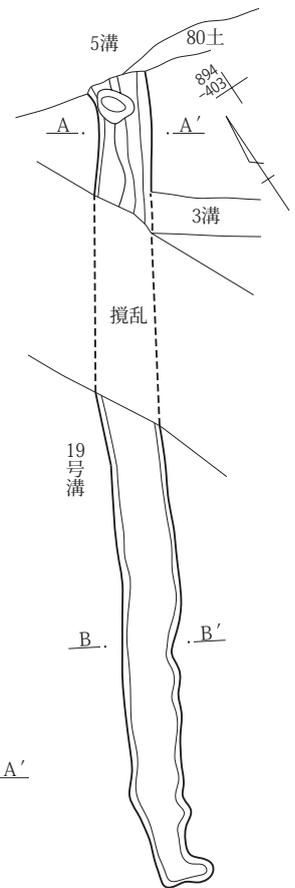
2区16号溝



2区16号溝

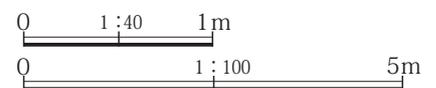
1. 黒褐色土(10YR3/1) 軟弱 卵大ローム塊・ローム粒5%。

2区19号溝



2区19号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3)とロームの混土。
2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム20%斑混。



第71図 2区13～16・19号溝平断面

規模 全長(10.70)m、幅0.45~0.80m、深さ0.08~0.16m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 近世国産施釉陶器片1g、時期不明土器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世遺物の小破片を含むことおよび周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区20号溝(第72図、P L .35)

位置 X=29877~885、Y=-40413~417。

重複 2区6号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-24°-E。

規模 全長(8.90)m、幅0.32~0.40m、深さ0.06~0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片17g、須恵器片18gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 2区21号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区21号溝(第72図、P L .35)

位置 X=29879~882、Y=-40413~414。

重複 なし。

平面形状 北北東方向から南南西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-15°-E。

規模 全長(2.70)m、幅0.12~0.31m、深さ0.03m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 2区20号溝と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区

画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区24号溝(第67図)

位置 X=29888~896、Y=-40410~414。

重複 2区6号溝、112号土坑と重複。本遺構が6号溝より古く、112号土坑より新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-20°-E。

規模 全長(9.14)m、幅0.28~0.34m、深さ0.04~0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片9g、近世国産陶器片18gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区6号溝の一部と並行する。流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。2区6号溝・112号土坑との重複関係および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

2区25号溝(第72図、P L .35)

位置 X=29879~882、Y=-40407~409。

重複 なし。

平面形状 北西方向から南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-40°-W。

規模 全長(3.00)m、幅0.22~0.30m、深さ0.07~0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。2区3号溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は近世と推定される。

2区26号溝(第72図、P L .35・88)

位置 X=29901~904、Y=-40407~414。

重複 2区7号溝、108号土坑と重複。本遺構が108号土坑より古い。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-75°-W。

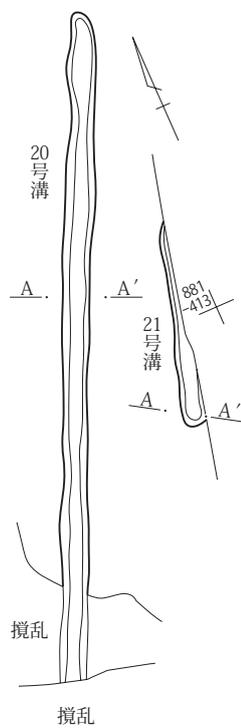
規模 全長(6.88)m、幅(0.16~0.38)m、深さ0.06~0.37m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 近世在地系土器皿1点(1)を図示した。他に、土師器片25g、時期不明瓦片48gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。出土遺物の土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定される。

2区20・21号溝



2区20号溝

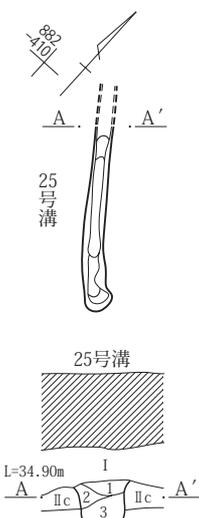
1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密。



2区21号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。

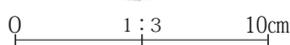
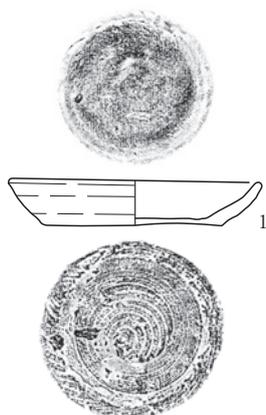
2区25号溝



2区25号溝

1. 黒褐色土(10YR2/2)。
2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム20%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ローム10%。

26号溝出土遺物



2区27号溝(第72図、P L.35)

位置 X=29905~908、Y=-40430~432。

重複 なし。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-28°-E。

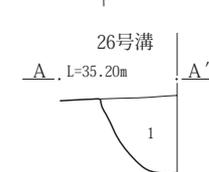
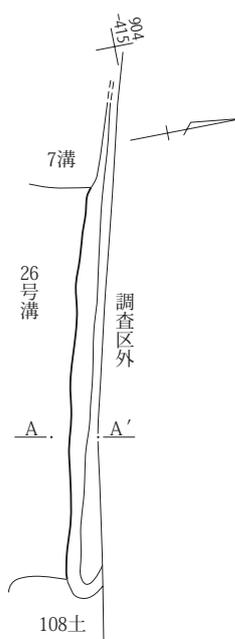
規模 全長(2.98)m、幅0.45~0.75m、深さ0.58~0.81m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は薬研状。流水の形跡は見られない。上位ににぶい黄褐色土・中位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から、本遺構の時期は中世と推定される。

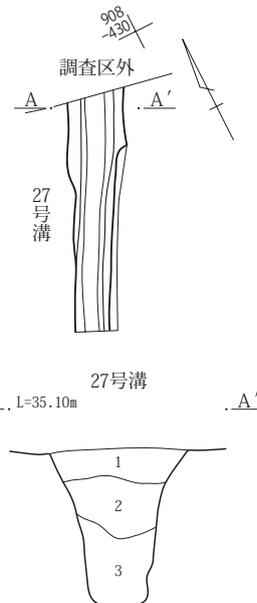
2区26号溝



2区26号溝

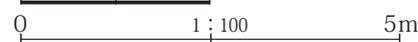
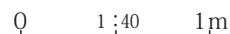
1. 黒褐色土(10YR3/2) 均質 ローム微混。

2区27号溝



2区27号溝

1. 黒褐色土(10YR2/2)とローム粒の混土。
2. 黒褐色土(10YR2/2)とローム塊の混土。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 軟質 ローム10%。



第72図 2区20・21・25~27号溝平面断面、26号溝出土遺物

3区1号溝(第73図、P L .36)

位置 X=29856~869、Y=-40245~267。

重複 3区1・3号掘立柱建物、5・8・9号溝、13・16・25号土坑、19・23号ピットと重複。本遺構が1・3号掘立柱建物、5号溝、19・23号ピットより新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-62°-W。

規模 全長(25.18)m、幅0.52~0.94m、深さ0.04~0.30m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片80gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 3区2号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区2号溝(第73図、P L .36)

位置 X=29855~859、Y=-40246~253。

重複 3区1号掘立柱建物、5・10号溝、2号土坑と重複。本遺構が1号掘立柱建物、5号溝、2号土坑より新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-63°-W。

規模 全長7.52m、幅0.32~0.50m、深さ0.07~0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片42g、時期不明土器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 3区1号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ同じであることから、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区3号溝(第73図、P L .36)

位置 X=29850~858、Y=-40245~259。

重複 3区1・3号掘立柱建物、4・5号溝、3号井戸、8~11号土坑、22号ピットと重複。本遺構が1・3号掘立柱建物、4・5号溝、3号井戸、22号ピットより新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。東端が鉤手状に曲がる。

長軸方位 N-73°-W・N-26°-E。

規模 全長(19.92)m、幅0.40~0.52m、深さ0.05~0.51m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片235g、時期不明土器片21g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。出土遺物の土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。3区1・3号掘立柱建物、4・5号溝、22号ピットとの重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区4号溝(第74・75図、P L .36・88)

位置 X=29849~881、Y=-40249~319。

重複 3区1号竪穴住居、3・5・6・8・9・24号溝、10・11・20・21号土坑と重複。本遺構が3・8・9号溝より古く、1号竪穴住居、5・6号溝より新しい。

平面形状 西北西方向から東南東方向にほぼ直線。

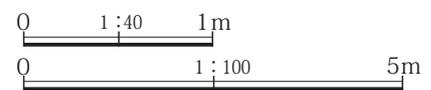
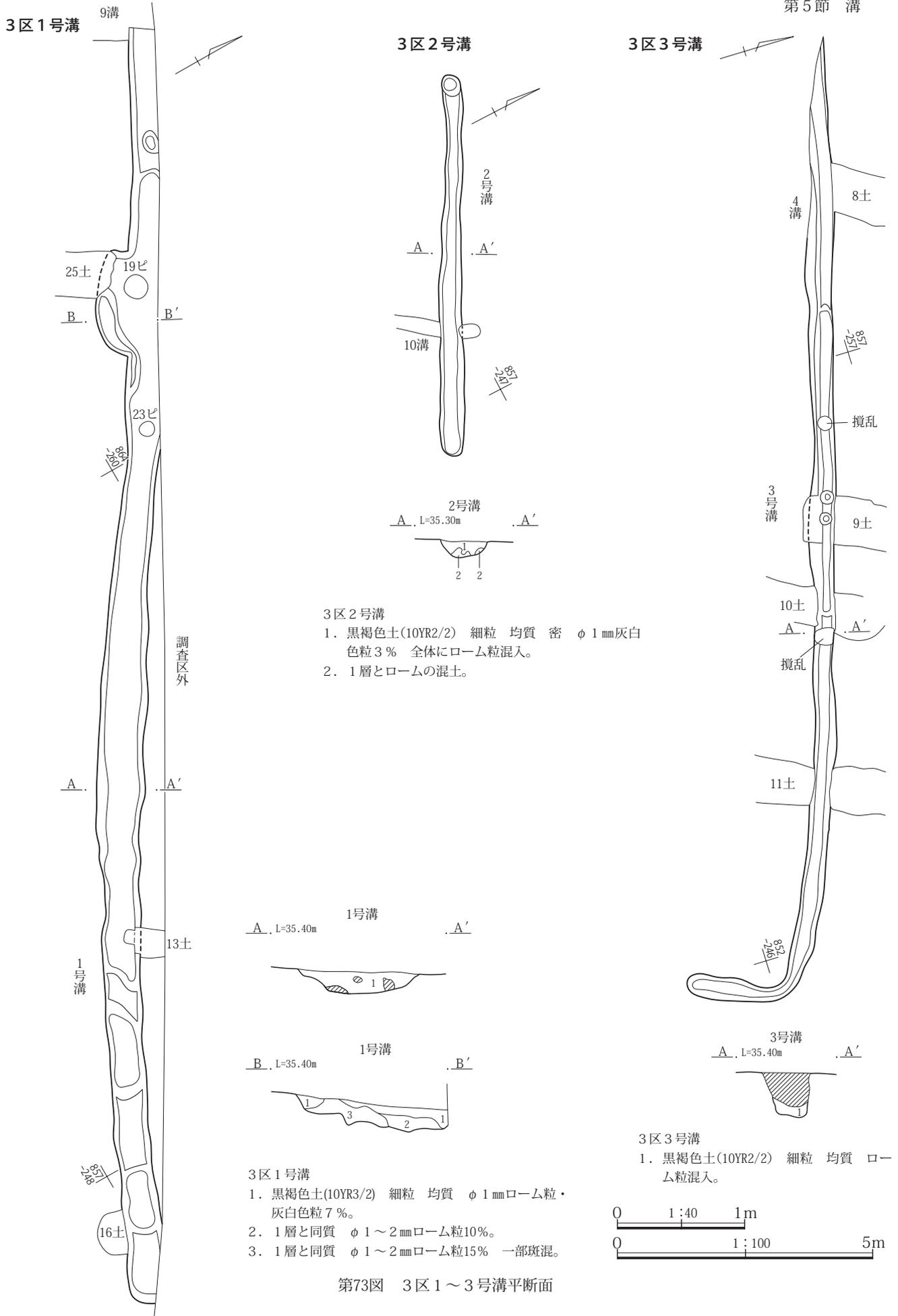
長軸方位 N-63°-W。

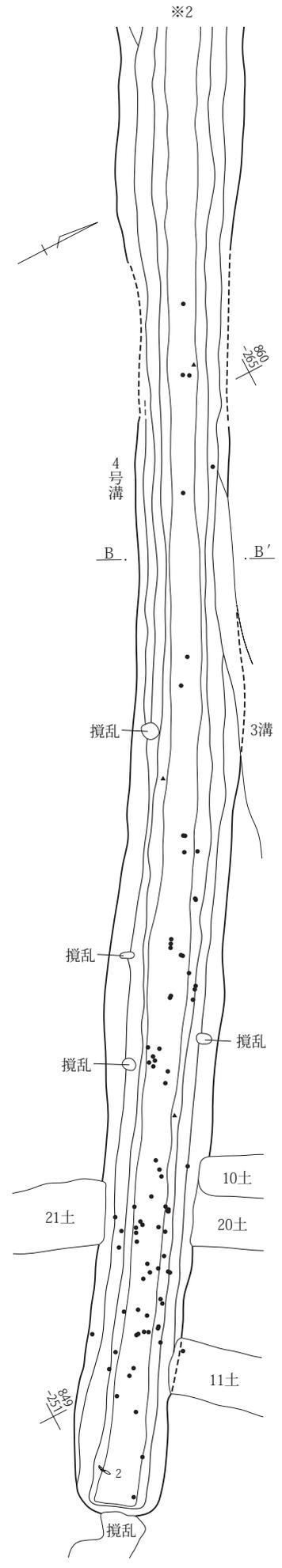
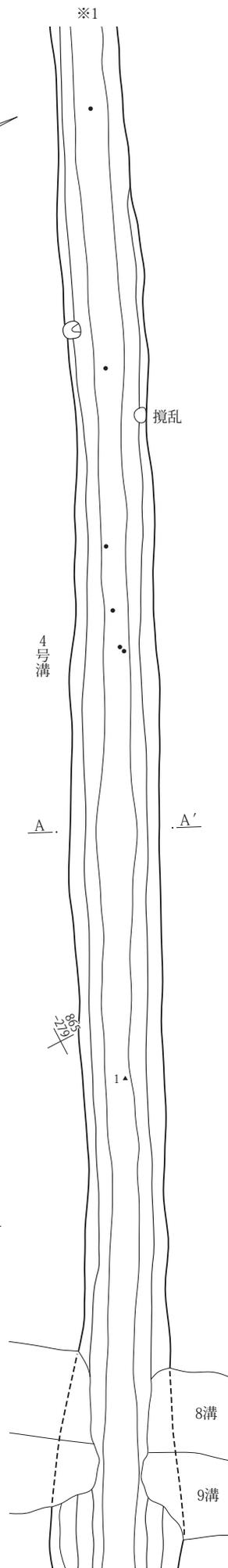
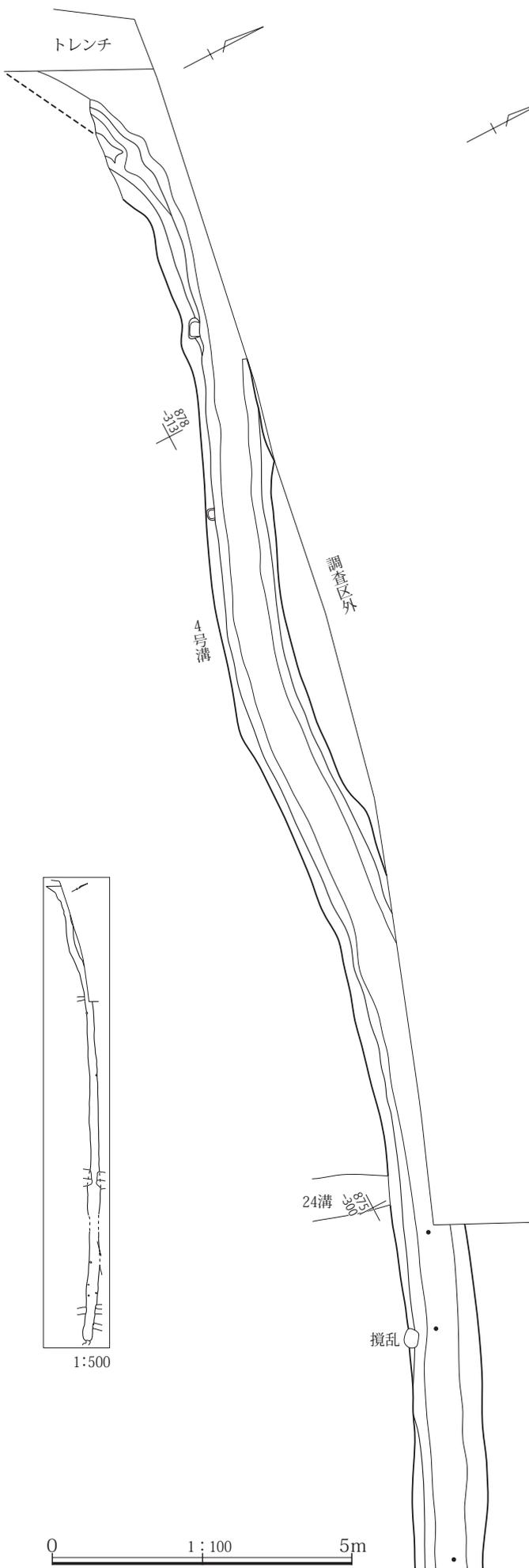
規模 全長(76.68)m、幅1.50~2.06m、深さ0.21~1.17m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、18層が観察された。断面形は逆台形状または薬研状。流水の形跡は見られない。中位以下にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

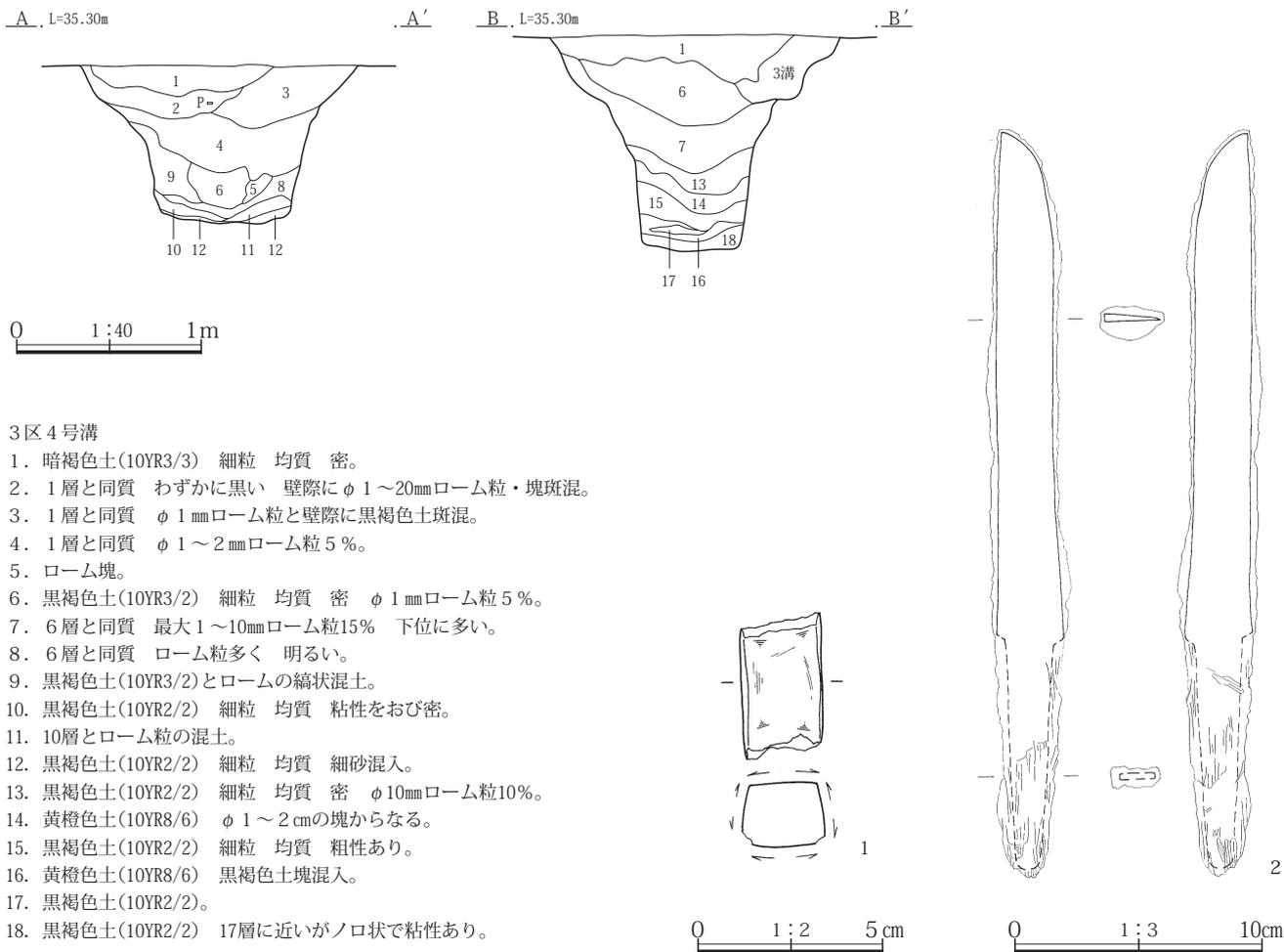
遺物 砥石1点(1)、鉄製小刀1点(2)を図示した。他に、土師器片7,637g、須恵器片921g、埴輪片280g、時期不明土器片212gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。

所見 3区6・7号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられ、屋敷を囲う堀の可能性はあるが、区画内部と見られる南側に同時期の遺構が存在せず、詳細は不明である。重複関係および7号溝出土遺物から、6号溝が最も古く本遺構と7号溝が掘り直しと考えられる。断面形および3区1号竪穴住居、3・5・6・8・9号溝との重複関係から、本遺構の時期は中世





※1 ※2
第74図 3区4号溝平面



3区4号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 わずかに黒い 壁際にφ1~20mmローム粒・塊斑混。
3. 1層と同質 φ1mmローム粒と壁際に黒褐色土斑混。
4. 1層と同質 φ1~2mmローム粒5%。
5. ローム塊。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒5%。
7. 6層と同質 最大1~10mmローム粒15% 下位に多い。
8. 6層と同質 ローム粒多く 明るい。
9. 黒褐色土(10YR3/2)とロームの縞状混土。
10. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 粘性をおび密。
11. 10層とローム粒の混土。
12. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 細砂混入。
13. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ10mmローム粒10%。
14. 黄橙色土(10YR8/6) φ1~2cmの塊からなる。
15. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 粗性あり。
16. 黄橙色土(10YR8/6) 黒褐色土塊混入。
17. 黒褐色土(10YR2/2)。
18. 黒褐色土(10YR2/2) 17層に近いがノロ状で粘性あり。

第75図 3区4号溝断面、出土遺物

と推定されるが、中世の遺物は出土していない。

3区5号溝(第76~79図、P L. 37・88・89)

位置 X=29849~857、Y=-40243~254。

重複 3区1~4・12号溝、4号井戸、11・58号土坑、4~6・17・20~22号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 北北東方向から南南西方向にほぼ直線。4区5号溝と同一遺構と推定され、一体で方形区画をなす。

長軸方位 N-35°-E。

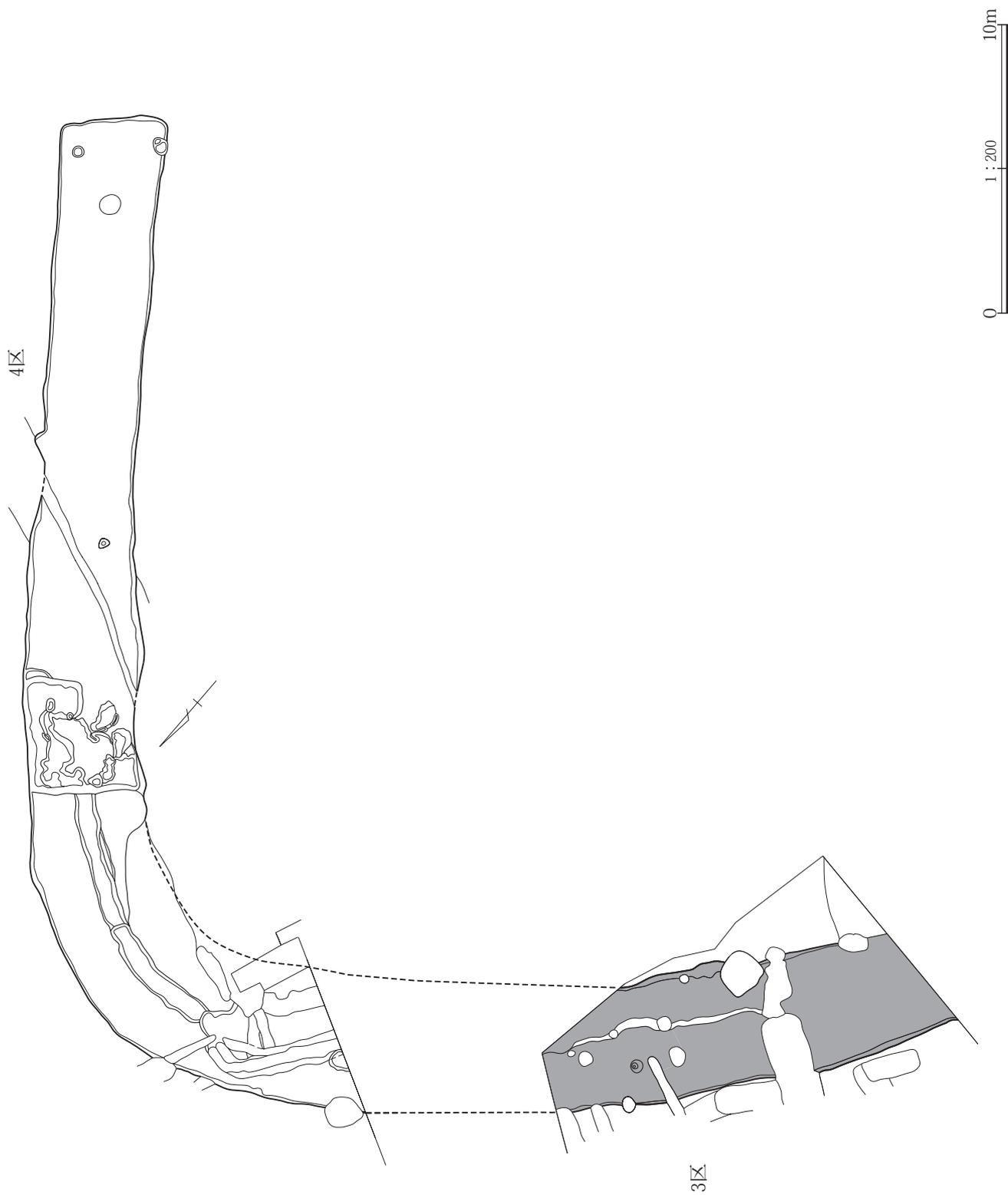
規模 全長(13.32)m、幅3.16~4.10m、深さ0.15~0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、8層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器杯1点(1)・高坏3点(2~4)・埴5点(5

~9)・台付甕1点(10)・甕5点(11~15)・手捏ね1点(16)、剣形石製模造品1点(17)、砥石1点(18)を図示した。底面より0.05~0.10m程の高さから集中して出土した。他に、土師器片16,837g、須恵器片257g、時期不明土器片244g出土しているが、小破片のため図示できなかった。磨石1点(外74)を遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 調査区を跨ぎ4区5号溝と本遺構が一体をなす可能性が高い。本遺構は、1区の方形周溝墓とは溝の断面形が異なり、古墳としては埴輪の出土がない。よって、規模的には豪族居館の周堀などが想定されるが、掘りが浅く内部の状態が削平されていることから、積極的に性格付けすることは困難である。本遺構の時期は出土遺物(1~16)から5世紀前半と推定される。

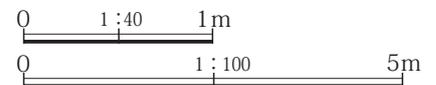
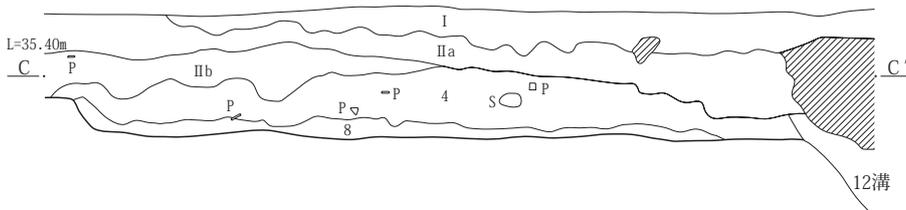
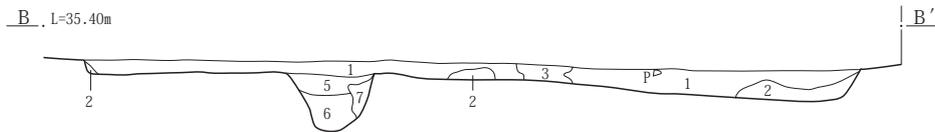


第76図 3区5号溝・4区5号溝位置関係(1)

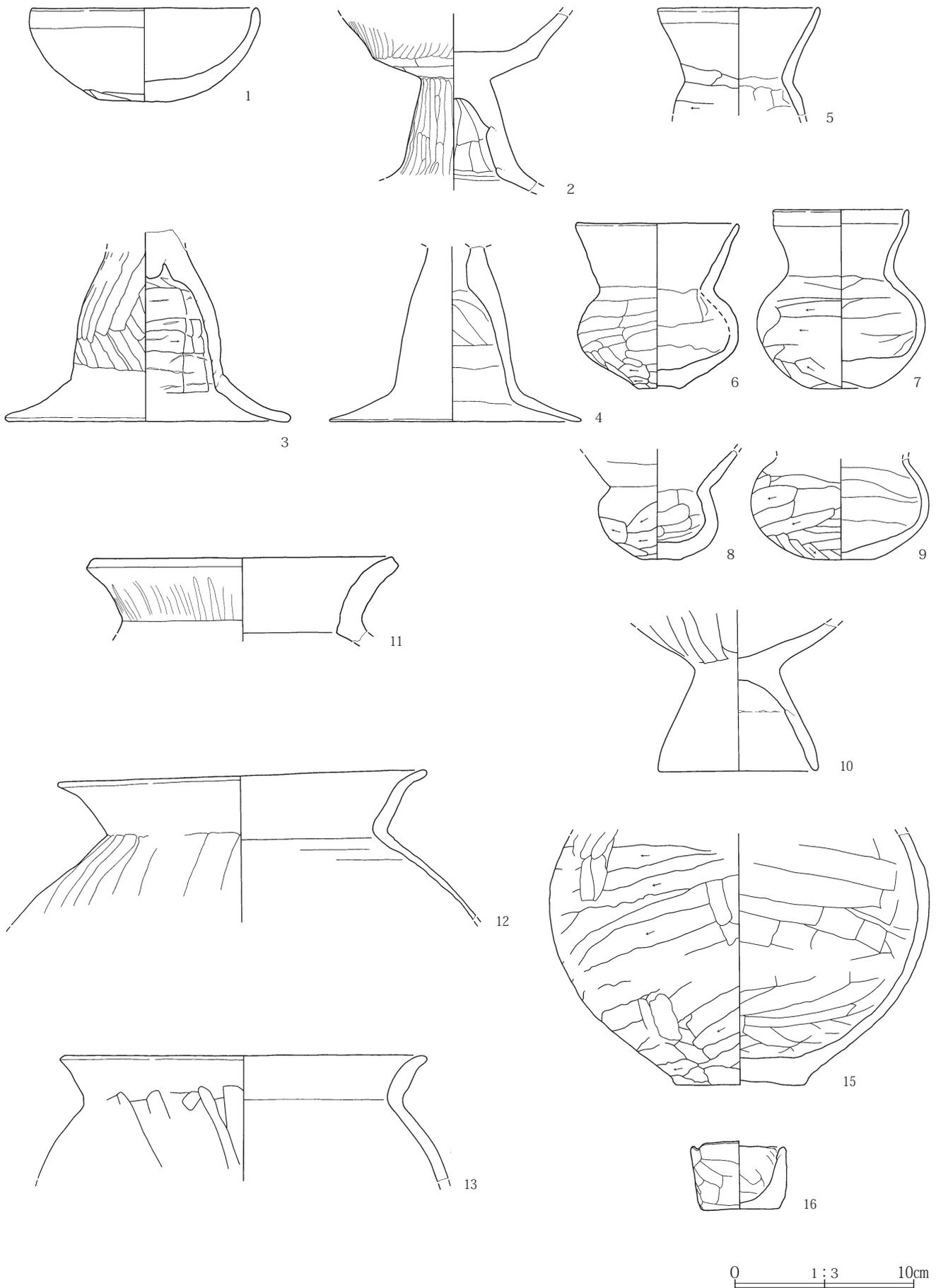


3区5号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 灰白色粒・ローム粒2%。
2. 1層と同質 φ1mmローム粒7%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒壁際10%・中央部3%。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ1mmローム粒少混。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 φ1~2mmローム粒5%。
7. 6層と同質 ローム粒50%。
8. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 粘性あり φ1~10mmローム粒10%。

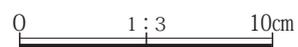
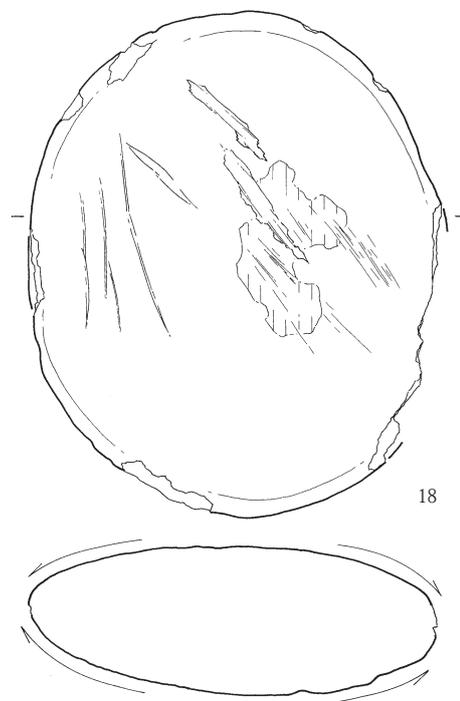
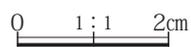
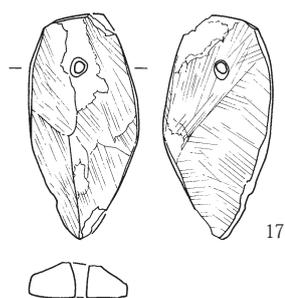
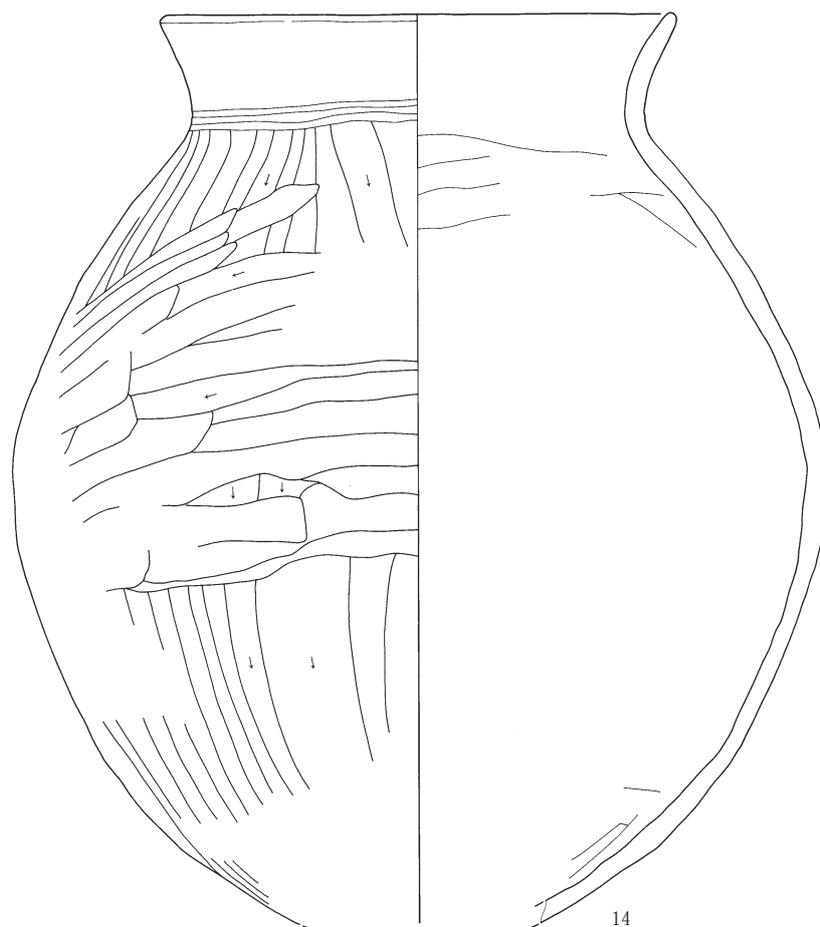


第77図 3区5号溝平断面



0 1:3 10cm

第78図 3区5号溝出土遺物(1)



第79図 3区5号溝出土遺物(2)

3区6号溝(第80・81図、P L .38・90)

位置 X=29845~880、Y=-40255~320。

重複 3区2号竪穴住居、4・8・9・15・21・23・24号溝、29・30号土坑と重複。本遺構が4・8・9・15号溝、29・30号土坑より古く、2号竪穴住居より新しい。

平面形状 西北西方向から東南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-60°-W。

規模 全長(67.24)m、幅1.50~3.04m、深さ0.30~1.17m。

埋没土層 黒色土・褐色土主体、13層が観察された。断面形は逆台形状または葉研状。流水の形跡は見られない。上位・下位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 石製品1点(1)を図示した。他に、土師器片6,788g、須恵器片353g、時期不明土器片41gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。土師器手捏2点(外32・33)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 3区4・7号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられ、屋敷を囲う堀の可能性があるが、区画内部と見られる南側に同時期の遺構が存在せず、詳細は不明である。重複関係および7号溝出土遺物から、本遺構が最も古く4・7号溝が掘り直しと考えられる。断面形および3区2号竪穴住居、4・8・9号溝、29・30号土坑との重複関係から、中世と推定されるが、中世の遺物は出土していない。なお、3区における奈良・平安時代以前の遺構は竪穴住居2軒・掘立柱建物3棟・溝1条・井戸4基と少ないが、本遺構のように埋没土中から多くの土師器・須恵器・埴輪片が出土する中世以降の溝・土坑等が存在することから、調査区周辺および溝の延長上に古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性がある。

3区7号溝(第81・82図、P L .38)

位置 X=29848~866、Y=-40268~311。

重複 3区8・9・11・19・20・24号溝、30・31・57・60号土坑と重複。本遺構が8・9・11・20・24号溝、30・31・57・60号土坑より古い。

平面形状 方形区画をなす。

長軸方位 N-61°-W・N-39°-E。

規模 全長(46.18)m、幅1.04~1.84m、深さ0.16~0.95m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、20層が観察された。断面形は逆台形状または葉研状。流水の形跡は見られない。上位・下位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片5,364g、須恵器片273g、埴輪片146g、近世国産磁器片2g、国産施釉陶器片16g、国産焼締陶器片33g、在地系土器片60g、時期不明土器片105g、石核1点、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。土師器高坏2点(外4・6)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 3区4・6号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられ、屋敷を囲う堀の可能性があるが、区画内部と見られる南側に同時期の遺構が存在せず、詳細は不明である。4・6号溝の重複関係および本遺構が出土遺物に微量ながら近世遺物の小破片を含むことから、6号溝が最も古く4号溝、本遺構と掘り直しがなされたと考えられる。また、24号溝と一体でT字状をなす可能性もある。断面形および3区8・9・20・24号溝、30・31・57・60号土坑との重複関係から、中世と推定されるが、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は近世に下る可能性がある(3区6号溝の項も参照)。

3区8号溝(第83図、P L .38)

位置 X=29850~870、Y=-40268~282。

重複 3区1・4・6・7・9号溝と重複。本遺構が4・6・7号溝より新しい。

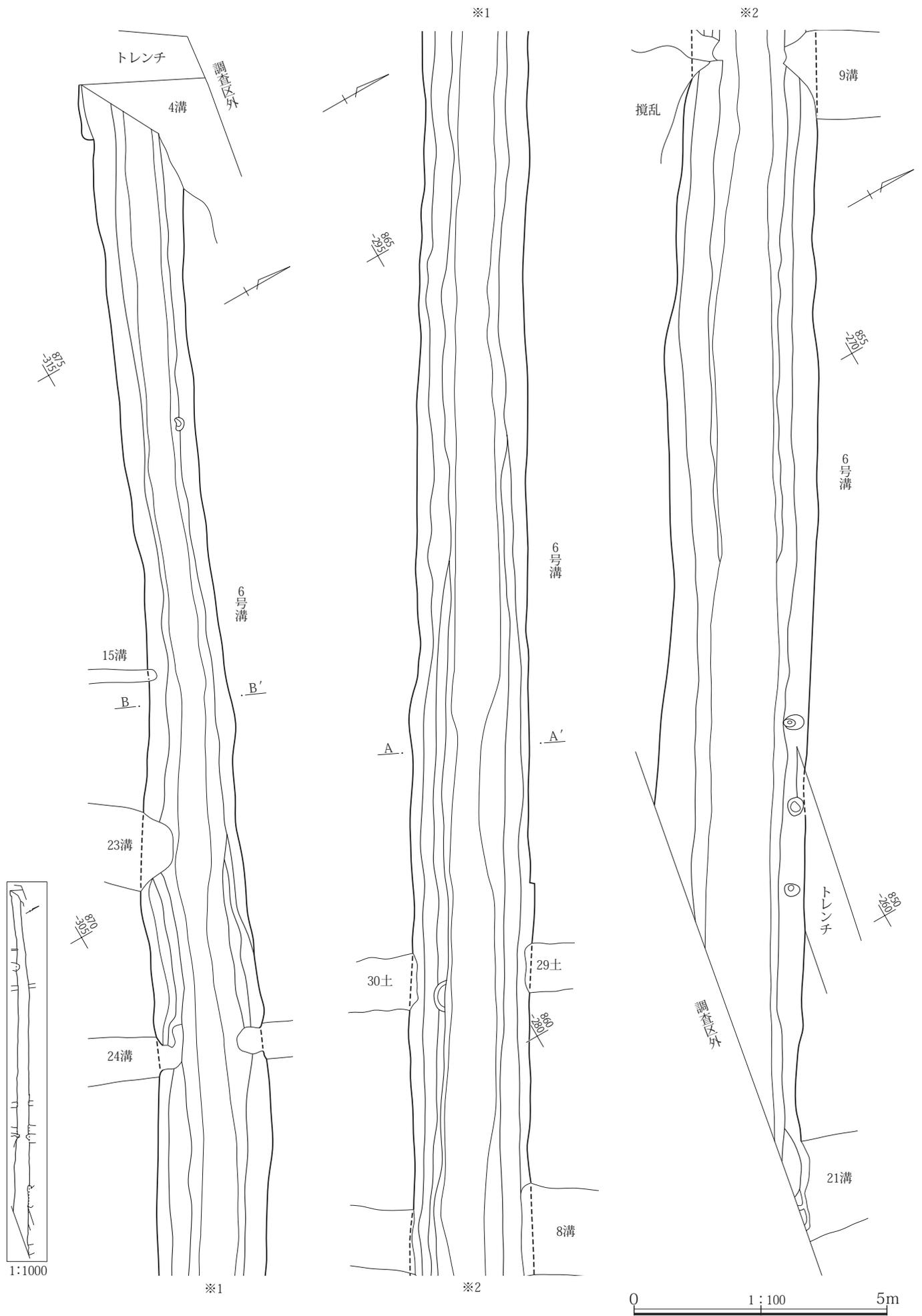
平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-33°-E。

規模 全長(22.78)m、幅2.26~3.50m、深さ0.06~0.34m。

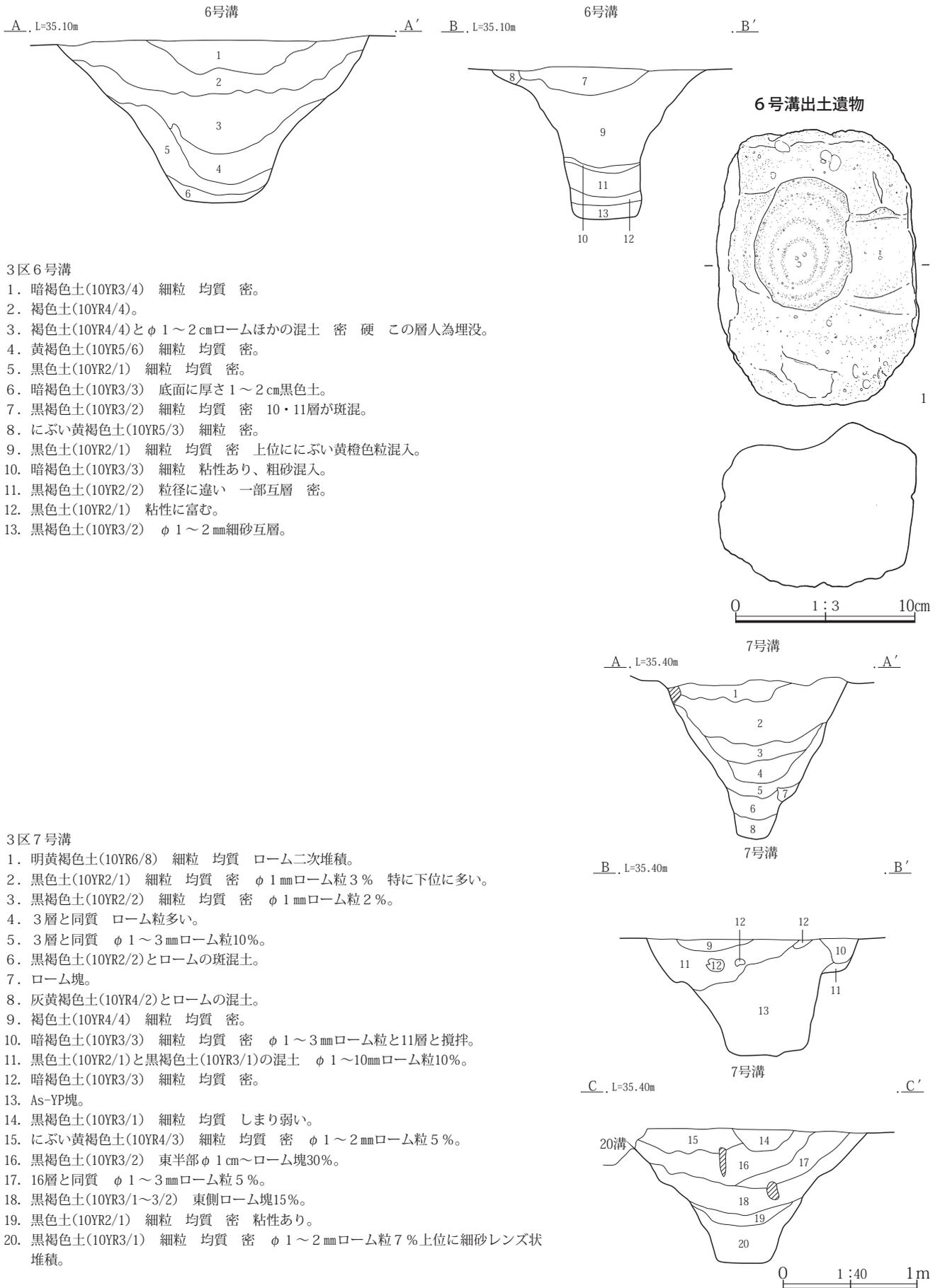
埋没土層 不明。

遺物 土師器片1,861g、須恵器片127g、近世国産施釉陶器片52g、不明土器片65gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。



第80図 3区6号溝平面

第3章 確認された遺構と遺物



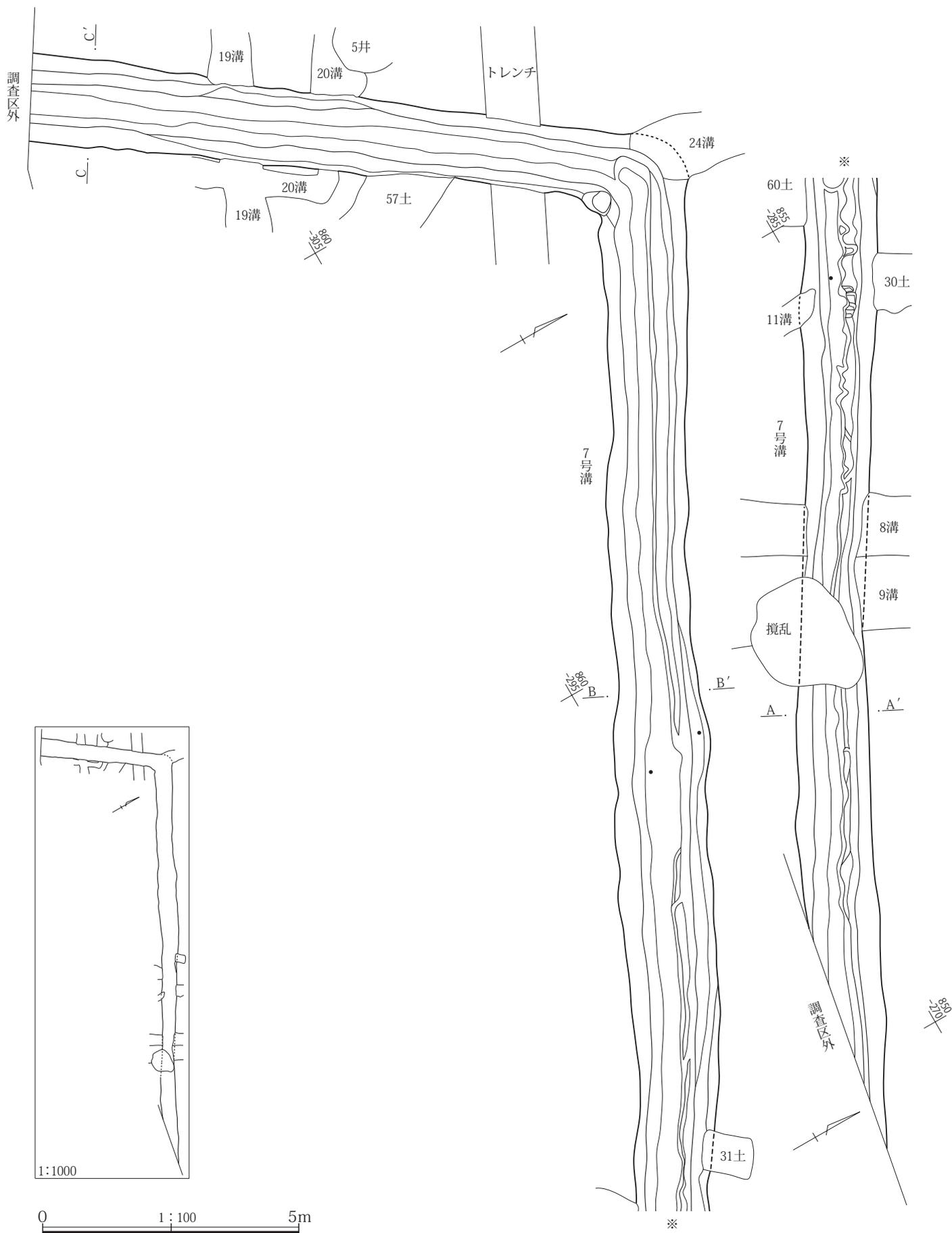
3区6号溝

1. 暗褐色土(10YR3/4) 細粒 均質 密。
2. 褐色土(10YR4/4)。
3. 褐色土(10YR4/4)とφ1~2cmロームほかの混土 密 硬 この層人為埋没。
4. 黄褐色土(10YR5/6) 細粒 均質 密。
5. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 底面に厚さ1~2cm黒色土。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 10・11層が斑混。
8. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒 密。
9. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 上位ににぶい黄橙色粒混入。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 粘性あり、粗砂混入。
11. 黒褐色土(10YR2/2) 粒径に違い 一部互層 密。
12. 黒色土(10YR2/1) 粘性に富む。
13. 黒褐色土(10YR3/2) φ1~2mm細砂互層。

3区7号溝

1. 明黄褐色土(10YR6/8) 細粒 均質 ローム二次堆積。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒3% 特に下位に多い。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒2%。
4. 3層と同質 ローム粒多い。
5. 3層と同質 φ1~3mmローム粒10%。
6. 黒褐色土(10YR2/2)とロームの斑混土。
7. ローム塊。
8. 灰黄褐色土(10YR4/2)とロームの混土。
9. 褐色土(10YR4/4) 細粒 均質 密。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1~3mmローム粒と11層と攪拌。
11. 黒色土(10YR2/1)と黒褐色土(10YR3/1)の混土 φ1~10mmローム粒10%。
12. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。
13. As-YP塊。
14. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 しまり弱い。
15. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 φ1~2mmローム粒5%。
16. 黒褐色土(10YR3/2) 東半部φ1cm~ローム塊30%。
17. 16層と同質 φ1~3mmローム粒5%。
18. 黒褐色土(10YR3/1~3/2) 東側ローム塊15%。
19. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 粘性あり。
20. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ1~2mmローム粒7%上位に細砂レンズ状堆積。

第81図 3区6・7号溝断面、6号溝出土遺物



第82図 3区7号溝平面

所見 3区4・6・7号溝との位置関係から、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世遺物の小破片を含むことおよび3区4・6・7号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定されるが、最終的な埋没は近世の可能性はある。

3区9号溝(第83図、P L .38)

位置 X=29850~869、Y=-40267~279。

重複 3区1・4・6・7・8号溝と重複。本遺構が4・6・7号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-33°-E。

規模 全長(21.78)m、幅0.84~1.08m、深さ0.39~0.61m。

埋没土層 不明。

遺物 時期不明土器片135gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 3区4・6・7号溝との位置関係から、本遺構は区画溝と考えられる。3区4・6・7号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区10号溝(第83図、P L .38)

位置 X=29855~857、Y=-40248~250。

重複 3区2号溝と重複。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-34°-E。

規模 全長(1.68m)、幅0.26~0.32m、深さ0.09~0.11m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡が見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区11号溝(第83図、P L .38)

位置 X=29850~855、Y=-40282~284。

重複 3区7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南方向から北方向にほぼ直線。

長軸方位 N-14°-W。

規模 全長(4.52)m、幅0.54~0.80m、深さ0.29~0.34m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片160g、須恵器片43g、近世国産施釉陶器片8g、時期不明土器片324gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡が見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

3区12号溝(第83図、P L .39)

位置 X=29849~851、Y=-40247~250。

重複 3区5号溝、58号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南南東方向から北北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-25°-W。

規模 全長(3.28)m、幅1.20m以上、深さ0.29~0.74m以上。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、5層が観察された。断面形は薬研状か。流水の形跡は見られない。掘り返しの可能性がある。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。断面形および3区5号溝、58号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中世と推定される。

3区13号溝(第84図、P L .39)

位置 X=29850~857、Y=-40283~297。

重複 3区14号溝、42・61号土坑と重複。本遺構が42号土坑より古い。

平面形状 南南東方向から北北西方向に弧状。

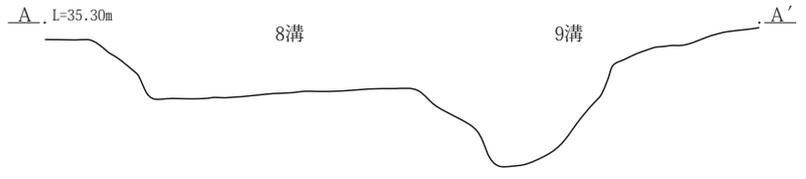
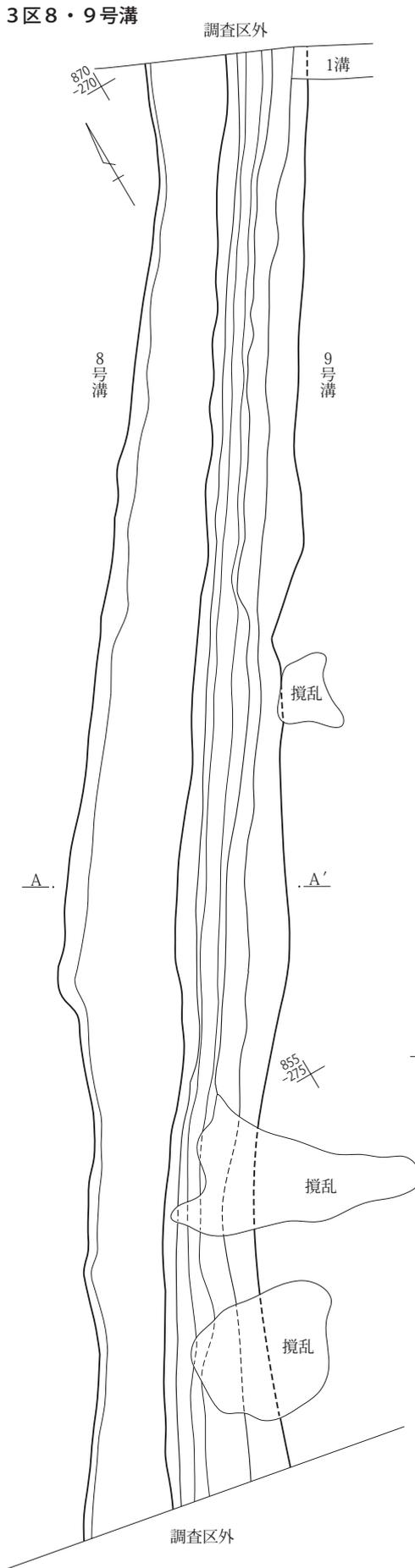
長軸方位 N-52°-W。

規模 全長(5.12)m、幅0.32~2.26m、深さ0.04~0.34m。

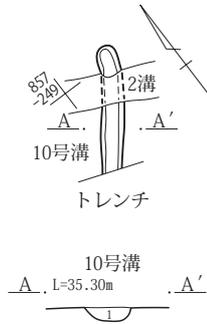
埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。断面形は逆台形状または皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片309g、近世国産施釉陶器79g、在地系土器225g、十能瓦片252g、近現代土器片252g、時期

3区8・9号溝



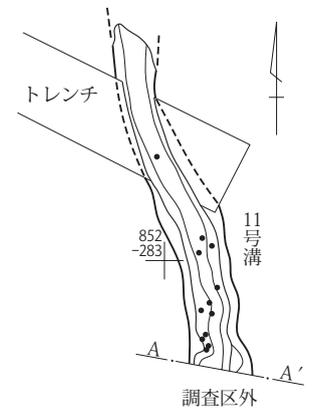
3区10号溝



3区10号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 φ 1~2mmローム粒混入。

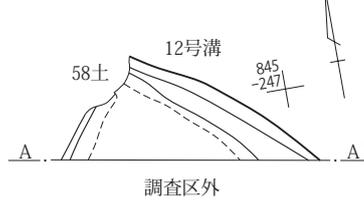
3区11号溝



3区11号溝

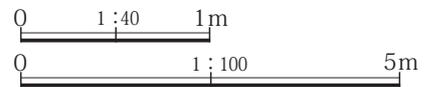
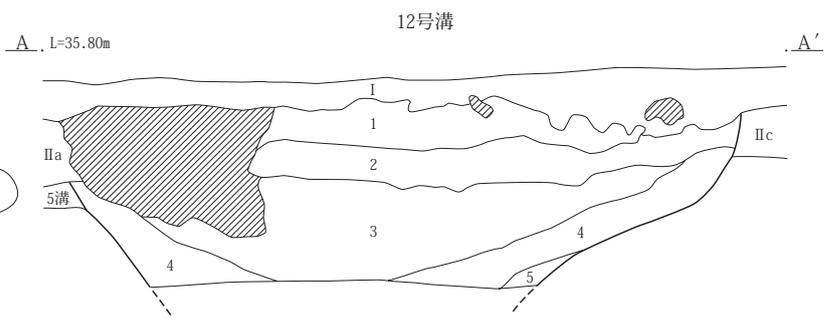
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 φ 1~2mmローム粒5%。
2. 1層と同質 ローム粒10% 全体に黄色味をおびる。

3区12号溝



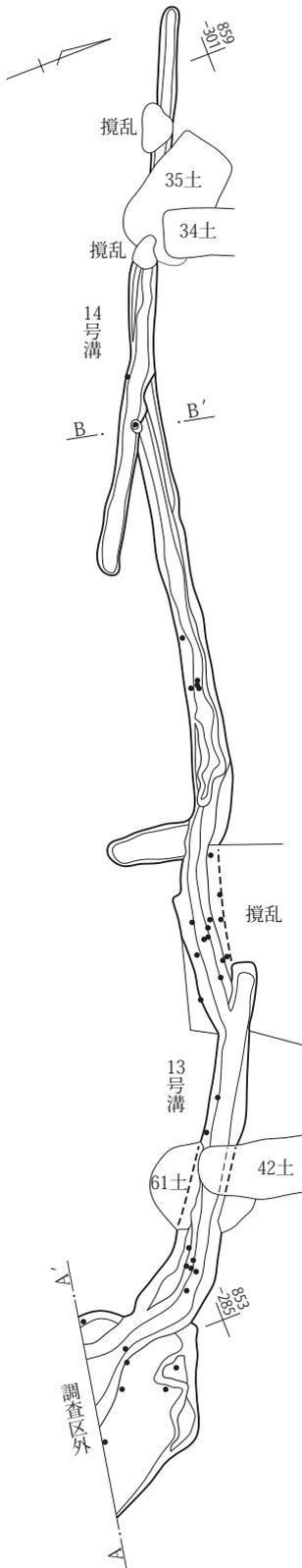
3区12号溝

1. 褐色土(10YR4/4) 細粒 均質 密 灰白色微砂混入。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 鉄分凝集あり。
4. 3層と同質 3層より黒く 橙色微砂ほか混入。
5. 4層と同質 ローム粒多く黄色味をおびる。

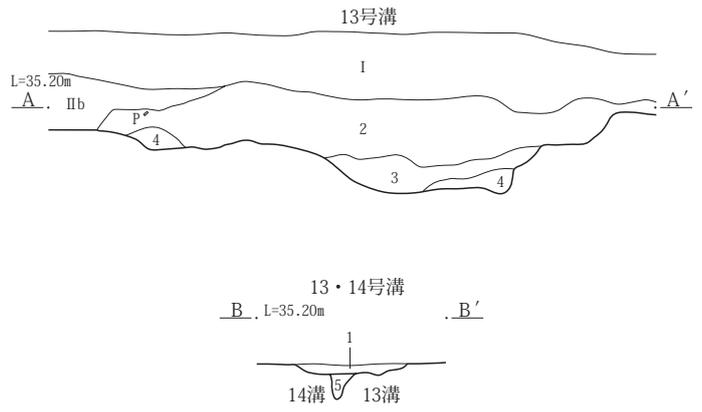
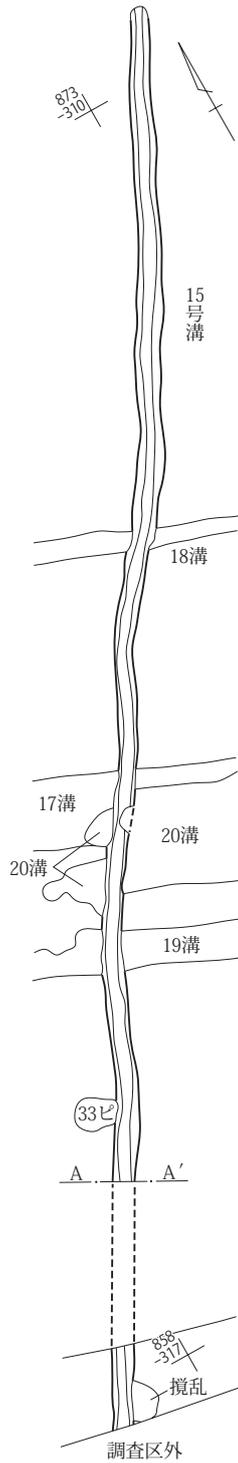


第83図 3区8~12号溝平面図

3区13・14号溝

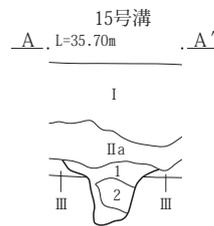


3区15号溝



3区13・14号溝

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ 1~10mmローム粒・As-YP塊 10%。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒15% ローム粒は一部集中。
4. 3層と同質 ローム粒20%。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1~2mmローム粒3%。



3区15号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒5%。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

第84図 3区13~15号溝平面図

不明土器片541g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。
所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。断面形および3区42号土坑との重複関係、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

3区14号溝(第84図、P L .39)

位置 X=29855~859、Y=-40295~302。

重複 3区13号溝、35号土坑と重複。本遺構が35号土坑より古い。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-63°-W。

規模 全長(6.18)m、幅0.26~0.38m、深さ0.01~0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片5g、近世在地系土器片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

3区15号溝(第84図、P L .39)

位置 X=29860~874、Y=-40308~317。

重複 3区6・17~20号溝、33号ピットと重複。本遺構が6号溝より新しい。

平面形状 西南西方向から東北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-30°-W。

規模 全長(15.58)m、幅0.26~0.38m、深さ0.09~0.28m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は皿状または逆台形状。流水の形跡は見られない。掘り返しの可能性がある。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区16号溝(第85図、P L .39)

位置 X=29861~865、Y=-40317~319。

重複 なし。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-25°-E。

規模 全長(2.94)m、幅0.10~0.29m、深さ0.01~0.03m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 3区19号溝と一体となり、方形区画をなす可能性がある。方形区画は18号溝、17・20号溝による区画と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。3区19号溝との関係から、本遺構の時期は近世と推定される。

3区17号溝(第85図、P L .39)

位置 X=29861~866、Y=-40312~320。

重複 3区15・20号溝と重複。本遺構が20号溝より古い。

平面形状 3区20号溝と一体で方形区画をなす。

長軸方位 N-67°-W・N-34°-E。

規模 全長(8.62)m、幅0.20~0.98m、深さ0.01~0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 3区20号溝は本遺構の掘り直しと考えられ、一体として方形区画をなす。方形区画は18号溝、16・19号溝による区画と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。3区20号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区18号溝(第85図、P L .39)

位置 X=29862~870、Y=-40306~321。

重複 3区15・23号溝と重複。本遺構が23号溝より新しい。

平面形状 方形区画をなす。

長軸方位 N-68°-W・N-33°-E。

規模 全長(18.92)m、幅0.25~1.00m、深さ0.02~0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 方形区画は3区16・19号溝、17・20号溝による区画と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区19号溝(第85図、P L .39)

位置 X=29857~864、Y=-40303~317。

重複 3区7・16・20・22・23号溝と重複。本遺構が23号溝より新しい。

平面形状 東南東方向から西北西方向にほぼ直線。

長軸方位 N-67°-W。

規模 全長11.12m、幅0.28~0.90m、深さ0.02~0.33m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片7g、近世国産施釉土器片43g、在地系土器片155g、時期不明土器片122gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 3区16号溝と一体となり、方形区画をなす可能性がある。方形区画は18号溝、17・20号溝による区画と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

3区20号溝(第85図、P L .39・90)

位置 X=29856~865、Y=-40305~316。

重複 3区7・15・17・19・23号溝、5号井戸、36号ピットと重複。本遺構が5号井戸より古く、7・17・23号溝、36号ピットより新しい。

平面形状 3区17号溝と一体で方形区画をなす。

長軸方位 N-66°-W・N-36°-E。

規模 検出全長12.62m、幅0.46~1.62m、深さ0.08~0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 砥石1点(1)を図示した。土師器片34gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混

入と考えられる。

所見 本遺構は3区17号溝の掘り直しと考えられ、一体として方形区画をなす。方形区画は18号溝、16・19号溝による区画と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。3区7・17号溝、5号井戸、36号ピットとの重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区21号溝(第86図、P L .40)

位置 X=29845~850、Y=-40252~257。

重複 3区21・56号土坑、6号溝と重複。

平面形状 鉤手状。

長軸方位 N-81°-W・N-9°-E。

規模 全長(6.62)m、幅0.94~1.92m、深さ0.08~0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 土師器片228gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区22号溝(第85図、P L .40)

位置 X=29854~859、Y=-40304~306。

重複 3区19号溝と重複。

平面形状 南方向から北方向にほぼ直線。

長軸方位 N-11°-W。

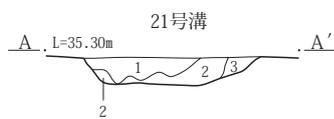
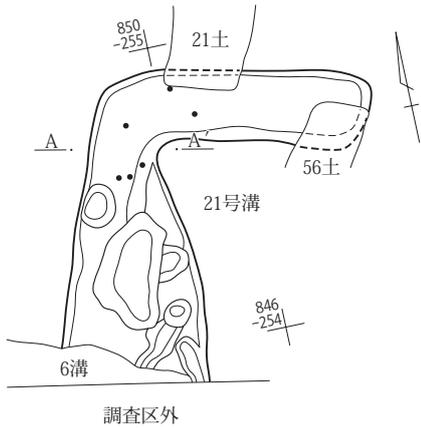
規模 検出全長3.28m、幅0.44~0.88m、深さ0.05~0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は不整形。流水の形跡は見られない。ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 十能瓦片63gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

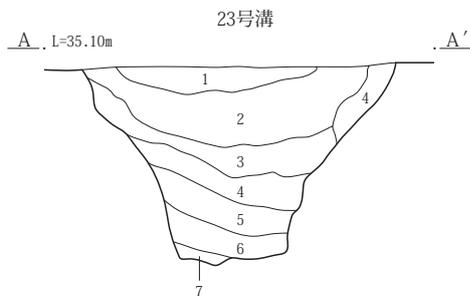
所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

3区21号溝



3区21号溝

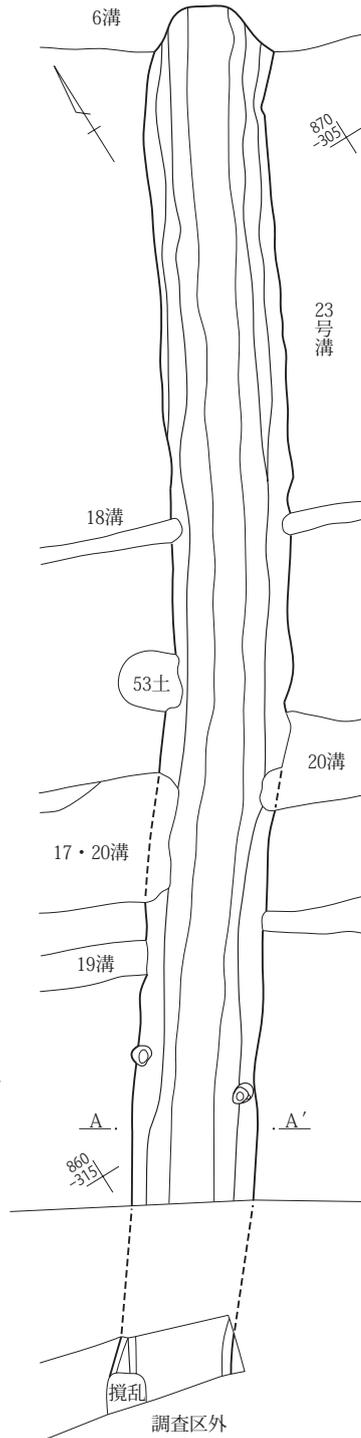
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~3mmローム粒5%とローム漸移層斑混。
2. 1層と同質 ローム粒15% 下位に集中。
3. 1層と同質 ローム粒50%以上。



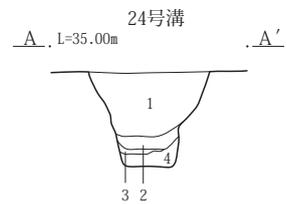
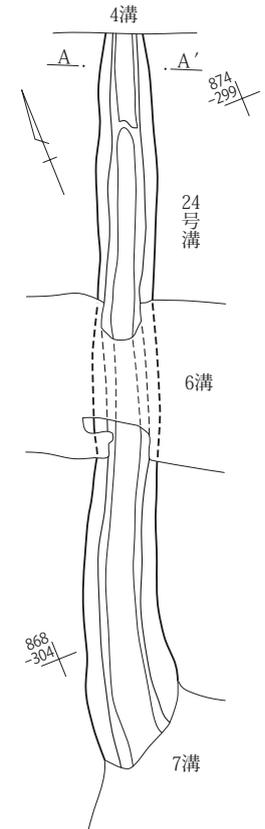
3区23号溝

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒5%。
3. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒10%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 壁際上位 ϕ 1~10mmローム粒25% 粘性ある黒色土斑混。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
6. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 薄い縞状の互層。
7. 黒色土(10YR2/1) 細粒 ノロ状。

3区23号溝

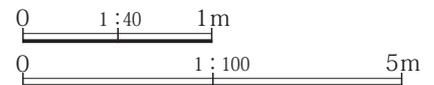


3区24号溝



3区24号溝

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒3% 壁際に多い。
2. ローム塊。
3. 黒色土(10YR2/1) ノロ状堆積物 粘性に富む。
4. 2層と3層の薄い縞状混土。



第86図 3区21・23・24号溝平断面

3区23号溝(第86図、P L .40)

位置 X=29859~873、Y=-40305~315。

重複 3区6・18~20号溝、53号土坑と重複。本遺構が18~20号溝より古い。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-32°-E。

規模 全長(14.89)m、幅1.26~1.62m、深さ0.96~1.01m。

埋没土層 黒褐色土主体、7層が観察された。断面形は葉研状。流水の形跡は見られない。下位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片261g、須恵器片253g、近世国産施釉陶器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中世溝と走向がほぼ一致することおよび断面形から、本遺構の時期は中世と推定されるが、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は近世に下る可能性がある。

3区24号溝(第86図、P L .39)

位置 X=29871~876、Y=-40300~302。

重複 3区4・6・7号溝と重複。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-22°-E。

規模 全長(8.06)m、幅0.64~1.20m、深さ0.52~0.67m。

埋没土層 黒色土主体、4層が観察された。断面形は葉研状。3層ノロ状、4層縞状堆積。上位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片170g、須恵器片23gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 3層ノロ状、4層縞状堆積と流水もしくは湛水の形跡が見られる。本遺構は区画溝と考えられる。3区4・6号溝と一体で十字交叉、または7号溝と一体でT字状をなす可能性がある。周囲の中世溝と走向がほぼ一致することおよび断面形から、本遺構の時期は中世と推定される。

4区1号溝(第87図、P L .41)

位置 X=29835~859、Y=-40179~193。

重複 4区22号土坑、24号ピットと重複。本遺構が22号土坑より古く、24号ピットより新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-28°-E。

規模 全長(27.70)m、幅0.56~1.16m、深さ0.03~0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、7層が観察された。断面形は皿状または不整形。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片602g、須恵器片17g、近世国産磁器片7g、国産施釉陶器片2g、在地系土器片11g、近現代陶磁器片2g、時期不明土器片44gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

4区2号溝(第87図、P L .41・90)

位置 X=29846~862、Y=-40196~204。

重複 4区2号竪穴住居、3号溝、52・54号ピットと重複。本遺構が2号竪穴住居、52・54号ピットより新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-30°-E。

規模 全長(17.90)m、幅0.46~0.96m、深さ0.08~0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 鉄製釘1点(1)を図示した。他に、土師器片161gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、区画溝と考えられる。出土遺物(1)から、本遺構の時期は近世と推定される。

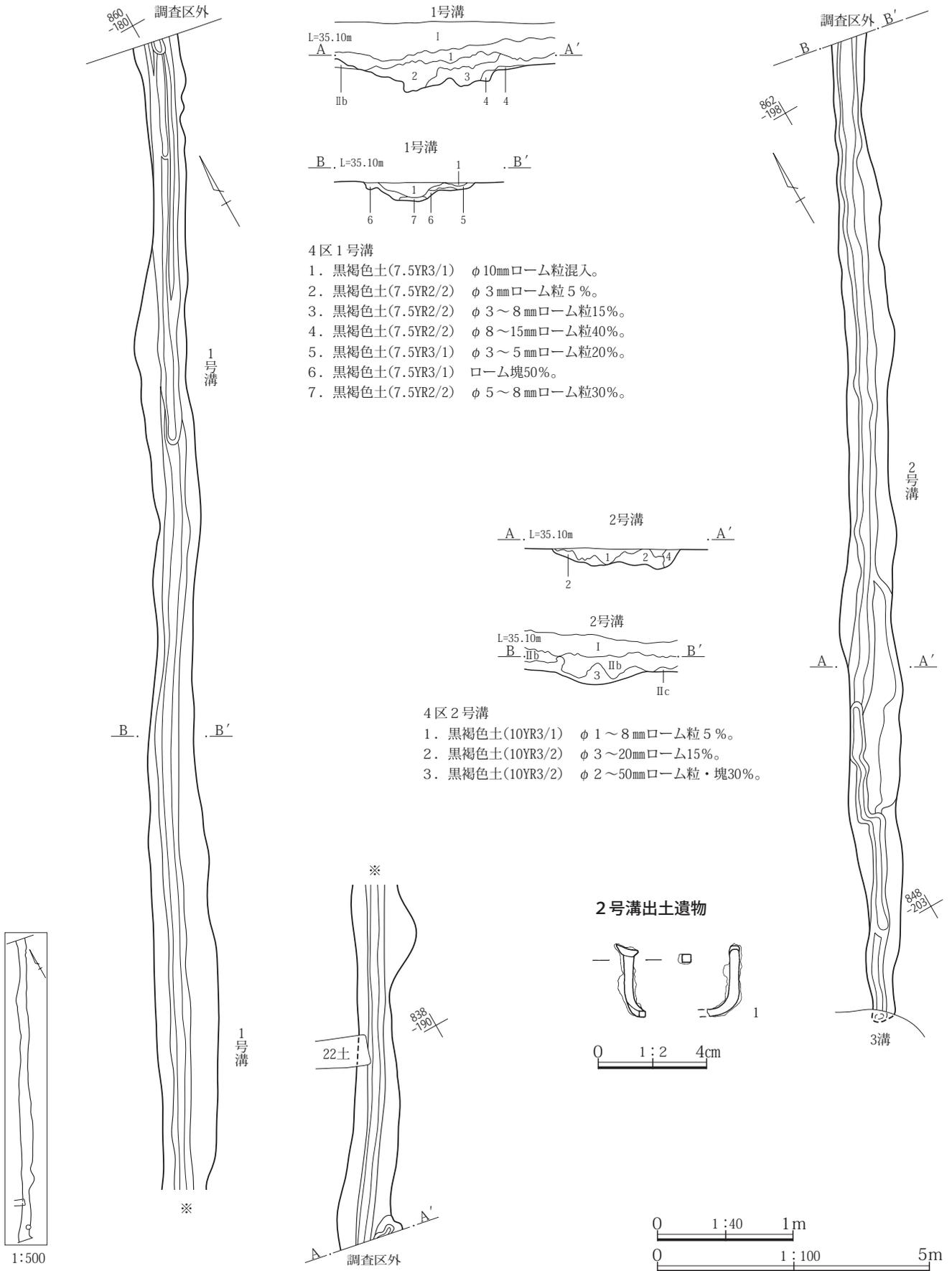
4区3号溝(第88~90図、P L .41・90)

位置 X=29838~861、Y=-40204~235。

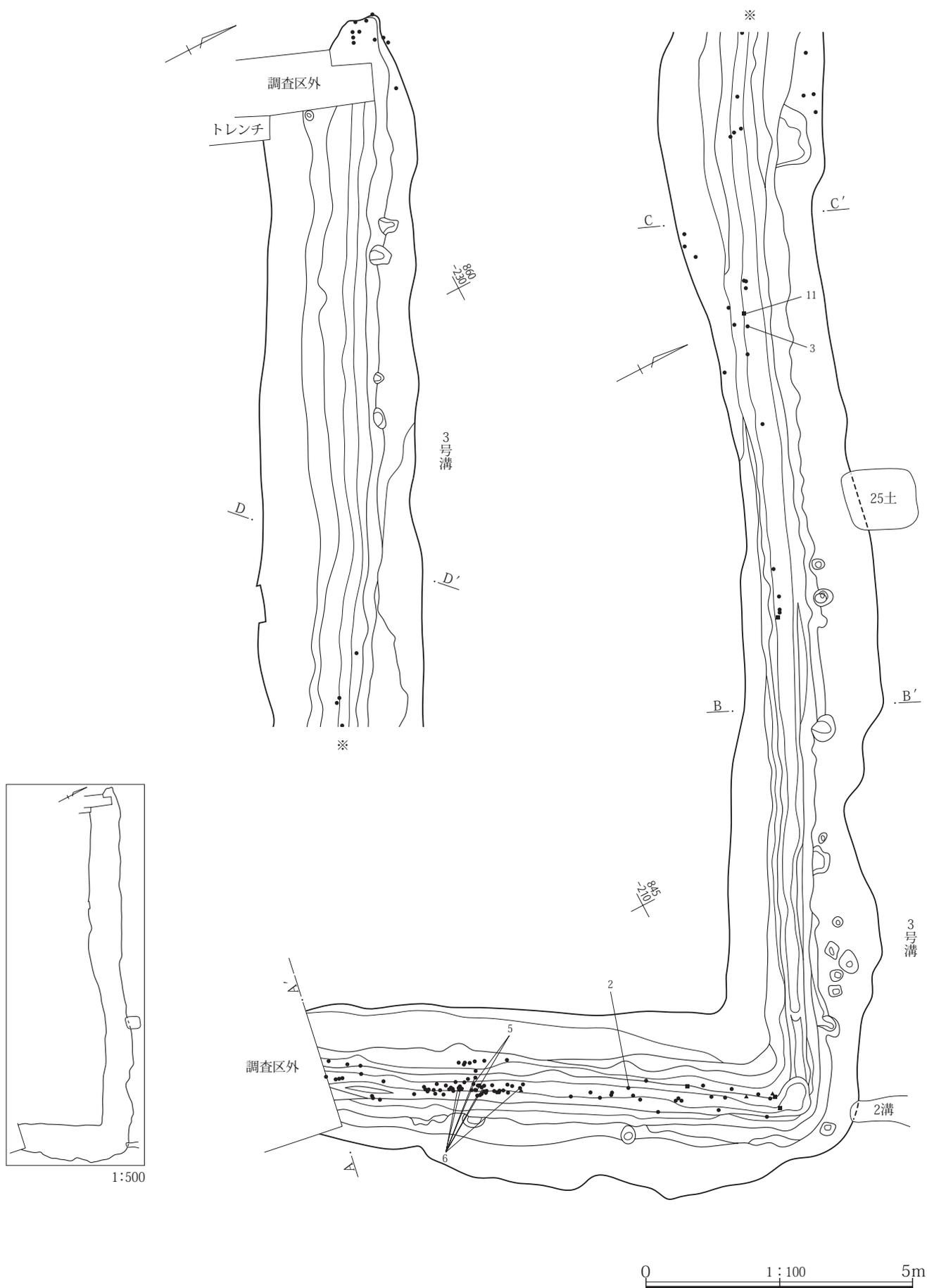
重複 4区2・5・12・14・15号溝、25号土坑と重複。

4区1号溝

4区2号溝

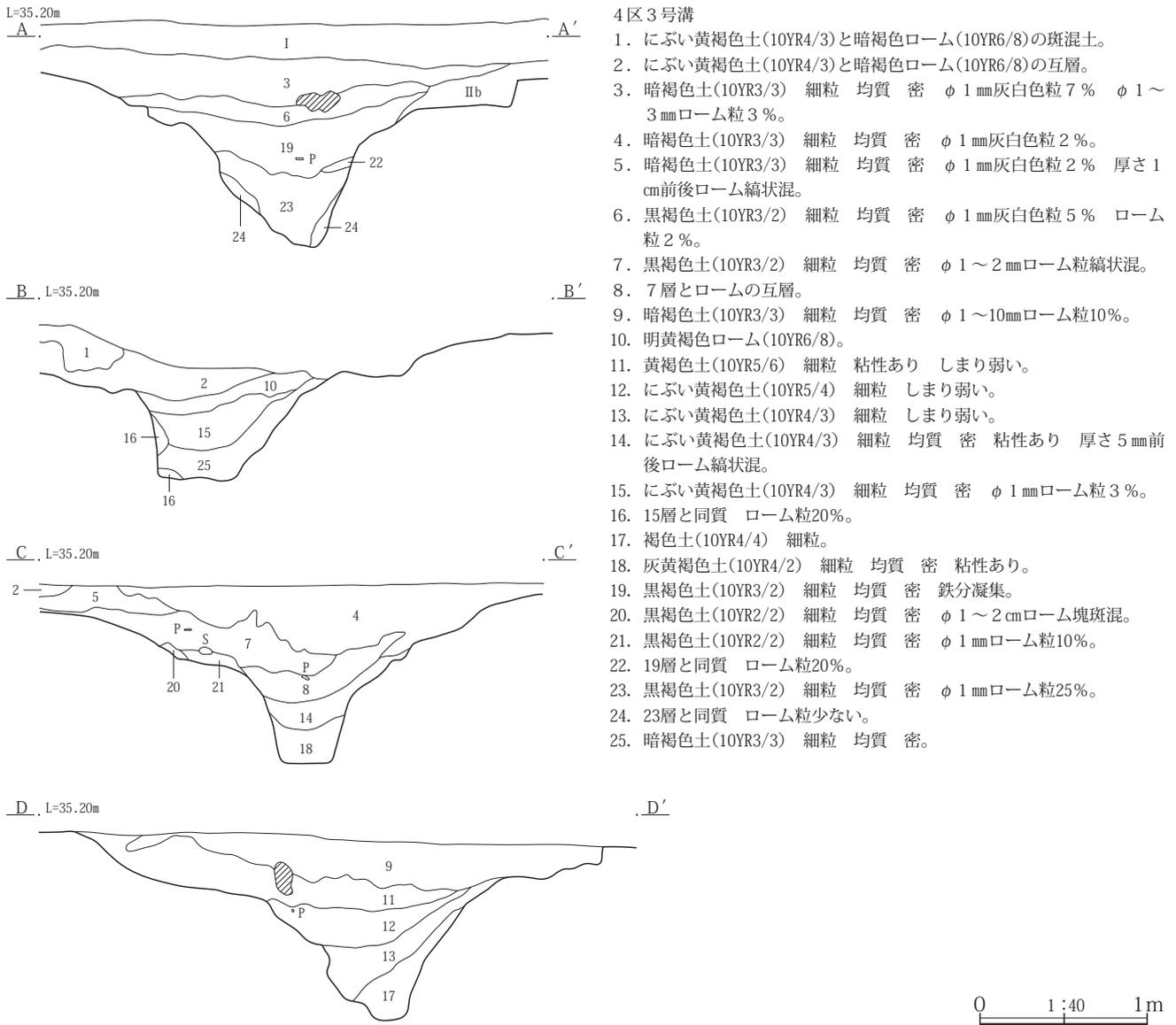


第87図 4区1・2号溝平面、2号溝出土遺物



第88図 4区3号溝平面

第3章 確認された遺構と遺物



- 4区3号溝
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3)と暗褐色ローム(10YR6/8)の斑混土。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)と暗褐色ローム(10YR6/8)の互層。
 3. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ 1mm灰白色粒 7% φ 1~3mmローム粒 3%。
 4. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ 1mm灰白色粒 2%。
 5. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ 1mm灰白色粒 2% 厚さ 1cm前後ローム縞状混。
 6. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1mm灰白色粒 5% ローム粒 2%。
 7. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1~2mmローム粒縞状混。
 8. 7層とロームの互層。
 9. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ 1~10mmローム粒10%。
 10. 明黄褐色ローム(10YR6/8)。
 11. 黄褐色土(10YR5/6) 細粒 粘性あり しまり弱い。
 12. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 細粒 しまり弱い。
 13. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 しまり弱い。
 14. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 粘性あり 厚さ 5mm前後ローム縞状混。
 15. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒 3%。
 16. 15層と同質 ローム粒20%。
 17. 褐色土(10YR4/4) 細粒。
 18. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 密 粘性あり。
 19. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 鉄分凝集。
 20. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~2cmローム塊斑混。
 21. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒10%。
 22. 19層と同質 ローム粒20%。
 23. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒25%。
 24. 23層と同質 ローム粒少ない。
 25. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。

第89図 4区3号溝断面

本遺構が25号土坑より古く、5・12・14・15号溝より新しい。

平面形状 方形区画をなす。

長軸方位 N-28°-E・N-63°-W。

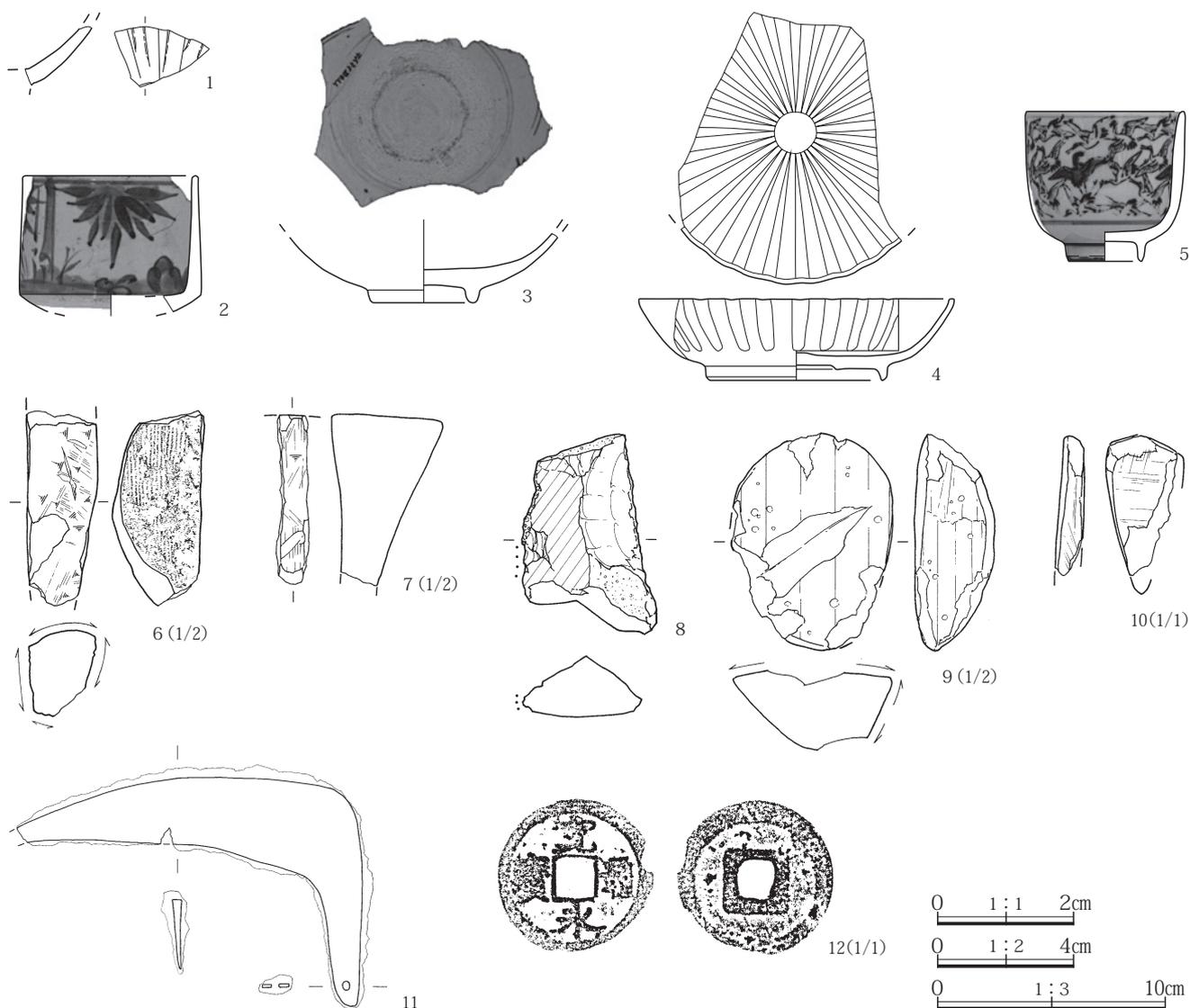
規模 全長(41.70)m、幅2.10~3.32m、深さ0.89~1.23m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、25層が観察された。断面形は逆台形状または薬研状。流水の形跡は見られない。一部ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 龍泉窯系青磁碗 1点(1)、肥前磁器染付筒形碗 1点(2)・染付皿 1点(3)・白磁菊皿 1点(4)、製作地不詳磁器染付湯飲み 1点(5)、石製模造品 1点(10)、砥石 2点(6・7)、火打石 1点(8)、石製品 1点(9)、鉄製

鎌 1点(11)、寛永通寶 1点(12)を図示した。他に、土師器片17,357g、須恵器片1,631g、灰釉陶器片30g、中世国産焼締陶器片48g、近世国産磁器片118g、国産施釉陶器片485g、在地系土器片487g、十能瓦片2,806g、近現代陶磁器片524g、土器片107g、瓦片1,683g、ガラス片99g、不明土製品334g、時期不明土器片3,454g、板碑片 1点、石製品 1点、鉄製品 1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、石鎌は混入と考えられる。土師器高坏 2点(外3・9)・坩 3点(外14~16)・壺 2点(外19・20)・甕 1点(外28)、須恵器? 1点(外21)・甑 1点(外30)石鎌 1点(外71)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ



第90図 4区3号溝出土遺物

一致することから、区画溝と考えられる。断面形から、中世と推定されるが、出土遺物に近世遺物(1～4・8・11・12)および近現代遺物(5)を含むことから、最終的な埋没は現代の可能性もある。なお、2・3区ほどではないが、4区における奈良・平安時代以前の遺構も竪穴住居9軒・掘立柱建物4棟・柵1基・溝1条・井戸2基・土坑1基・ピット1基と少ないにもかかわらず、本遺構のように埋没土中から多くの土師器・須恵器・埴輪片が出土する中近世の溝・土坑等が存在することから、調査区周辺および溝の延長上に古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性がある。

4区4号溝(第91図、P.L.41)

位置 X=29854～864、Y=-40209～215。

重複 4区59・60号ピットと重複。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

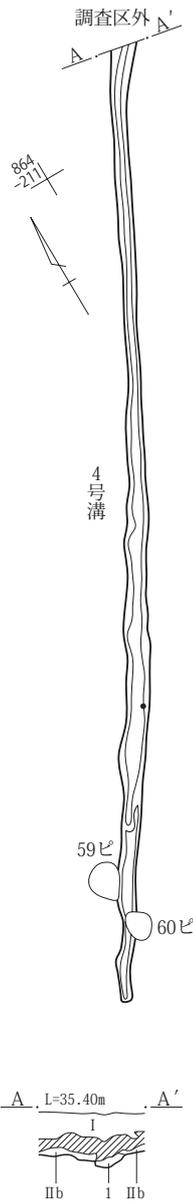
長軸方位 N-29°-E。

規模 全長(12.64)m、幅0.14～0.36m、深さ0.04～0.10m。

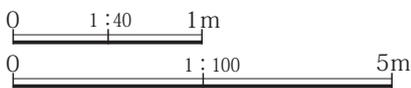
埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片163g、須恵器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。



4区4号溝
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質。



第91図 4区4号溝平面

4区5号溝(第92~106図、P L.42・90~98)

位置 X=29839~864、Y=-40210~240。

重複 4区3・8・9・11~17号溝、1号井戸、57号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南東方向から北西方向にほぼ直線状、北端でなだらかに南西方向に曲がる。3区5号溝と同一遺構と推定され、一体で方形区画をなす。溝内部に方形区画、溝状の凹み、東南端にピット2基を設置。

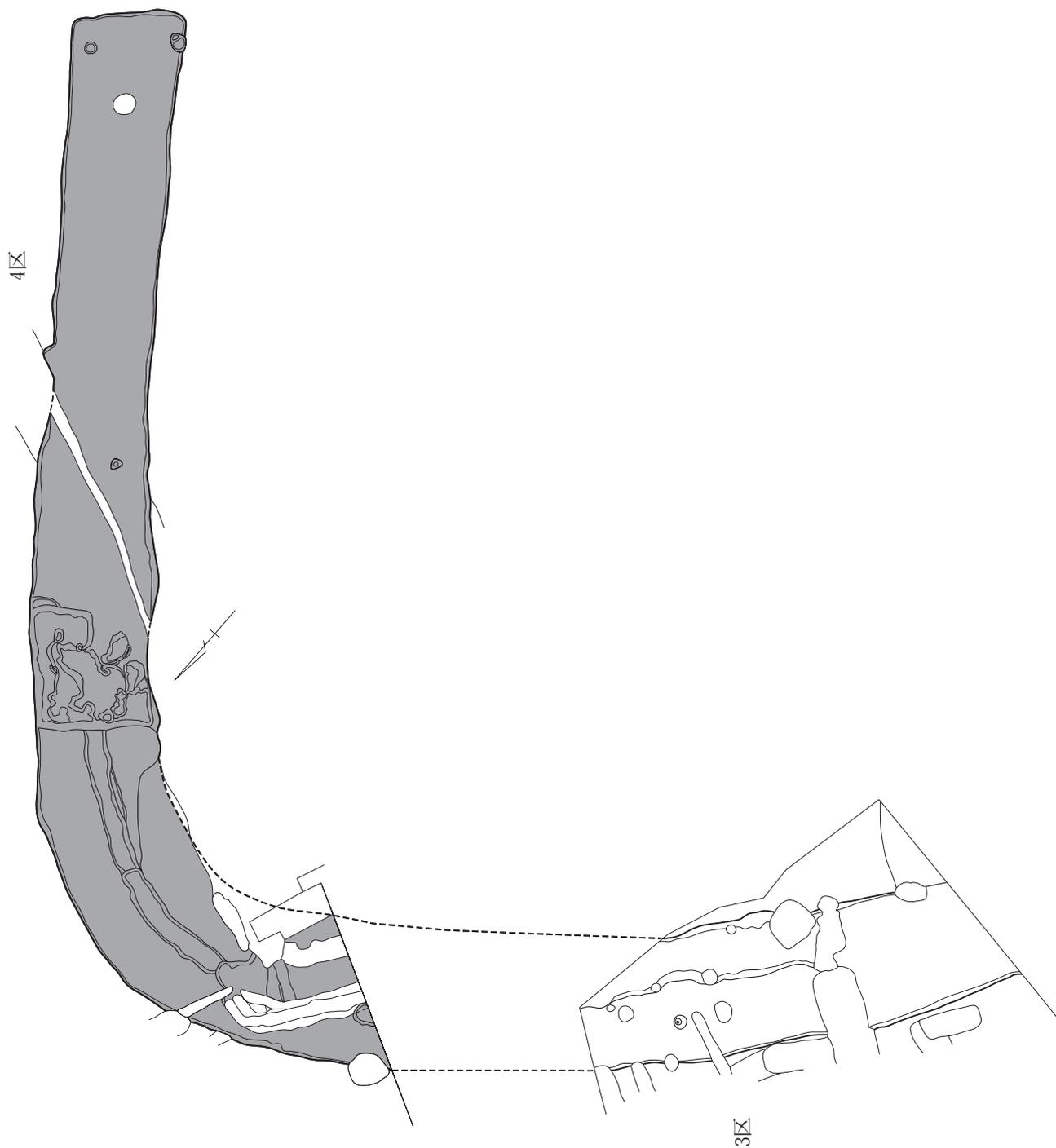
長軸方位 N-60°-E・N-38°-W。

規模 検出全長41.00m、幅3.24~4.00m、深さ0.15~0.44m。

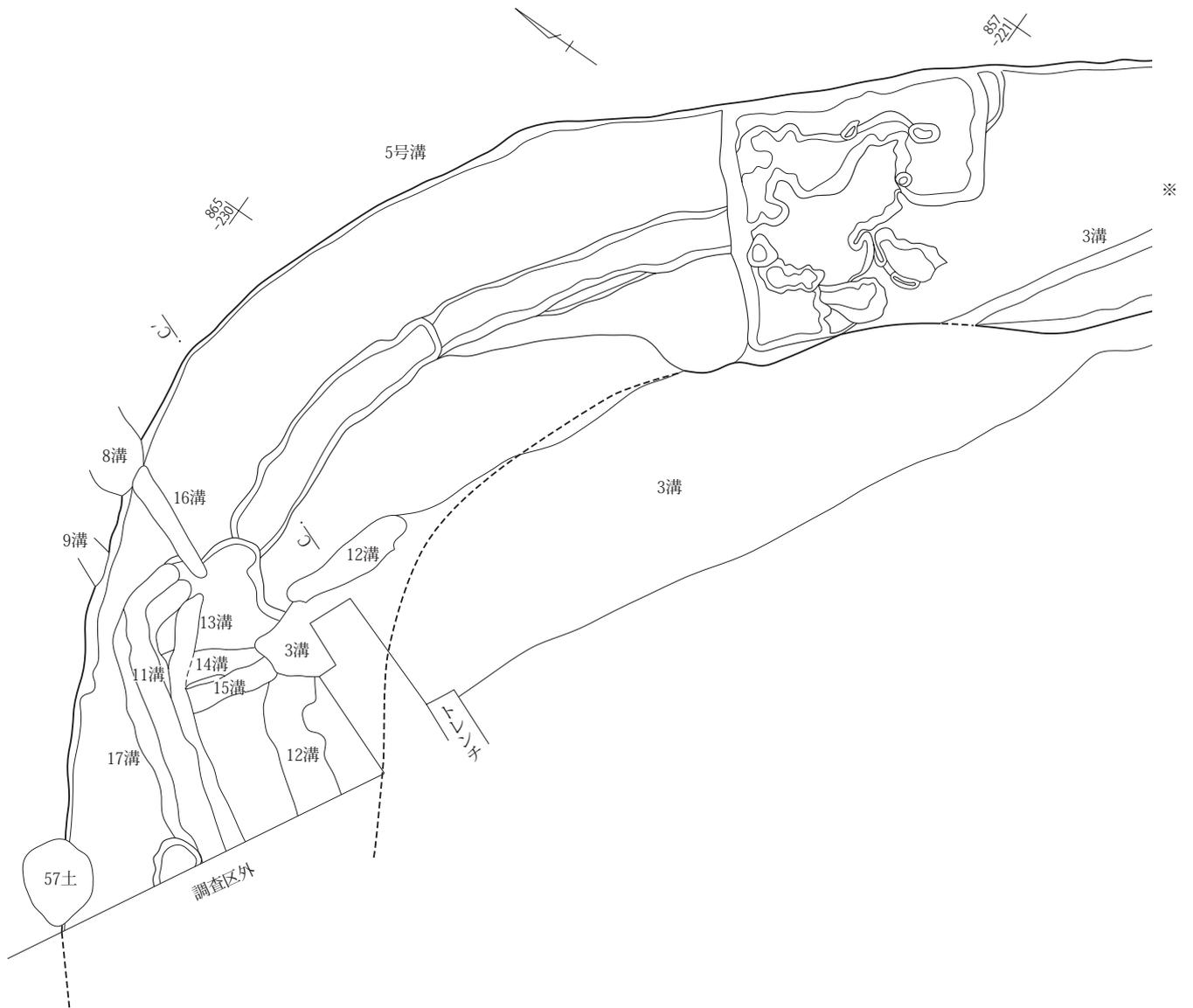
埋没土層 黒褐色土主体、16層が観察された。断面形は皿状、部分的に底部中央が凹む。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器坏7点(1~7)・高坏17点(8~24)・小型鉢1点(25)・鉢2点(26・27)・埴36点(28~63)・直口壺3点(64~66)・壺5点(67~71)・甑1点(72)・台付甕2点(73・74)・小型甕4点(75~78)・甕28点(79~106)・手捏ね3点(108~110)、須恵器甕1点(107)、剣形石製模造品2点(111・112)、砥石1点(113)、敲石1点(114)、鉄製釘1点(115)を図示した。遺物は底面より0.05~0.10m程の高さから集中して出土した。他に、土師器片63,676g、須恵器片287g、灰釉陶器1g、時期不明土器片137g、石核1点、加工痕ある剥片1点、凹石1点、磨石1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。石核、加工痕ある剥片は混入と考えられる。石鏃1点(外72)を遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

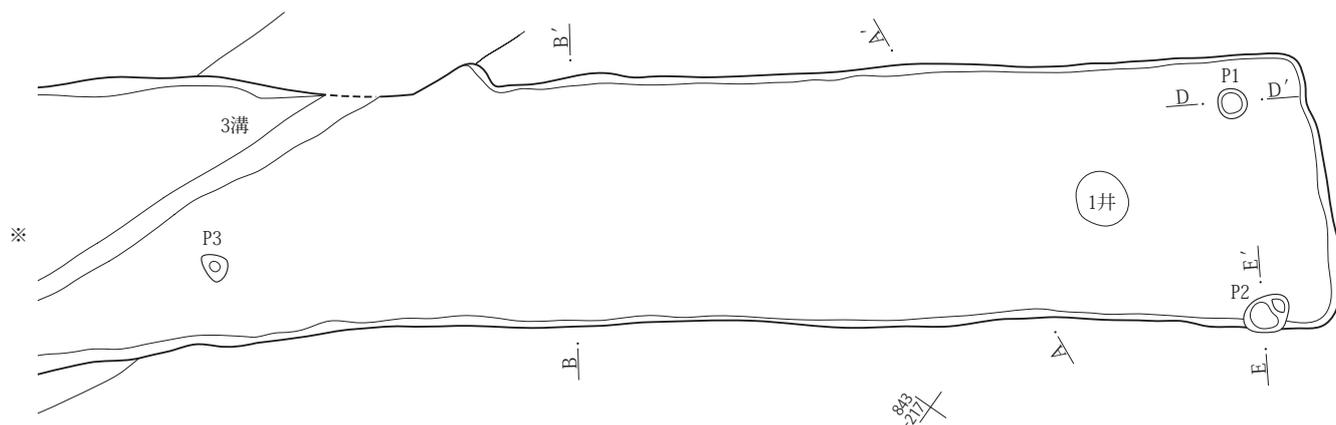
所見 調査区を跨ぎ3区5号溝と本遺構が一体をなす可能性が高い。本遺構は、1区の方形周溝墓とは溝の断面形が異なり、古墳としては埴輪の出土がない。よって、規模的には豪族居館の周堀などが想定されるが、掘りが浅く内部の状態が削平されていることから、積極的に性格付けすることは困難である。本遺構の時期は出土遺物(1~107)から5世紀前半と推定される。



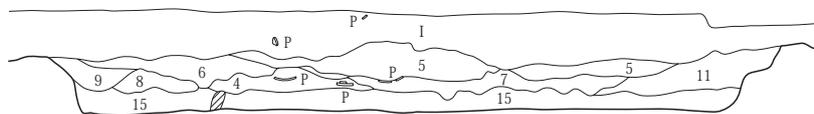
第92図 3区5号溝・4区5号溝位置関係(2)



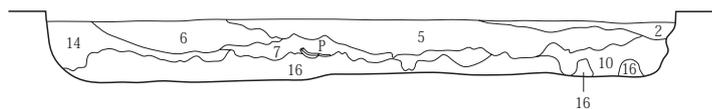
第93図 4区5号溝平面(1)



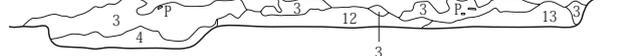
A . L=35.20m . A'



B . L=35.20m . B'



C . L=35.20m . C'



D . L=34.80m . D'



E . L=34.80m . E'

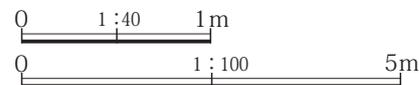


4区5号溝内1・2号ビット

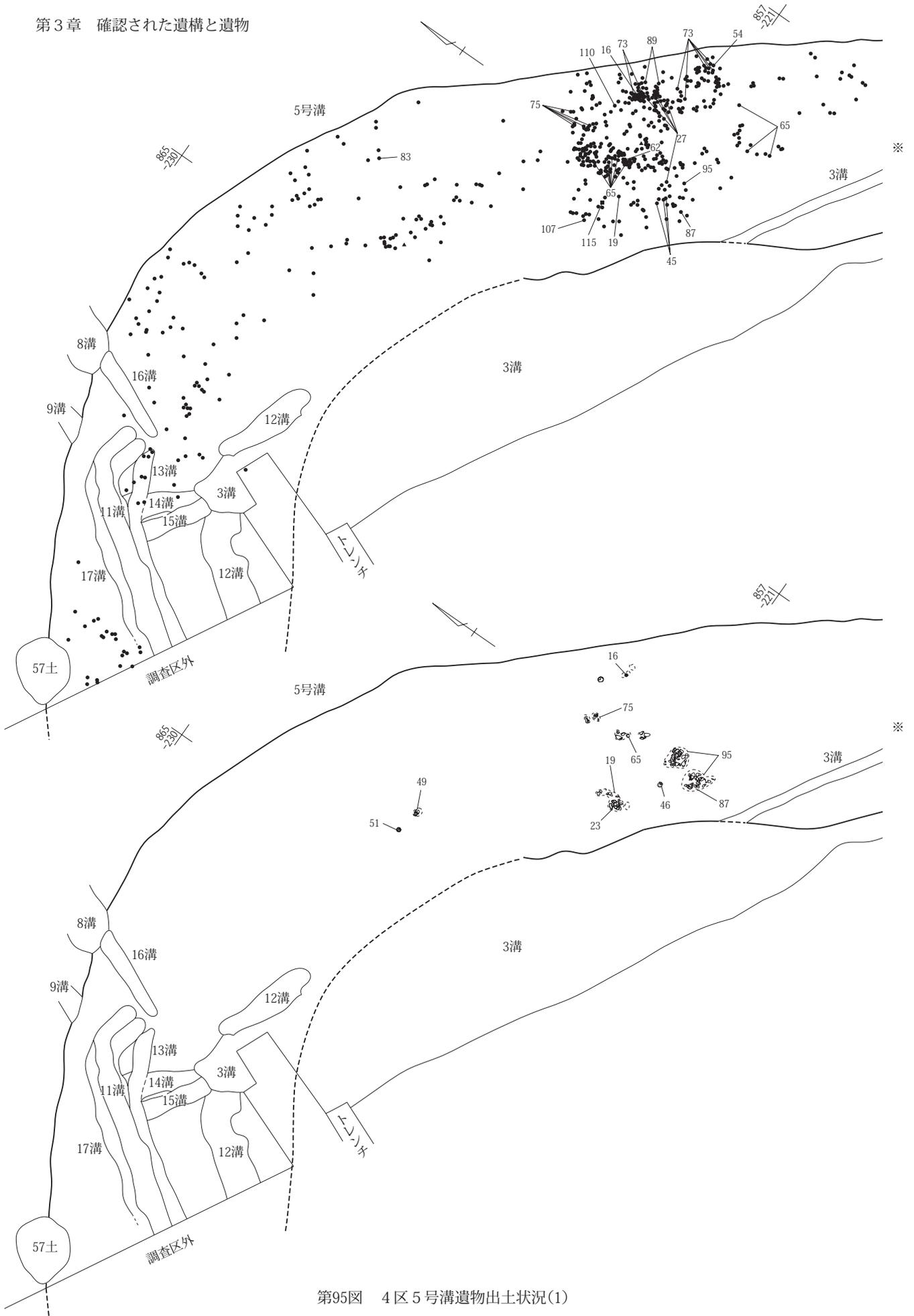
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。

4区5号溝

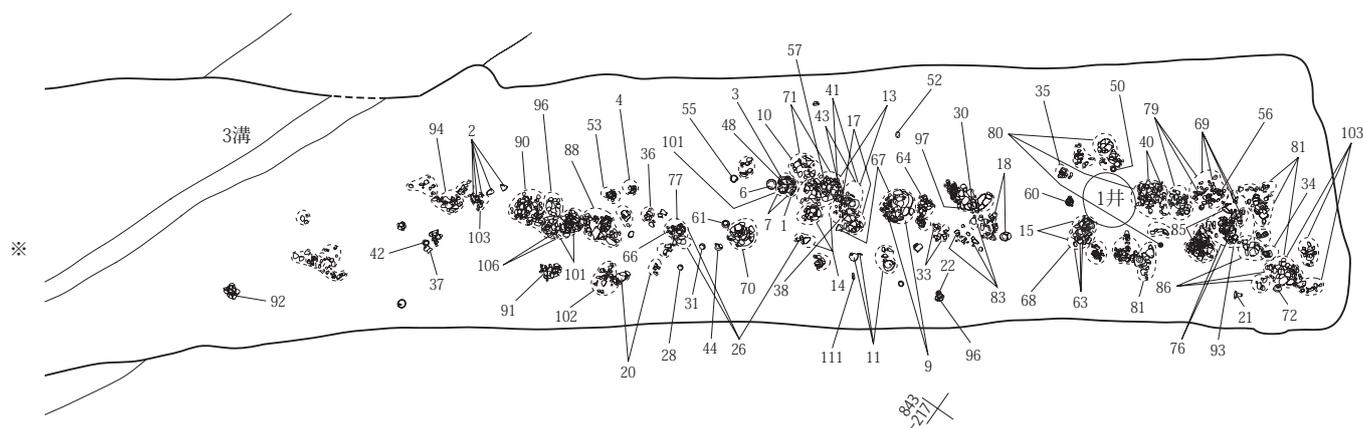
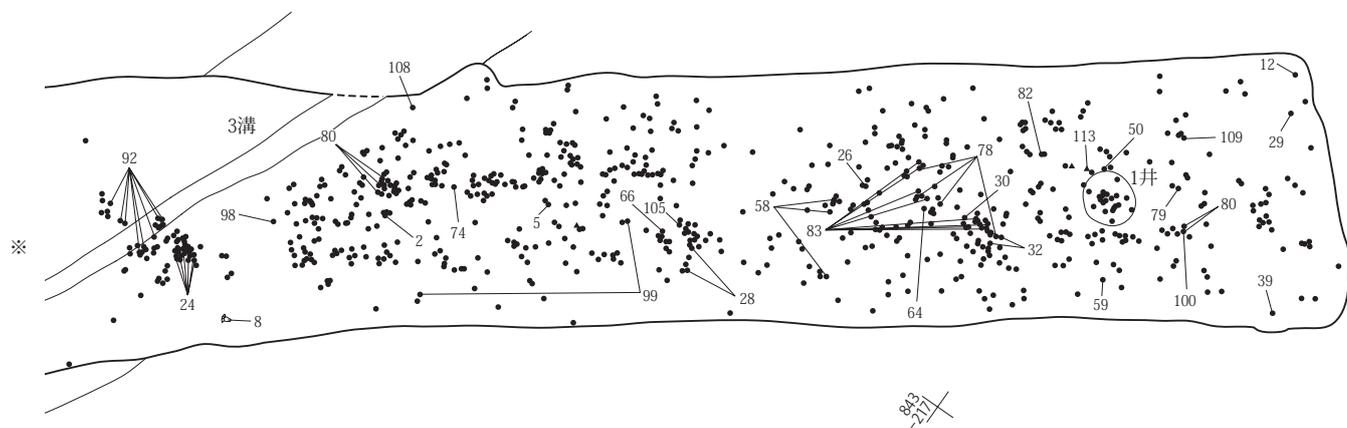
1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 硬 ϕ 1mm灰白色粒 3%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 5%。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
4. 黄褐色ローム(10YR5/6)と3層の混土。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 3%。
6. 5層と同質 5層より暗い。
7. 5層と同質 粘性あり ローム混入なく 炭化物混入。
8. 5層と同質 ϕ 1~10mmローム粒斑混。
9. 5層と同質 ϕ 1~2mmローム粒 5% ローム塊混入。
10. 5層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10%。
11. 5層と同質 ϕ 1~10mmローム粒15% ϕ 2~3cmローム塊混入。
12. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒15%。
13. 12層と同質 12層よりローム粒多い。
14. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒 7%。
15. にぶい黄褐色土(10YR4/3)と黒褐色土(10YR3/2)とローム塊の斑混土。
16. 灰黄褐色土(10YR4/2) ϕ 1~4cmローム塊斑混。



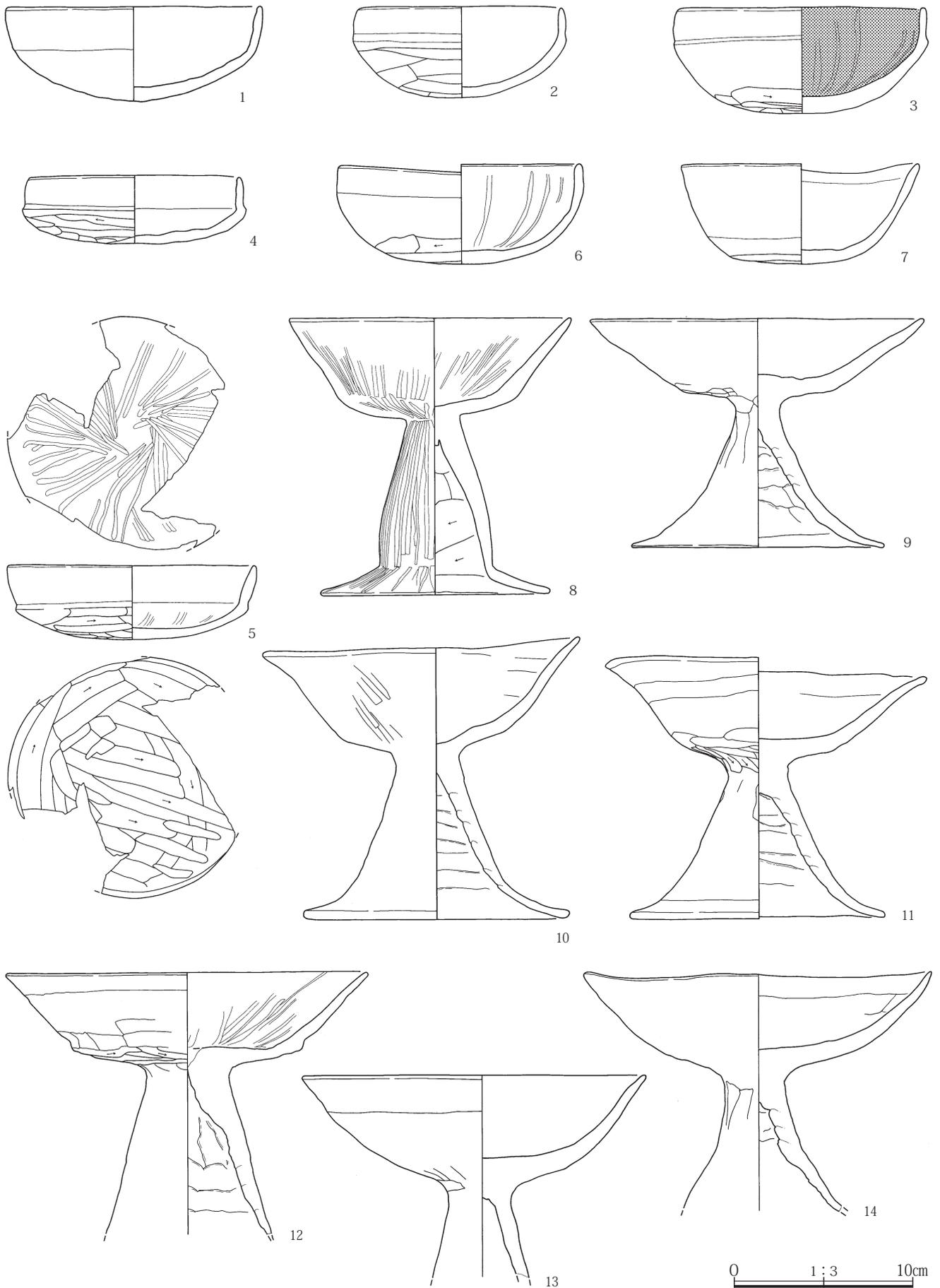
第94図 4区5号溝平面(2)



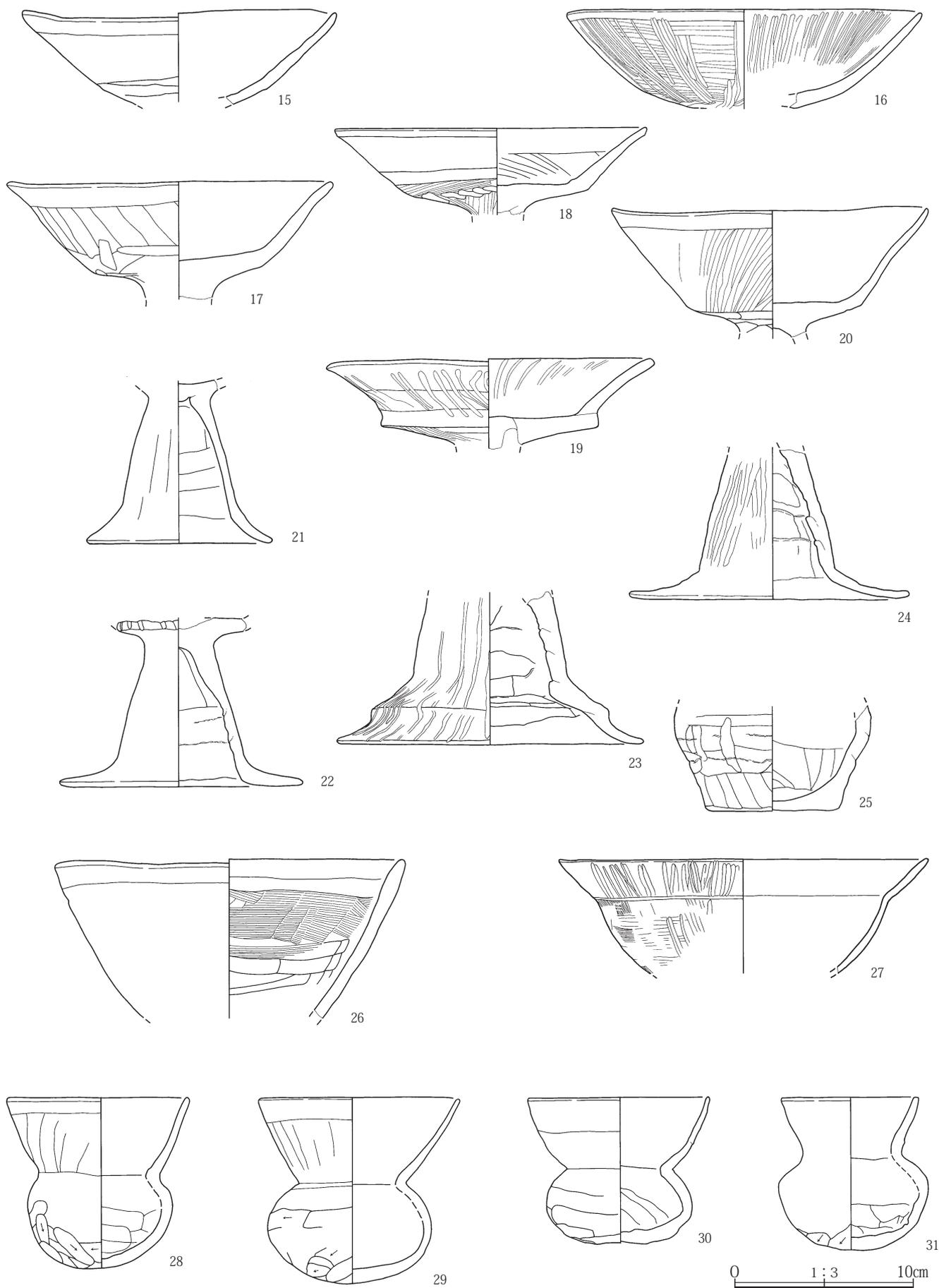
第95図 4区5号溝遺物出土状況(1)



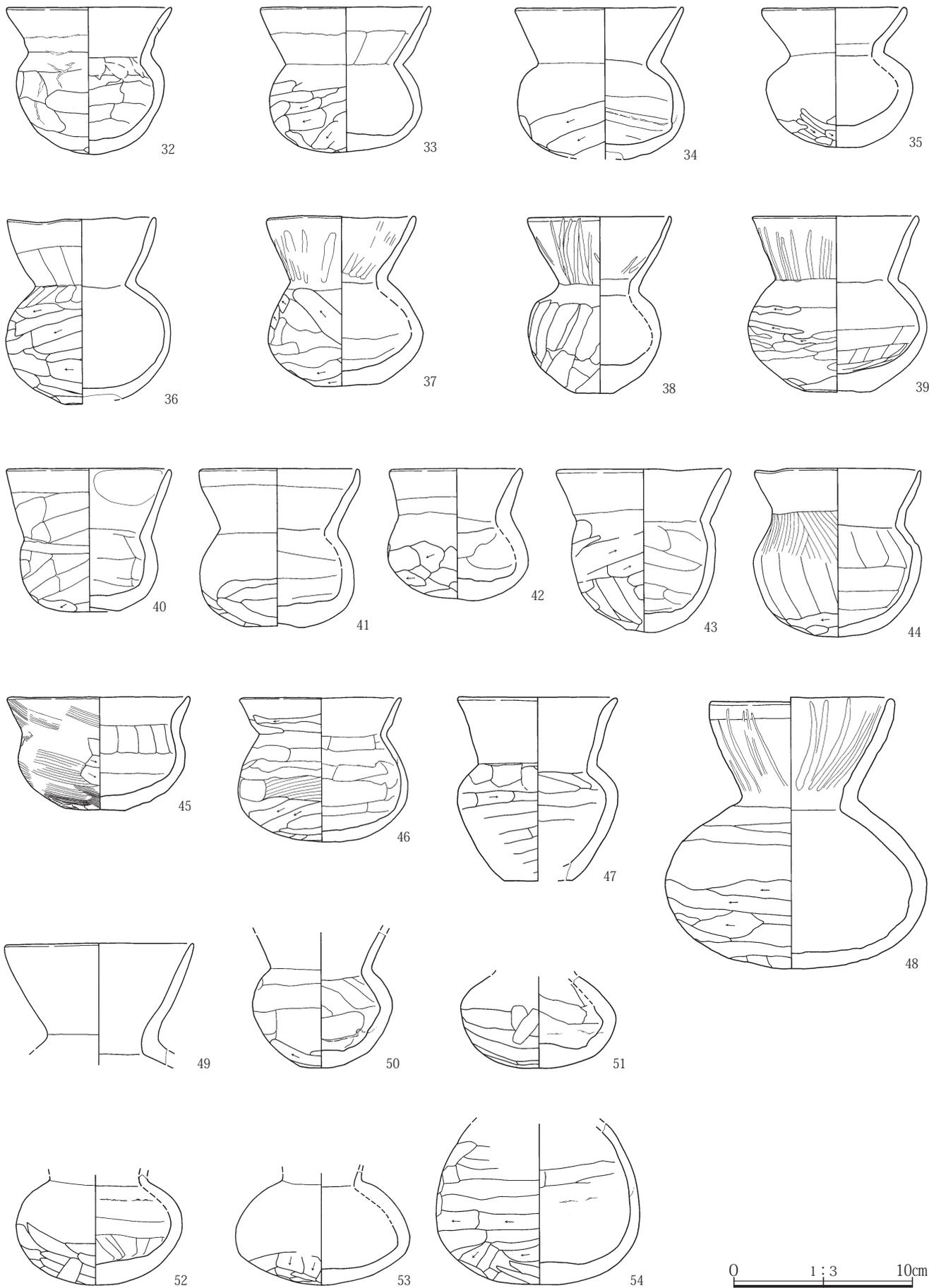
第96図 4区5号溝遺物出土状況(2)



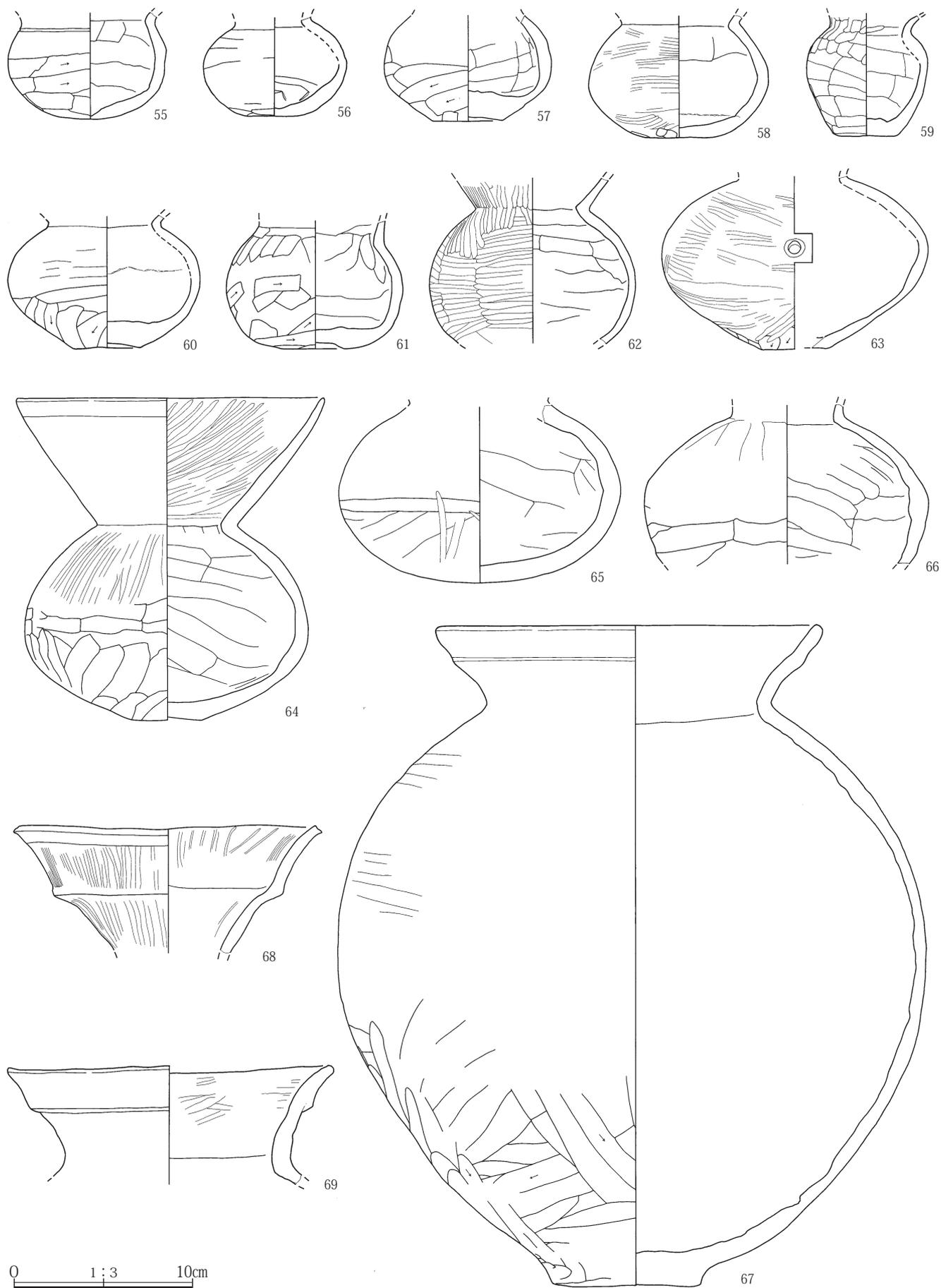
第97図 4区5号溝出土遺物(1)



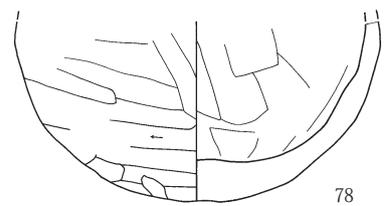
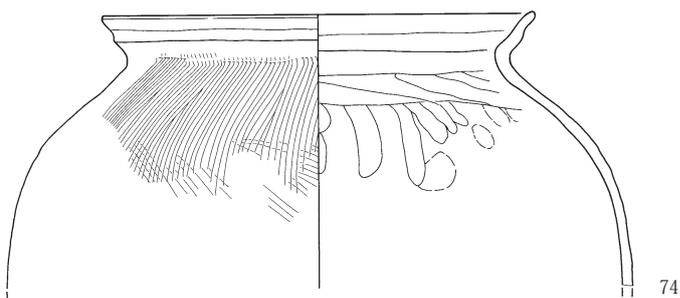
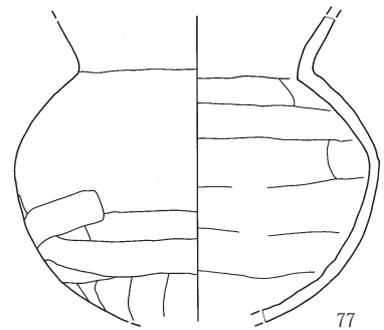
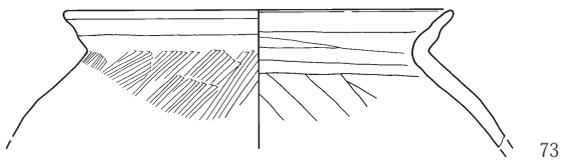
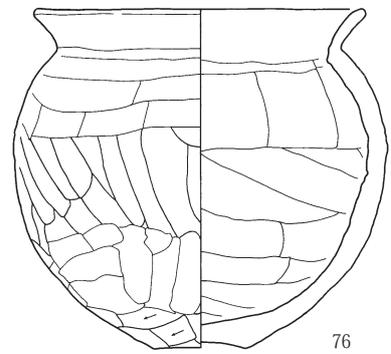
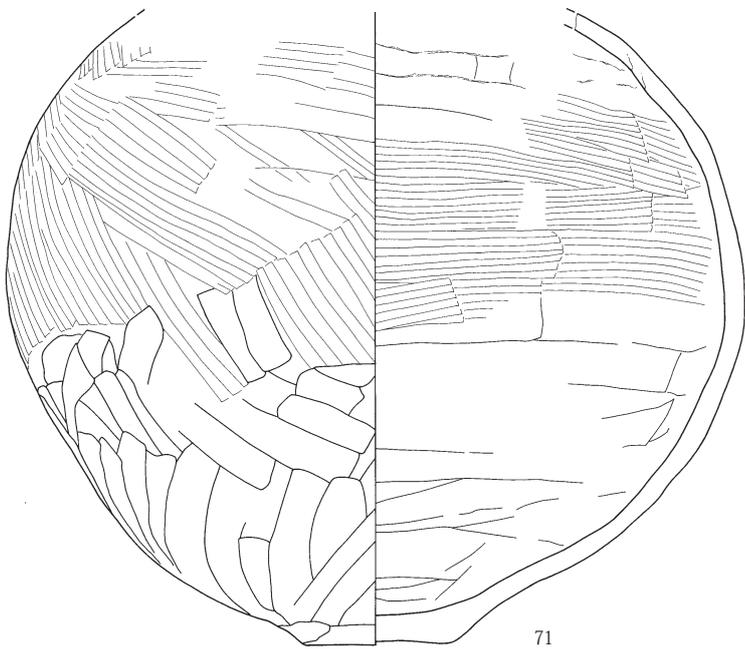
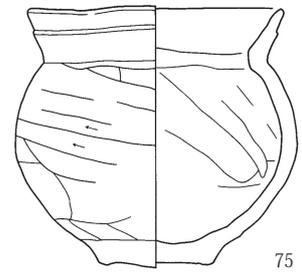
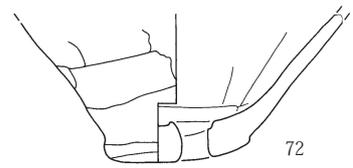
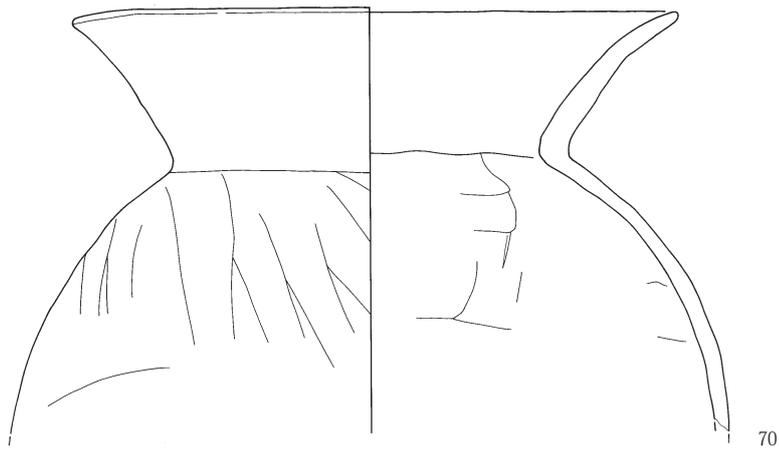
第98図 4区5号溝出土遺物(2)



第99図 4区5号溝出土遺物(3)

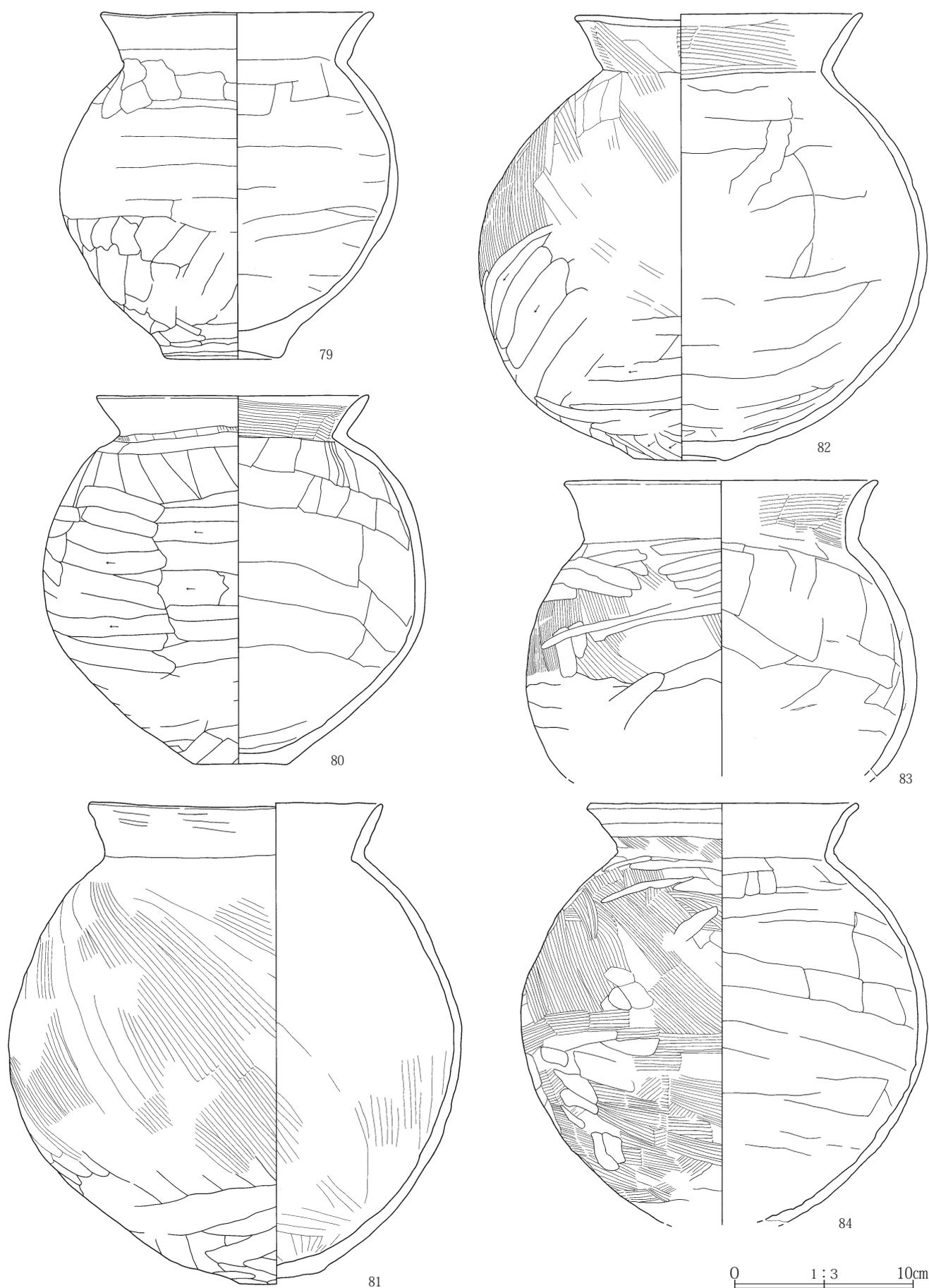


第100图 4区5号沟出土遗物(4)

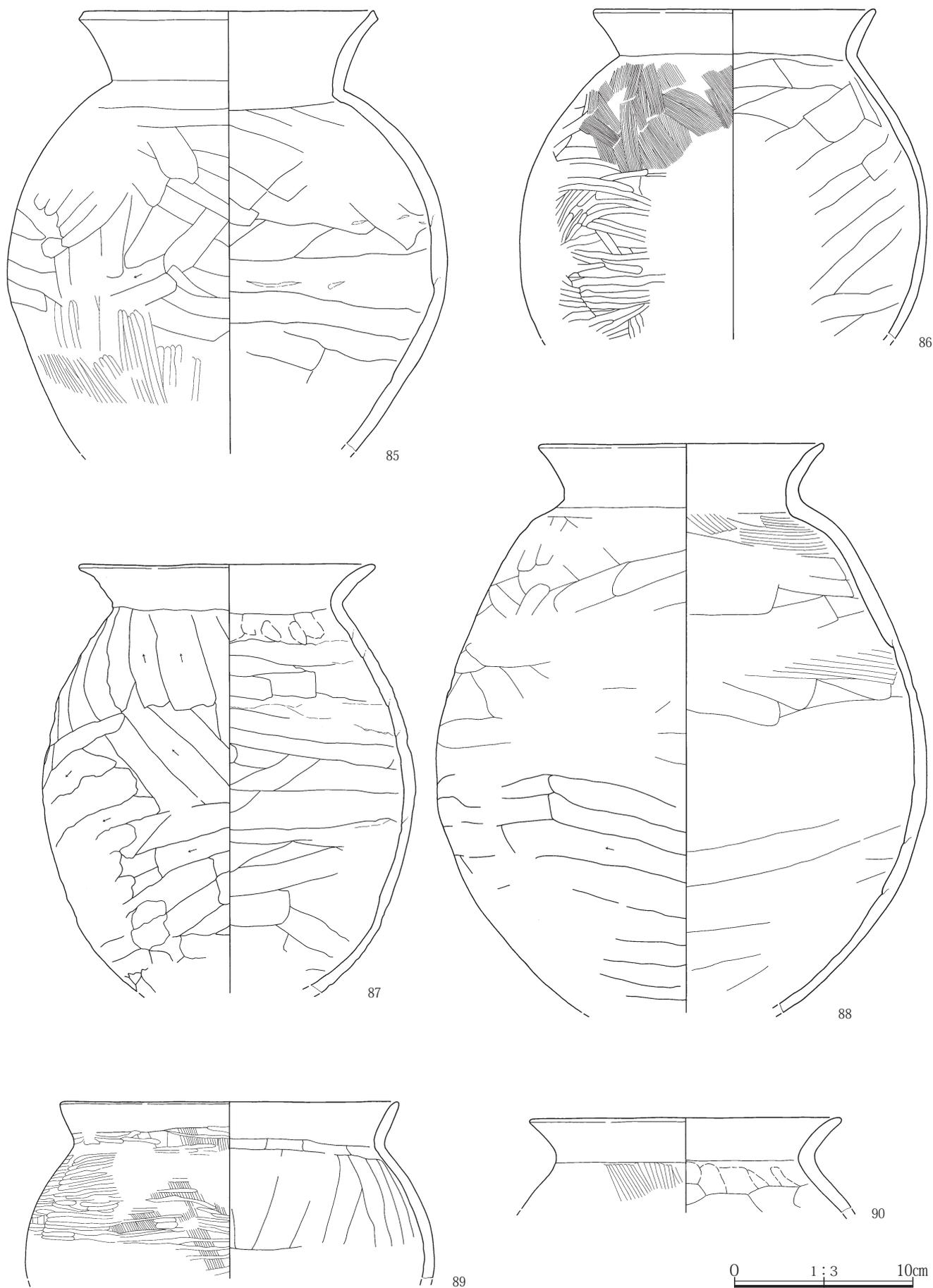


0 1:3 10cm

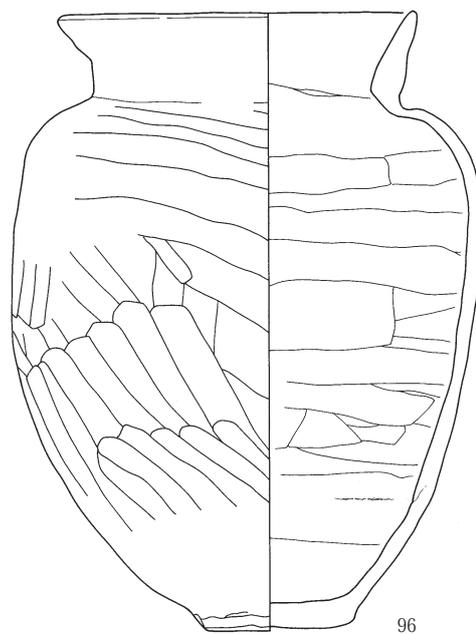
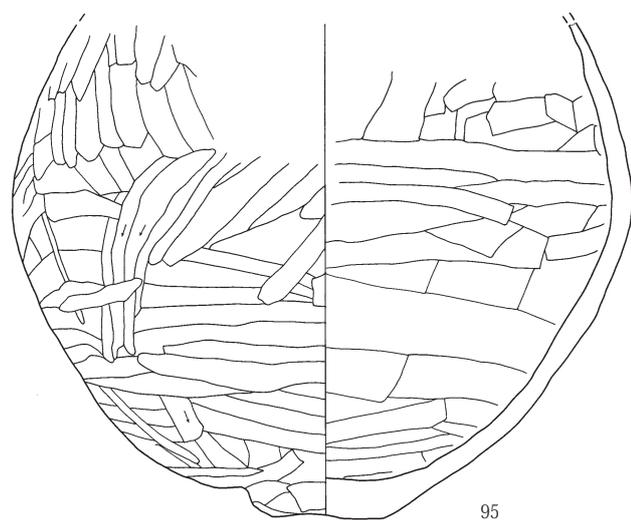
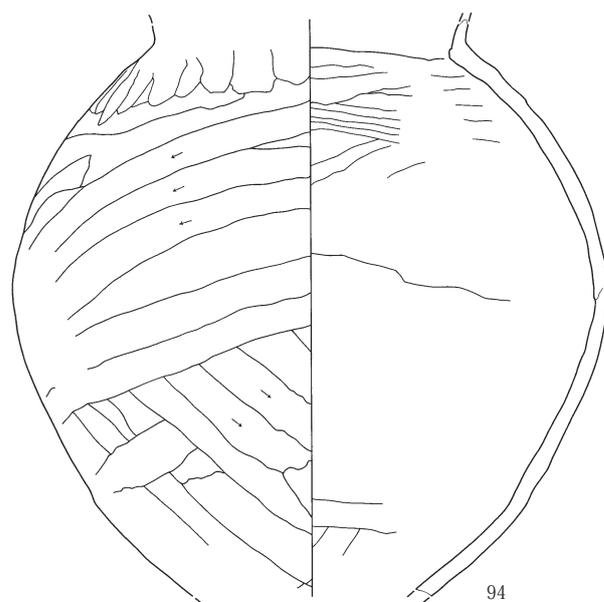
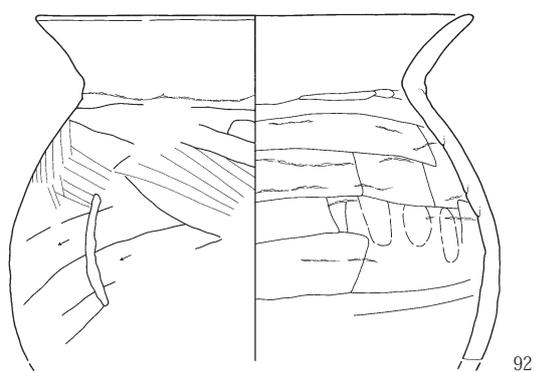
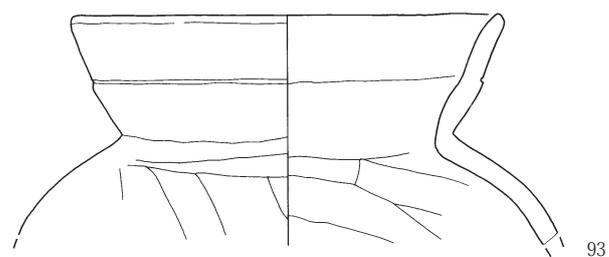
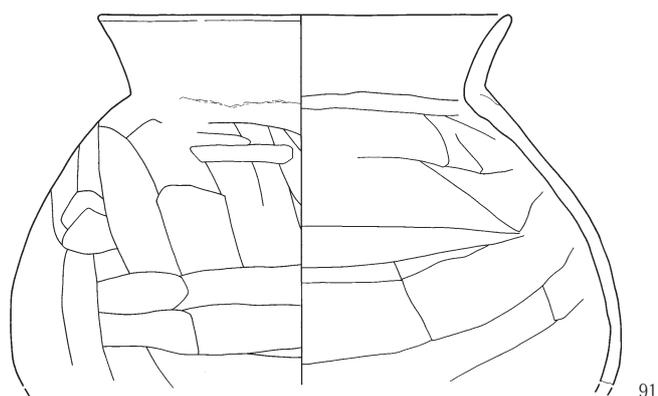
第101図 4区5号溝出土遺物(5)



第102图 4区5号沟出土遺物(6)

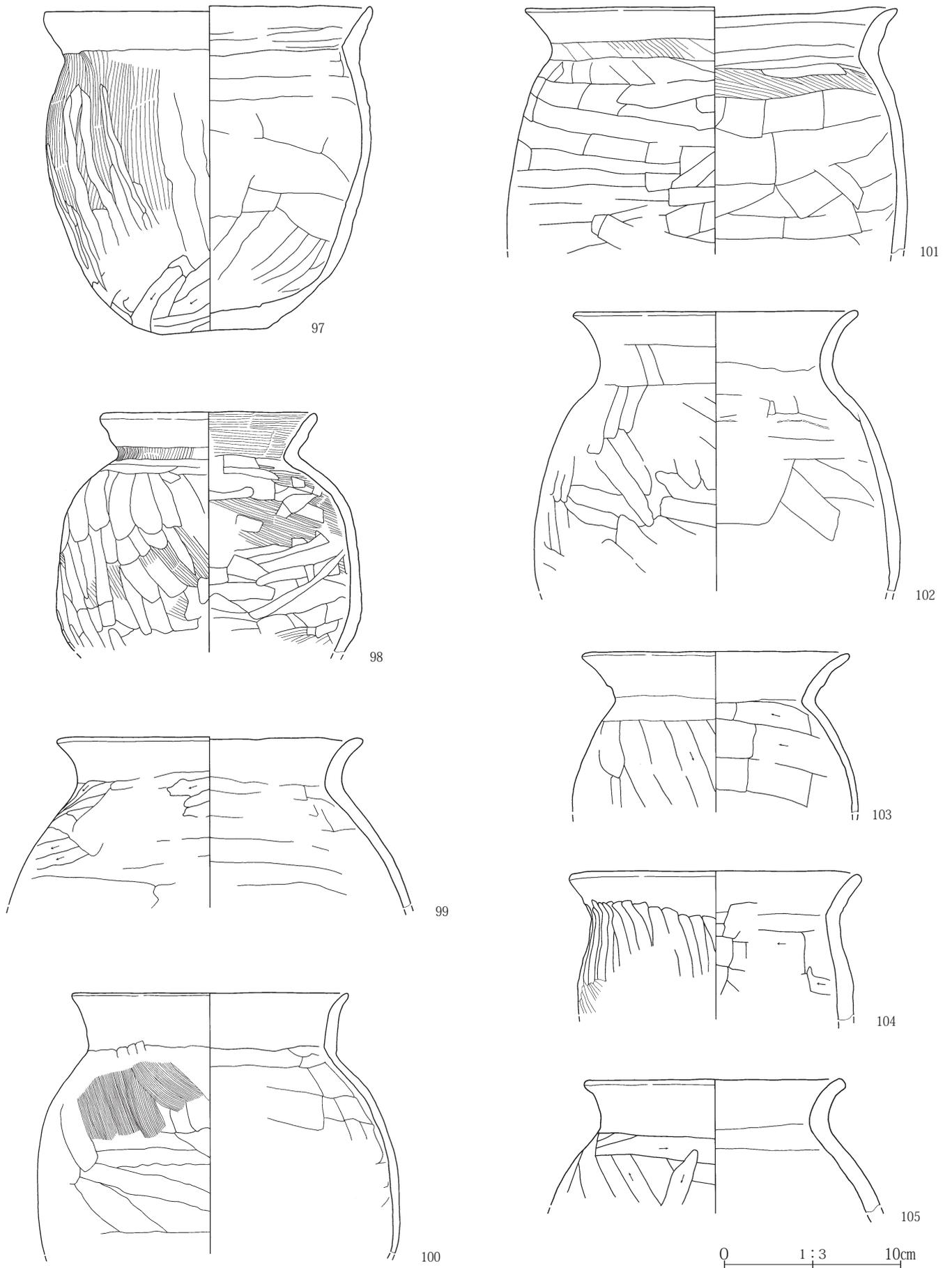


第103図 4区5号溝出土遺物(7)

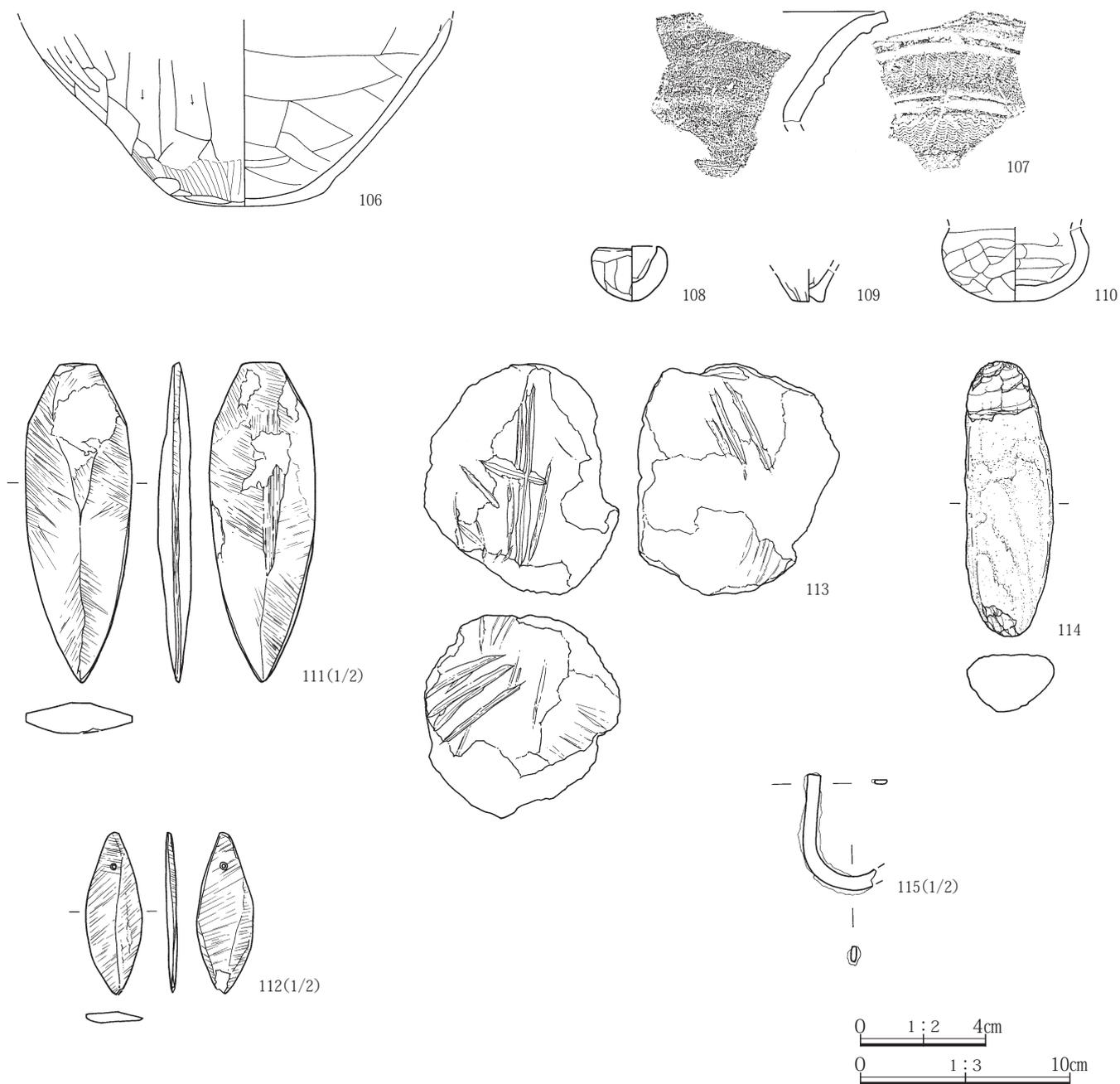


0 1:3 10cm

第104图 4区5号沟出土遺物(8)



第105図 4区5号溝出土遺物(9)



第106図 4区5号溝出土遺物(10)

4区6号溝(第107図、P.L.43)

位置 X=29854~857、Y=40173~174。

重複 4区4号竪穴住居、21号土坑、5号ピットと重複。
本遺構が21号土坑、5号ピットより古く、4号竪穴住居より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-20°-E。

規模 全長(3.40)m、幅0.33~0.56m、深さ0.11~0.66m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片39g、須恵器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画の方向と走向がほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区7号溝(第107図、P L.43・98)

位置 X=29864~872、Y=-40243~249。

重複 4区54号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-32°-E。

規模 全長(8.20)m、幅0.78~1.92m、深さ0.34~0.37m。

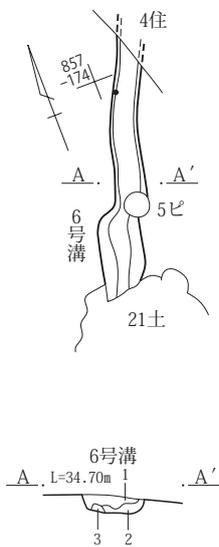
埋没土層 黒褐色土主体、5層が観察された。断面形は薬研状。流水の形跡は見られない。上位に塊状の層があ

り、人為的埋没と推定される。

遺物 永楽通寶1点(1)を図示した。土師器片163g、須恵器片25g、時期不明土器片64gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。4区54号土坑との重複関係および断面形、出土遺物(1)から、本遺構の時期は中世と推定される。

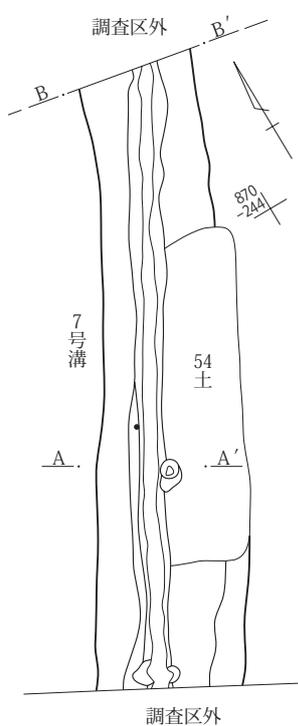
4区6号溝



4区6号溝

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質。
2. 黒褐色土(10YR3/2)。
3. ローム塊 顆粒状でしまり弱い。

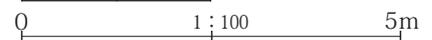
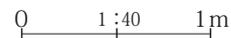
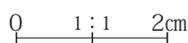
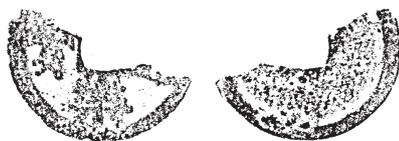
4区7号溝



4区7号溝

1. 黒褐色土(10YR3/1) φ 1~15mmローム粒・塊20%。
2. 黒褐色土(10YR2/3) φ 1~10mmローム粒 5% φ 1mm砂粒 1%。
3. 黒褐色土(10YR3/3) φ 1~5mmローム粒 2%。
4. 黒褐色土(10YR2/3) 黒色土(10YR2/1)塊30% φ 1~10mmローム粒 7%。
5. 黒褐色土(10YR2/3) φ 1mm砂粒25%。

7号溝出土遺物



第107図 4区6・7号溝平断面、7号溝出土遺物

4区8号溝(第108図、P L.43)

位置 X=29864~870、Y=-40230~234。

重複 4区5・16号溝と重複。本遺構が16号溝より古く、5号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-26°-E。

規模 全長(6.70)m、幅0.78~1.20m、深さ0.14~0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。断面形は葉研状。流水の形跡は見られない。ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片227g、須恵器片16g、近世国産磁器片1g、時期不明土器片5gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。出土遺物の土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。断面形から、中世と推定されるが、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、最終的な埋没は近世の可能性もある。

4区9号溝(第108図、P L.43)

位置 X=29863~870、Y=-40232~235。

重複 4区5号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-24°-E。

規模 全長(7.40)m、幅0.24~0.43m、深さ0.05~0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片27gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区10号溝(第108図、P L.43)

位置 X=29861~870、Y=-40234~239。

重複 4区5号溝、56・57号土坑と重複。本遺構が56号

土坑・5号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-27°-E。

規模 全長(8.90)m、幅0.33~0.50m、深さ0.03~0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は皿状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片121g、須恵器片12g、時期不明土器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区11号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29859~862、Y=-40234~238。

重複 4区5・13~15・17号溝と重複。本遺構が13・17号溝より古く、5号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線、北端が鉤手状に曲がる。

長軸方位 N-37°-E・N-83°-W。

規模 全長(4.80)m、幅0.30~0.72m、深さ0.28~0.57m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片25g、近世国産磁器片5g、国産施釉陶器片23g、在地系土器片193g、十能瓦片298g、近現代陶磁器片40g、土製品78g、時期不明土器片702gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定されるが、最終的な埋没は近現代の可能性もある。

4区12号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29858~861、Y=-40232~236。

重複 4区3・5・15号溝と重複。本遺構が5号溝より

新しい。

平面形状 北北東方向から南南西方向に弧状。

長軸方位 N-37°-E・N-70°-W。

規模 全長(4.00)m、幅0.56~0.70m、深さ0.13~0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。断面形は不整形。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片227g、須恵器片19g、近世在地系土器片152g、近現代陶磁器片28g、時期不明土器片375gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物に近世・近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定されるが、最終的な埋没は近現代の可能性はある。

4区13号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29859~862、Y=-40235~238。

重複 4区5・11・14・15・17号溝と重複。本遺構が17号溝より古く、5・11号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向に弧状。

長軸方位 N-34°-E・N-65°-E。

規模 全長(4.00)m、幅0.22~0.34m、深さ0.08m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は逆台形状。流水の形跡は見られない。

遺物 土師器片12g、時期不明土器片55gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。4区11号溝との重複関係から、本遺構の時期は近世と推定されるが、最終的な埋没は近現代の可能性はある。

4区14号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29860~862、Y=-40235~236。

重複 4区3・5・11・13・15・17号溝と重複。本遺構が5号溝より新しい。

平面形状 西北西方向から東南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-38°-W。

規模 全長(1.40)m、幅0.32m、深さ0.08m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区15号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29860~861、Y=-40235~236。

重複 4区3・5・11~14・17号溝と重複。本遺構が5号溝より新しい。

平面形状 西北西方向から東南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-56°-W。

規模 全長(1.35)m、幅0.30~0.40m、深さ0.12m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区16号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29862~863、Y=-40234。

重複 4区5・8号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-25°-E。

規模 全長1.90m、幅0.30~0.32m、深さ0.10m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。4区8号溝との重複関係および周囲の中近世溝と走向がほぼ一致することから、中近世と推定される。

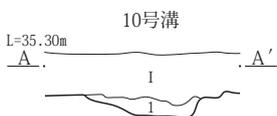
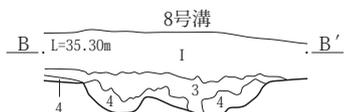
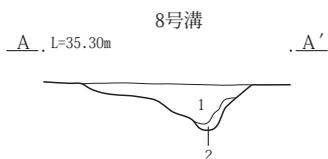
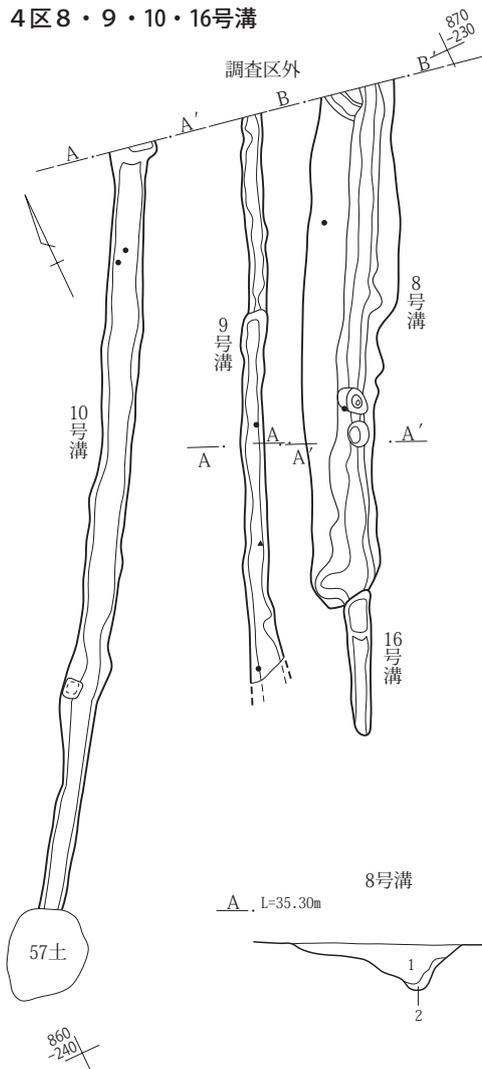
4区17号溝(第108図、P L.44)

位置 X=29861~862、Y=-40235~236。

重複 4区5・11・13~15号溝と重複。本遺構が5・11・13号溝より新しい。

平面形状 南南西方向から北北東方向にほぼ直線状、北端が鉤手状に曲がる。

4区8・9・10・16号溝



4区8号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒10%。
2. 1層と同質 ローム粒多い。
3. 黒褐色土(10YR2/2) φ 1~10mmローム粒 3% 砂粒微混。
4. 黒褐色土(10YR2/3) φ 1~30mmローム粒・塊15%。

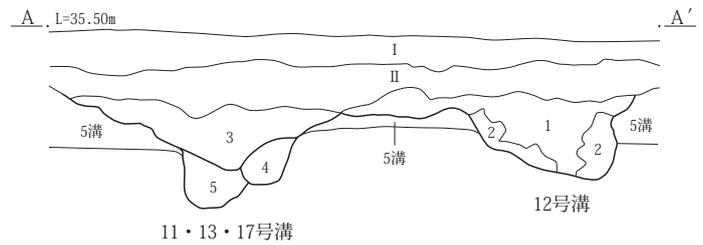
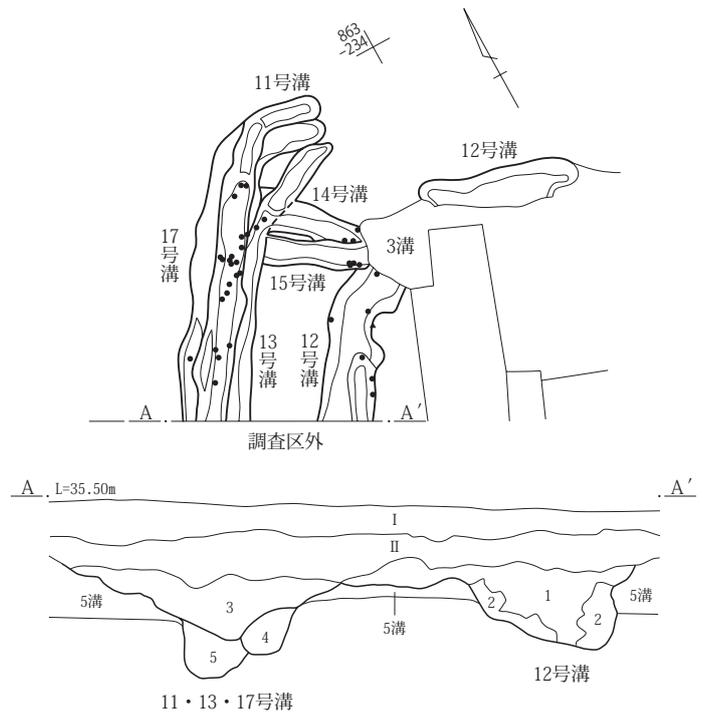
4区9号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1cmローム塊斑混。

4区10号溝

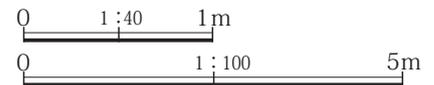
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 下位にローム塊混入。

4区11・12・13・14・15・17号溝



4区11~13・17号溝

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 φ 1~15mmローム粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~3mmローム粒25%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~8mmローム粒 2%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) φ 2~30mmローム粒・塊15%。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 軟弱 細粒 均質 密 φ 1mmローム 1%。



長軸方位 N-40°-E・N-63°-W。

規模 全長(2.97)m、幅0.35m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。断面形は浅いV字状。流水の形跡は見られない。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、調査前の土地区画とほぼ一致することから、本遺構は区画溝と考えられる。4区11号溝との重複関係から、本遺構の時期は近世と推定されるが、最終的な埋没は近現代の可能性はある。

5区1号溝(第109図、P L.45)

位置 X=29832~854、Y=-40152~164。

重複 5区2・6号溝と重複。本遺構が新しい。

第108図 4区8~17号溝平断面

平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-27°-W。

規模 全長(24.30)m、幅0.70~1.32m、深さ0.13~0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、5層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片306g、須恵器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区2号溝(第109図、P L.45)

位置 X=29832~850、Y=-40152~166。

重複 5区1・5・6・9・10・12号溝と重複。本遺構が1・6・9号溝より古い。

平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-38°-W。

規模 全長(21.86)m、幅0.36~0.58m、深さ0.07~0.15m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、3層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片267g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区3号溝(第109図、P L.45)

位置 X=29830~848、Y=-40152~166。

重複 5区4・9・10号溝と重複。本遺構が4号溝より新しく、9号溝より古い。

平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-37°-W。

規模 全長(22.60)m、幅0.12~0.25m、深さ0.02~0.04m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、2層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片74g、須恵器片20gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区4号溝(第109図、P L.46)

位置 X=29845~848、Y=-40163~166。

重複 5区3号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 北西方向から南東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-42°-W。

規模 全長(4.90)m、幅0.22~0.34m、深さ0.02~0.03m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 なし。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。周辺の奈良・平安時代溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区5号溝(第109・110図、P L.45)

位置 X=29845~848、Y=-40161~163。

重複 5区2・12号溝と重複。

平面形状 南西方向から北東方向にほぼ直線。

長軸方位 N-52°-E。

規模 全長(2.76)m、幅1.12~1.32m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片19g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、奈良・平安時代と推定される。

5区6号溝(第109図、P L.46)

位置 X=29832~840、Y=-40152~157。

重複 5区1・2号溝と重複。2号溝より古い。
平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。
長軸方位 N-28°-W。
規模 全長(8.26)m、幅0.50~0.80m、深さ0.22~0.24m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 なし。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。周辺の奈良・平安時代溝と走向がほぼ一致することから、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区7号溝(第109・110図、P L .46)

位置 X=29828~845、Y=-40154~167。
重複 5区8・10・11号溝と重複。8号溝より古い。
平面形状 北北西方向から南南東方向に蛇行する。
長軸方位 N-24°-W・N-37°-W。
規模 全長(22.00)m、幅0.38~0.42m、深さ0.07~0.23m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、5層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片707g、須恵器片52g、不明土器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区8号溝(第109・110図、P L .46)

位置 X=29828~835、Y=-40154~161。
重複 5区7号溝と重複。本遺構が新しい。
平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。
長軸方位 N-36°-W。
規模 全長(8.80)m、幅0.35~0.50m、深さ0.09~0.15m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。断面形は皿状。

遺物 土師器片477g、埴輪片98g、不明土器片2gが

出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区9号溝(第109・110図、P L .45)

位置 X=29827~840、Y=-40153~160。
重複 5区2・3・10・11号溝と重複。本遺構が2・3号溝より古い。
平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線。
長軸方位 N-25°-W。
規模 全長(14.00)m、幅0.68~0.80m、深さ0.10~0.13m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片479gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区10号溝(第109・110図、P L .47)

位置 X=29837~840、Y=-40158~162。
重複 5区2・3・7・9号溝と重複。
平面形状 東北東方向から西南西方向にほぼ直線。
長軸方位 N-57°-E。
規模 全長(5.20)m、幅0.24~0.35m、深さ0.16~0.22m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片121gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区11号溝(第109・110図、P L.47)

位置 X=29833~835、Y=-40155~159。

重複 5区7・9号溝と重複。

平面形状 方形区画をなす。

長軸方位 N-57°-E・N-45°-W。

規模 全長(4.82)m、幅0.22~0.40m、深さ0.07~0.20m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

遺物 土師器片284gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 周辺土壌がAs-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。

5区12号溝(第109・110図、P L.47)

位置 X=29846~849、Y=-40163~165。

重複 5区2・5号溝と重複。

平面形状 北北西方向から南南東方向にほぼ直線、北端が鉤手状に曲がる。

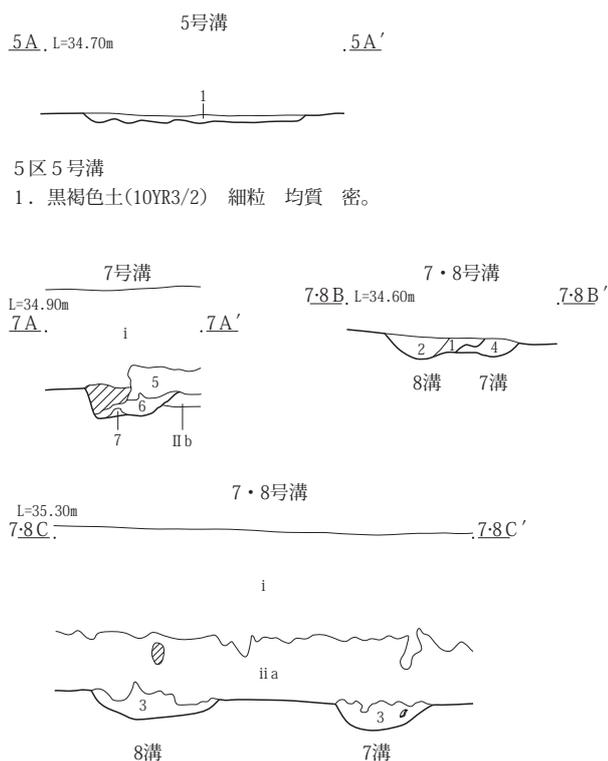
長軸方位 N-30°-W。

規模 全長(3.20)m、幅0.38~0.40m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。砂混入。断面形は皿状。

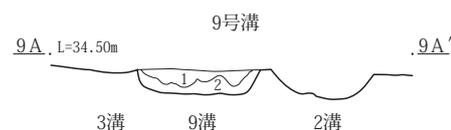
遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 周辺土壌が水As-Bを含まない黒色水田耕作土であり、埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、本遺構は灌漑用溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は奈良・平安時代と推定される。



5区7・8号溝

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 微砂混入。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
3. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 軟弱。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 硬質 φ 1mm砂 7%。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 微砂混入。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 粘質。



5区9号溝

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細粒 密 φ 5mm黒色土(7.5YR2/1)粒25% φ 1mm砂 3%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 均質 密 微砂混入。



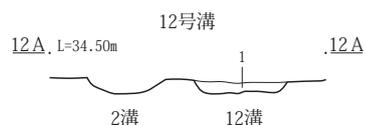
5区10号溝

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細粒 均質 密 微砂混入。
2. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 均質 密 φ 1mm砂 2%。
3. 黒色土(7.5YR1/1) 細粒 均質 粘質。



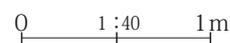
5区11号溝

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細粒 密 φ 1mm砂 7%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 密 微砂混入。
3. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 均質 軟弱土。



5区12号溝

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。



第110図 5区5・7~12号溝断面

第6節 井戸

井戸は、1区から9基、2～4区から16基が確認された。いずれも素掘りの井戸である。井戸は発掘調査時において下層からの湧水量が多く、井戸の底面は比較的浅いと考えられるが、底面までの掘削は危険を伴うため、いくつかの井戸では途中で掘削を中止している。井戸の時期は古墳時代から近世と幅広いが、出土遺物が少なく時期を特定できなかったものも多い。古墳時代のものが2～4区に6基、奈良・平安時代のものが1区に2基、詳細な時期は不明であるが古墳時代～奈良・平安時代のものが1区に1基、中近世のものが1区に1基、2～4区に3基、時期を判別できなかったものが1区に5基、2～4区に7基となっている。

1区1号井戸(第111図、P L .47)

位置 X=29982～983、Y=-40967～968。

重複 1区1号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸1.00m、短軸0.90m、深さ1.41m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 1区1号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は6世紀以降と考えられるが、出土遺物もなく判別できなかった。

1区2号井戸(第111図、P L .47)

位置 X=29949～950、Y=-40962～963。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.00m、深さ0.64m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。

1層にのみAs-B混入。

遺物 須恵器片40gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 やや浅い感もあるが、底面より約20～30cm上まで水が湧出することから、井戸とした。埋没土から、本遺

構の時期はAs-B降下以前の奈良・平安時代と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

1区3号井戸(第111図、P L .48・99)

位置 X=29954～955、Y=-40976。

重複 なし。

平面形状 西側が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-7°-W。

規模 長軸1.24m、短軸(0.70)m、深さ(1.79)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 石製品1点(1)を図示した。他に、土師器片122g、須恵器片100g、埴輪片211g、石製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 石製品(1)のほか出土遺物は小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区4号井戸(第112図、P L .48・99)

位置 X=29949～950、Y=-40969～970。

重複 1区1号掘立柱建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-45°-W。

規模 長軸1.06m、短軸0.80m、深さ0.78m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器壺1点(1)・甕1点(2)・手捏ね2点(3・4)を図示した。いずれも底面付近から出土した。他に、土師器片473g、須恵器片74gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 やや浅い感もあるが、底面より約20～30cm上まで水が湧出することから、井戸とした。出土遺物の特徴が不鮮明であり、本遺構の時期は古墳時代～奈良・平安時代、周囲の遺構の時期を考慮するならば、6世紀以降9世紀以前と推定される。

1区5号井戸(第111図)

位置 X=29967～969、Y=-40954～956。

重複 1区1号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

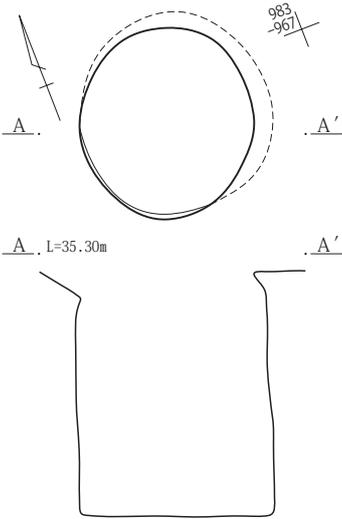
平面形状 楕円形。

長軸方位 N-29°-E。

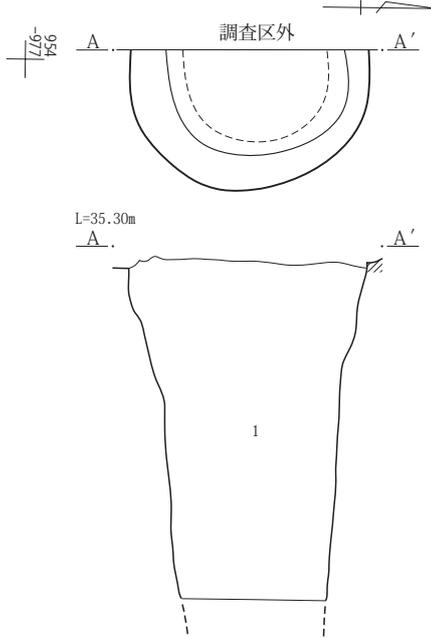
規模 長軸1.80m、短軸1.30m、深さ1.65m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

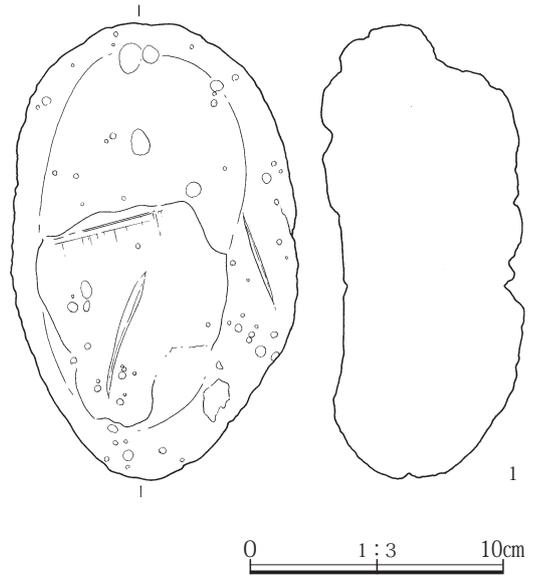
1区1号井戸



1区3号井戸



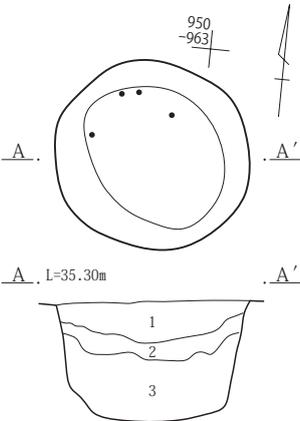
3号井戸出土遺物



1区3号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密
 ϕ 1~5mm口一ム粒5%。

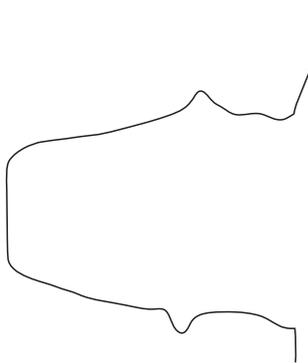
1区2号井戸



1区2号井戸

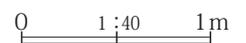
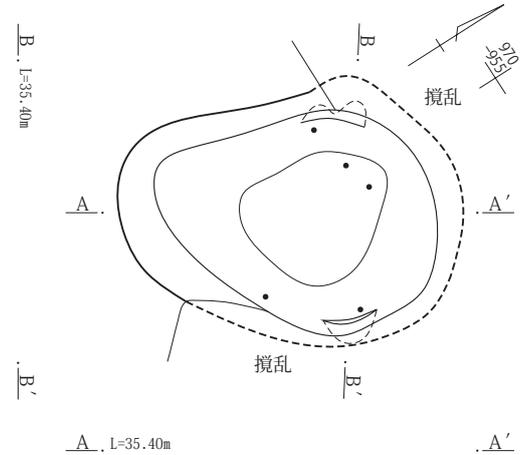
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 硬 ϕ 1~10mm口一ム粒10% 微砂(As-Bか)混入。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
 3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~10mm口一ム粒20%。

1区5号井戸



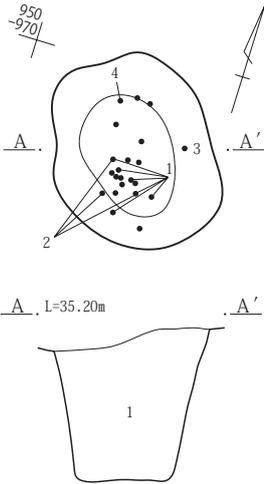
1区5号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 灰白色微砂混入。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mm口一ム粒5%。
 3. 黒褐色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。



第111図 1区1~3・5号井戸平面、3号井戸出土遺物

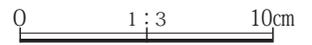
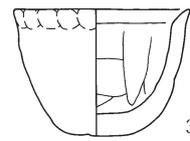
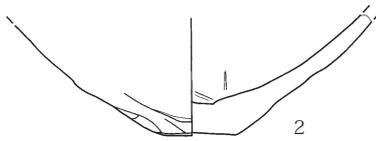
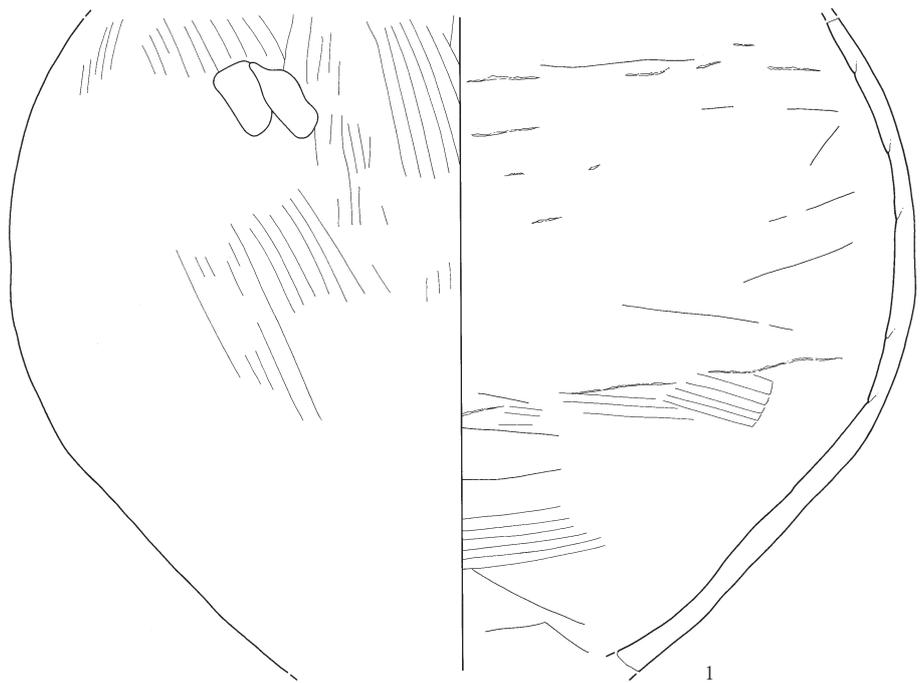
1区4号井戸



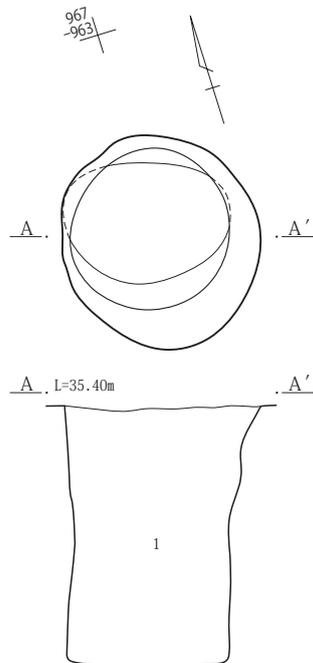
1区4号井戸

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 下位は粘性に富む。

4号井戸出土遺物

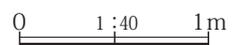


1区6号井戸



1区6号井戸

1. 黒褐色土(10YR3/1~3/2) 細粒 均質 密 上位30cm暗く灰白色微砂(As-Bか)混入 下位口一ム塊縞状混。



第112図 1区4・6号井戸平面、4号井戸出土遺物

遺物 須恵器片389g、加工痕のある剥片1点、石製品1点、木製品3点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器、加工痕のある剥片は混入と考えられる。

所見 平面形状から、本遺構の時期は近世と考えられる。

1区6号井戸(第112図、P L .48)

位置 X=29965~966、Y=-40962~963。

重複 1区1号方形周溝墓、4号掘立柱建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸1.14m、短軸1.04m、深さ1.44m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片71gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 1区1号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は6世紀以降と考えられるが、出土遺物は小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

1区7号井戸(第113図、P L .48・99)

位置 X=29965~966、Y=-40943~944。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径0.90m、深さ1.16m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 石製品2点(1・2)を図示した。他に、石製品2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 本遺構の時期は、石製品(1・2)のほか出土遺物は小破片のみのため、判別できなかった。

1区8号井戸(第113図、P L .48)

位置 X=29997~998、Y=-40972~973。

重複 1区7号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北東側が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-40°-W。

規模 長軸0.96m以上、短軸(0.34)m、深さ(0.61)m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 1区7号竪穴住居との重複関係から、本遺構の時期は平安時代以降と推定されるが、出土遺物もなく詳しくは判別できなかった。

1区9号井戸(第114図、P L .48・99)

位置 X=29949~950、Y=-40945。

重複 1区8号掘立柱建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-52°-E。

規模 長軸0.86m、短軸0.72m、深さ0.98m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 須恵器甕1点(1)を図示した。底面から出土した。他に、土師器片106g、須恵器片239gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は9世紀代と考えられる。

2区1号井戸(第113図、P L .48・99)

位置 X=29890~891、Y=-40357~358。

重複 2区18号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-42°-E。

規模 長軸1.55m、短軸1.23m、深さ0.89m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。中位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 円筒埴輪片1点(1)を図示した。他に、土師器片473g、須恵器片17g、埴輪片85gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 2区18号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

2区2号井戸(第113図、P L .48)

位置 X=29877~878、Y=-40363~364。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

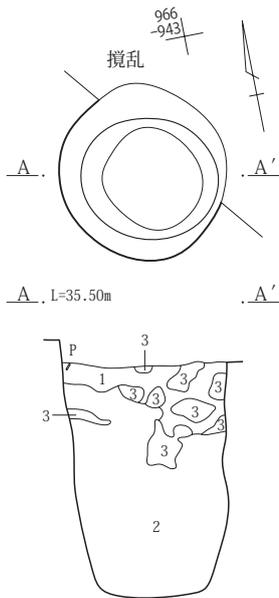
長軸方位 N-22°-E。

規模 長軸0.97m、短軸0.93m、深さ0.76m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片121gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

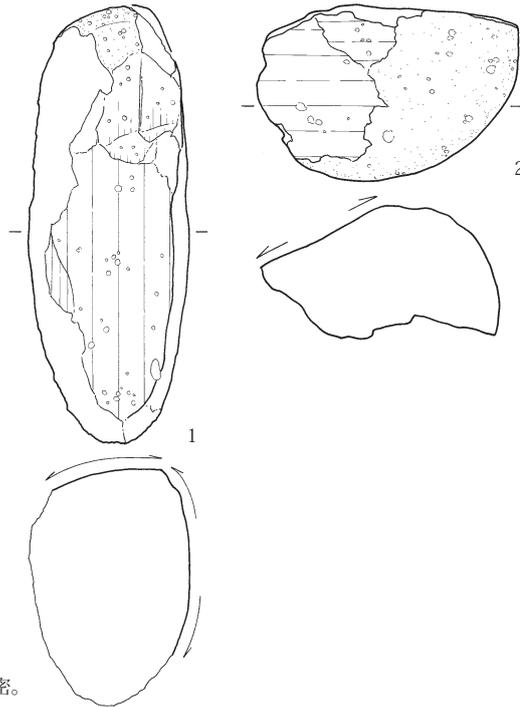
1区7号井戸



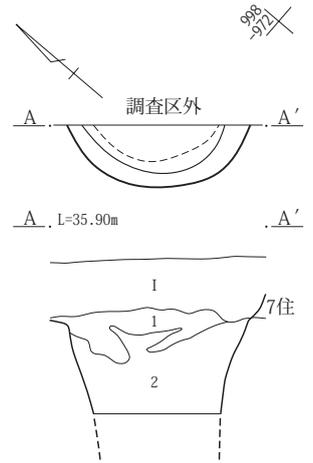
1区7号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
3. ローム塊。

7号井戸出土遺物



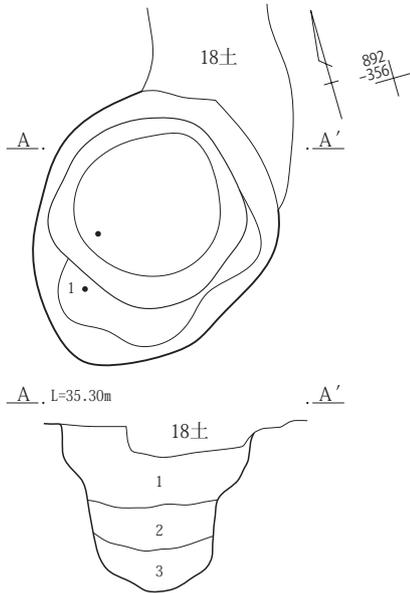
1区8号井戸



1区8号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密
ローム塊混入 7住1層の塊。
2. 1層にφ1~30mmローム粒・塊が綿状混。

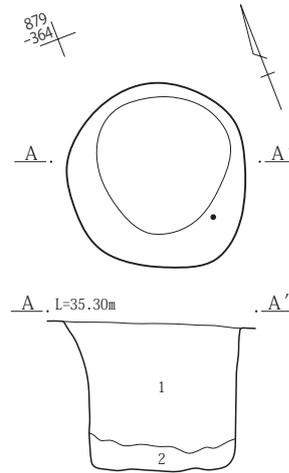
2区1号井戸



2区1号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊5%。
2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊25%。
3. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊25%斑混。

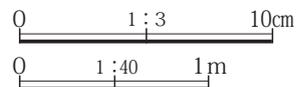
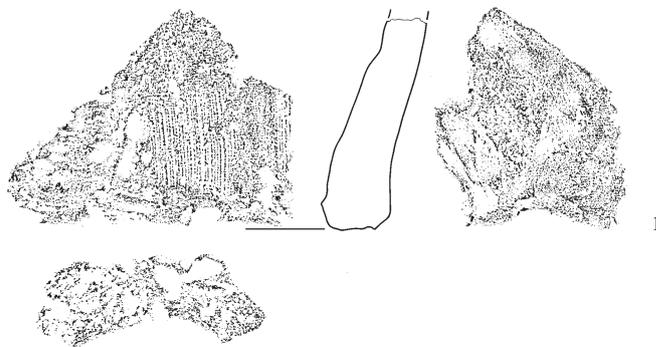
2区2号井戸



2区2号井戸

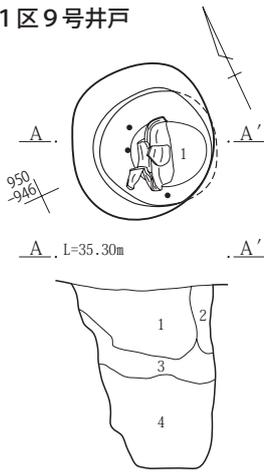
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム20%。

1号井戸出土遺物

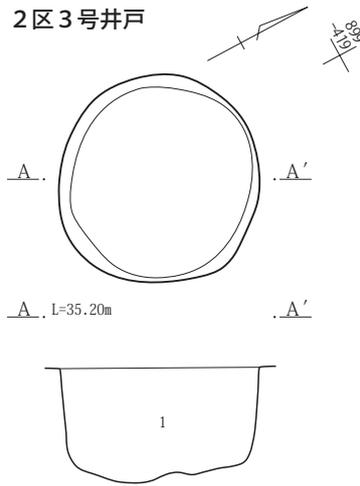


第113図 1区7・8号井戸・2区1・2号井戸平断面、1区7号井戸・2区1号井戸出土遺物

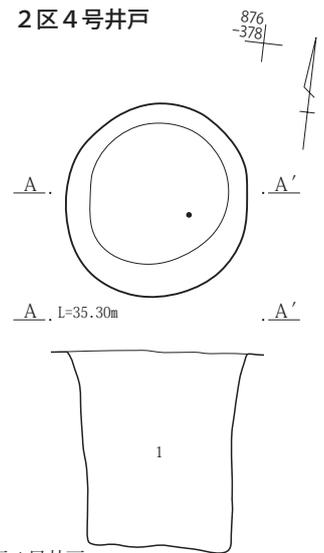
1区9号井戸



2区3号井戸



2区4号井戸



1区9号井戸

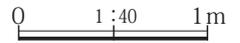
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒10%。
3. 1層と同質 ロームが縞状混。
4. 1層と同質 φ 1~2cmローム塊90%。

2区3号井戸

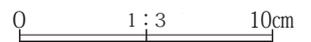
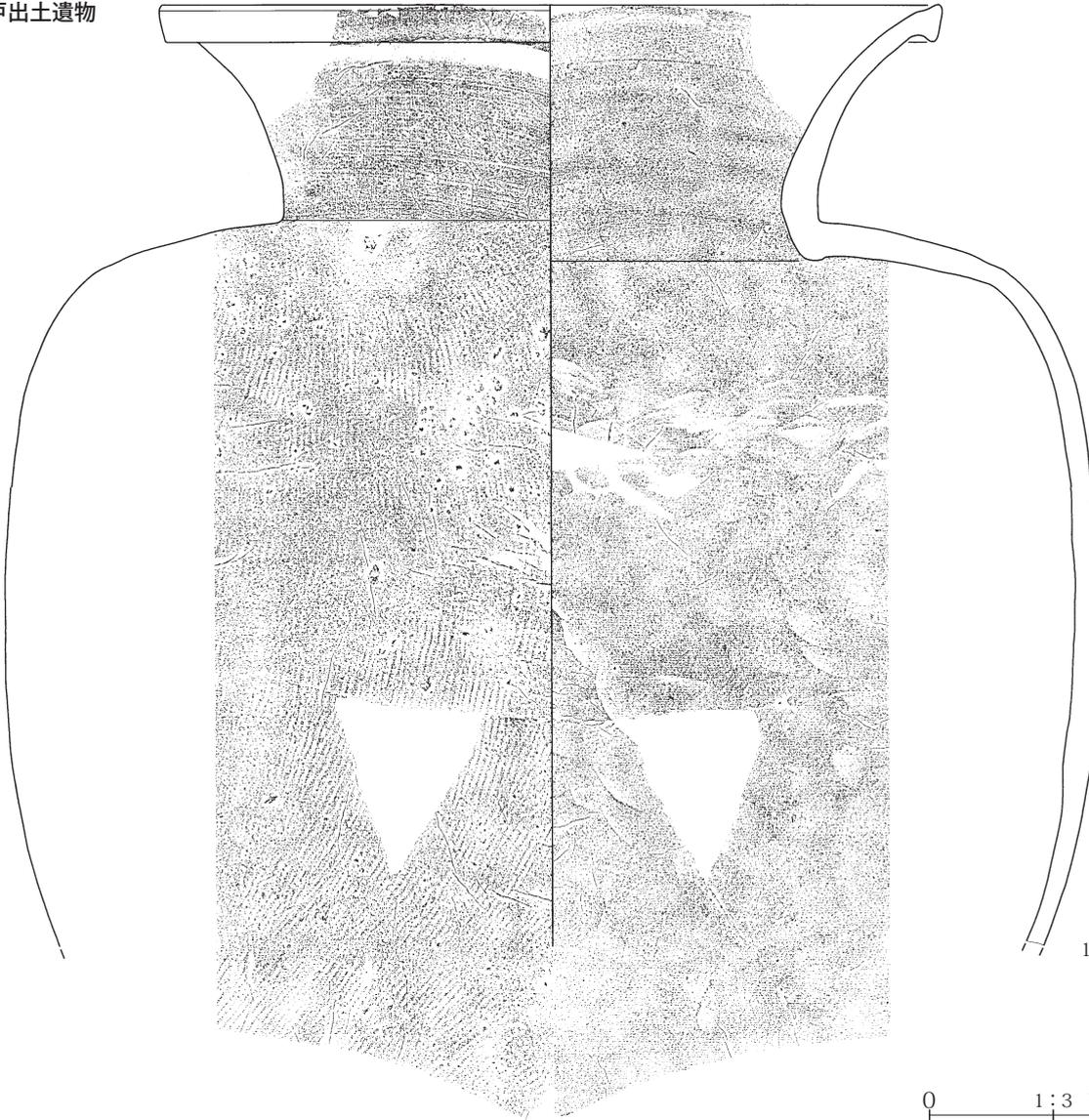
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊斑混。

2区4号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質
ローム微量。



9号井戸出土遺物



第114図 1区9号井戸・2区3・4号井戸平面、1区9号井戸出土遺物

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

2区3号井戸(第114図、P L .49)

位置 X=29897~898、Y=-40418~419。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.12m、深さ(0.63)m。

埋没土層 黒褐色土・ローム主体、1層が観察された。

ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区4号井戸(第114図、P L .49)

位置 X=29874~875、Y=-40378~379。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.03m、深さ(1.11)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片699g、埴輪片14g、十能瓦片60g、時期不明土器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

2区5号井戸(第115図、P L .49)

位置 X=29902、Y=-40415~416。

重複 2区7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径0.77m、深さ(1.21)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片49g、埴輪片22gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 2区7号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区6号井戸(第115図、P L .49)

位置 X=29890~892、Y=-40406~407。

重複 2区19号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 北東側が攪乱されている。推定円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.49m、深さ0.80m。

埋没土層 黒色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器片183gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 やや浅い感もあるが、底面より約20~30cm上まで水が湧出することから、井戸とした。2区19号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

2区7号井戸(第115図、P L .49)

位置 X=29877~879、Y=-40392~393。

重複 2区93号土坑と重複。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.09m、深さ(1.40)m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片3gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

2区8号井戸(第115図、P L .49)

位置 X=29884~885、Y=-40403~404。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

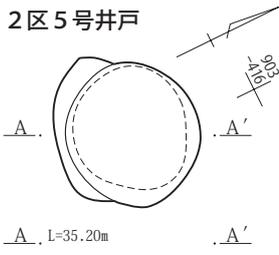
長軸方位 N-44°-W。

規模 長軸1.12m、短軸0.95m、深さ(0.92)m。

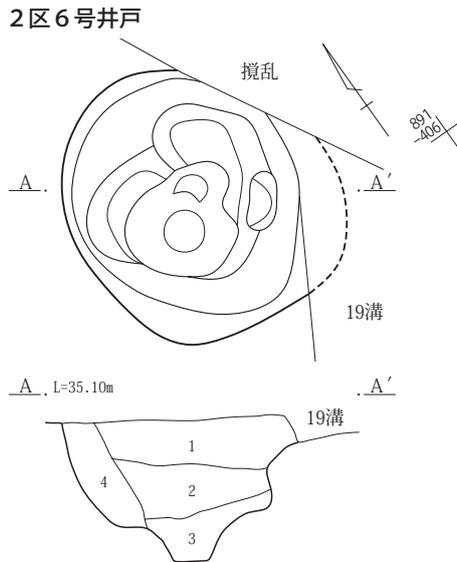
埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 埴輪片27g、不明土器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

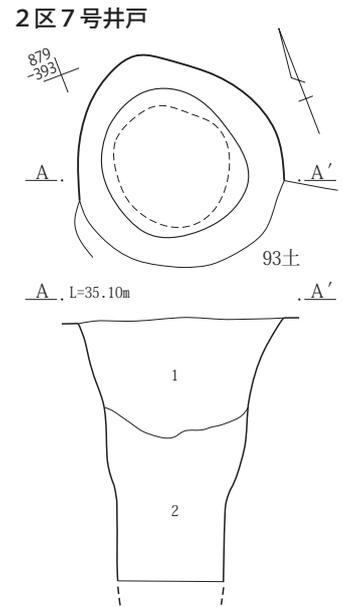
所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。



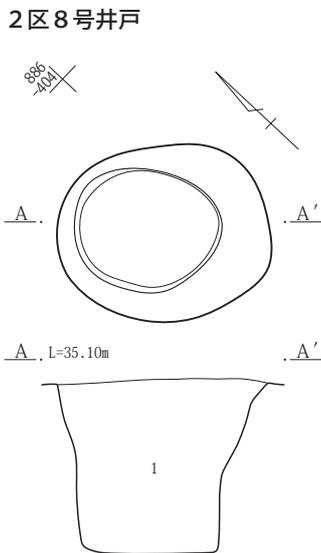
2区5号井戸
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒含む。



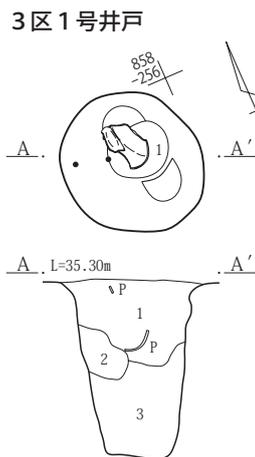
2区6号井戸
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ローム微混。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ローム15%。
3. 黒色土(10YR1.7/1) 卵大ローム塊混。
4. 黒色土(10YR2/1) ローム10%斑混。



2区7号井戸
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム5%混入。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 軟弱 ローム15%混入。

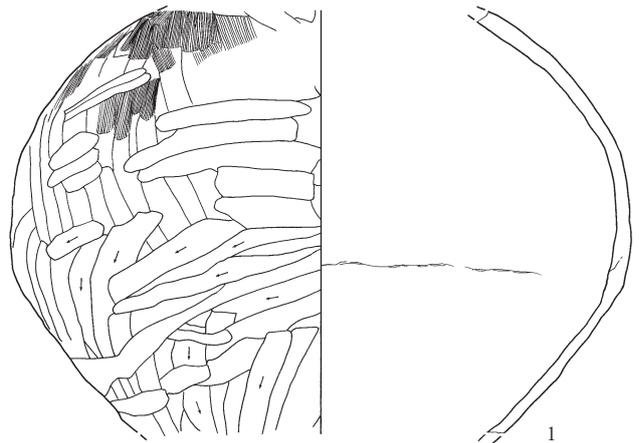


2区8号井戸
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 ローム5%混入。

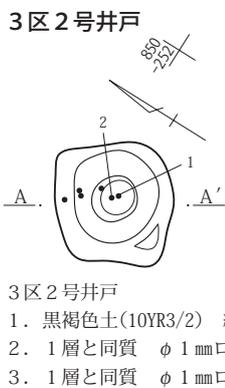
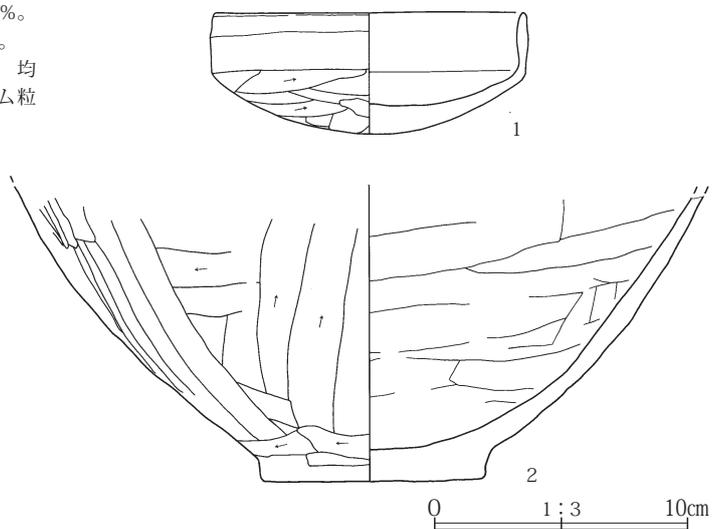


3区1号井戸
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒3%。
2. 1層と同質 ローム粒15%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒15%。

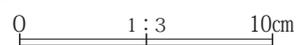
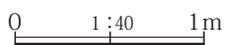
1号井戸出土遺物



2号井戸出土遺物



3区2号井戸
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質。
2. 1層と同質 ϕ 1mmローム粒7%。
3. 1層と同質 ϕ 1mmローム粒10%。



第115図 2区5~8号井戸平断面、3区1・2号井戸平断面、出土遺物

3区1号井戸(第115図、P L .49・100)

位置 X=29857~858、Y=-40256~257。

重複 3区3号掘立柱建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-25°-W。

規模 長軸0.79m、短軸0.71m、深さ0.97m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。下位にローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器甕1点(1)を図示した。他に、土師器片38gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺物は土師器甕(1)をはじめ小破片もほぼ全てが1層から出土した。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は6世紀代と推定されるが、出土位置が高く本遺構の廃絶後に時間をおいて遺棄された可能性も否定できない。

3区2号井戸(第115図、P L .49・100)

位置 X=29849~850、Y=-40253。

重複 なし。

平面形状 方形。

長軸方位 N-58°-E。

規模 一辺0.64m、深さ1.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器杯1点(1)・甕1点(2)を図示した。他に、土師器片460g、不明土器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺物は土師器杯(1)・甕(2)をはじめ小破片もほぼ全てが1・2層から出土した。

所見 出土遺物(1・2)から、本遺構の時期は6世紀代と推定されるが、出土位置が高く本遺構の廃絶後に時間をおいて遺棄された可能性も否定できない。

3区3号井戸(第116図、P L .50・100)

位置 X=29855~856、Y=-40255~256。

重複 3区3号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-72°-W。

規模 長軸1.27m、短軸1.04m、深さ1.23m。

埋没土層 黒褐色土・灰黄褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器埴2点(1・2)・台付甕1点(3)・小型甕

1点(4)・甕1点(5)を図示した。すべて2層下部から出土した。他に、土師器片611g、埴輪片18g、土製品1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。埴輪は混入と考えられる。

所見 出土遺物(1~5)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

3区4号井戸(第116図、P L .50・100)

位置 X=29848~849、Y=-40247~248。

重複 3区5号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-1°-E。

規模 長軸1.37m、短軸1.32m、深さ1.15m。

埋没土層 黒褐色土・褐灰色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器高坏1点(1)・埴1点(2)を図示した。土師器高坏(1)は2層、埴(2)は4層から出土した。他に、土師器片765gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物(2)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

3区5号井戸(第117図、P L .50・100)

位置 X=29862~864、Y=-40308~309。

重複 3区20号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-30°-W。

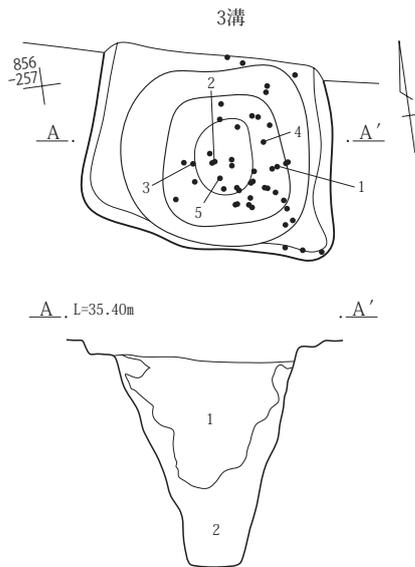
規模 長軸1.72m、短軸1.44m、深さ(0.86)m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 石製品1点(1)を図示した。他に、須恵器片9g、近世国産磁器片8g、国産施釉陶器片23g、在地系土器片120g、十能瓦342g、近現代土器片307g、時期不明土器片972g、石臼2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物に近世遺物の小破片を多く含むことおよび3区20号溝との重複関係から、本遺構の時期は近世と推定される。

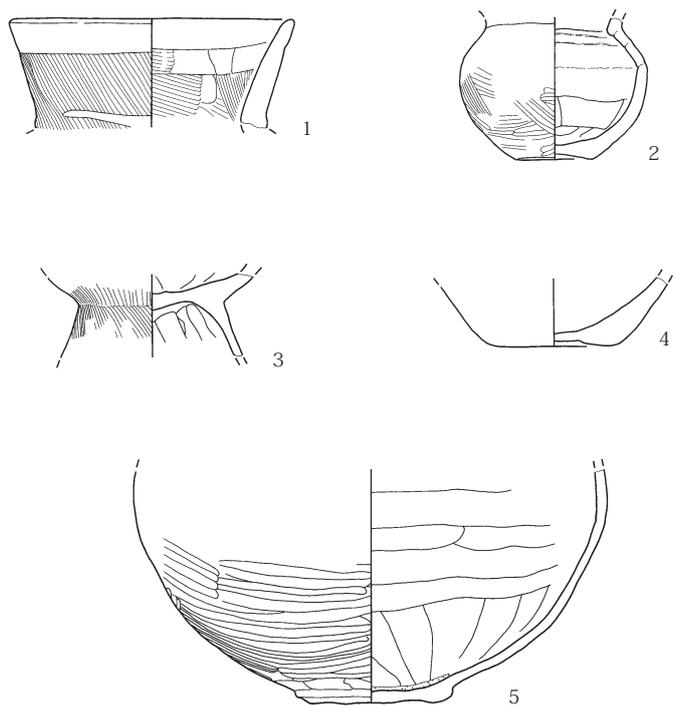
3区3号井戸



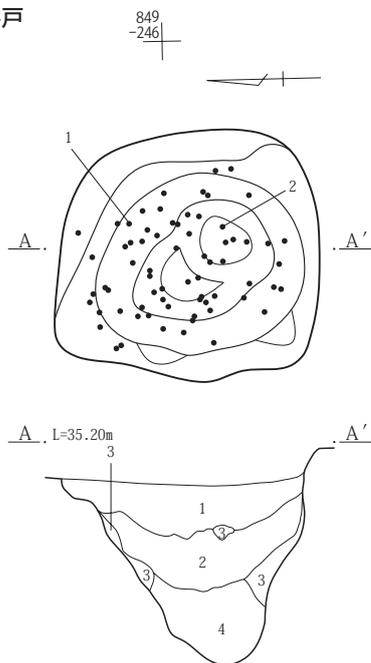
3区3号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
2. 灰黄褐色土(10YR6/2) 細粒 均質 上位と下位で明暗差 上位に ϕ 1~2mmローム粒 5%。

3号井戸出土遺物



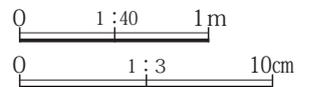
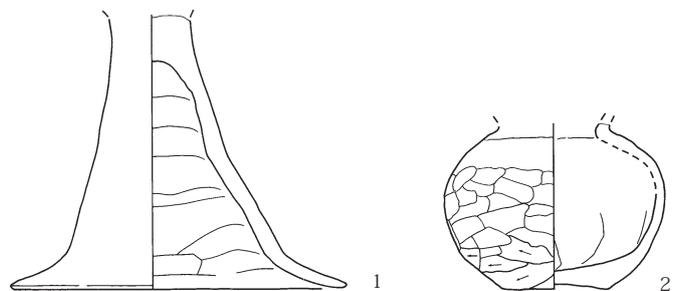
3区4号井戸



3区4号井戸

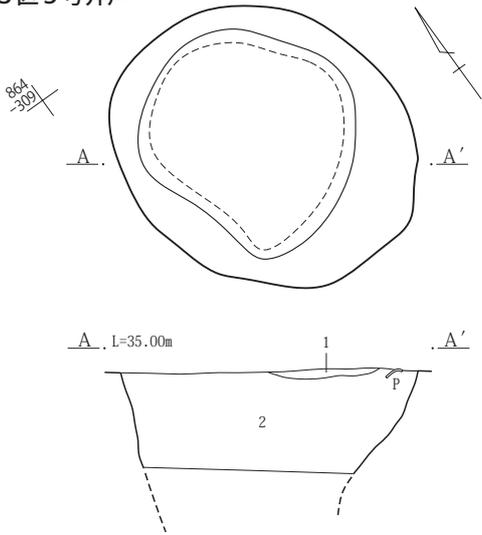
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 3% ϕ 1~2mm炭化物粒 2%。
2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒 1%。
3. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒 10%。
4. 褐灰色土(10YR4/1) 細粒 均質 含水し軟 ローム粒少混。

4号井戸出土遺物



第116図 3区3・4号井戸平断面、出土遺物

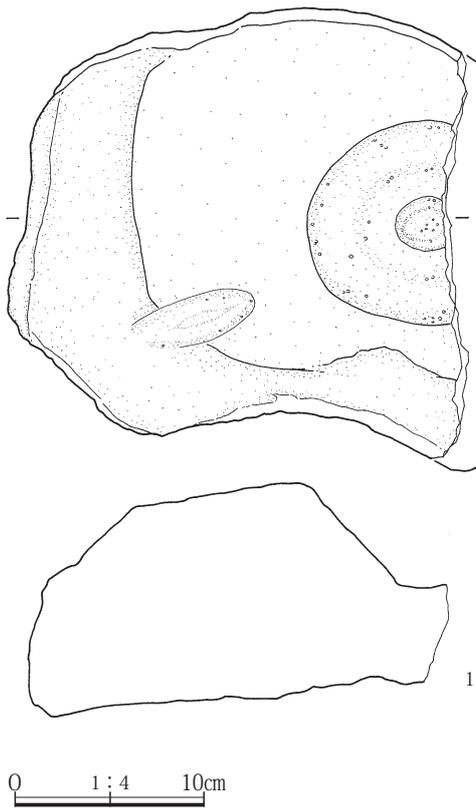
3区5号井戸



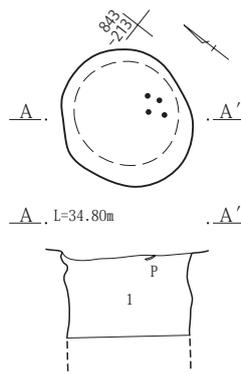
3区5号井戸

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 ϕ 1~2cmローム塊15%。
2. 1層と同質 ローム塊5%、上位に集中 黒褐色土斑混。

3区5号井戸出土遺物



4区1号井戸



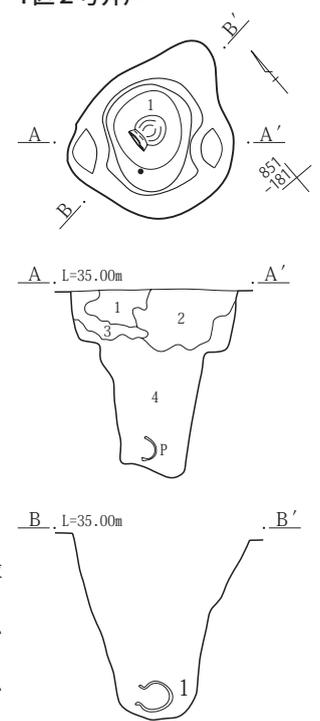
4区1号井戸

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。

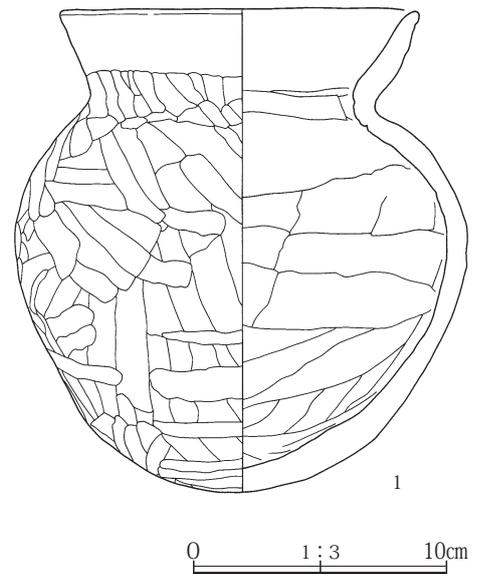
4区2号井戸

1. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~2mmローム粒 1%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 2~3mmローム粒 3%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~10mmローム粒 15%。

4区2号井戸



4区2号井戸出土遺物



第117図 3区5号井戸・4区1・2号井戸平断面、3区5号井戸・4区2号井戸出土遺物

4区1号井戸(第117図、P L .50)

位置 X=29842~843、Y=-40213。

重複 4区5号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-14°-E。

規模 長軸0.72m、短軸0.68m、深さ(1.00)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片45gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 4区5号溝との重複関係から、本遺構の時期は5世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

4区2号井戸(第117図、P L .50・100)

位置 X=29851、Y=-40181。

重複 4区25号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-76°-E。

規模 長軸0.94m、短軸0.78m、深さ0.98m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器甕1点(1)を図示した。土師器甕(1)は、底面付近の4層下部から出土した。他に、土師器片84g、須恵器片3g、時期不明土器片17g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は5世紀代と推定される。

4区3号井戸(第118図、P L .50・100)

位置 X=29850~851、Y=-40174~176。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-89°-E。

規模 長軸1.48m、短軸1.12m、深さ1.18m。

埋没土層 黒色土主体、5層が観察された。

遺物 土師器甕1点(1)を図示した。土師器甕(1)は4層から出土した。4区15号土坑の1と接合する土器片も出土している。他に、土師器片1,042gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は5世紀代と推定される。

第7節 茶毘遺構

発掘調査時に、埋没土中に炭化物・焼土とともに人骨片と思われる白色粒子が存在する長方形土坑1基を確認し、埋没土中の炭化物、焼土、白色粒子(骨片)から茶毘遺構とした。

1区1号茶毘遺構(第119図、P L .50)

位置 X=29952~954、Y=-40903~905

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸1.17m、短軸0.94m、深さ0.07m。

面積 1.00㎡

埋没土層 黒褐色土主体に炭化物、焼土、白色粒子(骨片)、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 埋没土中に炭化物・焼土とともに人骨片と思われる白色粒子が存在することから、本遺構を茶毘遺構とした。中世以降と推定される。

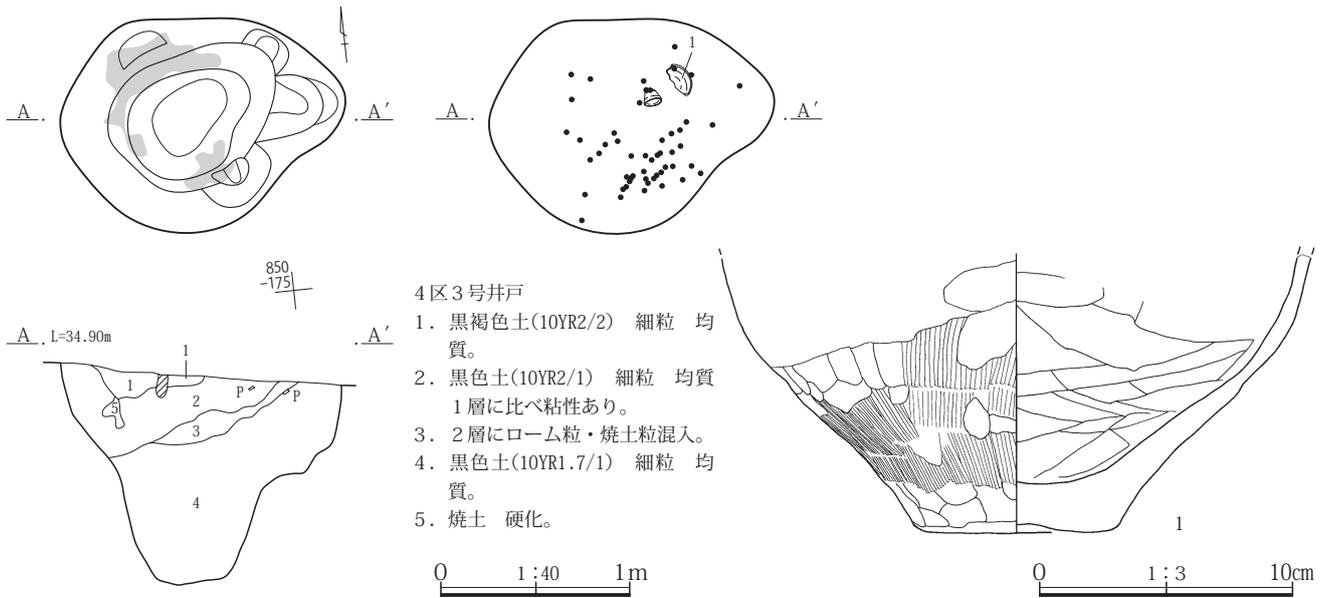
第8節 土坑・ピット

土坑・ピットは調査区全域に数多く分布しており、土坑246基、ピット180基が確認された。土坑の大半は中近世の長方形土坑、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑である。古墳時代のものが2~4区に1基、奈良・平安時代のものが2~4区に1基、詳細な時期は不明であるが古墳時代~奈良・平安時代のものが1区に1基、中近世のものが1区に11基、2~4区に178基、5区に3基、時期を判別できなかったものが1区に13基、2~4区に34基、5区に4基となっている。ピットの大半は出土遺物もなく、時期を特定できなかった(ピットについては第7~9表参照)。

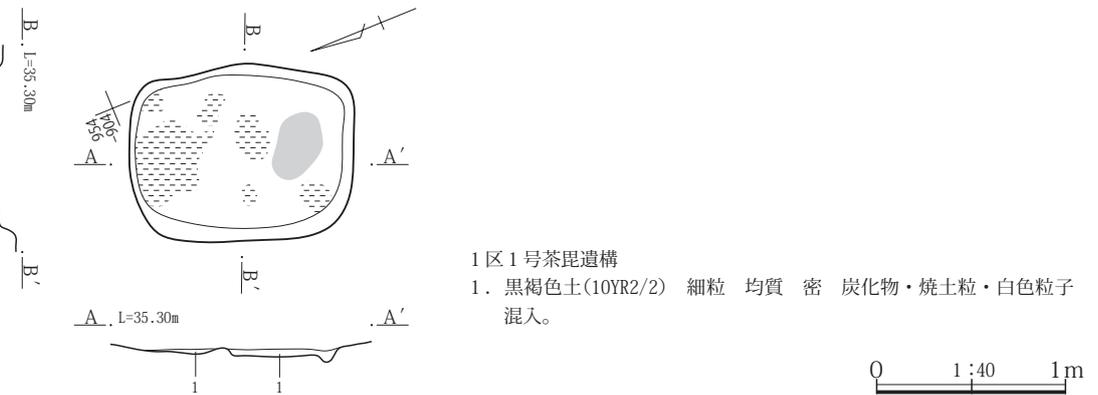
1区1号土坑(第120図、P L .51)

位置 X=29953~954、Y=-40957~958。

重複 1区3号掘立柱建物、47・56号ピットと重複。本遺構が新しい。

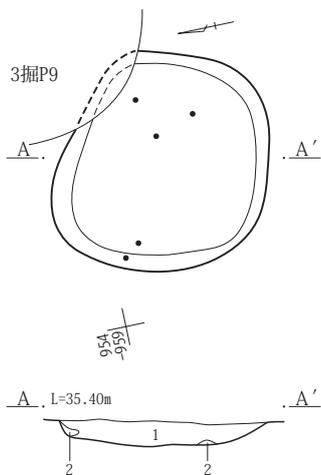


第118図 4区3号井戸平面、出土遺物



第119図 1区1号茶毘遺構平面

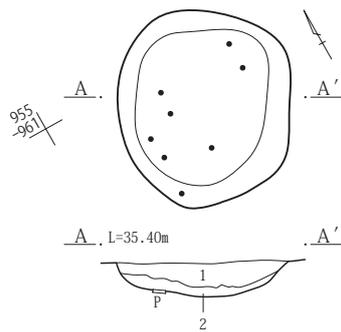
1区1号土坑



1区1号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 密 粘性あり ϕ 1~2mmローム粒10% 焼土粒少混。
2. ローム塊。

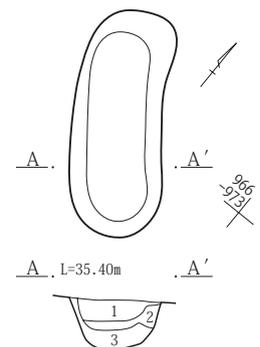
1区3号土坑



1区3号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 密。
2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10%。

1区7号土坑



1区7号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒少混。
2. 明黄褐色ローム(10YR7/6) にぶい黄褐色土斑混。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム斑混。

第120図 1区1・3・7号土坑平面

平面形状 長方形。

長軸方位 N-78°-W。

規模 長軸1.16m、短軸1.10m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片40g、須恵器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区3号土坑(第120図、P L .51)

位置 X=29954~955、Y=-40959~960。

重複 1区1号竪穴住居、2号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸1.04m、短軸0.90m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片104g、須恵器片50gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 1区1号竪穴住居、2号溝との重複関係から、本遺構の時期は9世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

1区7号土坑(第120図、P L .51)

位置 X=29965~966、Y=-40973~974。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-34°-E。

規模 長軸1.20m、短軸0.46m、深さ0.30m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。ロームが目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区8号土坑(第121図)

位置 X=29957~958、Y=-40966~967。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-19°-E。

規模 長軸1.10m、短軸0.80m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区9号土坑(第121図、P L .51)

位置 X=29955~956、Y=-40953。

重複 1区3号掘立柱建物と重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-6°-W。

規模 長軸0.70m、短軸0.64m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片14g、須恵器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区10号土坑(第121図)

位置 X=29967~969、Y=-40938~939。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-17°-W。

規模 長軸1.90m、短軸0.69m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層。

遺物 土師器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。平面形状から2基重複の可能性がある。

1区11号土坑(第121図、P L .51・101)

位置 X=29951~952、Y=-40911~913。

重複 1区4号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-58°-W。

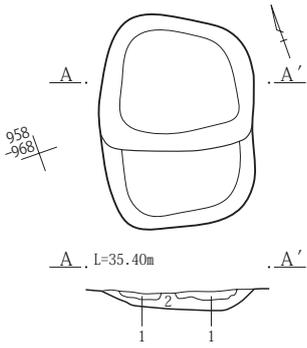
規模 長軸1.47m、短軸0.83m、深さ0.10m。

埋没土層 不明。

遺物 馬歯出土(第4章第1節参照)。

所見 馬歯が出土していることから、本遺構は馬の埋葬

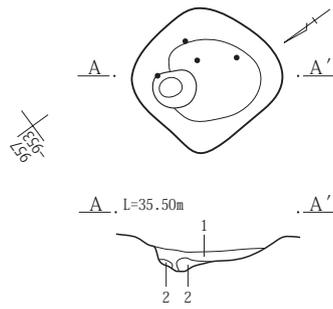
1区8号土坑



1区8号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
2. 1層とφ 1~2cmローム塊混。

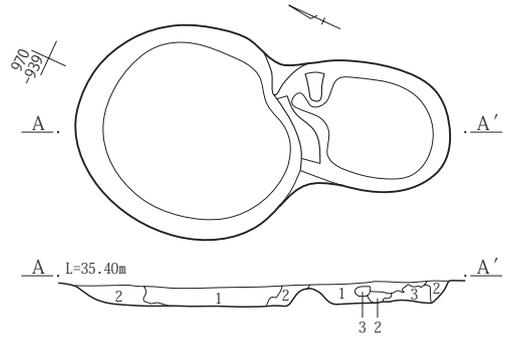
1区9号土坑



1区9号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒10% 焼土粒・炭化物粒混入。
2. 1層と同質 φ 2~3cmローム塊 50%。

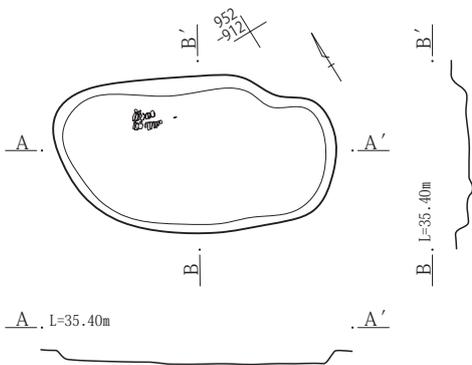
1区10号土坑



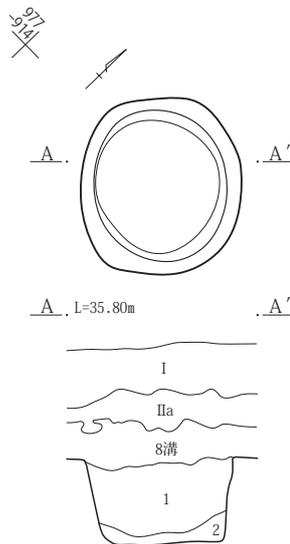
1区10号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~3cmローム塊15%。
2. 1層と同質 ローム塊30%。
3. ローム塊。

1区11号土坑



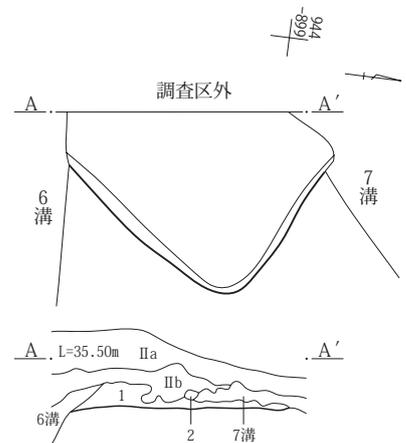
1区12号土坑



1区12号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 5~10cmローム粒3%。
2. 1層と同質 ローム粒少なめ 細砂混入。

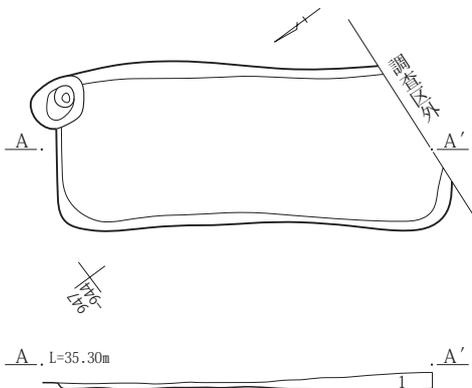
1区13号土坑



1区13号土坑

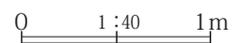
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~10cmローム粒5%。
2. As-YP塊。

1区14号土坑



1区14号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。



第121図 1区8~14号土坑平断面

土坑の可能性がある。獣歯骨鑑定の結果、埋葬された馬の歯のみが残存したもので时期的には中世以降とのことであり、本遺構の時期は中近世と推定される。

1区12号土坑(第121図、P L .51)

位置 X=29976~977、Y=-40912~913。

重複 1区8号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-47°-W。

規模 長軸0.92m、短軸0.84m、深さ0.52m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 1区8号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

1区13号土坑(第121図、P L .51)

位置 X=29942~944、Y=-40897~898。

重複 1区6・7号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸(1.00)m、短軸1.00m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑。

1区14号土坑(第121図、P L .51)

位置 X=29945~946、Y=-40943~944。

重複 なし。

平面形状 南端が調査区外。推定長方形。

長軸方位 N-37°-E。

規模 長軸(2.00)m、短軸0.82m、深さ0.08m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区15号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29952~953、Y=-40938~940。

重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-68°-W。

規模 長軸1.28m、短軸0.68m、深さ0.14m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区16号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29953~954、Y=-40935~936。

重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-44°-W。

規模 長軸1.04m、短軸0.62m、深さ0.09~0.19m。

埋没土層 黒色土主体、4層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 1区2号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

1区17号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29952~953、Y=-40935~936。

重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-8°-W。

規模 長軸1.12m、短軸0.92、深さ0.14m。

埋没土層 黒色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片5g、須恵器片5gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

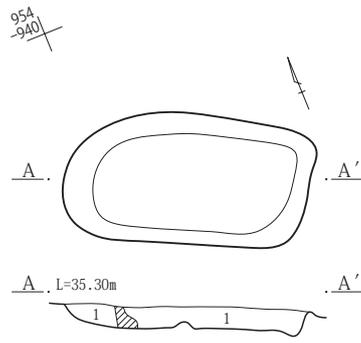
所見 1区2号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

1区18号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29951~953、Y=-40933~935。

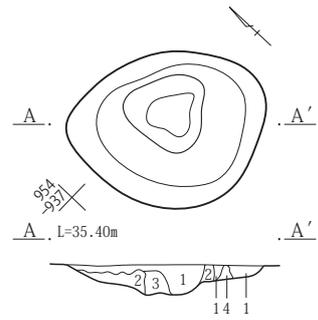
重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

1区15号土坑



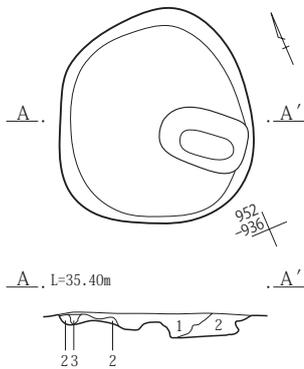
- 1区15号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

1区16号土坑



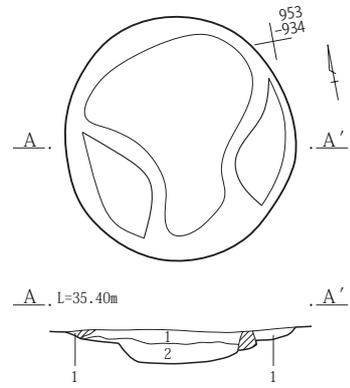
- 1区16号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ローム粒10%。
3. 1層と同質 ローム粒20%。
4. ローム塊。

1区17号土坑



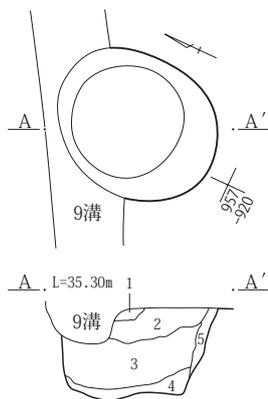
- 1区17号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ローム粒50%。
3. ローム塊。

1区18号土坑



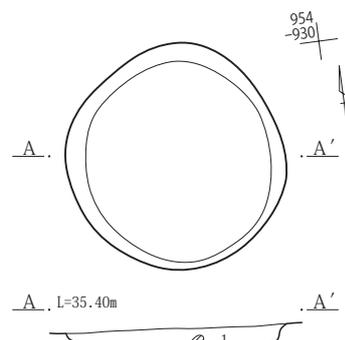
- 1区18号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~2 mmローム粒 3% ϕ 1~2 cm As-YP塊混入。
2. 1層と同質 ϕ 1~2 cmローム塊10%。

1区19号土坑

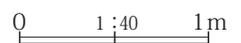


- 1区19号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3)。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 微砂混入しザラつく。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmのローム粒 3%。
4. 3層と同質 ローム粒 5% 粘性あり。
5. 3層と同質 ローム粒多く大粒。

1区20号土坑



- 1区20号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。



第122図 1区15~20号土坑平面図

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-10°-E。

規模 長軸1.30m、短軸1.20m、深さ0.16m。

埋没土層 黒色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 1区2号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

1区19号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29957、Y=-40919~920。

重複 1区4号方形周溝墓、9号溝と重複。本遺構が9号溝より古く、4号方形周溝墓より新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-16°-E。

規模 長軸0.90m、短軸0.72m、深さ0.45m。

埋没土層 黒褐色土主体、5層が観察された。

遺物 土師器片26gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 1区4号方形周溝墓・9号溝との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降9世紀以前と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

1区20号土坑(第122図、P L .52)

位置 X=29952~953、Y=-40934~935。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-10°-E。

規模 長軸1.20m、短軸1.14m、深さ0.14m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片4gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区21号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29955、Y=-40934~935。

重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-26°-W。

規模 長軸0.82m、短軸0.62m、深さ0.12m。

埋没土層 黒色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 1区2号方形周溝墓との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

1区22号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29957~958、Y=-40925~926。

重複 なし。

平面形状 楕円形。底面にピット状の凹み2箇所。

長軸方位 N-37°-W。

規模 長軸0.70m、短軸0.60m、深さ0.11~0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区23号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29958~960、Y=-40925~927。

重複 なし。

平面形状 北側が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-36°-E。

規模 長軸(1.86)m、短軸0.80m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区24号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29957、Y=-40934~935。

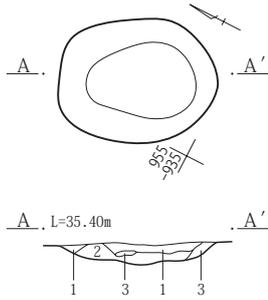
重複 1区2号方形周溝墓、8号溝と重複。本遺構が8号溝より古く、2号方形周溝墓より新しい。

平面形状 西側が調査区外に延びる。推定楕円形。底面にピット状の凹み2箇所。

長軸方位 N-56°-E。

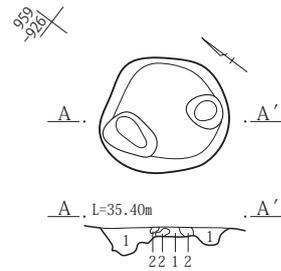
規模 長軸1.04m、短軸(0.66)m、深さ0.38m。

1区21号土坑



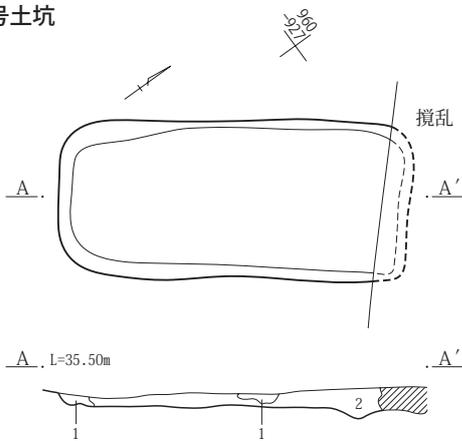
- 1区21号土坑
 1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 ϕ 1~2cmローム塊10%。
 3. ローム塊。

1区22号土坑



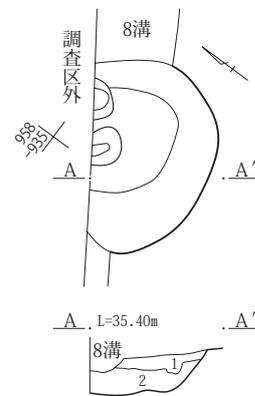
- 1区22号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. As-YP塊。

1区23号土坑



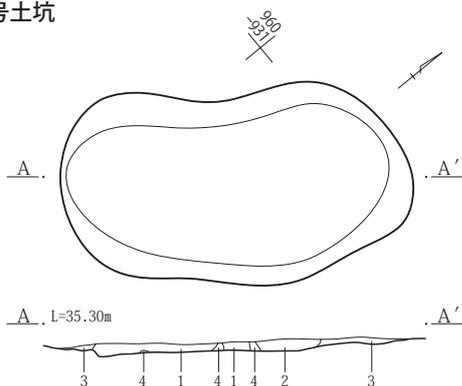
- 1区23号土坑
 1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10% ϕ 1~2mm As-YP塊10%。

1区24号土坑



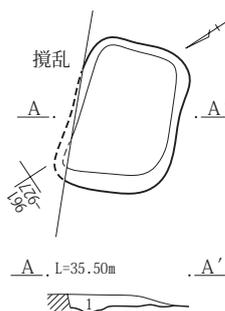
- 1区24号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2)とローム粒の縞状混土。

1区25号土坑

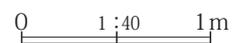


- 1区25号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ローム粒・黒色土粒混入。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒5%。
 3. 1層と同質 ローム粒は大粒で20%。
 4. As-YP塊。

1区26号土坑



- 1区26号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒3%。



第123図 1区21~26号土坑平面図

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 1区2号方形周溝墓、8号溝との重複関係から、本遺構の時期は4世紀以降中世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

1区25号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29958~960、Y=-40929~931。

重複 1区2号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-40°-E。

規模 長軸1.86m、短軸0.94m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区26号土坑(第123図、P L .52)

位置 X=29960、Y=-40926~927。

重複 なし。

平面形状 北側が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-45°-W。

規模 長軸0.80m、短軸(0.54)m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片3gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

1区27号土坑(第124図、P L .52)

位置 X=29955~956、Y=-40920~921。

重複 1区4号方形周溝墓と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸0.80m、短軸0.60m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区28号土坑(第124図、P L .53)

位置 X=29957~958、Y=-40924。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸0.64m、短軸0.44m、深さ0.15m。

埋没土層 灰黄褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物が小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

1区29号土坑(第124図、P L .53)

位置 X=29951~952、Y=-40937~939。

重複 1区2号方形周溝墓、8号掘立柱建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-89°-E。

規模 長軸1.48m、短軸1.30m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片33g、須恵器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 1区8号掘立柱建物との重複関係から、本遺構の時期は9世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

2区1号土坑(第124図、P L .53)

位置 X=29881~882、Y=-40339~340。

重複 2区2号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 北西側が2区2号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-69°-W。

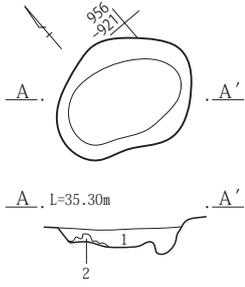
規模 長軸(1.27)m、短軸0.67m、深さ0.17m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

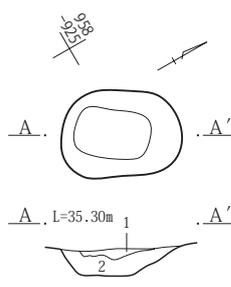
1区27号土坑



1区27号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 ϕ 1~10mmローム粒・As-YP塊混入。
2. ローム塊。

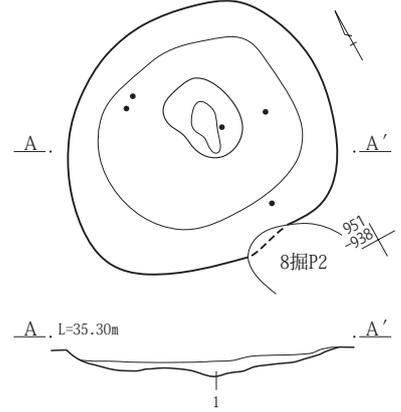
1区28号土坑



1区28号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒均質密。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 細粒均質密粘性に富む。

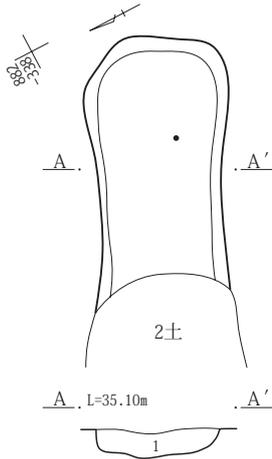
1区29号土坑



1区29号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 ϕ 1~10mmローム粒5%。

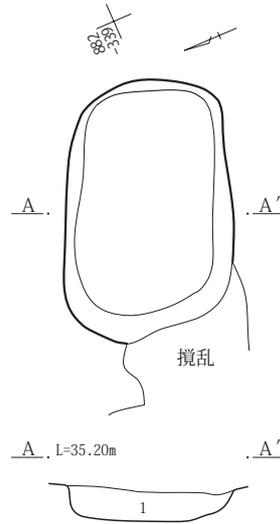
2区1号土坑



2区1号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

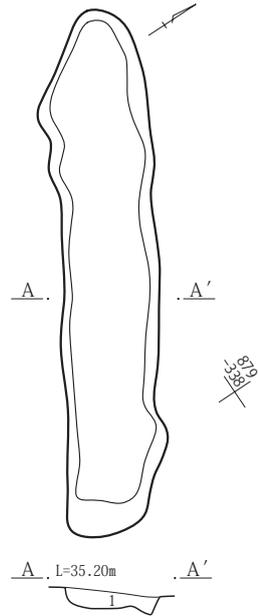
2区2号土坑



2区2号土坑

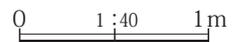
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

2区4号土坑



2区4号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。



第124図 1区27~29号土坑、2区1・2・4号土坑平断面

2区2号土坑(第124図、P L .53)

位置 X=29881~882、Y=-40339~340。

重複 2区1号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-67°-W。

規模 長軸1.38m、短軸0.89m、深さ0.21m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片4gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。出土遺物の土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区4号土坑(第124図、P L .53)

位置 X=29877~879、Y=-40337~340。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-62°-W。

規模 長軸2.82m、短軸0.50m、深さ0.13m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片2gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区5号土坑(第125図、P L .53)

位置 X=29874~876、Y=-40340~342。

重複 2区17号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸2.62m、短軸0.87m、深さ0.23m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。平面形状から2基重複の可能性がある。

2区6号土坑(第125図、P L .53)

位置 X=29874~881、Y=-40342~346。

重複 2区7号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸6.27m、短軸1.01m、深さ0.15m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片33g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区7号土坑(第125図、P L .53)

位置 X=29878~879、Y=-40343~344。

重複 2区6号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸1.28m、短軸0.53m、深さ0.10m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片4gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区8号土坑(第125図、P L .53)

位置 X=29880~887、Y=-40342~345。

重複 2区1・2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸6.95m、短軸0.92m、深さ0.23m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

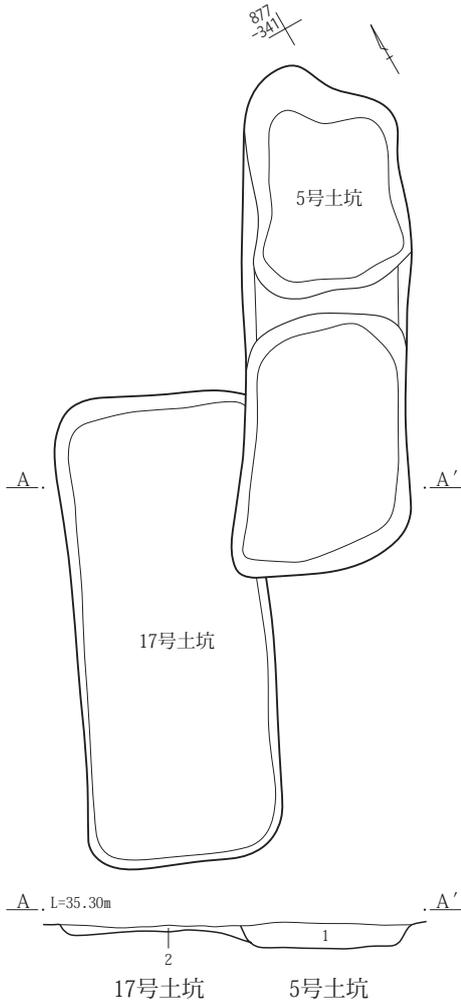
遺物 土師器片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区9号土坑(第126図、P L .54)

位置 X=29888~890、Y=-40344~345。

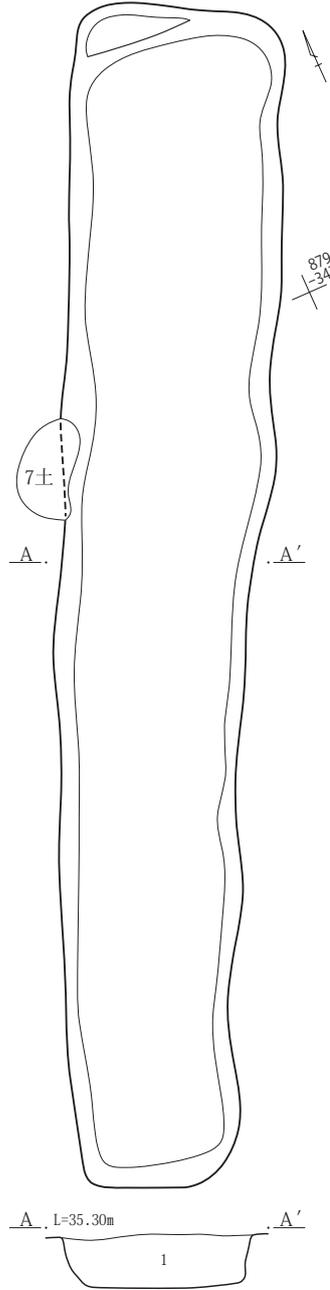
2区5・17号土坑



2区5・17号土坑

- 1. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム粒混入。
- 2. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒混入。

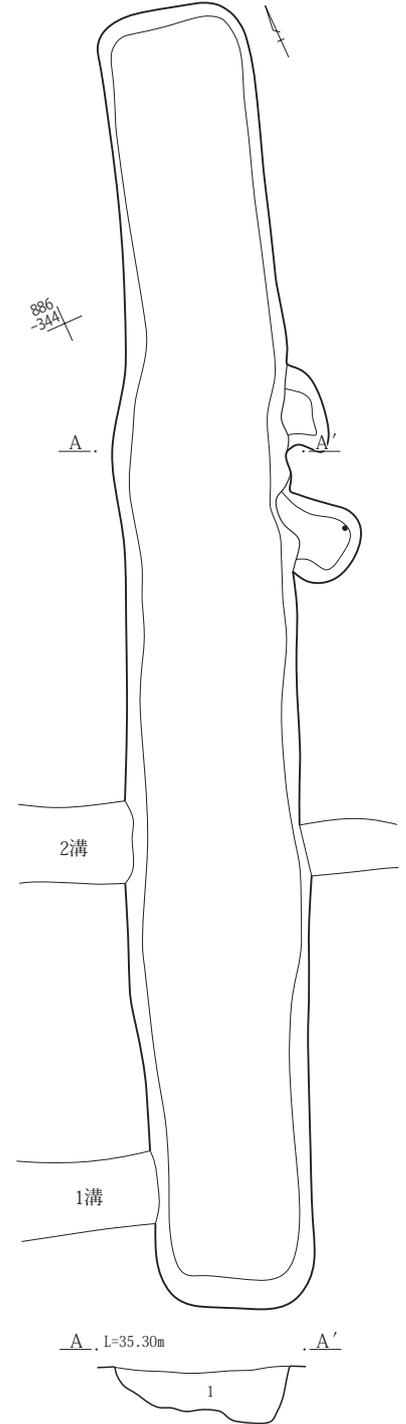
2区6号土坑



2区6号土坑

- 1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

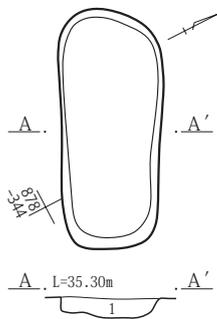
2区8号土坑



2区8号土坑

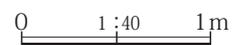
- 1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

2区7号土坑



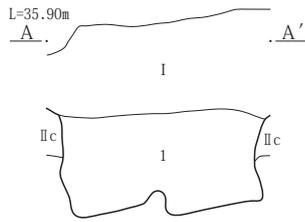
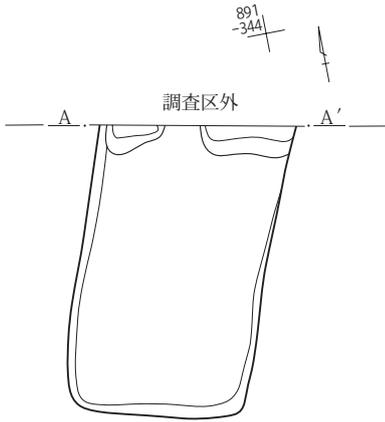
2区7号土坑

- 1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊少混。



第125図 2区5・17・6～8号土坑平断面

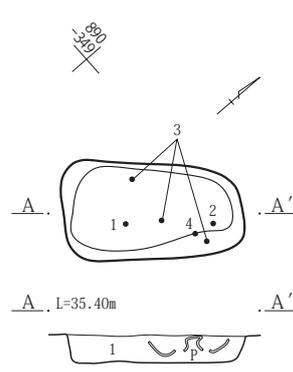
2区9号土坑



2区9号土坑

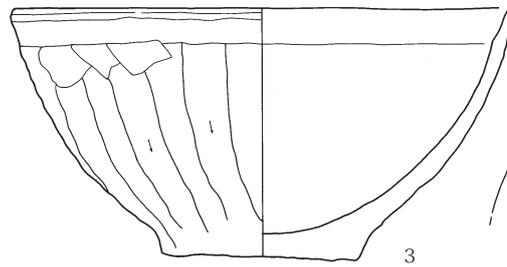
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊少混。

2区10号土坑

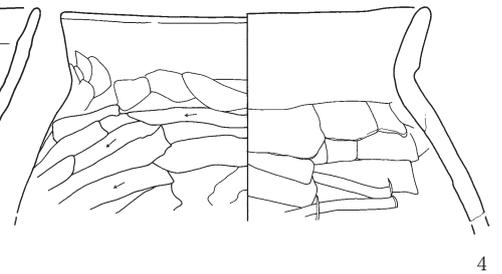
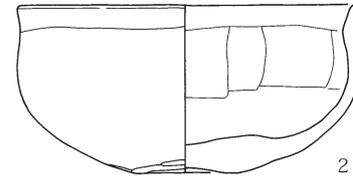
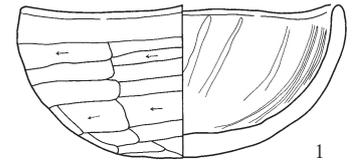


2区10号土坑

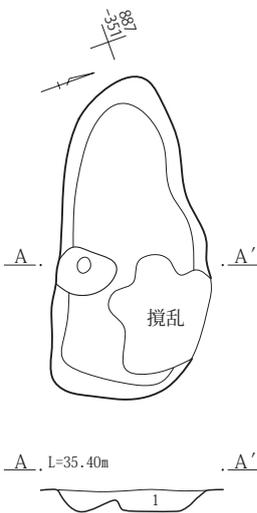
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊10%。



10号土坑出土遺物



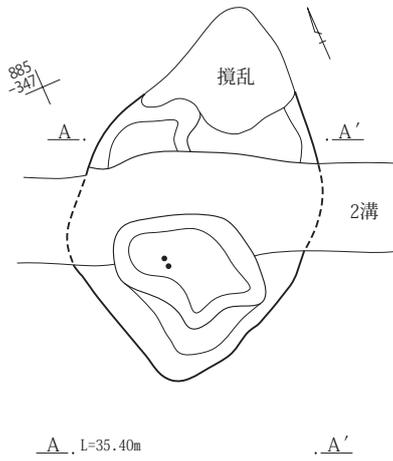
2区11号土坑



2区11号土坑

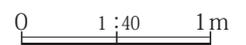
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊30%。

2区12号土坑



2区12号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム斑混。



第126図 2区9～12号土坑平断面、10号土坑出土遺物

重複 なし。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定長方形。底面に2箇所ピット状の凹み。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸1.57m、短軸0.98m、深さ0.19m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区10号土坑(第126図、P L .54・101)

位置 X=29889~890、Y=-40347~348。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-39°-E。

規模 長軸0.95m、短軸0.51m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器杯1点(1)・鉢2点(2・3)・甕1点(4)を図示した。

所見 出土遺物(1~4)から、本遺構の時期は6世紀代と推定される。

2区11号土坑(第126図、P L .54)

位置 X=29886~887、Y=-40349~350。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸1.73m、短軸0.51m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世のイモ穴と推定される。

2区12号土坑(第126図)

位置 X=29883~884、Y=-40345~347。

重複 2区2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 攪乱が著しく、中央部が2区2号溝に掘削されている。不整形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸1.93m、短軸1.13m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片84gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 2区2号溝との重複関係から、本遺構の時期は近世以前と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

2区13号土坑(第127図)

位置 X=29885~886、Y=-40350~351。

重複 2区2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 南側大半が2区2号溝に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸0.90m、短軸(0.61)m、深さ0.03~0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区14号土坑(第127図)

位置 X=29885~887、Y=-40352~353。

重複 2区2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 攪乱が著しく、中央部が2区2号溝に掘削されている。不整形。

長軸方位 N-21°-E。

規模 長軸1.45m、短軸1.25m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片1g、須恵器片9g、時期不明土器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 2区2号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

2区15号土坑(第127図、P L .54)

位置 X=29889~893、Y=-40352~354。

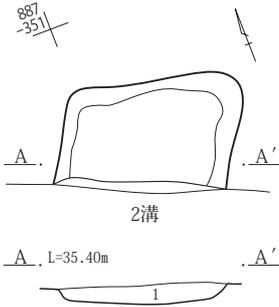
重複 なし。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定長楕円形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸(3.05)m、短軸0.69m、深さ0.18m。

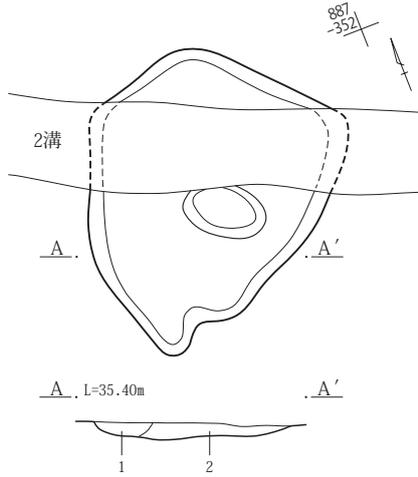
2区13号土坑



2区13号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 硬質 ローム5%。

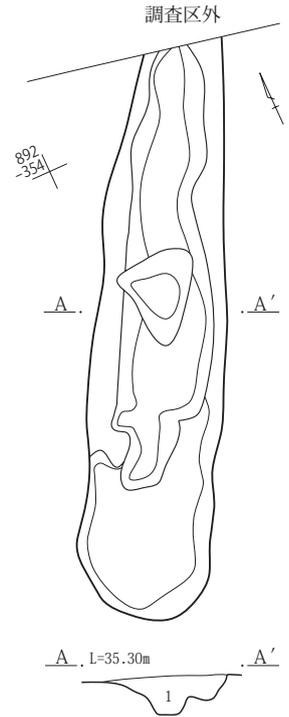
2区14号土坑



2区14号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊20%。
2. 黒褐色土(10YR3/3) ローム塊30%。

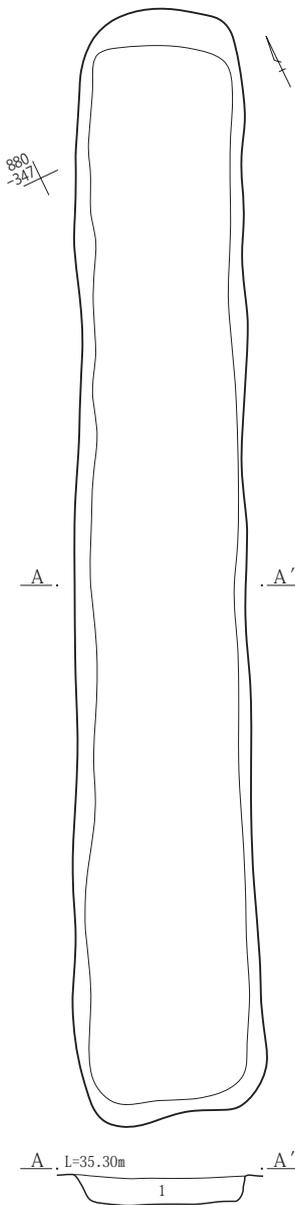
2区15号土坑



2区15号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/3) ローム塊20%。

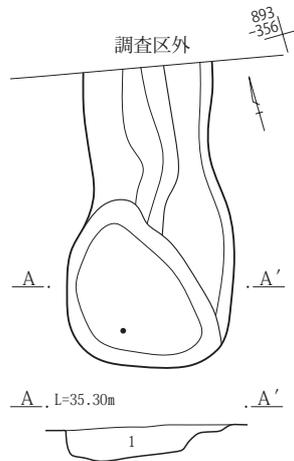
2区16号土坑



2区16号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

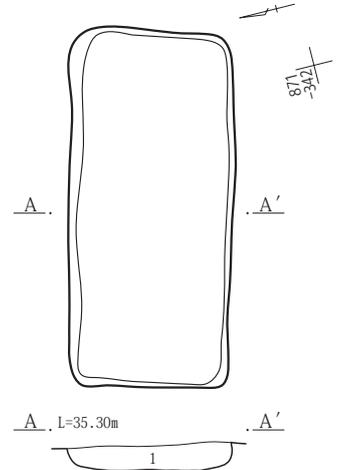
2区18号土坑



2区18号土坑

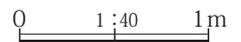
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

2区19号土坑



2区19号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒混入。



第127図 2区13~16・18・19号土坑平断面

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。調査時の所見により土坑としたが、溝である可能性も考えられる。

2区16号土坑(第127図、P L .54)

位置 X=29875~880、Y=-40345~349。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸5.89m、短軸0.92m、深さ0.14m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区17号土坑(第125図)

位置 X=29873~876、Y=-40342~344。

重複 2区5号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸2.51m、短軸1.05m、深さ0.05m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区18号土坑(第127図、P L .54)

位置 X=29891~893、Y=-40356~357。

重複 2区1号井戸と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定長楕円形。

長軸方位 N-15°-E。

規模 長軸(1.60)m、短軸0.67m、深さ0.12m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊

が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片26gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区19号土坑(第127図、P L .55)

位置 X=29871~872、Y=-40341~343。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-77°-W。

規模 長軸1.90m、短軸0.88m、深さ0.14m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片25g、埴輪片19gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区20号土坑(第128図、P L .54)

位置 X=29892~894、Y=-40360~361。

重複 なし。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-27°-E。

規模 長軸(1.51)m、短軸1.13m、深さ0.17m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

遺物 埴輪片32gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区21号土坑(第128図、P L .55)

位置 X=29868~870、Y=-40347~349。

重複 2区22号土坑と重複。本遺構が新しい。

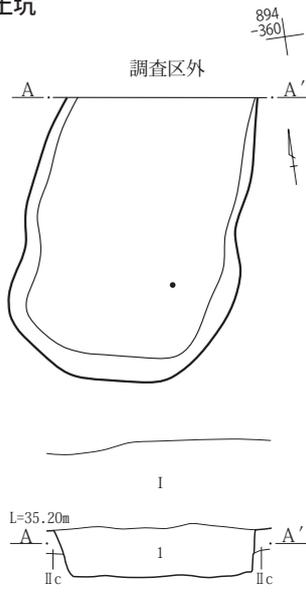
平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-67°-W。

規模 長軸2.67m、短軸0.65m、深さ0.12m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊

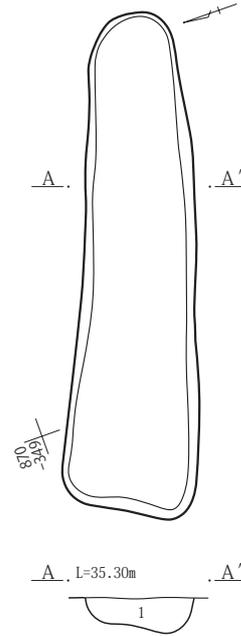
2区20号土坑



2区20号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

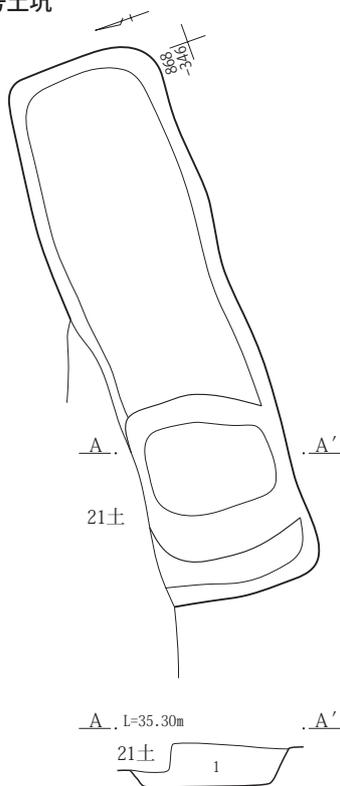
2区21号土坑



2区21号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒混入。

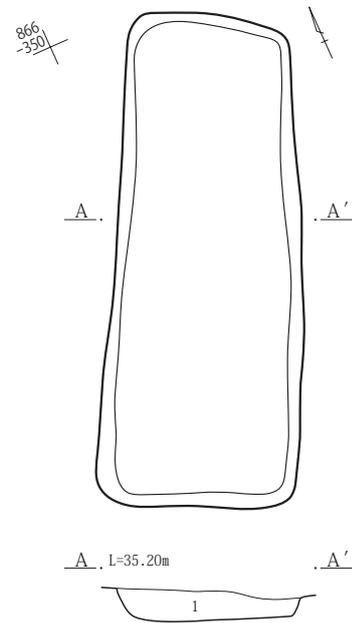
2区22号土坑



2区22号土坑

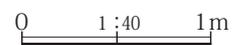
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

2区23号土坑



2区23号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/3) ローム塊混入。



第128図 2区20～23号土坑平面図

が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片7g、近世在地系土器片5gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区22号土坑(第128図、P L.55)

位置 X=29868~869、Y=-40346~348。

重複 2区21号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸3.01m、短軸0.88m、深さ0.20m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片31g、須恵器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区23号土坑(第128図、P L.55)

位置 X=29863~867、Y=-40348~351。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.62m、短軸0.96m、深さ0.13m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区24号土坑(第129図、P L.55)

位置 X=29864~868、Y=-40351~353。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸4.07m、短軸0.91m、深さ0.33m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片21gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区25号土坑(第129図、P L.54)

位置 X=29888~889、Y=-40358~360。

重複 2区3号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸1.57m、短軸0.62m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 時期不明土器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区26号土坑(第129図、P L.55)

位置 X=29890~893、Y=-40378~379。

重複 2区2号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-16°-E。

規模 長軸1.60m、短軸0.51m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片15g、時期不明土器片4g、瓦片66gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区27号土坑(第129図、P L.55)

位置 X=29868~869、Y=-40373~374。

重複 2区3号溝と重複。本遺構が新しい。

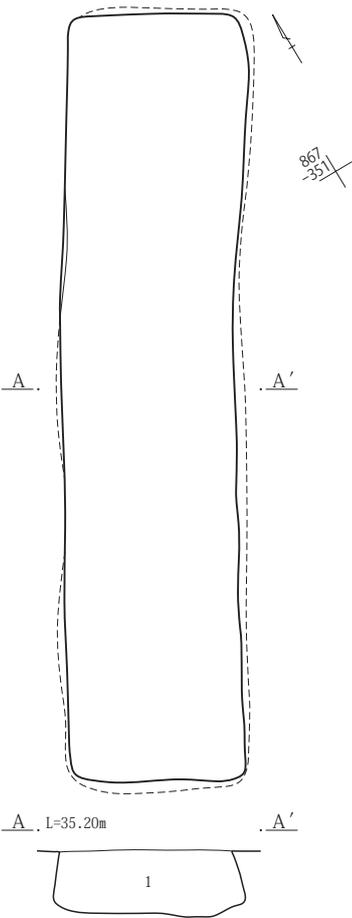
平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸1.63m、短軸0.53m、深さ0.10m。

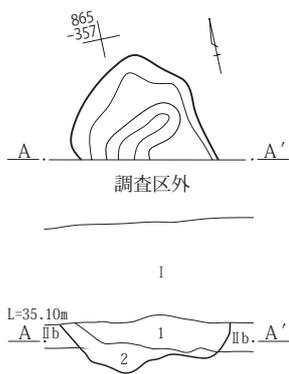
埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

2区24号土坑



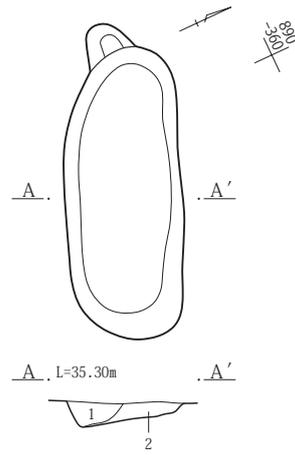
2区24号土坑
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。

2区29号土坑



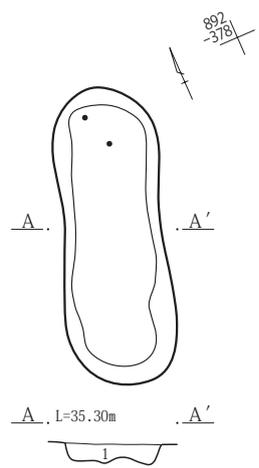
2区29号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質。
2. 暗褐色土(10YR2/2) ローム塊斑混。

2区25号土坑



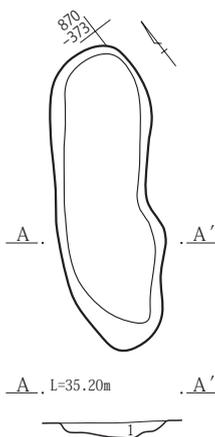
2区25号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊20%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊20%。

2区26号土坑



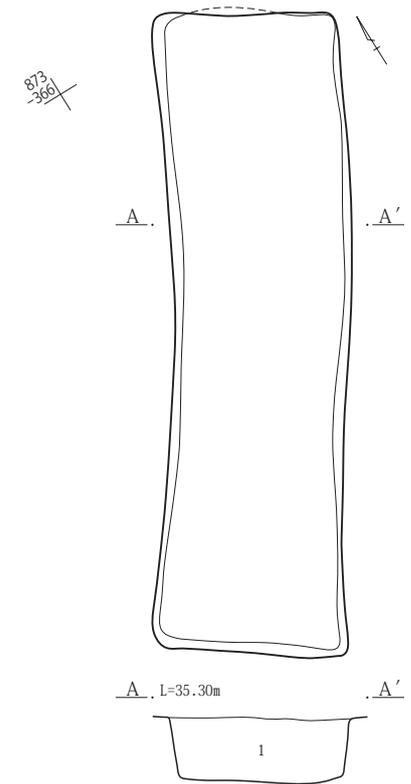
2区26号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊15%。

2区27号土坑

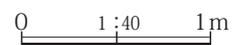


2区27号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム5%。

2区28号土坑



2区28号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム20%斑混。



第129図 2区24~29号土坑平面図

遺物 なし。

所見 2区3号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区28号土坑(第129図、P L .56)

位置 X=29869~873、Y=-40364~367。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸3.40m、短軸0.92m、深さ0.33m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 土師器片20gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区29号土坑(第129図)

位置 X=29864~865、Y=-40356~357。

重複 なし。

平面形状 南側大半が調査区外に延びる。推定長楕円形。

長軸方位 N-20°-W。

規模 長軸(0.65)m、短軸0.55m、深さ0.14m。

埋没土層 暗褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区30号土坑(第130図、P L .56)

位置 X=29892~894、Y=-40364~367。

重複 2区2号溝と重複。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-85°-W。

規模 長軸(2.60)m、短軸2.15m、深さ0.51m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 近世国産磁器片13g、在地系土器片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 埋没土および出土遺物から、本遺構の時期は近世

と推定される。

2区31号土坑(第130図、P L .56)

位置 X=29884~885、Y=-40368~370。

重複 2区1号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-58°-W。

規模 長軸1.76m、短軸0.52m、深さ0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区32号土坑(第130図、P L .55)

位置 X=29889~892、Y=-40368~370。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-45°-E。

規模 長軸2.48m、短軸2.02m、深さ0.38m。

埋没土層 暗褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片71g、近世国産施釉陶器片14g、十能瓦片75gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

2区33号土坑(第130図、P L .55)

位置 X=29891~893、Y=-40370~372。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-29°-E。

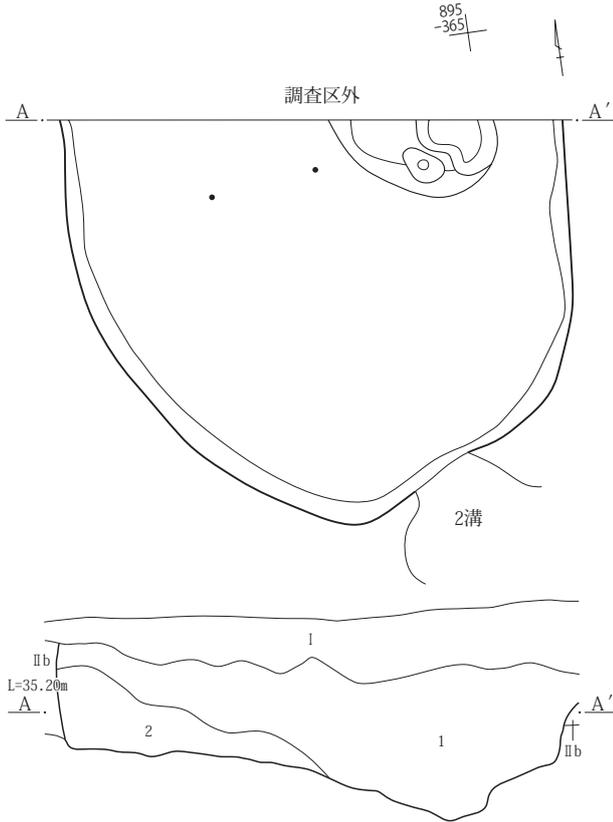
規模 長軸1.78m、短軸0.80m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

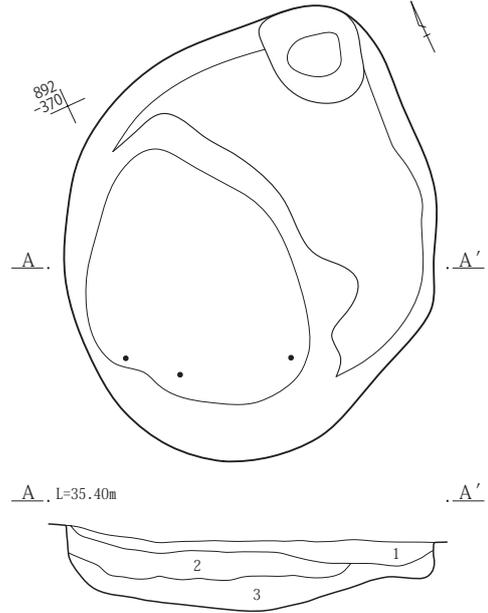
2区30号土坑



2区30号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊斑混。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム10%。

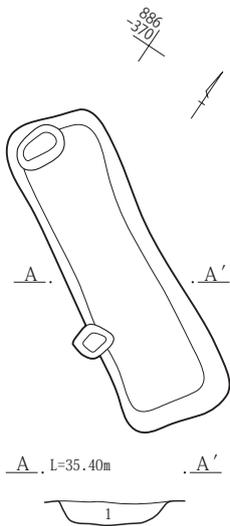
2区32号土坑



2区32号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム10%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム20%筋状混。
3. 暗褐色土(10YR3/3) ローム25%斑混。

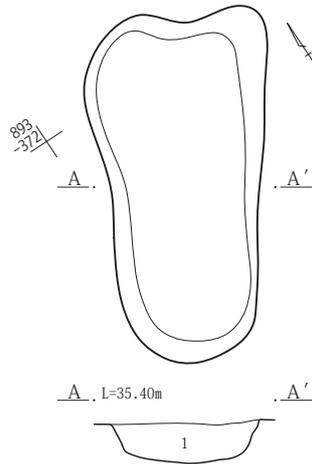
2区31号土坑



2区31号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ10mmローム5%。

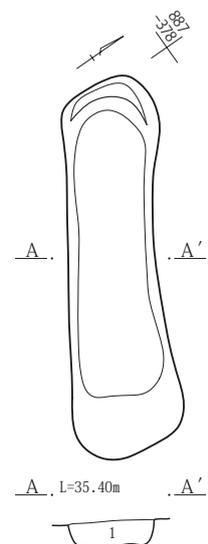
2区33号土坑



2区33号土坑

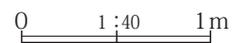
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊10%。

2区34号土坑



2区34号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊15%。



第130図 2区30~34号土坑平面図

2区34号土坑(第130図、P L .56)

位置 X=29885~886、Y=-40376~377。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-56°-W。

規模 長軸2.01m、短軸0.46m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区35号土坑(第131図、P L .56)

位置 X=29883~884、Y=-40380~381。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-51°-W。

規模 長軸1.21m、短軸0.85m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 近世在地系土器片13gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 埋没土および出土遺物から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。削平が著しく判別は困難であるが、浅い部分と深い部分の2基重複の可能性あり。

2区36号土坑(第131図、P L .57)

位置 X=29877~882、Y=-40372~376。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸5.15m、短軸1.02m、深さ0.26m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片79g、須恵器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区37号土坑(第131図、P L .56)

位置 X=29891~892、Y=-40382~383。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-52°-W。

規模 長軸0.92m、短軸0.75m、深さ0.40m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片43g、須恵器片25g、近世在地系土器片5g、時期不明土器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

2区38号土坑(第131図、P L .56)

位置 X=29892~893、Y=-40388~389。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-35°-W。

規模 長軸0.85m、短軸0.55m、深さ0.23m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片2gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区39号土坑(第131図、P L .56)

位置 X=29895~896、Y=-40373~374。

重複 2区2号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-55°-W。

規模 長軸1.06m、短軸0.93m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

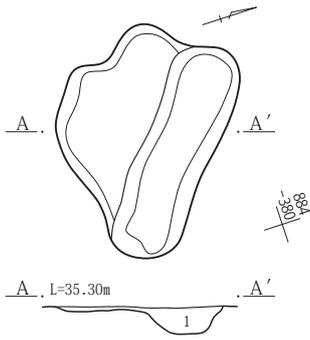
遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区40号土坑(第131図)

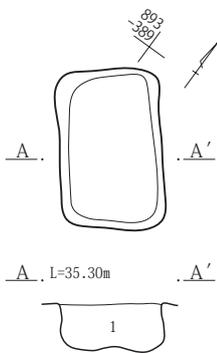
位置 X=29890~891、Y=-40384。

2区35号土坑



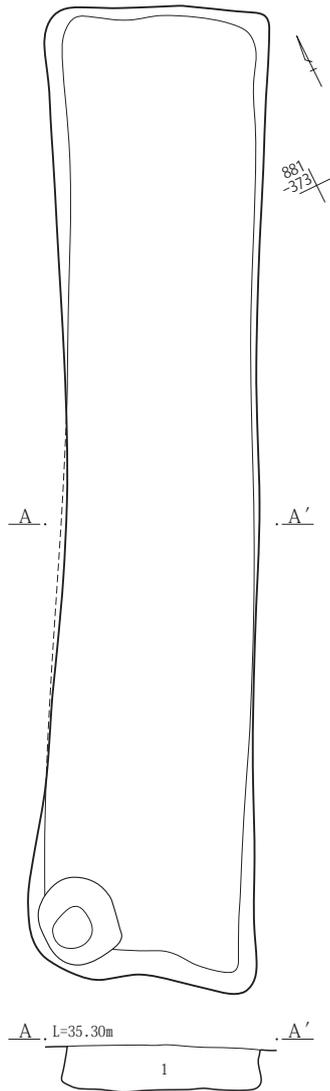
2区35号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊15%。

2区38号土坑



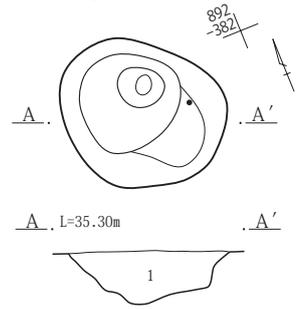
2区38号土坑
1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒混入。

2区36号土坑



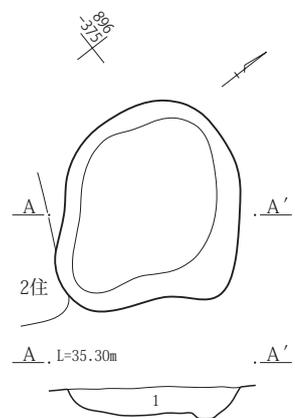
2区36号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊10%。

2区37号土坑



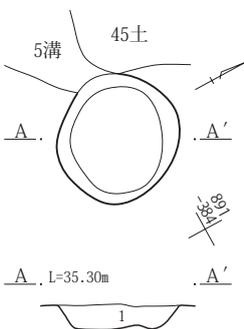
2区37号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 φ2cmローム塊5%。

2区39号土坑



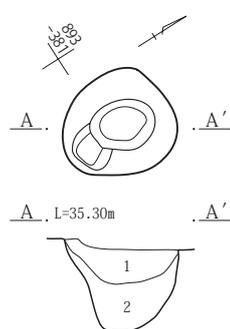
2区39号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊30%。

2区40号土坑



2区40号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒20%。

2区42号土坑

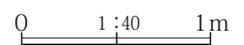


2区42号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) 均質。
2. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊30%。

2区43号土坑



2区43号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊斑混。



第131図 2区35~40・42・43号土坑平断面

重複 2区5号溝・45号土坑と重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-65°-W。

規模 長軸0.69m、短軸0.63m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は不明である。

2区42号土坑(第131図、P L .57)

位置 X=29892~893、Y=-40380~381。

重複 2区2号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-10°-W。

規模 長軸0.62m、短軸0.55m、深さ0.44m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 近世国産施釉陶器片5gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は近世と推定される。

2区43号土坑(第131図、P L .57)

位置 X=29893~895、Y=-40386~387。

重複 2区47号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸1.67m、短軸0.55m、深さ0.50m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区44号土坑(第132図)

位置 X=29890~892、Y=-40387~388。

重複 2区5号溝と重複。

平面形状 中央部が2区5号溝に掘削され、攪乱も著しい。不整形。

長軸方位 N-18°-E。

規模 長軸1.58m以上、短軸1.25m以上、深さ0.25m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区45号土坑(第132図、P L .57)

位置 X=29891~892、Y=-40384~385。

重複 2区5号溝、40号土坑と重複。本遺構が5号溝より新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.13m、短軸0.62m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片42gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区5号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区46号土坑(第132図)

位置 X=29889~890、Y=-40385~387。

重複 2区5号溝と重複。本遺構が新しい。

形状 長方形。

長軸方位 N-68°-W。

規模 長軸2.17m、短軸0.98m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。遺構確認面から底面まで浅く詳細不明。

遺物 土師器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区5号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区47号土坑(第132図、P L .57)

位置 X=29893~895、Y=-40383~388。

重複 2区43・49号土坑と重複。本遺構が古い。

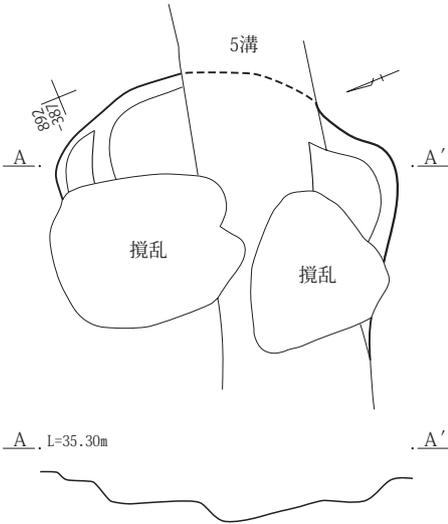
平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-66°-W。

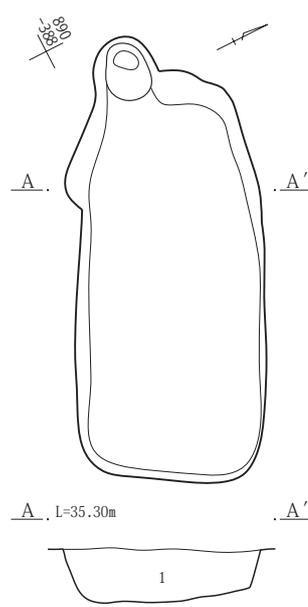
規模 長軸4.35m、短軸0.75m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊

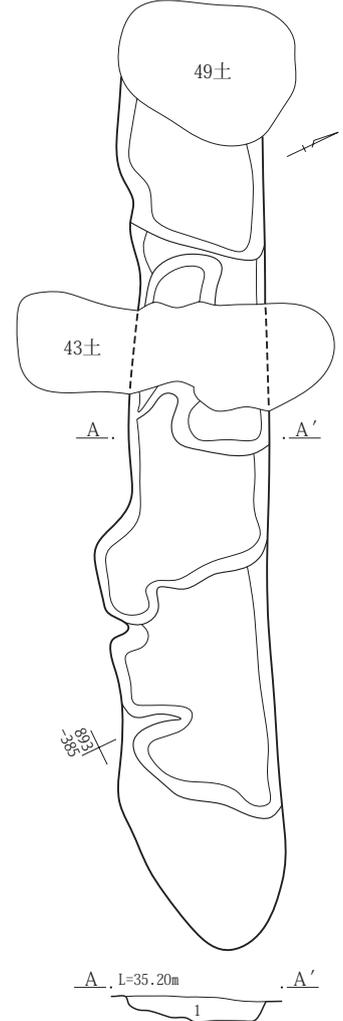
2区44号土坑



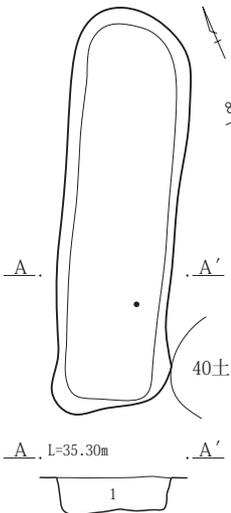
2区46号土坑



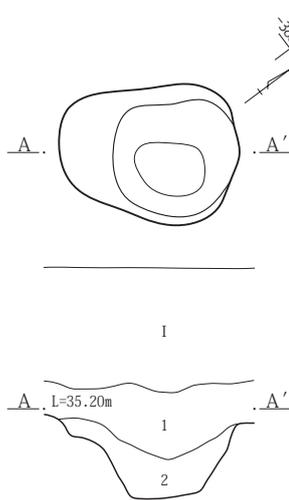
2区47号土坑



2区45号土坑



2区49号土坑



2区46号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊10%、黒色土塊5%。

2区49号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊20%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊50%。

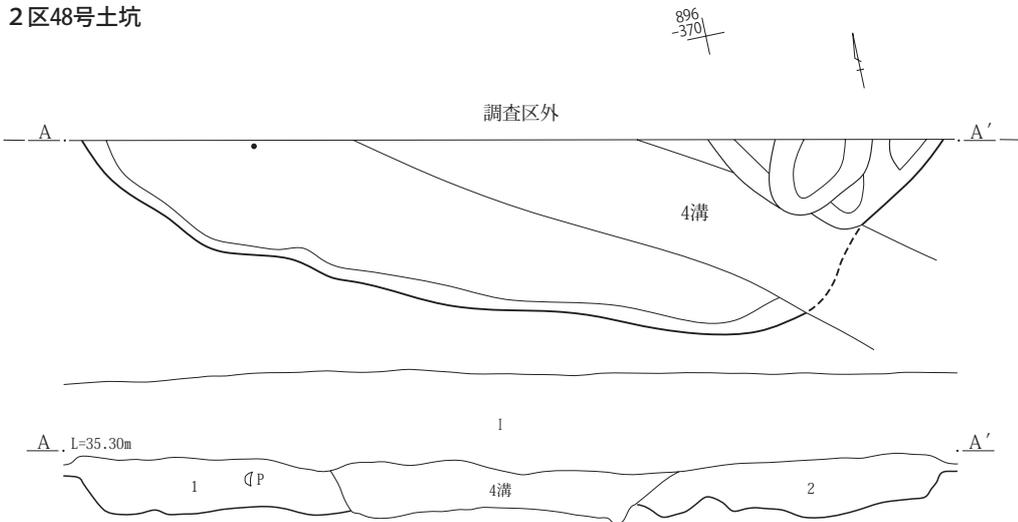
2区47号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊50%。

2区45号土坑

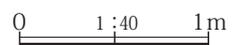
1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 ローム10%。

2区48号土坑



2区48号土坑

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム塊10%。
2. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊20%。



第132図 2区44~49号土坑平断面

が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。遺構が浅く判別が困難であるが、数基重複の可能性はある。

2区48号土坑(第132図)

位置 X=29894~895、Y=-40368~373。

重複 2区4号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側大半が調査区外に延び、中央部が2区4号溝に掘削されている。推定楕円形または長方形。

長軸方位 N-70°-W。北側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(4.12)m、短軸(0.76)m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片48gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 2区4号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

2区49号土坑(第132図、P L .57)

位置 X=29894~895、Y=-40387~388。

重複 2区47号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸0.95m、短軸0.74m、深さ0.54m。

埋没土層 暗褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 2区47号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区50号土坑(第133図、P L .57)

位置 X=29891~896、Y=-40414~416。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-20°-E。

規模 長軸5.24m、短軸1.37m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片71g、須恵器片26gが出土しているが、

小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。また、管玉1点(外79)を遺構外出土として第3章第9節に掲げた。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区51号土坑(第133図、P L .57)

位置 X=29895~897、Y=-40417~418。

重複 2区73号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 砲弾形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸1.60m、短軸1.32m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片47gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区52号土坑(第133図、P L .58)

位置 X=29879~883、Y=-40377~379。

重複 2区61・63号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-22°-E。

規模 長軸3.99m、短軸0.92m、深さ0.21m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片55gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区53号土坑(第133図、P L .58)

位置 X=29901~902、Y=-40426~427。

重複 2区9・10号溝、54号土坑と重複。本遺構が9・10号溝より新しい。

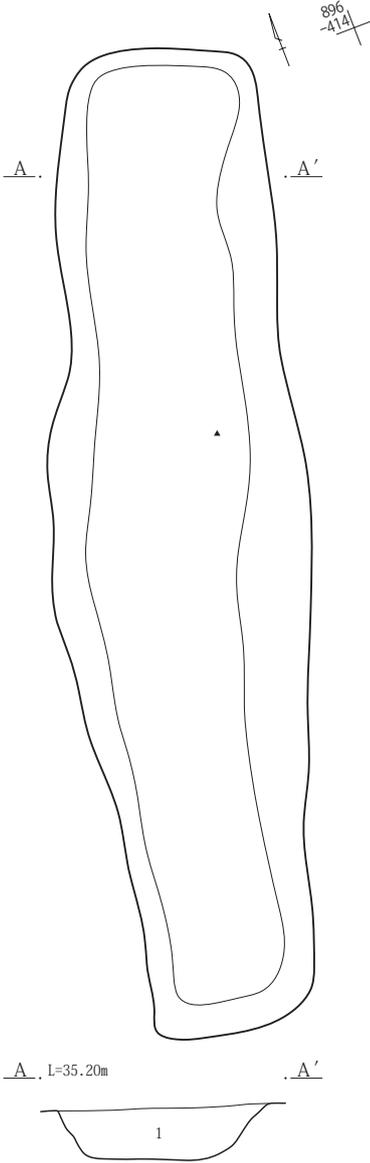
平面形状 長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸1.57m、短軸0.66m、深さ0.32m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。

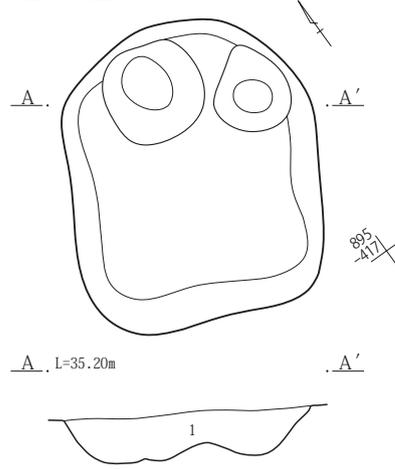
2区50号土坑



2区50号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 ローム20%。

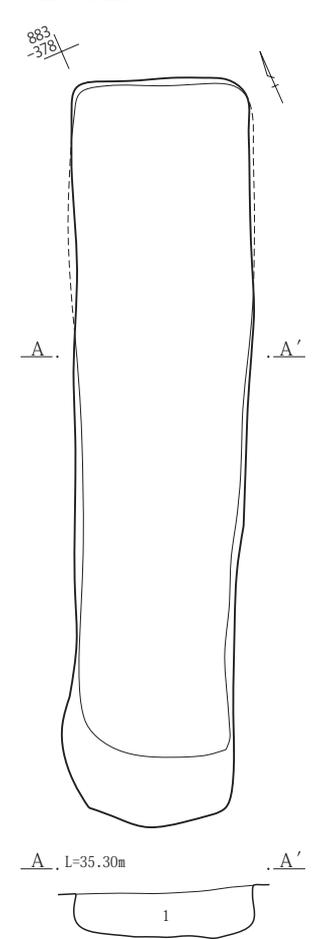
2区51号土坑



2区51号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム30%。

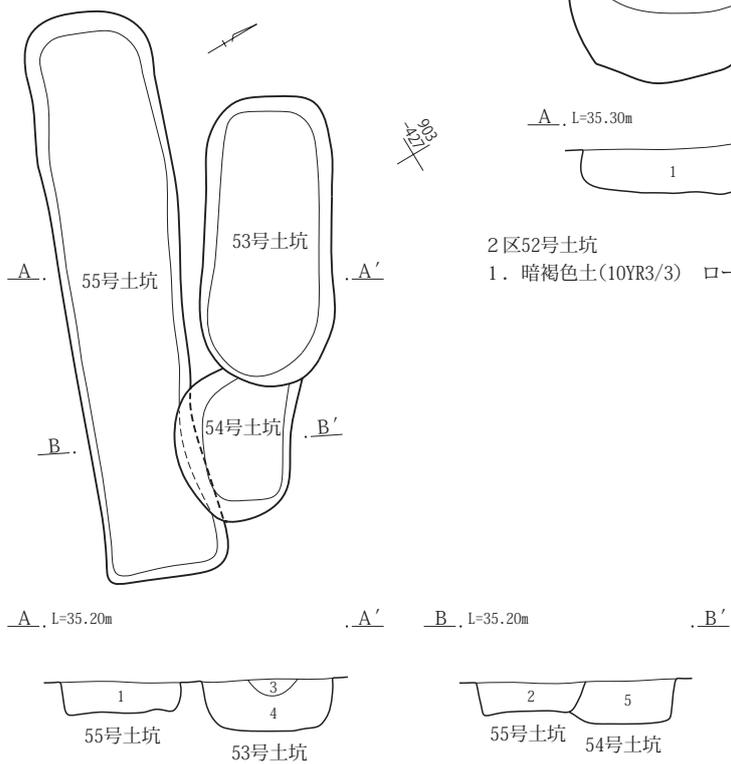
2区52号土坑



2区52号土坑

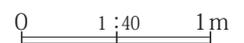
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム塊10%。

2区53~55号土坑



2区53~55号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム・炭化物粒微混。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム2%。
3. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ローム微混。
4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム15%。
5. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム10%。



第133図 2区50~55号土坑平面

ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 埴輪片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。埴輪は混入と考えられる。

所見 2区9・10号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区54号土坑(第133図、P L .58)

位置 X=29901~902、Y=-40425~426。

重複 2区9号溝、53・55号土坑と重複。本遺構が55号土坑より古く、9号溝より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸0.75m、短軸0.62m、深さ0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 2区9号溝、55号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区55号土坑(第133図、P L .58)

位置 X=29900~902、Y=-40425~428。

重複 2区9・10号溝、54号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸3.07m、短軸0.67m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 埴輪片19gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。埴輪は混入と考えられる。

所見 2区9・10号溝、54号土坑との重複関係および形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区56号土坑(第134図、P L .58)

位置 X=29894~897、Y=-40410~412。

重複 2区112号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.77m、短軸0.99m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊

が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 埴輪片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。埴輪は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区57号土坑(第134図)

位置 X=29906~907、Y=-40425~426。

重複 2区10号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側大半が調査区外に延び、東側大半が2区10号溝と重複している。推定楕円形。

長軸方位 N-21°-E。北側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(0.52)m、短軸(0.31)m、深さ0.19m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 2区10号溝との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

2区58号土坑(第134図、P L .59)

位置 X=29881~882、Y=-40381~383。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸1.87m、短軸0.88m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区59号土坑(第134図、P L .59)

位置 X=29879~882、Y=-40382~385。

重複 なし。

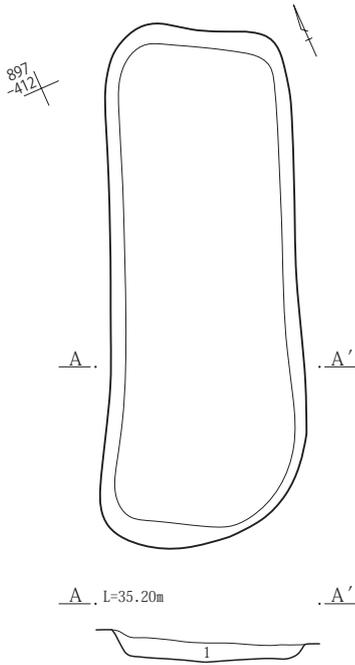
平面形状 長方形。

長軸方位 N-62°-W。

規模 長軸3.52m、短軸0.69m、深さ0.26m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

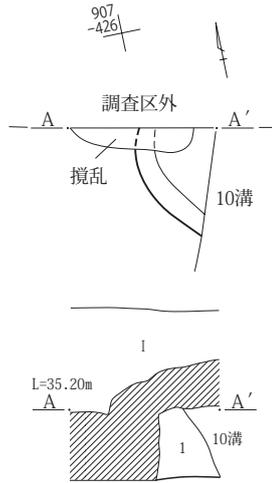
2区56号土坑



2区56号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2)とローム塊の混土。

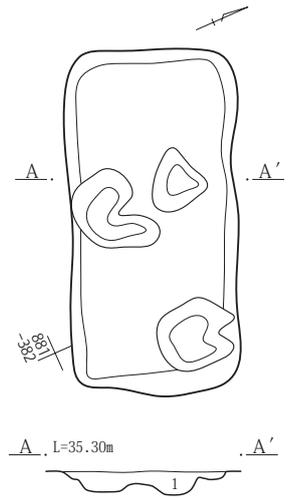
2区57号土坑



2区57号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
ローム塊20%。

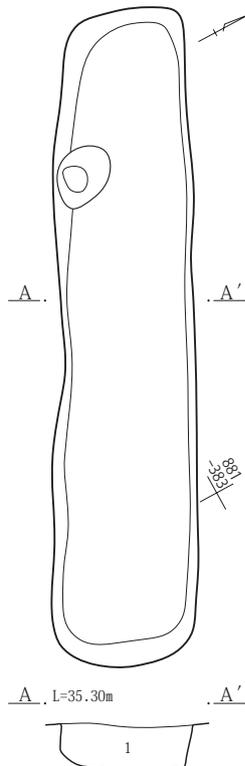
2区58号土坑



2区58号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊
10%。

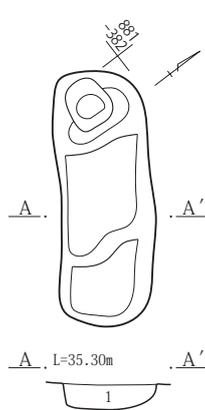
2区59号土坑



2区59号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊15%。

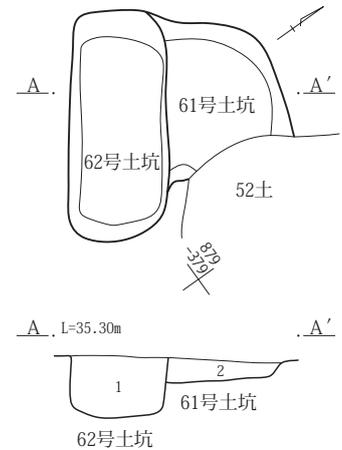
2区60号土坑



2区60号土坑

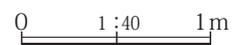
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊25%。

2区61・62号土坑



2区61・62号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒10%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊20%。



第134図 2区56～62号土坑平面図

遺物 土師器片33g、須恵器片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区60号土坑(第134図、P L .59)

位置 X=29879~881、Y=-40381~382。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸1.36m、短軸0.51m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片22g、須恵器片5gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区61号土坑(第134図、P L .59)

位置 X=29879~880、Y=-40379~380。

重複 2区52・62号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南東側が2区52号土坑、南西側が2区62号土坑に掘削されている。不整形。

長軸方位 計測不能。

規模 長軸(0.85)m、短軸(0.62)m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 2区52・62号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

2区62号土坑(第134図、P L .59)

位置 X=29878~879、Y=-40379~380。

重複 2区61号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-58°-W。

規模 長軸1.24m、短軸0.52m、深さ0.33m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊

が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片13gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区63号土坑(第135図、P L .59)

位置 X=29877~880、Y=-40377~380。

重複 2区52号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南側が攪乱され、北西側が2区52号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-24°-E。

規模 長軸(3.05)m、短軸(0.85)m、深さ0.26m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片119gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区64号土坑(第135図、P L .60)

位置 X=29874~877、Y=-40380~382。

重複 2区3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸3.21m、短軸0.73m、深さ0.05m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片57gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区3号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区65号土坑(第135図、P L .58)

位置 X=29873、Y=-40374。

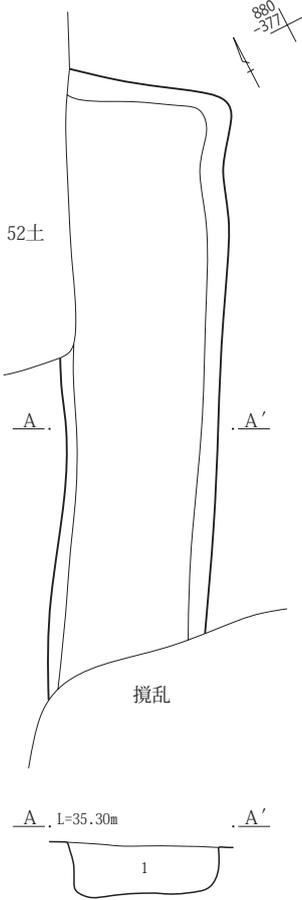
重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-50°-E。

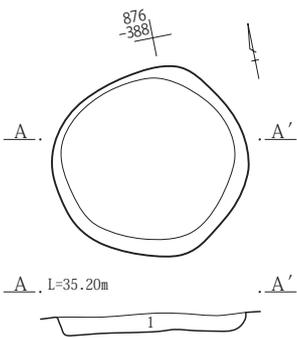
規模 長軸0.64m、短軸0.63m、深さ0.11m。

2区63号土坑



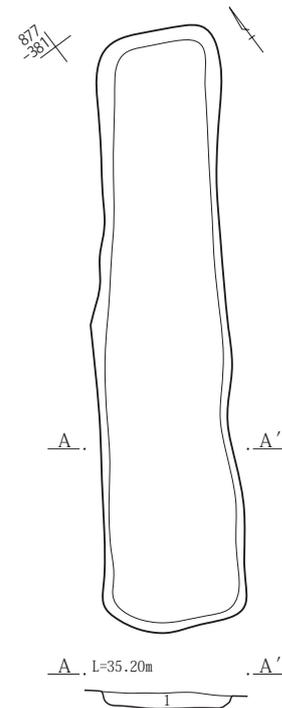
2区63号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム10%。

2区66号土坑



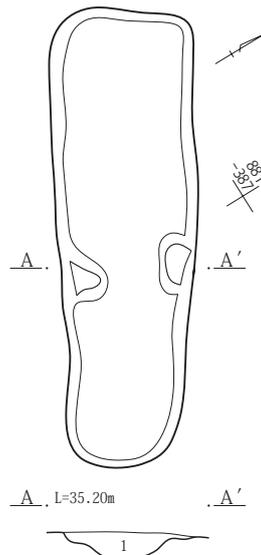
2区66号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊10%。

2区64号土坑



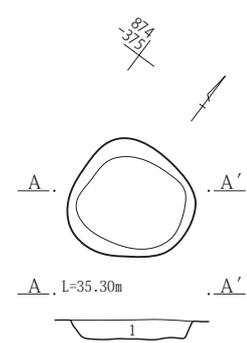
2区64号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム5%。

2区67号土坑



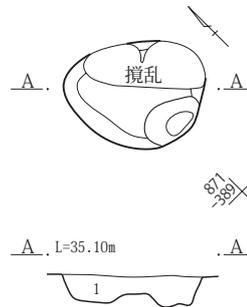
2区67号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊30%。

2区65号土坑



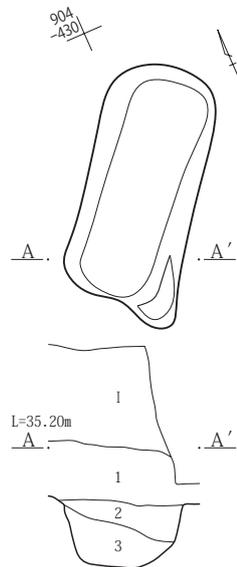
2区65号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム30%。

2区68号土坑

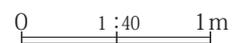


2区68号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊30%。

2区69号土坑



2区69号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ローム20%。



第135図 2区63~69号土坑平断面

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区66号土坑(第135図、P L .58)

位置 X=29874~875、Y=-40387~388。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-60°-E。

規模 長軸1.05m、短軸0.99m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区67号土坑(第135図、P L .60)

位置 X=29879~882、Y=-40386~388。

重複 2区3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-61°-W。

規模 長軸2.43m、短軸0.76m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 2区3号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区68号土坑(第135図、P L .58)

位置 X=29871~872、Y=-40388~389。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-45°-W。

規模 長軸0.72m、短軸0.60m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 時期不明土器片21gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区69号土坑(第135図、P L .60)

位置 X=29903~904、Y=-40429~430。

重複 2区74号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-34°-E。

規模 長軸1.27m、短軸0.60m、深さ0.37m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。下位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区70号土坑(第136図、P L .60)

位置 X=29899~900、Y=-40425~428。

重複 2区9・10号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸2.97m、短軸0.63m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片3g、時期不明土器片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 2区9・10号溝との重複関係および形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区71号土坑(第136図、P L .60)

位置 X=29897~899、Y=-40422~424。

重複 2区7号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 中央部が2区7号溝に掘削されている。推定長楕円形。

長軸方位 N-50°-W。

規模 長軸2.10m、短軸0.64m、深さ0.06m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

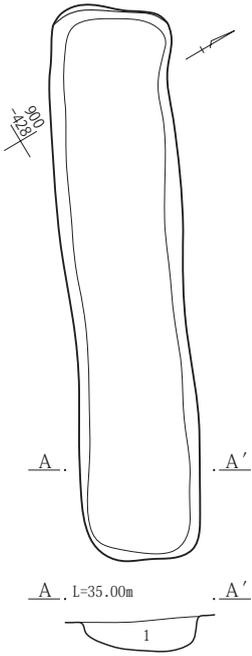
遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と考えられる。

2区72号土坑(第136図、P L .60)

位置 X=29895~897、Y=-40418~421。

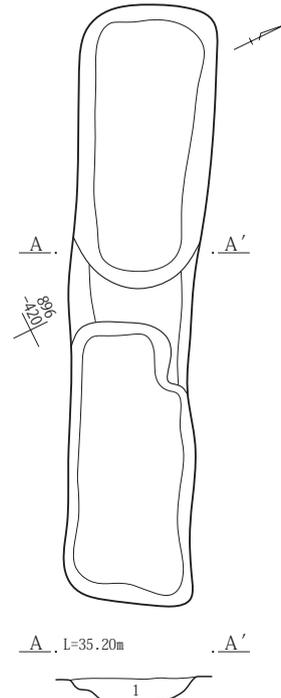
2区70号土坑



2区70号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 5mmローム粒 5%。

2区72号土坑



2区72号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊20%。

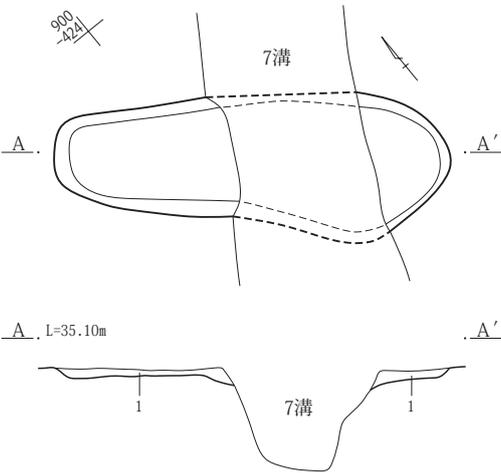
2区73号土坑



2区73号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 卵大ローム塊10%。

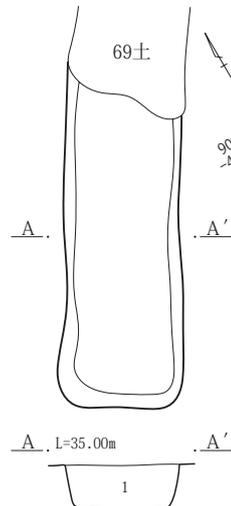
2区71号土坑



2区71号土坑

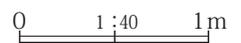
1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ローム 5%。

2区74号土坑



2区74号土坑

1. 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム塊混入。



第136図 2区70~74号土坑平断面

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-62°-W。

規模 長軸3.20m、短軸0.65m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片15g、十能瓦片26gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 中央部が浅く、3基重複の可能性がある。形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区73号土坑(第136図、P L .61)

位置 X=29889~896、Y=-40417~419。

重複 2区51号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 北端が2区51号土坑に掘削され、南端が攪乱されかつトレンチに掘削されている。推定長楕円形。

長軸方位 N-16°-E。

規模 長軸(5.67)m、短軸1.10m、深さ0.35m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片141g、須恵器片5g、埴輪片62gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区74号土坑(第136図、P L .60)

位置 X=29901~903、Y=-40430~431。

重複 2区69号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸1.66m、短軸0.61m、深さ0.23m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区75号土坑(第137図、P L .60)

位置 X=29896~897、Y=-40427。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸0.78m、短軸0.54m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区76号土坑(第137図、P L .61)

位置 X=29899~900、Y=-40396~397。

重複 なし。

平面形状 北側大半が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸(1.54)m、短軸(0.63)m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片3gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区77号土坑(第137図、P L .60)

位置 X=29897~898、Y=-40396~397。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-17°-E。

規模 長軸0.74m、短軸0.40m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 時期不明土器片55gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

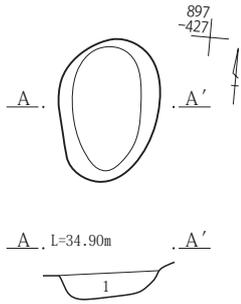
所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区78号土坑(第137図、P L .61)

位置 X=29891~893、Y=-40398~401。

重複 なし。

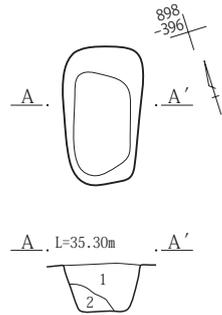
2区75号土坑



2区75号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム15%。

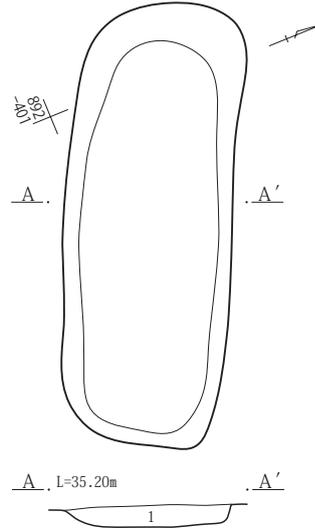
2区77号土坑



2区77号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊15%。
2. 黒褐色土(10YR2/2)とロームの混土。

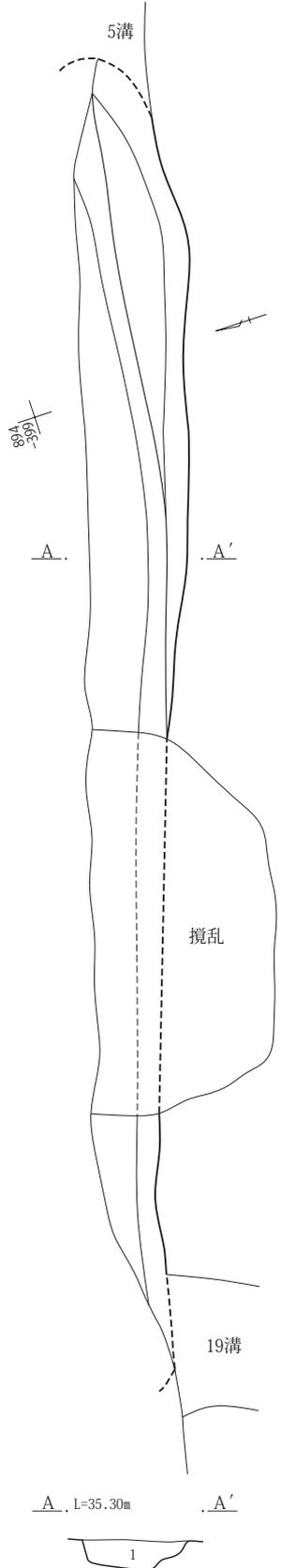
2区78号土坑



2区78号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム20%。

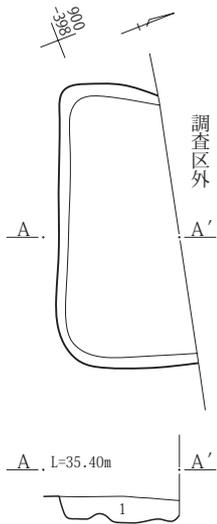
2区80号土坑



2区80号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム15%。

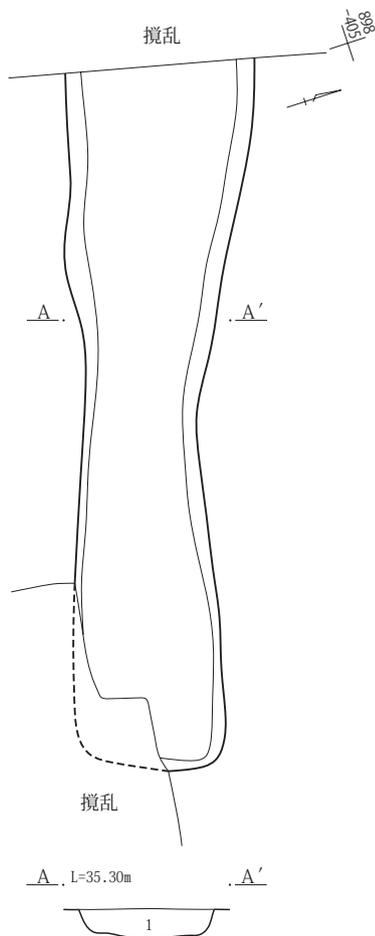
2区76号土坑



2区76号土坑

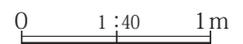
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム20%。

2区79号土坑



2区79号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム10%。



第137図 2区75~80号土坑平断面

平面形状 長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸2.36m、短軸0.90m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区79号土坑(第137図、P L .61)

位置 X=29895~898、Y=-40401~406。

重複 なし。

平面形状 西側大半および南東端が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸(3.78)m以上、短軸0.60m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片10g、埴輪片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区80号土坑(第137図、P L .61)

位置 X=29893~895、Y=-40397~404。

重複 2区5・19号溝と重複。本遺構が5号溝より新しい。

平面形状 推定長楕円形。

長軸方位 N-73°-W。

規模 長軸(6.80)m、短軸(0.56)m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片16g、須恵器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 2区5号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区81号土坑(第138図、P L .61)

位置 X=29891~894、Y=-40402~403。

重複 2区3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北側が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-16°-E。

規模 長軸(2.87)m、短軸0.94m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片4g、埴輪片27g、近世国産施釉陶器片2gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 2区3号溝との重複関係、形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区82号土坑(第138図、P L .61)

位置 X=29889~890、Y=-40403~404。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-45°-W。

規模 長軸0.85m、短軸0.72m、深さ0.28m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区83号土坑(第138図、P L .61)

位置 X=29888~889、Y=-40405~406。

重複 なし。

平面形状 北東側大半が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-34°-E。

規模 長軸(1.16)m、短軸0.85m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片3g、須恵器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区84号土坑(第138図、P L .62)

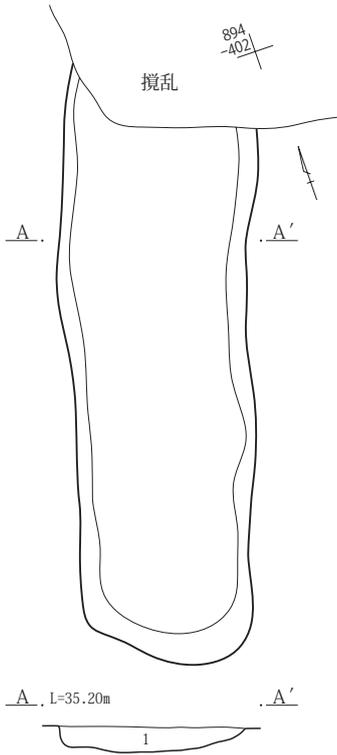
位置 X=29884~888、Y=-40406~408。

重複 なし。

平面形状 長方形。

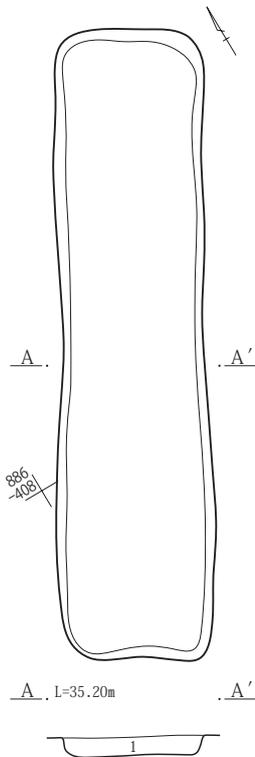
長軸方位 N-35°-E。

2区81号土坑



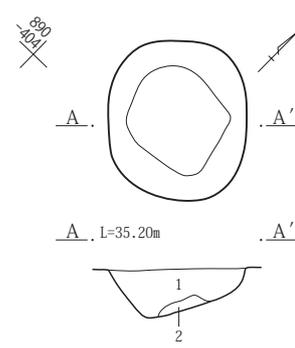
2区81号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム15%。

2区84号土坑



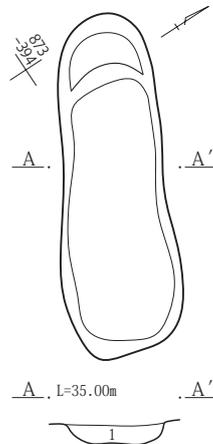
2区84号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム5%。

2区82号土坑



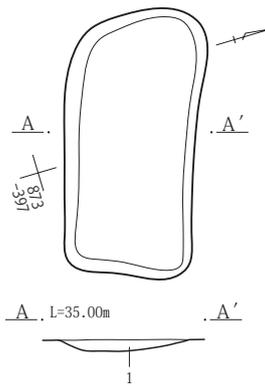
2区82号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊50%。

2区85号土坑



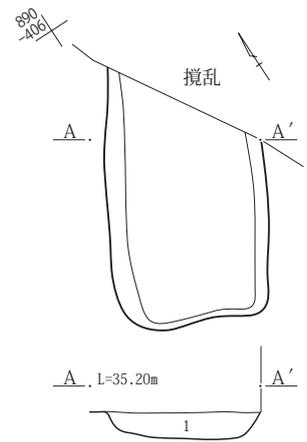
2区85号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊20%
板状混。

2区86号土坑



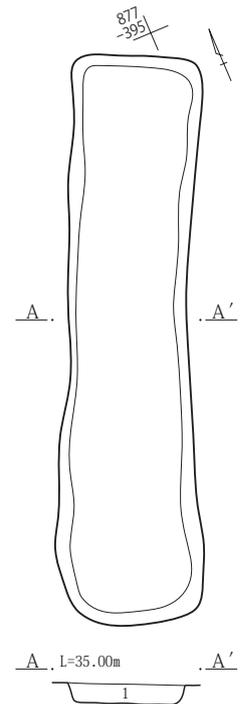
2区86号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊20%。

2区83号土坑

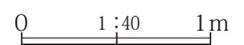


2区83号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム7%。

2区87号土坑



2区87号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) φ10mmローム7%。



第138図 2区81~87号土坑平面図

規模 長軸3.35m、短軸0.74m、深さ0.11m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区85号土坑(第138図、P L .62)

位置 X=29872~873、Y=-40397~399。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-61°-W。

規模 長軸1.84m、短軸0.53m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区86号土坑(第138図、P L .62)

位置 X=29873~874、Y=-40396~397。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-73°-W。

規模 長軸1.45m、短軸0.68m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区87号土坑(第138図、P L .62)

位置 X=29873~877、Y=-40394~396。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-21°-E。

規模 長軸3.03m、短軸0.62m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片32gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作

物貯蔵用土坑と推定される。

2区88号土坑(第139図、P L .63)

位置 X=29874~876、Y=-40393~394。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸1.70m、短軸0.68m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区89号土坑(第139図、P L .62)

位置 X=29872~873、Y=-40392~393。

重複 2区90号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-67°-W。

規模 長軸1.63m、短軸0.73m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区90号土坑(第139図、P L .62)

位置 X=29872~873、Y=-40391~393。

重複 2区89号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-65°-W。

規模 長軸1.84m、短軸0.81m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区91号土坑(第139図、P L .62)

位置 X=29875~876、Y=-40396~397。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸1.79m、短軸0.79m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区92号土坑(第139図、P L .63)

位置 X=29878~881、Y=-40397~398。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸2.30m、短軸0.88m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片25g、須恵器片72g、埴輪片43g、近世在地系土器片21gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区93号土坑(第139図、P L .63)

位置 X=29877~878、Y=-40391~393。

重複 2区7号井戸と重複。

平面形状 推定長方形または砲弾形。

長軸方位 N-63°-W。

規模 長軸2.09m、短軸0.67m以上、深さ0.04m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区94号土坑(第139図、P L .63)

位置 X=29880~883、Y=-40392~393。

重複 2区101・106号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-19°-E。

規模 長軸2.55m、短軸0.72m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片52g、須恵器片2g、埴輪片58g、近世国産施釉陶器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区95号土坑(第139図、P L .63)

位置 X=29881~883、Y=-40393~394。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸1.86m、短軸0.71m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区96号土坑(第139図、P L .62)

位置 X=29883~884、Y=-40391~393。

重複 2区97・98・106号土坑と重複。本遺構が98号土坑より古く、97・106号土坑より新しい。

平面形状 南東側が2区98号土坑に掘削されている。推定長方形。

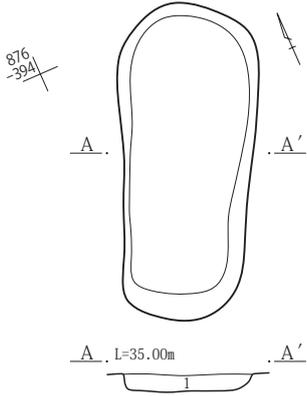
長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸1.27m以上、短軸0.68m、深さ0.05m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

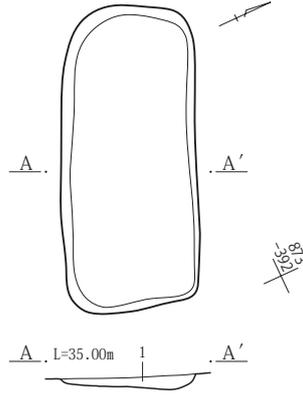
2区88号土坑



2区88号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊20%。

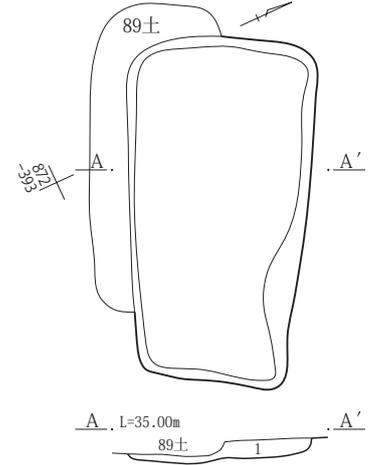
2区89号土坑



2区89号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム20%。

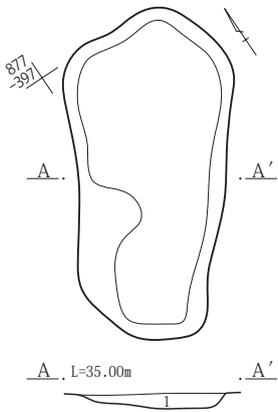
2区90号土坑



2区90号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊20%。

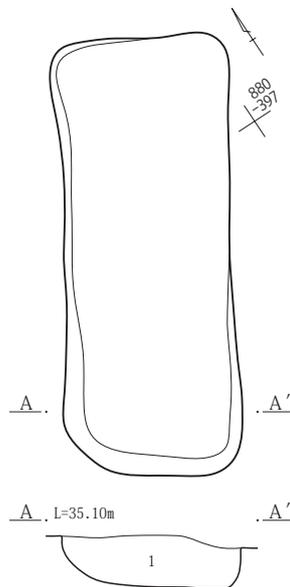
2区91号土坑



2区91号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 ローム塊20%。

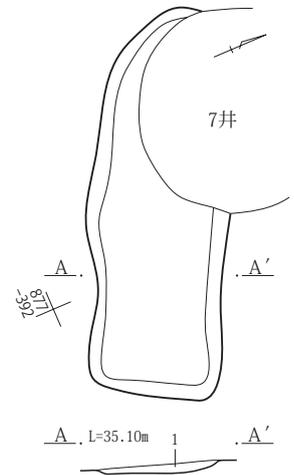
2区92号土坑



2区92号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2)とロームの混土。

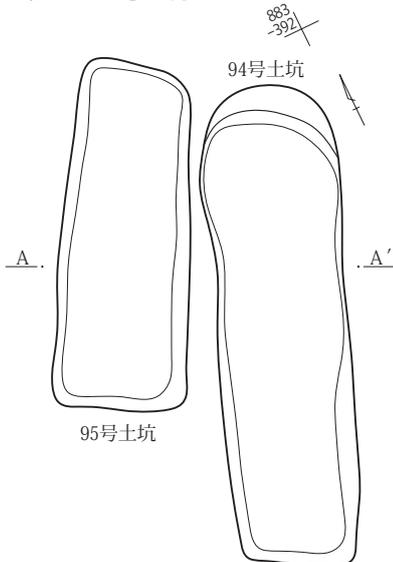
2区93号土坑



2区93号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ローム塊50%。

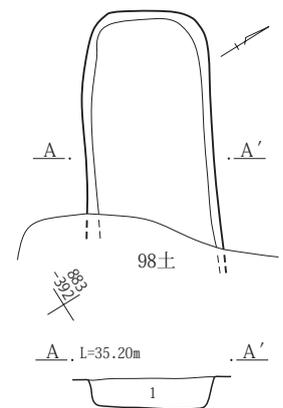
2区94・95号土坑



2区94・95号土坑

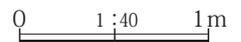
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム10%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ローム20%。

2区96号土坑



2区96号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) φ15mm ローム15%。



第139図 2区88～96号土坑平面断面

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区97号土坑(第140図、P L .64)

位置 X=29883~885、Y=-40392~394。

重複 2区96号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-63°-W。

規模 長軸1.30m、短軸0.71m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区98号土坑(第140図、P L .63)

位置 X=29882~885、Y=-40390~392。

重複 2区3号溝、96・106号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸3.15m、短軸0.70m、深さ0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片86g、埴輪片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 2区3号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区99号土坑(第140図、P L .62)

位置 X=29882~883、Y=-40395~396。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-62°-W。

規模 長軸0.84m、短軸0.55m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と考えられる。

2区100号土坑(第140図、P L .64)

位置 X=29885~887、Y=-40418~420。

重複 なし。

平面形状 南側大半が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-52°-W。

規模 長軸(1.81)m、短軸(0.75)m、深さ(0.48)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

2区101号土坑(第140図、P L .64)

位置 X=29879~882、Y=-40392~394。

重複 2区94号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側大半が2区94号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸(2.78)m、短軸(0.56)m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 位置・平面形・埋没土・遺物出土状況から2区106号土坑と一体をなす可能性がある。形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区102号土坑(第140図)

位置 X=29877~879、Y=-40398~399。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-28°-E。

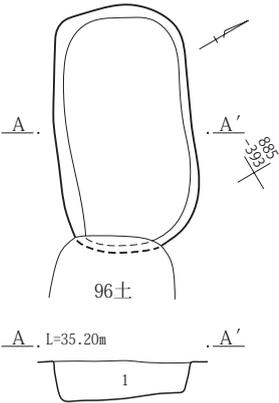
規模 長軸1.73m、短軸0.88m、深さ0.27m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

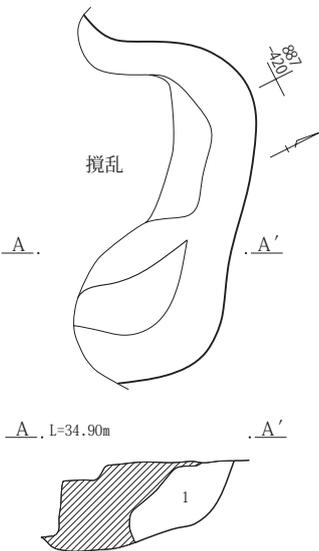
所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区97号土坑



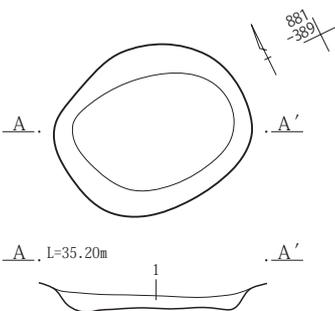
2区97号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 卵大ローム塊20%。

2区100号土坑



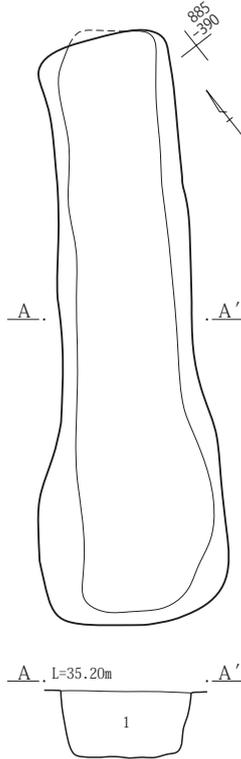
2区100号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム10%。

2区103号土坑



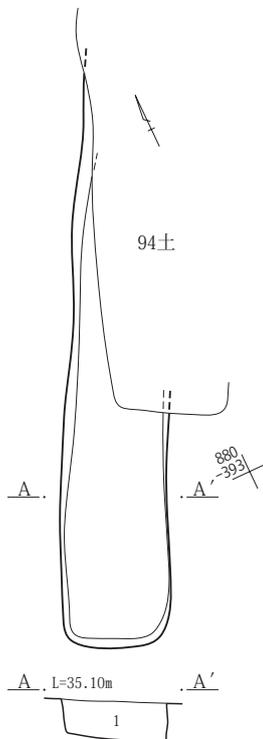
2区103号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊20%。

2区98号土坑



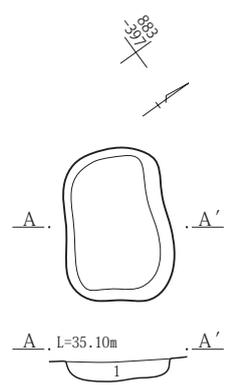
2区98号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム20%。

2区101号土坑



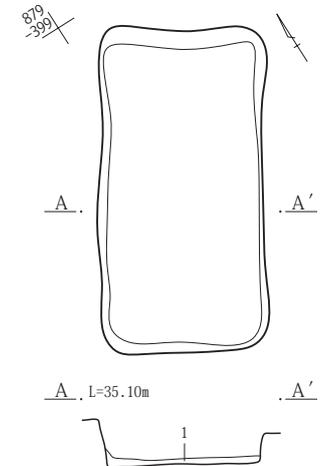
2区101号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 拳大ローム塊20%。

2区99号土坑



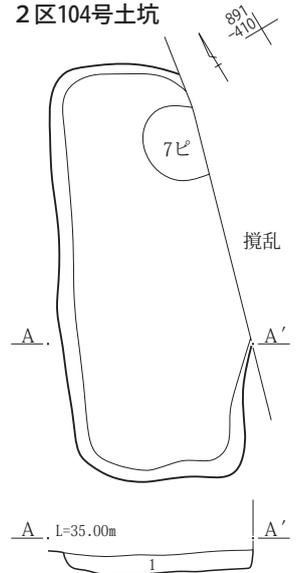
2区99号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊20%。

2区102号土坑



2区102号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) ローム5%。

2区104号土坑



2区104号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム10%。



第140図 2区97～104号土坑平面図

2区103号土坑(第140図、P L .63)

位置 X=29880~881、Y=-40389~390。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-87°-E。

規模 長軸1.01m、短軸0.86m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 時期不明土製品9gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 出土遺物も時期不明土製品のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

2区104号土坑(第140図、P L .64)

位置 X=29889~891、Y=-40410~411。

重複 2区7号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 北東隅が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸2.24m、短軸(0.92)m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区105号土坑(第141図、P L .63・101)

位置 X=29898~899、Y=-40408~409。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸0.86m、短軸0.65m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 堺・明石陶器播鉢1点(1)を図示した。他に、土師器片2g、近世国産施釉陶器片6g、在地系土器片607g、時期不明土器片1,170g、瓦片344gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区106号土坑(第141図、P L .64)

位置 X=29882~883、Y=-40391~392。

重複 2区94・96・98号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南側大半が2区94号土坑、北東側が2区98号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸(1.06)m、短軸(0.54)m、深さ0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 位置・平面形・埋没土・遺物出土状況から2区101号土坑と一体をなす可能性がある。形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区107号土坑(第141図、P L .63)

位置 X=29899~900、Y=-40407~409。

重複 なし。

平面形状 東側が攪乱されている。推定長楕円形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸(1.27)m、短軸0.56m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区108号土坑(第141図、P L .64)

位置 X=29901~902、Y=-40407~408。

重複 2区26号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側が攪乱されている。推定長楕円形。

長軸方位 N-19°-E。

規模 長軸(1.23)m、短軸0.87m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

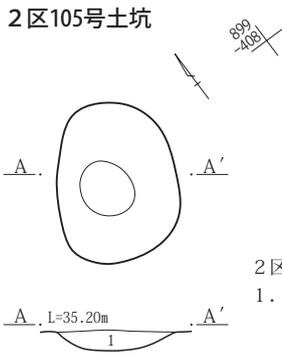
遺物 なし。

所見 2区26号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区109号土坑(第141図、P L .65)

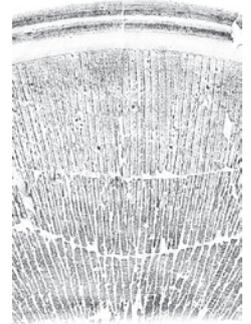
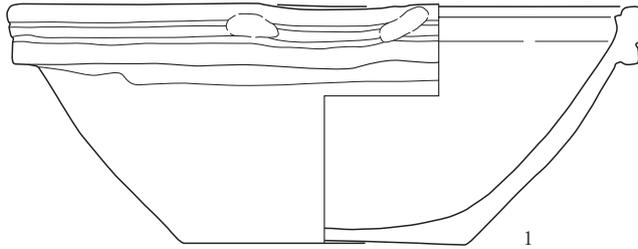
位置 X=29881~886、Y=-40400~402。

2区105号土坑



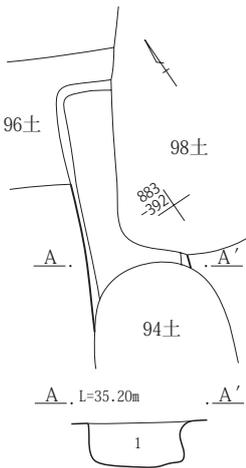
2区105号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) 密
ローム粒微混。

105号土坑出土遺物



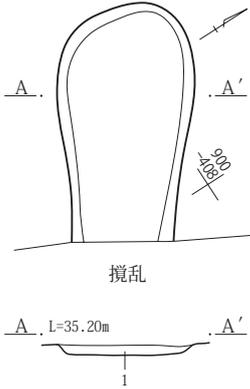
0 1:4 10cm

2区106号土坑



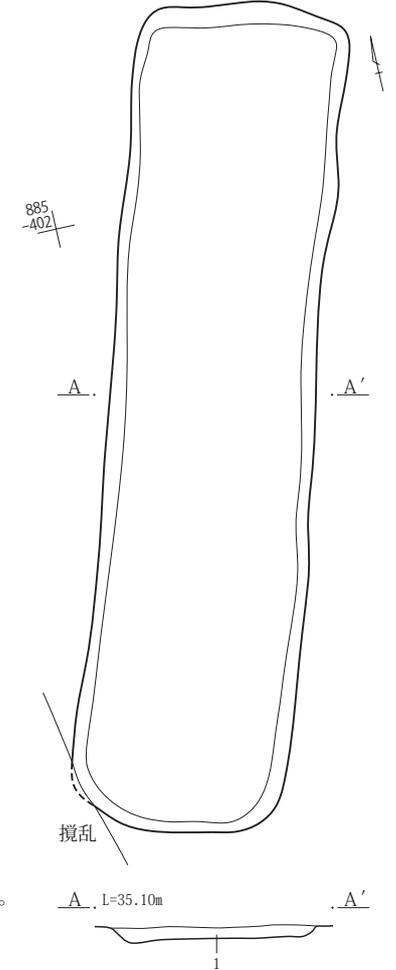
2区106号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊15%。

2区107号土坑



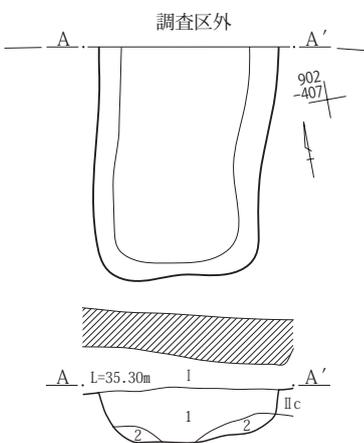
2区107号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊斑混。

2区109号土坑



2区109号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊10%。

2区108号土坑



2区108号土坑
1. 黒褐色土(10YR2/3) 均質 ローム2%。
2. 黒褐色土(10YR2/3)とロームの混土。

0 1:40 1m

第141図 2区105~109号土坑平面、105号土坑出土遺物

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-20°-E。

規模 長軸4.40m、短軸1.08m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片13gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区110号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29891~894、Y=-40409~410。

重複 2区111号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側大半が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-27°-E。

規模 長軸(2.76)m、短軸(0.16)m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片20gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区111号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29892~895、Y=-40409~410。

重複 2区6号溝、110号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側大半が2区6号溝、南東側が2区110号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.09m、短軸(0.68)m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 時期不明瓦片53gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区112号土坑(第142図、P L .64)

位置 X=29892~894、Y=-40411~412。

重複 2区24号溝、56号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 東側大半が2区24号溝、北西側が2区56号土坑に掘削されている。推定楕円形。

長軸方位 N-20°-E。

規模 長軸(1.49)m、短軸(0.54)m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

2区113号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29893~895、Y=-40394~395。

重複 2区5号溝と重複。

平面形状 推定長楕円形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸(2.15)m、短軸0.91m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区114号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29892~893、Y=-40390~391。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-42°-E。

規模 長軸0.90m、短軸0.82m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

2区115号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29895~896、Y=-40391~393。

重複 なし。

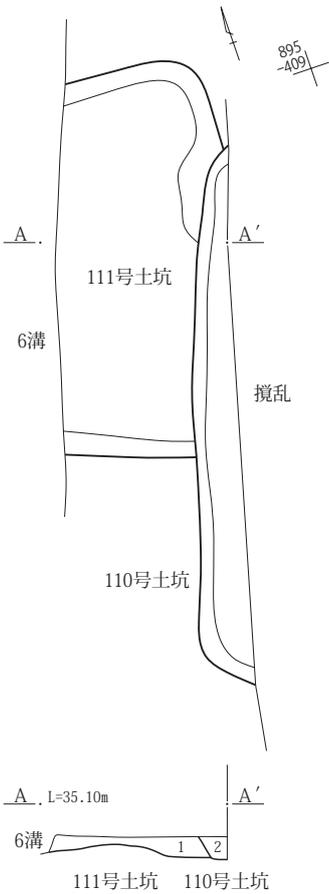
平面形状 東側が攪乱されている。推定長方形。

長軸方位 N-80°-W。

規模 長軸(1.45)m、短軸0.65m、深さ0.15m。

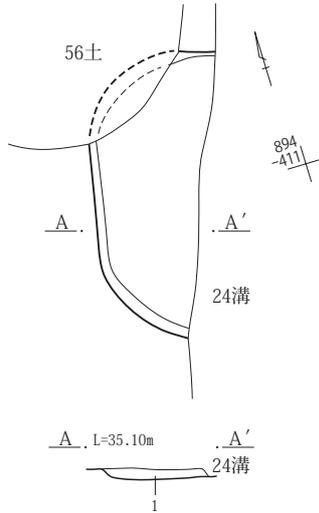
埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

2区110・111号土坑



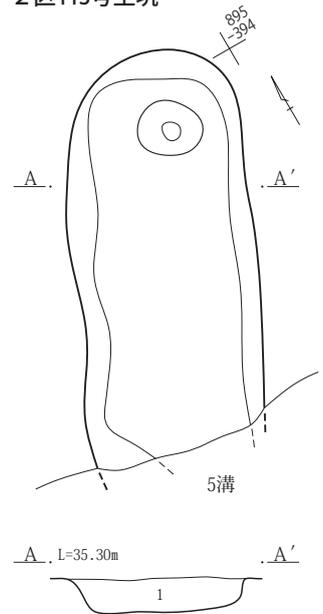
- 2区110・111号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 卵大ローム塊10%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム20%。

2区112号土坑



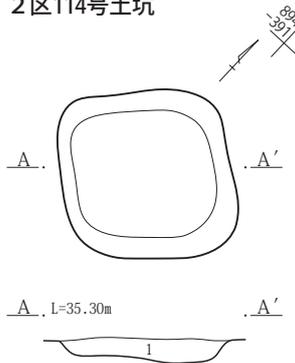
- 2区112号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2)とローム塊の混土。

2区113号土坑



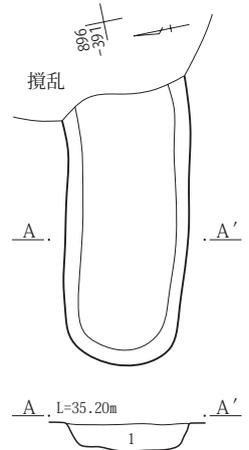
- 2区113号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) ローム塊20%。

2区114号土坑



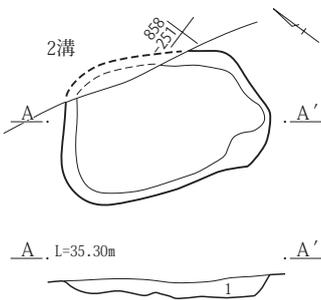
- 2区114号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) φ20mmローム10%。

2区115号土坑



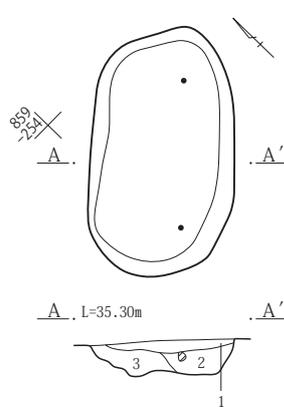
- 2区115号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 棒状ローム混入。

3区2号土坑

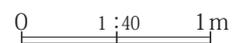


- 3区2号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 灰白色砂・ローム粒・焼土粒・黒褐色粘土粒混入。

3区3号土坑



- 3区3号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム粒3% As-YP塊・焼土混入。
 2. にぶい黄褐色土(10YR3/4)。
 3. 2層と同質 φ1~2mmローム粒30%。



第142図 2区110~115号土坑、3区2・3号土坑平面断面

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区2号土坑(第142図、P L .65)

位置 X=29857~858、Y=-40251~252。

重複 3区2号溝、1号掘立柱建物と重複。本遺構が2号溝より古く、1号掘立柱建物より新しい。

平面形状 北西側が3区2号溝に掘削されている。推定長楕円形。

長軸方位 N-37°-W。

規模 長軸1.07m、短軸(0.67)m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片19gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区3号土坑(第142図、P L .66)

位置 X=29858~859、Y=-40253~254。

重複 3区1号掘立柱建物と重複。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-45°-E。

規模 長軸1.30m、短軸0.77m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片48g、時期不明土器片15gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区6号土坑(第143図、P L .66)

位置 X=29860~861、Y=-40257~258。

重複 なし。

平面形状 方形。

軸方位 N-32°-W。

規模 一辺0.93m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区8号土坑(第143図)

位置 X=29858~859、Y=-40259~260。

重複 3区3号溝と重複。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸(1.72)m、短軸0.96m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、5層が観察された。

遺物 土師器片86gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区9号土坑(第143図)

位置 X=29855~858、Y=-40252~254。

重複 3区1号掘立柱建物、3号溝と重複。本遺構が1号掘立柱建物より新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸3.36m、短軸0.88m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片72gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区10号土坑(第143図、P L .66)

位置 X=29853~857、Y=-40252~254。

重複 3区1号掘立柱建物、3・4号溝、20号土坑と重複。本遺構が1号掘立柱建物、4号溝、20号土坑より新しい。

平面形状 長方形。

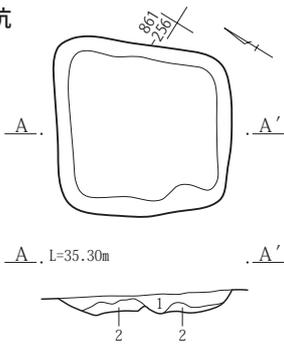
長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸3.59m、短軸0.72m、深さ0.23m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

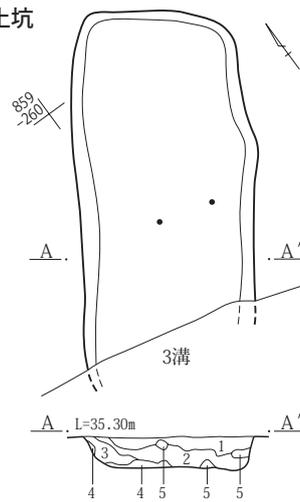
遺物 土師器片275g、不明土器片22gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考

3区6号土坑



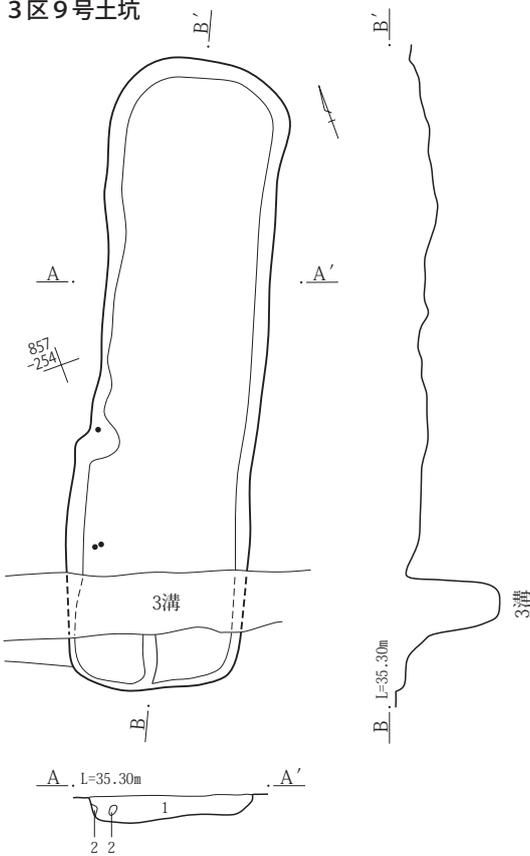
- 3区6号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質。
 2. 1層と同質 ϕ 1~2mmローム粒10%。

3区8号土坑



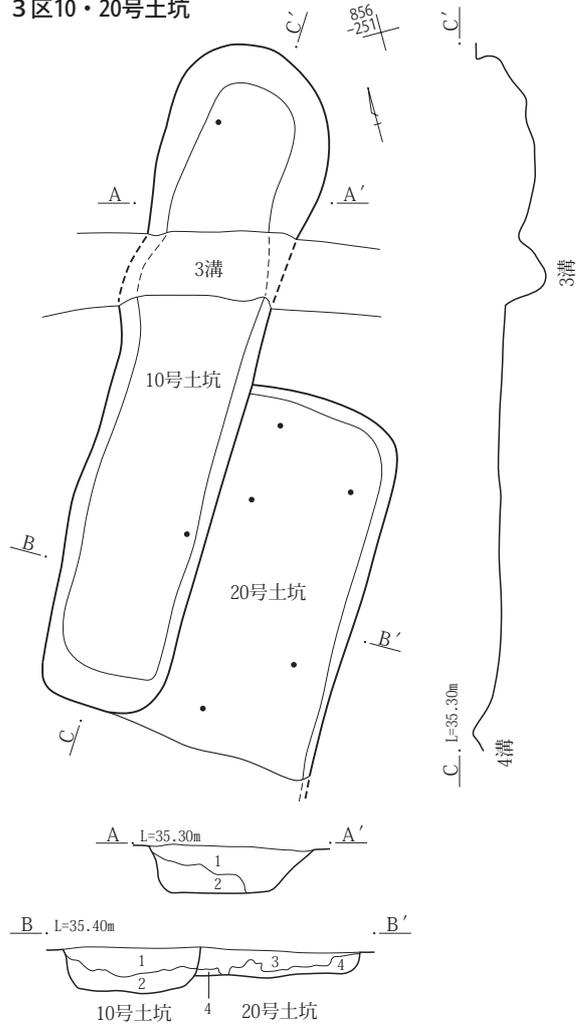
- 3区8号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1mmローム粒7%。
 3. 2層とロームの斑混土。
 4. 明黄褐色土(10YR6/6)。
 5. As-YP塊。

3区9号土坑

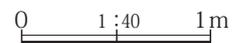


- 3区9号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~10mmローム粒20%。
 2. ローム塊。

3区10・20号土坑



- 3区10・20号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒5%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 As-YP塊混入。
 3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1mm灰白色粒3% ϕ 1mmローム粒少混。
 4. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 ϕ 1~2cmローム塊斑混。



第143図 3区6・8~10・20号土坑平断面

えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区11号土坑(第144図)

位置 X=29850~855、Y=-40248~251。

重複 3区3・4・5号溝、12号土坑と重複。本遺構が4・5号溝、12号土坑より新しい。

平面形状 北端が3区12号溝に掘削されている。推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸(5.34)m、短軸0.93m、深さ0.28m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片435g、須恵器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。土師器鉢1点(外12)を、遺構外出土として第3章第9節に掲げた。

所見 2基重複の可能性あり。形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。出土遺物の土師器、須恵器は混入と考えられる。3区における奈良・平安時代以前の遺構は竪穴住居2軒・掘立柱建物3棟・溝1条・井戸4基と少ないが、本遺構のように埋没土中から多くの土師器・須恵器・埴輪片が出土する中近世の溝・土坑等が存在することから、調査区周辺および溝の延長上に古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性がある。

3区12号土坑(第144図)

位置 X=29855、Y=-40248~249。

重複 3区11号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸0.96m、短軸0.50m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区13号土坑(第144図、P L .66)

位置 X=29859~860、Y=-40252~253。

重複 3区1号溝と重複。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-37°-E。

規模 長軸(0.81)m、短軸0.65m、深さ0.30m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区16号土坑(第144図、P L .66)

位置 X=29856~857、Y=-40247~248。

重複 3区1号溝と重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸1.11m、短軸0.85m、深さ0.34m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土・明黄褐色土主体、5層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

3区19号土坑(第144図)

位置 X=29853~854、Y=-40250~251。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-22°-W。

規模 長軸0.55m、短軸0.50m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土・明黄褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

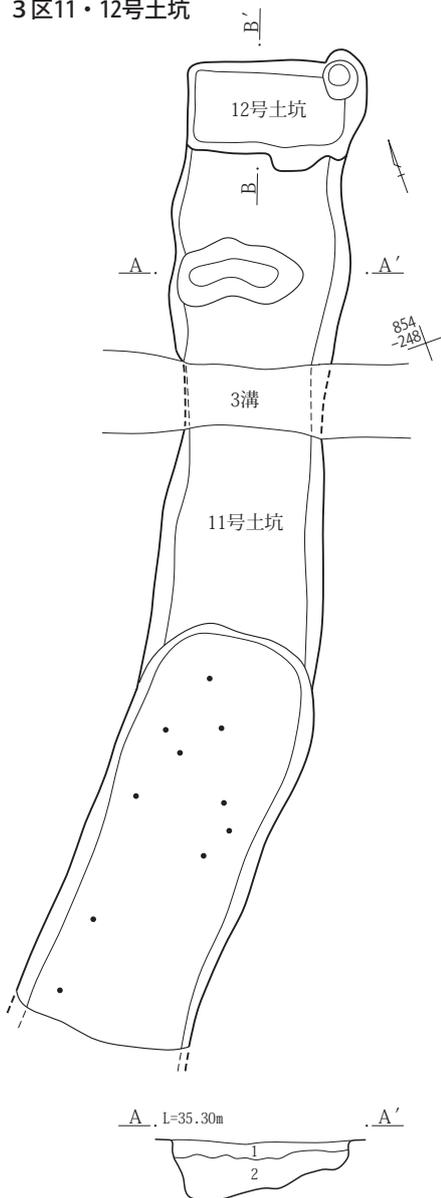
所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

3区20号土坑(第143図、P L .66)

位置 X=29852~854、Y=-40251~253。

重複 3区4号溝、10号土坑と重複。本遺構が10号土坑

3区11・12号土坑



3区11号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒1%。
2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒30%斑混 下位に多い。

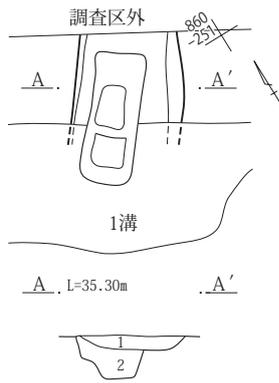
3区12号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 灰白色砂・ローム粒5%。
2. 明黄褐色土(10YR7/6) 細粒 均質 密 As-YP塊混入。

3区21号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 灰白色粒・ローム粒3%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
3. 2層と同質 ϕ 1~2mmローム粒10%。
4. 2層と同質 ϕ 1~3mmローム粒15%。

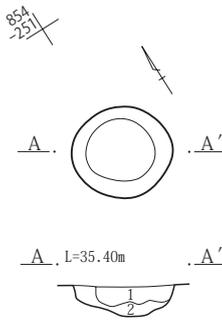
3区13号土坑



3区13号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10%。

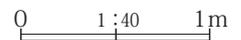
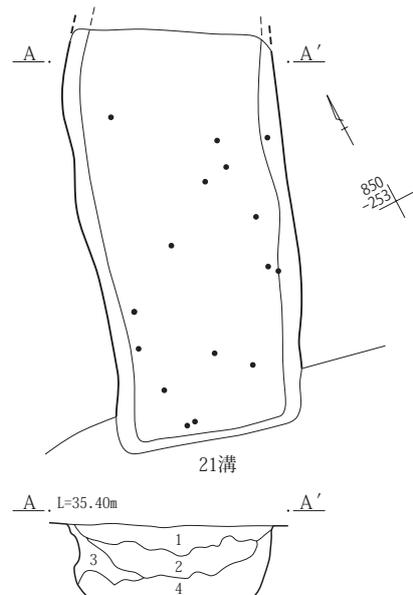
3区19号土坑



3区19号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 灰白色粒・ローム粒3%。
2. 明黄褐色土(10YR7/6) 細粒 均質 密 1層斑混。

3区21号土坑



第144図 3区11~13・16・19・21号土坑平断面

より古く、4号溝より新しい。

平面形状 西側が3区10号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-32°-W。

規模 長軸(1.99)m、短軸(0.88)m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片144gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区21号土坑(第144図、P L .66)

位置 X=29849~851、Y=-40253~255。

重複 3区4・21号溝、38号ピットと重複。本遺構が38号ピットより古く、4号溝より新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-20°-E。

規模 長軸(2.20)m、短軸1.11m、深さ0.35m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器片323gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。石鏃1点(外73)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区23号土坑(第145図)

位置 X=29854~855、Y=-40267~268。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-74°-W。

規模 長軸1.04m、短軸0.95m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片16gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区24号土坑(第145図、P L .66)

位置 X=29863~864、Y=-40261~263。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-18°-E。

規模 長軸1.74m、短軸0.69m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片77gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区25号土坑(第145図、P L .67)

位置 X=29863~866、Y=-40263~265。

重複 3区1号溝、26号土坑と重複、本遺構が26号土坑より新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸(3.32)m、短軸0.92m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片110g、時期不明土器片12gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区26号土坑(第145図、P L .66)

位置 X=29863~864、Y=-40264~265。

重複 3区25号土坑と重複、本遺構が古い。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸(0.79)m、短軸0.72m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

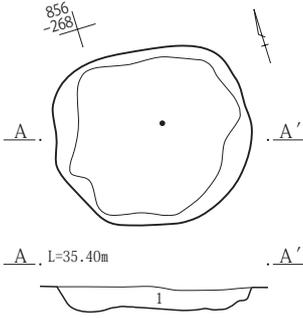
所見 3区25号土坑との重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、詳しくは判別できなかった。

3区27号土坑(第145図、P L .67)

位置 X=29855~857、Y=-40264。

重複 なし。

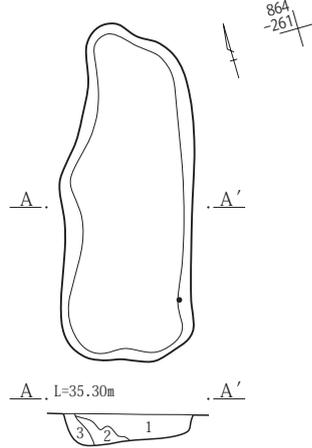
3区23号土坑



3区23号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密
As-YP塊混入。

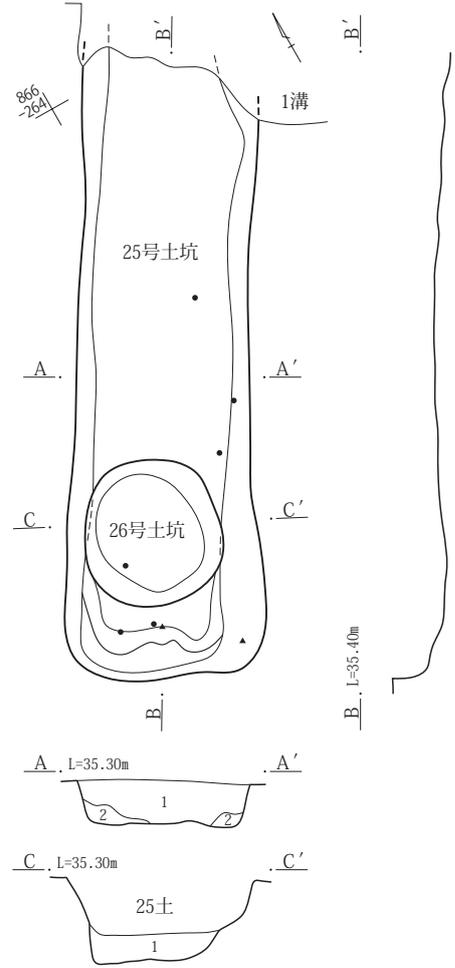
3区24号土坑



3区24号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mm 灰
白色粒 3% 下位にローム粒斑混。
2. にぶい黄橙色土(10YR7/4) 細粒 均質 密。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密。

3区25・26号土坑



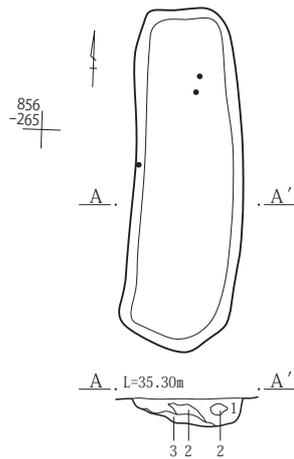
3区25号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1
~ 3mmローム粒 5%。
2. 1層と同質 ϕ 1~5mmローム粒10%。

3区26号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1
~ 2cmローム塊10%。

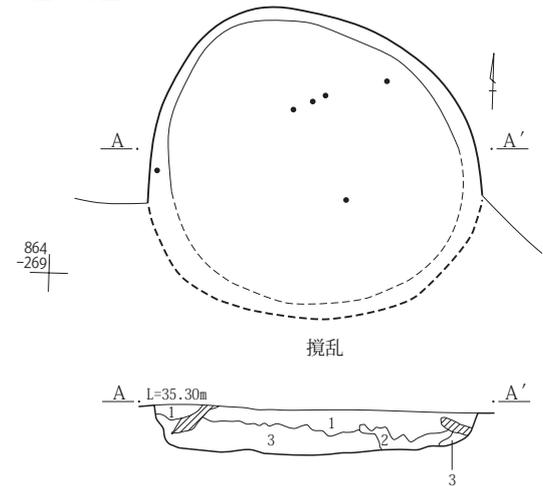
3区27号土坑



3区27号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. ローム塊。
3. 黄褐色土(10YR5/6) 細粒 均質 密。

3区28号土坑



3区28号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mm 灰白色粒 3%
ローム塊混入。
2. 1層と同質 ϕ 1mmローム粒15%。
3. 1層と同質 より暗い ϕ 1~3mmローム粒10%。



第145図 3区23~28号土坑平面図

平面形状 長方形。

長軸方位 N-1°-E。

規模 長軸1.83m、短軸0.56m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム粒・塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片14g、須恵器片26gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区28号土坑(第145図)

位置 X=29864~865、Y=-40268~269。

重複 なし。

平面形状 南側が倒木痕により攪乱されている。推定楕円形。

長軸方位 N-89°-E。

規模 長軸1.72m、短軸(1.57)m。深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器片98gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

3区29号土坑(第146図、P L .67)

位置 X=29860~862、Y=-40280~282。

重複 3区6号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸(1.59)m、短軸0.92m、深さ0.31m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。上位と下位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片1,293gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。土師器埴1点(外17)・甕1点(外25)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

所見 3区6号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。土師器が多く混入しており、位置関係から3区30号土坑と一体をなす可能性がある(3区11号土坑

の項を参照)。

3区30号土坑(第146図、P L .67)

位置 X=29855~859、Y=-40281~283。

重複 3区6・7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸(2.55)m、短軸1.00m、深さ0.23m。

埋没土層 黒色土主体、3層。ローム塊が目立ち人為的埋没と推察される。

遺物 土師器片3,914g、時期不明土器片25gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。土師器高坏3点(外5・7・8)・甕1点(外23)・甕1点(外27)を、遺構外出土として、第3章第9節に掲げた。

所見 3区6号溝との重複関係、形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。土師器が多く混入しており、位置関係から3区29号土坑と一体をなす可能性がある(3区11号土坑の項を参照)。

3区31号土坑(第146図、P L .68)

位置 X=29857~858、Y=-40285~286。

重複 3区7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-40°-E。

規模 長軸(1.01)m、短軸0.77m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。下位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片19gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区32号土坑(第146図、P L .67)

位置 X=29857~858、Y=-40295~297。

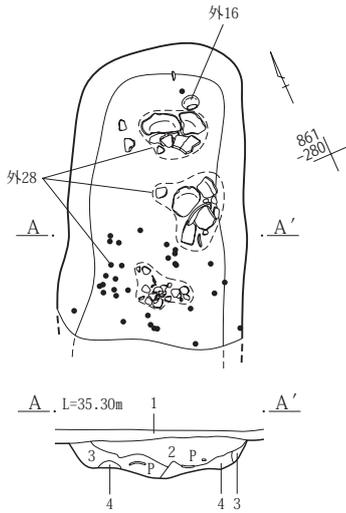
重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-66°-W。

規模 長軸1.55m、短軸0.66m、深さ0.04m。

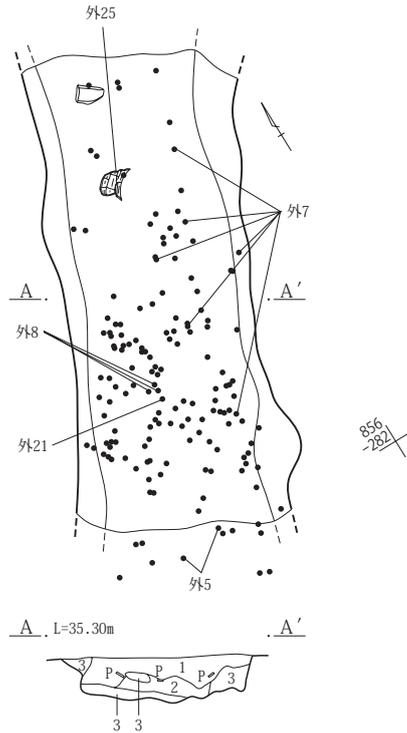
3区29号土坑



3区29号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 3%。
3. 2層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10%。
4. 2層と同質 ϕ 1~2mmローム粒20%。

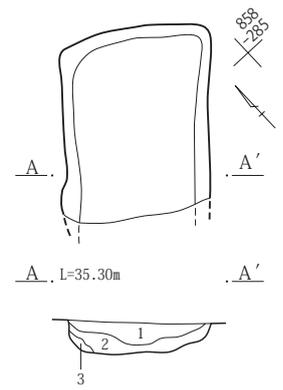
3区30号土坑



3区30号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 1% 下位に焼土塊。
2. 1層と同質 ローム粒 5%。
3. 1層と同質 ローム粒10%。

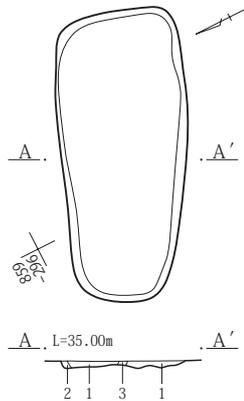
3区31号土坑



3区31号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒 3%。
2. 1層と同質 ローム粒15%。
3. 1層と同質 ローム粒25%。

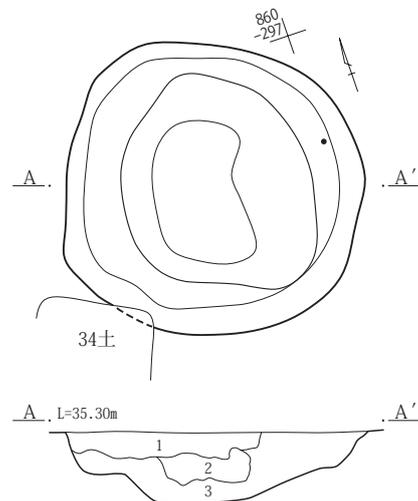
3区32号土坑



3区32号土坑

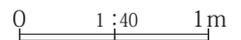
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ϕ 1mmローム粒混入。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3)。
3. ローム塊。

3区33号土坑



3区33号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 2~3mmローム粒 3%。
2. 明黄褐色土(10YR7/6) ローム塊 3層との境に黒褐色土混入。
3. 黒色土(10YR2/2) 細粒 ϕ 1~10mmローム粒20%。



第146図 3区29~33号土坑平面図

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区33号土坑(第146図、P L .68)

位置 X=29858~860、Y=-40297~298。

重複 3区34号土坑と重複。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.55m、深さ0.38m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。

ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片27gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区34号土坑(第147図、P L .69)

位置 X=29858~859、Y=-40298~299。

重複 3区33・35号土坑と重複。本遺構が35号土坑より古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-21°-E。

規模 長軸1.52m、短軸0.64m、深さ0.26m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片33g、近世国産施釉陶器片1gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区35号土坑(第147図、P L .69)

位置 X=29857~859、Y=-40298~300。

重複 3区14号溝、34号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-34°-W。

規模 長軸1.70m、短軸0.99m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 3区14号溝との重複関係および形状から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区36号土坑(第147図、P L .68)

位置 X=29859~860、Y=-40298~299。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.15m、短軸0.66m、深さ0.15m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 近世在地系土器片5gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区37号土坑(第147図、P L .67)

位置 X=29860~861、Y=-40297~298。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-51°-E。

規模 長軸1.09m、短軸0.45m、深さ0.13m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区38号土坑(第147図、P L .69)

位置 X=29859~860、Y=-40299~300。

重複 3区40号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-31°-E。

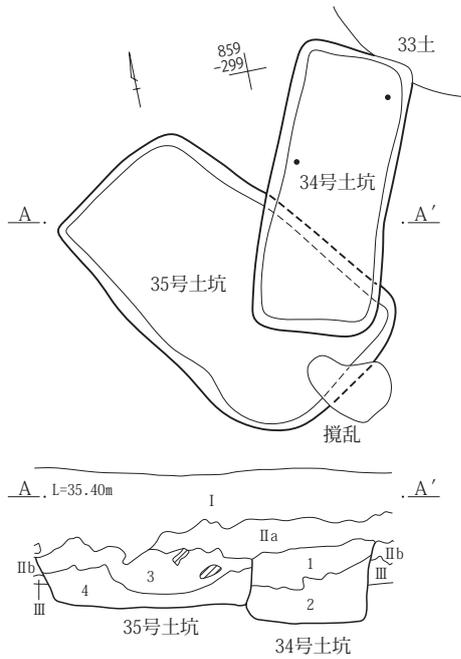
規模 長軸1.49m、短軸(0.53)m、深さ0.23m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片10g、近世国産施釉陶器片1g、在地系土器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土、出土遺物に近世遺物の小破片

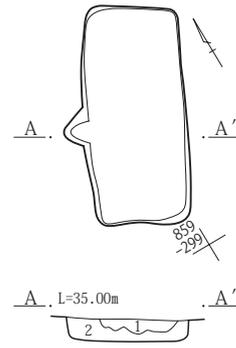
3区34・35号土坑



3区34・35号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
2. 1層と同質 ローム粒3%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
4. 3層と同質 下位にローム塊混入。

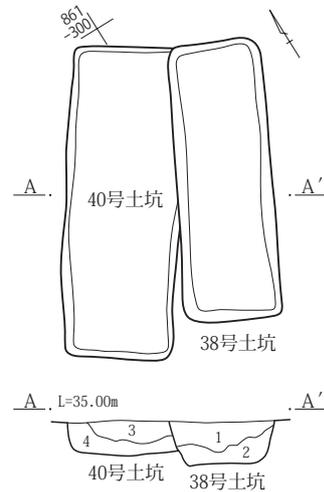
3区36号土坑



3区36号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム粒少混。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 ϕ 1~2mmローム粒5%。

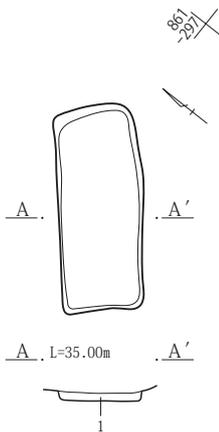
3区38・40号土坑



3区38・40号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒3%。
2. 1層と同質 ϕ 1~5mmローム粒10%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒5%。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒10%。

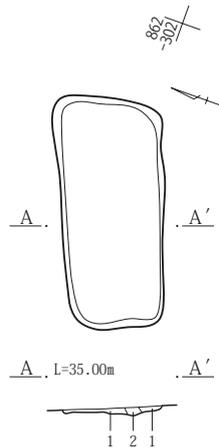
3区37号土坑



3区37号土坑

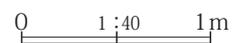
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 ϕ 1~2mmローム粒混入。

3区39号土坑



3区39号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR5/3)。
2. ローム塊。



第147図 3区34~40号土坑平面図

を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区39号土坑(第147図、P L .68)

位置 X=29861~862、Y=-40302~303。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-68°-E。

規模 長軸1.25m、短軸0.55m、深さ0.06m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区40号土坑(第147図、P L .69)

位置 X=29859~860、Y=-40299~300。

重複 3区38号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.66m、短軸0.58m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片18gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区41号土坑(第148図、P L .68)

位置 X=29852~853、Y=-40289~290。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-15°-E。

規模 長軸1.09m、短軸0.57m、深さ0.24m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片80g、須恵器片31gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区42号土坑(第148図、P L .68)

位置 X=29853~855、Y=-40287~288。

重複 3区13号溝、61号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北側がトレンチに掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-19°-E。

規模 長軸(1.44)m、短軸0.79m、深さ0.10m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片58g、須恵器片13g、近世国産施釉陶器片6g、在地系土器片134g、時期不明土器片458gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区43号土坑(第148図、P L .68)

位置 X=29853、Y=-40289~290。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-25°-W。

規模 長軸0.77m、短軸0.70m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。下位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 近世在地系土器片37g、時期不明土器片112gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 埋没土および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区44号土坑(第148図、P L .68)

位置 X=29870~872、Y=-40317~319。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-69°-W。

規模 長軸1.98m、短軸0.79m、深さ0.13m。

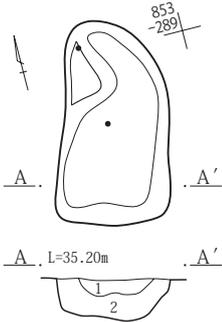
埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。

ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イ

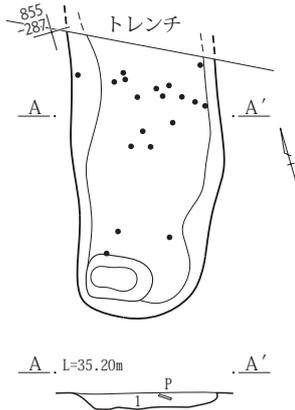
3区41号土坑



3区41号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 ϕ 1mmローム粒3%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 ϕ 1~10mmローム粒10% As-YP塊混入。

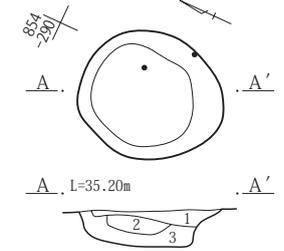
3区42号土坑



3区42号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 ϕ 5mmローム粒3% As-YP塊混入。

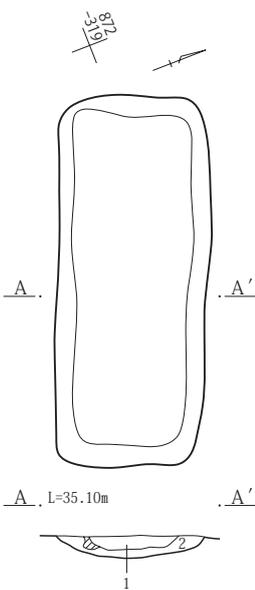
3区43号土坑



3区43号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ϕ 1mmローム粒5%。
3. 2層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10% As-YP塊混入。

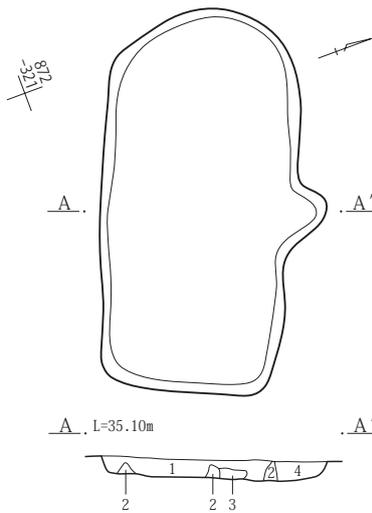
3区44号土坑



3区44号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒3%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒5%。

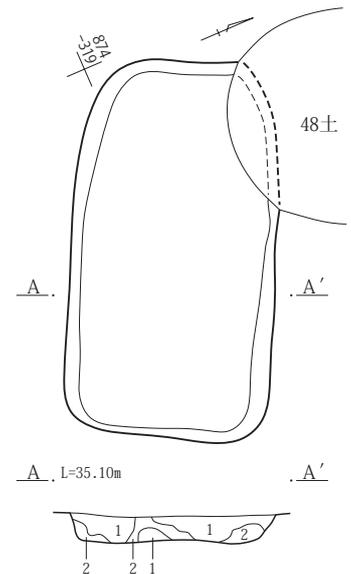
3区45号土坑



3区45号土坑

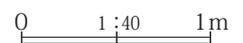
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒2%。
2. ローム塊。
3. 1層と同質 ローム粒10%。
4. 1層と同質 より明るい。

3区46号土坑



3区46号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒3%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 ϕ 1mmローム粒5%。



第148図 3区41~46号土坑平面図

モ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区45号土坑(第148図、P L .69)

位置 X=29871~873、Y=-40319~321。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-66°-W。

規模 長軸2.06m、短軸1.20m、深さ0.14m。

埋没土層 黒色土主体、4層が観察された。下位にローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区46号土坑(第148図、P L .69)

位置 X=29873~874、Y=-40317~319。

重複 3区48号土坑と重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-67°-W。

規模 長軸2.02m、短軸1.08m、深さ0.19m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。

重複 3区48号土坑と重複。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区47号土坑(第149図、P L .70)

位置 X=29875~876、Y=-40319~320。

重複 なし。

平面形状 西側がトレンチのため詳細不明。推定長方形。

長軸方位 N-73°-W。

規模 長軸(1.67)m、短軸1.06m、深さ0.13m。

埋没土層 黒色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区48号土坑(第149図、P L .69)

位置 X=29874~875、Y=-40318~319。

重複 3区46号土坑と重複。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-66°-W。

規模 長軸1.15m、短軸1.05m、深さ0.19m。

埋没土層 黒色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 3区46号土坑と重複関係から、本遺構の時期は中近世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

3区49号土坑(第149図、P L .70)

位置 X=29855~856、Y=-40287~289。

重複 3区50号土坑と重複。

平面形状 推定不整形。

長軸方位 N-63°-W。

規模 長軸(1.34)m、短軸1.32m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片13g、時期不明土器片23gが出土しているが、小破片のため非掲載。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

3区50号土坑(第149~153図、P L .70・101.102)

位置 X=29855~857、Y=-40289~290。

重複 3区49号土坑と重複。

平面形状 不整形。

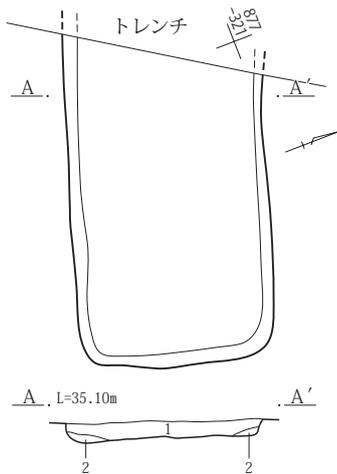
長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸1.93m、短軸1.75m、深さ1.07m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、7層が観察された。

遺物 肥前磁器染付筒形碗2点(1・2)、瀬戸・美濃陶器練鉢1点(3)、近世在地系土器鉢1点(4)・手焙り1点(5)・火鉢か鉢1点(6)・火鉢1点(7)・焙烙5点(8~12)・置輪2点(13・14)・煎り鍋1点(15)・炬形土器1点(16)・羽口3点(17~19)・十能瓦5点(20~24)・不明棒状土製品1点(25)、石臼2点(26・27)、石製品1点(28)を図示した。他に、土師器片203g、近世国産磁器片8g、国産施釉陶器片140g、在地系土器片2,006g、十能瓦片1,713g、時期不明土器片2,032g、瓦片126gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。埴輪、土師器は混入と考えられる。円筒埴輪1点(外42)を、遺構外出土とし、第3章第9節に掲げた。

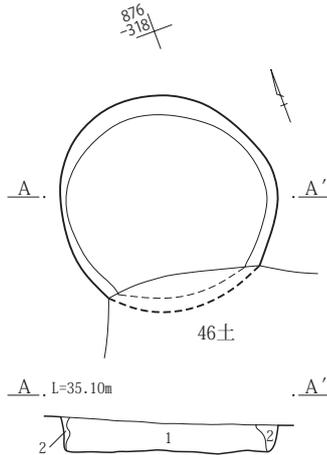
3区47号土坑



3区47号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ϕ 1~2mmローム粒 3%。

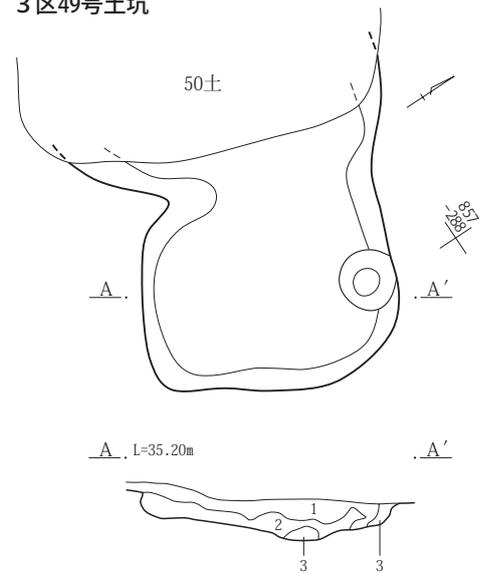
3区48号土坑



3区48号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒 5%。
2. 褐色土(10YR4/6) 細粒 粘性に富む。

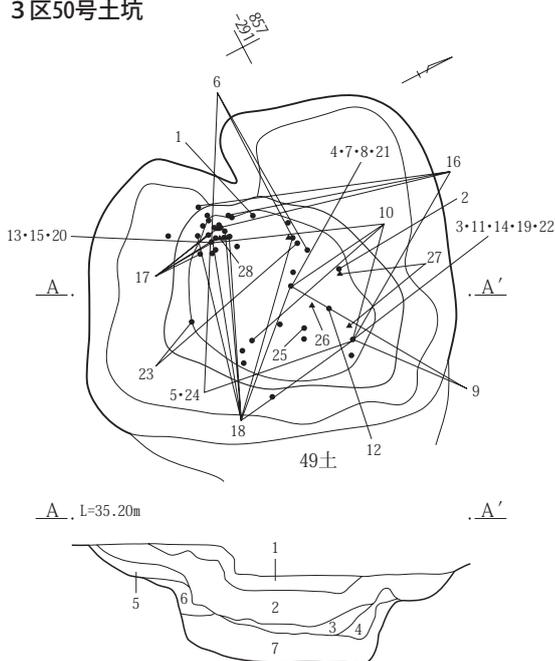
3区49号土坑



3区49号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ϕ 1~10mmローム粒、一部大粒で斑混。
3. 2層と同質 ローム粒大きく20%以上。

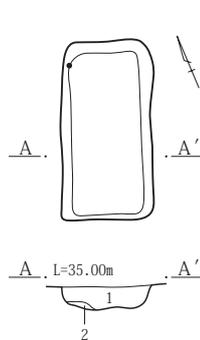
3区50号土坑



3区50号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質。
2. 1層と同質 ϕ 5~10mmローム・As-YP混入。
3. 2層のうちノ口状部分。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 As-YP塊 5%。
6. 5層と同質 As-YPほか ϕ 1~3mmローム粒10%。
7. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 下位にAs-YP・ローム塊混入。

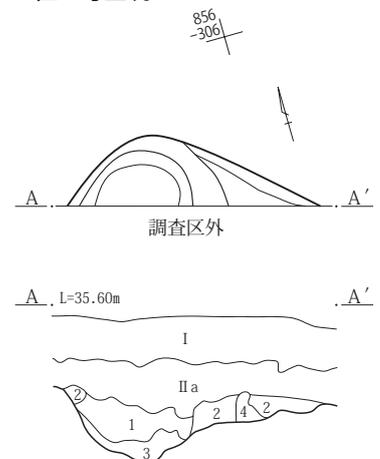
3区51号土坑



3区51号土坑

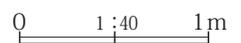
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. ローム塊。

3区52号土坑

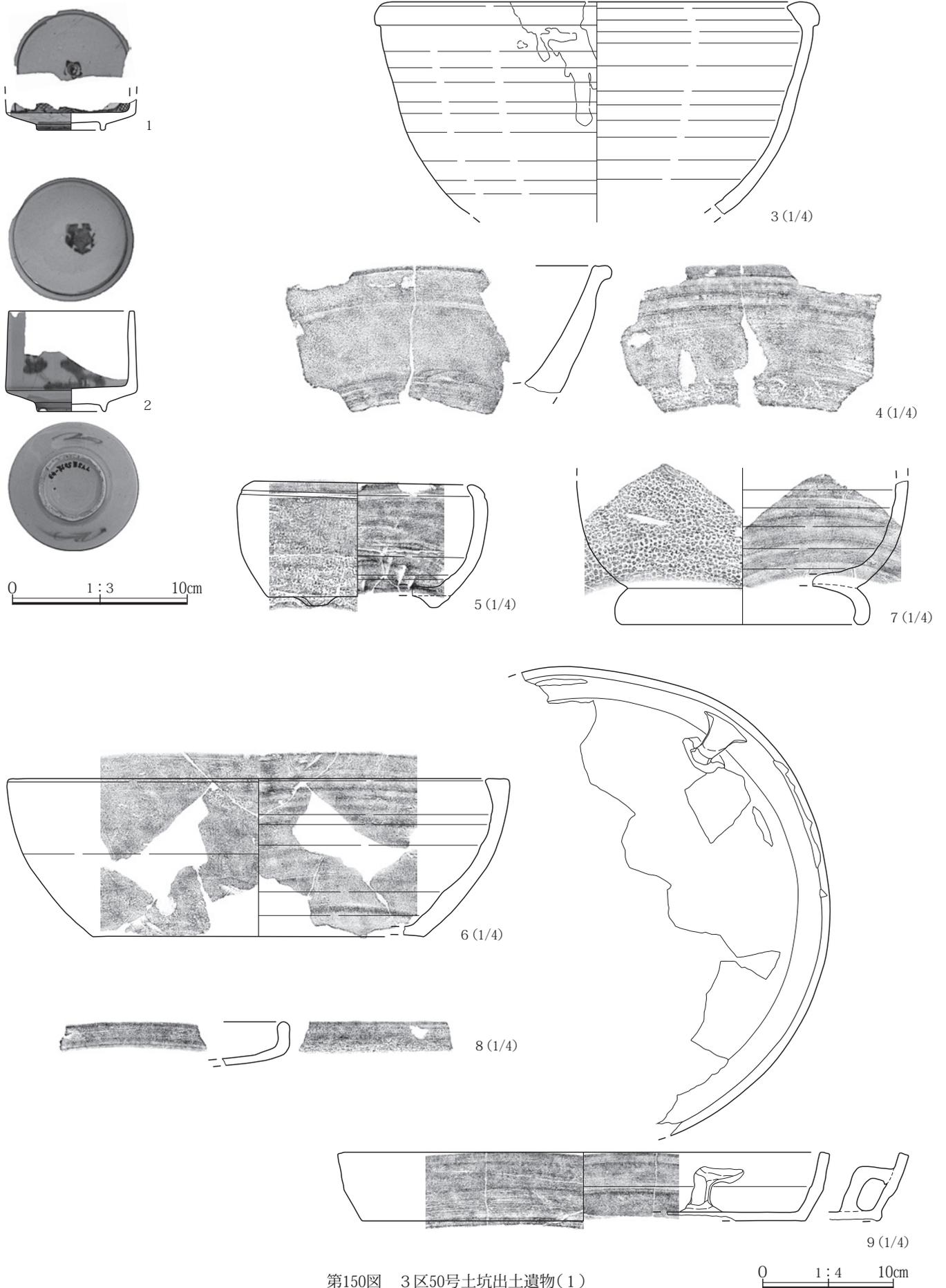


3区52号土坑

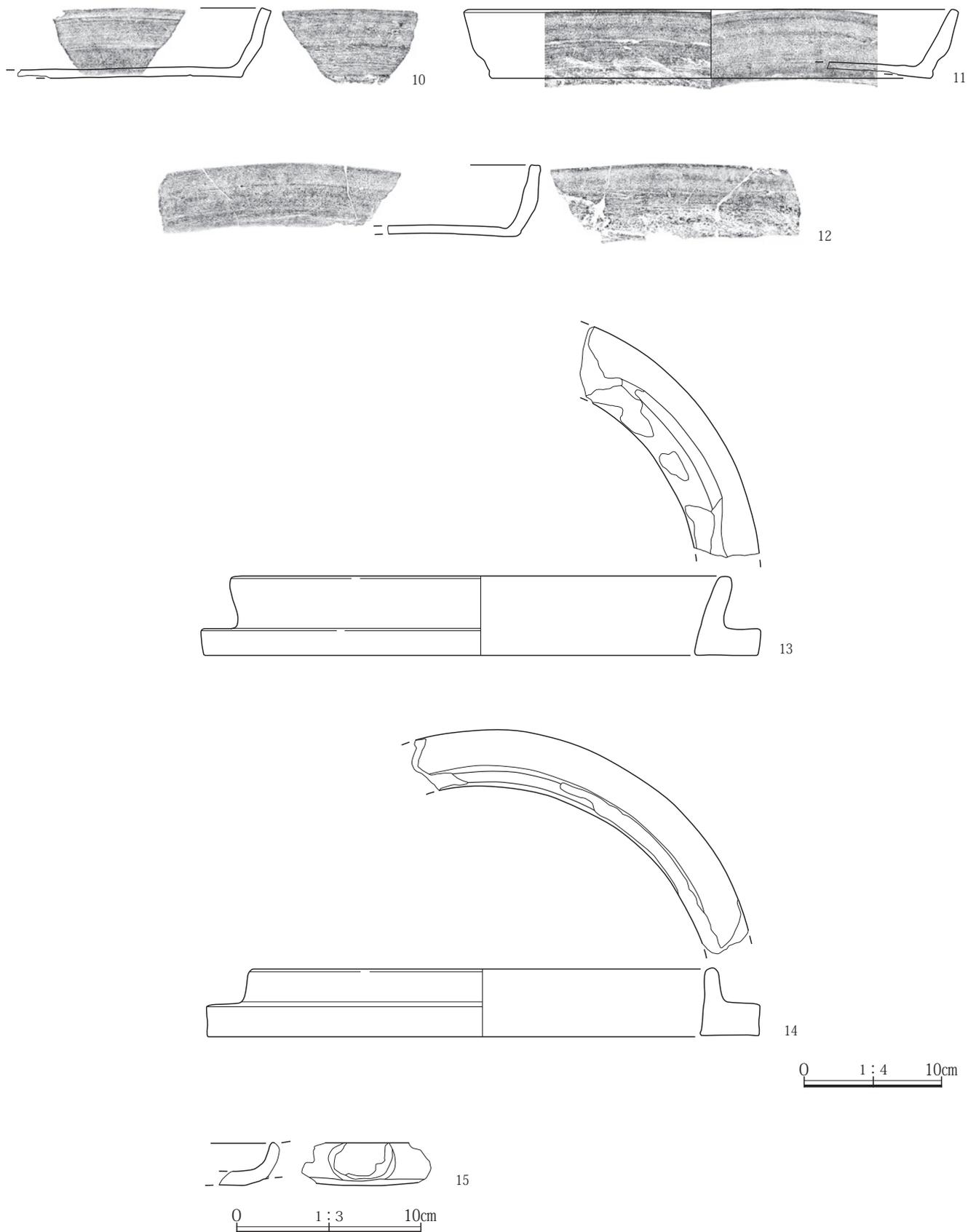
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1mmローム粒 3% As-YP塊混入。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 ϕ 1~3cm As-YP塊10%。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 ϕ 1~2mmローム粒 5%。
4. にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒 15%。
5. 3層と同質 ローム大粒。



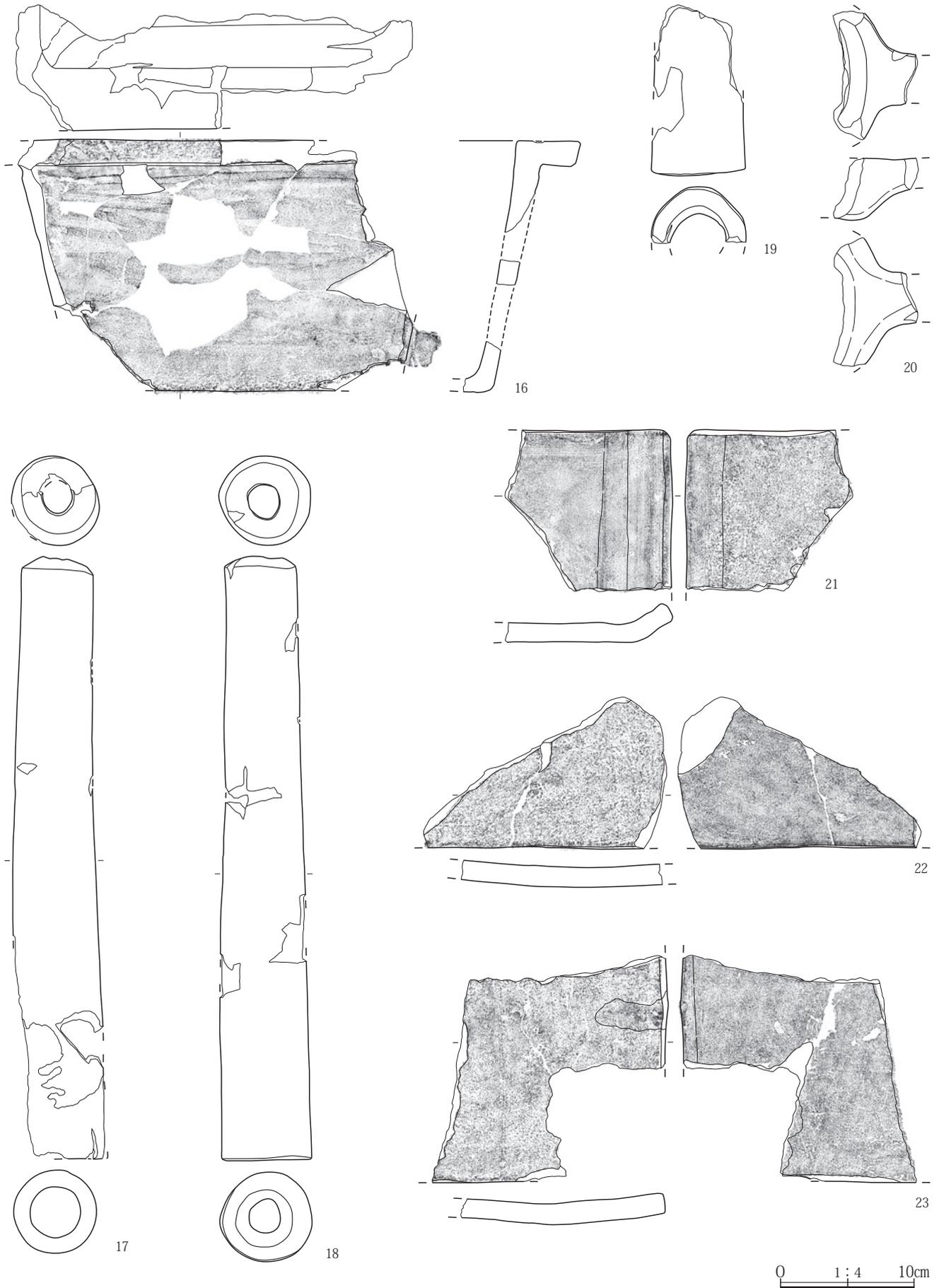
第149図 3区47~52号土坑平面断面



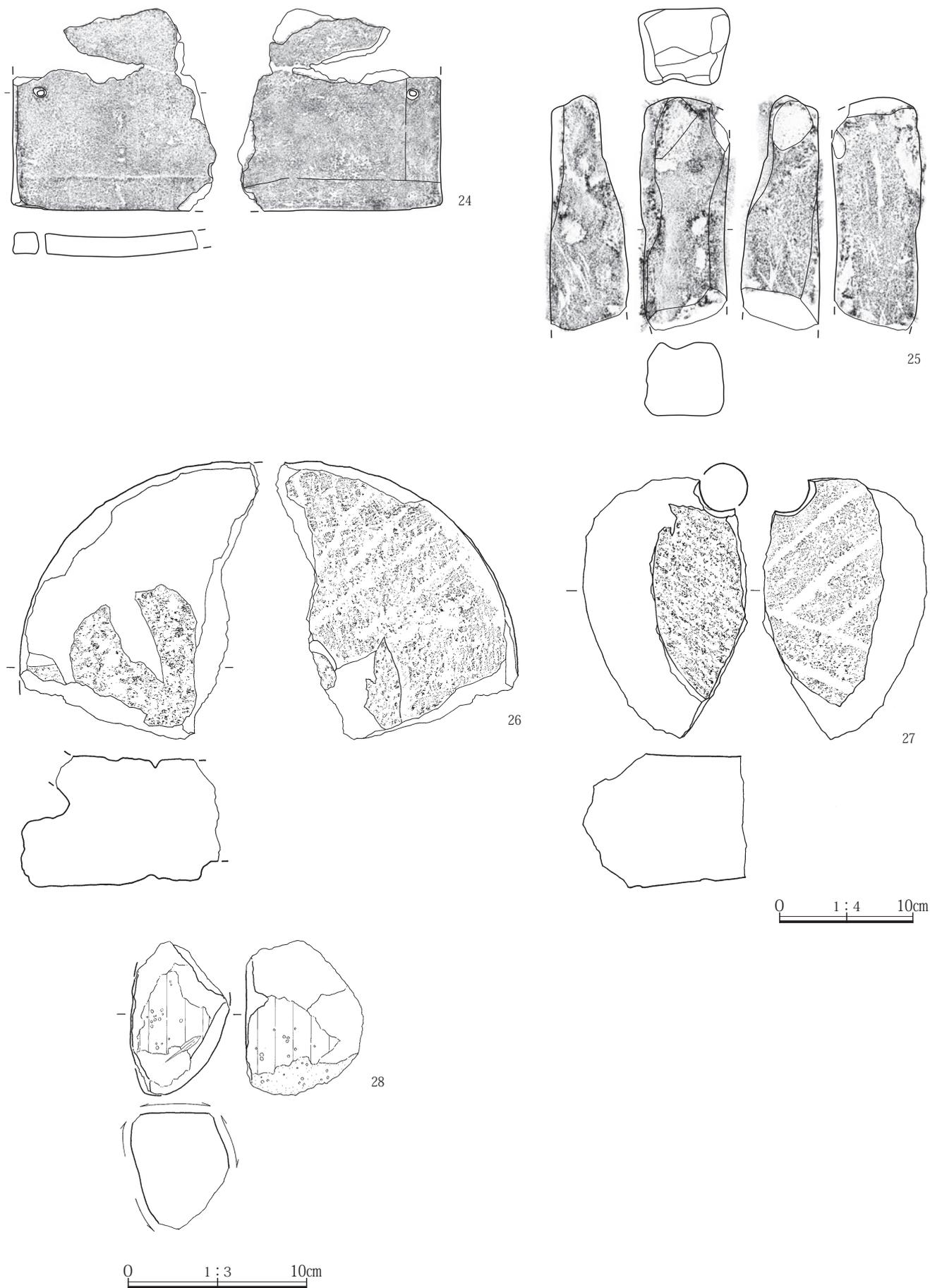
第150図 3区50号土坑出土遺物(1)



第151図 3区50号土坑出土遺物(2)



第152図 3区50号土坑出土遺物(3)



第153図 3区50号土坑出土遺物(4)

所見 出土遺物(1~28)から、本遺構の時期は近世と推定される。

3区51号土坑(第149図、P L .69)

位置 X=29855~856、Y=-40302。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸0.95m、短軸0.49m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 近世在地系土器片23g、時期不明瓦片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区52号土坑(第149図)

位置 X=29854~855、Y=-40306~308。

重複 なし。

平面形状 南側大半が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-58°-W。南側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(0.89)m、短軸(0.34)m、深さ0.32m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、4層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

3区53号土坑(第154図、P L .69)

位置 X=29864~865、Y=-40310~311。

重複 3区23号溝と重複。

平面形状 推定長楕円形。

長軸方位 N-50°-W。

規模 長軸(0.83)m、短軸(0.78)m、深さ0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区54号土坑(第154図、P L .70)

位置 X=29859~860、Y=-40303~304。

重複 3区57号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-51°-W。

規模 長軸1.17m、短軸0.91m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片33gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区55号土坑(第154図、P L .70)

位置 X=29869~870、Y=-40314~315。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸1.22m、短軸1.07m、深さ0.59m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

3区56号土坑(第154図、P L .70)

位置 X=29846~848、Y=-40252~254。

重複 3区21号溝、39号ピットと重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-33°-E。

規模 長軸1.91m、短軸0.82m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片72gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

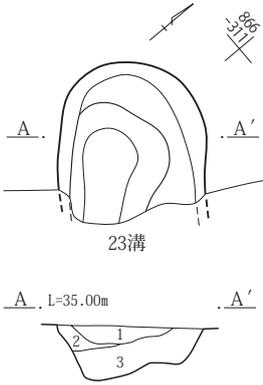
3区57号土坑(第154図、P L .102)

位置 X=29859~863、Y=-40303~305。

重複 3区7号溝、54号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形または長楕円形。

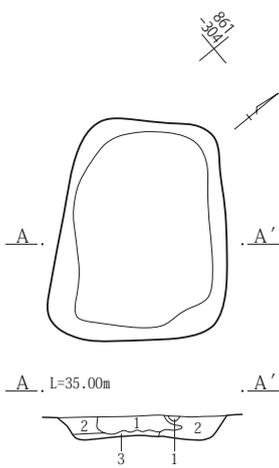
3区53号土坑



3区53号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒 3%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム粒 5%。
3. 2層と同質 ローム粒20%。

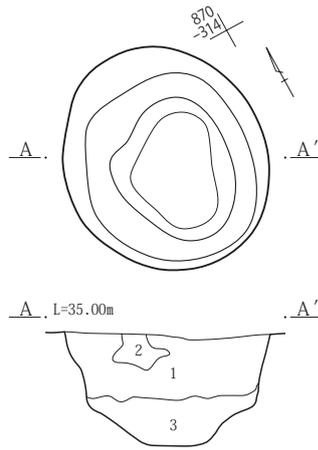
3区54号土坑



3区54号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ϕ 1~2cmローム塊20%。
2. 1層と同質 ローム塊10%。
3. にぶい黄褐色土(10YR5/4)。

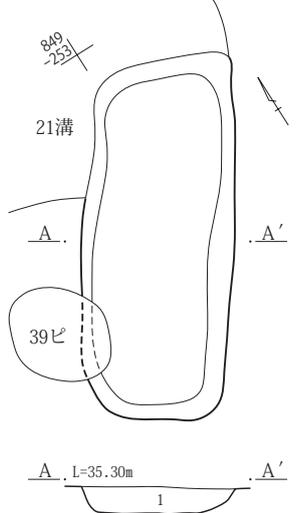
3区55号土坑



3区55号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 均質 密 細砂混入。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
3. 2層と同質 ローム粒混入多く、一部縞状。

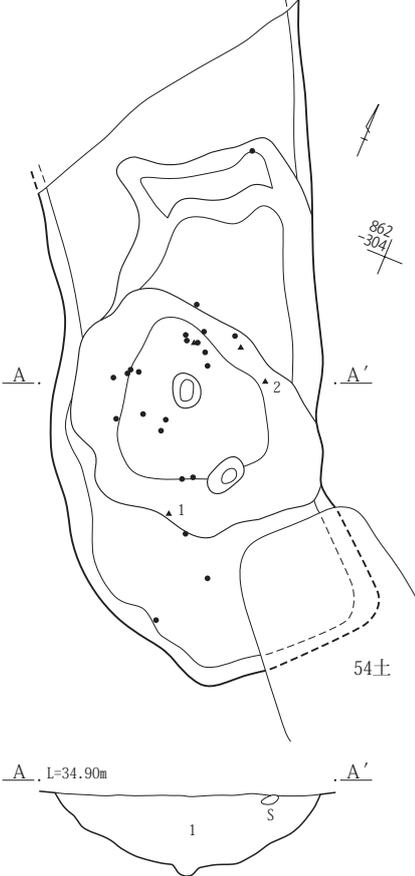
3区56号土坑



3区56号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 下位に ϕ 1~2mmローム粒10%・焼土粒少混。

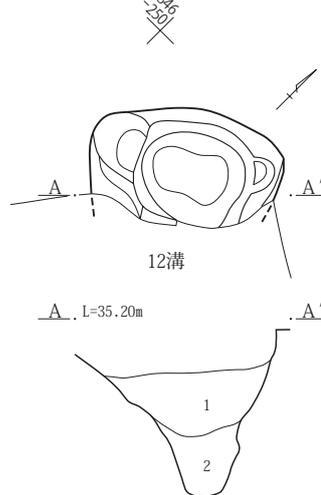
3区57号土坑



3区57号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 しまり弱い 最下部に大粒ローム 3%。

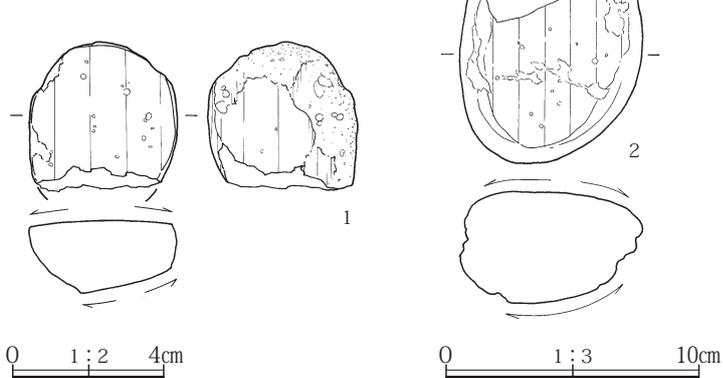
3区58号土坑



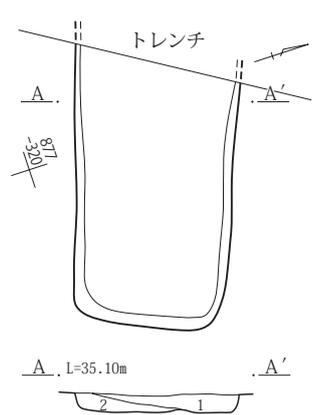
3区58号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 ローム粒少混。

57号土坑出土遺物



3区59号土坑



3区59号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ϕ 1mmローム粒 3%。

0 1:40 1m

0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

第154図 3区53~59号土坑平断面、57号土坑出土遺物

長軸方位 N-22°-W。

規模 長軸(3.27)m、短軸1.41m、深さ0.44m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された

遺物 石製品2点(1・2)を図示した。他に、近世国産磁器片20g、国産施釉陶器片124g、在地系土器片182g、時期不明土器片342gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区58号土坑(第154図)

位置 X=29844~845、Y=-40259。

重複 3区5・12号溝と重複。本遺構が12号溝より古く、5号溝より新しい。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-44°-E。

規模 長軸1.02m、短軸0.63m、深さ1.00m。

埋没土層 暗褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 3区5・12号溝との重複関係から、本遺構の時期は5世紀前半以降中世以前と推定されるが、出土遺物もなく、詳しくは判別できなかった。

3区59号土坑(第154図、P L .71)

位置 X=29876~877、Y=-40319~320。

重複 なし。

平面形状 西側大半がトレンチに掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-68°-W。

規模 長軸(1.40)m、短軸0.83m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

3区60号土坑(第155~159図、P L .71・102~104)

位置 X=29854~855、Y=-40285~287。

重複 3区7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-59°-W。

規模 長軸(1.39)m、短軸1.20m、深さ0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 肥前磁器染付筒形碗2点(1・2)、瀬戸・美濃陶器仏飯器か小碗2点(3・4)、瀬戸・美濃磁器染付端反碗1点(5)、近世在地系土器皿2点(6・7)・甕1点(8)・手焙り1点(9)・火鉢か鉢1点(10)・焙烙7点(11~17)・置輪2点(18・19)・火消壺1点(20)・羽口8点(21~28)・十能平4点(29~32)・器種不詳1点(33)を図示した。底面より0.10mほどの高さから集中して出土した。他に、土師器片111g、須恵器片31g、近世国産磁器片33g、在地系土器片2,226g、十能瓦片552g、時期不明土器片735g、板碑片1点(33)が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、板碑は混入と考えられる。

所見 出土遺物(1~33)から、本遺構の時期は近世と推定される。

3区61号土坑(第160図、P L .71・105)

位置 X=29852~853、Y=-40287~288。

重複 3区13号溝、42号土坑と重複。本遺構が42号土坑より古い。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.45m、短軸0.65m、深さ0.44m。

埋没土層 不明。

遺物 近世在地系土器皿1点(1)・焙烙2点(2・3)を図示した。他に、土師器片33g、須恵器片11g、近世国産施釉陶器片7g、在地系土器片403g、十能瓦片44gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 出土遺物(1~3)から、本遺構の時期は近世と推定される。

4区1号土坑(第161図、P L .71)

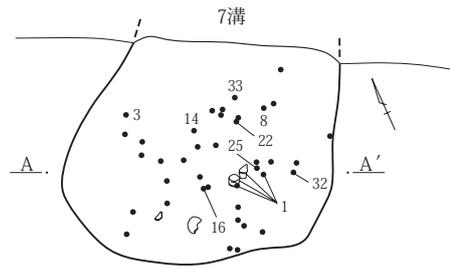
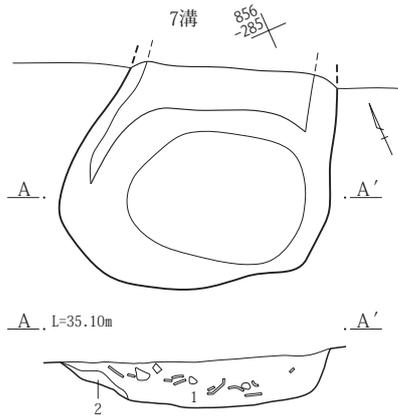
位置 X=29841~843、Y=-40202~204。

重複 なし。

平面形状 長方形。

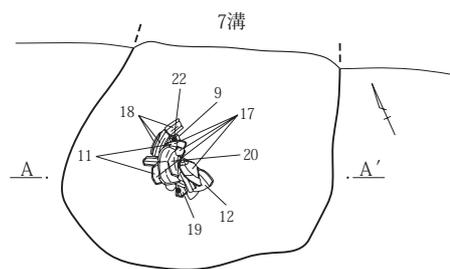
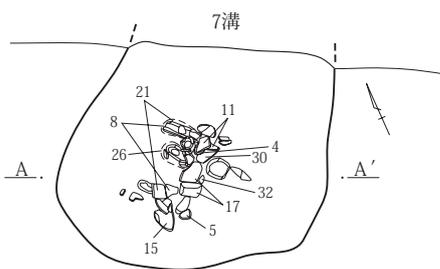
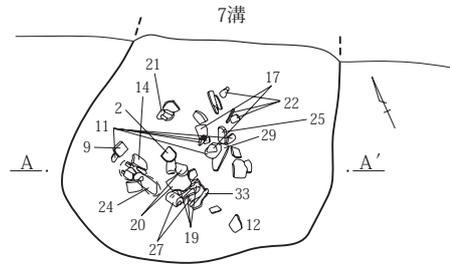
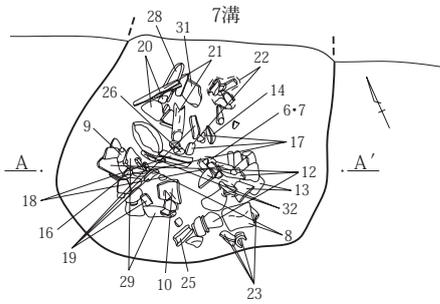
長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸2.78m、短軸0.93m、深さ0.09m。



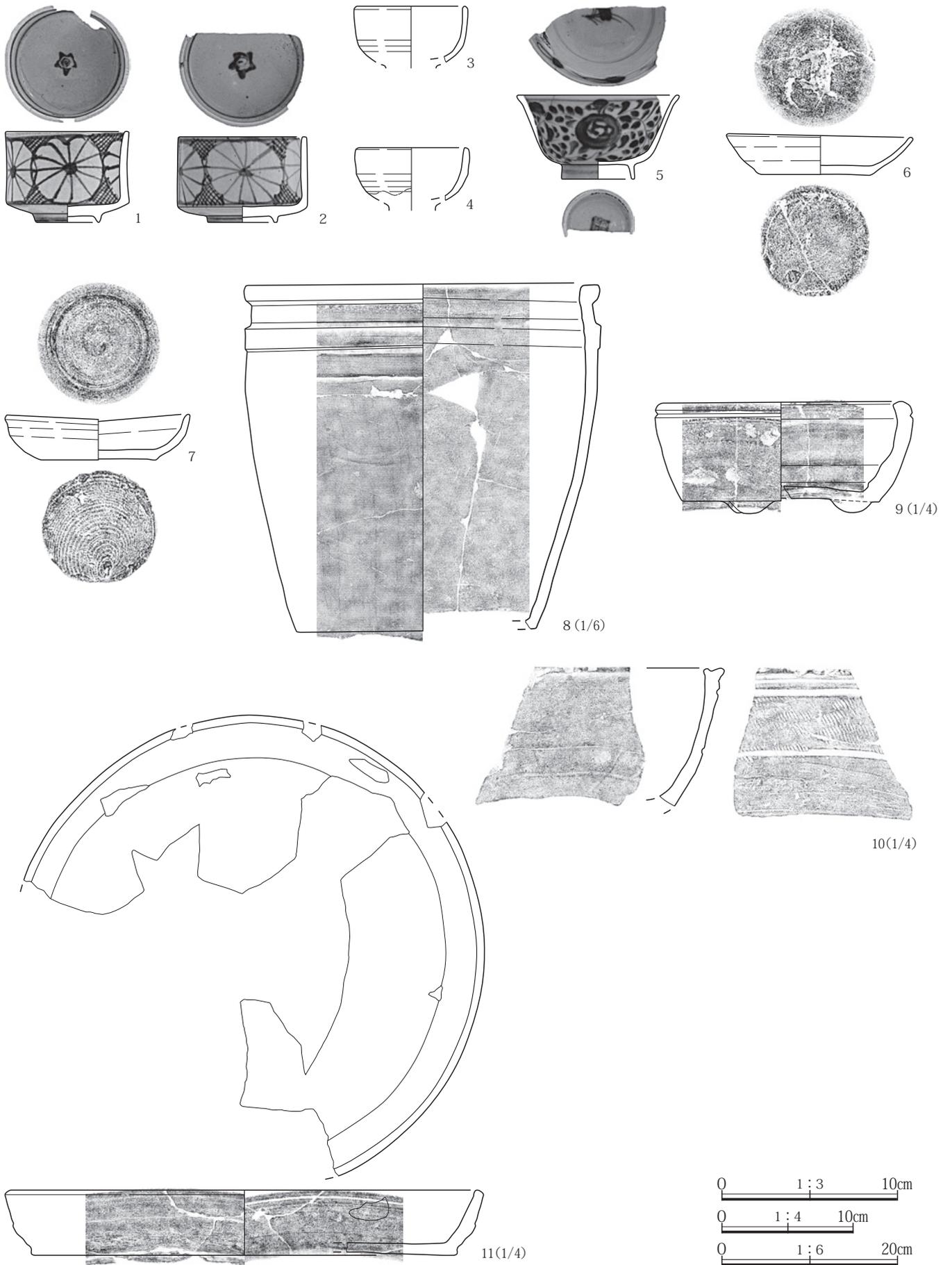
3区60号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~2mmローム粒10%。

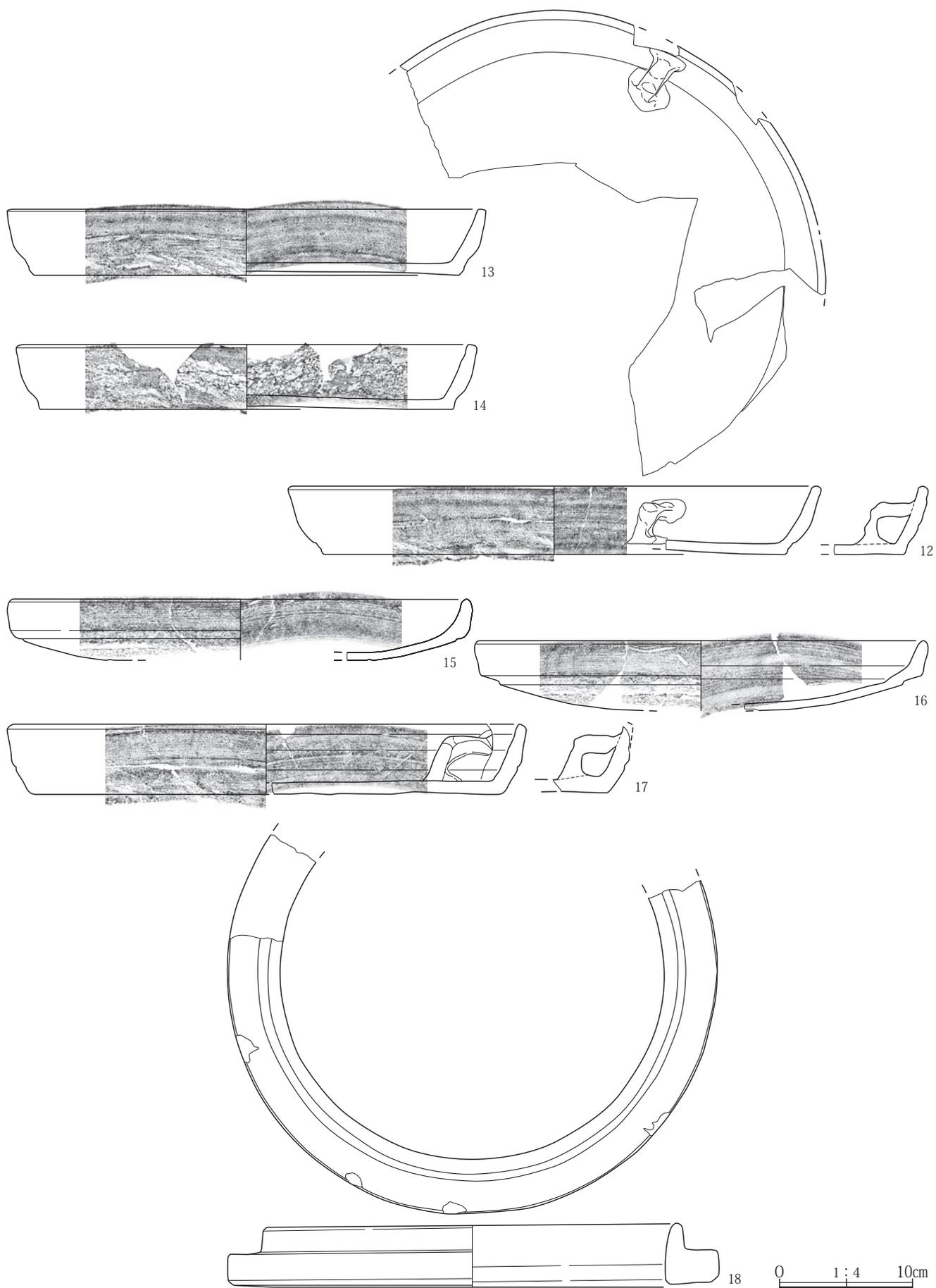


0 1:40 1m

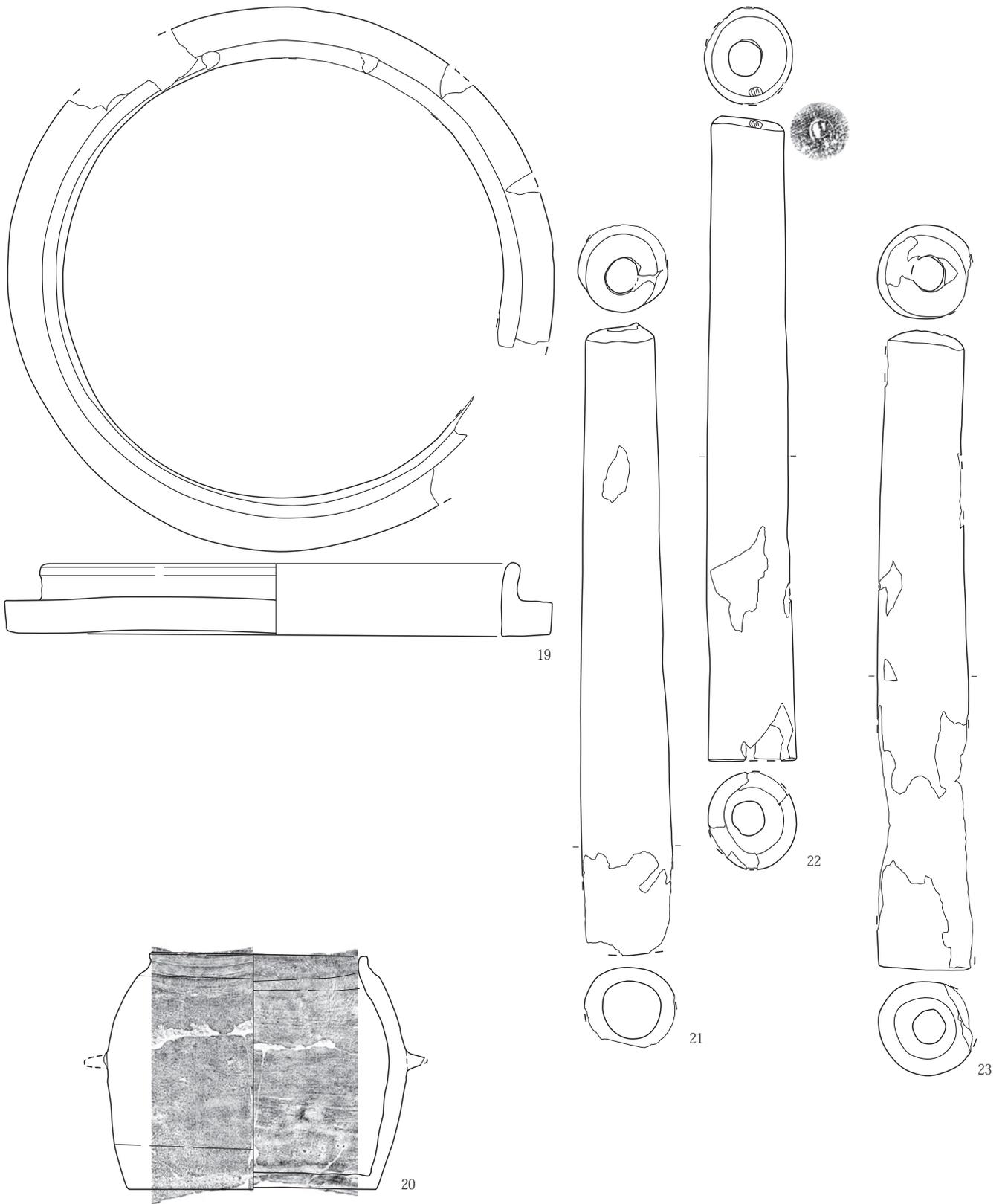
第155図 3区60号土坑平断面、遺物出土状況



第156図 3区60号土坑出土遺物(1)

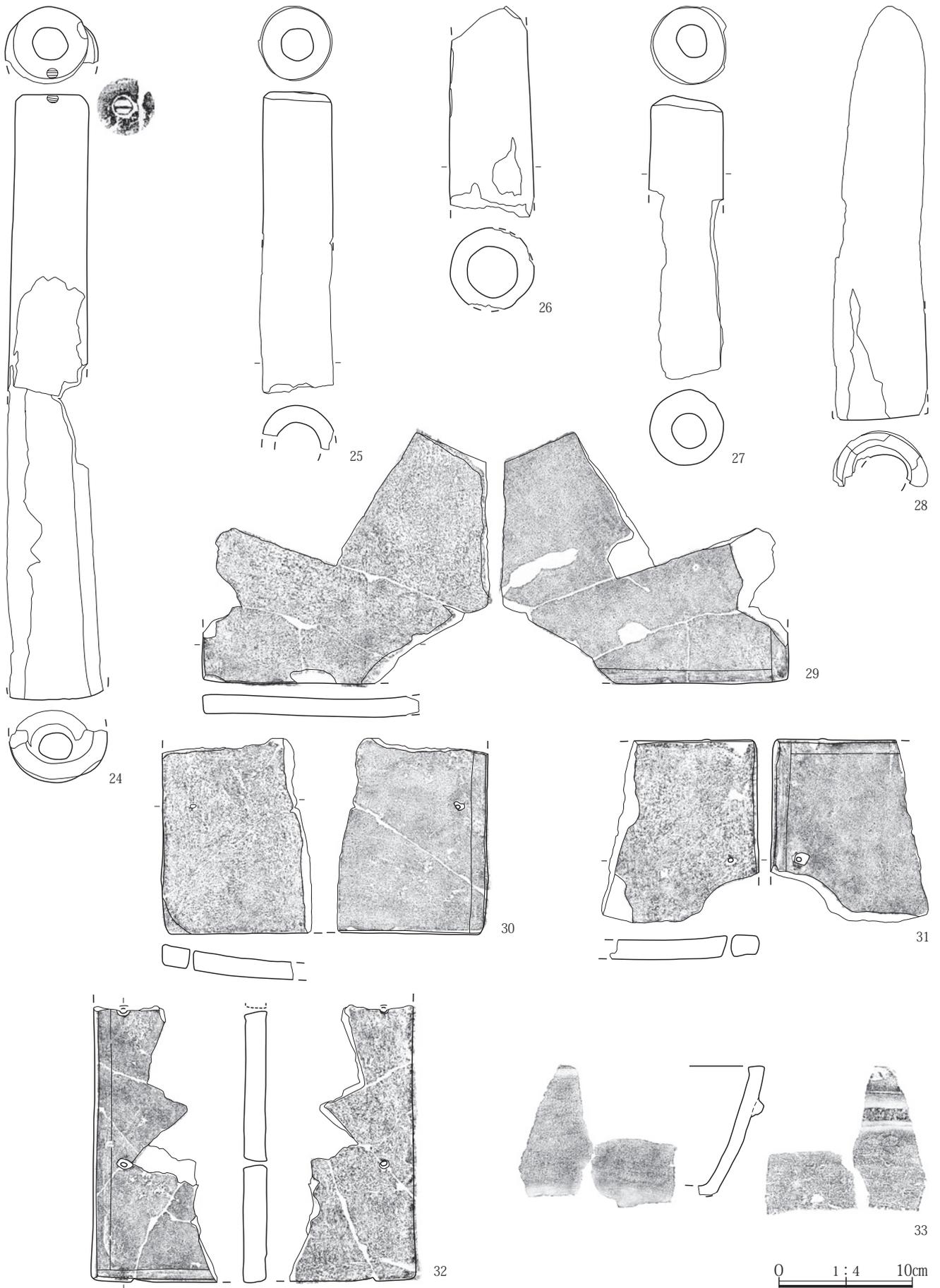


第157図 3区60号土坑出土遺物(2)

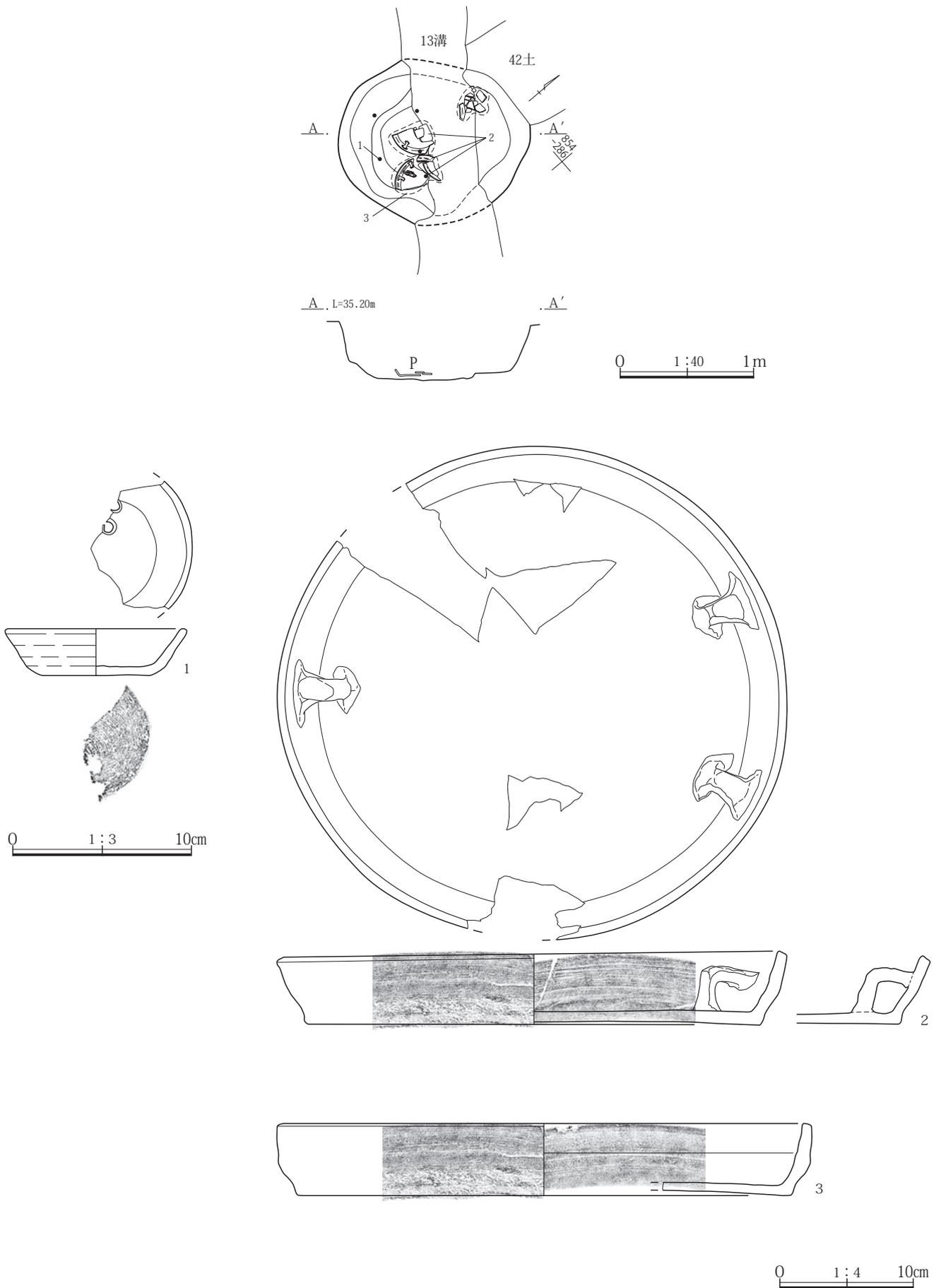


0 1:4 10cm

第158図 3区60号土坑出土遺物(3)



第159図 3区60号土坑出土遺物(4)



第160図 3区61号土坑平面、出土遺物

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 なし。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。2基重複の可能性がある。

4区2号土坑(第161図、P L.71)

位置 X=29843~844、Y=-40201~202。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-13°-E。

規模 長軸1.20m、短軸1.12m、深さ0.06m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

4区4号土坑(第161図、P L.71)

位置 X=29832~834、Y=-40178~179。

重複 4区39号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸(2.22)m、短軸0.70m、深さ0.16m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片347g、近現代陶磁器片3g、時期不明土器片18gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区5号土坑(第162図、P L.72)

位置 X=29843~845、Y=-40194~196。

重複 なし。

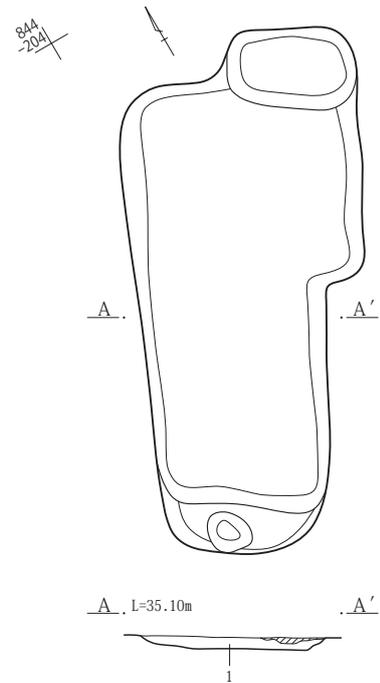
平面形状 長方形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸2.27m、短軸1.18m、深さ0.12m。

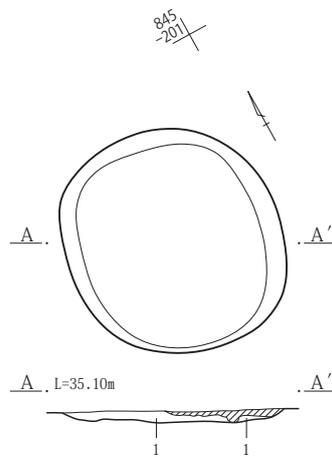
埋没土層 黒色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

4区1号土坑



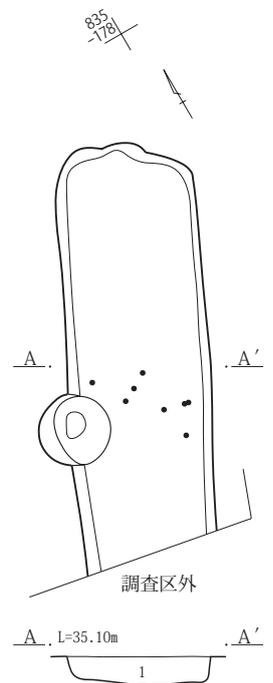
4区1号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

4区2号土坑

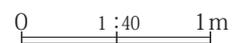


4区2号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

4区4号土坑



4区4号土坑
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒少混。



第161図 4区1・2・4号土坑平面図

遺物 土師器片82g、埴輪片21gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。土師器、埴輪は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区6号土坑(第162図、P L .72)

位置 X=29854~857、Y=-40193~195。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-63°-W。

規模 長軸2.80m、短軸0.98m、深さ0.36m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片59gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区7号土坑(第162図、P L .72・105)

位置 X=29857~858、Y=-40204~206。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸1.40m、短軸0.88m、深さ0.24m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 鉄製品1点(1)を図示した。土師器片33g、須恵器片12gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区8号土坑(第162図、P L .72)

位置 X=29851~852、Y=-40208~209。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-41°-E。

規模 長軸1.67m、短軸0.74m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊

が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片114gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区10号土坑(第162図、P L .72)

位置 X=29834、Y=-40188~190。

重複 なし。

平面形状 南側大半が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-80°-W。南側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(1.33)m、短軸(0.42)m、深さ0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区11号土坑(第162図、P L .72)

位置 X=29845~847、Y=-40200~203。

重複 4区23号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-33°-E。

規模 長軸3.12m、短軸0.90m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片49g、灰釉陶器片14g、時期不明土器片28g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区13号土坑(第163図、P L .72)

位置 X=29852~853、Y=-40211~212。

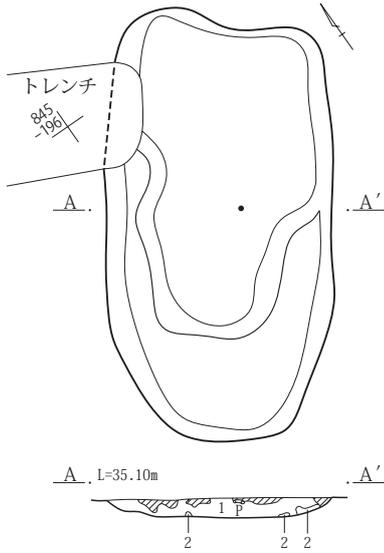
重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

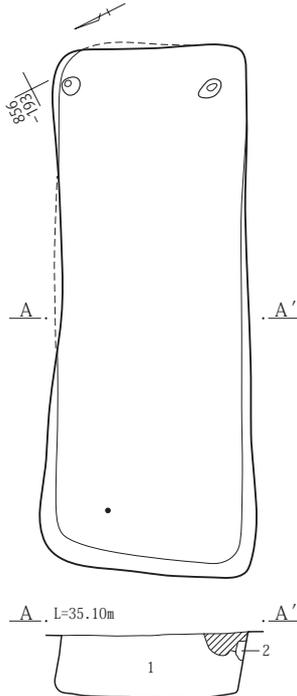
規模 径1.05m、深さ0.07m。

4区5号土坑



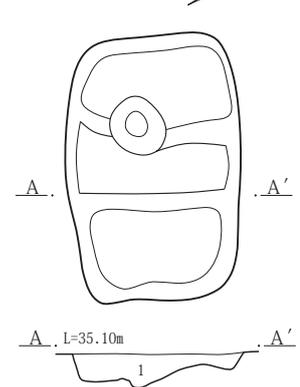
- 4区5号土坑
 1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. ローム塊。

4区6号土坑



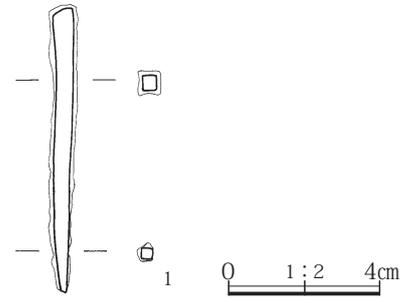
- 4区6号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) φ 1~20mmローム粒・塊30% 下位ほど多く大粒。
 2. ローム塊。

4区7号土坑

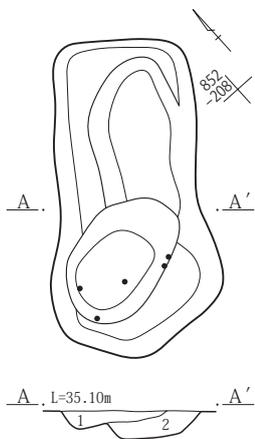


- 4区7号土坑
 1. 暗褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1~10mmローム粒30%。

7号土坑出土遺物

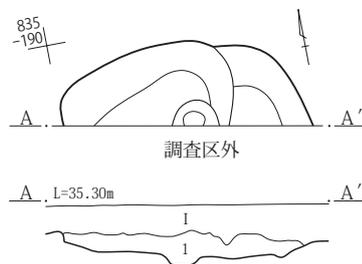


4区8号土坑



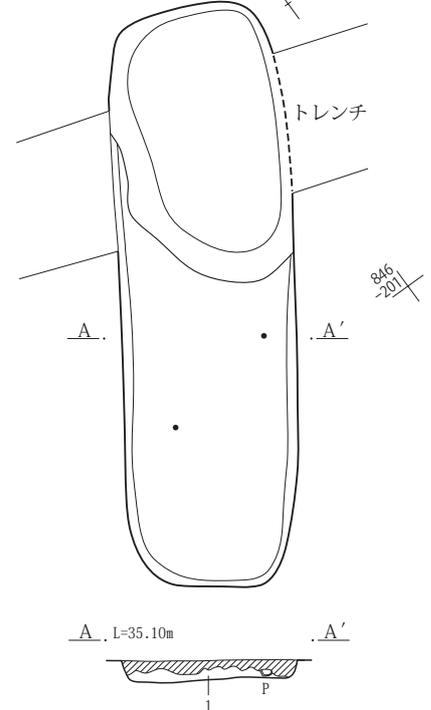
- 4区8号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~3cm ローム塊10%。

4区10号土坑

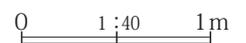


- 4区10号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ 1~15mmローム粒・塊混入。

4区11号土坑



- 4区11号土坑
 1. 黒褐色土(10YR2/1) 細粒 均質 φ 1~15mmローム粒10%。



第162図 4区5~8・10・11号土坑平断面、7号土坑出土遺物

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、時期を判別できなかった。

4区14号土坑(第163図、P L .73)

位置 X=29853~854、Y=-40202~203。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-80°-W。

規模 長軸1.18m、短軸0.90m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片11g、灰釉陶器片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、灰釉陶器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区15号土坑(第163図、P L .73・105)

位置 X=29857~858、Y=-40174~175。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸0.82m、短軸0.70m、深さ0.53m。

埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器埴1点(1)を図示した。埴(1)は4区3号井戸出土土器片と接合した。他に、土師器片479g、時期不明土器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は5世紀代と推定される。

4区18号土坑(第163図、P L .73)

位置 X=29834~836、Y=-40182~183。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-12°-W。

規模 長軸1.98m、短軸0.50m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片5g、須恵器片14gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。複数基重複の可能性はある。

4区20号土坑(第163図)

位置 X=29853、Y=-40172~173。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-12°-E。

規模 長軸0.90m、短軸0.44m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区21号土坑(第163図、P L .73)

位置 X=29852~854、Y=-40173~175。

重複 4区6号溝、61号ピットと重複。6号溝より本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-78°-E。

規模 長軸1.98m、短軸1.42m、深さ0.81m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片679gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。土師器台付甕1点(外24)を、遺構外出土として第3章第9節に掲げた。

所見 4区6号溝との重複関係から、本遺構の時期は中世以降と推定されるが、詳しくは判別できなかった。4区における奈良・平安時代以前の遺構も竪穴住居9軒・溝1条・井戸2基・土坑2基・ピット1基と少ないにもかかわらず、本遺構のように埋没土中から多くの土師器・須恵器・埴輪片が出土する中近世の溝・土坑等が存在することから、調査区周辺および溝の延長上に古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性がある。

4区22号土坑(第164図)

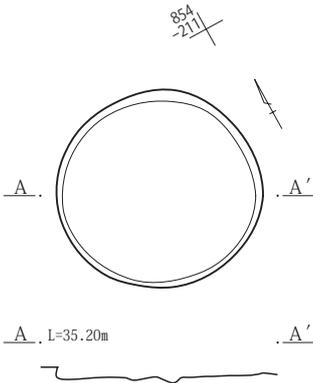
位置 X=29838~839、Y=-40191~194。

重複 4区1号溝、7号ピットと重複。本遺構が新しい。

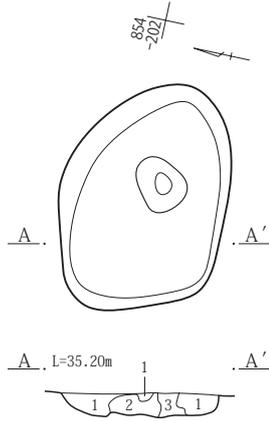
平面形状 長方形。

長軸方位 N-65°-W。

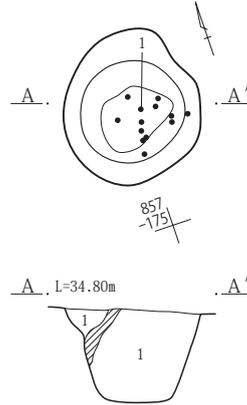
4区13号土坑



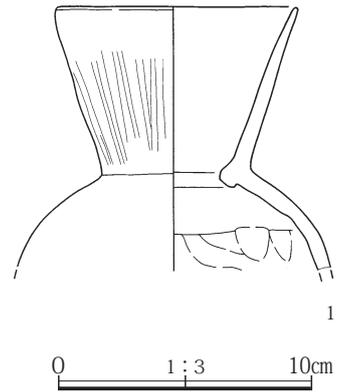
4区14号土坑



4区15号土坑



15号土坑出土遺物



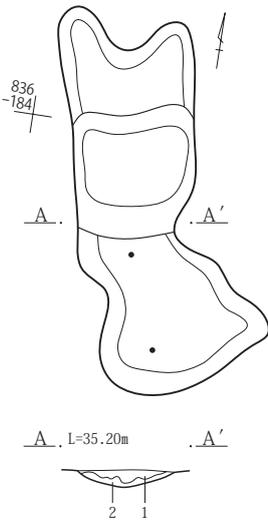
4区14号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~15mmローム粒・塊15%。
2. 黒褐色土(10YR2/2)と ϕ 1cmローム塊斑混。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~2mmローム粒10%。

4区15号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質。

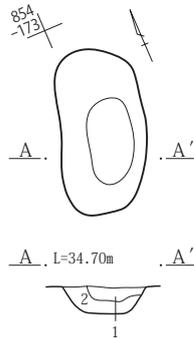
4区18号土坑



4区18号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 1層にローム粒10%斑混。

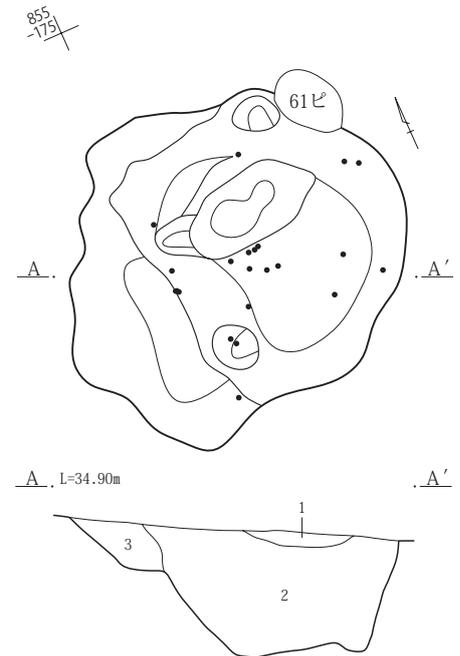
4区20号土坑



4区20号土坑

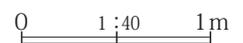
1. 黒褐色土(10YR3/2)。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 灰黄色土斑混。

4区21号土坑



4区21号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 軟。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 1層に比べ粘性あり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 ϕ 1mmローム粒混入。



第163図 4区13~15・18・20・21号土坑平面断面、15号土坑出土遺物

規模 長軸2.98m、短軸0.48m、深さ0.31m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片327g、須恵器片26g、時期不明土器片9gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 4区1号溝との重複関係および形状、埋没土から、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区23号土坑(第164図、P L .73)

位置 X=29838~840、Y=-40195~196。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸2.28m、短軸0.54m、深さ0.30m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片317g、須恵器片31gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区24号土坑(第164図、P L .73)

位置 X=29840~841、Y=-40193~195。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-66°-W。

規模 長軸1.56m、短軸0.72m、深さ0.09m。

埋没土層 灰黄褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区25号土坑(第164図、P L .73)

位置 X=29851~853、Y=-40214~215。

重複 4区3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸(1.37)m、短軸1.15m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 なし。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区26号土坑(第164図、P L .73)

位置 X=29858~859、Y=-40211~212。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸1.36m、短軸0.61m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区27号土坑(第164図、P L .74)

位置 X=29834~835、Y=-40178~179。

重複 4区39号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-66°-W。

規模 長軸1.60m、短軸0.32m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片46gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区28号土坑(第165図)

位置 X=29853~854、Y=-40171~172。

重複 4区4・5号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

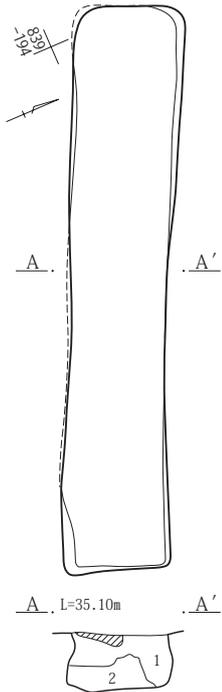
平面形状 東側が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-17°-E。

規模 長軸1.05m、短軸0.50m以上、深さ0.60m以上。

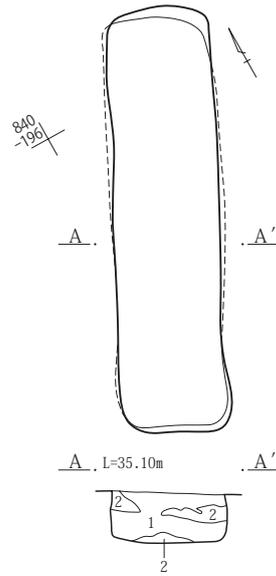
埋没土層 黒褐色土主体、6層が観察された。

4区22号土坑



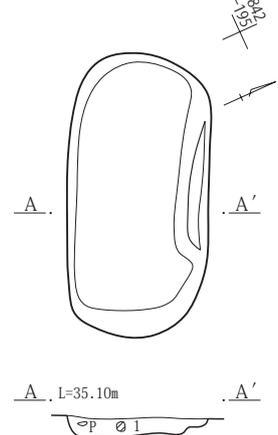
- 4区22号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~15mm
 ローム粒40%。
 2. 1層と同質 ϕ 1~25mm
 ローム粒・塊25%。

4区23号土坑



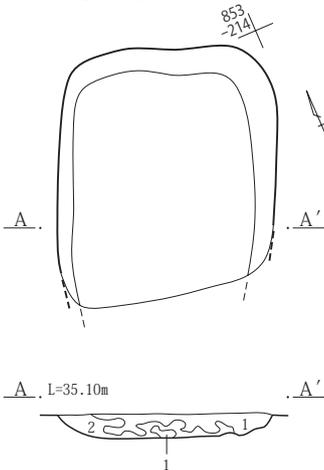
- 4区23号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質
 ϕ 1~10mmローム粒50%。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)。

4区24号土坑



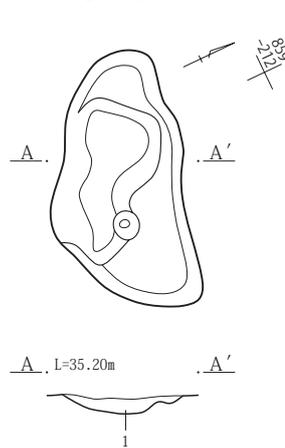
- 4区24号土坑
 1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色微砂・
 ローム塊混入。

4区25号土坑



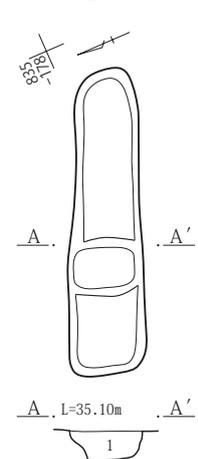
- 4区25号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2)と ϕ 1~2cm
 ローム塊の斑混土。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質
 ϕ 1~3mmローム粒多混。

4区26号土坑

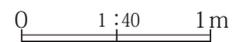


- 4区26号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密
 ϕ 1~15mmローム粒・塊斑混。

4区27号土坑



- 4区27号土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質
 ϕ 1~10mmローム粒15%。



第164図 4区22~27号土坑平面断面

遺物 土師器片105gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 4区5号竪穴住居との重複関係から、9世紀以降と推定されるが、出土遺物も小破片のみのため、詳しくは判別できなかった。

4区29号土坑(第165図、P L .74)

位置 X=29842~843、Y=-40231~232。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-44°-E。

規模 長軸0.96m、短軸0.80m、深さ0.40m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片333g、須恵器片9g、不明土器片2gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区30号土坑(第165図、P L .74・105)

位置 X=29841~842、Y=-40228~229。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸0.93m、短軸0.70m、深さ0.26m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。

遺物 白玉1点(1)を図示した。土師器片124g、須恵器片15gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 白玉(1)が出土しているが、他の出土遺物は小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区31号土坑(第165図、P L .74)

位置 X=29840~841、Y=-40227~228。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-24°-W。

規模 長軸0.63m、短軸0.44m、深さ0.25m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片46gが出土しているが、小破片のため図

示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。2基重複の可能性がある。

4区33号土坑(第165図、P L .74)

位置 X=29847~849、Y=-40233~235。

重複 4区6号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸2.77m、短軸1.00m、深さ0.11m。

埋没土層 不明。

遺物 土師器片293g、時期不明土器片33gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区35号土坑(第165図、P L .74)

位置 X=29844~845、Y=-40230~232。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-34°-E。

規模 長軸1.95m、短軸1.07m、深さ0.35m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、5層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片434gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区36号土坑(第166図)

位置 X=29845~846、Y=-40221~222。

重複 4区69号ピットと重複。

平面形状 長方形。

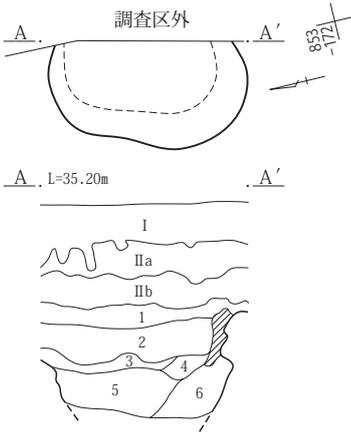
長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸2.33m、短軸1.16m、深さ0.08m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片72gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

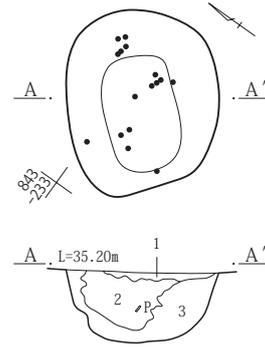
4区28号土坑



4区28号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~5mm
ローム粒3%。
2. 1層と同質 やや暗い。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 ϕ 1~2cm
ローム塊15%。
4. 3層と同質 ϕ 1~3mmローム粒10%。
5. 3層と同質 ϕ 1~2cmローム塊7%。
6. 黒褐色土(10YR2/1) 細粒 均質。

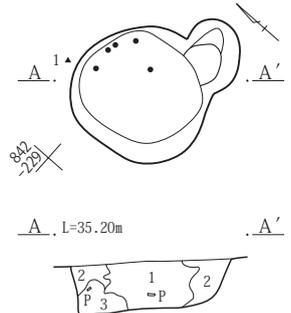
4区29号土坑



4区29号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密
 ϕ 1mmローム粒2% 炭化物混入。
3. 2層と同質 ϕ 1mmローム粒15%。

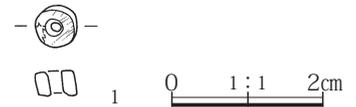
4区30号土坑



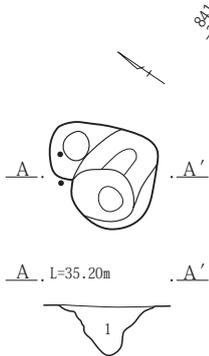
4区30号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密
 ϕ 1mm灰白色粒・ローム粒10% 焼土混入。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密
 ϕ 2~3cmローム塊混炭化物混入。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
ローム粒1%。

30号土坑出土遺物



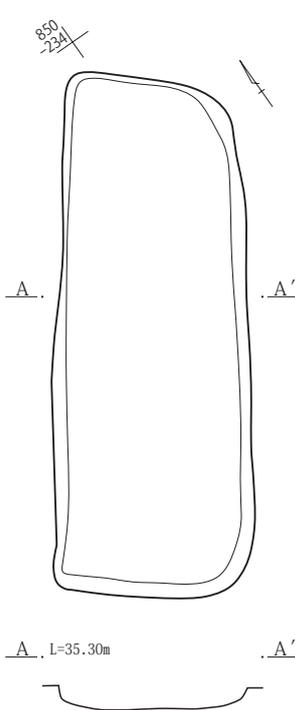
4区31号土坑



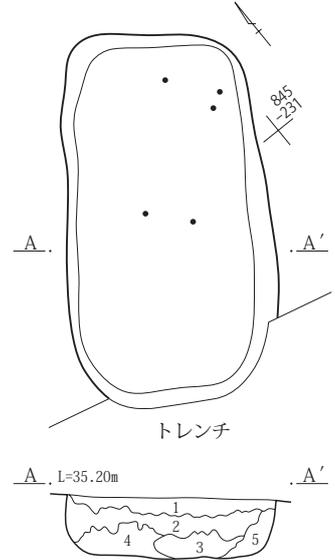
4区31号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
 ϕ 1~10mmローム粒10% 上位に焼土混入。

4区33号土坑

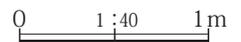


4区35号土坑



4区35号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
 ϕ 1mmローム粒混入。
2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒15%
焼土粒混入。
3. 2層と同質 2層よりローム粒多い。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密
下位に ϕ 1~3mmローム粒10%。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密
 ϕ 1~20mmローム粒10%。



第165図 4区28~31・33・35号土坑平面断面、30号土坑出土遺物

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区37号土坑(第166図)

位置 X=29841~842、Y=-40228~229。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径0.90m、深さ0.12m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片61gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物もなく、時期を判別できなかった。

4区38号土坑(第166図、P L .75)

位置 X=29848~849、Y=-40238~239。

重複 4区4号掘立柱建物と重複。

平面形状 南側大半が調査区外に延びる。推定楕円形。

長軸方位 N-70°-W。南側大半が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(0.63)m、短軸(0.30)m、深さ0.34m。

埋没土層 不明。

遺物 土師器片47gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

4区39号土坑(第166図、P L .75)

位置 X=29849~851、Y=-40237~238。

重複 なし。

平面形状 西側が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸1.56m、短軸(0.80)m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片8g、須恵器片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区40号土坑(第166図)

位置 X=29835~837、Y=-40205~208。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区外に延びる。不整形。

長軸方位 N-65°-E。南側が調査区外のため長軸は推定。

規模 長軸(3.00)m、短軸(0.66)m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片426g、須恵器片13gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

4区41号土坑(第166図、P L .75)

位置 X=29861~866、Y=-40239~242。

重複 4区78号ピットと重複。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-28°-E。

規模 長軸(4.97)m、短軸0.93m、深さ0.16m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器片388g、須恵器片43g、灰釉陶器片15g、近世国産施釉薬陶器片20gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、灰釉陶器は混入と考えられる。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区42号土坑(第166図、P L .75)

位置 X=29863~867、Y=-40240~243。

重複 4区78号ピットと重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-26°-E。

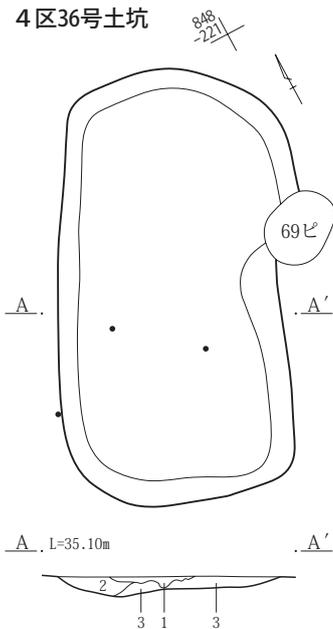
規模 長軸4.44m、短軸1.10m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片569g、須恵器片19gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イ

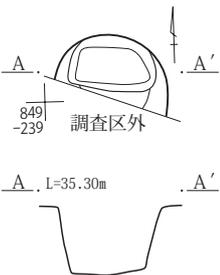
4区36号土坑



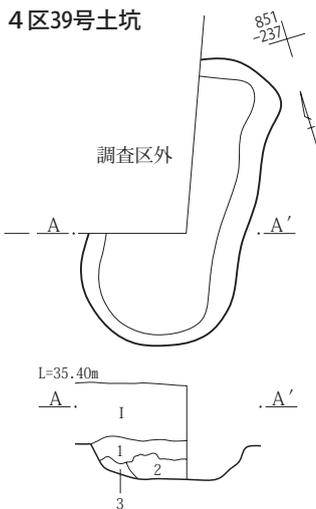
4区36号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密 壁際にローム塊。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mm ローム粒3%。

4区38号土坑



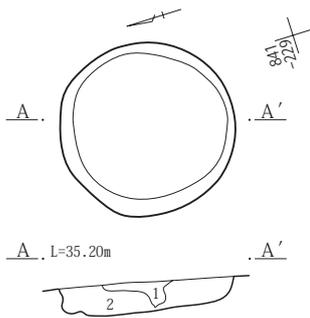
4区39号土坑



4区39号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 粘性あり ϕ 1mmローム粒1%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒・1cmのローム塊斑混。
3. ロームを主とする黒褐色土との混土。

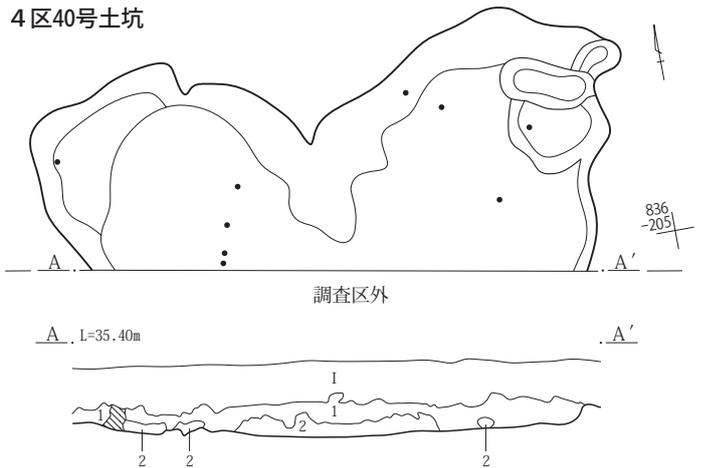
4区37号土坑



4区37号土坑

1. にぶい黄褐色土(10YR4/6) 細粒 均質 As-YP塊・ ϕ 1mm焼土粒2%。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/6)とローム塊の混土。

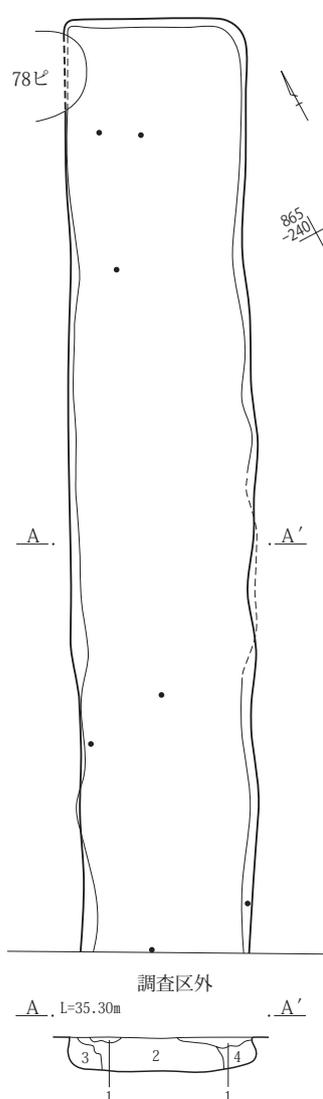
4区40号土坑



4区40号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒10%。
2. 1層と同質 ϕ 1~5mmローム粒20%。

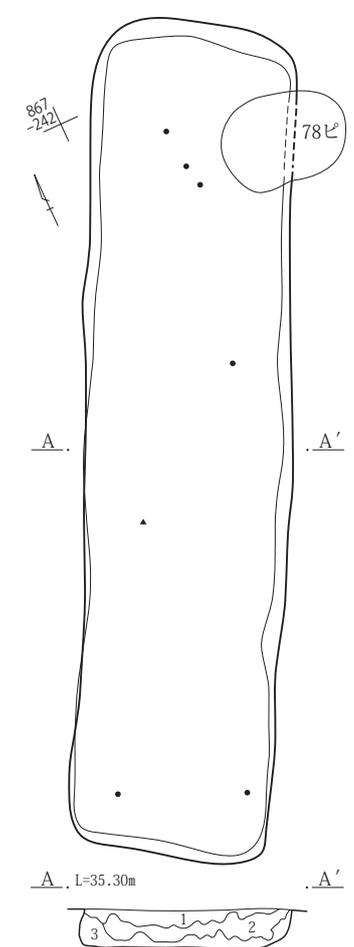
4区41号土坑



4区41号土坑

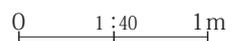
1. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~3mmローム粒3%。
2. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~5mmローム粒3%。
3. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~10mmローム粒20%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~10mmローム粒20%。

4区42号土坑



4区42号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~15mmローム粒・塊7%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~25mmローム粒・塊15%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~50mmローム粒・塊20%。



第166図 4区36~42号土坑平断面

モ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区43号土坑(第167図、P L .74)

位置 X=29864~866、Y=-40243~245。

重複 4区44号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側が4区44号土坑に掘削されている。推定長方形。

長軸方位 N-30°-E。

規模 長軸2.88m、短軸(0.66)m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片54gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区44号土坑(第167図、P L .74)

位置 X=29864~869、Y=-40242~246。

重複 4区43号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸5.63m、短軸0.80m、深さ0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、6層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片261g、須恵器片29g、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区45号土坑(第167図、P L .75)

位置 X=29868~872、Y=-40245~248。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-33°-E。

規模 長軸4.13m、短軸0.77m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片54g、近世国産施釉葉陶器片9g、時期不明土器片13gが出土しているが、小破片のため非掲載とした。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世のイモ穴と推定される。

4区46号土坑(第167図、P L .75)

位置 X=29865~871、Y=-40247~251。

重複 4区51号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定長方形。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸(5.50)m、短軸1.12m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片80g、時期不明土器片13gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区47号土坑(第167図、P L .75)

位置 X=29871~874、Y=-40255~257。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-32°-E。

規模 長軸3.34m、短軸0.85m、深さ0.17m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片40g、近現代陶磁器片3g、ガラス片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、出土遺物に近現代遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定され、最終的な埋没は近現代に下る可能性がある。

4区48号土坑(第168図)

位置 X=29872~873、Y=-40249~250。

重複 4区49号土坑と重複。本遺構が新しい。

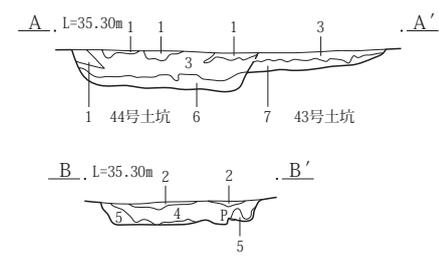
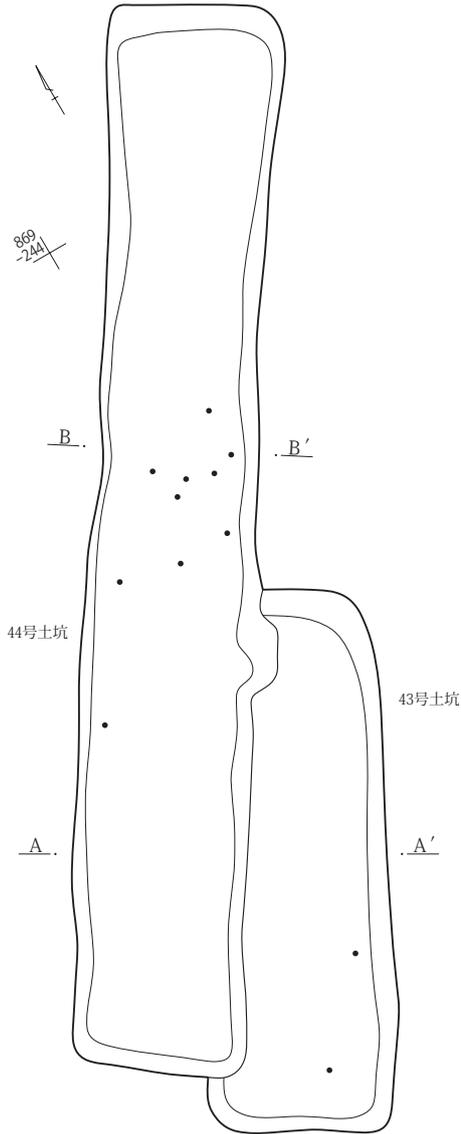
平面形状 北側が調査区外に延びる。長方形。

長軸方位 N-76°-W。

規模 長軸(0.97)m、短軸(0.60)m、深さ0.14m。

埋没土層 黒色土主体、2層が観察された。ローム塊が

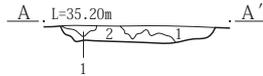
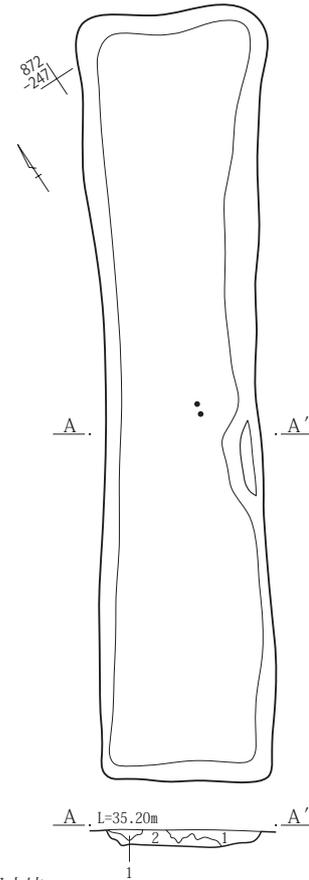
4区43・44号土坑



4区43・44号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~20mmローム粒・塊7%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~3mmローム粒7%。
3. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~10mmローム粒10%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~15mmローム粒・塊15%。
5. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~30mmローム粒・塊30%。
6. ローム塊を主体とする黒色土(10YR2/1)との混土。
7. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 2mm以上ローム粒・塊40%。

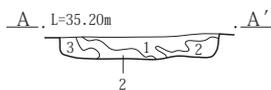
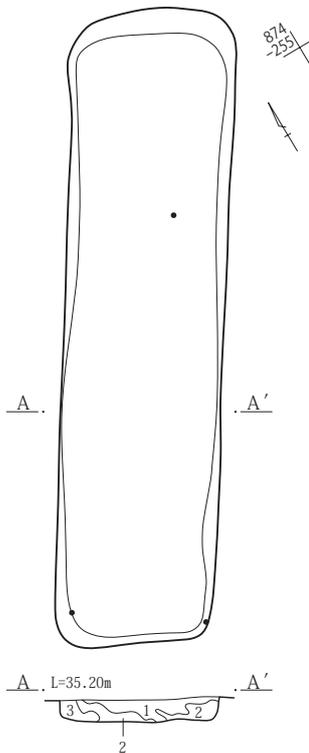
4区45号土坑



4区45号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~15mmローム粒・塊5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~10mmローム粒7%。

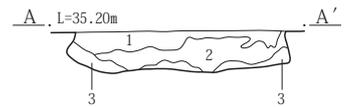
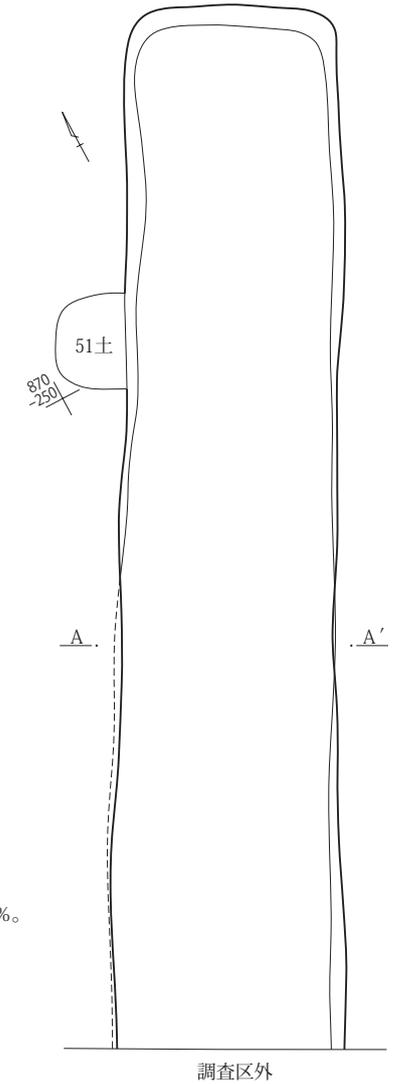
4区47号土坑



4区47号土坑

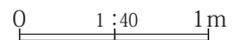
1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~8mmローム粒7%。
2. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~15mmローム粒・塊25%。
3. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~5mmローム粒10%。

4区46号土坑



4区46号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~5mmローム粒5%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~20mmローム粒・塊7%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~15mmローム粒・塊25%。



第167図 4区43~47号土坑平面図

目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片19g、須恵器片8gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区49号土坑(第168図、P L .75)

位置 X=29872~873、Y=-40249~250。

重複 4区48号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側を4区48号土坑に掘削される。長方形。

長軸方位 N-60°-W。

規模 長軸(0.93)m、短軸0.84m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片17gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

4区50号土坑(第168図)

位置 X=29870~871、Y=-40249~250。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸0.73m、短軸0.62m、深さ0.04m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 須恵器片6gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみのため、本遺構の時期は判別できなかった。

4区51号土坑(第168図)

位置 X=29869~870、Y=-40249。

重複 4区46号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-57°-E。

規模 長軸0.66m、短軸0.50m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片102g、近世国産施釉薬陶器片7g、時

期不明土器片28gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構の時期は近世と推定される。

4区52号土坑(第168図、P L .105)

位置 X=29869~870、Y=-40240。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-54°-W。

規模 長軸0.75m、短軸0.40m、深さ0.10m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、2層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 鉄製品1点(1)を図示した。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区53号土坑(第168図)

位置 X=29863~865、Y=-40227~228。

重複 4区79号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-16°-E。

規模 長軸1.19m、短軸1.06m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片148gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区54号土坑(第168図、P L .75)

位置 X=29866~870、Y=-40244~248。

重複 4区7号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定長方形。

長軸方位 N-30°-E。

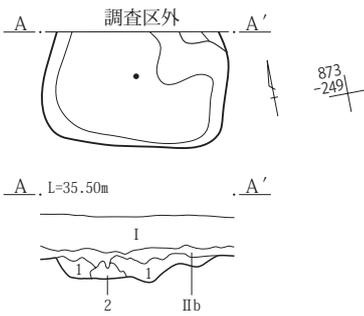
規模 長軸(4.39)m、短軸1.00m、深さ0.24m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 近世国産施釉薬陶器片10gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状および出土遺物に近世遺物の小破片を含むことから、本遺構は近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑。

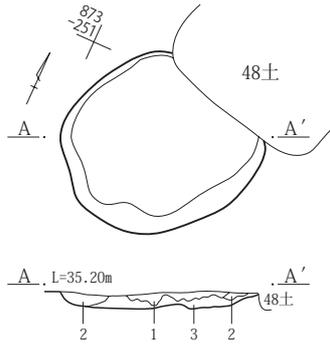
4区48号土坑



4区48号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) φ 1~15mm口-△粒・塊15%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) φ 3mm以上口-△粒・塊50%。

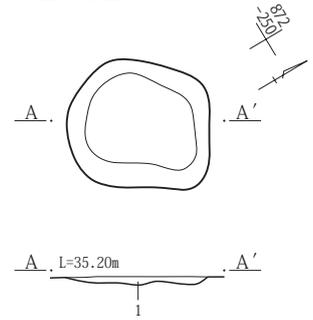
4区49号土坑



4区49号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~3mm口-△粒 10%。
2. 黒褐色土(10YR2/3) φ 1~10mm口-△ 20%。
3. 黒褐色土(10YR2/3) φ 5mm以上口-△粒・塊40%。

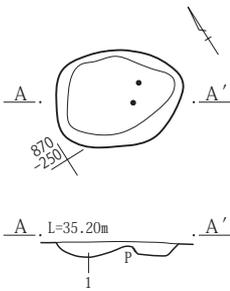
4区50号土坑



4区50号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土(10YR2/1) 20% 带状混 φ 3~15mm口-△粒 15%。

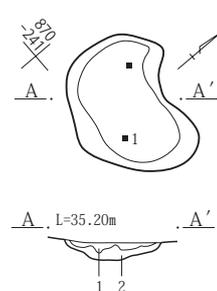
4区51号土坑



4区51号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~20mm口-△粒・塊 15% φ 5~30mm黒色土(10YR2/1)粒・塊 5%。

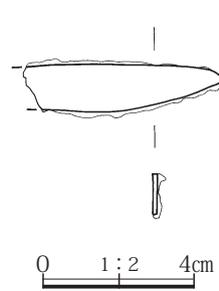
4区52号土坑



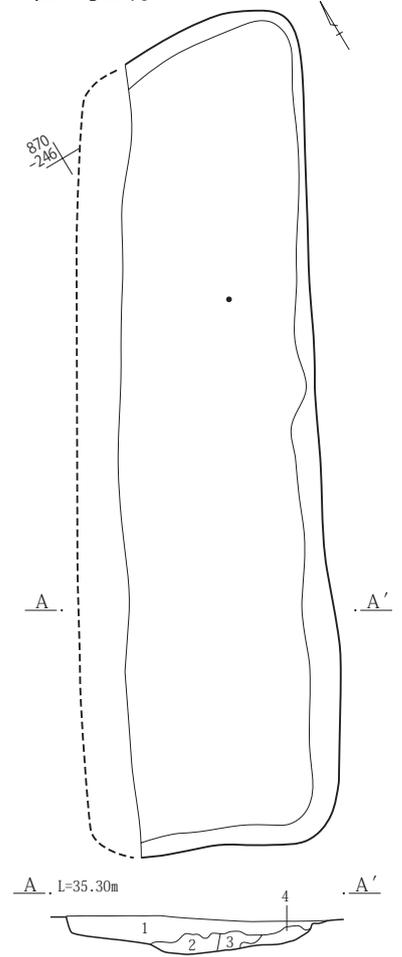
4区52号土坑

1. 黒色土(10YR2/1) φ 1~25mm口-△粒・塊10%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) φ 1~30mm口-△粒・塊40%。

52号土坑出土遺物



4区54号土坑



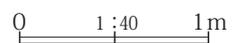
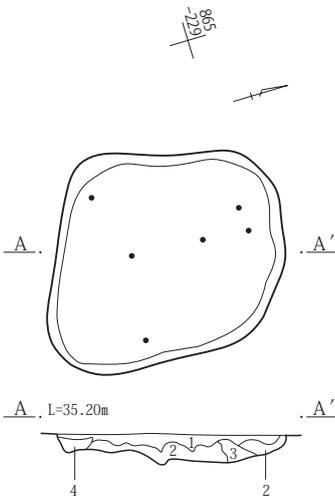
4区54号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/3) φ 1~5mm口-△粒 2% 炭化物粒少混。
2. 黒褐色土(10YR2/3) φ 2~5mm口-△粒 5% 黒色土(10YR1.7/1)塊混入。
3. 黒褐色土(10YR2/3) φ 2~8mm口-△粒15%。
4. 黒色土(10YR1.7/1) φ 2~5mm口-△粒15%。

4区53号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 黒色土塊(10YR2/1) 15% φ 1~5mm口-△粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) φ 2mm以上口-△粒・塊40%。
3. 2層と同質 口-△粒80%。
4. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~3mm口-△25%。

4区53号土坑



第168図 4区48~54号土坑平断面、52号土坑出土遺物

4区55号土坑(第169図)

位置 X=29838~839、Y=-40211~212。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-67°-W。

規模 長軸0.77m、短軸0.54m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

4区56号土坑(第169図、P L .76)

位置 X=29863~864、Y=-40237~238。

重複 4区10号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径1.20m、深さ0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片201g、須恵器片26g、凹石1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器、須恵器、凹石は混入と考えられる。

所見 埋没土から、本遺構の時期は中近世と推定される。

4区57号土坑(第169図、P L .76・105)

位置 X=29860~861、Y=-40239~240。

重複 4区5・10号溝と重複。本遺構が5号溝より新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-43°-E。

規模 長軸1.30m、短軸1.00m、深さ0.28m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土錘1点(1)を図示した。他に、土師器片140g、須恵器片6g、時期不明土器片7gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 4区5号溝との重複関係から、本遺構の時期は5世紀前半以降と推定されるが、出土遺物も土錘(1)の他は小破片のみであり、詳しくは判別できなかった。

5区1号土坑(第169図、P L .76)

位置 X=29833~834、Y=-40169~170。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-78°-E。

規模 長軸1.00m、短軸0.64m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 土師器片116gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

5区2号土坑(第169図)

位置 X=29831~832、Y=-40167~169。

重複 なし。

平面形状 北東側が攪乱されている。推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-65°-E。

規模 長軸(1.53)m、短軸0.56m、深さ0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。ローム塊が目立ち人為的埋没と推定される。

遺物 土師器片68gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状および埋没土から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

5区3号土坑(第170図)

位置 X=29830~831、Y=-40167~168。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定方形または長方形。

長軸方位 N-50°-W。

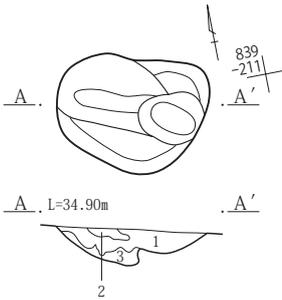
規模 長軸(0.80)m、短軸(0.50)m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が観察された。

遺物 土師器片1,445gが出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は判別できなかった。

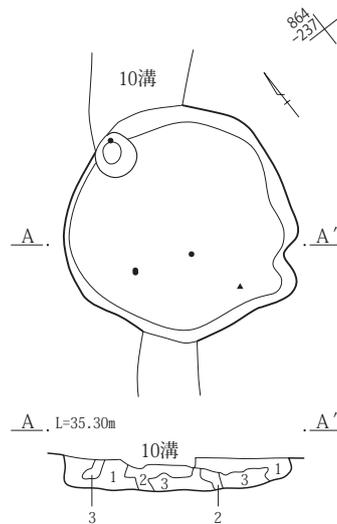
4区55号土坑



4区55号土坑

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 3%。
2. ローム塊。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3)と黒褐色土(10YR2/2)の混土。

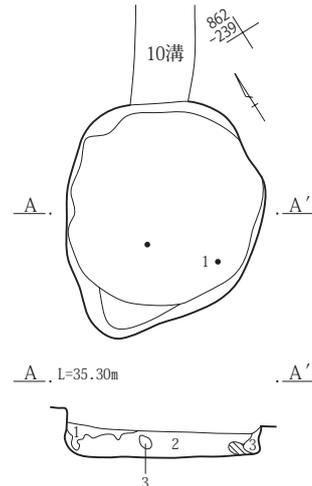
4区56号土坑



4区56号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム粒15%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 3%。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒 3%。

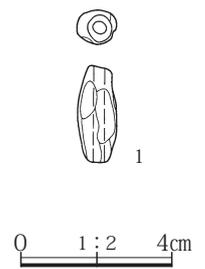
4区57号土坑



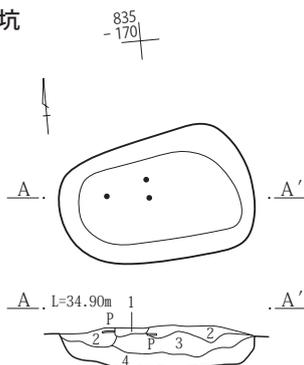
4区57号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒15%。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
3. 2層と同質 ϕ 1mmローム粒 5%。

57号土坑出土遺物



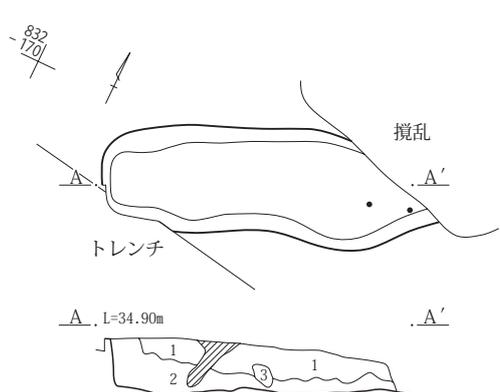
5区1号土坑



5区1号土坑

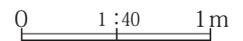
1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1mmローム粒 3%。
2. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~5mmローム粒10%。
3. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~15mmローム粒20%。
4. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1mm以上ローム粒・塊50%。

5区2号土坑



5区2号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~10mmローム粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~15mmローム粒・塊 7%。
3. ローム塊。



第169図 4区55~57号土坑平衡面、57号土坑出土遺物、5区1・2号土坑平衡面

5区4号土坑(第170図、P L.76)

位置 X=29835~836、Y=-40163~164。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-20°-W。

規模 長軸1.00m、短軸0.60m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が観察された。

遺物 土師器片55gが出土しているが、小破片のため図

示できなかった。土師器は混入と考えられる。

所見 形状から、本遺構は中近世の俗称「イモ穴」、耕作物貯蔵用土坑と推定される。

5区5号土坑(第170図)

位置 X=29830~831、Y=-40165~166。

重複 5区6号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 南側が調査区外のため詳細不明。推定不整形。

長軸方位 N-65°-E。

規模 長軸(0.80)m、短軸(0.44)m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

5区6号土坑(第170図、P L.76)

位置 X=29830~831、Y=-40165~167。

重複 5区5号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 南側が調査区外に延びる。推定不整形。

長軸方位 N-56°-W。

規模 長軸(1.30)m、短軸(0.64)m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

5区7号土坑(第170図、P L.76)

位置 X=29833~834、Y=-40162。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-55°-W。

規模 長軸1.08m、短軸0.97m、深さ0.17m。

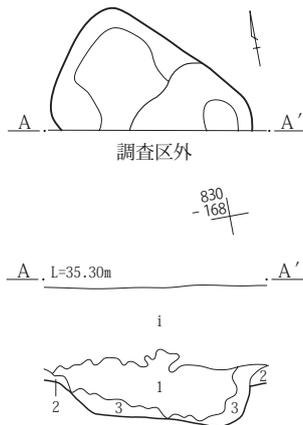
埋没土層 黒色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は判別できなかった。

ピットについては、調査区ごとに一覧表(第7~9表)にまとめた。出土遺物が少なく、時期を特定できなかったものが多い。

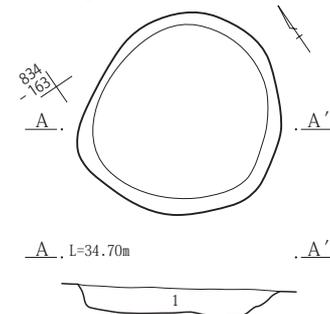
5区3号土坑



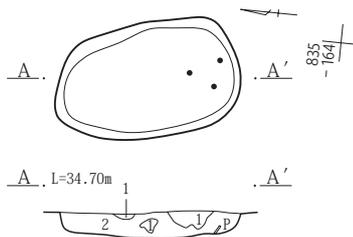
5区3号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 微砂混入。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊50%。
3. 黒褐色土(10YR3/2) φ 2~15mmローム粒・塊 25%。

5区7号土坑



5区4号土坑



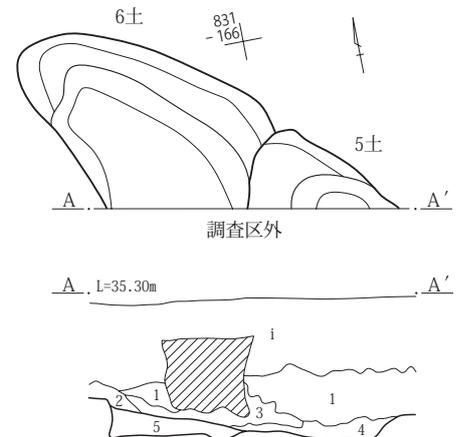
5区4号土坑

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) φ 5~30mmローム粒・塊 25%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 均質 密。

5区7号土坑

1. 黒色土(7.5YR2/1) 細粒 均質 密。

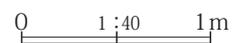
5区5・6号土坑



5区5・6号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 微砂混入。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊50%。
3. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~10mmローム粒25%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) φ 2mm以上ローム粒・塊30%。
5. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 軟弱。

第170図 5区3~7号土坑平面図



第3章 確認された遺構と遺物

第7表 ピット一覧表(1)

挿図	写真図版	区	号	X=29…	Y=-40…	形状	長軸	短軸	深さ	時期	備考
第171図	P L .76	1	2	955	963	長方形	0.55	0.50	0.64	中近世。	1 柵より新しい。
第171図	P L .76	1	5	958	968-969	楕円形	0.38	0.24	0.16	時期不明。	
第171図	P L .77	1	8	962-963	972	楕円形	0.44	0.32	0.17	時期不明。	
第171図	P L .77	1	9	964	968-969	楕円形	0.40	0.30	0.30	時期不明。	
第171図	P L .77	1	10	964	968	楕円形	0.30	0.24	0.21	時期不明。	土師器片 6 g (非掲載)。
第171図		1	11	964-965	967	方形	一辺0.39		0.22	中近世。	
第171図		1	12	965-966	968-969	楕円形	0.40	0.30	0.19	時期不明。	
第171図	P L .77	1	13	965	970	円形	径0.22		0.16	時期不明。	
第171図	P L .77	1	14	965	970	楕円形	0.26	0.20	0.26	時期不明。	
第171図	P L .77	1	15	968	961-962	楕円形	0.38	0.32	0.10	6 世紀以降。	1 周より新しい。
第171図	P L .77	1	16	968	960	楕円形	0.40	0.34	0.25	6 世紀以降。	1 周より新しい。
第171図	P L .77・105	1	17	955	957	楕円形	0.30	0.26	0.28	9 世紀。	土師器杯 1 点。他に、土師器片 25 g。
第171図	P L .77	1	18	953-954	956-957	長方形	0.35	0.28	0.35	中近世。	3 掘より新しい。土師器片 8 g。
第171図	P L .77	1	19	953	956	円形	径0.28		0.20	時期不明。	
第172図	P L .77	1	20	953-954	957	方形	一辺0.26		0.28	中近世。	
第172図		1	21	954-955	953	不整形	0.64	0.25	0.31	9 世紀以前。	3 掘、1 溝より古い。
第172図		1	22	955-956	953-954	楕円形	0.34	0.30	0.19	9 世紀以前。	3 掘、1 溝より古い。
第172図	P L .77	1	23	957	954	楕円形	0.30	0.27	0.19	9 世紀以前。	4 住より古い。3 掘とも重複。
第172図		1	24	963	953	楕円形	0.30	0.27	0.15	6 世紀以降。	1 周より新しい。土師器片 6 g。
第172図	P L .77	1	25	963	951	方形	一辺0.46		0.18	中近世。	1 周より新しい。土師器片 40 g。
第172図	P L .77	1	26	967-968	945	長方形	0.54	0.43	0.28	中近世。	1 周より新しい。
第172図	P L .77	1	27	967	938	楕円形	0.46	0.42	0.15	4 世紀以降。	2 周より新しい。
第172図		1	28	964	935	楕円形	0.30	0.22	0.28	6 世紀以降。	13 溝より古く、2 周より新しい。
第172図	P L .78	1	30	963	967	楕円形	0.26	0.36	0.23	時期不明。	
第172図	P L .78	1	31	959	976	楕円形	0.40	0.30	0.33	9 世紀以前。	4 溝より古い。土師器片 11 g。
第172図		1	33	963	967-968	楕円形	0.52	0.34	0.33	時期不明。	土師器片 7 g。
第173図		1	34	947	970-971	長方形	0.58	0.30	0.10	中近世。	
第173図	P L .78	1	35	959-960	963	楕円形	0.30	0.26	0.21	時期不明。	土師器片 8 g。
第173図	P L .78	1	36	953-954	966	長方形	0.29	0.26	0.24	中近世。	1 掘より新しい。土師器片 6 g。
第173図	P L .78	1	37	953	966	楕円形	0.35	0.24	0.27	時期不明。	1 掘と重複。
第173図	P L .78	1	38	952	966	円形	径0.25		0.32	時期不明。	1 掘と重複。
第173図	P L .78	1	39	950-951	966	楕円形	0.28	0.20	0.24	時期不明。	1 掘と重複。
第173図	P L .78	1	40	949	966	楕円形	0.26	0.22	0.24	時期不明。	1 掘と重複。
第173図	P L .78	1	41	949	966	楕円形	0.24	0.20	0.34	時期不明。	
第173図	P L .78	1	43	956	960	楕円形	0.30	0.20	0.11	時期不明。	
第173図		1	44	954	958-959	不整形	0.48	0.20	0.20	時期不明。	土師器片 3 g。
第173図	P L .78	1	45	955	957	円形	径0.23		0.09	時期不明。	3 掘と重複。
第173図		1	46	954	954	不整形	0.40	0.22	0.12	時期不明。	3 掘と重複。
第173図	P L .78	1	47	953	958	楕円形	0.28	0.20	0.28	中近世以前。	1 土より古い。
第173図	P L .78	1	48	948-949	967	楕円形	0.26	0.22	0.18	時期不明。	1 掘と重複。
第173図	P L .78	1	49	960	954	楕円形	0.35	0.26	0.54	9 世紀以前。	1 溝より古い。
第174図		1	50	958	955	楕円形	0.20	0.17	0.21	9 世紀以前。	4 住より古い。3 掘とも重複。
第174図		1	51	947-948	970-971	円形	径0.22		0.09	時期不明。	
第174図		1	53	952	955	楕円形	0.23	0.14	0.34	時期不明。	3 住と重複。
第174図		1	54	952-953	955	楕円形	0.28	0.24	0.26	時期不明。	3 住と重複。
第174図		1	55	958	956	円形	径0.18		0.30	9 世紀以前。	4 住より古い。3 掘とも重複。
第174図		1	56	953	958	楕円形	0.27	0.22	0.13	時期不明。	1 土より古い。
第174図		1	57	962	957	楕円形	0.38	0.35	0.20	9 世紀以前。	4 掘より古い。
第174図		1	58	962	954	長方形	0.25	0.21	0.29	中近世。	1 周より新しい。
第174図		1	60	945-946	949-950	不整形	0.30	0.28	0.17	時期不明。	
第174図		1	61	946	949-950	不整形	0.50	0.20	0.22	時期不明。	
第174図		1	62	951-952	939	楕円形	0.33	0.30	0.25	時期不明。	8 掘と重複。
第174図		1	63	949	933-934	不整形	0.40	0.32	0.27	時期不明。	9 掘と重複。
第174図		1	64	949	932	楕円形	0.40	0.34	0.46	時期不明。	9 掘と重複。
第174図		1	65	951	937	楕円形	0.47	0.35	0.24	時期不明。	
第175図		1	66	952-953	931-932	楕円形	0.37	0.28	0.27	時期不明。	
第175図		1	67	957	927	楕円形	0.30	0.26	0.25	時期不明。	
第175図		1	68	955	931	不整形	0.50	0.22	0.37	4 世紀以降。	2 周より新しい。
第175図		1	69	948-949	925-926	楕円形	0.30	0.22	0.15	4 世紀以降。	4 周より新しい。
第175図		1	70	947	925	楕円形	0.52	0.32	0.18	4 世紀以降。	4 周より新しい。
第175図		1	71	946-947	925-926	楕円形	0.73	0.30	0.12	4 世紀以降。	4 周より新しい。
第175図		1	72	945	930	楕円形	0.45	0.42	0.31	4 世紀以降。	4 周より新しい。
第175図		1	73	944-945	942	楕円形	0.27	0.24	0.35	時期不明。	土師器片 42 g。

第8表 ピット一覧表(2)

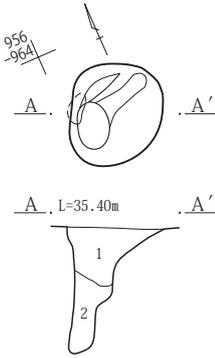
挿図	写真図版	区	号	X=29…	Y=-40…	形状	長軸	短軸	深さ	時期	備考
第175図	P L .78	2	1	890-891	348-349	楕円形	0.48	0.31	0.54	時期不明。	
第175図	P L .79	2	2	884-885	347-348	楕円形	0.55	0.42	0.27	中近世以前。	2溝より古い。
第175図		2	3	889-890	384-385	楕円形	0.50	0.40	0.31	時期不明。	
第175図	P L .79	2	4	899-900	428-430	楕円形	0.85	0.46	0.53	中近世。	10溝より新しい。
第175図	P L .79	2	5	880-881	414-415	楕円形	0.52	0.49	0.19	時期不明。	
第176図	P L .79	2	6	880-881	414-415	円形	径0.27		0.15	中近世以前。	20溝より古い。須恵器片17g。
第176図	P L .79	2	7	890-891	410-411	不整形	0.42	0.31	0.15	時期不明。	104土と重複。
第176図	P L .79	2	8	892-893	412-413	不整形	0.49	0.47	0.31	時期不明。	
第176図	P L .79	2	9	893-894	412-413	楕円形	0.38	0.36	0.18	時期不明。	
第176図	P L .79	2	10	890-891	394-395	楕円形	0.58	0.52	0.07	時期不明。	
第176図		3	4	854-855	246-247	楕円形	0.55	0.45	0.41	5世紀以降。	5溝より新しい。土師器片9g。
第176図		3	5	854-855	244-246	楕円形	0.50	0.49	0.57	5世紀以降。	5溝より新しい。土師器片116g、須恵器片5g。
第176図		3	6	852-853	246-247	楕円形	0.52	0.47	0.84	5世紀以降。	5溝より新しい。
第176図		3	7	851-852	261-262	楕円形	0.49	0.44	0.42	6世紀以降。	2掘より新しい。
第176図		3	11	856-857	267-268	円形	径0.36		0.52	時期不明。	土師器片5g。
第176図		3	12	858-859	268-269	楕円形	0.40	0.31	0.36	時期不明。	
第176図		3	13	854-855	268-269	不整形	0.60	0.52	0.42	時期不明。	
第176図		3	14	858-859	269-270	楕円形	0.36	0.29	0.37	時期不明。	土師器片3g。
第176図		3	15	859-861	270-271	不整形	0.62	0.39	0.34	時期不明。	土師器片263g。
第177図		3	16	855-856	266-267	方形	一辺0.26		0.43	中近世。	土師器片5g。
第177図		3	17	852-853	247-248	楕円形	0.71	0.54	0.62	5世紀以降。	5溝より新しい。土師器片77g。
第177図		3	18	861-862	262-263	楕円形	0.50	0.48	0.57	時期不明。	土師器片85g。
第177図		3	19	866-867	262-263	楕円形	0.47	0.46	0.06	中近世以前。	1溝より古い。
第177図		3	20	854-855	244-245	楕円形	0.28	0.22	0.13	5世紀以降。	5溝より新しい。
第177図		3	21	853-854	245-246	楕円形	0.33	0.30	0.29	5世紀以降。	5溝より新しい。土師器片38g。
第177図		3	22	850-851	245-246	円形	径0.31		0.34	5世紀以降。	3溝より古く、5溝より新しい。土師器片20g。
第177図		3	23	864-865	260-261	楕円形	0.32	0.30	0.14	中近世以前。	1溝より古い。
第177図	P L .79	3	24	867-868	321-322	長方形	0.43	0.35	0.09	中近世。	
第177図	P L .79	3	25	864-865	321-322	楕円形	0.31	0.30	0.18	時期不明。	
第177図		3	26	865-866	324-325	不整形	0.54	0.45	0.53	時期不明。	土師器片47g。
第177図	P L .79	3	27	856-857	307-308	楕円形	0.41	0.40	0.31	時期不明。	
第177図		3	28	857-858	305-306	楕円形	0.54	0.44	0.78	時期不明。	
第177図		3	29	858-859	311-312	楕円形	0.62	0.57	0.35	時期不明。	
第177図	P L .79	3	30	857-858	307-308	不整形	0.33	0.31	0.15	時期不明。	
第178図	P L .79	3	31	859-860	314-316	楕円形	0.54	0.45	0.25	時期不明。	
第178図	P L .79	3	32	857-858	307-308	不整形	0.35	0.32	0.21	時期不明。	
第178図	P L .79	3	33	861-862	316-317	不整形	0.55	0.46	0.24	時期不明。	15溝と重複。
第178図	P L .79	3	34	862-863	316-317	楕円形	0.37	0.35	0.24	時期不明。	
第178図		3	35	862-863	317-318	不整形	0.37	0.30	0.32	時期不明。	
第178図		3	36	864-865	311-312	楕円形	0.31	0.23	0.33	中近世以前。	20溝より古い。
第178図		3	37	858-859	293-294	不整形	0.35	0.26	0.41	時期不明。	
第178図		3	38	849-850	253-254	楕円形	0.31	0.26	0.48	中近世。	21土より新しい。
第178図	P L .79	3	39	847-848	253-254	楕円形	0.60	0.49	1.20	時期不明。	56土と重複。土師器片127g。
第178図		4	5	855-856	174-175	円形	径0.33		0.22	中近世。	6溝より新しい。土師器片7g。
第178図		4	6	837-838	186-187	不整形	0.42	0.30	0.36	時期不明。	土師器片15g。
第178図		4	7	838	192	楕円形	0.58	0.34	0.22	時期不明。	22土より古い。土師器片31g。
第178図	P L .79	4	8	840	192	楕円形	0.33	0.30	0.16	時期不明。	土師器片21g。
第179図		4	9	843	192	楕円形	0.43	0.34	0.25	時期不明。	土師器片11g。
第179図		4	10	842	193-194	楕円形	0.55	0.42	0.33	時期不明。	
第179図		4	11	839-840	181	楕円形	0.42	0.39	0.70	時期不明。	土師器片5g。
第179図		4	12	847-848	196	楕円形	0.40	0.32	0.27	時期不明。	土師器片11g。
第179図		4	13	850	193-194	長方形	0.38	0.32	0.26	中近世。	土師器片13g。
第179図	P L .79	4	14	851	192	楕円形	0.48	0.42	0.19	時期不明。	土師器片7g。
第179図	P L .80	4	15	851	191	楕円形	0.68	0.57	0.30	時期不明。	土師器片127g、灰釉陶器片5g。
第179図	P L .80	4	16	853	193	円形	径0.30		0.21	時期不明。	
第179図		4	17	844	203	楕円形	0.60	0.44	0.21	時期不明。	
第179図	P L .80	4	18	843-844	202	楕円形	0.77	0.58	0.29	時期不明。	土師器片169g。
第179図		4	20	836	191	円形	径0.37		0.44	時期不明。	土師器片71g。
第179図		4	21	836	190	円形	径0.39		0.42	時期不明。	土師器片68g。
第179図		4	22	836	190	円形	径0.39		0.57	時期不明。	土師器片19g。
第179図		4	23	847	201-202	楕円形	0.68	0.44	0.36	中近世以前。	11土より古い。
第180図		4	24	835-836	191-192	円形	0.45	0.40	0.62	時期不明。	1溝より古い。

第3章 確認された遺構と遺物

第9表 ピット一覧表(3)

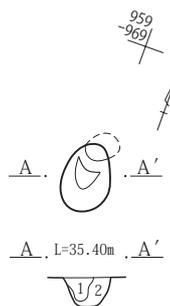
挿図	写真図版	区	号	X=29…	Y=-40…	形状	長軸	短軸	深さ	時期	備考
第180図		4	25	851-852	181-182	不整形	0.32	0.32	0.38	5世紀以前。	2井より古い。土師器片14g。
第180図		4	28	854-855	181	橢円形	0.33	0.31	0.41	時期不明。	土師器片4g。
第180図		4	29	858	181	橢円形	0.42	0.33	0.40	時期不明。	土師器片3g。
第180図		4	30	856-857	182	橢円形	0.35	0.32	0.14	時期不明。	土師器片3g。
第180図		4	31	851	179	円形	径0.34		0.40	時期不明。	
第180図		4	32	851	178	橢円形	0.33	0.28	0.21	時期不明。	土師器片6g。
第180図		4	33	852-853	179-180	橢円形	0.58	0.52	0.50	時期不明。	土師器片3g。
第180図		4	38	861	199-200	円形	径0.32		0.47	時期不明。	
第180図		4	39	834	178	橢円形	0.33	0.28	0.42	中近世以前。	4・27土より古い。土師器片35g。
第180図		4	40	847	175	橢円形	0.43		0.30	時期不明。	土師器片10g。
第180図		4	41	848	176	橢円形	0.66	0.55	0.21	時期不明。	
第181図		4	42	852-853	184	橢円形	0.28	0.22	0.14	時期不明。	時期不明土器片8g。
第181図		4	43	856	183	橢円形	0.37	0.33	0.43	時期不明。	土師器片40g。
第181図		4	44	859	180	円形	径0.20		0.37	時期不明。	
第181図		4	46	856	177	橢円形	0.28	0.25	0.30	時期不明。	1掘と重複。
第181図		4	47	855	192	橢円形	0.34	0.32	0.33	時期不明。	土師器片5g。
第181図		4	48	855	195	橢円形	0.45	0.37	0.28	時期不明。	
第181図		4	49	854-855	197	橢円形	0.42	0.27	0.24	時期不明。	
第181図		4	50	853-854	197	橢円形	0.35	0.29	0.28	時期不明。	
第181図		4	51	855	198	円形	径0.31		0.42	時期不明。	2住と重複。土師器片35g。
第181図		4	52	862	196	橢円形	0.26	0.20	0.20	中近世以前。	2溝より古い。
第181図		4	53	860	196-197	橢円形	0.42	0.30	0.33	時期不明。	
第181図		4	54	859	197-198	方形	0.30	0.28	0.35	中近世。	2溝より古い。
第182図		4	55	860	200	円形	径0.30		0.41	5世紀。	土師器壺1点。他に、土師器片23g。
第182図		4	56	859-860	200	橢円形	0.36	0.28	0.38	時期不明。	
第182図		4	57	841	199	円形	0.33	0.32	0.39	時期不明。	
第182図		4	58	833-834	179	橢円形	0.52	0.40	0.36	時期不明。	
第182図		4	59	855	214-215	橢円形	0.52	0.40	0.54	中近世以前。	4溝より古い。
第182図	P L .80	4	60	854	214-215	橢円形	0.40	0.33	0.47	中近世以前。	4溝より古い。
第182図		4	61	853-854	173-174	橢円形	0.40	0.26	0.12	時期不明。	21土と重複。土師器片5g。
第182図		4	63	845-846	238-239	橢円形	0.61	0.34	0.27	9世紀以降。	9住より新しい。土師器片20g。
第182図		4	65	844	232-233	円形	径0.32		0.21	時期不明。	土師器片19g。
第182図		4	67	842	236	不整形	0.40	0.31	0.56	時期不明。	
第182図	P L .80	4	68	844-845	221-222	橢円形	0.39	0.34	0.99	時期不明。	土師器片32g。
第182図	P L .80	4	69	846-847	220-221	橢円形	0.40	0.30	1.00	時期不明。	36土と重複。
第183図	P L .80	4	70	848	221-222	橢円形	0.53	0.46	0.74	時期不明。	土師器片50g。
第183図	P L .803	4	71	841-842	222	橢円形	0.42	0.36	0.17	時期不明。	土師器片179g。
第183図		4	72	855-856	219	橢円形	0.70	0.30	0.34	時期不明。	
第183図		4	73	855-856	216-217	円形	径0.42		0.78	時期不明。	土師器片25g。
第183図	P L .80	4	74	842	229-230	円形	径0.37		0.32	時期不明。	土師器片11g。
第183図		4	75	845	230	橢円形	0.38	0.32	0.14	時期不明。	土師器片16g。
第183図		4	76	844	238	橢円形	0.30	0.27	0.26	9世紀以降。	9住より新しい。
第183図	P L .80	4	77	871	239-240	橢円形	0.54	0.43	0.75	時期不明。	土師器片9g。
第183図		4	78	866	240-241	橢円形	0.52	0.40	0.26	時期不明。	41・42土と重複。時期不明土器片5g。
第183図	P L .80	4	79	863-864	227	円形	径0.37		0.23	中近世以前。	53土より古い。土師器片33g。
第183図		4	80	837	212-213	橢円形	0.42	0.30	0.87	時期不明。	土師器片269g。
第183図	P L .80	4	81	870-871	252-253	橢円形	0.40	0.37	0.47	時期不明。	土師器片19g。
第184図		4	82	865-866	225	橢円形	0.48	0.30	0.16	時期不明。	
第184図	P L .80	4	83	861-862	240	橢円形	0.52	0.43	0.90	時期不明。	土師器片126g。
第184図	P L .80	4	84	861-862	240-241	不整形	0.52	0.46	0.50	時期不明。	土師器片32g、須恵器片12g。
第184図		4	85	870-871	253-254	橢円形	0.38	0.27	0.29	時期不明。	
第184図		4	86	870	253	長方形	0.38	0.30	0.12	中近世。	
第184図		4	87	853-854	172	不整形	0.41	0.23	0.18	9世紀以降。	5住より新しい。
第184図	P L .80	5	1	834	169	円形	径0.37		0.52	時期不明。	土師器片31g。
第184図	P L .80	5	2	834-835	167	橢円形	0.36	0.33	0.43	時期不明。	土師器片23g。

1区2号ピット



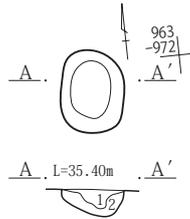
- 1区2号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. しまりのない1層。

1区5号ピット



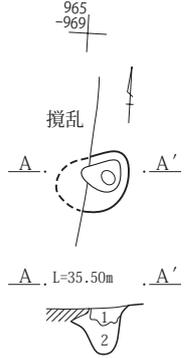
- 1区5号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~3 cm ローム塊10%。

1区8号ピット



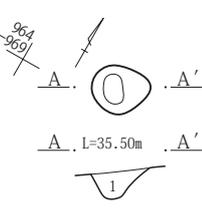
- 1区8号ピット
 1. 暗褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒40% 炭化物粒少混。

1区9号ピット



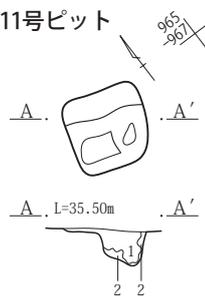
- 1区9号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~2 mmローム粒5%。
 2. ロームと黒褐色土の斑混土。

1区10号ピット



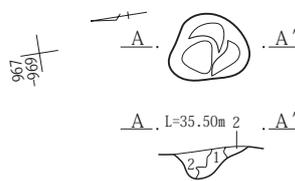
- 1区10号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~3 mmローム粒5%。

1区11号ピット



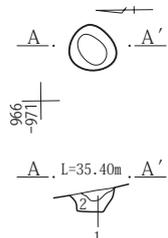
- 1区11号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1~2 mmローム粒10%。
 2. 1層と同質 ローム粒多く縞状。

1区12号ピット



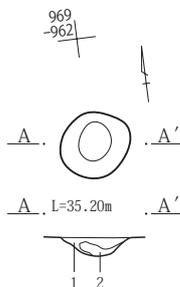
- 1区12号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 ローム粒斑混。

1区13号ピット



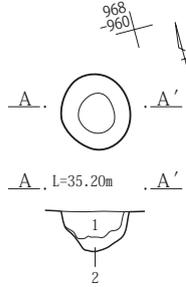
- 1区13号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~2 mmローム粒混入。

1区15号ピット



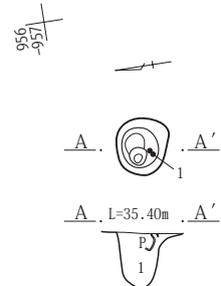
- 1区15号ピット
 1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 にぶい灰黄色土混入。
 2. にぶい灰黄色土 細粒 均質。

1区16号ピット



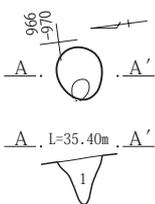
- 1区16号ピット
 1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層とにぶい黄褐色土の斑混土。

1区17号ピット



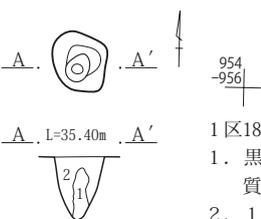
- 1区17号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 焼土粒・炭化物粒少混。

1区14号ピット



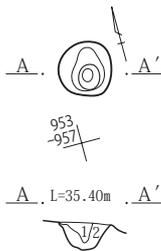
- 1区14号ピット
 1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

1区18号ピット



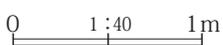
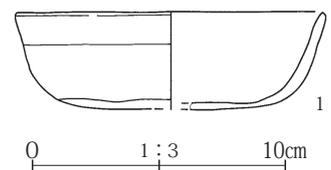
- 1区18号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 ローム粒少混。
 2. 1層と同質 ローム粒40% 霜降り状。

1区19号ピット



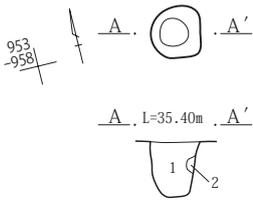
- 1区19号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~15 mmローム粒斑混。

17号ピット出土遺物



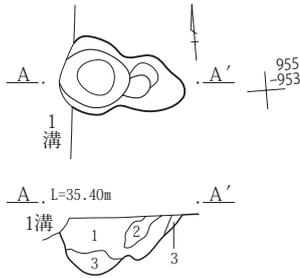
第171図 1区2・5・8~19号ピット平断面、17号ピット出土遺物

1区20号ピット



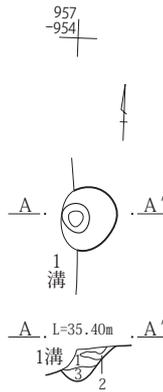
- 1区20号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒5%。
 2. ローム塊。

1区21号ピット



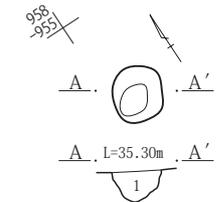
- 1区21号ピット
1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒5%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒斑混。
 3. 2層と同質 ローム粒50%。

1区22号ピット



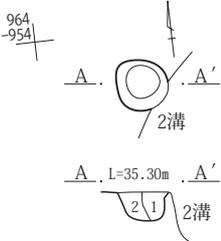
- 1区22号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒5%。
 2. ローム塊。
 3. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒30%。

1区23号ピット



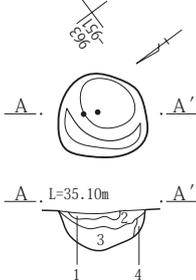
- 1区23号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒15%。

1区24号ピット



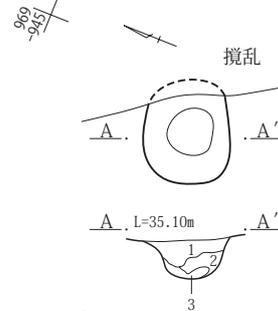
- 1区24号ピット
1. 黒褐色土とロームの斑混土 各粒子とも ϕ 1cm。
 2. 1層と同質 1層より粒が細かい。

1区25号ピット



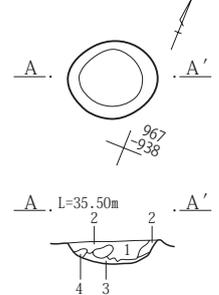
- 1区25号ピット
1. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒 均質 密。
 2. 黒褐色土(10YR3/1)とロームの混土。
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒20%。
 4. 3層と同質 ローム粒50%。

1区26号ピット



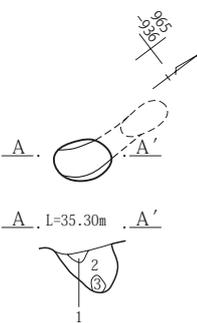
- 1区26号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒10%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mmローム粒5%。
 3. 1層と同質 ϕ 1~3cmローム塊 斑混 一部堅い塊。

1区27号ピット



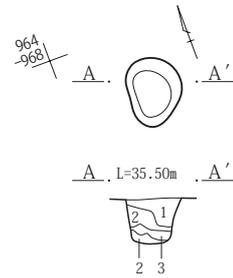
- 1区27号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム粒・焼土粒 各5% 炭化物粒1%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
 3. ロームと1層の混土。
 4. ローム塊。

1区28号ピット



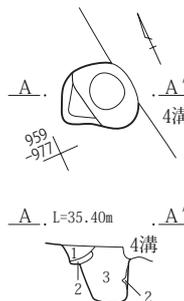
- 1区28号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 しまり弱い。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~2mm黒色土粒・ ϕ 1~2mmローム粒・炭化物粒混入。
 3. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ϕ 1~2mmローム粒が縞状混。

1区30号ピット



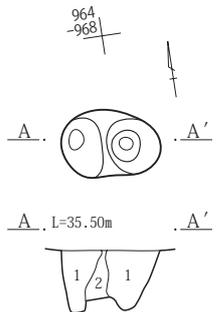
- 1区30号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム粒20%。
 2. ローム粒・塊の混土。
 3. ロームと1層の混土。

1区31号ピット

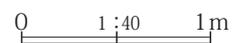


- 1区31号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. ローム塊。
 3. 1層と同質 ϕ 1~2mmローム粒・炭化物粒混入。

1区33号ピット

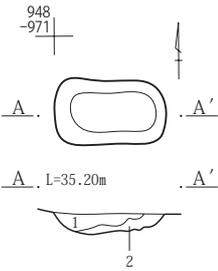


- 1区33号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム粒5%。
 2. 1層と同質 ϕ 1~10mmローム粒10%。



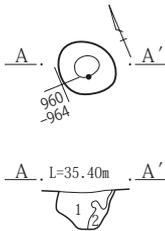
第172図 1区20~28・30・31・33号ピット平面図

1区34号ピット



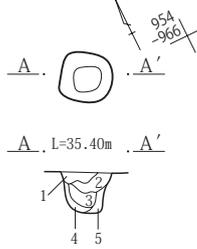
- 1区34号ピット
 1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 1層より明るい。

1区35号ピット



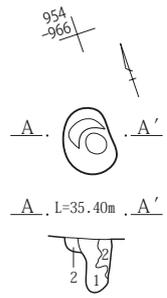
- 1区35号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~10mmローム粒少混。
 2. 1層と同質 ローム粒30% 斑混。

1区36号ピット



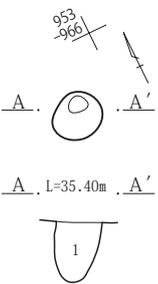
- 1区36号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
 2. 1層と同質 φ1~5mmローム粒30%。
 3. 1層と同質 ローム粒10%。
 4. 1層と同質 φ3~5mmローム粒30%。
 5. 1層と同質 φ1~2cmローム塊40%。

1区37号ピット



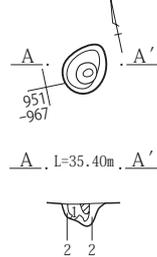
- 1区37号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
 2. 1層と同質 φ1~20mmローム粒斑混。

1区38号ピット



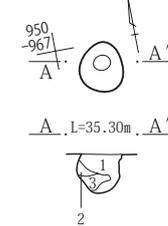
- 1区38号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~10mmローム粒5%。

1区39号ピット



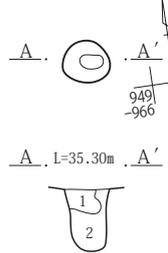
- 1区39号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒混入。
 2. 1層と同質 ローム粒は大きく多い。

1区40号ピット



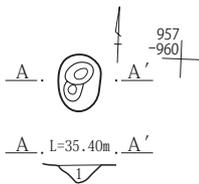
- 1区40号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~10mmローム粒10%。
 2. 1層と同質 ローム粒50%。
 3. 1層と同質 ローム粒30%。

1区41号ピット



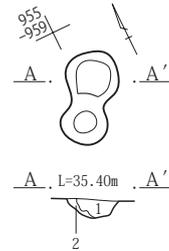
- 1区41号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~3mmのローム粒10% 焼土粒少混。
 2. 1層と同質 ローム粒30%。

1区43号ピット



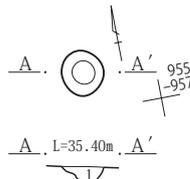
- 1区43号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~10mmローム粒混入。

1区44号ピット



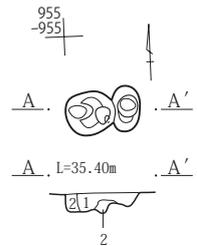
- 1区44号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒混入。
 2. 1層とロームの斑混土。

1区45号ピット



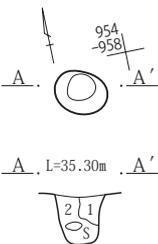
- 1区45号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。

1区46号ピット



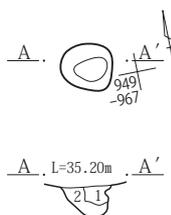
- 1区46号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. ローム塊。

1区47号ピット



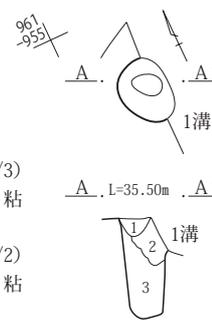
- 1区47号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~2cmローム塊20%。
 2. 1層と同質 φ1~3cmローム塊5%。

1区48号ピット



- 1区48号ピット
 1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 粘性に富む。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 粘性に富む。

1区49号ピット

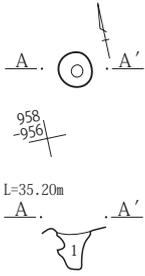


- 1区49号ピット
 1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~3mmローム粒10%。
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密。
 3. 2層と同質 φ1~5mmローム粒25%。



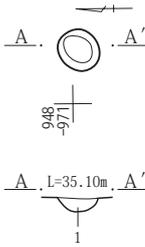
第173図 1区34~41・43~49号ピット平断面

1区50号ピット



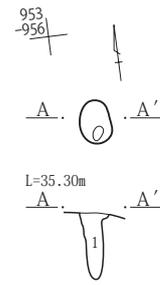
1区50号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 φ1cm前後ローム粒混入。

1区51号ピット



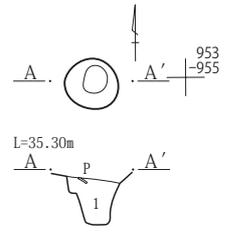
1区51号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密。

1区53号ピット



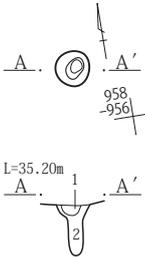
1区53号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質 ローム粒少混。

1区54号ピット



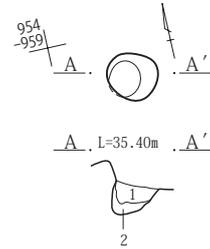
1区54号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 φ1cm前後ローム粒15%。

1区55号ピット



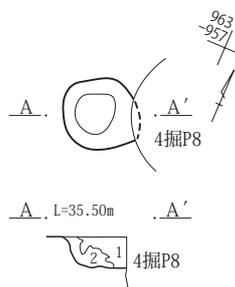
1区55号ピット
1. ローム塊。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質。

1区56号ピット



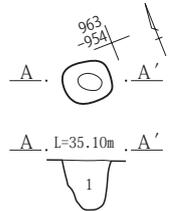
1区56号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 φ2~3cmローム塊斑混。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/3) 細粒ローム粒が混入により黄色いか。

1区57号ピット



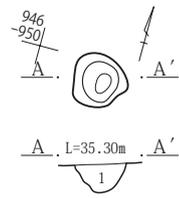
1区57号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密。
2. 1層と同質 φ1~2mmローム粒10%。

1区58号ピット



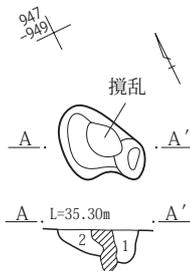
1区58号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒均質密 φ3cmローム塊斑混。

1区60号ピット



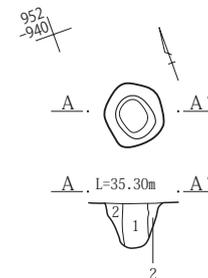
1区60号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 φ1~10mmローム粒10% 下位やや大粒。

1区61号ピット



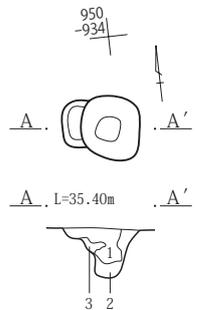
1区61号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質 φ1~10mmローム粒5%。
2. 1層と同質 φ1~20mmローム粒15%。

1区62号ピット



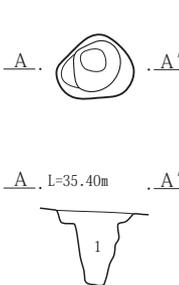
1区62号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒均質密 φ1~2cmローム塊20%。
2. にぶい黄褐色土とロームの混土。

1区63号ピット



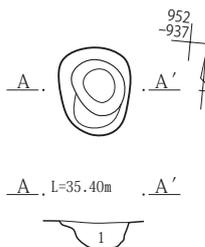
1区63号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒均質密。
2. 黒褐色土(10YR3/2)。
3. ローム塊。

1区64号ピット

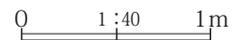


1区64号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 φ1mmローム粒・焼土粒混入。

1区65号ピット

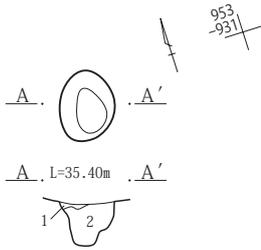


1区65号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質密 中位にローム粒混入多い。



第174図 1区50・51・53~58・60~65号ピット平断面

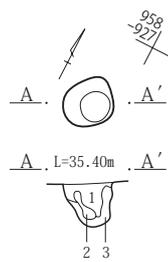
1区66号ピット



1区66号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~2 cm ローム塊・As-YP20%。

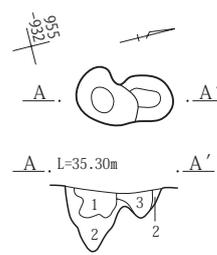
1区67号ピット



1区67号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ローム粒10%。
3. 1層と同質 2層より大粒のローム粒15%。

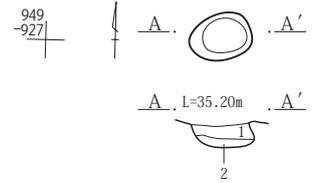
1区68号ピット



1区68号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2) 細粒 均質 密 ローム粒多混。
3. 1層と同質 ローム粒少混。

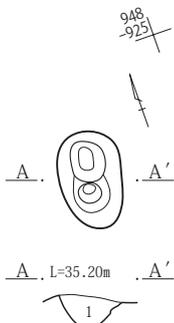
1区69号ピット



1区69号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒少混。
2. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

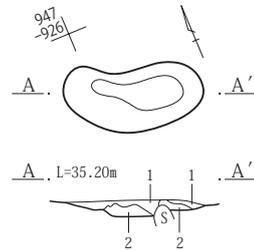
1区70号ピット



1区70号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。

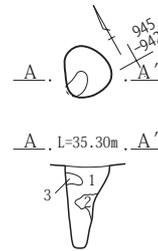
1区71号ピット



1区71号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~2 cmローム塊・As-YP塊20%。

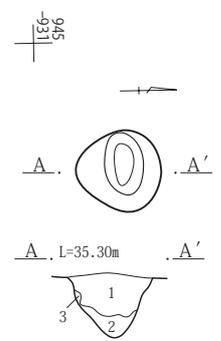
1区72号ピット



1区72号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 As-YP塊混入。
2. 1層と同質 φ 1~2 mm ローム粒・As-YP塊30%。

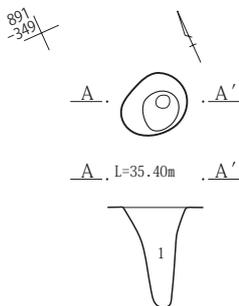
1区73号ピット



1区73号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒。
2. ローム塊。
3. 顆粒状ローム。ボンボン。

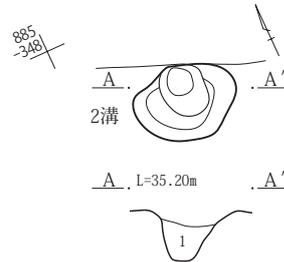
2区1号ピット



2区1号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) や や軟弱 ローム斑混。

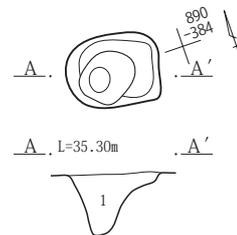
2区2号ピット



2区2号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) ローム 斑混。

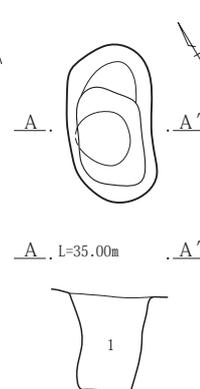
2区3号ピット



2区3号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム塊25%。

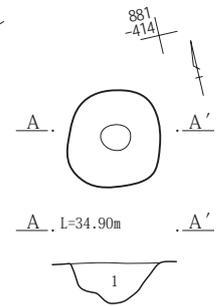
2区4号ピット



2区4号ピット

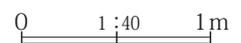
1. 黒褐色土(10YR3/1) 軟弱ローム30%。

2区5号ピット



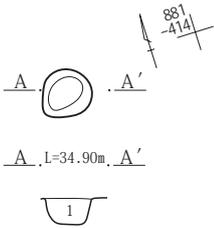
2区5号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/3) ローム30%。



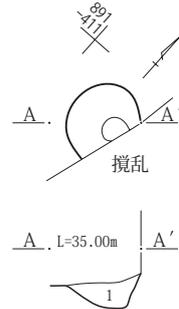
第175図 1区66~73号ピット・2区1~5号ピット平衡面

2区6号ピット



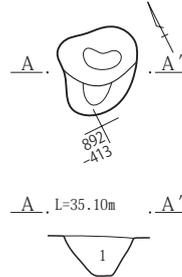
2区6号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2)
細粒 均質 密。

2区7号ピット



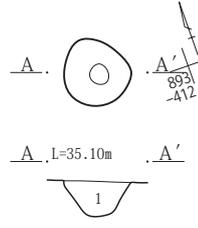
2区7号ピット
1. 黒色土(10YR2/1)
ローム4%斑混。

2区8号ピット



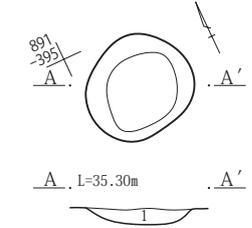
2区8号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2)
φ1mmローム微混。

2区9号ピット



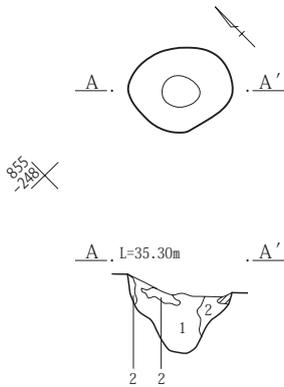
2区9号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) φ
2~3mmローム5%。

2区10号ピット



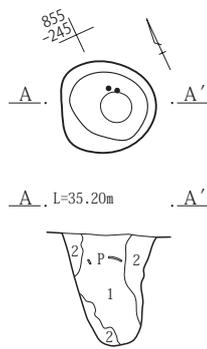
2区10号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) ロー
ム5%。

3区4号ピット



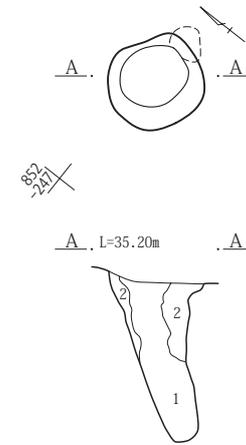
3区4号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 壁際にφ1~3mmローム粒混入。
2. 黒褐色土(10YR2/2)とロームの混土。

3区5号ピット



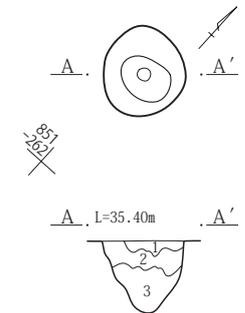
3区5号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒3%。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ1~3mmローム粒10%。

3区6号ピット



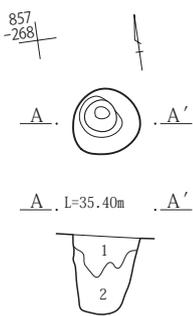
3区6号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。

3区7号ピット



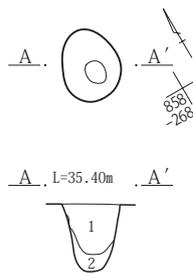
3区7号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ1mmローム粒10%。
3. 黒褐色土(10YR3/2)とロームの斑混土。

3区11号ピット



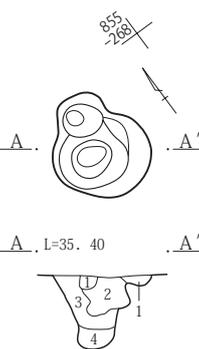
3区11号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒10%。
2. 1層と同質 ローム粒20%以上 にぶい黄褐色をおびる。

3区12号ピット



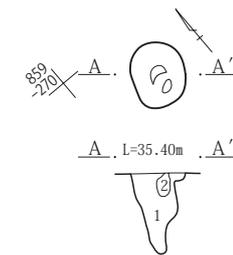
3区12号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒5%。
2. 1層と同質 ローム粒15%。

3区13号ピット



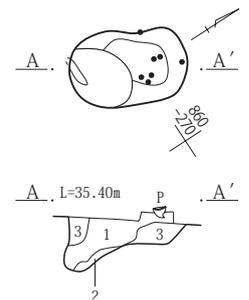
3区13号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム斑混。
3. 明黄褐色土(10YR7/6) 細粒 均質 粗軟。
4. 黄褐色ローム(10YR5/6) 細粒 均質 密。

3区14号ピット

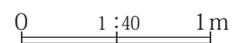


3区14号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒15%。
2. 1層と同質 ローム粒20%。

3区15号ピット

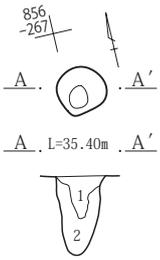


3区15号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒5%。
2. 1層と同質 φ1~10mmローム粒15%。
3. にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム塊斑混。



第176図 2区6~10号ピット・3区4~7・11~15号ピット平面図

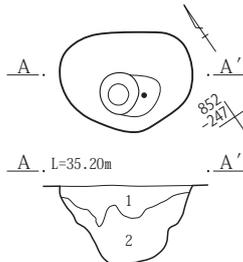
3区16号ピット



3区16号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1~5mm ローム粒10%。

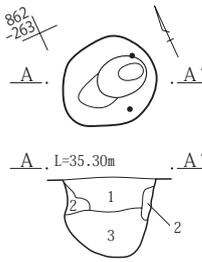
3区17号ピット



3区17号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1mm灰白色粒 2% 2層との境にローム粒多混。
2. 黄褐色土(10YR8/6) φ 1cm黒褐色土・φ 1cm As-YP斑混。

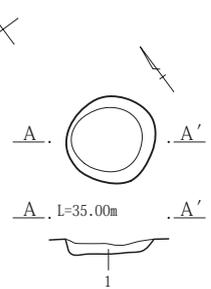
3区18号ピット



3区18号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒 1% 灰白色粒混入。
2. 1層と同質 φ 1mmローム粒縞状に 30%。
3. 1層と同質 φ 1~2cmローム塊 5%。

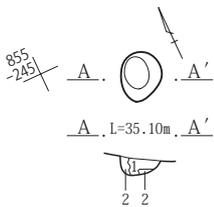
3区19号ピット



3区19号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) 細粒 均質 密 φ 1cmローム塊 10%。

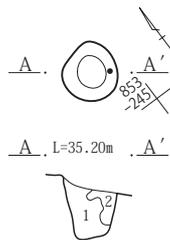
3区20号ピット



3区20号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
2. 1層と同質 φ 1mmローム粒10%。

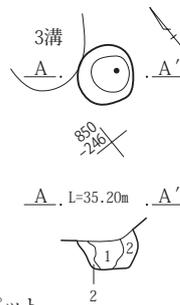
3区21号ピット



3区21号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 φ 1mmローム粒 5%。

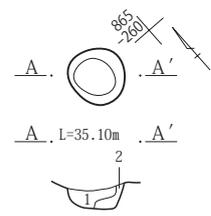
3区22号ピット



3区22号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1~3mmローム粒 3%。
2. 1層と同質 φ 1~4mmローム粒 5%。

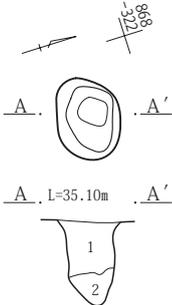
3区23号ピット



3区23号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ 1~2cmローム塊斑混。
2. 黄褐色土(10YR5/6) 細粒 均質 密 黒褐色土混入。

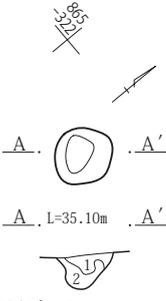
3区24号ピット



3区24号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ 1~5mm ローム粒 5%。
2. 1層と同質 大粒ローム 10%。

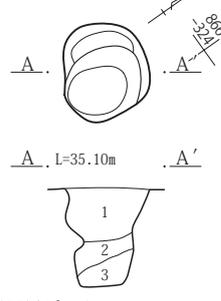
3区25号ピット



3区25号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 ローム粒 3%。
2. 1層と同質 にぶい黄褐色土斑混。

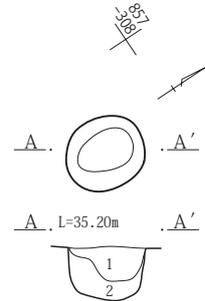
3区26号ピット



3区26号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒 3% 壁際に多い。
2. 1層と同質 ローム粒 5%。
3. 黒褐色土(10YR3/1)と黄褐色土の互層 堅緻。

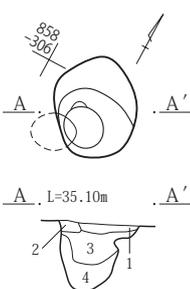
3区27号ピット



3区27号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ 1~15mmローム粒 20%。

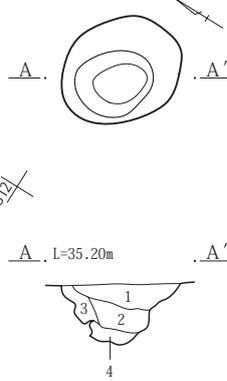
3区28号ピット



3区28号ピット

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 密 φ 1mmローム粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR3/2)。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ 1~2mmローム粒 7%。
4. 3層と同質 φ 1~10mmローム粒 10%。

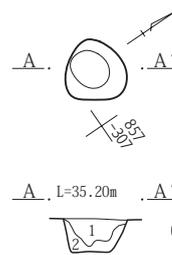
3区29号ピット



3区29号ピット

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 細粒 均質 φ 1~2mmローム粒 5%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 φ 1~3cmローム塊 10%。
3. 2層と同質 ローム粒 3%。
4. 2層と同質 As-YP塊 混入。

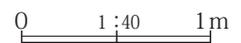
3区30号ピット



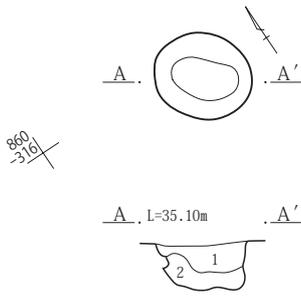
3区30号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ 1~10mmローム粒 15%。

第177図 3区16~30号ピット平衡面

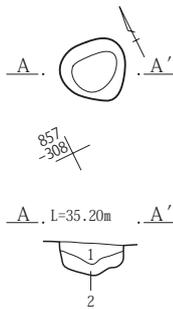


3区31号ピット



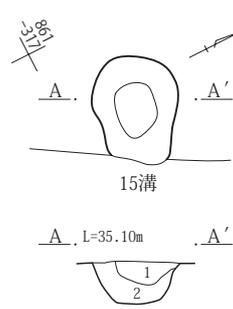
- 3区31号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ1~5mmローム粒・As-YP塊15%。

3区32号ピット



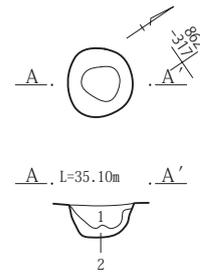
- 3区32号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ1cmローム塊15%。

3区33号ピット



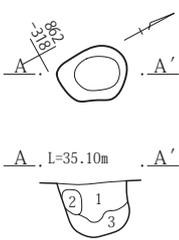
- 3区33号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 As-YP塊・ローム粒少混。
 2. 1層と同質 As-YP塊・ローム粒15%。

3区34号ピット



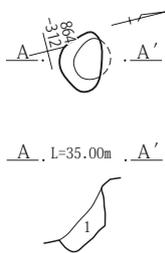
- 3区34号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒少混。
 2. 1層と同質 φ1~10mmローム粒10%。

3区35号ピット



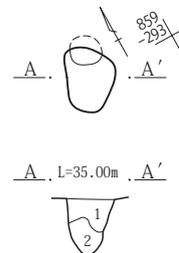
- 3区35号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒3%。
 2. ローム塊。
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ1~2mmローム粒5% 下位大粒。

3区36号ピット



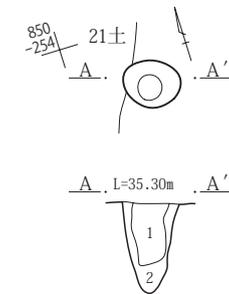
- 3区36号ピット
1. ローム粒と暗褐色土の混土。

3区37号ピット



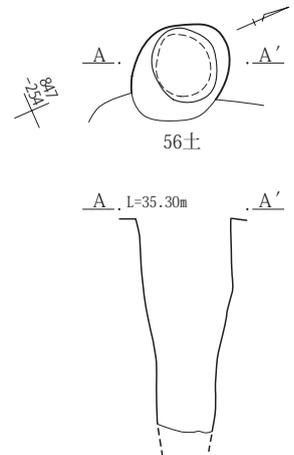
- 3区37号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~3mmローム粒7%。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。

3区38号ピット

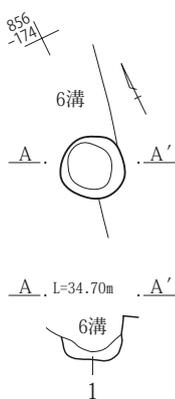


- 3区38号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒3%。
 2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒10%。

3区39号ピット

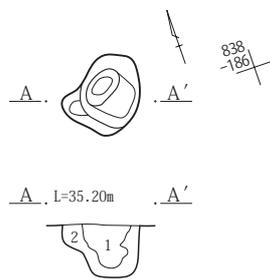


4区5号ピット



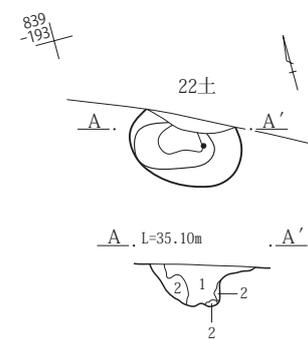
- 4区5号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。

4区6号ピット



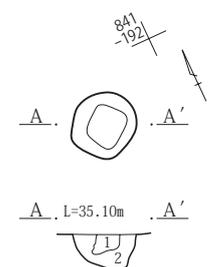
- 4区6号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒10%。

4区7号ピット

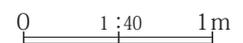


- 4区7号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒混入。
 2. ローム にぶい黄褐色でしまりに欠ける。

4区8号ピット

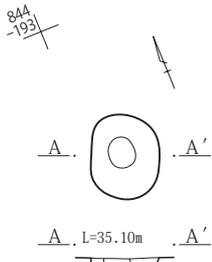


- 4区8号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒少混。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 ローム粒混入し灰色がかかる。



第178図 3区31~39号ピット・4区5~8号ピット平面

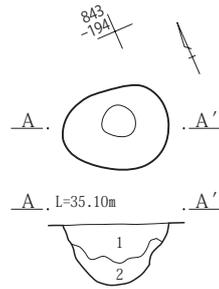
4区9号ピット



4区9号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 5% 下位ほど大粒。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
3. 黄褐色土(10YR5/6) 顆粒状でしまりゆるい。

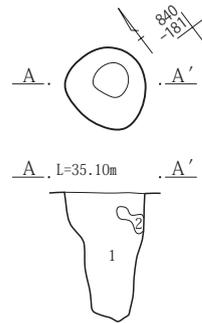
4区10号ピット



4区10号ピット

1. 黒色土(10YR2/1)と暗褐色土(10YR3/2)の斑混土 ϕ 1~10mmローム粒10%。
2. 暗褐色土(10YR3/2)と ϕ 1cm前後ローム塊の斑混土 堅緻。

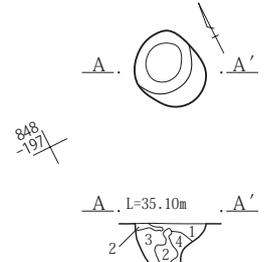
4区11号ピット



4区11号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ローム粒少混。
2. ローム塊。

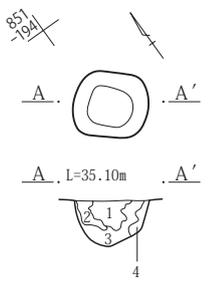
4区12号ピット



4区12号ピット

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ϕ 1mmローム粒 5%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) ϕ 1mmローム粒 2%。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 1mmローム粒 30%。
4. 黒褐色土(7.5YR2/2) ϕ 2mmローム粒 30%。

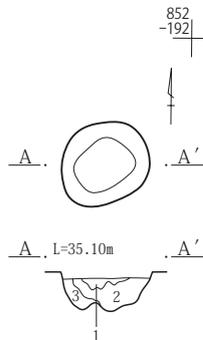
4区13号ピット



4区13号ピット

1. 黒色土(7.5YR2/1) ϕ 3~5mmローム粒 15%。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 1~3mmローム粒 25%。
3. 黒褐色土(7.5YR2/2) ϕ 5~15mmローム粒・塊40%。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊50%。

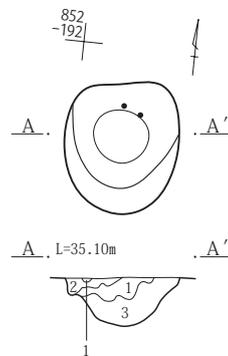
4区14号ピット



4区14号ピット

1. 黒褐色土(7.5YR2/1) ϕ 1mmローム粒20%。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 1~18mmローム粒・塊30%。
3. 黒色土(7.5YR2/1) ϕ 1mmローム粒 5%。

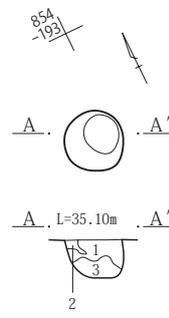
4区15号ピット



4区15号ピット

1. 黒色土(7.5YR1/1) ϕ 1~5mmローム粒 2%。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) ϕ 1~3mmローム粒25%。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 1~5mmローム粒15%。

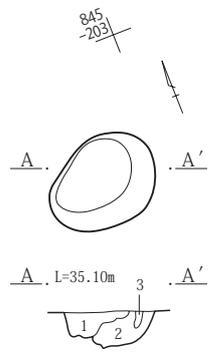
4区16号ピット



4区16号ピット

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 1~3mmローム粒 15%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) ϕ 1mmローム粒15%。
3. 黒色土(7.5YR1.7/1) ϕ 1~2mmローム粒 5%。

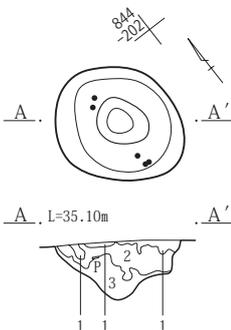
4区17号ピット



4区17号ピット

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) ϕ 1~10mmローム粒10%。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム塊15%。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) ϕ 1~8mmローム粒50%。

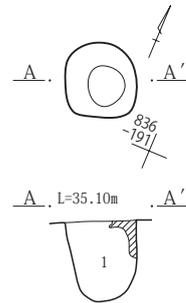
4区18号ピット



4区18号ピット

1. 暗褐色土(7.5YR3/3) ϕ 2mmローム粒 5%。
2. 黒色土(7.5YR2/1) ϕ 2mmローム粒 5%。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) ϕ 3~5mmローム粒20%。

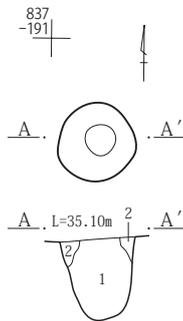
4区20号ピット



4区20号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒・灰白色粒 3%。

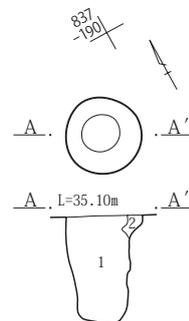
4区21号ピット



4区21号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密 ϕ 1mmローム粒 5%。
2. 1層と同質 ローム大粒で多い。

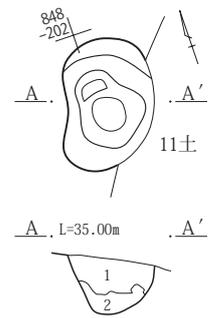
4区22号ピット



4区22号ピット

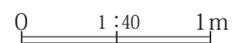
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
2. 1層と同質 ϕ 1~5mmローム粒 10%。

4区23号ピット



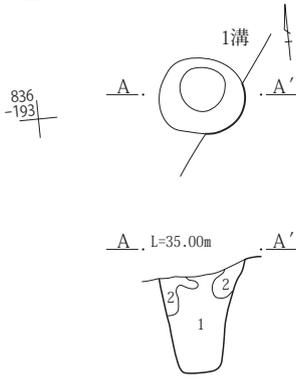
4区23号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~3mmローム粒 5%。
2. ロームを主とする黒褐色土(10YR2/2)との斑混土 密 硬。



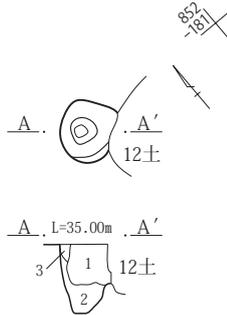
第179図 4区9~18・20~23号ピット平面図

4区24号ピット



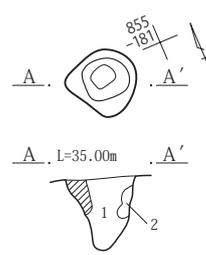
- 4区24号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ1~2mmローム 粒10%。

4区25号ピット



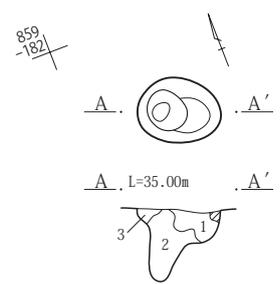
- 4区25号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) φ1~2mm ローム粒1%。
 2. 黒褐色土(10YR3/1) φ1mm ローム塊40%。
 3. 黒褐色土(10YR2/2) φ2~3mm ローム粒25%。

4区28号ピット



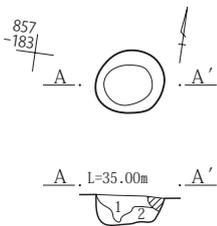
- 4区28号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 ローム粒混入。

4区29号ピット



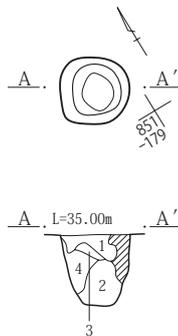
- 4区29号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
 2. 1層と同質 ローム粒30%。
 3. にぶい黄褐色土(10YR5/3)。

4区30号ピット



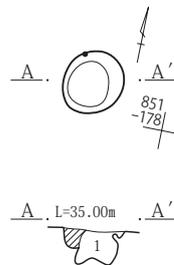
- 4区30号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2)。
 2. 1層と同質 φ1~10mm ローム粒20%。

4区31号ピット



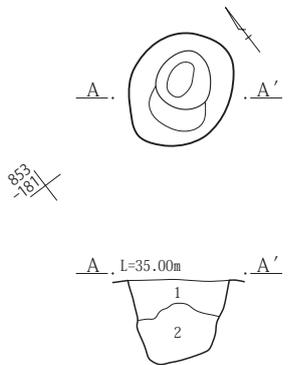
- 4区31号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒少混。
 3. ローム塊。
 4. 1層とロームの混土。

4区32号ピット



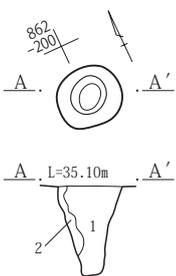
- 4区32号ピット
1. 黒色土(10YR2/1)。

4区33号ピット



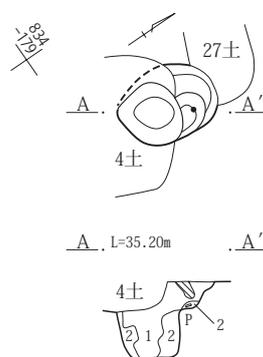
- 4区33号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 φ1~10mmローム粒10%。
 2. 黒色土(10YR2/1)とφ1cmローム塊の混土 密。

4区38号ピット



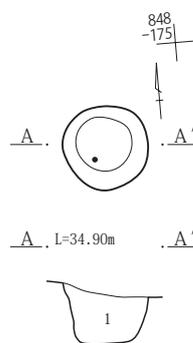
- 4区38号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 ローム粒 混入。

4区39号ピット



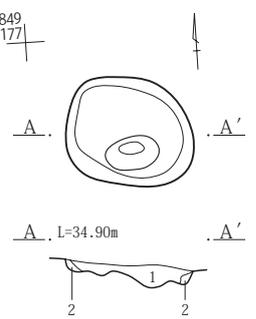
- 4区39号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ1~5mmローム粒 5%。
 2. 1層と同質 ローム粒15%。

4区40号ピット

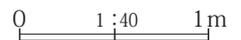


- 4区40号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 下位にローム粒。

4区41号ピット

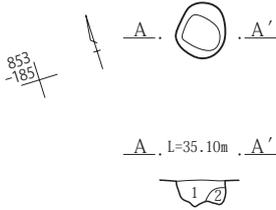


- 4区41号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質。
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2)。



第180図 4区24・25・28~33・38~41号ピット平断面

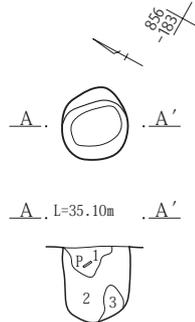
4区42号ピット



4区42号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 ローム粒10%。
2. 1層と同質 φ1~2mmローム粒多混。

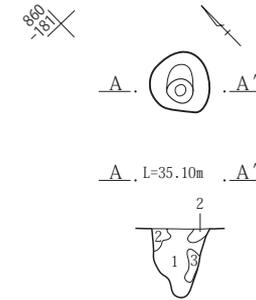
4区43号ピット



4区43号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 ローム粒混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 しまり弱い φ1~15mm ローム粒30%。
3. ローム塊。

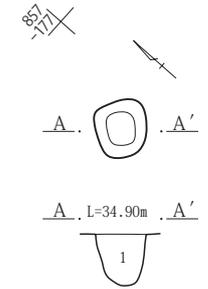
4区44号ピット



4区44号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 φ1~10mmローム粒5%。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)。
3. 1層とロームの斑混土。

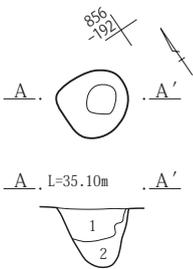
4区46号ピット



4区46号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) φ1~2mmローム粒3%。

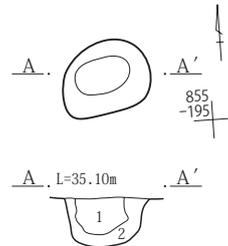
4区47号ピット



4区47号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2)。
2. 1層と同質 φ1~3mmローム粒10%。

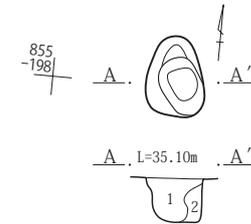
4区48号ピット



4区48号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ3~4cmローム塊斑混。
2. ローム塊を主とする黒褐色土(10YR3/2)との混土。

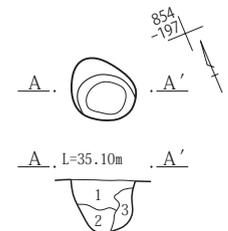
4区49号ピット



4区49号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ1~15mmローム粒・塊10%。
2. ローム塊。

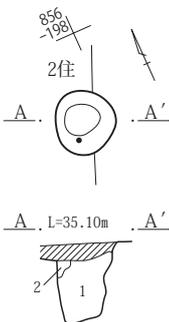
4区50号ピット



4区50号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1) φ1~20mmローム粒・塊混入。
2. 1層と同質 ローム粒・塊20%混入。
3. 1層と同質 ローム粒・塊50%混入。

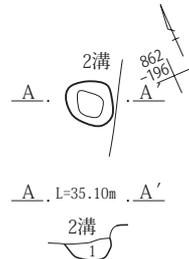
4区51号ピット



4区51号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1) φ1~2cmローム塊斑混。
2. ローム塊。

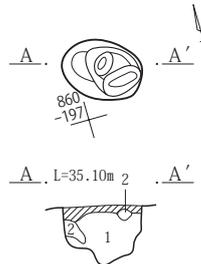
4区52号ピット



4区52号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 底面にローム粒多混。

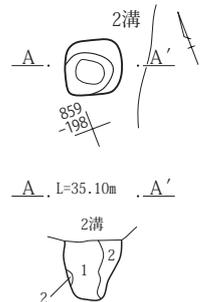
4区53号ピット



4区53号ピット

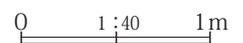
1. 黒褐色土(10YR3/2)とφ1~5mmローム粒の混土。
2. ローム塊。

4区54号ピット



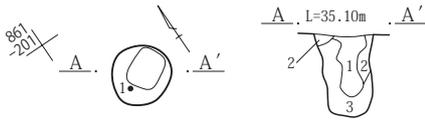
4区54号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) φ3~5cmローム塊斑混。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2)。



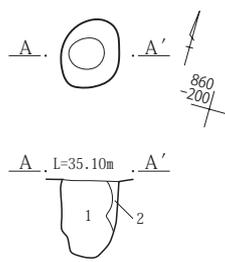
第181図 4区42~44・46~54号ピット平断面

4区55号ピット



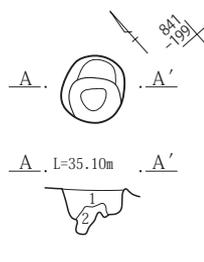
- 4区55号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1mmローム粒10%。
 2. 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒混入。
 3. 2層と同質 φ 1~3mmローム粒40%。

4区56号ピット



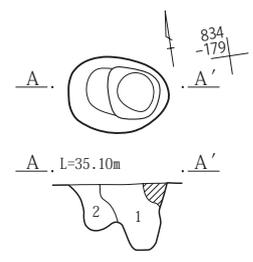
- 4区56号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~2mmローム粒15%。
 2. 1層と同質 脆弱。

4区57号ピット



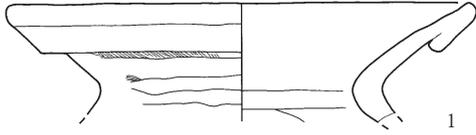
- 4区57号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) φ 1mmローム粒 5%。
 2. 1層と同質 φ 1cm ローム塊斑混。

4区58号ピット



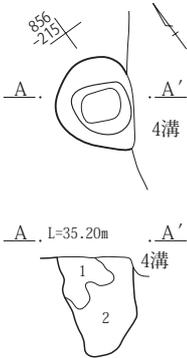
- 4区58号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 下にローム粒10%。
 2. 1層と同質 ローム粒 15%。

55号ピット出土遺物



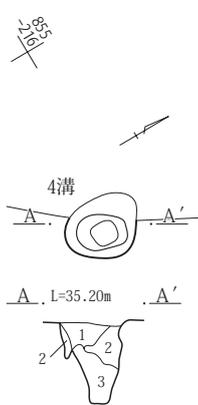
0 1:3 10cm

4区59号ピット



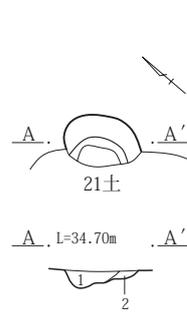
- 4区59号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~5mmローム粒15%。
 2. 黒褐色土(10YR3/2)とφ 1~50mmローム粒・塊の混土。

4区60号ピット



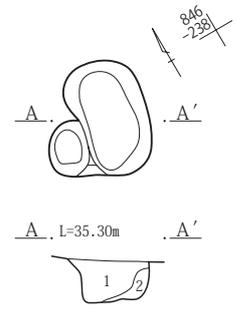
- 4区60号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ 1~2mmローム粒15%。
 2. 1層と同質 φ 1~2mmローム粒30%。
 3. 黒褐色土(10YR2/2)とφ 1~2cmローム塊の斑混土。

4区61号ピット



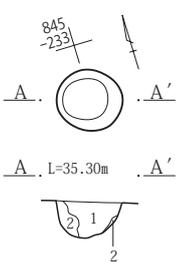
- 4区61号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質 密。
 2. 1層・ローム塊の混土 ロームは灰色がかかる。

4区63号ピット



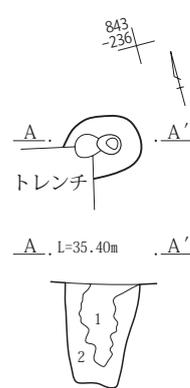
- 4区63号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒均質 密 φ 1cmローム塊斑混。
 2. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 細粒均質 密 1層混入。

4区65号ピット



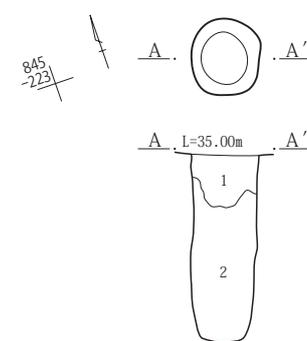
- 4区65号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒均質 密 φ 1mmローム粒 5% 焼土粒・炭化物粒混入。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒均質 密 ローム塊混入。

4区67号ピット

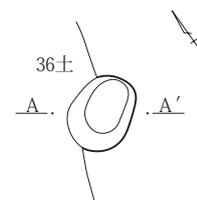


- 4区67号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質 密。
 2. 1層と同質 φ 1~3mm ローム粒 5%。

4区68号ピット



- 4区68号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒均質 密 φ 1mmローム粒 3%。
 2. 1層と同質 φ 3~5cmローム塊斑混。

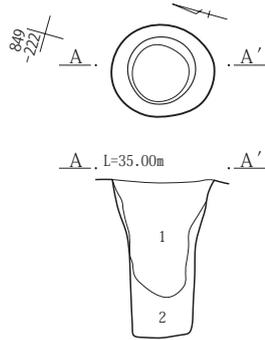


- 4区69号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒均質 密 φ 1mmローム粒混入。
 2. 1層と同質 φ 1~10mmローム粒10%。

0 1:40 1m

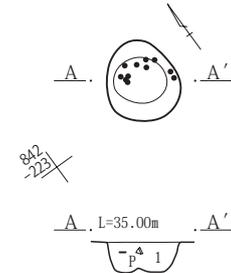
第182図 4区55~61・63・65・67~69号ピット平断面、55号ピット出土遺物

4区70号ピット



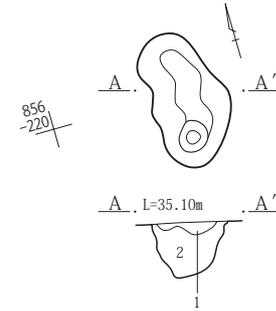
- 4区70号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ1~10mmローム粒5%。

4区71号ピット



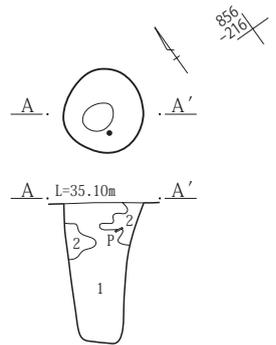
- 4区71号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 φ1~10mmローム粒3%。

4区72号ピット



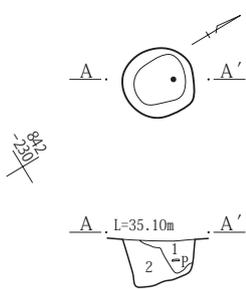
- 4区72号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1~5mmローム粒5%。

4区73号ピット



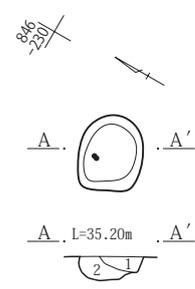
- 4区73号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. 1層と同質 φ1mmローム粒5%。

4区74号ピット



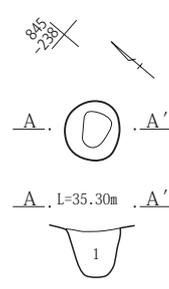
- 4区74号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2)。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)。

4区75号ピット



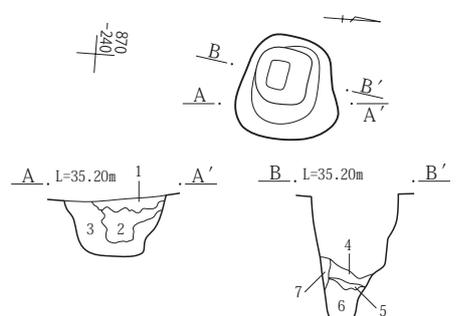
- 4区75号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密。
 2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 細粒 均質 密。

4区76号ピット



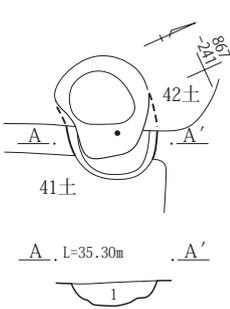
- 4区76号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2)と黄褐色土(10YR5/6)の斑混土。

4区77号ピット



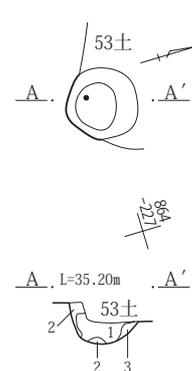
- 4区77号ピット
1. 黒色土(10YR2/1) φ1~15mmローム粒・塊5%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) φ1~20mmローム粒・塊25%。
 3. 黒褐色土(10YR2/3) φ1~25mmローム粒・塊10%。
 4. 明黄褐色土(10YR6/6) 黒褐色土(10YR3/2)斑混。
 5. にぶい黄色土(2.5Y6/4) 細粒シルト質。
 6. 4層と同質 4層より黒褐色土多い。
 7. 明黄褐色土(10YR6/6)。

4区78号ピット



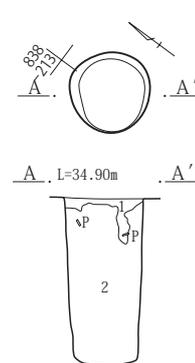
- 4区78号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) φ1~15mmローム粒・塊7%。

4区79号ピット



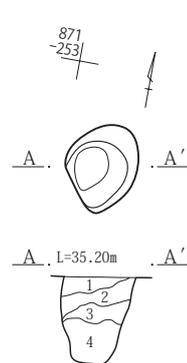
- 4区79号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) φ1~3mmローム粒10%。
 2. 黒色土(10YR2/1) φ1~3mmローム粒3% 黒褐色土(10YR3/2)塊20%。
 3. 黒褐色土(10YR3/2) φ1~10mmローム粒20%。

4区80号ピット



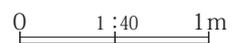
- 4区80号ピット
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ1mmローム粒5%。
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 φ3~4cmローム塊斑混。

4区81号ピット

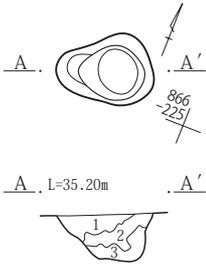


- 4区81号ピット
1. 黒色土(10YR2/1)と黒褐色土(10YR2/2)の混土 φ1~15mmローム粒・塊10%。
 2. 黒褐色土(10YR3/1) φ1mm以上ローム粒・塊50%。
 3. 黒色土(10YR1.7/1) φ1~10mmローム粒7%。
 4. 黒褐色土(10YR3/1) φ1mm以上ローム粒・塊40%。

第183図 4区70~81号ピット平衡面



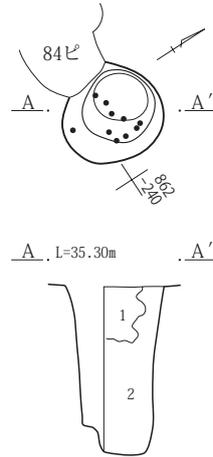
4区82号ピット



4区82号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~15mmローム粒・塊7% ϕ 3cm黒色土(10YR1.7/1)塊5%。
2. 黒色土(10YR1.7/1) ϕ 1~8mmローム粒5%。
3. 黒色土(10YR2/1) ϕ 1~20mmローム粒・塊20%。

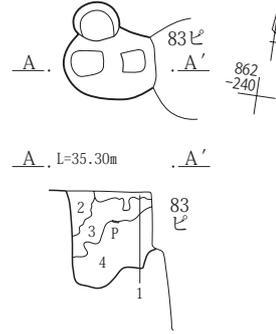
4区83号ピット



4区83号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/3) 細粒 均質 密 ϕ 1~8mmローム5%。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~30mmローム粒・塊25% 黒褐色土(10YR2/3)塊10%。

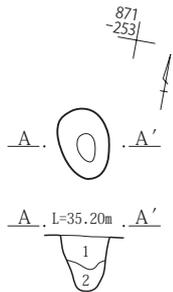
4区84号ピット



4区84号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~5mmローム7%。
2. 黒褐色土(10YR3/3) ϕ 1mm以上ローム粒・塊40%やや軟弱。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 1~10mmローム粒10%。
4. 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1~20mmローム粒・塊50% 黒色土(10YR2/1)塊10% 軟弱。

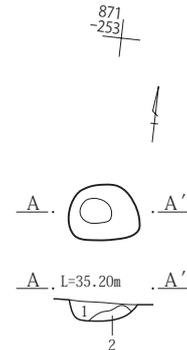
4区85号ピット



4区85号ピット

1. 黒色土(10YR2/1)と黒褐色土(10YR2/2)の混土 ϕ 1~15mmローム粒・塊10%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1mm以上ローム粒・塊50%。

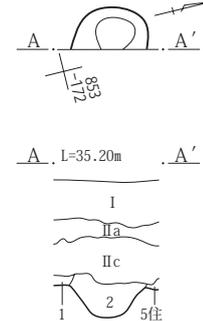
4区86号ピット



4区86号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 3~20mmローム粒・塊20%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 3mm以上ローム粒・塊50%。

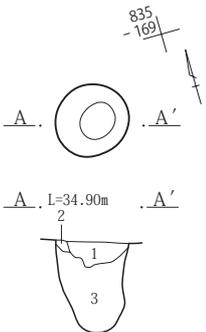
4区87号ピット



4区87号ピット

1. 黒褐~褐灰色土(10YR3/1~4/1) 均質 密 にぶい黄橙色土(10YR6/3)粒混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~10mmローム粒5%。

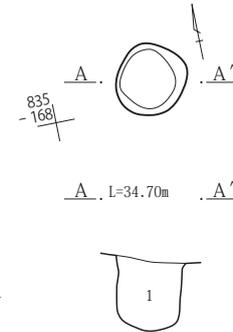
5区1号ピット



5区1号ピット

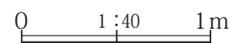
1. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 均質 密 ϕ 3~5mmローム粒5%。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒 均質 密。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 細粒 軟弱 ϕ 3~10mmローム粒・塊15%。

5区2号ピット



5区2号ピット

1. 黒色土(10YR2/1) 細粒 均質 軟弱。



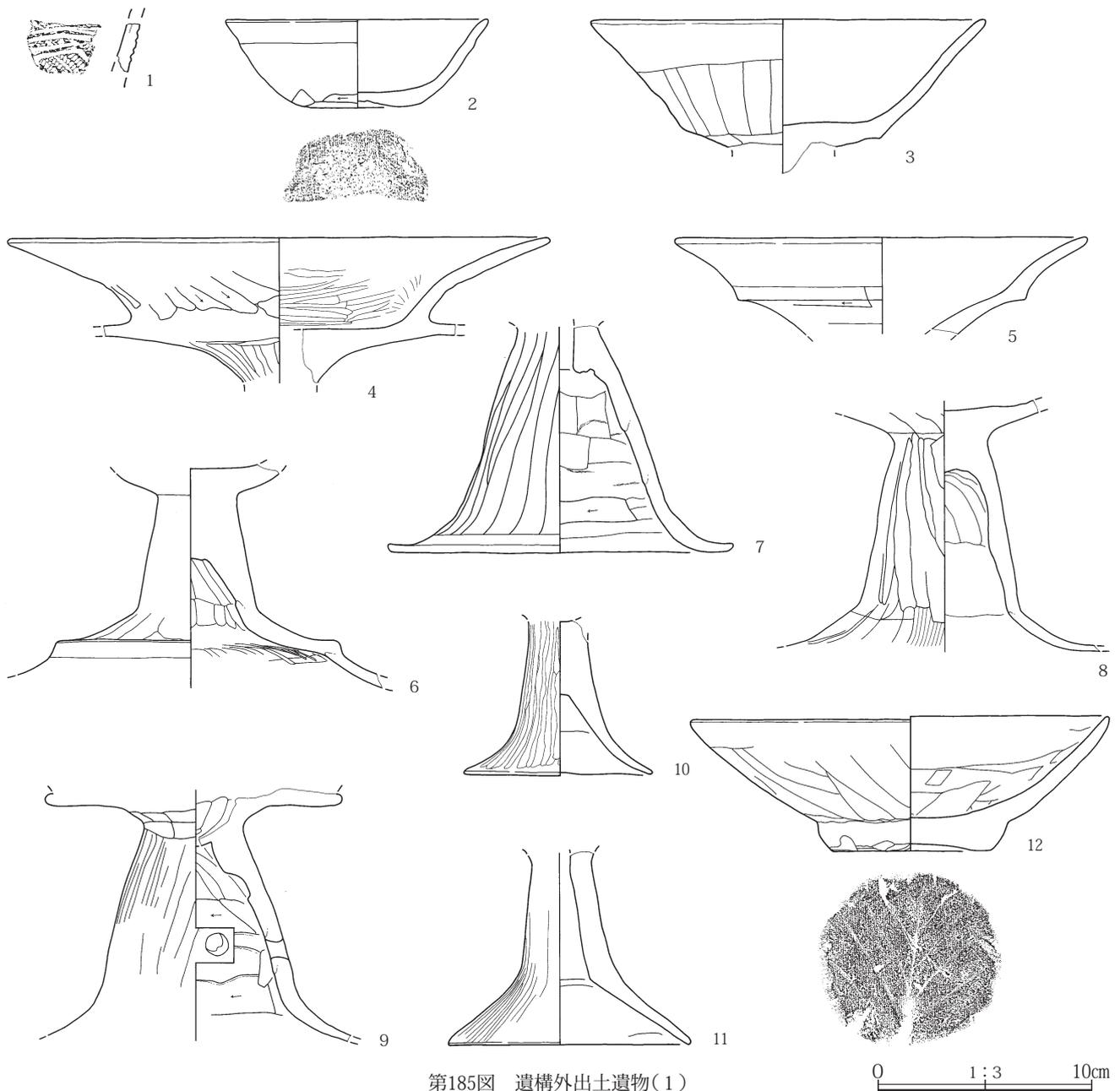
第184図 4区82~87号ピット・5区1・2号ピット平断面

第9節 遺構外出土遺物

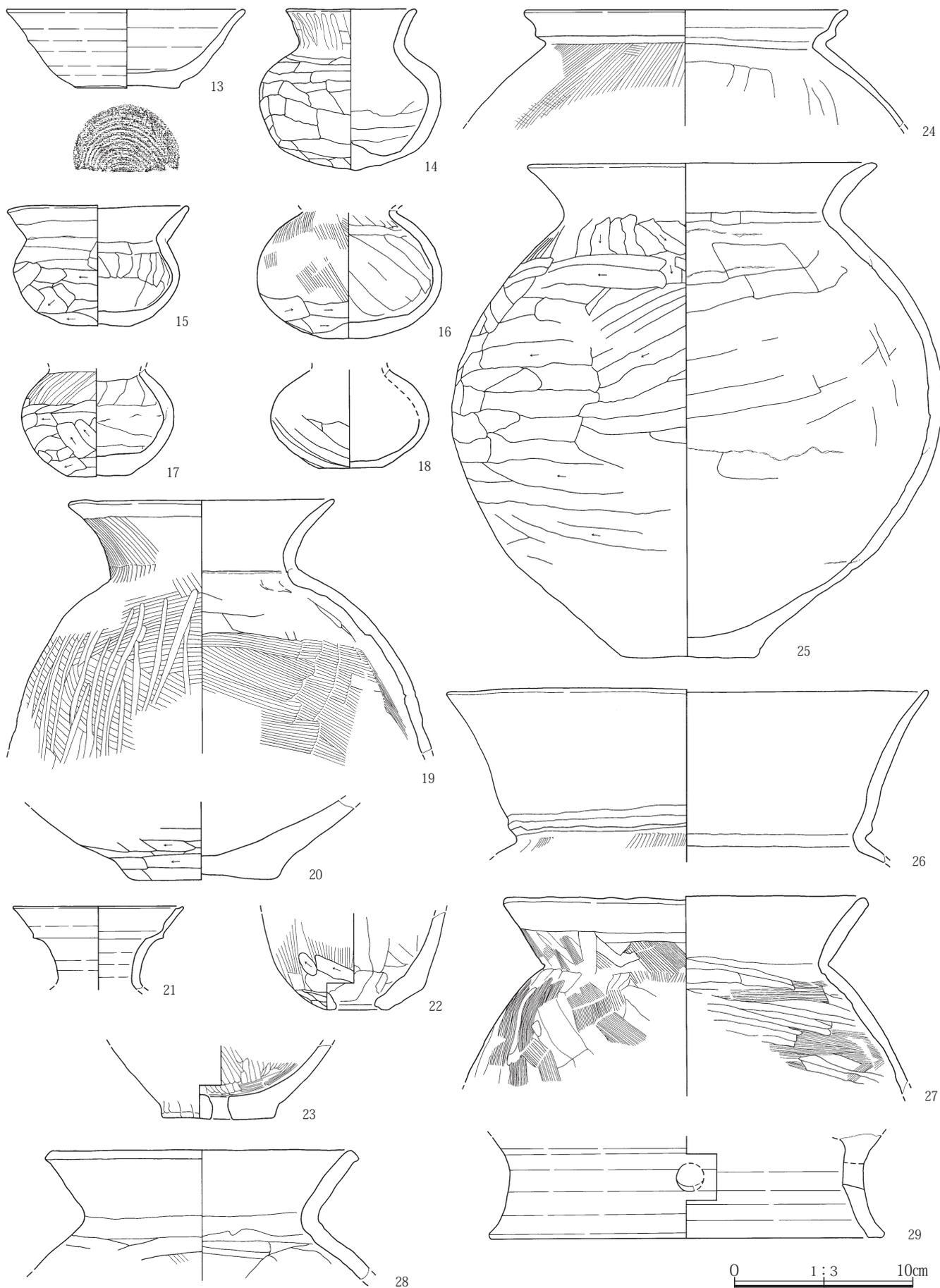
遺構外出土遺物(第185~192図、P L.106~110)は、縄文土器1点(1)、土師器杯1点(2)・高杯9点(3~11)・鉢1点(12)・埴5点(14~18)・壺2点(19・20)・甌2点(22・23)・甕4点(24~27)・台付甕1点(28)・手捏ね3点(31~33)・器種不明1点(34)、須恵器杯1点(13)・甕1点(21)・甌1点(29)・甕1点(30)、埴輪8点(35~42)、中国磁器染付皿1点(43)、近世肥前磁器染付碗1点(44)、製作地不詳磁器白磁小杯1点(45)・染付平椀1点(46)・染付皿1点(47)、益子・笠間陶器すり鉢

1点(48)、近世在地系土器焙烙3点(49~51)・十能瓦15点(52~66)・竈1点(67)、打製石斧1点(68)、石鏃5点(69~73)、磨石1点(74)、砥石2点(75・76)、石製模造品2点(77・78)、管玉1点(79)、石製品1点(80)、文久永寶1点(81)、煙管1点(82)、鉄製品4点(83~86)、を図示した。

遺構外出土遺物は、1区からの出土量は少なく、2~4区からの出土量が多い。2~4区の出土傾向を見ると、2区からは陶磁器や在地系土器(小泉焼)など近世の遺物、3・4区からは土師器など古墳時代~奈良・平安時代の遺物が主体である。その他、図示できなかった小破片遺物については第10表を参照のこと。



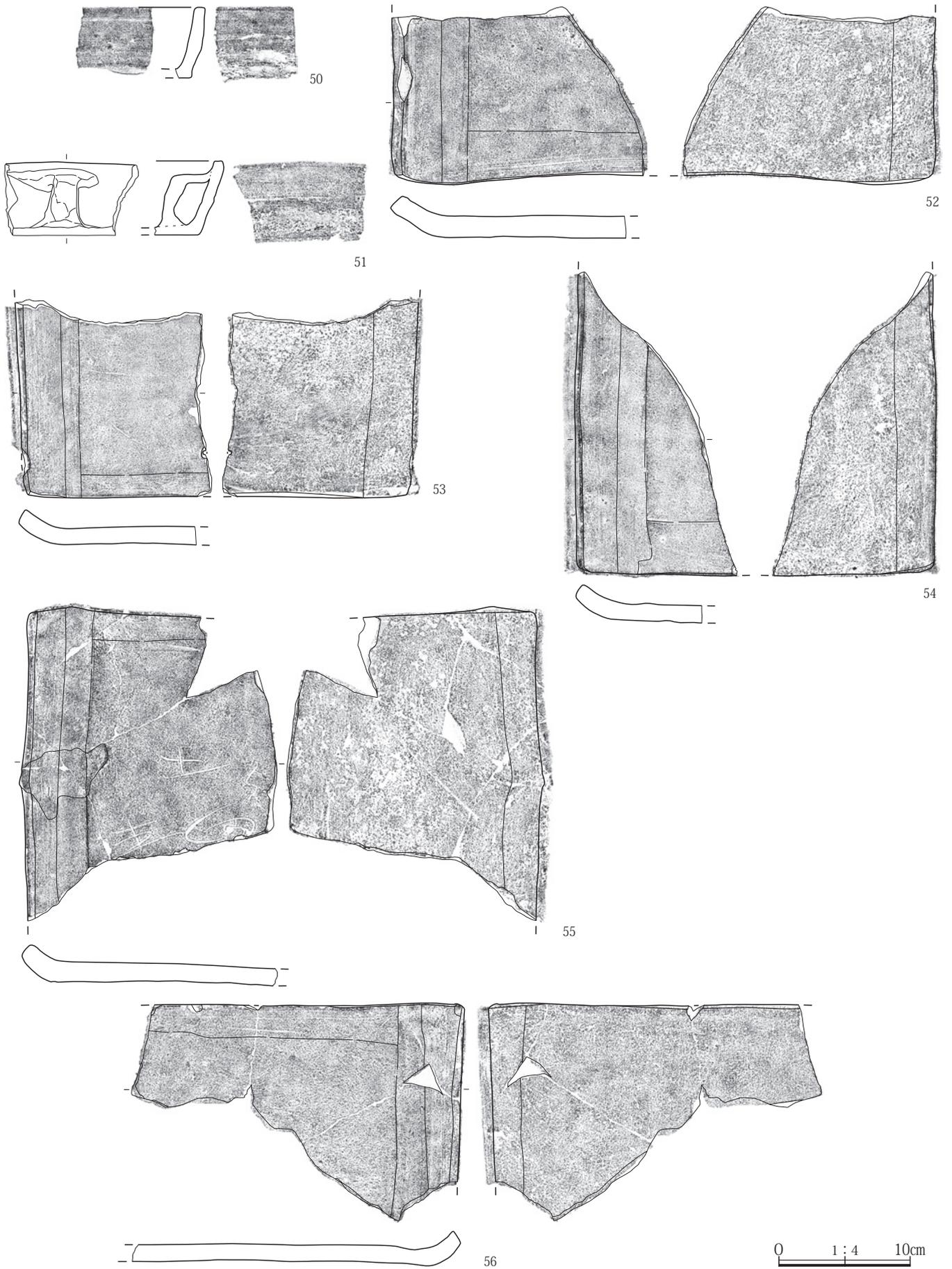
第185図 遺構外出土遺物(1)



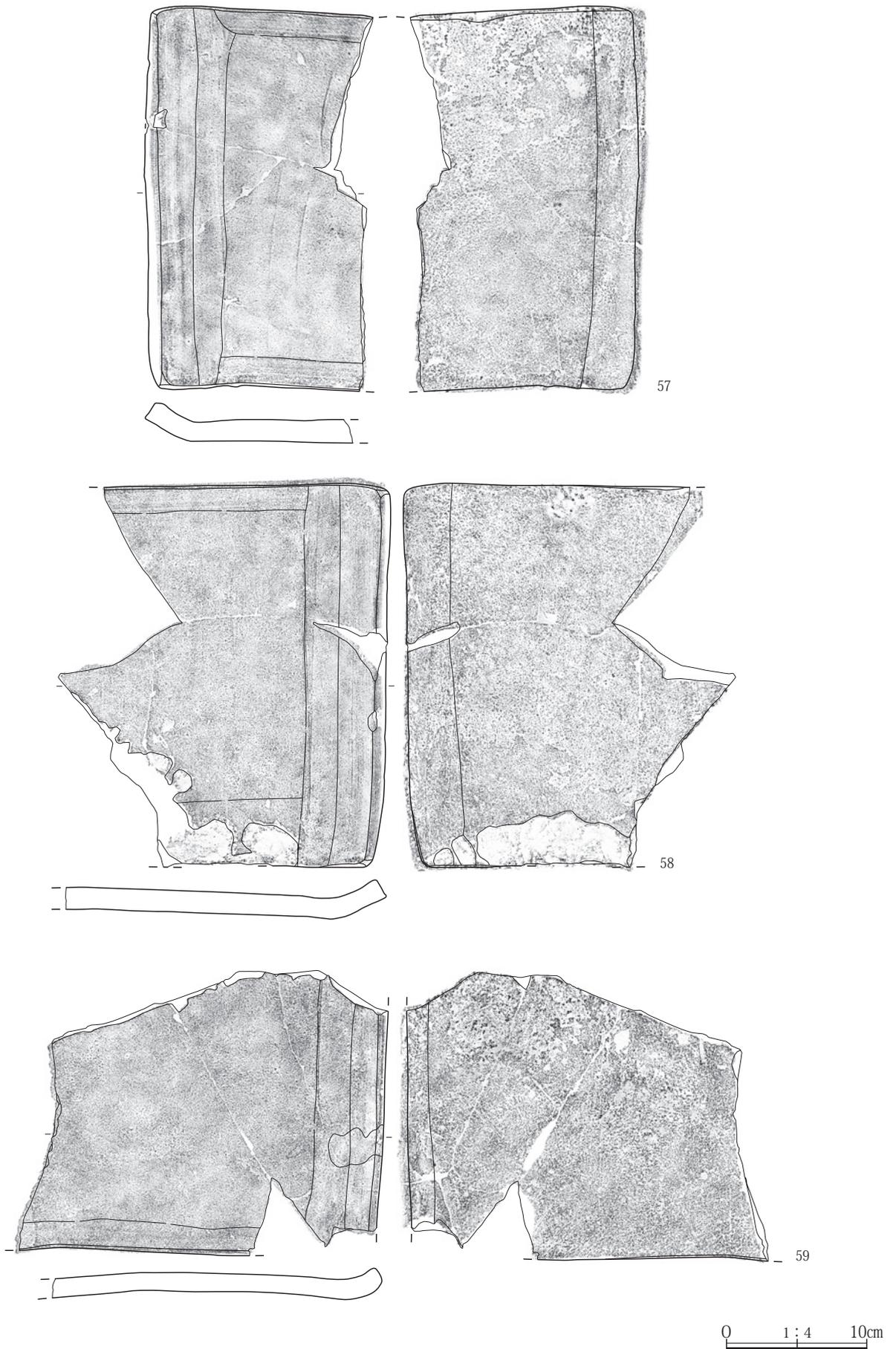
第186図 遺構外出土遺物(2)



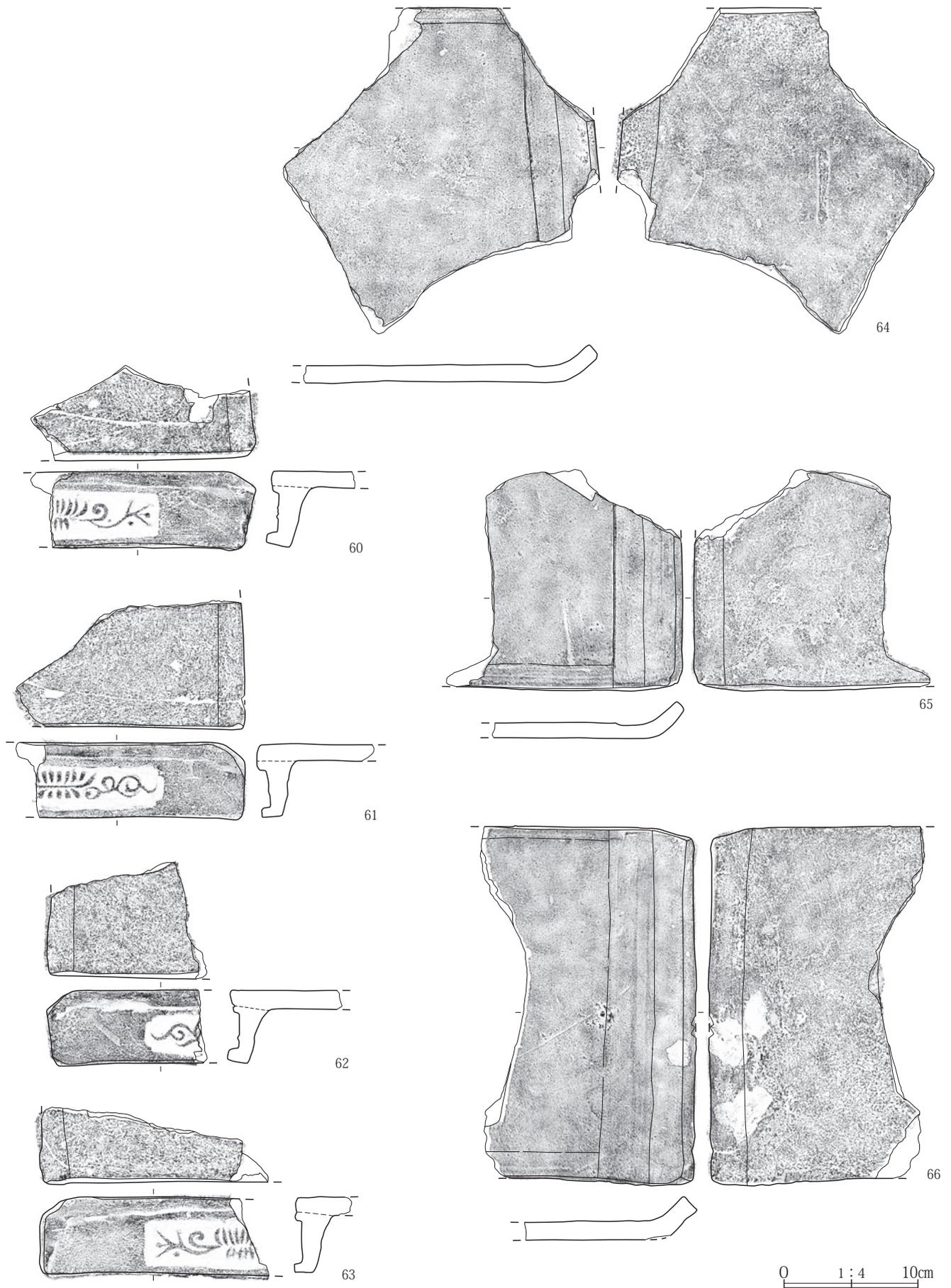
第187図 遺構外出土遺物(3)



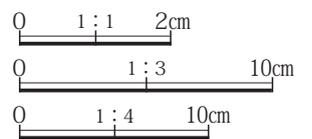
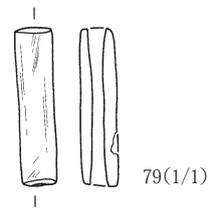
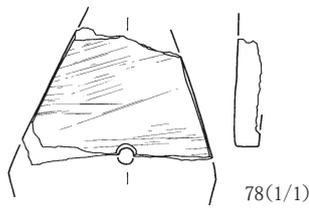
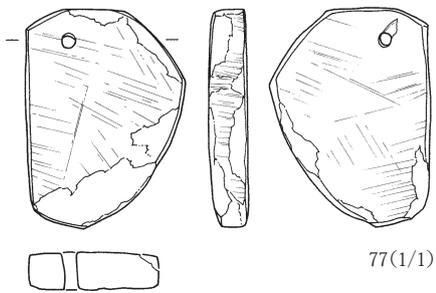
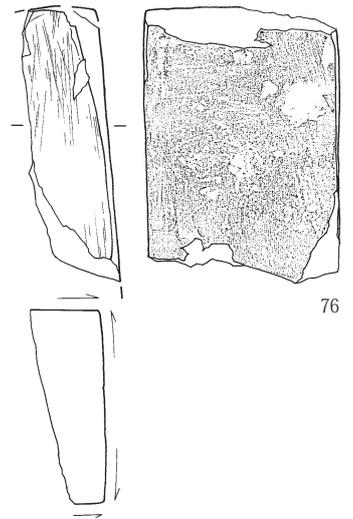
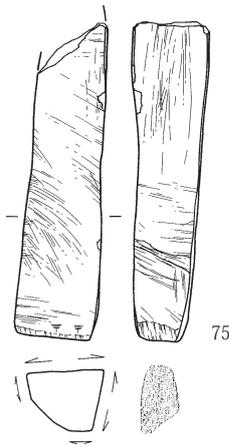
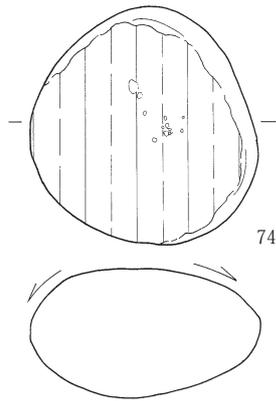
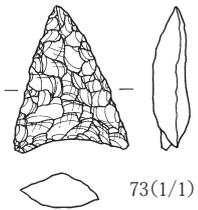
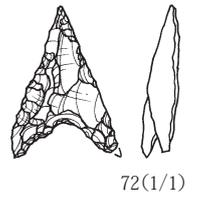
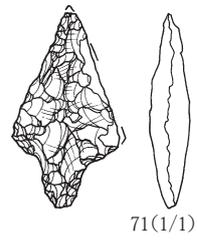
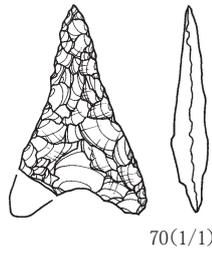
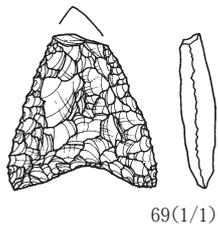
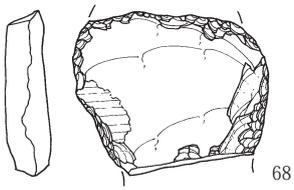
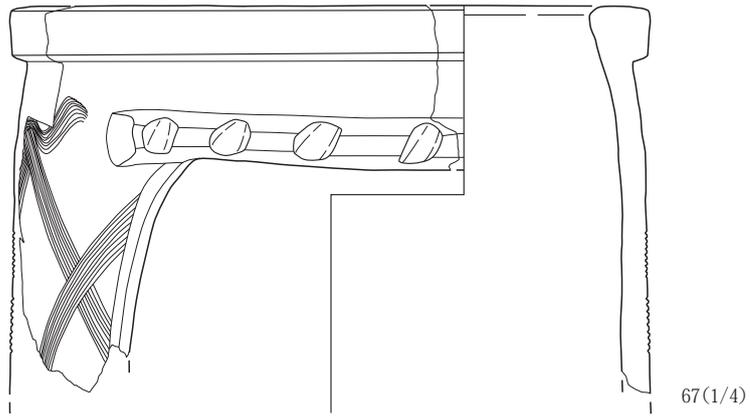
第188図 遺構外出土遺物(4)



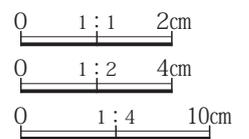
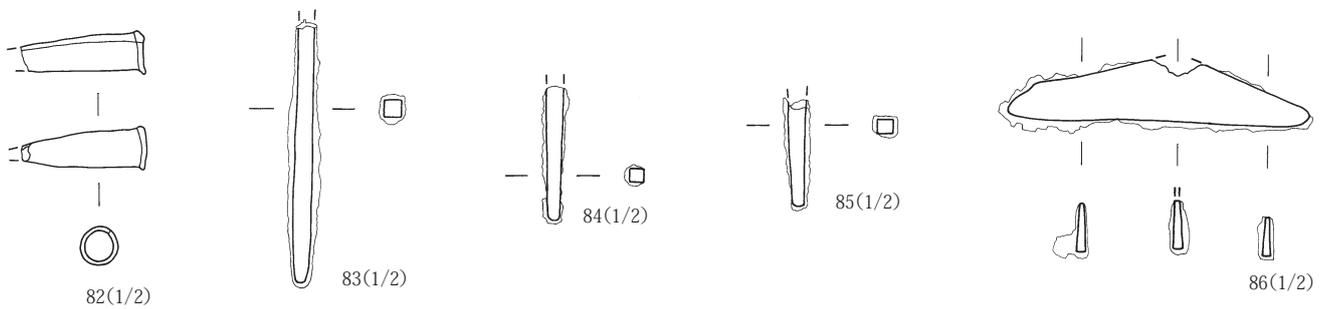
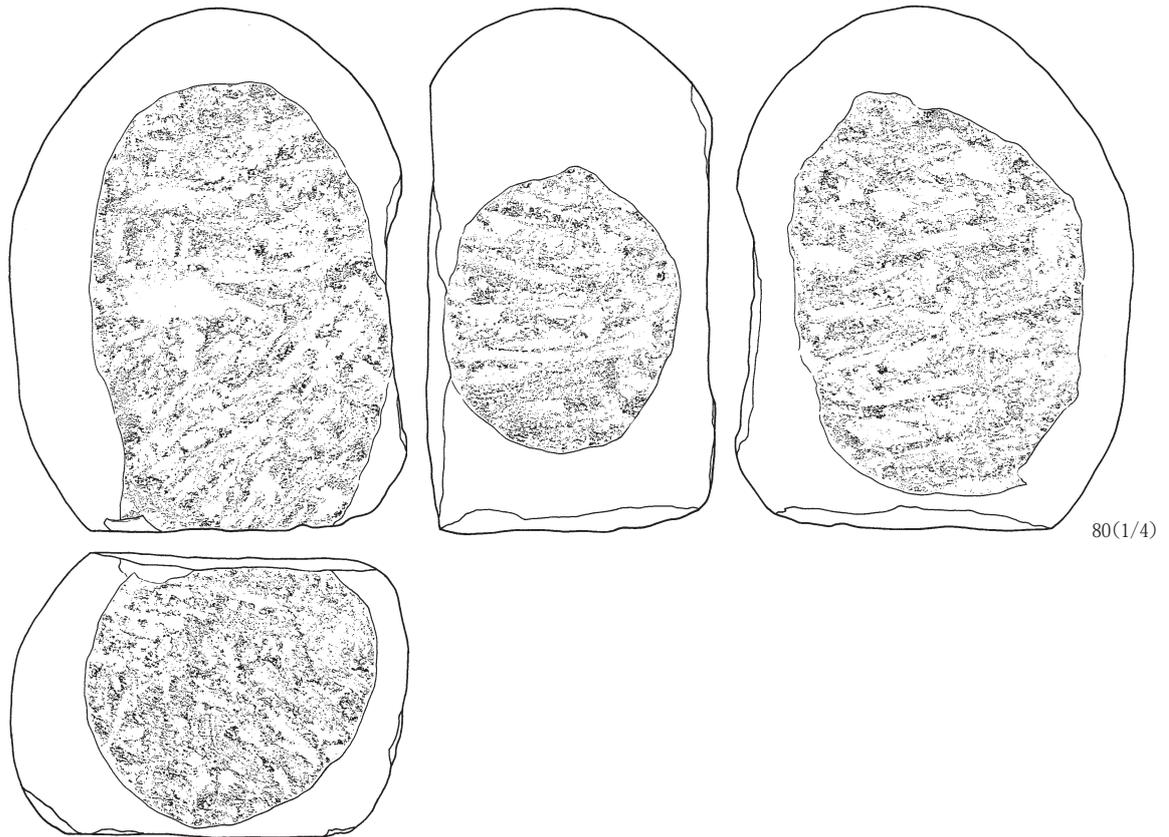
第189図 遺構外出土遺物(5)



第190図 遺構外出土遺物(6)



第191図 遺構外出土遺物(7)



第192図 遺構外出土遺物(8)

第10表 遺構外出土遺物(非掲載)数量表

		土器・陶磁器(単位：g)																
区	古墳～奈良・平安				中世			近世					近現代			時期不明		
	埴輪	土師器	須恵器	灰釉陶器	中国磁器	国産施釉陶器	国産焼締陶器	国産磁器	国産施釉陶器	国産焼締陶器	在地系土器	十能瓦	陶磁器	土器	瓦	ガラス	土器	瓦
1	9	1,596	367				15	32		105	131	14				146		
2	184	1,142	72			19	210	23	38	585	21,083	1,408	1,416	716	147	2,107	614	
3		8,179	174		5	160	6	20		191	101	269	468			1,211		
4		20,782	704	51		16	39	326		263	415	130		56		2,434		
5		2,608	222					262	58	78	524	23		104		211	107	
計	193	34,370	1,539	51	5	16	179	270	663	96	1,222	22,254	1,844	1,884	876	147	6,019	721

		その他(単位：個、剥片のみg)					
区	石器・石製品				金属器		
	石核	敲石	砥石	剥片	鉄製品	古銭	
1					1		
2			1				
3					1		
4	2	1	1	247	3	1	
5							
計	2	1	2	247	5		

第10節 旧石器時代

1. 概要

ローム層上面の縄文時代以降の遺構調査が終了した後、調査区内に2m×5mの調査坑を設定し旧石器時代の調査を行った。石器が出土した場合には、調査坑を拡張し石器群のまとまりを把握するように努めた。

旧石器時代の遺物は2区で157点、4区で10点出土した。2区では、二つの文化層(第1文化層(As-0kGroupが検出されたV層中)、第2文化層(As-BPGroupが検出されたⅧ層中))を確認した。第1文化層は142点の石器で構成され、第2文化層は14点の石器である。また、15号調査坑にて礫1点が単独出土した(第193図)。

4区では、9点の石器で構成される一つの文化層を確認した。その他、古墳時代の溝(5号溝)から、黒曜石製の尖頭器1点が出土した。形状から明らかに旧石器時代の石器と判断できることから、ここで取り扱った。

以下、調査区ごとに調査成果を記述する。

2. 2区の調査(第194~204図、P.L.81~83・111・112)

2区では、157点の石器が出土した。これらの資料は、二つの文化層(第1文化層、第2文化層)に分別された(第197図)。第1文化層は142点の石器で構成され、第2文化層は14点の石器である。その他、15号調査坑から礫1点が単独出土した。この礫は、先述の二つの文化層とは石器分布域を異にし、文化層の帰属については不明である。

(1) 第1文化層の出土石器

142点の石器が確認された。層位別出土点数を第11表に示す。出土層位はⅣ~Ⅶ層で、最も出土が多いのはⅤ層である。Ⅳ層には、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)を含んでおり、Ⅴ層は浅間大窪沢テフラ群(As-0kGroup)を含む層である。また、Ⅶ及びⅧ層で浅間板鼻褐色軽石層群(As-BPGroup)を検出している。以上より、第1文化層の石器群は、層位的にはAs-0kGroupが検出されたⅤ層中に帰属するものと推定される。

出土石器はナイフ形石器、スクレイパー、二次加工あ

る剥片、微細剥離痕ある剥片、剥片、微細剥片である(第12表)。ツールでは、ナイフ形石器が15点と比較的まとまって確認された(折断面で接合する前の資料としては16点確認)。また、剥片・微細剥片は、合計で112点と組成の大多数を占めているが、石核は出土しなかった。

石器石材については、チャートが108点で主体的である。チャートは、渡良瀬川流域等で獲得できる在地石材である。ついで、黒曜石が21点確認された。黒曜石製石器4点を対象とした原産地分析の結果、3点が長野県和田エリア、1点が長野県諏訪エリアと判定された。

i. 出土石器

ナイフ形石器(第194図) 15点出土(折断面で接合する前の資料としては16点確認)。No.22+24はチャート製。石刃を素材とし、二側縁に二次加工が認められる。No.23はチャート製。縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面方向をナイフ形石器の先端方向とする。二側縁加工が認められ、基部の主要剥離面側にも二次加工痕がある。No.67はチャート製。石刃を素材とし、二側縁に二次加工が認められる。No.8はチャート製。縦長剥片を素材とし、二側縁に二次加工が認められる。基部の主要剥離面側にも二次加工痕がある。No.156はチャート製。縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面方向をナイフ形石器の先端方向とする。二側縁に二次加工が認められ、その一部に背面側からの加工痕が観察される。また、基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No.25はチャート製。石刃を素材とし、素材剥片の打面方向をナイフ形石器の先端方向とする。二側縁に二次加工が認められ、基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No.20はチャート製。石刃または縦長剥片を素材とする。二側縁に二次加工が認められ、基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No.160はチャート製。石刃または縦長剥片を素材とする。二側縁に二次加工が認められ、その一部に背面側からの加工痕が観察される。また、基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No.11はチャート製。素材剥片の形態は不明。二側縁に二次加工が認められ、その一部に背面側からの加工痕が観察される。また、中央付近の主要剥離面側にも散発的な二次加工痕が認められる。No.18はチャート製。石刃または縦長剥片を素材とする。二側縁

に二次加工が認められ、基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No. 2はチャート製。素材剥片の形態は不明。二側縁に二次加工が認められ、その一部に背面側からの加工痕が観察される。基部付近の主要剥離面側にも二次加工痕が認められる。No.14はチャート製。縦長剥片を素材とし、素材剥片の打面方向をナイフ形石器の先端方向とする。先端付近と基部付近に部分的な二次加工が認められる。No.128は黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。下部を大きく欠損しており、形態的な特徴については不明である。No.139はチャート製。上部及び下部を大きく欠損しており、形態的な特徴については不明である。No.16はチャート製。上部を大きく欠損しており、形態的な特徴については不明である。

スクレイパー(第195図-27・5) 2点出土。No.27はチャート製。石刃または縦長剥片を素材とし、打面調整痕が認められる。下部を欠損するが、両側縁に連続する二次加工痕がある。No. 5はチャート製。素材剥片の形態的特徴は不明である。一側縁は、片側からの急角度の二次加工で構成される。他の一側縁には両面加工が認められることから、両面加工の尖頭器が製作途上で破損した資料である可能性も否定できない。

二次加工ある剥片(第195図-98・74・3・32・29・38)10点出土。そのうち6点を図示した。No.98はチャート製。上部及び下部を大きく欠損するが、一側縁に二次加工が認められる。No.74はチャート製。大きく欠損しており形態的特徴は不明であるが、一部に刃潰し状の二次加工が認められる。No. 3はチャート製。大きく欠損しており形態的特徴は不明であるが、主要剥離面側の一側縁に二次加工が認められる。No.32はチャート製。石刃または縦長剥片を素材とし、打面調整痕が認められる。下部を欠損するが、一側縁に連続する二次加工がある。No.29は黒曜石製。石刃または縦長剥片を素材とし、打面調整痕が認められる。一側縁に散発的な二次加工が認められる。No.38は黒色頁岩製。ほぼ長幅比1の剥片を素材とし、一側縁に散発的な二次加工が認められる。

微細剥離痕ある剥片(第195図-1・63) 2点出土。No. 1はチャート製。やや横長の剥片を素材とし、一側縁に微細剥離痕が散在する。No.63はチャート製。石刃あるいは縦長剥片を素材とし、一側縁に微細剥離痕が散

在する。

剥片(第195図-7・36・6・165・15・26)21点出土。そのうち6点を図示した。No. 7はチャート製。縦長剥片に分類される資料であり、打面調整痕が認められる。No.36は黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。縦長剥片に分類される資料である。No. 6はチャート製。やや幅広の剥片に分類される。No.165は黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。No.15はチャート製。上部を欠損する。No.26はチャート製。自然面を打面としている。

微細剥片(第195図-53・73) 91点出土。最大長20mm未満の剥片を微細剥片として分類した。特徴的な形態の資料2点を図示した。No.53とNo.73は共にチャート製。両資料ともブランディングチップである。

ii. 接合資料

接合資料は5点確認された。以下、各接合資料について記述する。

接合1(第196図)チャート製の剥片4点が接合した資料である。同一打面から剥片を連続的に剥離する状況が観察される。これらの剥片は、いずれも縦長剥片に分類される資料であり、No.19+167には、打面調整痕が認められる。特にNo.10・17・21は、石刃として理解することも可能である。

接合2(第196図)チャート製の剥片2点が折断面で接合した資料である。接合によって復元された剥片(No.12+13)は、石刃として理解することもできる。打面調整痕が認められる。背面構成をみると、剥離方向が同一であり打面方向からの剥離面で構成されることから、単設打面による石核から剥離された可能性がうかがわれる。

接合3(第194図-22+24)折断面の接合によって、チャート製のナイフ形石器1点が復元された資料である。このナイフ形石器は石刃素材と考えられる。

接合4(PL.199)黒曜石製の剥片2点が接合した資料である。同一打面から連続して小形剥片を剥離する状況が観察できる。No.41は原産地分析の対象資料であり、長野県諏訪エリアと判定された。

接合5(第196図)黒色頁岩製の剥片2点が接合した資料である。同一打面から剥片を連続的に剥離する状況が

観察される。この二つの剥片の背面構成をみると、打面方向からの剥離方向を示す剥離面が非常に優勢であることから、打面を固定し剥片剥離を進行させる工程がうかがわれる。No.37+42+170は、3点の資料が折断面で接合し1点の剥片が復元されたものである。

iii. 石器の分布

2区第1文化層は、2区の西部で検出された(第197図)。長径約20mの長楕円形の範囲に石器が散在する状況が観察される。いくつかの地点に石器が集中する傾向が認められるが、全域にわたり散在する状況からブロック等の石器のまとまりを判別するのは極めて困難である。

接合資料の分布状況(第197図)接合1においては、約15m離れた位置で出土した石器どうしでの接合関係が認められる。それ以外の接合資料は、ほぼ近接した位置関係での接合が観察される。接合2は、折断面の接合によって縦長剥片(石刃)が復元された資料であり、接合3は、

同じく折断面の接合によってナイフ形石器が復元された資料である。この二つの接合資料に関しても、近接した位置間での接合関係が認められる。

器種別石器の分布状況(第198図)特に、微細剥片が、石器分布域の全体にわたり分布している状況が認められる。微細剥片は、石器製作にともなって特徴的に生み出される器種であることから、石器製作を反映した石器分布と評価される。また、ナイフ形石器の分布について、偏りが認められる。東側の分布域に数多く分布する様子が観察される。スクレイパー及び微細剥離痕ある剥片の分布も、南側に限定される。

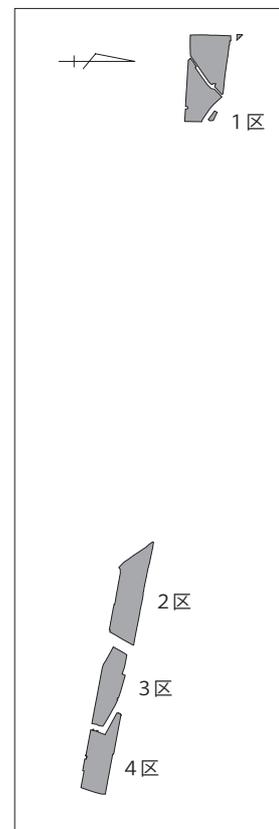
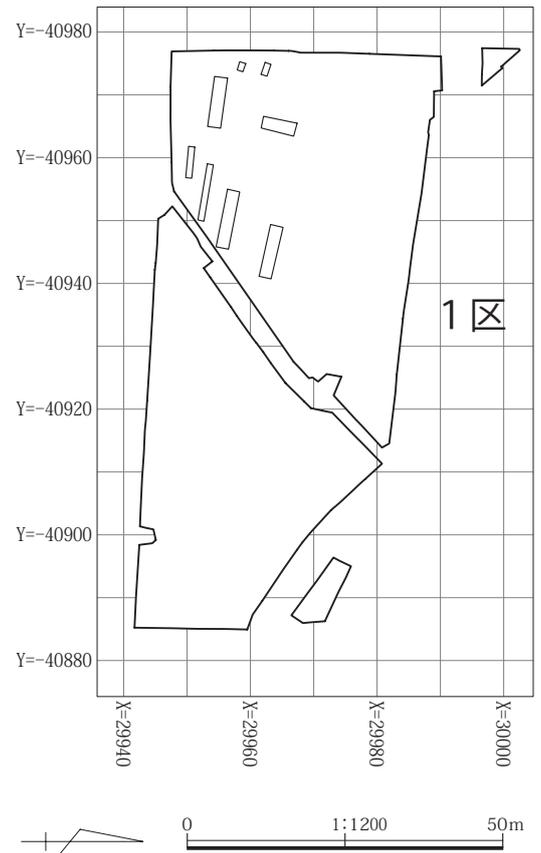
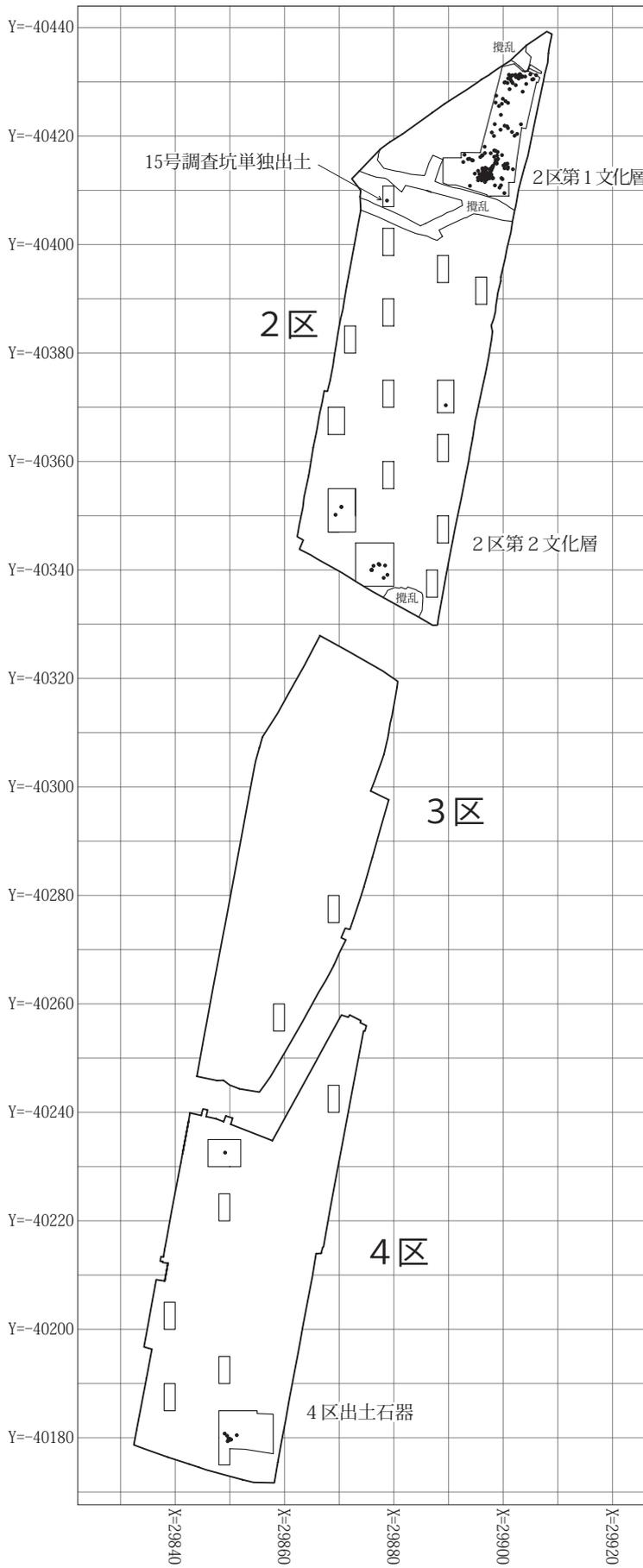
石材別石器の分布状況(第199図)チャート製石器の分布をみると、石器分布域の全域にわたり分布する状況が認められる。黒曜石製の石器は、西側分布域に偏って分布する傾向が認められる。器種組成をみると、チャート及び黒曜石において、微細剥片が相当数組成していることから(第12表)、両石材による石器製作活動が盛んであったと考えられる。また、黒色頁岩製石器は、西側分

第11表 2区第1文化層層位別出土点数

層位	点数
IV	21
V	62
VI	39
VII	20
合計	142

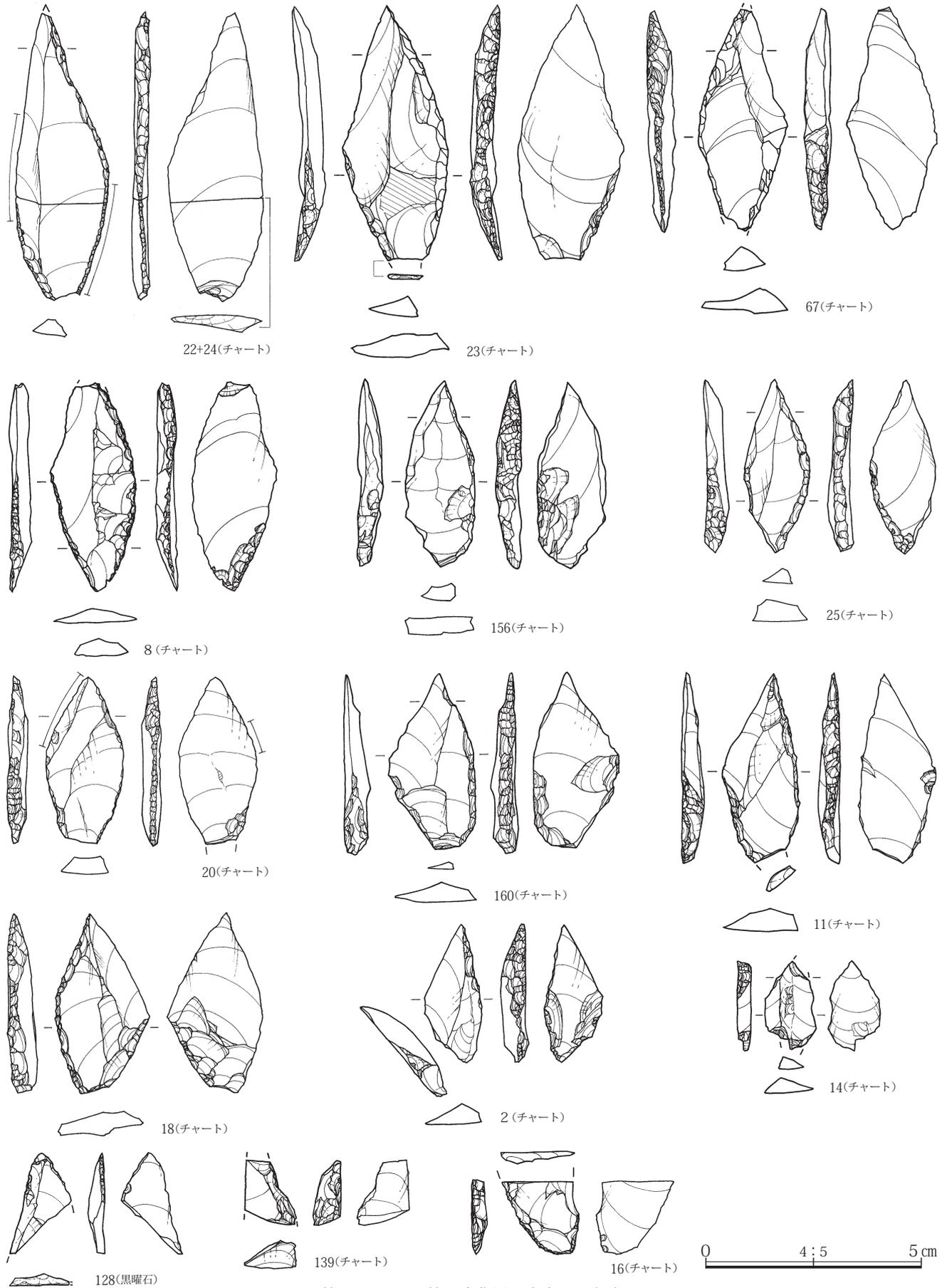
第12表 2区第1文化層石材別器種点数

器種\石材	黒曜石	チャート	黒色頁岩	頁岩	ホルンフェルス	流紋岩	合計
ナイフ形石器	1	15					16
スクレイパー		2					2
二次加工ある剥片	2	6	2				10
微細剥離痕ある剥片		2					2
剥片	4	12	4		1		21
微細剥片	14	71	1	4		1	91
合計	21	108	7	4	1	1	142

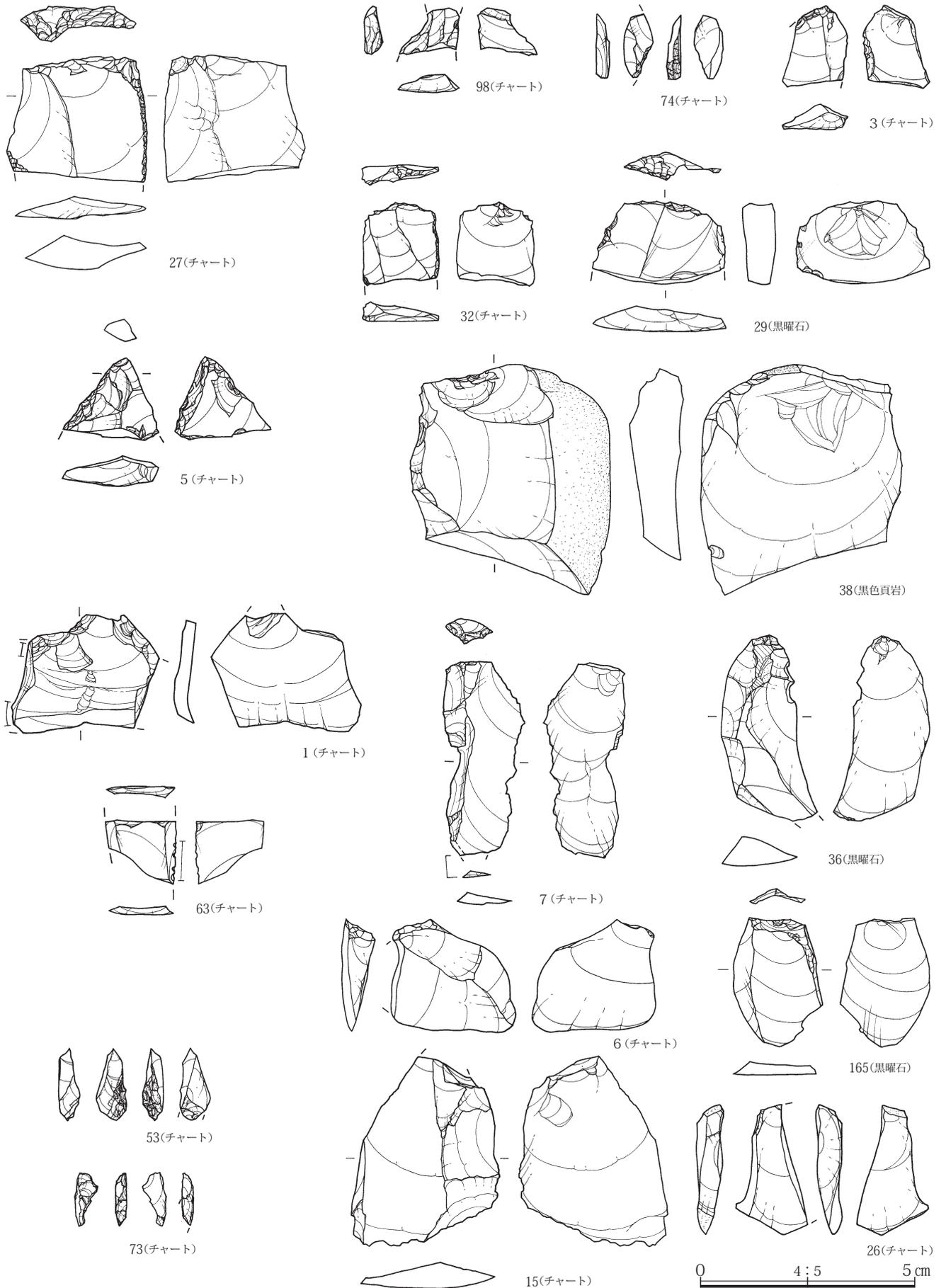


第193図 田谷遺跡、旧石器時代の石器出土状況

接合3

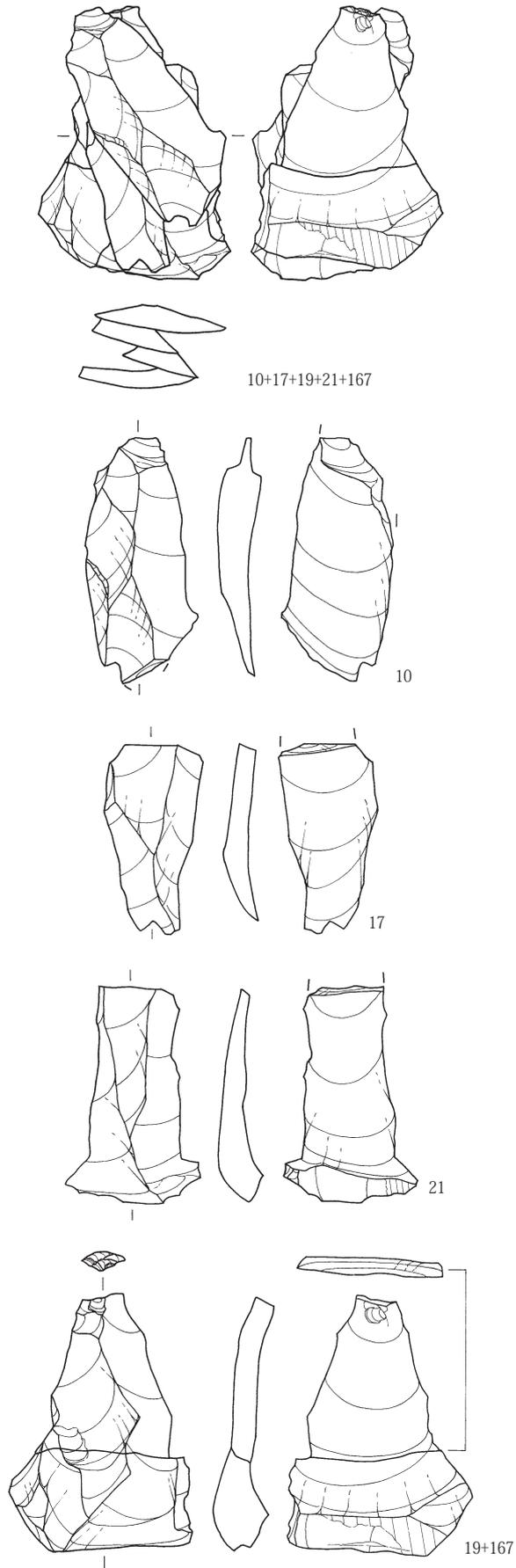


第194図 2区第1文化層、出土石器(1)

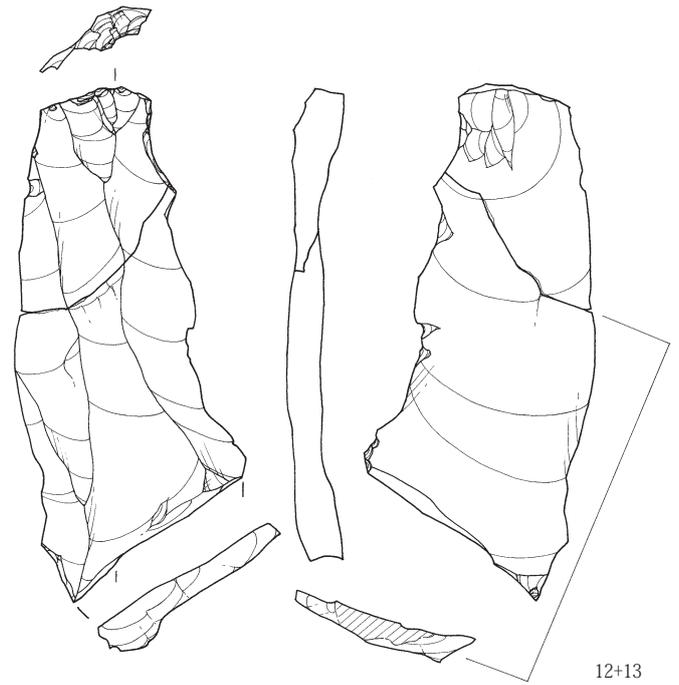


第195図 2区第1文化層、出土石器(2)

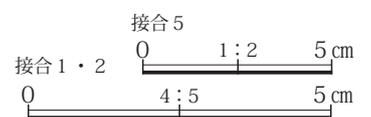
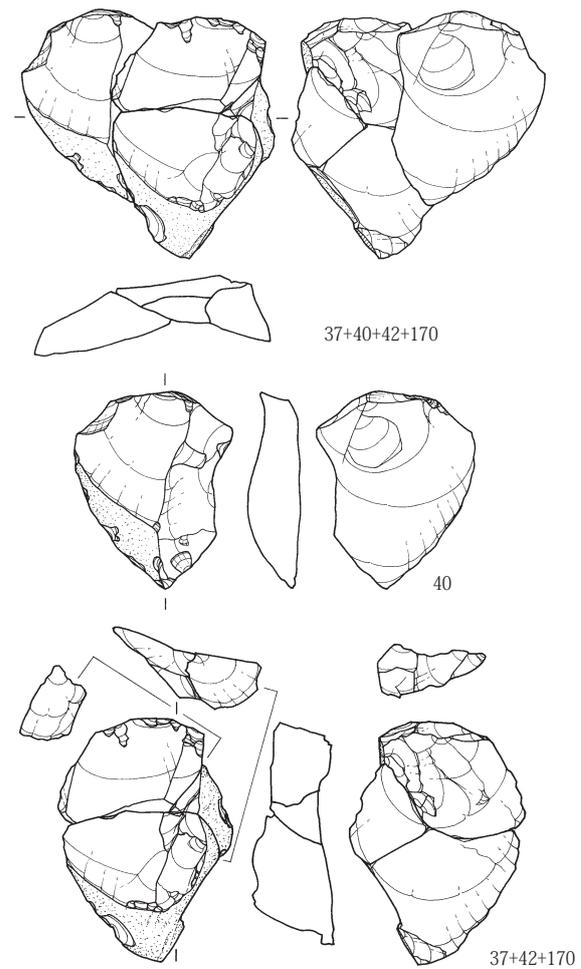
接合1 (チャート)



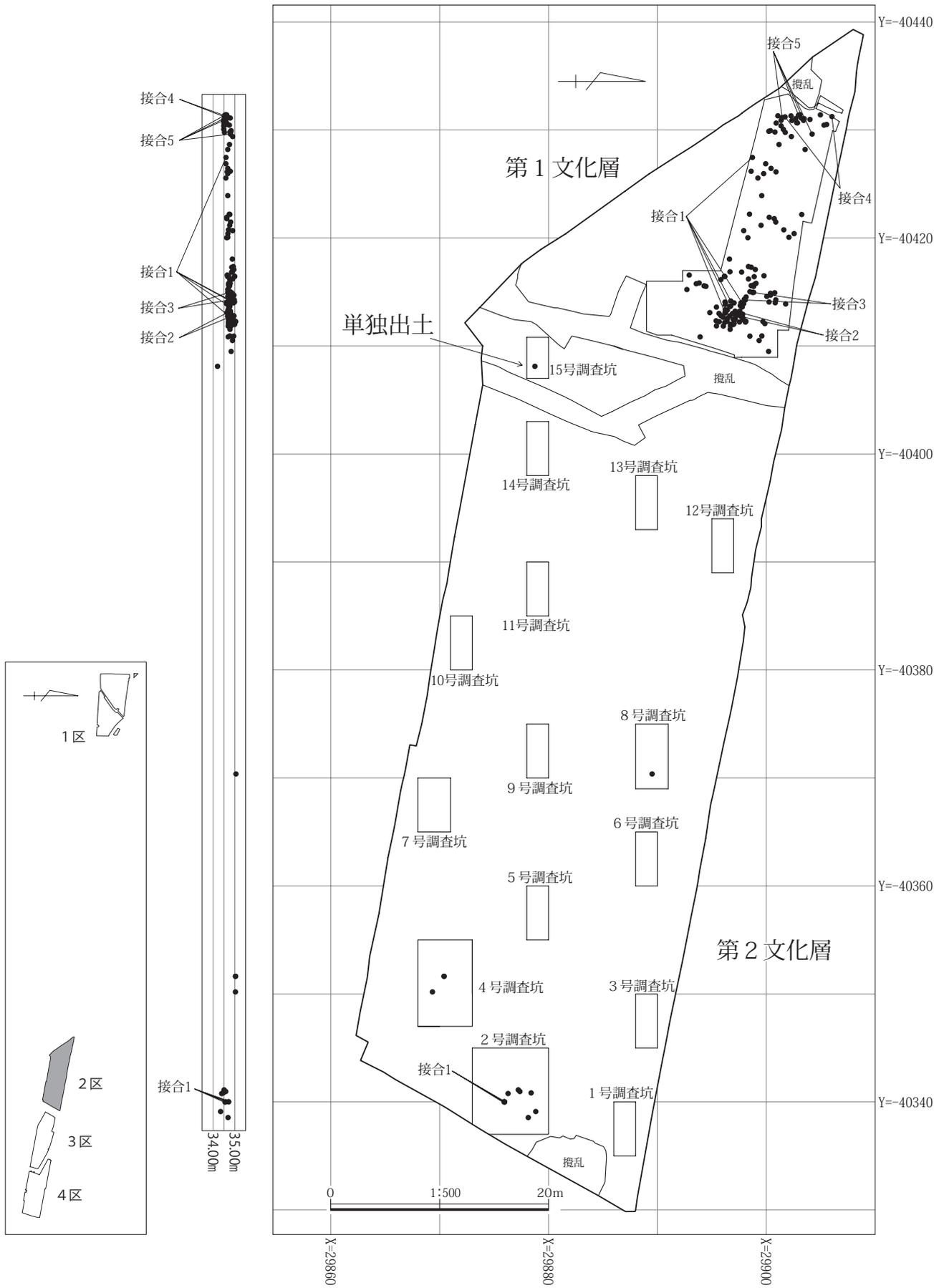
接合2 (チャート)



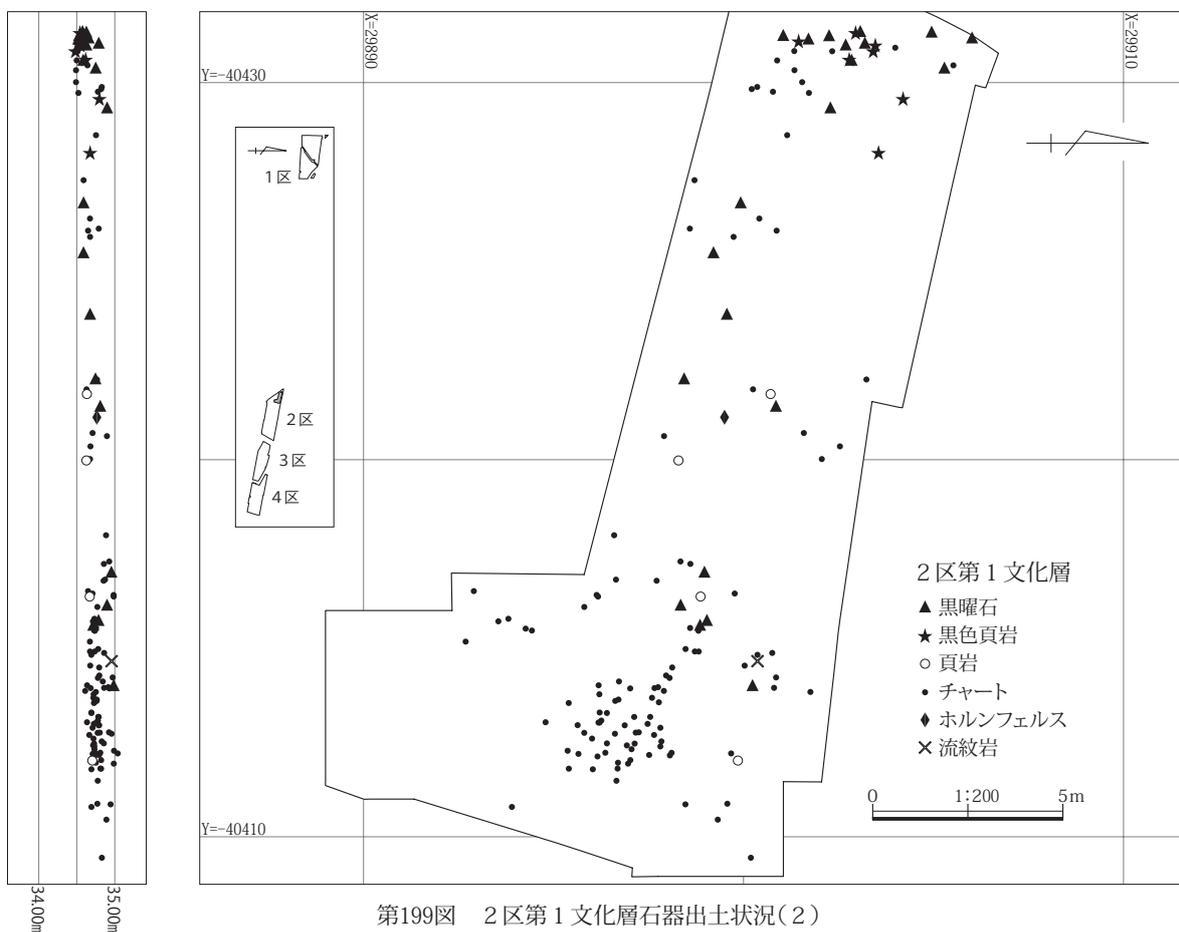
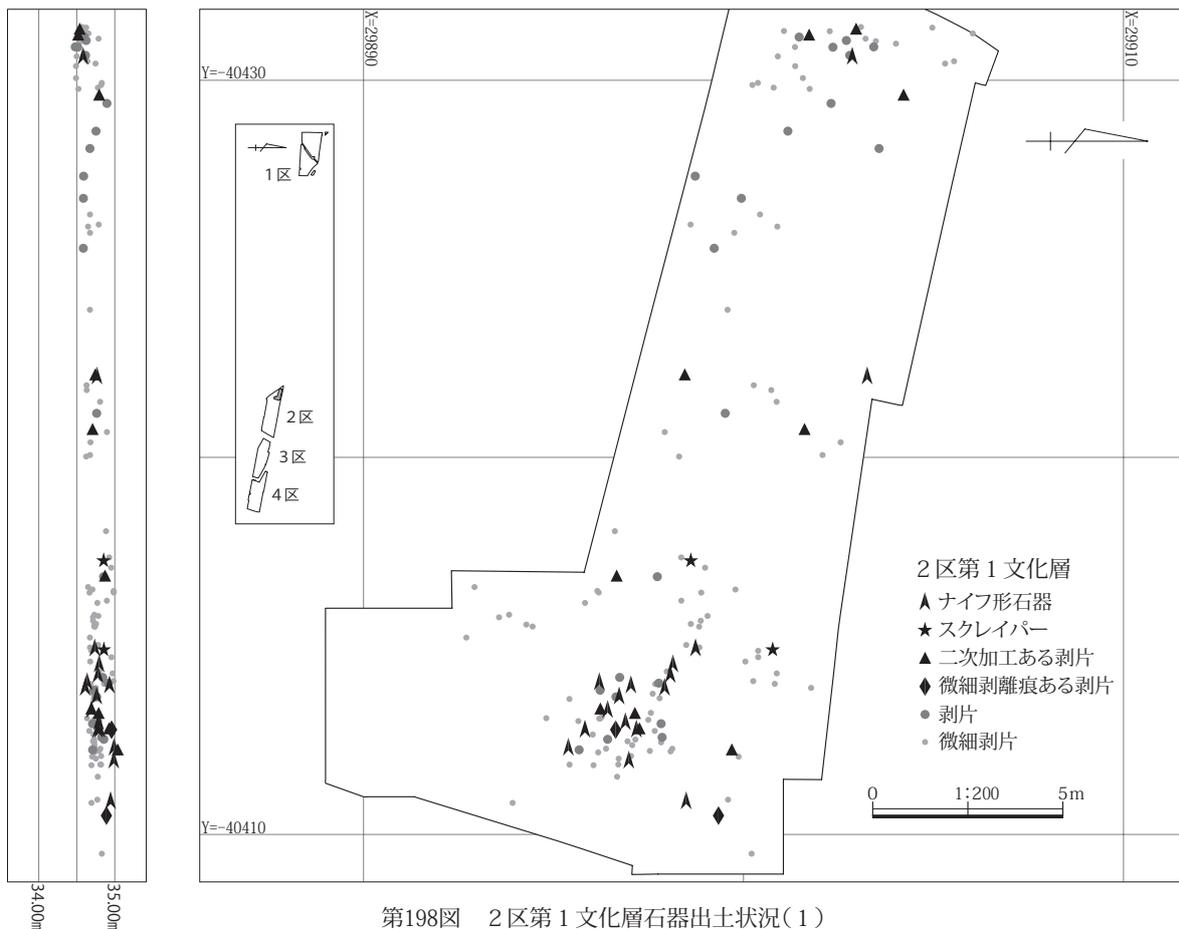
接合5 (黒色頁岩)



第196図 2区第1文化層、出土石器(3)



第197图 2区石器出土状况



布域に限定分布している。

(2) 第2文化層の出土石器

14点の石器が確認された。層位別出土点数を第13表に示す。出土層位はV～Ⅷ層で、最も出土が多いのはⅧ層である。V層は浅間大窪沢テフラ群(As-0kGroup)を含む層であり、Ⅶ及びⅧ層で浅間板鼻褐色軽石層群(As-BP Group)を検出している。層位別出土点数をみると、V層出土点数は4点認められ比較的多く出土している。それらはいずれも微細な遺物(微細剥片)であることを考えると、第2文化層の石器群は、層位的にはAs-BPGroupが検出されたⅧ層中に帰属すると判断される。

出土石器はナイフ形石器、石刃、微細剥離痕ある剥片、剥片、微細剥片である(第14表)。ツールでは、ナイフ形石器が1点確認され、石刃が1点認められた。また、剥片・微細剥片は、合計で10点と組成の大多数を占めているが、石核は出土しなかった。

石器石材については、黒曜石が11点で主体的である。黒曜石製石器5点を対象とした原産地分析の結果、全て長野県和田エリアと判定された。

i. 出土石器

ナイフ形石器(第200図-7) 1点出土。黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。上部を大きく欠損しており形態的な特徴の詳細は不明であるが、厚手の縦長剥片を素材としていと考えられる。一側縁に刃潰し状の二次加工が認められる。基部付近の背面側に稜上剥離痕が集中する。この稜上剥離痕の一部は、右側面の基部方向からの二次加工痕より新しい痕跡であることから、稜上剥離痕は二次加工と判断するのが妥当と考えられる。

石刃(第200図-4) 1点出土。黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。背面構成をみる

と、打面と180°方向の剥離面があることから、両設打面の石核から剥離されたと考えられる。

微細剥離痕ある剥片(第200図-2) 1点出土。黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。縦長剥片を素材とする。側縁の一部において、主要剥離面側と背面側の両面に微細剥離痕が認められる。

剥片(第200図-5・6) 4点出土。そのうち2点を図示した。No.5は黒曜石製。原産地分析の結果、長野県和田エリアと判定された。角礫を利用しており、自然面打面である。No.6は黒色安山岩製。打面と直交する方向に大きく折断面が認められるが、主要剥離面の打点付近から剥離が進行していることから、剥片剥離時の同時割れと考えられる。

ii. 接合資料

接合資料は1点確認された。

接合1(第200図)黒曜石製の剥片2点及び微細剥片2点が折断面で接合し、一つの縦長剥片が復元された資料である。原産地分析の結果(No.3)、長野県和田エリアと判定された。打面調整痕が認められる。また、背面には自然面が大きく残されており、その形状をみると角礫を利用していることが分かる。

iii. 石器の分布

2区第2文化層は、2区の東部で検出された(第197図)。2号調査坑では径約4mの円形の範囲に石器が集中する。その他、少数の石器が広範囲に散在する状況が認められる。特に、8号調査坑及び4号調査坑で検出された遺物は、石器集中地点から離れており、出土層位及び出土レベルもやや上位に位置する。よって、それらの石器が異なる文化層に帰属する可能性も否定できない。しかし、特に4号調査坑で出土した石器は全て黒曜石製であり、石器集中部で検出された石器群も黒曜石製が主

第13表 2区第2文化層層位別出土点数

層位	点数
V	4
Ⅶ	3
Ⅶ～Ⅷ	2
Ⅷ	5
合計	14

第14表 2区第2文化層石材別器種点数

器種\石材	黒曜石	黒色安山岩	頁岩	ホルンフェルス	合計
ナイフ形石器	1				1
石刃	1				1
剥片	3	1	1		5
微細剥離痕ある剥片	1				1
微細剥片	5			1	6
合計	11	1	1	1	14

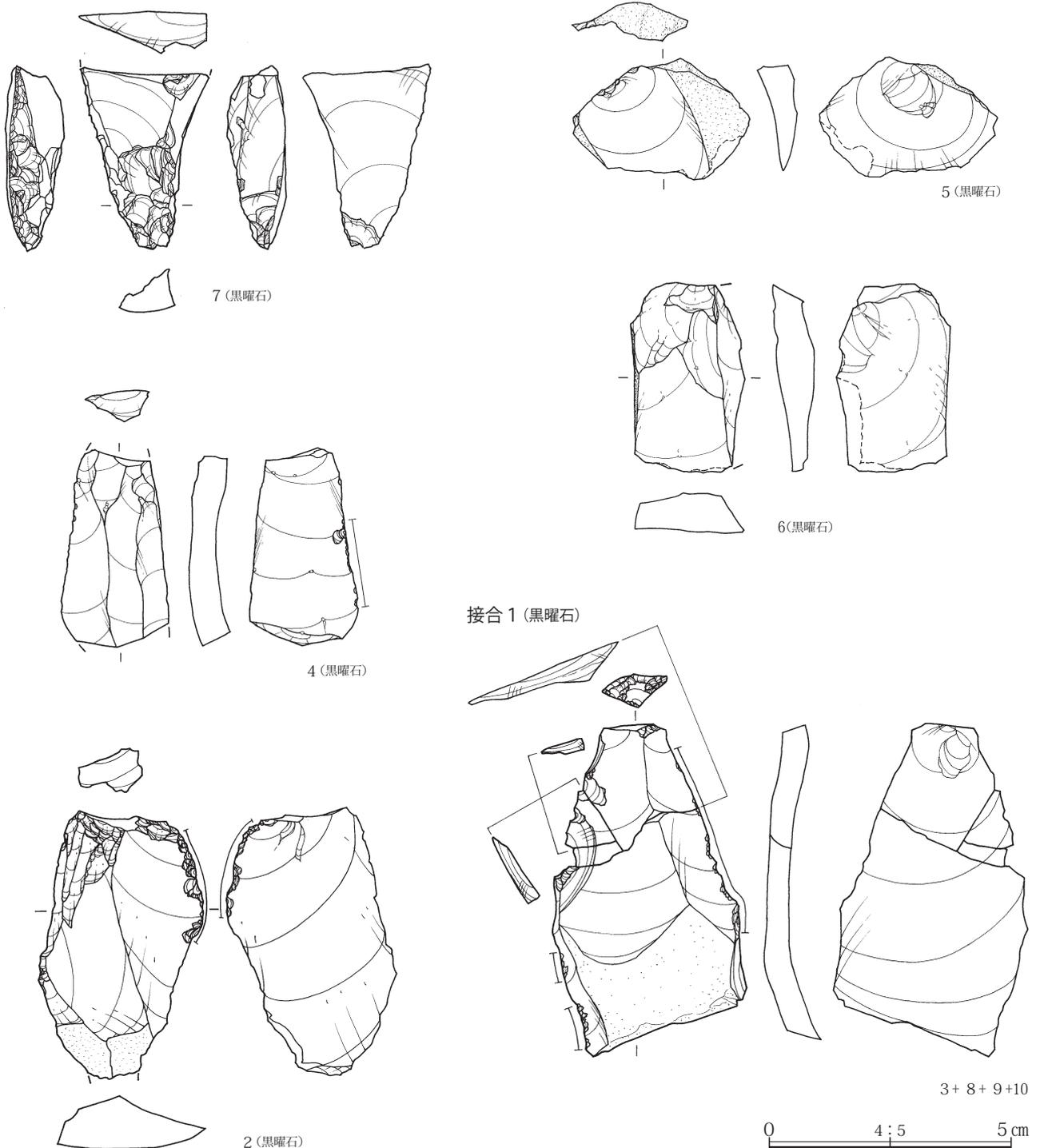
体である。よってここでは、8号調査坑及び4号調査坑で検出された石器も同一文化層であると判断した。

接合資料の分布状況(第201図)接合1は、黒曜石製の剥片2点及び微細剥片2点が折断面で接合し、一つの縦長剥片が復元された資料である。極めて近接した範囲での接合関係が認められる。

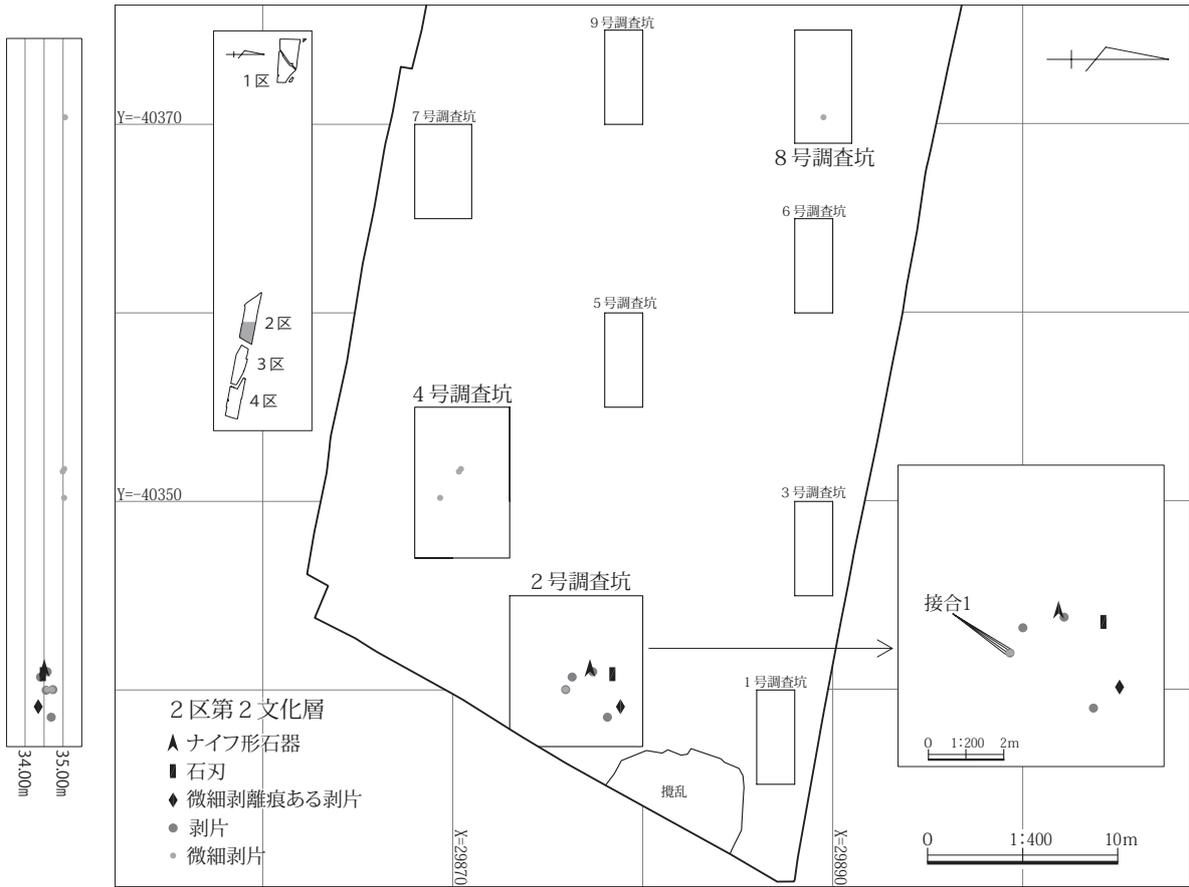
器種別石器の分布状況(第201図)2号調査坑において、

約4mの円形の範囲に石器が集中するが、微細剥片の出土点数は多くなく、石器製作活動は低調であったと評価される。

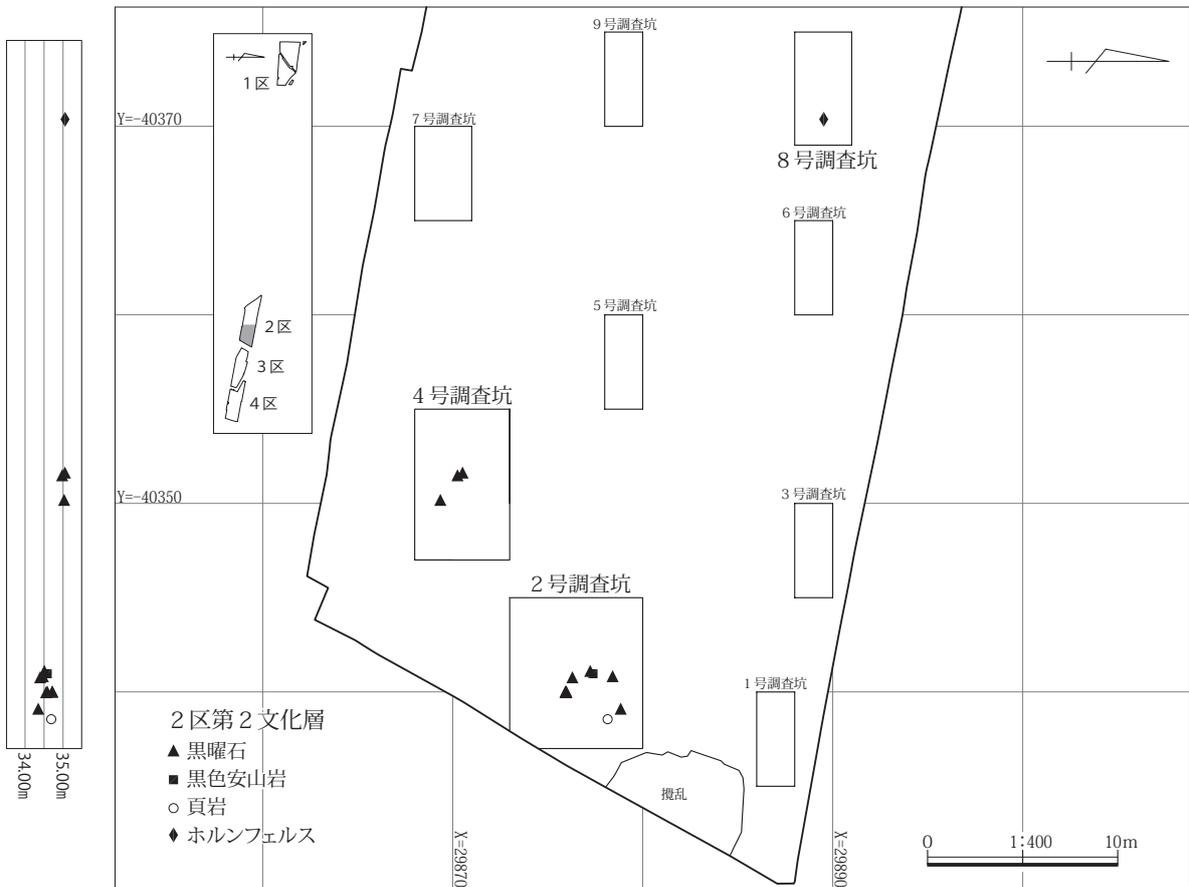
石材別石器の分布状況(第202図)8号調査坑では、ホルンフェルス製の微細剥片が出土している。4号調査坑では、黒曜石製の微細剥片が3点出土した。2号調査坑において、小規模な石器集中部を認識できるが、黒曜石製石器が主体であり、黒色安山岩製の剥片1点と頁岩製



第200図 2区第2文化層、出土石器



第201図 2区第2文化層石器出土状況(1)



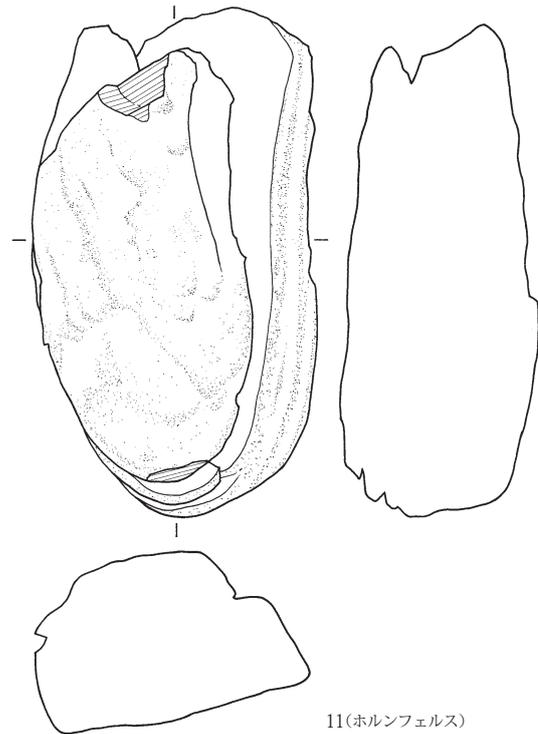
第202図 2区第2文化層石器出土状況(2)

の剥片1点が確認された。

(3) 15号調査坑の出土石器(第203、204図)

2区西側の15号調査坑から、ホルンフェルス製の礫1点が単独出土した。出土層位は、Ⅶ～Ⅷ層となっている。Ⅶ層及びⅧ層は、浅間板鼻褐色軽石層群(As-BPGroup)を含む層準である。比較的近接した地点に、先述した2区第1文化層の石器群が位置しているが、それらは、浅間大窪沢テフラ群(As-OkGroup)が検出されたⅤ層中に帰属するものである。よって、15号調査坑から出土した礫は、2区第1文化層石器群とは異なるものと判断され、層位的には2区東側から出土した第2文化層とした石器の出土層位に近い。

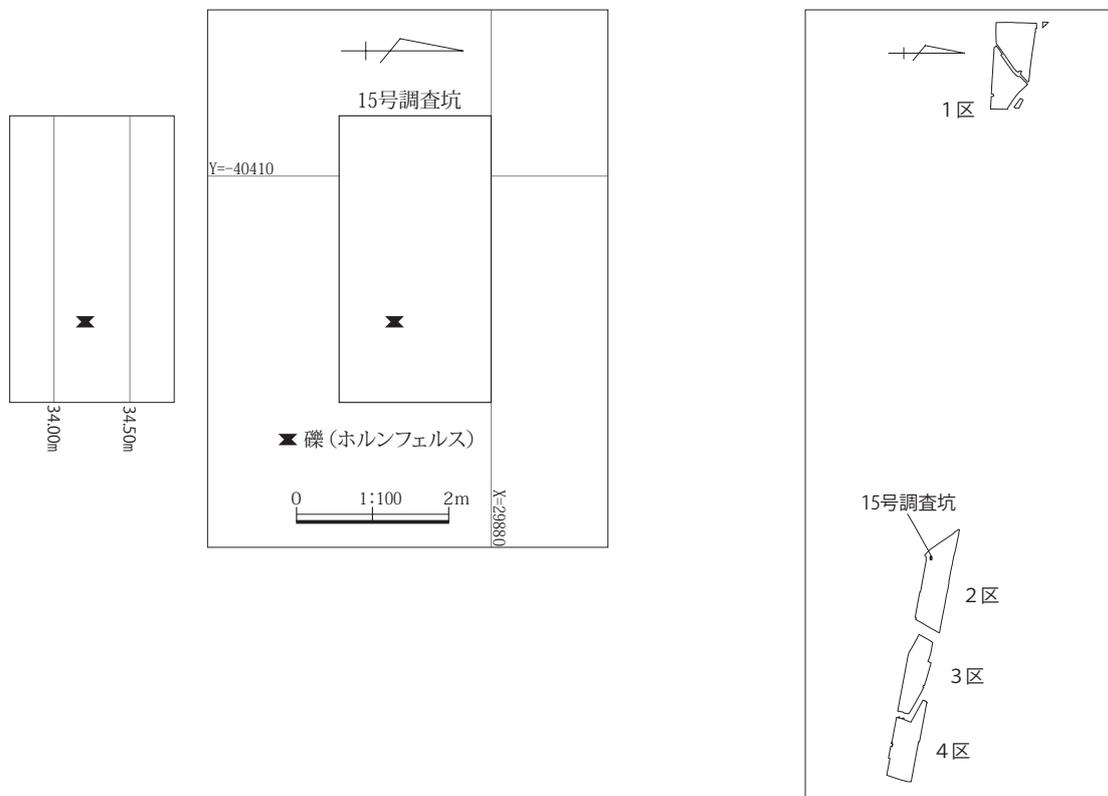
ホルンフェルス製の礫は、表面が部分的に剥落している。風化が著しいことから、この剥落痕が敲打等の痕跡であるのか、あるいは風化による剥落なのか判別できない。



11(ホルンフェルス)



第203図 15号調査坑、出土石器



第204図 15号調査坑、石器出土状況

3. 4区の調査(第205~209図、P.L.84)

4区では、9点の石器が確認された(第207図)。1号調査坑で8点出土し、9号調査坑で1点確認された。発掘調査時に個別石器の出土層位を記録していないが、調査時写真をみると、浅間板鼻褐色軽石層群(As-BP Group)を含むⅦ層からⅧ層にかけて出土している。

1号調査坑で出土した8点は、すべて同じ接合資料である(接合資料1)。9号調査坑から出土した1点は、1号調査坑とは約50m離れて出土しているが、出土レベルが同じであることから同一の文化層として理解した。

i. 出土石器

全出土石器は9点であるが、そのうちの8点は、すべて同じ黒色安山岩製の接合資料に分類された(接合資料1)。この接合資料1は、全て剥片で構成される。他の1点は、黒色頁岩製の二次加工ある剥片である。

接合1(第205図)黒色安山岩製の剥片4点が接合した資料である。No. 2 + 3とNo. 4 + 7 + 8は、折断面の接合によってそれぞれ1個体の剥片が復元された資料である。大人の拳の半分程度の大きさの小形円礫を利用している。自然面を打面として厚手の不定

形剥片を剥離する状況が観察できる。剥離の順序は、No. 2 + 3 → No. 1 → No. 4 + 7 + 8 → No. 6であり、これらは全て同一の自然面を打面とする。最後の剥片(No. 5)を剥離する前に、1回以上の打面の更新がなされたことが分かる。

二次加工ある剥片(第205図-10)1点出土。黒色頁岩製。自然面を打面とし、剥片剥離時に同時割れを生じている。打面付近の主要剥離面側に二次加工が認められる。

ii. 石器の分布

接合資料1は、径約1.5mの円形の範囲に集中分布する。この資料は黒色安山岩製であり、全て剥片である。また、接合資料1の分布域から、約50m西に隔てて黒色頁岩製の二次加工ある剥片が1点出土した。この二次加工ある剥片は、接合資料1と出土レベルが同じであることから同一の文化層として理解した。

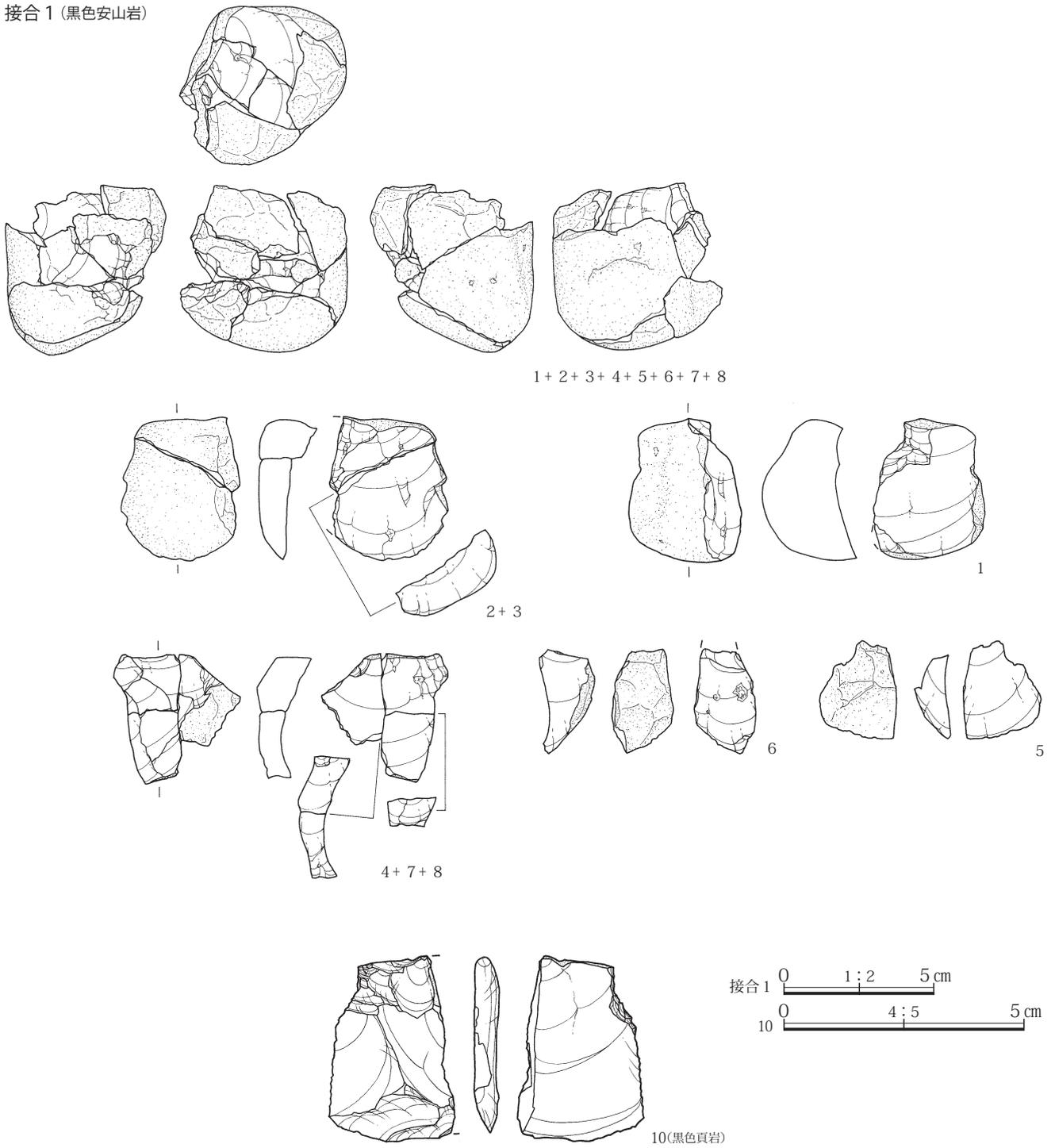
4. その他の出土石器(第206図)

古墳時代の溝(4区5号溝)から、黒曜石製の尖頭器1点出土した。形状から明らかに旧石器時代の石器と判断できることから、ここで取り扱った。

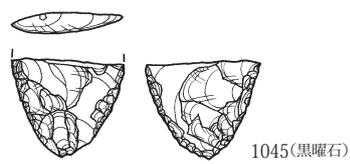
第15表 4区出土石器石材別器種点数

器種\石材	黒色安山岩	黒色頁岩	合計
二次加工ある剥片		1	1
剥片	8		8
合計	8	1	9

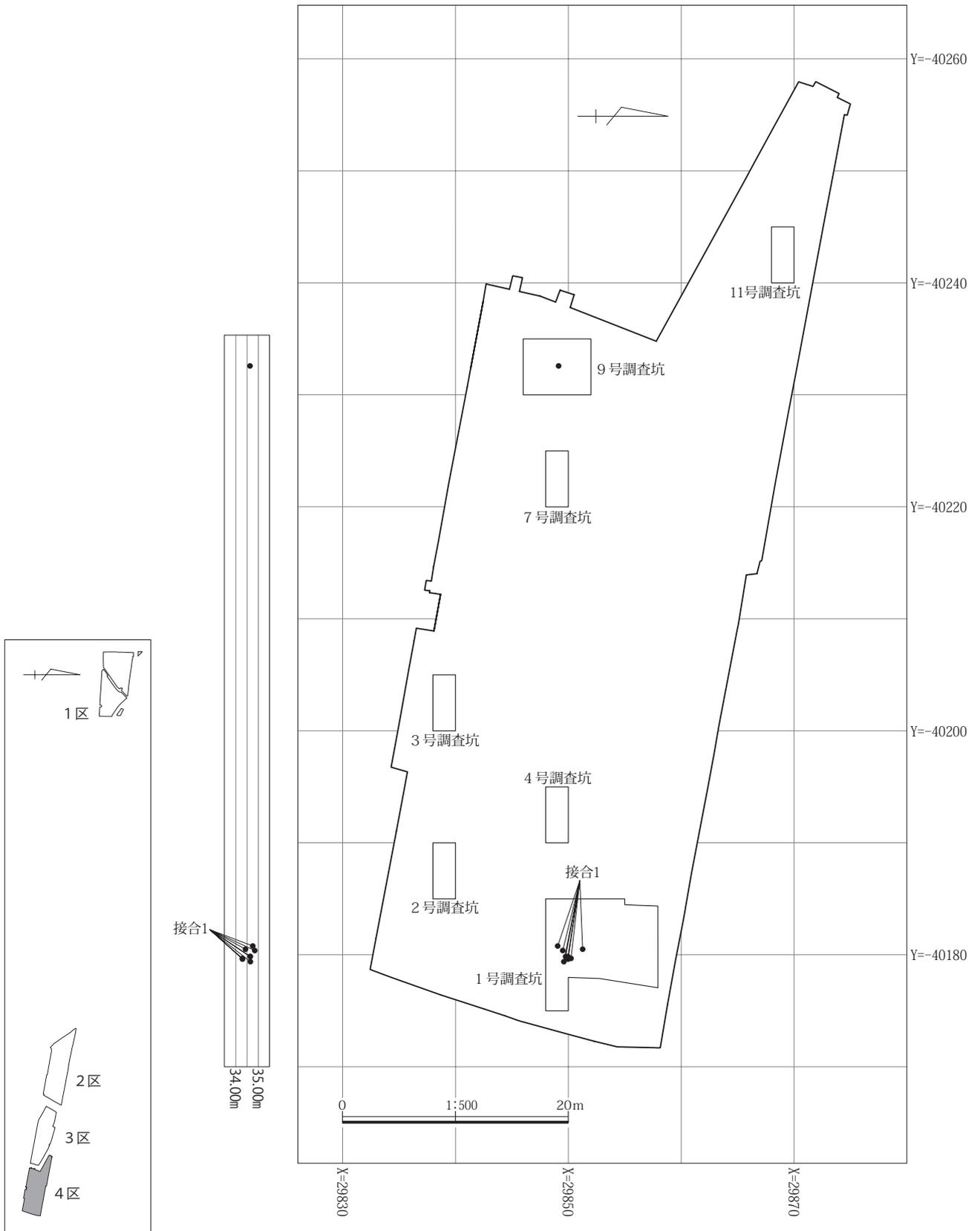
接合1 (黒色安山岩)



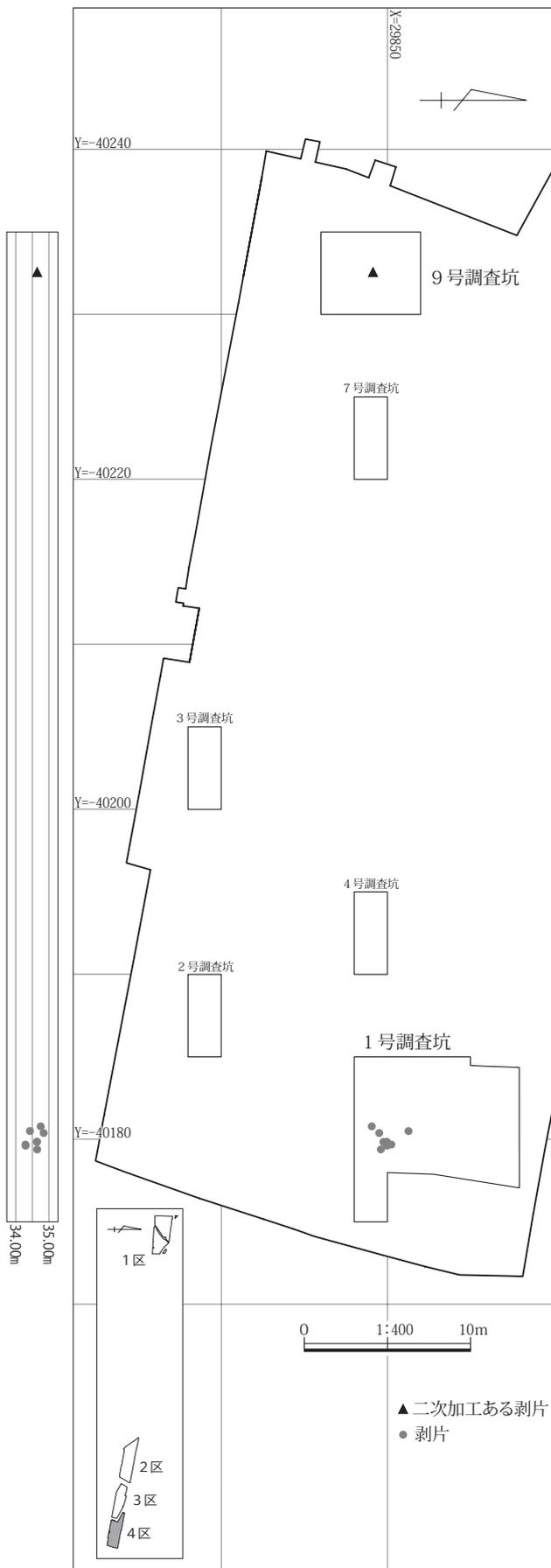
第205図 4区出土石器



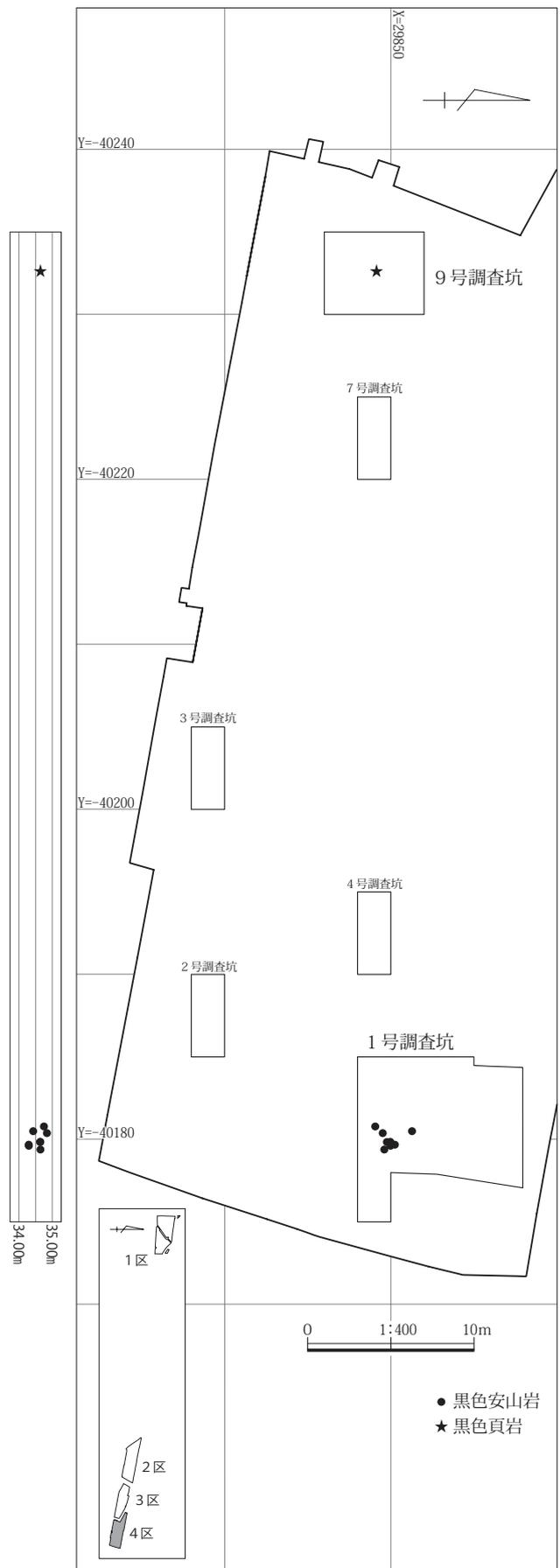
第206図 その他の出土石器



第207图 4区石器出土状况



第208図 4区1・9号調査坑、石器出土状況(1)



第209図 4区1・9号調査坑、石器出土状況(2)

第16表 石器属性表(1)

調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X座標	Y座標	Z座標	実測	写真	備考
2区	1	1	微細剥離痕ある剥片	V	チャート		3.2	3.1	0.4	5.04	29899.347	-40410.500	34.892	第195図	PL.111	打面再生剥片
2区	1	2	ナイフ形石器	IV	チャート		3.2	1.3	0.5	2.07	29898.496	-40410.906	34.947	第194図	PL.111	
2区	1	3	二次加工ある剥片	IV	チャート		2.0	1.5	0.6	1.28	29899.698	-40412.256	35.041	第195図	PL.111	
2区	1	5	スクレイパー	V	チャート		1.9	2.2	0.7	2.36	29900.780	-40414.921	34.862	第195図	PL.111	
2区	1	6	剥片	VI	チャート		2.6	2.9	0.8	4.74	29897.837	-40412.937	34.710	第195図	PL.111	
2区	1	7	剥片	V	チャート		4.5	1.9	0.6	3.63	29897.864	-40412.576	34.830	第195図	PL.111	
2区	1	8	ナイフ形石器	IV	チャート		4.8	2.0	0.5	3.95	29896.987	-40411.985	34.989	第194図	PL.111	
2区	1	9	剥片	VI	チャート		4.4	1.6	0.5	3.25	29895.680	-40412.244	34.711			
2区	1	10	剥片	V	チャート	接1	4.6	2.1	0.7	5.05	29896.430	-40412.523	34.858	第196図	PL.112	
2区	1	11	ナイフ形石器	V	チャート		4.3	1.8	0.5	3.89	29896.898	-40413.002	34.790	第194図	PL.111	
2区	1	12	二次加工ある剥片	IV	チャート	接2	6.8	3.7	0.7	14.49	29897.269	-40412.816	34.926	第196図	PL.112	
2区	1	13	二次加工ある剥片	V	チャート	接2	3.7	2.5	0.8	6.21	29897.148	-40413.224	34.790	第196図	PL.112	
2区	1	14	ナイフ形石器	VII	チャート		3.2	1.7	0.5	2.70	29896.429	-40413.328	34.695	第194図		
2区	1	15	剥片	V	チャート		4.5	3.5	0.6	8.52	29896.231	-40413.825	34.724	第195図	PL.112	
2区	1	16	ナイフ形石器	VI	チャート		1.6	1.7	0.3	1.09	29896.211	-40414.063	34.638	第194図	PL.111	
2区	1	17	剥片	V	チャート	接1	3.5	1.8	0.5	3.29	29896.649	-40413.649	34.764	第196図	PL.112	
2区	1	18	ナイフ形石器	V	チャート		4.2	2.2	0.7	4.82	29896.734	-40413.685	34.765	第194図	PL.111	
2区	1	19	剥片	V	チャート	接1	2.0	3.4	1.0	7.33	29896.747	-40414.165	34.844	第196図	PL.112	
2区	1	20	ナイフ形石器	IV	チャート		3.9	1.8	0.3	2.97	29897.043	-40413.980	34.932	第194図	PL.111	
2区	1	21	剥片	IV	チャート	接1	4.1	2.5	0.8	4.41	29897.776	-40414.013	34.916	第196図	PL.112	
2区	1	22	ナイフ形石器	V	チャート	接3	4.4	2.1	0.3	3.51	29898.079	-40414.258	34.780	第194図	PL.111	
2区	1	23	ナイフ形石器	V	チャート		6.0	2.4	0.7	7.94	29898.148	-40414.555	34.797	第194図	PL.111	
2区	1	24	ナイフ形石器	V	チャート	接3	2.4	2.1	0.4	2.03	29898.743	-40414.960	34.739	第194図	PL.111	
2区	1	25	ナイフ形石器	V	チャート		4.0	1.4	0.6	3.14	29895.833	-40412.802	34.777	第194図	PL.111	
2区	1	26	剥片	V	チャート		3.1	1.5	0.5	2.48	29897.738	-40416.836	34.855	第195図	PL.112	
2区	1	27	スクレイパー	V	チャート		2.9	3.3	1.0	7.99	29898.626	-40417.282	34.859	第195図	PL.111	
2区	1	29	二次加工ある剥片	V	黒曜石		2.0	3.1	0.8	4.38	29898.461	-40422.201	34.746	第195図	PL.111	
2区	1	30	剥片	V	ホルンフェルス		2.8	1.5	1.3	5.66	29899.524	-40421.168	34.764			
2区	1	31	微細剥片	IV	黒曜石		1.8	1.5	0.4	0.99	29900.876	-40421.474	34.809			
2区	1	32	二次加工ある剥片	V	チャート		1.9	1.8	0.4	1.12	29901.612	-40420.753	34.710	第195図	PL.111	
2区	1	34	剥片	V	チャート		2.0	1.2	0.9	2.13	29901.173	-40428.651	34.755			
2区	1	36	剥片	IV	黒曜石		4.4	2.3	0.7	4.70	29902.310	-40429.386	34.889	第195図	PL.111	和田エリア
2区	1	37	剥片	V	黒色頁岩	接5	3.0	3.8	1.6	19.53	29901.470	-40431.146	34.597	第196図	PL.112	
2区	1	38	剥片	V	黒色頁岩		5.4	4.7	1.6	35.43	29902.801	-40430.661	34.617	第195図	PL.111	
2区	1	39	剥片	V	黒曜石		2.4	1.5	0.4	1.33	29902.713	-40431.054	34.626			
2区	1	40	二次加工ある剥片	IV	黒色頁岩	接5	5.1	4.1	1.4	27.82	29904.218	-40429.619	34.797	第196図	PL.112	
2区	1	41	二次加工ある剥片	VII	黒曜石	接4	3.0	1.8	0.8	2.86	29901.733	-40431.212	34.521			諏訪エリア
2区	1	42	二次加工ある剥片	VII	黒色頁岩	接5	3.9	2.4	1.5	28.07	29902.969	-40431.369	34.541	第196図	PL.112	
2区	1	44	微細剥片	VI	チャート		0.3	0.2	0.1	0.02	29899.598	-40410.922	34.773			

第17表 石器属性表(2)

調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X座標	Y座標	Z座標	実測	写真	備考
2区	1	45	微細剥片	V	チャート		0.9	0.5	0.5	0.19	29900.828	-40413.995	34.862			
2区	1	46	微細剥片	IV	チャート		1.3	0.9	0.3	0.30	29900.881	-40414.271	34.974			
2区	1	48	微細剥片	IV	黒曜石		1.4	0.8	0.1	0.15	29900.261	-40414.067	34.985			
2区	1	49	微細剥片	IV	流紋岩		1.0	0.8	0.2	0.17	29900.391	-40414.700	34.958			
2区	1	50	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.4	0.1	0.04	29898.132	-40412.273	34.742			
2区	1	51	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.4	0.1	0.07	29898.087	-40412.203	34.740			
2区	1	52	微細剥片	VI	チャート		0.7	0.5	0.2	0.07	29897.837	-40412.442	34.733			
2区	1	53	微細剥片	V	チャート		1.7	0.7	0.5	0.44	29897.541	-40412.216	34.795	第195図	PL.111	ブランディングチップ
2区	1	54	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.5	0.1	0.02	29897.160	-40412.517	34.730			
2区	1	55	微細剥片	VI	チャート		0.4	0.3	0.1	0.01	29897.078	-40412.368	34.734			
2区	1	56	微細剥片	VI	チャート		1.0	0.5	0.2	0.14	29896.954	-40412.470	34.717			
2区	1	57	微細剥片	V	チャート		0.9	0.5	0.2	0.10	29896.680	-40411.551	34.778			
2区	1	58	微細剥片	V	チャート		0.3	0.2	0.1	0.01	29896.711	-40411.855	34.813			
2区	1	59	微細剥片	V	チャート		0.3	0.3	0.1	0.01	29896.721	-40412.010	34.753			
2区	1	60	微細剥片	VII	チャート		0.3	0.1	0.1	0.01	29896.059	-40411.836	34.695			
2区	1	61	微細剥片	VI	チャート		1.1	0.8	0.2	0.27	29896.182	-40412.176	34.732			
2区	1	62	微細剥片	V	チャート		0.9	0.5	0.1	0.06	29896.388	-40412.274	34.812			
2区	1	63	微細剥片 微細剥片痕ある剥片	IV	チャート		1.4	1.7	0.3	0.59	29896.641	-40412.778	34.960	第195図	PL.111	
2区	1	66	微細剥片	V	チャート		0.5	0.2	0.2	0.04	29895.427	-40411.852	34.822			
2区	1	67	ナイフ形石器	IV	チャート		5.2	2.1	0.6	5.14	29895.396	-40412.327	34.992	第194図	PL.111	
2区	1	68	微細剥片	VI	チャート		0.8	0.4	0.1	0.05	29896.039	-40412.650	34.722			
2区	1	69	微細剥片	V	チャート		0.9	0.8	0.2	0.15	29895.659	-40413.006	34.797			
2区	1	71	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.5	0.4	0.12	29895.424	-40413.593	34.728			
2区	1	72	微細剥片	V	チャート		1.0	0.4	0.3	0.12	29896.237	-40413.075	34.773			
2区	1	73	微細剥片	V	チャート		1.2	0.3	0.5	0.14	29896.282	-40413.128	34.780	第195図	PL.111	ブランディングチップ
2区	1	74	二次加工ある剥片	VI	チャート		1.5	0.7	0.2	0.25	29896.239	-40413.341	34.694	第195図	PL.111	
2区	1	75	微細剥片	VI	チャート		1.0	0.7	0.2	0.13	29897.501	-40413.040	34.727			
2区	1	76	微細剥片	V	チャート		0.8	0.5	0.1	0.06	29897.569	-40413.225	34.785			
2区	1	77	微細剥片	V	チャート		0.3	0.1	0.1	0.01	29897.616	-40413.732	34.721			
2区	1	78	微細剥片	V	チャート		0.6	0.3	0.2	0.06	29897.797	-40413.612	34.734			
2区	1	80	微細剥片	V	チャート		1.0	0.3	0.1	0.05	29897.987	-40414.323	34.799			
2区	1	81	微細剥片	V	チャート		1.0	0.7	0.2	0.16	29898.499	-40415.025	34.784			
2区	1	83	微細剥片	V	チャート		0.7	0.6	0.1	0.06	29898.619	-40415.583	34.756			
2区	1	84	微細剥片	V	チャート		0.4	0.3	0.2	0.03	29898.838	-40415.510	34.741			
2区	1	85	微細剥片	VI	黒曜石		0.4	0.3	0.1	0.01	29898.880	-40415.667	34.717			
2区	1	86	微細剥片	V	黒曜石		1.0	0.7	0.2	0.11	29899.060	-40415.794	34.786			
2区	1	88	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.4	0.1	0.05	29892.712	-40415.221	34.675			
2区	1	91	微細剥片	VII	チャート		0.5	0.5	0.1	0.04	29892.927	-40416.561	34.651			
2区	1	92	微細剥片	V	チャート		0.5	0.3	0.2	0.04	29893.573	-40415.759	34.715			
2区	1	93	微細剥片	V	チャート		0.8	0.4	0.4	0.15	29893.837	-40415.827	34.734			
2区	1	94	微細剥片	V	チャート		1.3	1.2	0.5	0.97	29894.291	-40415.566	34.736			

第18表 石器属性表(3)

調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X座標	Y座標	Z座標	実測	写真	備考
2区	1	95	微細剥片	V	チャート		0.8	0.6	0.2	0.11	29894.455	-40415.515	34.732			
2区	1	96	微細剥片	V	チャート		0.9	0.4	0.2	0.11	29895.834	-40416.140	34.773			
2区	1	97	微細剥片	IV	チャート		1.0	0.7	0.4	0.22	29896.159	-40416.458	34.987			
2区	1	98	二次加工ある剥片	V	チャート		1.1	1.4	0.4	0.57	29896.668	-40416.865	34.874	第195図	PL.111	
2区	1	99	微細剥片	V	黒曜石		0.9	0.8	0.2	0.13	29898.369	-40416.199	34.898			
2区	1	100	微細剥片	VI	頁岩		1.4	0.6	0.4	0.45	29898.894	-40416.413	34.670			
2区	1	102	微細剥片	IV	黒曜石		1.4	0.8	0.2	0.23	29898.995	-40417.074	34.955			
2区	1	103	微細剥片	V	チャート		1.2	0.6	0.1	0.08	29898.366	-40417.346	34.929			
2区	1	104	微細剥片	V	チャート		1.0	1.0	0.6	0.79	29896.620	-40418.042	34.887			
2区	1	107	微細剥片	IV	チャート		1.2	0.4	0.4	0.33	29897.933	-40420.671	34.899			
2区	1	110	微細剥片	VI	チャート		0.6	0.6	0.2	0.13	29902.085	-40420.062	34.677			
2区	1	111	微細剥片	V	チャート		0.3	0.3	0.2	0.01	29902.562	-40420.399	34.682			
2区	1	112	微細剥片	V	チャート		0.5	0.3	0.3	0.06	29900.799	-40429.803	34.780			
2区	1	113	微細剥片	IV	チャート		0.7	0.6	0.2	0.10	29900.384	-40429.930	34.831			
2区	1	114	微細剥片	IV	チャート		0.9	0.2	0.2	0.05	29900.240	-40429.874	34.823			
2区	1	117	微細剥片	VI	黒曜石		1.1	0.6	0.1	0.08	29901.069	-40431.306	34.530			
2区	1	120	剥片	VII	チャート		2.2	1.3	0.5	1.52	29902.359	-40430.877	34.514			
2区	1	121	微細剥片	V	チャート		0.7	0.4	0.2	0.06	29900.218	-40409.490	34.832			
2区	1	123	微細剥片	VI	チャート		0.8	0.5	0.2	0.10	29901.785	-40413.886	34.753			
2区	1	124	微細剥片	V	チャート		0.9	0.5	0.1	0.05	29896.208	-40413.075	34.759			
2区	1	125	微細剥片	VI	チャート		1.0	0.9	0.3	0.34	29897.683	-40413.989	34.684			
2区	1	126	微細剥片	VI	チャート		1.0	0.5	0.1	0.08	29898.845	-40414.959	34.676			
2区	1	127	微細剥片	VI	頁岩		0.7	0.5	0.2	0.09	29900.736	-40421.784	34.633			
2区	1	128	ナイフ形石器	VI	黒曜石		2.3	1.4	0.4	0.59	29902.868	-40430.650	34.585	第194図	PL.111	和田エリア
2区	1	129	微細剥片	VI	黒曜石		1.7	0.7	0.7	0.35	29902.276	-40431.300	34.599			
2区	1	130	微細剥片	VII	黒曜石		1.3	0.9	0.2	0.21	29903.096	-40431.411	34.575			
2区	1	131	微細剥片	IV	黒曜石		1.1	0.5	0.3	0.15	29903.218	-40431.102	34.789			
2区	1	132	微細剥片	V	黒曜石		0.8	0.6	0.2	0.08	29904.974	-40431.395	34.626			
2区	1	133	剥片	V	黑色頁岩		1.9	1.3	0.4	1.08	29903.573	-40428.190	34.675			
2区	1	135	微細剥片	IV	チャート		1.1	0.7	0.5	0.59	29896.196	-40416.416	34.988			
2区	1	136	微細剥片	VII	チャート		0.6	0.5	0.3	0.07	29897.671	-40412.746	34.667			
2区	1	138	微細剥片	VI	チャート		0.8	0.4	0.2	0.09	29897.046	-40412.079	34.823			
2区	1	139	ナイフ形石器	VI	チャート		1.5	1.2	0.6	0.90	29897.188	-40412.808	34.805	第194図	PL.111	
2区	1	140	微細剥片	VII	チャート		1.3	1.1	0.6	0.81	29900.054	-40414.585	34.679			
2区	1	141	微細剥片	VII	チャート		0.7	0.5	0.3	0.08	29900.391	-40414.871	34.694			
2区	1	142	微細剥片	VI	チャート		1.4	1.4	0.6	1.93	29900.895	-40426.119	34.651			
2区	1	143	微細剥片	VI	チャート		1.9	1.9	1.0	4.44	29900.440	-40426.440	34.676			
2区	1	144	微細剥片	V	チャート		1.1	0.9	0.6	0.59	29898.612	-40426.173	34.791			
2区	1	145	微細剥片	VI	チャート		0.5	0.3	0.2	0.03	29901.746	-40429.771	34.524			
2区	1	146	微細剥片	VI	チャート		0.8	0.7	0.3	0.16	29901.588	-40430.057	34.492			
2区	1	148	微細剥片	VI	チャート		0.8	0.7	0.4	0.29	29901.365	-40430.374	34.492			

第19表 石器属性表(4)

調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X座標	Y座標	Z座標	実測	写真	備考
2区	1	149	微細剥片	VI	チャート		0.7	0.4	0.2	0.08	29900.909	-40430.633	34.501			
2区	1	150	微細剥片	VI	黒色頁岩		1.7	1.1	0.3	0.81	29903.488	-40431.037	34.545			
2区	1	151	微細剥片	V	黒曜石		1.4	0.9	0.4	0.35	29905.310	-40430.442	34.749			
2区	1	152	微細剥片	V	チャート		0.9	0.4	0.6	0.19	29905.547	-40430.503	34.643			
2区	1	153	微細剥片	V	チャート		1.3	1.1	0.8	1.58	29899.763	-40425.954	34.677			
2区	1	154	微細剥片	VI	チャート		0.9	0.8	0.3	0.26	29900.275	-40421.912	34.631			
2区	1	155	微細剥片	VI	チャート		1.4	0.9	0.4	0.48	29893.929	-40410.837	34.695			
2区	1	156	ナイフ形石器	V	チャート		4.4	1.6	0.6	4.24	29903.259	-40422.172	34.768	第194図	PL.111	
2区	1	157	微細剥片	VI	チャート		1.2	0.7	0.2	0.15	29899.793	-40416.496	34.709			
2区	1	158	微細剥片	VII	チャート		0.7	0.4	0.1	0.04	29904.018	-40430.970	34.531			
2区	1	159	微細剥片	VII	チャート		1.0	0.4	0.1	0.07	29894.815	-40413.083	34.637			
2区	1	160	ナイフ形石器	VII	チャート		3.1	2.0	0.6	4.42	29897.929	-40413.914	34.613	第194図	PL.111	
2区	1	161	微細剥片	VII	頁岩		1.2	0.9	0.2	0.35	29899.876	-40412.064	34.704			
2区	1	164	微細剥片	VI	黒曜石		2.0	1.6	0.2	0.56	29899.586	-40423.914	34.675			
2区	1	165	剥片	VII	黒曜石		3.1	2.1	0.3	1.88	29899.233	-40425.545	34.588	第195図	PL.112	和田エリア
2区	1	166	剥片	VII	黒曜石		3.9	1.0	0.4	1.33	29899.949	-40426.869	34.589			
2区	1	167	剥片	VII	チャート	接1	3.1	2.3	0.5	3.18	29898.735	-40427.457	34.592	第196図	PL.112	
2区	1	168	微細剥片	VII	チャート		1.0	0.6	0.4	0.32	29901.360	-40430.881	34.483			
2区	1	170	剥片	VII	黒色頁岩	接5	2.6	1.6	1.0	5.85	29903.433	-40430.885	34.482	第196図	PL.112	
2区	1	172	微細剥片	V	黒曜石	接4	1.7	1.0	0.8	0.99	29906.038	-40431.241	34.656		PL.112	
2区	1	173	微細剥片	VII	頁岩		1.1	1.0	0.5	0.44	29898.312	-40420.022	34.626			

第20表 石器属性表(5)

調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X 座標	Y 座標	Z 座標	実測	写真	備考
2区	2	1	剥片	VII	頁岩		3.8	2.6	0.7	5.20	29878.144	-40338.550	34.689			
2区	2	2	微細剥離痕ある剥片	VIII	黒曜石		5.5	3.4	1.3	16.32	29878.831	-40339.108	34.347	第200図	PL.112	和田エリア
2区	2	3	剥片	VII	黒曜石	接1	4.5	3.9	0.9	16.25	29875.947	-40340.014	34.719	第200図	PL.112	和田エリア
2区	2	4	石刃	VIII	黒曜石		4.1	2.1	0.8	6.86	29878.405	-40340.834	34.468	第200図	PL.112	和田エリア
2区	2	5	剥片	VIII	黒曜石		2.5	3.6	0.8	4.45	29876.287	-40340.775	34.397	第200図	PL.112	和田エリア
2区	2	6	剥片	VIII	黒色安山岩		3.9	2.3	0.9	9.79	29877.372	-40340.962	34.582	第200図	PL.112	
2区	2	7	ナイフ形石器	VIII	黒曜石		3.8	2.6	1.2	9.05	29877.226	-40341.113	34.507	第200図	PL.112	和田エリア
2区	2	8	微細剥片	VII	黒曜石	接1	0.5	0.9	0.2	0.20	29875.922	-40340.012	34.712	第200図	PL.112	
2区	2	9	微細剥片	VII~VIII	黒曜石	接1	1.1	1.0	0.3	0.31	29875.968	-40340.018	34.582	第200図	PL.112	
2区	2	10	剥片	VII~VIII	黒曜石	接1	2.6	2.3	0.8	3.90	29875.967	-40339.983	34.555	第200図	PL.112	
2区	2	175	微細剥片	V	黒曜石		2.8	2.2	0.9	1.44	29869.339	-40350.184	35.028			
2区	2	176	微細剥片	V	黒曜石		2.0	1.0	0.6	1.10	29870.405	-40351.631	35.031			
2区	2	177	微細剥片	V	ホルンフェルス		2.1	1.1	0.3	0.87	29889.517	-40370.367	35.052			176と同一地点
2区	2	178	微細剥片	V	黒曜石		1.4	0.5	0.3	0.30	29870.405	-40351.631	35.031			15号試掘坑単独出土
2区	-	11	礫	VII~VIII	ホルンフェルス		13.5	7.4	5.5	667.32	29878.751	-40408.111	34.206	第203図	PL.112	
調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	石材	接合	長さ	幅	厚さ	重量	X 座標	Y 座標	Z 座標	実測	写真	備考
4区	-	1	剥片	-	黒色安山岩	接1	4.8	3.8	3.2	56.57	29849.965	-40179.845	34.640	第205図	PL.112	
4区	-	2	剥片	-	黒色安山岩	接1	2.5	3.5	2.0	13.97	29849.978	-40179.607	34.296	第205図	PL.112	
4区	-	3	剥片	-	黒色安山岩	接1	4.3	3.8	1.1	23.02	29849.606	-40179.379	34.645	第205図	PL.112	
4区	-	4	剥片	-	黒色安山岩	接1	2.3	1.7	0.8	6.00	29849.761	-40179.833	34.636	第205図	PL.112	
4区	-	5	剥片	-	黒色安山岩	接1	2.6	3.3	1.4	9.59	29849.060	-40180.777	34.751	第205図	PL.112	
4区	-	6	剥片	-	黒色安山岩	接1	3.5	2.1	1.8	13.67	29849.510	-40180.374	34.840	第205図	PL.112	
4区	-	7	剥片	-	黒色安山岩	接1	1.9	2.1	1.3	9.92	29850.241	-40179.673	34.293	第205図	PL.112	
4区	-	8	剥片	-	黒色安山岩	接1	2.9	2.0	1.0	7.50	29851.273	-40180.492	34.427	第205図	PL.112	
4区	-	10	二次加工ある剥片	-	黒色頁岩	接1	3.9	2.6	0.8	7.95	29849.136	-40232.582	34.636	第205図	PL.112	
4区	-	1045	尖頭器	-	黒曜石		1.7	1.9	0.5	1.22	-	-	-	第206図	PL.112	4区5号溝古墳時代出土

第4章 自然化学分析

第1節 概要

田谷遺跡では、①獣歯骨分析、②テフラ分析、③黒曜石原産地分析を専門業者に委託して実施した。委託先は、①馬歯分析が宮崎重雄氏、②テフラ分析が株式会社火山灰考古学研究所、③黒曜石原産地分析が株式会社パレオ・ラボである。それらの分析の目的と成果の概要について以下に記す。

1. 馬歯分析

1. 分析の目的

1区11号土坑より出土した馬歯について、年齢、馬格など形質的属性を明らかにするために分析を委託した。

2. 分析の結果

分析の結果、次の点が確認された。

- ・歯はまとまって出土しており、当初は全身が存在し、その後の風化作用で歯以外の部位が腐食・消失した。
- ・保存状態からすると、中世までさかのぼる可能性もある。
- ・臼歯から推定されるこの馬の年齢は12～15歳ほどである。
- ・歯の計測値から、この馬の馬格は日本の中型在来馬相当である。

以上の分析結果から、1区11号土坑から出土した馬歯については、その状況から埋葬された馬の歯のみが残存したものであり、時期的には中世の可能性が考えられる。

2. テフラ分析

1. 分析の目的

テフラ分析は、ローム層中に含まれるテフラを同定し、出土した旧石器の確実な層位を把握するために分析を委託した。

2. 分析の結果

分析の結果、次の点が確認された。

- ・IV層中の試料からは、As-YPが確認された。
- ・V層中の試料からは、As-0k2?が確認された。
- ・VI層中の試料からは、VI層付近にAs-Srの降灰層準があると推定された。
- ・VII～IX層中の試料からは、As-BPが確認された。VII層中のAs-BPGroupは中・上部、IX層中のAs-BPGroupは最下部である。

旧石器はV層中心(第1文化層、142点)、VIII層中心(第2文化層、14点)に出土しており、テフラ分析の結果を踏まえると、第1文化層がAs-0kGroup、第2文化層がAs-BP降灰前後に形成されたとすることができた。

3. 黒曜石原産地分析

1. 分析の目的

旧石器時代の黒曜石製石器群について、これらの黒曜石がどこから本遺跡にもたらされたのか明らかにするために黒曜石の原産地分析を委託した。考古学的には、この分析から得られた成果と整理作業を通じて得られた体別試料ごとに見た石器製作のあり方を併せて報告し、旧石器時代人の行動論的考察に向けた基礎的データとするものである。分析試料は、整理作業を経て得られた考古学的な情報をもとに碎片類を除いた石器類のうち、第1文化層で21点中4点、第2文化層で11点中5点を対象とした。

2. 分析の結果

分析の結果、次の点が確認された。

- ・分析試料9点のうち、第1文化層は3点が長野県和田エリア、1点が諏訪エリア、第2文化層は5点が長野県和田エリアと推定された。
- ・本遺跡から直近の黒曜石原産地は栃木県高原山であるが、高原山産の黒曜石は確認されなかった。

以上の分析結果から、田谷遺跡から出土した黒曜石の原産地は、すべて長野県と推定された。本遺跡に旧石器時代の痕跡を残した集団と、長野県地域との関係が窺える。

太田市南部地域を通る国道354号バイパス関連の発掘調査では、本遺跡の他、細谷ノ谷遺跡、福沢新田遺跡、大泉町間之原遺跡(いずれも第5図範囲外)において旧石器遺跡が確認されているが、黒曜石原産地分析は行われておらず、本分析が太田市南部地域の旧石器時代遺跡では初となる。今後分析例を加え、通時的段階的な黒曜石原産地を明らかにしていくことが望まれる。

第2節 1区11号土坑出土の馬歯

長径約1.5m、短径約0.8m楕円形の土坑から1頭分の馬歯が出土した。

歯以外の部位の出土はない。歯はまとまった状態で土

坑の片隅に埋存していたことから、当初は、全身あったものが、その後の風化作用で、歯以外のすべての部位が腐食・消失したと思われる。

時代を示す副葬品などの出土はないが、この馬骨の保存状態からすると、時代は中世までさかのぼる可能性もある。

西中川編(1991)の臼歯の歯冠高から推定される馬の年齢は12~15歳ほどの壮齢馬である。

歯の計測値は、この馬の馬格が日本の中型在来馬相当であると思わせる。

引用文献

西中川駿編(1991)「古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書。

第21表 馬歯計測表

上顎臼歯計測値											単位:mm	
	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径			18.1+	25.1	20.6+	22.1	19.4+	20.4+				
歯冠頬舌径			10.9+	25.0	18.6+	22.7		15.5+				
原錘幅			9.4	9.1		11.0						
歯冠高頬側				24.2		34.8	21.8	22.1				
歯冠高舌側			25.6	25.9	29.7	33.2					34.0	
咬合面の傾斜				85°	95°	92°		80°			125°	
中附錘幅				3.8		3.4	2.9	3.0			3.5	
下顎臼歯計測値											単位:mm	
	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径				26.9		25.0+	25.8	23.6+	25.2	23.7+	30.8	27.6+
歯冠頬舌径				14.8		14.5	14.3	14.3	13.1	12.3+	12.8	11.6
歯冠高頬側				24.6		33.7	21.1	23.0	33.4		35.9	38.4+
歯冠高舌側	16.5			24.2		31.0	18.9	23.1	34.1	33.0	35.7	41.0
下後錘谷長				8.9			7.9	7.6	7.6	7.5	7.4	7.4
下内錘谷長	14.6			11.5		11.0	10.4		8.7	9.1	9.7	10.0
doubleknot長				15.9		15.0	14.5	13.1	13.4	13.0	12.2	12.5
咬合面の傾斜				85°		90°	82°	108°	108°	105°	105°	100°
下内錘幅	6.3			6.3		6.0	5.6	4.5	4.1	4.2		

第3節 テフラ分析

1. はじめに

関東地方北西部に位置する太田市域とその周辺には、赤城火山、榛名火山、浅間火山をはじめとする北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになってきている。

太田市田谷遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な遺物包含層や遺構が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象に実験室内で火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施し、それとの層位関係から遺物包含層や遺構の層位および年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象は、2区5号調査坑である。

2. 土層の層序

2区5号調査坑では、下位より黄灰色土(層厚10cm以上, X I層)、暗灰色土(層厚9cm)、黒灰色土(層厚20cm, 以上X層)、砂混じり暗灰色土(層厚13cm, IX層)、鉄分を多く含む褐灰色土(層厚22cm, VIII層)、灰色土(層厚14cm)、わずかに灰色がかかった黄色砂質土(層厚5cm)、わずかに黄色がかかった灰色土(層厚5cm, 以上VII層)、黄色砂質土(層厚7cm, VI層)、黄灰色土(層厚7cm)、黄白色粗粒火山灰混じり黄褐色土(層厚17cm, 以上V層)、黄白色粗粒火山灰に富む黄褐色土(層厚7cm, IV層)が認められる(第210図)。

発掘調査では、これらのうち、VIII層と、V層の2層準から後期旧石器時代の遺物が検出されている。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

2区5号調査坑において、層界にかからないように、基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、12試料を対象に、火山ガラスの形態色調別含有率などを求める火山ガラス比分析を行って、火山ガラス質テフラの降灰層準を求めた。分析の手順は次のとおりである。

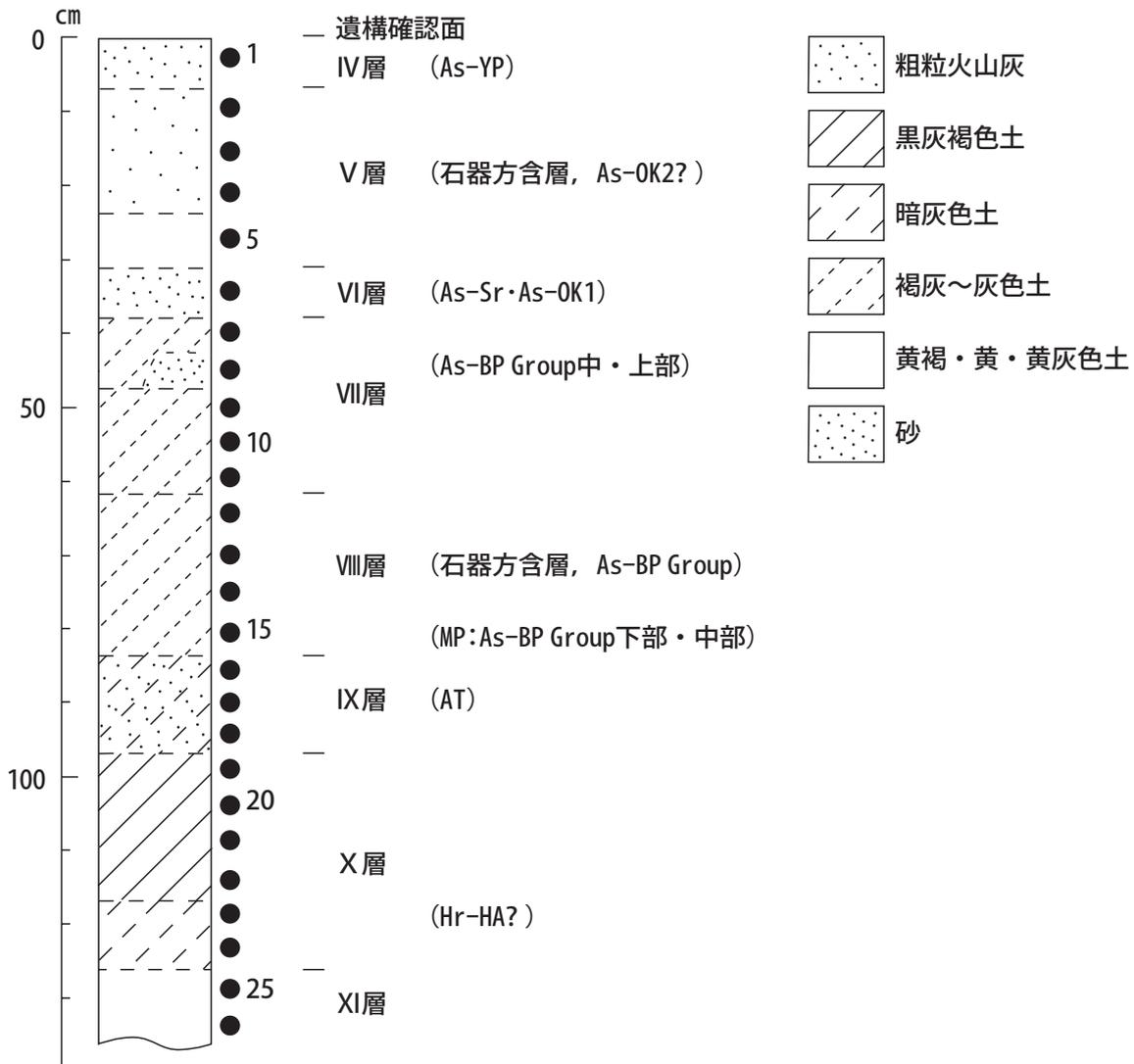
- 1) 試料7gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mm(屈折率測定用:後述)の粒子を篩別。
- 5) 1/4-1/8mm粒径の250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、火山ガラスの形態色調別含有率、軽鉱物と重鉱物の含有率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして第211図に、その内訳を第22表に示す。いずれの試料からも火山を検出できた。最下位の試料25から試料21にかけては、スポンジ状軽石型や分厚い中間型の火山ガラスが少量含まれており、試料23でわずかながらより含有率が高い傾向にある。ここでのスポンジ状軽石型と中間型の火山ガラスの含有率は、それぞれ6.0%と4.8%である。また、これらの試料では、重鉱物が占める割合がやや多い傾向にある。

試料17には、無色透明で、平板状のいわゆるバブル型の火山ガラスの出現ピークがある(13.2%)。この試料には、おもに二次的な鉄鉱物(その他に分類)が多く認められる傾向にあり、実際のバブル型ガラスの含有率はより高いと考えられる。いずれにしても、無色透明のバブル型火山ガラスの含有率は、この試料17で急増し、上位に向かって徐々に低下する傾向にある。それとは反対に、試料15より上位では重鉱物の含有率が上昇し、試料11や試料8ではそれぞれ72.0%と72.4%を占めるようになる。これらの試料に含まれる重鉱物は、おもに斜方輝石、単斜輝石、光沢をもつ黒色の鉄鉱物(おもに磁鉄鉱)などである。

試料6より上位では、中間型、繊維束状軽石型、スポ



第210図 2区5号トレンチの土層柱状図

ンジ状軽石型火山ガラスが、比較的多く含まれている。また、これらの試料では、上位に向かっておもに斜長石からなる軽鉱物の含有率が高くなる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させる方法として、全国的に火山ガラスや鉱物の屈折率測定が行われている(町田・新井, 1992, 2003, 2011など)。そこで、とくに上位の石器検出層準の層位を明確にするために、2区5号調査坑の試料6と試料5に含まれる火山ガラスを対象に、屈折率測定を行って指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8-1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率法(壇原, 1993)により測定を実施した。

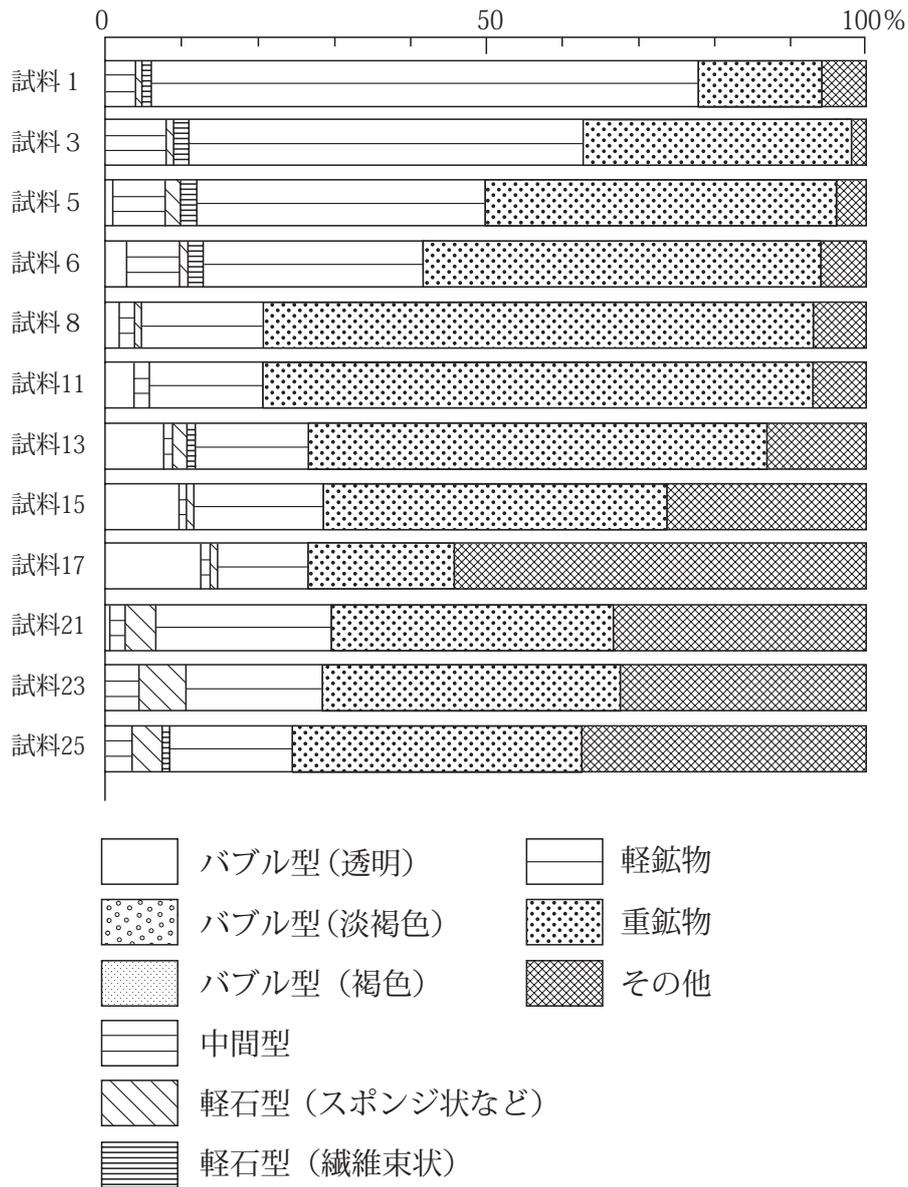
(2) 測定結果

屈折率測定結果を第23表に示す。この表には、北関東地域の後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。2区5号調査坑の試料6に含まれる火山ガラス(31粒子)の屈折率(n)はbimodalで、1.501-1.504(27粒子)と1.506-1.507(4粒子)の値が得られた。一方、試料5に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.500-1.503である。

5. 考察—指標テフラとの同定と石器包含層の層位について

2区5号調査坑トレンチの試料17付近(IX層)に濃集層準がある無色透明のバブル型ガラスは、その形態や色調などから、約2.4~2.5万年前^{*1}に南九州地方の始良カル

火山ガラス比



第211図 2区5トレンチの火山ガラス比ダイアグラム図

デラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 2003, 松本ほか, 1986, 村山ほか, 1991など)に由来すると考えられる。したがって、試料17付近(IX層)にATの降灰層準があると推定できる。このことから、色調がとくに暗いX層については、いわゆるAT下位の暗色帯に相当すると考えられる。また、その最下部付近(試料23)にわずかながら濃集するように見える火山ガラスについては、層位や形態などから、約3万年前¹⁾に榛名火山から噴出した榛名箱田テフラ(Hr-HA, 早田, 1996, 関口ほか, 2011など)に由来する可能性がある。

火山ガラスの屈折率測定が実施された試料6(VI層)お

よび試料5(V層)には、火山ガラスの形態や屈折率特性から、それぞれ約1.7万年前¹⁾と約1.6万年前¹⁾に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996, As-0k1と合わせて浅間大窪沢テフラ群: As-0kGroupとする)が含まれていると考えられる。また、試料6(VI層)にわずかながら多く含まれる繊維束状軽石型の火山ガラスの一部は、屈折率特性や層位を考慮すると、浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984, 町田・新井, 1992, 2003)に由来する可能性が考えられる。以上のことに、砂質という層相を合わせると、

第22表 2区5トレンチにおける火山ガラス比分析結果

試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
1	0	0	0	11	1	2	180	41	15	250
3	0	0	0	20	2	4	133	87	4	250
5	3	0	0	17	4	4	94	118	10	250
6	7	0	0	17	2	6	72	131	15	250
8	5	0	0	5	3	0	39	181	17	250
11	11	0	0	0	4	0	38	180	17	250
13	21	0	0	1	6	2	36	150	34	250
15	25	0	0	2	2	0	42	111	68	250
17	33	0	0	3	1	0	31	48	134	250
21	1	0	0	6	9	0	57	92	85	250
23	0	0	0	12	15	0	46	97	80	250
25	0	0	0	10	9	1	40	94	96	250

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, cl:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状.
数字は粒子数.

第23表 屈折率測定結果

試料(地点・層位)	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定粒子数	
田谷遺跡2区5トレンチ・試料5	1.500-1.503	30	本報告
田谷遺跡2区5トレンチ・試料6	1.501-1.507 (1.501-1.504, 1.506-1.507)	31 (27, 4)	本報告

<北関東地方のおもな指標テフラ-AT降灰以降>

浅間A (As-A, 1783年)		1.507-1.512	1)
浅間B (As-B, 1108年)		1.524-1.532	1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)		1.501-1.504	1)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)		1.500-1.502	1)
		1.499-1.504	3)
榛名有馬(Hr-AA, 5世紀)		1.500-1.502	4)
浅間C (As-C, 3世紀後半)		1.514-1.520	2)
浅間D軽石(As-D, 約4,500年前 ^{*1})		1.513-1.516	2)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)		1.506-1.513	1)
浅間藤岡軽石(As-Fo, 約8,200年前 ^{*1})		1.508-1.516	2)
浅間総社(As-Sj, 約1.0~1.1万年前 ^{*1})		1.501-1.518	2)
浅間草津(As-K)		1.501-1.503	1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5~1.65万年前)		1.501-1.505	1)
浅間大窪沢2(As-Ok2, 約1.6万年前 ^{*1})		1.502-1.504	1)
浅間大窪沢1(As-Ok1, 約1.7万年前 ^{*1})		1.500-1.502	1)
浅間白糸(As-Sr)		1.506-1.510	1)
浅間萩生(As-Hg, 約1.9万年前 ^{*1})		1.500-1.502	2)
浅間板鼻褐色(群)(As-BP Group)	上部	1.515-1.520	1)
	中部	1.508-1.511	1)
	下部	1.505-1.515	1)
始良Tn(AT, 約2.8~3万年前)		1.499-1.500	1)

1) 町田・新井(1992, 2003), 2) 早田(1996), 3) 早田(未公表), 4) 町田ほか(1984).

本報告および3): 温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000).

3)以外: 故新井房夫群馬大学名誉教授による温度一定型屈折率測定法.

*1: 放射性炭素(¹⁴C)年代.

試料6(VI層)採取層準はAs-SrやAs-0k1の降灰層準に近いと考えられる。層相も合わせると、試料5(V層)に含まれるテフラ粒子には、As-0k2が混在している可能性がある。

これらのテフラの上位で、いわゆるローム層最上部(IV層)に濃集する黄白色粗粒火山灰は、層位や粗粒火山灰の岩相、さらに火山ガラスの形態などから、約1.3~1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に由来すると考えられる。

一方、より下位のATとAs-Srの間の重鉍物に富む層準(VIII層~VII層)には、約1.9~2.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BPGroup, 新井, 1962, 町田・新井, 1992, 2003)に由来するテフラ粒子が多く含まれていると推定される。とくに、より下位の試料15(VIII層最下部)に含まれるAs-BP Groupは、As-BPGroupの中で最下位にある室田軽石(MP, 森山, 1971, 早田, 1990, その主体部はAs-BPGroup中部: 関口, 2011)の可能性が高い。したがって、重鉍物組成分析の結果をみると、試料15(VIII層最下部)にMPの降灰層準のある可能性が指摘される。ただし、ATとMPの降灰層準は近接していることや、IX層が粗粒火山灰起源と考えられる砂を含んでいることから、IX層上部付近にMPがある可能性も完全に否定できない。

また、VII層中部に多く含まれるAs-BPGroupは、その中・上部(町田・新井, 1992, 2003など)の可能性が高い。これら、As-BPGroupの細分との対応関係の解明には、火山ガラスや斜方輝石の屈折率特性を把握すると良い。

以上のことから、下位の石器包含層(VIII層)は、As-BP Group最下位のMPより上位で、As-Srより下位に層位にあると考えられる。一方、上位の石器包含層(V層)は、基本的にAs-Srより上位でAs-YPより下位にあり、おそらくAs-0k1より上位の可能性が高いと推定される。

6. まとめ

太田市田谷遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より、始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前^{*1})、浅間板鼻褐色軽石群(As-BPGroup, 約1.9~2.4万年前^{*1})、浅間白糸軽石(As-Sr)、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1, 約

1.7万年前^{*1})、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前^{*1})などの指標テフラの降灰層準を検出することができた。発掘調査で検出された2層準の後期旧石器時代の石器包含層のうち、下位の石器包含層(VIII層)の層位はAs-BPGroup最下位のMPより上位で、As-Srより下位、また上位の石器包含層(V層)の層位はAs-0k1より上位でAs-YPより下位にあると推定される。

*1 放射性炭素(¹⁴C)年代。ATおよびAs-YPの暦年較正年代は、約2.8~3.0年前と約1.5~1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003, 早田, 2011)。また、As-Srの下位およびAs-0k1の包含層の14C年代の暦年較正年代は、それぞれ約2.2~2.4万年前と約2.3~2.4万年前(関口ほか, 2011)で、同じような年代が得られる。後者の測定試料の層位については、測定が実施された遺跡でAs-0k1の一次堆積層が認められないことや、その下位にも炭化物の濃集層があった可能性があることから、再検討が必要と思われる。本地域における後期旧石器時代の指標テフラの年代推定に関する諸問題については、関口ほか(2011)に詳しい。

参考文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 壇原 徹(1993)温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」, 東京大学出版会, p.149-158.
 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339-347.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究と関係する—テフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書—」, p.865-928.
 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
 森山昭雄(1971)榛名火山東・南山麓の地形—とくに軽石流の地形について—. 地理学報告, no.36・37, p.107-116.
 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ピストンコア試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代. 地質雑, 99, p.787-798.
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山, 黒班~前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
 関口博幸・早田 勉・下岡順直(2011)群馬の旧石器編年のための基礎的研究—関東地方北西部における 石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討—. 群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 29, p.1-20.
 早田 勉(1990)群馬県の自然と風土. 群馬県史編さん室編「群馬県史通史編 原始古代1」, p.37-129.
 早田 勉(1996)関東地方~東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラ—について—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
 早田 勉(2010)更新世堆積物とテフラ. 稲田孝司・佐藤宏之編「講座日本の考古学1 旧石器時代上」, 青木書店, p.77-102.

第4節 黒曜石製石器原産地推定

1. はじめに

太田市東矢島町地内に所在する田谷遺跡より出土した旧石器時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、田谷遺跡2地区より出土した黒曜石製石器9点(分析No. 1～9)である(第24表)。分析No. 1～4が第1文化層から、分析No. 5～9が第2文化層から出土している。

試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

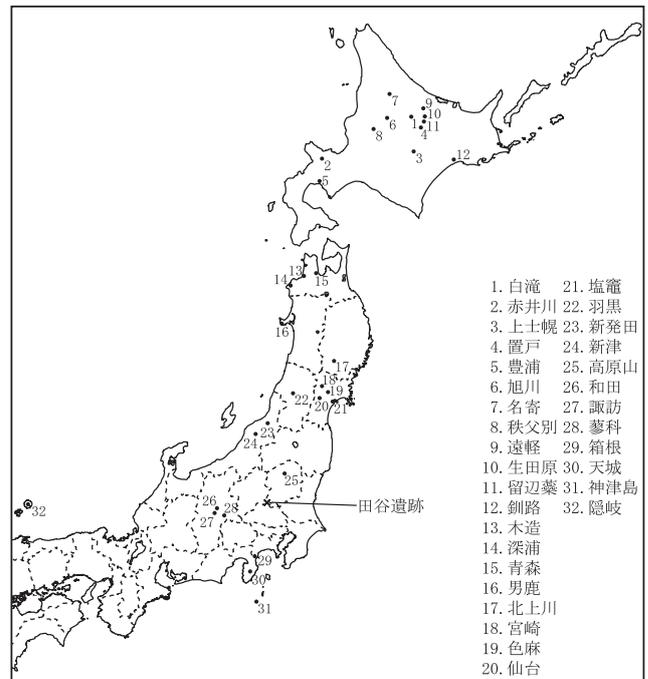
そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率—縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率—縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定

する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせることで指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面にはなるべく綺麗で平坦な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第25表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数

第24表 黒曜石産地分析対象一覧表

分析No.	調査区	文化層	遺物番号	器種	出土層位	備考	
1	2	1	36	剥片	4層	As-BPより上	
2			41	二次加工ある剥片	7層	層、As-Okより	
3			128	ナイフ形石器	6層		
4			165	剥片	7層	下層の層位から出土	
5		2		2	微細剥離痕ある剥片	8層	As-BP含まれる
6				3	剥片	7層	
7				4	石刃	8層	ローム層から
8				5	二次加工ある剥片	8層	出土
9				7	ナイフ形石器	8層	



第212図 黒曜石産地分布図

を、第212図に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

第26表に石器の測定値および算出した指標値を、第213図に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、分析No. 1、4、5、9の4点が鷹山群(長野県、和田エリア)と小深沢群(長野県、和田エリア)の重複域、分析No. 2が星ヶ台群(長野県、諏訪エリア)、分析No. 3が土屋橋1群(長野県、和田エリア)と高松沢群(長野県、和田エリア)の重複域、分析No. 6、8の2点が土屋橋2群(長野県、和田エリア)、分析No. 7が土屋橋1群(長野県、和田エリア)の範囲にそれぞれプロットされた。第26表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。いずれも信州の霧ヶ峰北部～西部辺りで産出する黒曜石であった。

4. おわりに

田谷遺跡より出土した旧石器時代の黒曜石製石器計9点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、8点が和田エリア、1点が諏訪エリア産と推定された。文化層ごとの産地推定結果をまとめると、第1文化層は3点が和田エリア、1点が諏訪エリア、第2文化層は5点とも和田エリアと推定された。

引用文献

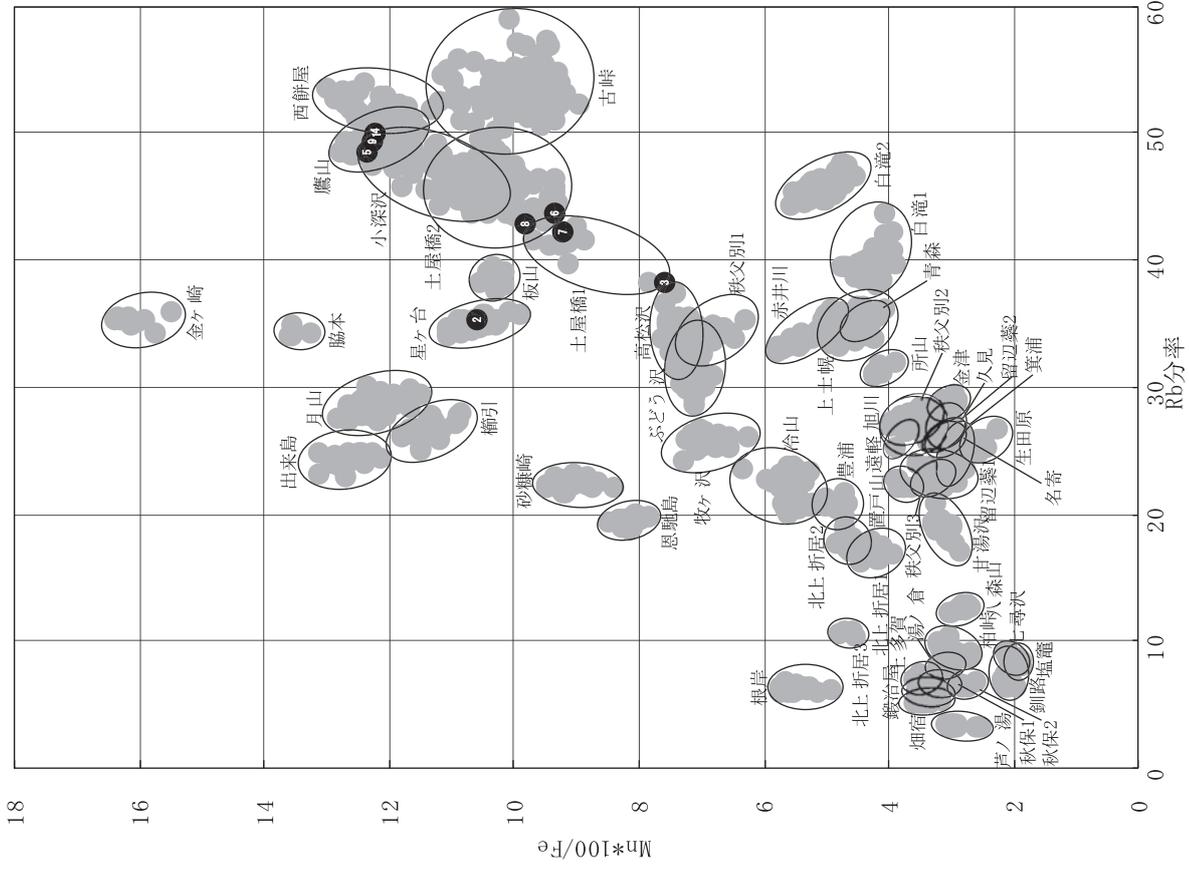
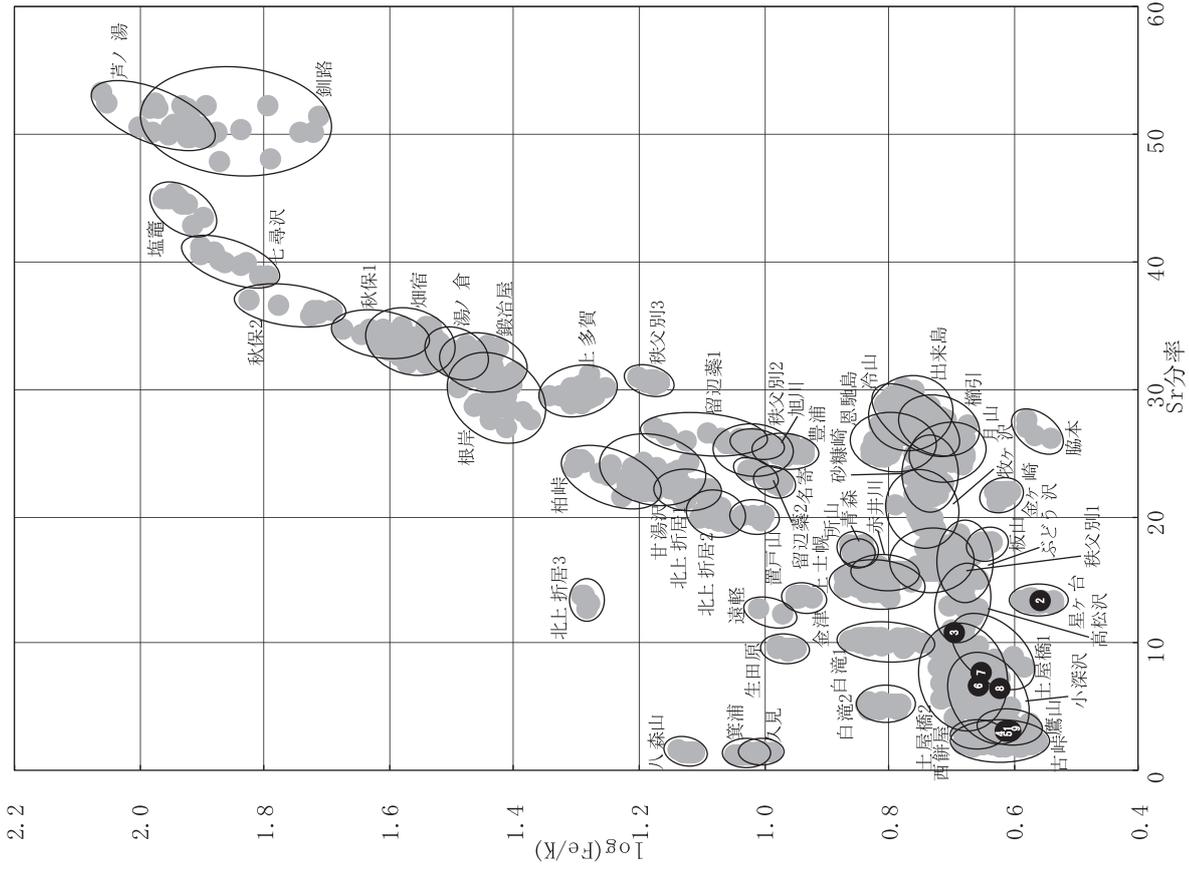
望月明彦(1999)上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179, 大和市教育委員会.

第25表 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15)
		白滝2	7の沢川支流(2), IK露頭(10), 十勝沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊泉(10)
	旭川	旭川	近文台(8), 雨紛台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	中山(66)
		秩父別2	
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
留辺蘂	留辺蘂1	ケショマツ川河床(9)	
	留辺蘂2		
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9), 真城(33)
		北上折居2	
		北上折居3	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
塩竈	塩竈	塩竈(10)	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 大越沢(10)
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
		新津	金津(7)
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七尋沢	七尋沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)
	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋1	土屋橋西(10)
		土屋橋2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(1)
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
	牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
	高松沢	高松沢(19)	
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35), 星ヶ塔(20)
	蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)
		畑宿	畑宿(51)
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)
静岡	天城	上多賀	上多賀(20)
		柏峠	柏峠(20)
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)
		砂糠崎	砂糠崎(20)
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)

第26表 測定値および産地推定結果

No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100	Sr分率	log $\frac{Fe}{K}$	判別群	エリア
									Fe				
1	268.6	133.9	1096.0	1272.8	80.4	525.9	671.6	49.90	12.22	3.15	0.61	鷹山or小深沢	和田
2	320.2	123.3	1162.7	773.9	292.3	383.6	744.0	35.28	10.61	13.32	0.56	星ヶ台	諏訪
3	229.3	86.2	1133.4	801.5	224.5	334.5	730.6	38.33	7.60	10.73	0.69	土屋橋1or高松沢	和田
4	323.4	162.1	1324.1	1538.3	94.0	636.2	807.8	50.00	12.25	3.06	0.61	鷹山or小深沢	和田
5	300.6	150.7	1220.3	1519.7	95.8	642.9	873.5	48.52	12.35	3.06	0.61	鷹山or小深沢	和田
6	251.3	106.6	1141.0	999.5	151.2	414.3	717.3	43.79	9.34	6.62	0.66	土屋橋2	和田
7	189.1	78.3	846.8	683.8	123.6	284.4	523.6	42.33	9.24	7.65	0.65	土屋橋1	和田
8	202.0	83.7	850.7	791.5	118.0	349.7	589.0	42.83	9.84	6.39	0.62	土屋橋2	和田
9	327.6	162.3	1320.9	1617.3	103.7	678.5	872.5	49.43	12.29	3.17	0.61	鷹山or小深沢	和田



黒曜石産地推定判別図 (2)

黒曜石産地推定判別図 (1)

第213図 黒曜石産地推定判別図

第5章 まとめ

第1節 地形と遺構の概況

田谷遺跡は太田市東矢島町・西矢島町に所在する。遺跡は主に矢島台地上に立地し、台地周囲の低地は主に水田として利用されている。各調査区を詳しく見ると、1区周辺は著しく削平され周囲の低地との境界が不明瞭であるが、踏査の結果、かつては矢島台地から延びる舌状の小台地であったことが確認された。2～5区については、現況では2区西側および5区東側が台地縁辺のような様相を呈していたが、調査の結果、2区西～南西側と4区北東端が台地縁辺にあたり、2～4区が矢島台地本体にあたることが確認された。よって、5区は低地であり、4・5区間の現道下で地形に大きな変化のあることも確認された。よって、地形的には矢島台地から延びる舌状の小台地(1区)、矢島台地(2～4区)、低地(5区)の3つに分けられる。

調査区内は後世の攪乱による削平が著しく、遺構の残存状態は良好とは言い難い状況であったが、1区および2～4区の台地上から旧石器時代・古墳時代・奈良・平安時代・中近世の遺構と遺物、5区の低地から奈良・平安時代・中近世の遺構と遺物が確認された(第3章第1節、第5表参照)。以下、時代ごとに出土遺構と遺物についてまとめる。

第2節 旧石器時代

本遺跡は、金山丘陵の南約4kmの比較的低平な場所に位置する。標高は約35mである。遺跡の南約3kmには現利根川が南東に向かい流下する。金山丘陵の南部地域には、いくつかの洪積台地が散在し、「新井台地」「飯塚台地」「矢島台地」「高林台地」と呼称されている。田谷遺跡は、その一つである「矢島台地」に立地する。発掘調査時には、始良丹沢火山灰(AT)下の暗褐色ローム(暗色帯)と、さらにその下層に黄橙色ロームが堆積することを確認している。

遺跡地周辺の地形を概観すると、遺跡の北西には、旧渡良瀬川が形成した大間々扇状地が広がり、北東には同じく渡良瀬川による渡良瀬川扇状地が位置する。遺跡が所在する金山丘陵南部の洪積台地群は、大間々扇状地及び渡良瀬川扇状地とは明らかに異なる地形として理解できる。

さらに、遺跡地の西方には由良台地、東方には邑楽台地と呼称される二つの大規模な台地が認められる。特に、由良台地に関しては、大間々扇状地形成過程で浸食を免れた地形面と評価されている。そして、邑楽台地上にある間之原東遺跡の調査では、AT下暗色帯と下層の黄褐色ロームを確認しており、邑楽台地も由良台地と同様に古期の洪積台地と考えられる。

一方、「矢島台地」において、始良丹沢火山灰(AT)下の暗褐色ローム(暗色帯)と下層の黄橙色ロームが観察されたことは前述したとおりである。「高林台地」上の高林西原古墳群の調査でも、田谷遺跡と同様にAT下暗色帯とその下層の黄色ロームを確認している。このことから、金山丘陵南部の洪積台地群もまた、由良台地や邑楽台地と同じように大間々扇状地Ⅱ面形成以前の古い地形面と理解できる。

周辺地域の旧石器時代遺跡を概観すると、大間々扇状地Ⅰ面では数多く発見されている。大間々扇状地内にある独立丘陵には、岩宿遺跡(みどり市笠懸町)など学史上名高い遺跡もある。しかし、それ以外の地域では、旧石器時代遺跡の調査例は少ない。渡良瀬川扇状地域では、東長岡戸井口遺跡(太田市東長岡町)や石神遺跡(太田市龍舞町)があり、金山丘陵の北に細石刃期の八ヶ入遺跡(太田市東今泉町)、金山丘陵と八王子丘陵の鞍部には峯山遺跡(太田市強戸町・緑町)が所在する。

由良台地では、福沢新田遺跡(太田市福沢町)や細谷合ノ谷遺跡(太田市福沢町)において旧石器時代石器群が検出されている。邑楽台地では、御正作遺跡(大泉町朝日)、大泉町間之原遺跡(大泉町北小泉)で確認されている。

金山丘陵の南部地域では、「高林台地」上にある高林西原古墳群(太田市高林西町)が唯一の調査例といえる。田

谷遺跡において旧石器時代石器群が検出されたことにより、当該地域の「矢島台地」での類例が加わったことになる。このことは、前述したような地域の地形発達と人の生活との関係を考える上で有益であるのは勿論のこと、旧石器時代の同地域環境における人の活動を考察する上で極めて重要である。

今回の調査では、2区及び4区で旧石器時代の石器が出土した。2区では、二つの文化層(第1文化層、第2文化層)と単独出土の礫1点を確認した。第1文化層はAs-0kGroupが検出されたV層中に、そして、第2文化層はAs-BPGroupが検出されたVIII層中に帰属するものと判断される。

2区・第1文化層では、チャート及び黒曜石を主要石材とする142点の石器が確認された。チャート製のナイフ形石器が主要ツールを占め、石刃及び縦長剥片を素材としている。また、チャート製の接合資料も認められ、縦長剥片(石刃)の生産が遺跡内で展開していることも確認された。

チャートは、遺跡地近傍で採取可能な近地性の石材ととらえられる。足尾山地から流下する渡良瀬川は、第1文化層形成当時は渡良瀬川扇状地の形成期にあたり、八王子丘陵・金山丘陵の東側を流れていた。遺跡地からは近接した川原でチャートが採取できたことになる。また、遺跡の北にある八王子丘陵にはチャート露頭が存在し、やはり石材採取可能場所であった。一方、黒曜石製石器4点を対象とした原産地分析の結果、3点は長野県和田エリア、1点は同じく諏訪エリアと判定された。

これらのことから、石器石材の保持管理をめぐっては、黒曜石という遠隔地性石材の石器を長期にわたり管理保有する一方で、チャートといった遊動地で容易に採取できる近地性石材からの石器を装備に組み込むといったあり方が予想される。

2区・第2文化層では、黒曜石を主要石材とする14点の石器が確認された。原産地分析の結果、黒曜石製石器5点全てが長野県和田エリアと判定された。接合1(第200図)と剥片1点(第200図-5)は、角礫を利用した資料であり、共に和田エリアと判定されたものである。角礫を利用していることから、原産地に極めて近接した場所で採取したものと考えられ、原石の獲得行動を考える上で重要である。

ツールは黒曜石製のナイフ形石器1点のみであり、厚手の縦長剥片を素材としている。また、黒曜石製の石刃及び縦長剥片が認められることから、黒曜石に関しては石刃または縦長剥片の剥離技術が存在したと考えられる。

一方、4区では、As-BPGroupを含むVII層からVIII層にかけて石器が確認された。出土点数は9点であり、そのうちの8点は一つの接合資料(接合1)を構成するものである。接合1は黒色安山岩製であり、大人の拳の半分程度の大きさの小形円礫を利用している。群馬県域ではAT下暗色帯に帰属する石器群が多出するが、その黒色安山岩製石器の原石サイズは乳児頭大～幼児頭大が主体であることから、それと比較すると接合1は著しく小さい。

赤城山の南麓地域では、旧石器時代に群馬県北部の武尊山産の黒色安山岩が石器石材として多用されていたことが分かっている。武尊山産の黒色安山岩の河川への供給をめぐっては、次のような論考がある。大規模な河川への供給は約3万年以前に発生したものであり、その後そのような大規模な河川への供給形態は認められず、旧利根川河床では黒色安山岩礫は減少に転じ現代に至る。河床礫及び段丘礫層中の黒色安山岩に関して、時代が下るにつれ数が減少していくこと、そして黒色安山岩製石器と段丘礫層等から採取した黒色安山岩礫の自然面の状況を観察すると、年代が新しくなるにしたがい共に風化し爪状の痕跡が消滅してゆくことを主な証拠として提出されたものである。

4区出土の接合1については、原産地分析を実施しておらず原産地は同定されていない。仮に、武尊山産と仮定すると、自然面の状況に関して爪状痕は認められるもののAT下暗色帯の石器と比較すると痕跡はかなり浅く風化が進行していることが分かる。前述したような武尊山産黒色安山岩の資源量が減少していく現象を支持する遺物である可能性がある。

金山丘陵の南部地域について、旧石器時代石器群を灌漑したい(第27表)。帰属層位をみると、①As-0kGroup混ローム、②As-BPGroup混ローム、③AT下暗色帯の三つに分別できる。①としては、田谷遺跡第1文化層石器群と大泉町間之原石器群が上げられる。出土点数はそれほど多くはないが、いずれの石器群でも遺跡内で剥片剥離を中心とした石器製作活動が展開している。また田谷

第27表 田谷遺跡周辺の旧石器時代石器群

遺跡	立地	文化層	帰属層位	点数	主要器種	主要石材	備考
田谷遺跡	矢島台地	第1文化層	As-OkGroup混ローム	142	ナイフ形石器	チャート・黒曜石	2区
		第2文化層	As-BPGroup混ローム	14	ナイフ形石器	黒曜石	2区
大泉町間之原遺跡	邑楽台地	—	As-BPGroup混ローム	9	剥片	黒色安山岩	4区
		—	As-OkGroup混ローム	54	剥片	黒曜石	Ⅲ区
高林西原古墳群	高林台地	—	As-BPGroup混ローム	20	彫刻刀形石器	硬質頁岩・黒曜石	2区1号ブロック
		—	As-BPGroup混ローム	122	角錐状石器(未成品)	黒曜石	3区2号ブロック
		—	ソフトローム～As-BPGroup混ローム	156	角錐状石器(未成品)?	チャート	4区3号ブロック
高林三入遺跡	高林台地	—	AT下暗色帯上部	3	剥片	黒色安山岩	A-1①区
		—	AT下暗色帯上部	1	剥片	硬質頁岩	A-2区
		—	As-BPGroup混ローム	78	切出形石器	黒色頁岩	A-1②区
		—	As-BPGroup混ローム～暗色帯下部	98	ナイフ形石器・切出形石器	チャート	B区
		—	AT下暗色帯下部	1	石刃	珪質頁岩	C区
		—	As-BPGroup混ローム	2	剥片	黒曜石・黒色頁岩	D区
福沢新田遺跡	由良台地	—	AT下暗色帯下部	1	ナイフ形石器	黒色頁岩	D区
		—	As-BPGroup混ローム	3	石刃	黒色頁岩・チャート・黒曜石	
細谷合ノ谷遺跡	由良台地	—	暗色帯(AT下?)	2	ナイフ形石器	チャート・黒曜石	

遺跡第1文化層石器群では、ナイフ形石器が数多く認められ石器製作以外の多様な活動が展開していたことが予想される。

②As-BPGroup混ロームに帰属層位をもつ石器群に関しては、田谷遺跡第2文化層などが上げられる。高林西原古墳群3区2号ブロック石器群と同遺跡4区3号ブロック石器群では、出土点数が百点を超え石器製作が主要活動であったことが復元される。一方、高林三入遺跡D区石器群と細谷合ノ谷遺跡石器群では、出土点数が数点にとどまり、活動内容のあり方に関して石器群間で大きな違いがあると想定される。

③AT下暗色帯に帰属するものは、高林三入遺跡A-1①区石器群などがある。これらの石器群をみると、出土点数が少ない(1～3点)ことが大きな特徴となっており、遺跡内での石器製作活動の痕跡は極めて希薄である。群馬県域の旧石器時代石器群を概観すると、AT下暗色帯に帰属するものは、その石器群の数も多い。そして出土点数が数千点を超えるような大規模なものも少なくない。当該地域の石器群に関しては、出土点数は数点にとどまり規模は極めて小さく、そのようなあり方とは著しい違いがある。このことは当該期集団の活動内容に関して、金山丘陵南部の地域的な特徴を示している可能性がある。

第3節 古墳時代

古墳時代の遺構は1区から方形周溝墓4基、竪穴住居1軒、溝2条、2～4区から竪穴住居6軒、溝2条、井戸6基、土坑1基が確認された。

1区2～4号方形周溝墓は著しく削平されているが、4世紀代の方形周溝墓と推定される。1区1号方形周溝墓は他の3基と異なり、規模が1辺35m以上、出土遺物の時期が5世紀末～6世紀と東毛地域にも類例がなく、方形周溝墓ではなく方墳である可能性も考えられる。しかし、1区1号方形周溝墓からは盛土が確認されず、他の方形周溝墓と主軸方位・周溝断面形が著しく異なることもなく、他の方形周溝墓と群在する様相を呈すことから、方墳ではなく方形周溝墓とした。方形周溝墓は、本遺跡周辺の宮西遺跡(第5図2)・高林三入遺跡(第5図11)・川向・中西田遺跡(第5図51)・飯塚古墳群(第5図55)においても集落を伴い確認されている。本遺跡においても2区から4世紀代の竪穴住居3軒が確認されるとともに、1区北東・2区北西の矢島台地上には前記の宮西遺跡が存在することから、本遺跡1区はこれと一体をなすと考えることが妥当であろう。なお、宮西遺跡

第28表 東毛地域方形周溝墓一覽表(1)

遺跡	所在地	方形周溝墓	円形周溝墓	その他周溝墓	備考	文献
田谷遺跡	太田市東矢島町ほか	4			宮西遺跡に隣接。	本報告書、太田市教育委員会1994『市内遺跡』X、2004同20
宮西遺跡	太田市東矢島町	1			溝として報告。方墳の周堀の可能性もあり。田谷遺跡に隣接。	太田市教育委員会1987『市内遺跡』III、1994『埋蔵文化財発掘調査年報』4
川向・中西田遺跡	太田市内ヶ島町	1				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報(川向・中西田地区)-第1次調査』、1983『大塚・間之原遺跡川向・中西田地区(第2次)』、1988『市内遺跡』IV、1989同V、1991同VI、2014『太田市内遺跡』9
飯塚古墳群	太田市飯塚町	4	1			太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1
屋敷内遺跡	太田市浜町			前方後方形1		太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『浜町屋敷内遺跡C地点』
高林三入遺跡	太田市高林北町ほか	1				(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
富沢古墳群	太田市富沢町	11	1			太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1991a『平成2年埋蔵文化財調査概報』、1991b『埋蔵文化財発掘調査年報』1、1992同2、1993同3、1994同4、1995同5、
小谷場古墳群	太田市牛沢町	1				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1992『埋蔵文化財発掘調査年報』2、1993同3、1994同4
成塚住宅団地遺跡群	太田市成塚町	5	3		円形周溝墓は円形周溝として報告、古墳時代～古代、周溝墓ではない可能性あり。	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、群馬県企業局・太田市教育委員会1990『成塚住宅団地遺跡I』、1991『成塚住宅団地遺跡II』
西長岡東山古墳群	太田市西長岡町	7				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1、1992同2
大原遺跡	太田市由良町	1				太田市1996『太田市史』通史編原始古代
新野脇屋遺跡群(脇屋古墳群)	太田市脇屋町ほか	15				太田市教育委員会2002『市内遺跡』XVII、2010『新野脇屋遺跡群発掘調査報告書』
新野脇屋遺跡群(堂原遺跡)	太田市脇屋町ほか	3				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1970『堂原遺跡報告書』、1973『堂原遺跡発掘調査報告書』、1985『堂原遺跡発掘調査概報』、1992『埋蔵文化財調査年報』2、1993同3、2002『市内遺跡』XVII、2010『新野脇屋遺跡群発掘調査報告書』、群馬県教育委員会1972『オクマン山古墳・堂原遺跡E地点緊急発掘調査概報』
脇屋深町遺跡	太田市脇屋町	2	1			太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1990『脇屋深町遺跡発掘調査概報』、1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1、2003『市内遺跡』XIX
唐桶田遺跡	太田市脇屋町	1			新田東部遺跡群に隣接。	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1995『市内遺跡』XI、1999『唐桶田遺跡』
新田東部遺跡群(一本杉遺跡)	太田市新田小金井町		1		唐桶田遺跡に隣接。	新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2、新田町教育委員会1993『新田東部遺跡群』
新田東部遺跡群(中屋敷東遺跡)	太田市新田小金井町		1		唐桶田遺跡に隣接。	新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2、新田町教育委員会1993『新田東部遺跡群』

第5章 まとめ

第29表 東毛地域方形周溝墓一覧表(2)

新田東部遺跡群(中溝・深町遺跡、中溝Ⅱ遺跡)	太田市新田小金井町		1		円形周溝として報告、古墳時代～古代、周溝墓ではない可能性あり。唐桶田遺跡に隣接。	新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2、新田町教育委員会2000『新田東部遺跡群Ⅱ』
新田東部遺跡群(一本杉Ⅱ遺跡)	太田市新田小金井町		1		円形周溝として報告、古墳時代後期か、周溝墓ではない可能性あり。唐桶田遺跡に隣接。	新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2、新田町教育委員会2000『新田東部遺跡群Ⅱ』
新田東部遺跡群(槍花遺跡)	太田市新田小金井町	13	2		円形周溝墓は円形周溝として報告、古墳時代～古代、周溝墓ではない可能性あり。唐桶田遺跡に隣接。	新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2、新田町教育委員会2000『新田東部遺跡群Ⅱ』
中屋敷・中村田遺跡	太田市新田村田町・新田野井町	9				新田町教育委員会1997『中屋敷・中村田遺跡』
北宿遺跡	太田市新田上江田町	1				新田町教育委員会1993『北宿・観音前遺跡』、2000『北宿遺跡』
中江田八ッ縄遺跡	太田市新田中江田町		1		円形周溝として報告、古墳時代前期か。周溝墓ではない可能性あり。	(財)群馬県埋蔵文化時調査事業団1995『中江田八ッ縄遺跡』、新田町教育委員会2000『八ッ縄遺跡』、2001『新田町内遺跡』Ⅲ、2004同Ⅴ、2005同Ⅵ、
常木遺跡	太田市岩松町	1				尾島町専門委員会1993『尾島町誌』通史編上
三ツ木皿沼遺跡	太田市小角田町、伊勢崎市境三ツ木ほか	2			小角田前遺跡に隣接。	(財)群馬県埋蔵文化時調査事業団2000『三ツ木皿沼遺跡』
小角田前遺跡	太田市世良田町	1			三ツ木皿沼遺跡に隣接。	尾島町専門委員会1993『尾島町誌』通史編上、(財)群馬県埋蔵文化時調査事業団1985『小角田前遺跡』、1995『小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡』
元屋敷遺跡(阿左美遺跡元屋敷地区)	みどり市笠懸町阿左美	2				笠懸町教育委員会1993『笠懸町内遺跡』Ⅰ、1995同Ⅱ、みどり市教育委員会2013『みどり市内遺跡』4
磯之宮遺跡	太田市上小林町	2				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1986『渡良瀬川流域遺跡発掘調査概報』
細田遺跡	太田市安良岡町	7				太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1978a『発掘調査概報細田遺跡』、1978b『細田遺跡発掘調査略報Ⅱ』
塚井遺跡	太田市沖之郷町		1		円形周溝として報告、古墳時代前期か、周溝墓ではない可能性あり。	太田市教育委員会2009『塚井遺跡』
間之原遺跡	太田市龍舞町	3	1		大泉町間之原遺跡に隣接。	太田市1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概報』、1985『市内遺跡』Ⅱ、1987同Ⅲ、1988同Ⅳ、1990同Ⅵ、1992同Ⅷ
大泉町間之原遺跡	大泉町北小泉		2		円形周溝として報告、古墳周堀の可能性あり。間之原遺跡に隣接。	大泉町誌編集委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会1988『大泉町間之原遺跡』、2004『大泉町間之原Ⅱ遺跡』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
御正作遺跡	大泉町朝日	7	1			大泉町誌編集委員会1983『大泉町誌』下、大泉町教育委員会1984『御正作遺跡』
道満遺跡	館林市赤生田町	1			1970年、群馬県内最初の方形周溝墓発見例。	館林市史編さん委員会2011『館林市史』資料編1 原始古代
北近藤第一地点遺跡	館林市近藤町		1		円形周溝遺構として報告、時期不明、周溝墓ではない可能性あり。	館林市教育委員会1988『中島遺跡・北近藤第一地点遺跡・南近藤遺跡』、1982『館林市内遺跡発掘調査報告書』、1987同、1996同、1998同、2000同、2003同
合計		106	19	前方後方形1	円形周溝墓としたものうち9つは周溝墓ではない可能性あり、1つはその可能性が高く、2つは古墳の可能性あり。	

の方形周溝墓(5・7号溝)からは6世紀代の遺物が出土しているが、当該期の竪穴住居との重複の可能性が指摘されており、積極的に6世紀代と評価することは難しい。また、1区4号方形周溝墓は周溝東側に空白部分があることから前方後方形の可能性も考えられるものの、南側大半が調査区外のため推測の域を出ない。仮に前方後方形とすると、屋敷内遺跡(第5図83)のものに続き東毛地域で2例目となる。

群馬県内における方形周溝墓の最初の発見は、昭和45(1970)年に東北自動車道館林インターチェンジ建設に伴う道溝遺跡(第5図範囲外)の発掘調査でのことである。以後、東毛地域においても発見が相次ぎ、第28・29表の遺跡において確認されている。その分布は、金山丘陵の西～南半部を取り囲むかのように集中している。本遺跡はその集中分布域の南東端に位置する。方形周溝墓の出現は弥生時代後期のことであるが、急速に広まるのは古墳時代に入ってからであり、とくに東毛地域においては、弥生時代のもの確認されておらず、古墳時代前期石田川期の集落分布とほぼ一致している。このことは、集落の一角または近接地に方形周溝墓が形成されたことを示している。

溝に目を転じると、まず注目されるのが3区5号溝・4区5号溝である。この2条の溝はおそらく調査区を跨ぎ一体をなすと考えられ、出土遺物から5世紀前半のものである。その性格については、方形周溝墓としては土器の出土量も多く時期も異なり、古墳としては埴輪の出土が皆無であることから、豪族居館の堀と考えるのが妥当であろう。しかし、著しく削平されているため掘りが浅く内部の状態も不明であることから、詳細は不明であるとせざるをえない。なお、豪族居館については、『尾島工業団地遺跡』の考察で集成がなされている。

竪穴住居については、1区および2～4区において5～6世紀のもの計7軒が確認された。いずれも著しく削平されており、掘方のみ残存するものが大半である。そのような中で、6世紀代の3区1・2号竪穴住居は床面を残しており本調査区において比較的良好な状態である。

また、2区を中心に、遺構埋没土中に埴輪片の混入が確認された。本調査区において古墳は確認されておらず、周辺地域から持ち込まれたか、もしくは、本調査区内に

かつて古墳が存在した可能性が考えられる。

以上のことから、本遺跡の立地する矢島台地上は古墳時代において墓域または居住域であったことが推定される。これら台地上の集団を支えた生産域は何処かと考えた場合、台地周囲に広がる沖積地をこれにあてるのが最も適当であろうか。実際、これら沖積地は奈良・平安時代における条里制水田推定地(第5図90、A～E)であることから、古墳時代においても同様の土地利用であった可能性は十分に考えられる。

第4節 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、1区から竪穴住居2軒、掘立柱建物10棟、柵1基、井戸1基、ピット1基、2～4区から竪穴住居3軒、掘立柱建物7棟、井戸1基、土坑1基、ピット1基、5区から溝12条が確認された。

1区南西部において、10棟の掘立柱建物が確認されている。これら掘立柱建物は、一辺が1m近い大形柱穴で構成されており、2間×3間または2間×3間+庇の2タイプがある。出土遺物から9世紀代と推定され、重複関係から竪穴住居よりは古く、少なくとも2時期以上の変遷が考えられる。うち、1区6号掘立柱建物P8からは「主」墨書土器が出土している。竪穴住居は掘方まで削平されているものも多いが、掘立柱建物と重複しつつ1区西南部に一群をなしている。4区においても、竪穴住居、掘立柱建物が散在する。

5区の溝については、他の調査区とは異なり低地であることや、周辺土壌が水田耕作土であり埋没土への砂混入など流水の形跡が見られることから、灌漑用溝と考えられる。本遺跡周辺は奈良・平安時代以降も継続して集落遺跡の数が多く、古墳時代と同様に洪積台地上が居住域であったと推察される。これらの集落を支えた生産域については、5区の溝群および本遺跡周辺の沖積地が条里制水田推定地となっていることから(第5図90、A～E)、これにあたりと考えられる。

さて、ここで新田郡域における奈良・平安時代の集落分布に着目すると、次の6地域に大分される(『太田市史』参照)。また、地方官衙的な遺跡の分布に着目すると、周辺各郡の郡衙推定地が、比較的近距离にあることに気づく。金山丘陵を中心に南に川入遺跡付近(邑楽郡

衙推定地、第5図42。新田郡衙移転地の可能性もある)、東麓に山田郡衙推定地(太田市緑町付近、第5図範囲外。他にみどり市大間々町高津戸付近も)、北西に天良七堂遺跡(新田郡衙推定地、第5図範囲外)が存在する。これは、太田市役所を中心とした半径約4kmの範囲にあたる。

【新田郡の奈良・平安時代の集落分布】

①大間々扇状地末端・八王子丘陵南西麓地域。東山道が通り、天良七堂遺跡(新田郡衙推定地)・入谷遺跡(新田駅推定地、第5図範囲外)や寺井廃寺(第5図範囲外)を中心に官衙的性格の強い遺跡が多い地域。6地域中で最も広大な面積を占める。

②木崎台地・石田川中流域地域。西方の早川右岸の佐位郡域にも集落が広がる。小角田下遺跡(第5図範囲外)から、「たこう」または「たかい」と読める「高生」墨書土器が出土している。

③由良台地地域。主に台地縁辺に集落が分布する地域。奈良時代寺院址と推定される釣堂遺跡(第5図範囲外)が所在。

④太田地区南西沖積地域。沖積地内に東西にのびる飯塚台地・新井台地などに集落が分布する。沖積地は条里制水田推定地となっている地域。一部邑楽郡域か。本遺跡が所在。

⑤高林・大泉台地(邑楽台地西部)地域。宝亀2(771)年以前は東山道武蔵道が通り、東矢島廃寺(第5図31)が存在する地域。川入遺跡付近(邑楽郡衙推定地)をはじめ邑楽郡域をも含む。本遺跡の南。

⑥天神山・鹿田山・稲荷山丘陵周辺地域。専門的生産遺跡が目立つ地域。6地域中で最も分布が希薄。

本遺跡は④地域の南部、矢島台地上に位置し、周辺の沖積地が前記の通り条里制水田推定地であり、距離的には⑤地域、とくに東矢島廃寺にきわめて近い。しかし、本遺跡においては1区6号掘立柱建物ピット8より「主」墨書土器こそ出土したものの、集落として特殊な性格はうかがえない。郡衙や寺院周辺の一般的な集落の一つであったと推察される。但し、この①～⑥地域の傾向は、発掘調査例が少ない地域もあり、今後の調査の進展により変わる可能性があることを留意せねばならないことを付言しておかねばなるまい。

ここで、『倭名類聚抄』の郷名考証とこの集落分布との比較を試みたい。一覧表にまとめると、第30表のように

なる。まず、近年の発掘調査の成果から、新田郷が天良七堂遺跡(新田郡衙推定地)を中心に①地域、駅家郷が入谷遺跡(新田駅推定地)を中心に①地域(新田郷と重複も)、小角田下遺跡出土「高生」墨書土器から淡甘郷が太田市新田高尾町を含む②地域である可能性が高い。太田市菅塩町の「祝人」小字名から祝人郷が①地域東部とすることも問題ないであろう。残る滓野・石西の2郷と③～⑥地域については、上記4郷に比べると根拠がやや弱い感もあるが、滓野郷は地名から太田市粕川町を含む②地域または「沢野」説を採れば太田市沢野地区の③地域南部と⑤地域西部、石西郷は地名と河川流路・地割遺構の分布から八瀬川・蛇川流域の条里水田推定地を取り囲む太田市岩瀬川町など③地域南部と④⑤地域を一体と見なすのが妥当であろうか。すると、問題となるのが、④⑤地域に邑楽郡域、邑楽郡衙推定地をも含むことである。ここで、邑楽郡域における奈良・平安時代の様相を見ることとする。

【邑楽郡の奈良・平安時代の集落分布】

(i)太田地区南西沖積地域。沖積地内に東西にのびる飯塚台地・新井台地などに集落が分布する。沖積地は条里制水田推定地となっている地域。新田郡域であるが、一部が邑楽郡域に相当か。本遺跡が所在。

(ii)邑楽台地西部(高林・大泉台地)地域。宝亀2(771)年以前は東山道武蔵道が通り、東矢島廃寺(第5図31)が存在する地域。邑楽郡衙推定地(川入遺跡付近)が所在。仙石専光寺付近遺跡(第5図40)から「上邑厨」墨書土器、仙石道祖遺跡(第5図39)から「疋太」墨書土器、御正作遺跡(第5図範囲外)から「八田」墨書土器が出土している。一部新田郡域をも含む。本遺跡の南から東にかけて。

(iii)邑楽台地北部地域。5地域中、最も分布が希薄。

(iv)谷田川流域地域。5地域中で最も広大な面積を占める。

(v)藤岡台地地域。邑楽郡板倉町東部から隣接する栃木県栃木市(旧下都賀郡藤岡町)へと続く地域。

新田郡域での①～⑥地域の傾向と同じく、この邑楽郡域の(i)～(v)地域の傾向についても、発掘調査例が少ない地域もあり、今後の調査の進展により変わる可能性があることを留意せねばならないことを付言しておかねばなるまい。

ここで、『倭名類聚抄』の郷名考証とこの集落分布との

第30表 新田郡内郷推定地一覧表

	大日本地名辞書6(吉田東伍1900)	日本地理志料(村岡良弼1903)	峰岸純夫1973	尾崎喜左雄1976	木暮仁一・須田茂1984	新田町誌(須田茂1990)	尾島町誌(須田茂1993)	笠懸村誌(井上・若月1985)	数塚本町誌(松島・井上・半田1991)	太田市史(梅沢重昭1996)	奈良・平安時代集落分布①～⑦
新田(にふた)	強戸村・鳥之郷村・太田町	強戸村・鳥之郷村・太田町	金山西南麓鳥山・鶴生田・新野・大島・太田等	世良田付近	金山西麓一帯(郡東域)寺井・強戸・鳥山・脇屋・新野・由良・大島(小金井・村田・市野井・市)	太田市天良町天良七堂遺跡周辺	太田市天良町天良七堂遺跡周辺	尾島町世良田周辺	尾島町世良田周辺	金山西回りの平野地域寺井町・成塚町・北金井・強戸・鶴生田・鳥山・大島町・新野町・脇屋・由良・藤阿久町・細谷町・新田町小金井・市野井・村田・反町	①地域か
滓野(かすの)※沢野説あり	世良田村・尾島村	粕川・世良田・徳川郷・出塚・大館・安養寺・亀岡・尾島・木崎・中江田・下江田	粕川旧河道沿岸木島・女塚・世良田・粕川・岩松	沢野付近	粕川流域一帯(郡南西域)亀岡・大館・粕川・世良田・木崎・中江田・小角田	石田川中流域、尾島町・新田町南部	尾島町粕川を中心とする石田川中・下流域	太田市沢野	太田市沢野	木崎台地南部から石田川流域を挟んで利根川左岸に広がる尾島町にかけての地域	②地域か、③地域南部と⑤地域西部か
石西(いはせ)	九合村・沢野村・宝泉村	岩瀬川村細谷・由良・別所・脇屋・沖野・西谷・上田島・下田島・岩松・堀口・小泉・富沢・牛沢・矢島	矢島付近の条里制水田を囲む飯塚・浜田・岩瀬川および牛沢・高林	岩瀬川付近	岩瀬川周辺(郡南東域)牛沢・岩瀬川・飯塚・新井・細谷	八瀬川流域、金山丘陵西・南地域	八瀬川流域	太田市岩瀬川より北にのぼる	太田市岩瀬川および太田市街	市域南部の平野地域新井町・下浜田町・岩瀬川町・福沢町・富沢町・牛沢町・高林北町・西矢島町・東矢島町・旧太田町・飯田町・飯塚町・東別所町など(大泉町古水も含むか)	③地域南部と④⑤地域か(④⑤地域の一部は邑楽郡の可能性あり)
祝人(はふり)	駅家郷の西、嘉禰・大根・江田の辺り	嘉禰村大村・市村・溜池・上中・大久保・本町・六千石	八王子丘陵西南麓阿左美・藪塚・長岡・成塚(成塚郷内菅塩村に祝人の小字名あり)	菅塩付近	菅塩の小字祝人周辺(郡東北域)北小金井・菅塩・長岡・藪塚	太田市菅塩町周辺	太田市菅塩地内の祝人を中心に藪塚本町・笠懸町を含む	太田市菅塩	太田市菅塩周辺	笠懸町から藪塚本町、市域北部の西長岡、北金井、菅塩にかけて	①地域東部か
淡甘(たこう)※淺甘説あり	阿左美	阿左美村鹿・鹿田・間谷・久宮・藪塚	早川沿岸の新川・鹿田・小泉・田部井・綿打・大根等	高尾付近	高尾・田中・田部井など周辺高尾・田中・花香塚・平井・小泉・大根・上江田	新田町高尾周辺	新田町上田中・下田中	笠懸村阿左美	新田町高尾周辺	高尾の地名が残る早川や石田川水系の新田郡南西部地域	②地域か
駅家(うまや)	市村、市之井村	(記述無し)	東山道に沿った強戸・寺井など	市野井付近	新田郷の一部?小金井・村田・市野井・市	新田町村田入谷遺跡周辺、新田郷と重複か	新田町市野井から太田市寺井にかけて	新田町市・市野倉	新田町市野井周辺	新田町小金井にある入谷遺跡、新田郷の域内	①地域か(新田郷と重複も)

第31表 邑楽郡内郷推定地一覧表

	大日本地名辞書6(吉田東伍1900)	日本地理志料(村岡良弼1903)	群馬県邑楽郡誌1917	館林市誌歴史編1969	千代田村誌1975	尾崎喜左雄1976	邑楽町誌上1983	板倉町史通史上(近藤義雄1985)	館林市史資料編1(前沢和之・川原秀夫2011)	奈良・平安時代集落分布(i)~(v)
池田(いきた)	館林の辺か	小泉、石打、寄木戸、仙石、古海、新福寺、篠塚	館林付近	(記述無し)	館林付近	(記述無し)	館林辺	(記述無し)	邑楽・館林台地北西部で松本古墳群がある邑楽町石打から高値古墳群のある館林市北西部辺り	(iii)地域か
疋太(ひきた)	細谷、板倉、海老瀬などか	大島、田谷、四ッ谷、大曲、大荷場、細谷、西岡、浮戸	東北部	(記述無し)	東北部	(記述無し)	細谷、板倉、海老瀬などの辺か	板倉地方	邑楽・館林台地東縁部から低地部を含む板倉町一帯	(v)地域か、または(iv)地域東縁部と(v)地域か
八田(やた)	佐貫、高柳、羽附、赤生田、千津井、飯野など	(記述無し)	南部谷田川沿岸	谷田川沿岸	南部谷田川沿岸	谷田川の流域の羽附・岩田地帯	佐貫、高柳、羽附、赤生田、千津井、飯野など	(記述無し)	千代田町赤岩の堂山古墳の付近から谷田川沿いに東に延びる利根川の自然堤防と後背低地、その対岸の邑楽・館林台地南縁部	(iv)地域か
長柄	小泉、中野、狸塚、赤岩、三林	萱野、五箇、赤岩、木埜、野辺、鍋谷、舞木、福島、狸塚、赤堀	西部	「上野国神名帳」邑楽郡の「正一位長柄明神」の鎮座地(邑楽町篠塚または千代田町瀬戸井)付近	西部	「上野国神名帳」邑楽郡の「正一位長柄明神」の鎮座地付近(旧長柄村、旧永楽村)	長柄首を中心に成立(邑楽町大字篠塚字番場の長柄神社)	(記述無し)	大泉町仙石、寄木戸を中心とした邑楽・館林台地西南部西縁は太田市街地を南北に流れる八瀬川付近	(i)地域の一部と(ii)地域か、または(ii)地域か

比較を試みたい。一覧表にまとめると、第31表のようになる。まず、「谷田川」地名から八田郷が(iv)地域とすることは問題ないであろう。また、『上野国神明帳』の邑楽郡筆頭の「正一位長柄明神」は、同名の長柄郷に所在した可能性が指摘されている。具体的には、(あ)邑楽郡邑楽町篠塚長柄神社、(い)邑楽郡千代田町瀬戸井長良神社のいずれかが想定されているが、(い)は前述の(iv)地域にあたり、(あ)は(ii)地域の東端で川入遺跡付近(邑楽郡衙推定地)も同地域内であることから、(ii)地域が妥当であろう。長柄(長良)神社の分布から(i)地域の一部も含む可能性もある。池田郷・疋太郷については積極的な根拠はないが、先学のほぼ一致した見解から、仮に池田郷は(iii)地域、疋太郷は(v)地域または(iv)地域東縁部と(v)地域をあてておく。

邑楽郡の様相も踏まえ、改めて本遺跡の立地を考えてみることにする。前述のように川入遺跡付近が邑楽郡衙ではなく新田郡衙移転地とすれば、『太田市史』の記すよ

うに石西郷は新田郡を二分するかのとき勢力の有力地域となる。また、川入遺跡付近を邑楽郡衙とすれば、『館林市史』資料編1の指摘するように八瀬川を郡境とすることとなる(この場合、本遺跡は邑楽郡となる)。いずれにせよ、川入遺跡付近の発掘調査が進められないかぎり、疑問を残したままとなる。このような状況からして、本遺跡についても新田郡石西郷もしくは邑楽郡長柄郷の範囲にある可能性を指摘するに止めざるをえない。

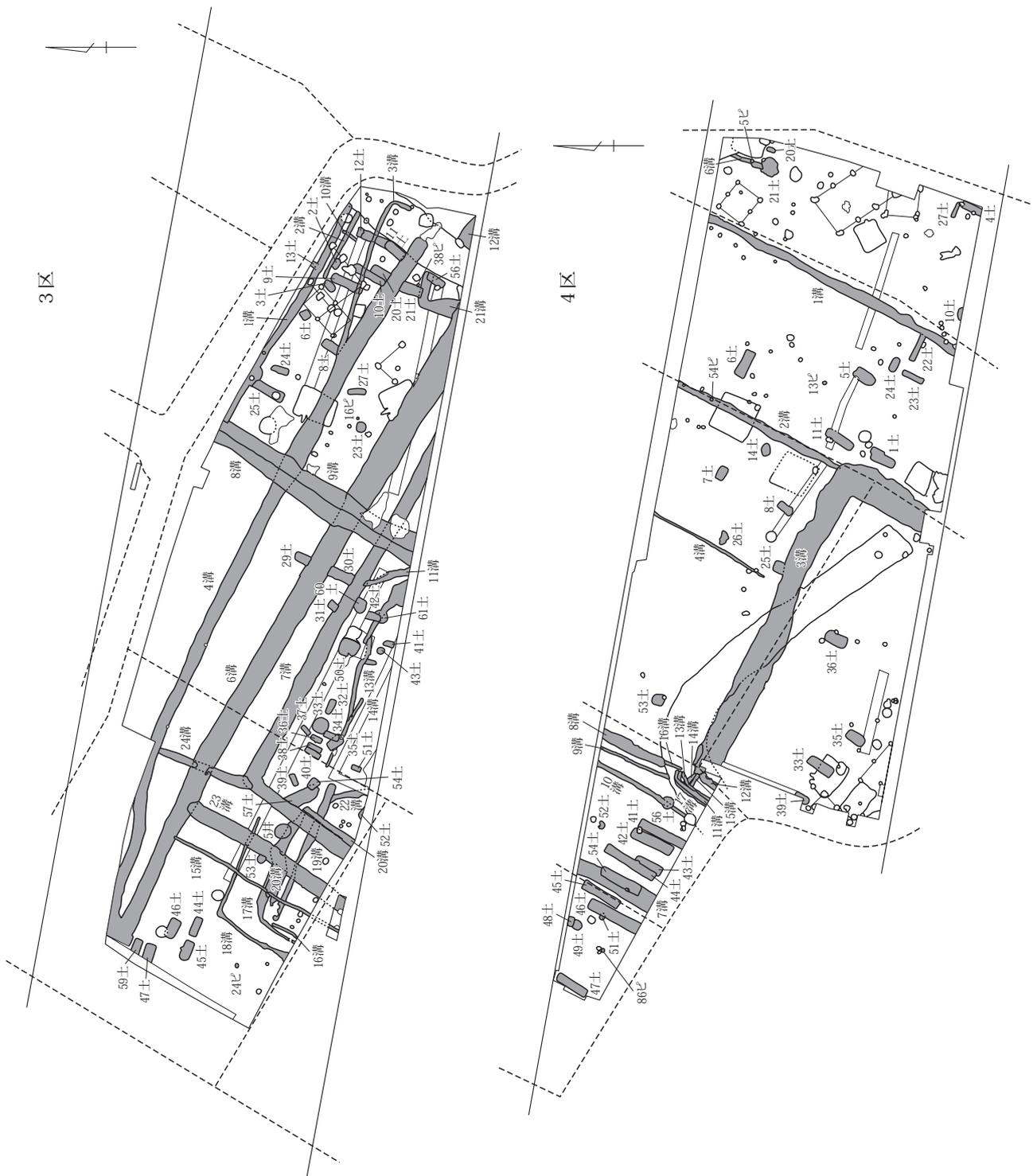
なお、詳細な時期は不明であるが、古墳時代～奈良・平安時代の遺構は、1区から竪穴住居4軒、溝4条、井戸1基、土坑1基、ピット8基、2～4区から竪穴住居5軒、柵1基も確認されている。

第5節 中世

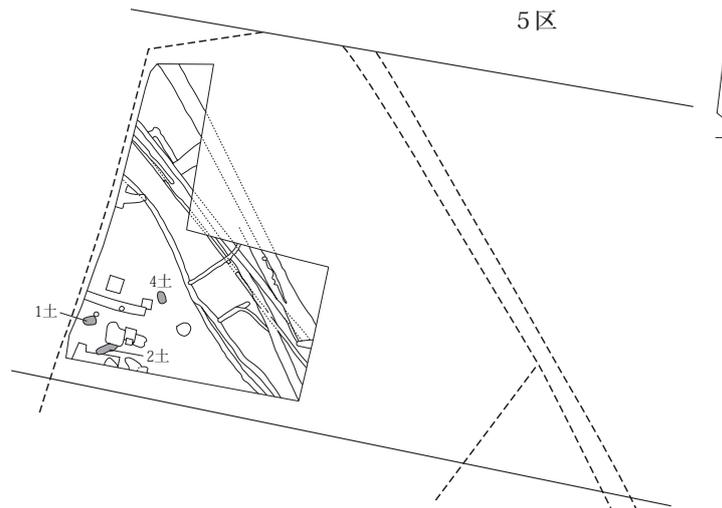
中世の遺構は、1区から溝2条、2～4区から溝12条が確認された。



第214図 田谷遺跡1・2区、中近世遺構と調査前の地割り(1)



第215図 田谷遺跡3・4区、中近世遺構と調査前の地割り(2)



第216図 田谷遺跡5区、中近世遺構と調査前の地割り(3)

3区4・6・7号溝は45～70mにもなる区画溝であり、少なくとも2時期以上の変遷が推定される。重複関係から3区6号溝が4号溝より古く、出土遺物から7号溝が最も新しく最終的な埋没は近世に下ると推定される。屋敷を囲う区画溝と考えられるが、区画内部に明確な中世遺構が確認されておらず、詳細は不明である(第214～216図参照、時期の不明確な中近世遺構は確認されている)。4区3号溝は薬研状の掘り込みをもつ一辺が25mの方形区画となるが、埋没土層の状況および出土遺物、調査前の土地区画と完全に一致することなどから、最終的な埋没は現代の可能性が高い(第214～216図参照)。

これらの溝のうち、比較的残存状況の良好なものを観察すると、多くのものの断面形が薬研状を呈し、かつ埋没土中にAs-Bの一次堆積が見られないことから、最も古いものでも天仁元(1108)年のAs-B降下以降に活発となった荘園開発の中で掘削されはじめたと考えられる。なお、『上野国郡村誌』15(新田郡)によると西矢島郷が新田荘、東矢島郷が佐貫荘に属したとされ、本遺跡は両荘園の境界付近にあたる可能性が考えられる。本遺跡周辺のこととして、正本文書や長楽寺文書に、嘉応年間(1169～71年)に本遺跡北方の新田荘飯塚郷が佐貫荘により押領されたとの記録や、享徳4(1455)年に岩松持国が前年に佐貫荘から奪還した飯塚郷を古河公方より安堵されたとの記録、乾元2(1303)年に佐貫荘飯塚郷内名田一町が僧了見により新田荘世良田長楽寺に寄進されたとの記録もある。

土坑については、明確に中世と推定されるものは確認

されていない。しかしながら、後述するように時期の不明確な中近世土坑が数多く確認されており、これらの中に中世土坑の存在する可能性が十分に考えられる。

第6節 近世

近世の遺構は1区から溝2条、2～4区から溝23条、井戸1基、土坑35基が確認された。

溝の走向に着目すると、2～4区の溝は大半がN-60°-W前後またはN-30°-E前後の2方向に走っており、この方向が調査区周辺の土地区画や道路の走向とほぼ一致していることは一目瞭然である(第214～216図参照)。このことは、前節の4区3号溝の例を挙げるまでもなく、中世以来の土地区画が、近世、近代を通じ現代まで影響を与えていることを示唆するものである。

土坑については、多くの方形および長方形土坑が確認された。通称「イモ穴」と呼ばれる耕作物貯蔵用土坑と考えられるものである。これらイモ穴の長軸方向も溝の走向と同様にN-60°-W前後またはN-30°-E前後の2方向であり、これもまた中世以来の土地区画の影響を示すものであると考えられる。以上のことから、本遺跡周辺において中世のある時期に定まった土地区画は、現代までその大枠を維持し続けたと推定される。

近世遺構のうちには、2区7号溝や4区3号溝、3区29・30号土坑などのように多量の土師器、須恵器、埴輪が出土するものがある。これら多くの古墳時代～奈良・平安時代の遺物が出土する近世遺構の周囲には、古墳時

代～奈良・平安時代の遺構はわずかである。このことから、調査区周辺および溝の延長上などに古墳・竪穴住居等の未知の遺構が存在する可能性が指摘される。但し、本遺跡内が著しく削平されていることからして、それらの遺構はすでに消滅していることも考えられる。

遺構内外から数多く出土した在地系土器は、いわゆる小泉焼である。小泉焼が近隣地域に広まるのは近世以降であり、近代以降に最盛期を迎える。本遺跡の小泉焼は化政期から幕末期にかけてのものが中心である。3区

50・60・61号土坑からは多量の小泉焼が出土しており、出土状況からして一括廃棄された可能性が考えられる。前出の古墳時代～奈良・平安時代の遺物が出土する近世土坑も一括廃棄の可能性が否定できず、近世における廃棄物処理のあり方を示していると考えられる。

なお、詳細な時期は不明であるが、中近世の遺構は、1区から溝1条、井戸1基、茶毘遺構1基、土坑11基、ピット9基、2～4区から溝26条、井戸2基、土坑147基、ピット8基、5区から土坑3基が確認されている。

参考文献

石田川遺跡調査会2001『石田川遺跡』
 板倉町史編さん委員会1985『板倉町史』通史上巻
 大泉町誌編集委員会1983a『大泉町誌』上
 大泉町誌編集委員会1983b『大泉町誌』下
 大泉町教育委員会1984『御正作遺跡』
 太田市1996a『太田市史』通史編・原始古代
 太田市1996b『太田市史』通史編・自然
 太田市1997『太田市史』通史編・中世
 太田市教育委員会1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1
 太田市教育委員会1994『埋蔵文化財発掘調査年報』4
 太田市教育委員会2008『尾島工業団地遺跡』
 尾崎喜左雄1976『群馬の地名』下 上毛新聞社
 尾島町誌専門委員会1993『尾島町誌』通史編上
 笠懸村誌編纂室1985『笠懸村誌』上
 京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇
 臨川書店
 群馬県企業局・太田市教育委員会1990『成塚住宅団地遺跡Ⅰ』、
 群馬県企業局・太田市教育委員会1991『成塚住宅団地遺跡Ⅱ』
 群馬県教育会1927『群馬県史』1
 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編5
 群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編1
 群馬県文化事業振興会1986『上野国郡村誌』15
 群馬県文化事業振興会1986『上野国郡村誌』17
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『東長岡戸井口遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『高林三入遺跡 八反田遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『高林西原古墳群』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『福沢新田遺跡 細谷合ノ谷遺跡 細谷八幡遺跡』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『峯山遺跡Ⅰ—旧石器・縄文時代編—』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『八ヶ入遺跡Ⅰ—旧石器時代編—』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『石神遺跡』
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『間之原遺跡・間之原東遺跡』
 木暮仁一・須田茂1984「上野国新田駅とその周辺の東山道について」『群馬県史研究』19
 澤口宏2010「大間々扇状地—社会基盤としての自然環境—」『共同研究 群馬県大間々扇状地の地域と景観—自然・考古・歴史・地理』 pp.7-18
 館林市史編さん委員会2007『館林市史』資料編2 中世
 館林市史編さん委員会2011『館林市史』資料編1 原始古代
 千代田村誌編さん委員会1975『千代田村誌』
 津島秀章2008「チャートをめぐる石材環境—赤城山南麓地域のチャート露頭—」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要26』 pp.119-130
 津島秀章・岩崎泰一2010「武尊山産黒色安山岩の消長—石材資源の動的理解に向けて—」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要28』 pp.1-16
 新田町企画調整課町誌編さん係1984『新田町誌』4
 新田町企画調整課町誌編さん係1987『新田町誌』2
 新田町教育委員会2000『新田東部遺跡群Ⅱ』
 峰岸純夫1973「東国武士の基盤—上野国新田莊—」稲垣泰彦編『荘園の世界』 東京大学出版会
 村岡良弼1903『日本地理志料』 臨川書店
 数塚本町誌編纂室1991『数塚本町誌』上
 吉田東伍1900『大日本地名辞書』6 富山房

1区1号方形周溝墓遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第15図 PL.85	1	土師器 杯	底面+12 口縁部~底部上位	口	12.1		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部と底部の間には稜を有する。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	
第15図	2	土師器 杯	底面+12 破片	口	12.2		粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第15図	3	土師器 杯	底面+1 破片	口	15.2		粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第15図 PL.85	4	土師器 杯	底面+14 1/3	口 底	12.0 6.2	高 3.6	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部に横ナデ。体部は斜横位のヘラ削り。上位にナデの部分を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第15図 PL.85	5	土師器 杯	底面+15 口縁部一部欠	口	13.7	高 4.2	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。外面は体部にナデ。指頭圧痕を残す。底部は一定方向に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第15図 PL.85	6	土師器 高杯	底面+6 杯部下位~脚部			台 6.5	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	脚部は低く裾部は反り返る。杯部外面はハケ目。内面は丁寧なナデ。脚部は内外面ともナデ。	器面やや摩滅。
第15図 PL.85	7	土師器 鉢	底面+6 2/3	口	7.9	高 4.8	赤黒色粘土粒/良好/橙	体部外面下位にヘラ削り。	器面摩滅。
第15図 PL.85	8	土師器 埴	底面+3 口縁部~胴部中位2/3	口	8.2		粗砂粒・白色鈹物粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデ。内面はヘラナデ。	
第15図 PL.85	9	土師器 小型甕か	底面+10 胴部~底部片	底	4.6		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は胴部に斜横位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナデか。	器面摩滅。
第15図 PL.85	10	土師器 甕	底面+12 口縁部片	口	25.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第15図 PL.85	11	土師器 甕	底面+3 口縁部1/3	口	15.6		粗砂粒・軽石粒/良好/灰白	内外面とも横ナデ。	
第15図 PL.85	12	土師器 甕	底面+18 胴部下位~底部2/3	底	3.8		粗砂粒・細砂粒/良好/灰褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面炭素吸着。
第15図 PL.85	13	土師器 手握ね	底面+9 口縁部一部欠損				粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部の整形は粗雑で波打つ。外面はナデ。内面も指ナデ。	
第15図	14	埴輪 円筒	底面+20 口縁部片				粗砂粒/宍窯焼成/にぶい橙	外面にハケ目(4本/1cm)。内面も斜横位にハケ目。	

1区4号方形周溝墓遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第19図 PL.85	1	土師器 壺	底面+16 口縁~胴部上位1/3	口	19.4		粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は二重口縁である。外面は口縁部にハケ目を充填後、一部に横ナデ。胴部はヘラ磨き。内面は口縁部上半部にヘラ磨き。下半部にナデ。胴部はヘラナデ。粘土紐の接合痕を残す。	器面やや摩滅。

1区1号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第20図 PL.85	1	土師器 杯	底面+10 1/3	口 底	14.0 8.4	高 3.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は下半部にヘラ削り。上半部はナデの部分を残す。底部はヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第20図	2	土師器 甕	底面+3 胴部~底部片	底	4.2		粗砂粒/良好/にぶい褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	

1区4号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第23図 PL.85	1	土師器 杯	竈 1/4	口 底	13.0 7.4	高 3.9	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部・体部・底部ともヘラ削り。内面はナデ。	
第23図 PL.85	2	須恵器 杯	床面+3 1/4	口 底	12.4 5.8	高 3.5	小礫・粗砂粒多/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第23図 PL.85	3	須恵器 椀	床面+6 底部片			台 7.0	粗砂粒・赤黒色粘土粒/還元焰・軟質/灰黄	ロクロ整形(回転方向不明)。高台部は付け高台。	器面摩滅。
第23図 PL.85	4	土師器 甕	床面+13 台部欠損	口	13.3		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は横位のヘラ削り。中位以下は斜縦位のヘラ削り。台部近くにナデ。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。

遺物観察表

2区2号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	高				
第26図 PL.85	1	土師器 埴か	底面+13 2/3	口	12.8	高	7.6	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から体部上位は横ナデ。体部は丁寧なナデ。底部は 手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着。 黒色味。摩 滅。
第26図 PL.85	2	土師器 壺	底面+4 口縁部～胴上位 2/3	口	17.2			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は斜め上方に外反する。二重口縁。口縁部外面は横 ナデ後、縦位にヘラ磨き。内面は横位にヘラ磨き。胴部外 面も縦位にヘラ磨き。内面は横位にヘラナデ。	内面摩滅。

3区1号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	高				
第28図 PL.86	1	土師器 甕	床面+2 口縁部～胴部中 位	口	22.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜 横位のヘラナデ。	被熱の為、炭 素吸着。
第28図 PL.86	2	土師器 甕	床面+2 口縁部～胴部上 位1/3	口	19.2			粗砂粒・軽石粒/良 好/明黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位・横位のヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。	被熱の為、炭 素吸着。
第28図 PL.86	3	土製品 支脚	床面+1 上部					粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/灰黄褐	上端に平坦面をなし、截頭円錐状を呈する。外面は縦位の ヘラ削り。内面には輪積み痕を残す。	

3区2号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	高				
第30図 PL.86	1	土師器 杯	床面+3 完形	口	12.6	高	4.5	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外炭素吸着。
第30図 PL.86	2	土師器 杯	床面+7 4/5	口	13.0	高	3.9	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面煤付着。 外面炭素吸着。
第30図 PL.86	3	土師器 高杯	床面+1 脚部2/3	底	15.0			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	外面は柱部に縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は柱部 に横位のヘラ削り。輪積み痕を残す。裾部は横ナデ。	
第30図 PL.86	4	土師器 鉢	底面+15 1/3	口	18.2	高	6.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面の一部に 炭素吸着。被 熱の為か摩滅。
第30図 PL.86	5	土師器 鉢	床面+5 1/2	口 底	20.1 7.7	高	13.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は体部から屈曲、斜上方に内傾して立ち上がる。口 縁部に横ナデ。体部外面はヘラ削り。内面はナデ。底部外 面はヘラ削り。	器面摩滅。
第30図 PL.86	6	土師器 小型甕	底面+16 1/4	口 底	12.6 4.8	高	12.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削りか。内面 はヘラナデ。	器面摩滅。被 熱か。一部に 炭素吸着。
第30図 PL.86	7	土師器 甕	底面+17 口縁部片	口	23.8			粗砂粒/良好/明赤 褐	内外面とも横ナデ。	
第30図 PL.86	8	土師器 甕	床面+4 胴部下位～底部	底	6.8			粗砂粒・軽石粒/良 好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 煤付着。内面 に黒色の付着 物。
第30図 PL.86	9	土師器 甕	床面+1 3/4	口 底	24.5 10.3	高	31.3	粗砂粒・赤色粘土 粒・軽石粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にヘラ削り。内面はナデ 後、縦位にヘラ磨き。最下位にヘラナデが見られる。孔端 面にヘラ削り。	被熱のため炭 素吸着。変質。

4区1号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	高				
第31図 PL.87	1	土師器 椀	底面+13 口縁部～脚部片	口	15.0	高	5.4 6.4	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は先端に横ナデ。体部にヘラ削り。内面はナデ。高 台部は付け高台。	炭素吸着。
第31図 PL.87	2	土師器 甕	底面+4 胴部中位～底部	底	4.0			粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	胴部外面の中位は斜位の、中位から下位は縦位の、最下位 は横位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。底部外 面はヘラ削り。	被熱。

4区2号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	高				
第32図 PL.87	1	土師器 壺	底面+6 口縁部～頸部	口	11.6			粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	頸部には断面三角形の突帯がめぐる。外面は横位にヘラ磨 き。口縁部内面はハケ目の上に横ナデ。下半部には磨きを 重ねる。胴部内面はヘラナデ。	

4区8号竪穴住居遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第36図 PL.87	1	土師器 杯	床面+1 3/5	口	12.5	高	4.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面の体部はナデ。下半部には横位のへら削り。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	被熱。内面摩滅。
第36図 PL.87	2	土師器 杯	床面+4 4/5	口 底	12.7 7.2	高	4.1	粗砂粒・赤色粘土 粒・軽石粒/良好/ 浅黄橙	口縁部は横ナデ。体部にはへら削りが重ねられているか。底部はへら削り。	器面摩滅。
第36図 PL.87	3	土師器 椀	床面+7 口縁部上位~高 台部			台	6.4	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部先端は欠損。口縁部上位に横ナデ。以下は斜横位のへら削り。高台部は付け高台。貼付後、周縁部に横ナデ。	器面摩滅。
第36図	4	須恵器 椀	底面+1 口縁部1/3	口	16.4			粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。	外面の広い範囲に煤付着。 内面摩滅。
第36図 PL.87	5	須恵器 椀	床面+4 1/2	口	14.4	高 台	6.9 6.8	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後に貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面摩滅。

1区1号掘立柱建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第38図 PL.87	1	須恵器 椀	底面+9 1/4	口	15.0	高	6.1	小礫・粗砂粒/還元 焰・軟質/灰ワブ	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。	器面摩滅。

1区5号掘立柱建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第42図	1	須恵器 甕	底面+11 口縁部片					小礫・粗砂粒/還元 焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形による横ナデ。	

1区6号掘立柱建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第44図 PL.87	1	土師器 杯	底面+26 1/3	口	12.0			粗砂粒少/良好/橙	外面は口縁部に横ナデ。体部の一部にナデ。型肌部分を残す。底部はへら削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第44図 PL.87	2	須恵器 皿	底面+3 3/4	口 底	12.2 0	高 台	2.6 5.9	黒灰色粘土粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部を切り離した後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	底部外面に墨書「主」か。
第44図 PL.87	3	土師器 甕	底面+1 口縁部~胴部上 位片	口	22.8			赤黒色粘土粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	

1区3号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第57図	1	在地系土器 皿	埋没土中 1/4	口 底	(8.5) (5.8)	高	2.1	//橙	口縁部外面強い回転横撫でにより低い段差。体部から口縁部内湾し、器壁やや厚い。内面軸目顕著。底部左回転糸切無調整。	

1区7号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重	重				
第59図 PL.87	1	石製品 石製品	底面+19 完形	長 幅	8.7 8.7	厚 重	4.9 257.8	二ツ岳軽石//	一つの作出面が認められやや外湾した形態を呈する。全体的に棒状の工具痕が認められ、下面には平ノミ状工具痕が観察される。	

2区2号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	高	厚				
第64図	1	肥前陶器 三島手皿	埋没土中 体部一部、底部 1/4	底	(9.8)			//明赤褐	内面窪んだ部分に白土を入れる。内面から体部外面上位透明釉。無釉部分回転篋削り。高台端部外面撫でにより面取り状に仕上げる。	
第64図	2	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	埋没土中 底部	底	4.2			//灰白	高台脇水平に削る。内面から体部下位鉄釉。	
第64図	3	瀬戸・美濃 陶器 腰鍔碗	埋没土中 底部1/2	底	(5.0)			//灰白	内面灰釉。外面高台端部を除き鉛釉に近い鉄釉。灰釉に貫入する。	
第64図	4	在地系土器 焙烙	底面+9 口縁部から底部 片			高	5.0	//灰白	断面灰色、器表付近から器表灰白色。外面中位接合痕残る。外面下位から底部外面型痕。口縁端部上面窪む。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				幅	厚	重				
第64図 PL.87	5	在地系土器 不詳土製品	底面+5 端部片	幅	3.2~ 5.2	厚	3.1	//灰白~黒	断面形は長方形、平面形は弧状を呈し、端部はやや細くなる。上面不整形な溝状に窪む。中央に焼成前の円孔3箇所残存。残存する木口は静止糸切無調整。下面は型痕明瞭に残る。上面の高い部分は篋削り。	用途不明。

2区4号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	幅	高				
第66図	1	肥前磁器 白磁か染付 小杯	底面+5 口縁部一部、底 部完	口底	(7.0) 2.6	高	4.0	//灰白	口縁部外反。残存部無文。高台端部付近無釉。	

2区5号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚				
第66図 PL.87	1	古銭 寛永通寶	底面+25 ほぼ完形	長	2.809	厚	0.12			
				幅	2.824	重	3.70			

2区6号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚				
第67図 PL.88	1	石製品 砥石	埋没土中 1/2	長	(6.3)	厚	4.3	砥沢石//	研面は1面認められ、緩やかな凹凸面を呈する。両側面に櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。上部及び下部欠損。	
第67図 PL.88	2	鉄製品 釘	埋没土中 ほぼ完形	長	5.3	厚	1.1			
				幅	0.8	重	2.28			

2区7号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	幅	高				
第68図 PL.88	1	肥前陶器 青緑釉皿	埋没土中 体部下位以下	口底	4.1	高		//灰白	内面青緑釉、外面透明釉。底部内面蛇の目釉剥ぎ。高台脇以下無釉。	
第68図 PL.88	2	肥前磁器 染付碗	埋没土中 口縁部1/3、底 部2/3	口底	(9.8) 4.0	高	5.2	//灰白	外面2重網目文。内面無文。	
第68図 PL.88	3	肥前磁器 染付皿	埋没土中 口縁部1/3、底 部完	口底	(13.6) 7.9	高	2.7	//白	口縁部から体部内面雪輪と植物文。底部内面五弁花。裏文様は唐草と圏線。高台内1重圏線。高台内中央ハリ支え痕1箇所。	
第68図 PL.88	4	瀬戸・美濃 陶器 灯火受皿	埋没土中 完形	口底	8.5 4.1	高	1.9~ 2.1	//灰白	受け部1箇所「U」字状に抉る。銹釉施釉後、口縁部外面以下を拭う。	
第68図 PL.88	5	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器	埋没土中 口縁部1/6、脚 部完	口底	(6.8) 4.4	高	5.2	//灰白	内面から脚裾部灰釉。貫入入る。	
第68図	6	在地系土器 皿	埋没土中 底部1/2	底	5.5			//浅黄橙	底部左回転糸切無調整。	
第68図	7	在地系土器 皿	埋没土中 底部1/2	底	4.8			//浅黄橙	器壁薄い。底部左回転糸切無調整。	
第69図	8	在地系土器 鉢	埋没土中 口縁部から体部 片					//灰~暗灰	断面中央暗灰色、器表付近灰白色、器表灰~暗灰色。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部上面回転横撫で時の押さえにより、外方に折り返すような形状となる。体部外面上位接合痕残る。接合痕以下篋削り。下端付近型痕残る。	
第69図	9	在地系土器 焙烙	埋没土中 口縁部から体部 片					//灰白~黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白から黒色。体部外面下端回転篋削り。内面から外面中位回転横撫で。	
第69図	10	在地系土器 十能瓦か	埋没土中 破片			厚	1.6	//灰白・黒	断面中央黒色、器表付近から器表灰白色。裏面器表周縁を除き黒色。側縁の反りがなく、十能瓦ではない可能性があるが、胎土・焼成・製作技法は同じ。表面木口側1条の沈線。裏面型痕。	
第69図 PL.88	11	在地系土器 不詳土製品	埋没土中 完形	直径	1.9	厚	0.6	//にぶい橙	基石状の土製品。	
第69図 PL.88	12	石製品 石製品	埋没土中 不明	長	(11.4) (5.4)	厚	(5.6) 205.5	二ツ岳軽石//	浅く広い皿状の凹面をもつ石皿様の形態が予想される。	
第69図 PL.88	13	鉄製品	埋没土中 ほぼ完形	長	15.2	厚	2.2			
				幅	1.9	重	34.94			
第69図	14	木製品 厚板	埋没土中 一部欠損	長	12.4	厚	2.5		幅12cm程の芯もち厚板で芯付近から割れる様に欠損するため本来の厚みは不明。両端にはノコギリ切断痕が残る。樹種はスギ	
				幅	6.0	重	146.8			

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重				
第69図	15	木製品 板材	埋没土中 ほぼ完形	長 幅	24.0 3.0	厚 重	0.6 30.1	幅3cm長さ24cmの板材で端部を丸く加工するとともに、端部から3.5cmで両側から鋸を入れ三角に挟りこむ。その先4か所に2.5~3.7cmの間隔で両端および側面に幅1mm深さ1mm程の溝を付けている。反対側端部はノコギリによる切断痕が残る。一部表面に炭化が見られる。樹種はスギ。	
第69図	16	木製品 桶側板	埋没土中 一部欠損	長 幅	14.8 5.8	厚 重	1.4 98.8	板目材で年輪方向に沿って全体に僅かに湾曲する。上端から2.5cmの側面に左右2箇所木釘の痕跡と見られる穴が開く。樹種はヒノキ属。	
第69図	17	木製品 桶側板	埋没土中 破片	長 幅	7.0 5.5	厚 重	0.9	一端に向かい緩やかに幅を減ずる板目材で。年輪方向にそって僅かに湾曲上端側は斜めに欠損する。樹種はスギ。	

2区11号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第70図 PL.88	1	瀬戸・美濃 陶器 筒形香炉か	底面+15 口縁部から体部 1/4	口	(8.1)			//灰白	口縁部やや肥厚し、上面は内傾。体部外面屈曲部以下回転篋削り。口縁部内面から体部外面下位灰釉。

2区12号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第70図	1	在地系土器 鍋か	底面+2 体部片					//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。体部外面下位型痕残る。

2区26号溝遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第72図 PL.88	1	在地系土器 皿	埋没土中 ほぼ完形	口 底	10.0 7.1	高	1.7~ 2.0	//にぶい橙	体部から口縁部やや内湾。底部右回転糸切無調整。

3区4号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重				
第75図 PL.88	1	石製品 砥石	底面+56 1/3	長 幅	(4.0) (2.2)	厚 重	1.8 26.9	砥沢石//	研面は4面認められる。正面は研ぎ減りと考えられるやや内湾した形態である。他の研面はほぼ平坦である。上部及び下部欠損。
第75図 PL.88	2	鉄製品 小刀	底面+18 ほぼ完形	長 幅	30.2 3.5	厚 重	2.4 137.00		

3区5号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高					
第78図 PL.88	1	土師器 杯	底面+12 2/3	口	12.4	高	5.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は下位にヘラ削り。口縁部との間はナデか。	器面摩耗。
第78図 PL.88	2	土師器 高杯	底面+14 杯部胴中位~脚 裾部1/3					粗砂粒/良好/灰白	外面は杯部の口縁部に斜縦位のヘラ磨き。底部にヘラナデ。脚部は縦位のヘラ磨き。内面は杯部にナデ。脚部は指押さえを兼ねたナデ。粘土紐の接合痕を明瞭に残す。	外面炭素吸着。 摩耗。
第78図 PL.88	3	土師器 高杯	底面+2 脚部3/4	底	15.5			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙	杯部をホゾ状に差し込む。外面は脚部上半部に2回に分けて斜縦位のナデ。裾部は横ナデ。内面は上半部にヘラ削り。裾部は横ナデ。	内面炭素吸着。
第78図 PL.88	4	土師器 高杯	底面+1 脚部2/3	底	13.8			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/黄橙	外面の整形は不明。内面は柱部にヘラナデ。裾部は横ナデか。	器面摩耗。外 面破損後、炭 素吸着。
第78図 PL.88	5	土師器 埴	底面+3 口縁部~胴部上 位1/2	口	8.8			粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部はもっと張る可能性有り。口縁部は横ナデとナデ。胴部外面はナデとナデに近いヘラ削り。内面はナデ。	内面摩滅。
第78図 PL.89	6	土師器 埴	底面+5 3/4	口 底	8.8 2.0	高	9.2	粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	底部狭小な凹底。口縁部は横ナデ。胴部外面上位・中位はヘラナデ。下位はヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第78図	7	土師器 埴	底面+3 1/3	口 底	7.2 3.2	高	10.0	粗砂粒・赤黒色粘土粒少/良好/橙	底部は、やや凹底のみ。口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部は横位のナデ。下半部はヘラ削り。内面は指ナデ。	器面摩滅。外 面炭素吸着。
第78図 PL.89	8	土師器 埴	底面+1 口縁部中位~底 部3/4					粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	底部は不安定な平底。口縁部は横ナデ。胴部外面の上位はヘラナデ、中位・下位はヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第78図 PL.89	9	土師器 埴	底面+3 頸部~底部2/3	底	3.2			粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	不安定で狭小な平底。胴部外面の上位はナデ。中位以下は弱いタッチのヘラ削り。内面はナデ。	内面摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第78図 PL.89	10	土師器 台付甕	底面+2 杯部~台部片			台	8.8	粗砂粒/良好/橙	台部端部にかえりは見られない。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はハケ目の上にヘラナデ。台部外面はナデ。内面はナデ。	器面摩滅。
第78図 PL.89	11	土師器 甕	底面+14 口縁部	口	16.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ後、縦位に粗いヘラ磨き。	器面摩滅。
第78図 PL.89	12	土師器 甕	底面+1 口縁部~胴部上位1/2	口	20.4			粗砂粒・角閃石粒/ 良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にハケ状工具に近いヘラによるナデ。内面は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。 内面摩滅。
第78図	13	土師器 甕	底面+2 口縁部~頸部片	口	20.0			粗砂粒・角閃石粒・ 軽石粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削りか。内面はヘラナデか。	器面摩滅。
第79図 PL.89	14	土師器 甕	底面+6 口縁部~胴部下 位	口	19.8			粗砂粒・赤黒色粘 土少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は縦位、中位は横位、下位は縦位にヘラ削り。内面はヘラナデ。	内面摩滅。
第78図 PL.89	15	土師器 甕	底面+8 胴部中位~底部	底	7.0			粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい橙	胴部外面は横位のヘラ削り。一部にヘラナデ。内面は斜横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面の一部に 炭素吸着。
第78図 PL.89	16	土師器 手捏ね	底面+12 口縁部一部欠損	口 底	5.1 4.3	高	3.9	粗砂粒/良好/橙	平底。コップ状を呈する。外面はナデ。内面もナデ。	
第79図 PL.89	17	石製品 石製模造品 (剣形)	底面+4 ほぼ完形	長 幅	(2.9) 1.5	厚 重	0.5 3.1	滑石//	孔径2mm。表はいくつもの平坦な作出面で構成され、裏は二つの平坦作出面が認められる。それぞれの作出面には擦痕が著しい。	
第79図 PL.89	18	石製品 砥石	底面+13 完形	長 幅	20.1 16.2	厚 重	6.0 2414.8	粗粒輝石安山岩//	扁平な円礫を原礫の状態を利用して利用している。上面及び下面が研面と考えられ、上面には断面V字の線状痕が認められる。	

3区6号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第81図 PL.90	1	石製品 石製品	埋没土中 完形	長 幅	15.4 11.1	厚 重	10.0 886.9	二ツ岳石//	浅い皿状の凹面をもつ。正面及び底面に平ノミ状工具の加工痕が明瞭に残る。	

3区20号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第85図 PL.90	1	石製品 砥石	埋没土中 完形	長 幅	8.3 6.1	厚 重	3.1 60.3	粗粒輝石安山岩//	正面に平ノミ状工具の加工痕が認められる裏面は研ぎ減りと考えられるやや内湾した磨面である。	

4区2号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第87図 PL.90	1	鉄製品 釘	埋没土中 ほぼ完形	長 幅	2.7 1.2	厚 重	1.3 1.61			

4区3号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	厚 重					
第90図	1	龍泉窯系磁器 青磁碗	埋没土中 体部下位片					//灰白	外面鑄連弁文。	
第90図	2	肥前磁器 染付筒形碗	底面+46 口縁部1/4、体 部1/3	口	(7.6)			//白	口縁部から体部外面植物文。口縁部内面四方繻文。底部内面周縁2重圈線。	
第90図	3	肥前磁器 染付皿	底面+7 体部下位以下	底	4.6			//白	口縁部から体部内面2重斜格子文か。底部内面周縁2重圈線。底部内面蛇の目軸剥ぎ。軸剥ぎ部に白濁したアルミナ塗布。裏文様はない。	0
第90図	4	肥前系磁器 白磁菊皿	埋没土中 口縁部1/4、底 部完	口 底	(13.8) 7.7	高	3.6	//白	打型で菊花状に成形。口鏝。蛇の目凹型高台。	
第90図	5	製作地不詳 磁器 染付湯飲み	埋没土中 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	6.7 3.2	高	6.6	//白	外面ゴム印版による鶴文。内面無文。高台端部無軸。	近現代。
第90図 PL.90	6	石製品 砥石	埋没土中 1/2	長 幅	(8.6) 3.1	厚 重	4.0 119.0	砥沢石//	正面が主要な使用面であり著しい凸面を呈する。両側辺及び裏面には櫛歯タガネ跡が認められる。上部及び下部欠損。	
第90図 PL.90	7	石製品 砥石	埋没土中 4/5	長 幅	(5.0) (1.0)	厚 重	(3.3) 16.3	珪質粘板岩//	正面及び裏面が使用面と考えられ、ともに研ぎ減りによりやや内湾した形態を呈する。粘板岩という石材の特徴によって、板状に剥落したものと考えられる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.90	8	石製品 火打石	埋没土中 完形	長 幅	5.9 4.0	厚 重	1.8 45.0	チャート//	チャートの剥片を素材とする。両側縁の全体にわたり著しい潰れ痕跡が認められる。
第90図 PL.90	9	石製品 石製品	埋没土中 完形	長 幅	6.4 4.7	厚 重	2.3 45.6	二ツ岳軽石//	正面に平ノミ状工具の加工痕が残る。正面及び右測面に磨面が認められやや外湾した形態を呈する。正面の平ノミ状工具痕は磨面の形成より先行する。
第90図 PL.90	10	石製品 石製模造品	埋没土中 1/2	長 幅	(2.0) (1.0)	厚 重	(0.4) 1.2	滑石//	表面、裏面、側辺に平坦な作出面が認められ石製模造品と判断した。剣形あるいは有孔方板と考えられる。
第90図 PL.90	11	鉄製品 鎌	底面+23 ほぼ完形	長 幅	15.5 10.6	厚 重	1.4 83.52		
第90図 PL.90	12	古銭 寛永通寶	埋没土中 ほぼ完形	長 幅	2.302 2.318	厚 重	0.121 1.69		

4区5号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第97図 PL.90	1	土師器 杯	底面+2 3/4	口	14.0	高	5.3	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。器面摩滅。
第97図 PL.90	2	土師器 杯	底面直上 口縁部一部欠損	口	11.3	高	5.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜を有する。底部はナデに近いヘラ削りか。器面摩滅顕著。
第97図 PL.90	3	土師器 杯	底面+3 口縁部一部欠損	口	13.6	高	5.9	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部は上半部にナデ。下半部に手持ちヘラ削り。内面はナデ後、底部中心から放射状にヘラ磨き。内面黒色処理。
第97図 PL.90	4	土師器 杯	底面+9 2/5	口	11.6	高	3.8	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部はナデに近い手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面炭素吸着。
第97図 PL.90	5	土師器 杯	底面+15 3/5	口	13.7	高	4.2	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。内外面の一部に炭素吸着。器面摩滅。
第97図 PL.90	6	土師器 杯	底面+4 完形	口	13.3	高	5.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部にナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨きを重ねている。
第97図 PL.90	7	土師器 杯	底面+2 4/5	口	13.1	高	5.6	赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は先端内側が弱くそがれる。横ナデ。体部外面はナデと考えられる。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。器面摩滅。
第97図 PL.91	8	土師器 高杯	底面直上 杯部は1/2欠損	口 底	15.5 12.5	高	15.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	外面は杯部、脚部とも丁寧なナデの後、縦位のヘラ磨き。内面は杯部の口縁部に縦位のヘラ磨き。脚部の柱部はナデ後、中位・下位にヘラ削り。裾部は横ナデ。口縁部の器面摩滅。
第97図 PL.91	9	土師器 高杯	底面直上 1/2	口 底	18.4 13.8	高	12.8	粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	杯部外面の口縁部は丁寧なナデ。受部はヘラナデ。脚部外面の上半部はヘラナデ。裾部は横ナデ。内面はヘラナデか。粘土紐の輪積み痕を残す。器面摩滅。
第97図 PL.91	10	土師器 高杯	底面直上 杯部~脚部2/3	口 底	17.4 14.1	高	15.1	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部外面は横ナデ後、斜縦位にヘラナデか。内面はナデ。脚部外面はナデか。内面はナデ。輪積み痕を残す。裾部には横ナデ。器面摩滅。
第97図 PL.91	11	土師器 高杯	底面+3 1/3	口 底	17.8 13.9	高	14.6	粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	杯部は口縁部先端に2回に分けて横ナデ。受部外面にナデ、ヘラ削り。内面にナデ。脚部外面はナデ。内面はナデ、輪積み痕を残す。
第97図 PL.91	12	土師器 高杯	底面+5 杯部~脚部中位 1/3	口	20.0			粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい黄橙	杯部の口縁部外面先端は横ナデ。受部寄りには横位のナデ。受部はヘラ削り。内面はナデの上に縦位のヘラ磨き。脚部外面はナデの上に磨きか。内面は上位に絞りの痕跡。下半にはナデ。輪積み痕を残す。器面摩滅。炭素吸着。
第97図 PL.91	13	土師器 高杯	底面直上 杯部~脚部上位	口	18.9			粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	杯部の口縁部は横ナデと考えられる。受部下位にヘラ削り。内面はナデ。脚部外面はヘラナデか。器面摩滅。
第97図 PL.91	14	土師器 高杯	底面直上 口縁部~脚部下位	口	19.1			粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	杯部の口縁部は横ナデ。下位は基部に向かってナデ、削りか。脚部内面はナデ。器面摩滅。
第98図 PL.91	15	土師器 高杯	底面+5 杯部	口	17.3			粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	外面は先端に横ナデ。下位にヘラ削り。器面摩滅。
第98図 PL.91	16	土師器 高杯	底面+23 杯部1/2	口	19.6			粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	外面は横位のヘラ磨きの上に縦位のヘラ磨きを重ねる。内面は縦位のヘラ磨き。
第98図 PL.91	17	土師器 高杯	底面直上 4/5	口	17.9			粗砂粒・角閃石粒・赤黒色粘土粒/良好/浅黄橙	杯部の口縁部外面は先端を横ナデ。以下は斜縦位・横位のヘラナデ。受部は粗雑なナデか。器面摩滅顕著。
第98図 PL.91	18	土師器 高杯	底面+1 杯部3/5	口	17.3			粗砂粒/良好/浅黄橙	外面口縁部は横ナデ。受部はハケ目の上に一部ナデを重ねる。内面口縁部の上半部は横ナデ。下半部はナデか。ハケ目を残す。器面摩滅。
第98図 PL.91	19	土師器 高杯	底面+18 杯部	口	17.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は内外面とも横ナデ後、斜位のヘラ磨きをまばらに重ねる。受部外面もナデ後、ヘラ磨き。器面摩滅顕著。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.91	20	土師器 高杯	底面+9 杯部3/4	口	17.4		粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	外面の口縁部は斜縦位のヘラ磨き。受部はナデに近いヘラ削り。内面はナデ。	
第98図 PL.91	21	土師器 高杯	底面+12 脚部	底	10.1		粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	杯部をホゾ状に成形して接合する。外面はナデ。横ナデか。内面はナデ。横ナデか。内面もナデ、横ナデか。粘土紐の輪積み痕を残す。杯部との接合部分で欠損している。端部は擬似口縁状を呈する。端部に刻目を入れる。	器面摩滅。
第98図 PL.91	22	土師器 高杯	底面+11 脚部2/3	底	13.3		粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	裾部に向かって大きく外反。中位に屈曲点を持ち、更に端部に向かって外反する。外面はナデの上に縦位のヘラ磨き。内面上半部はヘラナデ。下半部はヘラナデと横ナデ。	器面摩滅。
第98図 PL.91	23	土師器 高杯	底面+28 脚部下半1/2	底	16.6		粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	外面は柱部に縦位のヘラ磨き。内面はナデ、絞り痕、輪積み痕を残す。裾部は横ナデか。	器面摩滅。
第98図 PL.92	24	土師器 高杯	底面+2 脚部2/3	底	15.5		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。輪積み痕を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第98図 PL.92	25	土師器 小型鉢	口縁部下半～底部3/5	底	6.8		粗砂粒少/良好/橙	外面は口縁部に横ナデ。体部はヘラ削りか。内面は体部上位に横位のハケ目。以下はヘラ削り。	器面摩滅。
第98図 PL.92	26	土師器 鉢	底面直上 口縁～体部	口	19.2		粗砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ後、縦位にヘラ磨き。体部は縦・横位にハケ目後、縦・横位にヘラ磨き。内面は丁寧なナデ。	
第98図 PL.92	27	土師器 鉢	底面+28 口縁部～体部1/4	口	20.4		角閃石粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部はヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面摩滅。被熱か。内外面の広範囲に炭素吸着。
第98図 PL.92	28	土師器 埴	底面+3 3/4	口	9.9	高 9.6	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は口縁部先端に横ナデ。以下は縦方向のナデ。胴部は上半部にヘラナデ。下半部にヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第98図 PL.92	29	土師器 埴	底面直上 2/3	口	11.0	高 10.4	粗砂粒/良好/浅黄橙	口縁部上位に横ナデ。以下はナデ。胴部外面上半部はナデ。下半部はヘラ削り。成形時の型肌の痕跡と考えられるヒビ割れを残す。	器面摩滅。
第98図 PL.92	30	土師器 埴	底面直上 3/4	口	9.9	高 8.2	粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位・中位はナデ。下位はヘラ削り。内面は指頭によるナデ。	器面摩滅。
第98図 PL.92	31	土師器 埴	底面+14 3/4	口	7.4	高 8.5	粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位・中位はナデ。下位から底部は手持ちヘラ削り。内面は横位のナデ。頸部直下に指頭圧痕。	器面摩滅。炭素吸着。黒色味。
第99図 PL.92	32	土師器 埴	底面直上 1/2	口	9.0	高 8.2	粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部は横位のヘラ削り。	器面摩滅。炭素吸着。黒色味。
第99図 PL.92	33	土師器 埴	底面直上 2/3	口	9.3	高 8.0	粗砂粒・白色鈹物粒/良好/灰白	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面の上位はナデ。下位はヘラ削り。内面はナデと考えられる。	器面摩滅。炭素吸着。黒色味。
第99図 PL.92	34	土師器 埴	底面+10 3/4	口	9.2		粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部は横位のヘラ削り。	器面摩滅。
第99図 PL.92	35	土師器 埴	底面+4 4/5	口	7.8	高 7.8	粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部から底部はナデに近い弱いヘラ削り。内面は指ナデ。	
第99図 PL.92	36	土師器 埴	底面+2 口縁部～底部2/3	口 底	8.2 3.3	高 10.2	赤色粘土粒/良好/橙	底部外面欠損。口縁部先端は横ナデ。以下斜縦位のヘラナデ。胴部外面の上位は斜位のヘラナデ。以下は横位のヘラ削り。内面はナデと考えられる。	
第99図 PL.92	37	土師器 埴	底面直上 口縁一部欠	口 底	8.0 3.3	高 9.5	粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい黄橙	狭小な平底。口縁部は横ナデ後、縦位に粗雑なヘラ磨きを重ねる。胴部外面はヘラ削りとヘラナデが混在する。内面は指ナデと考えられる。	器面摩滅。外面炭素吸着。
第99図 PL.92	38	土師器 埴	底面直上 3/4	口 底	7.8 2.1	高 9.8	粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ後、縦位にヘラ磨き。内面も同様か。胴部外面は斜縦位にナデ・ヘラ削り。内面はナデか。	
第99図 PL.92	39	土師器 埴	底面+19 完形	口 底	9.1 3.7	高 9.7	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	底部は狭小な凹底。口縁部は横ナデ後、縦位のヘラ磨き。胴部外面はナデ後、中位に横位のヘラ削り。底部近くにもヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第99図 PL.92	40	土師器 埴	底面直上 口縁・胴部一部欠	口 底	8.9 3.2	高 8.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部は狭小な凹底。口縁部先端は横ナデ。以下は斜横位のナデ。外面は胴部最下位にヘラ削り。他は斜位のヘラナデ。内面は口縁部に整形時に後から粘土を貼り足した痕跡あり。胴部はナデ。	
第99図 PL.92	41	土師器 埴	底面直上 口縁一部欠	口 底	8.7 2.9	高 8.8	粗砂粒/良好/橙	狭小な凹底。口縁部は横ナデ。胴部外面は下位にヘラ削り。これより上位はナデ。内面は横位のナデ。	器面摩滅。
第99図 PL.92	42	土師器 埴	底面直上 口縁一部欠損	口	7.1	高 7.4	粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部は横位のヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第99図 PL.92	43	土師器 埴	底面直上 3/4	口	9.4	高 9.2	粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下にナデ。以下はナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。下半部は強い調子。黒斑状。	外面炭素吸着
第99図 PL.92	44	土師器 埴	底面直上 3/4	口	9.0	高 9.5	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。外面は頸部から上位にハケ目を残す。中位は縦位のヘラナデ。下位はヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面摩滅。
第99図 PL.92	45	土師器 埴	底面+5 完形	口 底	10.0 3.0	高 6.3	粗砂粒/良好/浅黄橙	狭小でやや不安定な平底。口縁部は斜横位のハケ目。先端には一部に横ナデを重ねる。胴部外面はヘラ削り。ハケ目。内面はナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第99図 PL.92	46	土師器 埴	底面+2 完形	口	8.8	高	8.0	粗砂粒/良好/灰白	丸底。口縁部は横ナデ。下半にヘラ削りが施されたことで、一見受口状を呈する。胴部外面はハケ目後、上半部に横位のナデ。下半部に横位のヘラ削り。内面は指ナデ。	
第99図 PL.92	47	土師器 埴	1/4	口 底	8.6 3.8	高	10.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部上位にヘラナデ。中位は横位のヘラ削り。下半はヘラナデに近い。内面は指ナデ。	器面摩滅。胴部外面炭素吸着。
第99図 PL.92	48	土師器 埴	底面+2 口縁部一部欠	口	10.0	高	15.2	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は内外面とも横ナデ後、縦位にヘラ磨き。胴部外面は上半部に横位のナデ。下半部に横位のヘラ削り。内面はヘラナデか。	
第99図 PL.93	49	土師器 埴	底面+7 口縁部～頸部	口	10.3			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部外面は縦位のナデか。	器面摩滅。
第99図 PL.93	50	土師器 埴	底面+6 口縁部下半～底部					粗砂粒/良好/橙	丸底。口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部の底部寄り以下は手持ちヘラ削り。内面は指ナデ。	器面摩滅。
第99図 PL.93	51	土師器 埴	底面直上 3/4					粗砂粒・白色鉾物粒/良好/橙	胴部外面上位はナデ。中位以下は横位に弱いタッチのヘラ削り。内面は指ナデ。	胴部上位内外面とも摩滅。外面の一部に炭素吸着。
第99図 PL.93	52	土師器 埴	底面+4 口縁部欠損					粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	丸底。胴部外面の上半部はナデ。下半部は手持ちヘラ削り。内面の上半部は横位に、下半部から底部は斜位に絞るような指ナデ。	
第99図 PL.93	53	土師器 埴	底面+2 口縁部欠損					粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	丸底。胴部外面の上半部はナデ。下半部から底部は手持ちヘラ削り。内面は指ナデ。	器面やや摩滅。
第99図 PL.93	54	土師器 埴	底面+30 胴部上位～底部					赤黒色粘土粒/良好/橙	胴部外面上半部は横位のヘラナデ。下半部から底部は手持ちヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面摩滅。
第100図 PL.93	55	土師器 埴	底面直上 口縁部欠損					粗砂粒・角閃石粒/良好/にぶい黄橙	丸底。胴部上位は丁寧なナデ。中位以下は底部までは横位のヘラ削り。内面はナデ。	
第100図 PL.93	56	土師器 埴	底面+11 口縁部欠損	底	3.3			粗砂粒/良好/橙	外面は丁寧なナデ。内面は横位のヘラナデ。	内面摩滅。
第100図	57	土師器 埴	底面+4 頸部～底部	底	4.0			粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	外面は胴部上半部にナデ。下半部はヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第100図 PL.93	58	土師器 埴	底面+5 胴部～底部2/3					粗砂粒/良好/にぶい橙	狭小な平底。胴部外面は横位のヘラ磨き。内面はヘラナデ。	被熱。変色し黒色味。
第100図 PL.93	59	土師器 小型壺か	底面直上 口縁部先端欠損	底	3.2			粗砂・細砂粒/良好/灰白	外面は頸部に丁寧なヘラナデ。他は丁寧なナデ。内面はナデ。	外面炭素吸着。
第100図 PL.93	60	土師器 埴	底面+2 口縁部欠損	底	3.7			粗砂粒・角閃石粒/良好/浅黄橙	狭小な平底。外面の胴部上半部は丁寧なナデ。下半部は手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はナデ。	
第100図 PL.93	61	土師器 埴	底面+4 頸部～底部					粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	底部は狭小な凹底。胴部外面の上半部はヘラナデ。下半部にヘラ削り。内面上位は指ナデ。中位以下は横位のナデ。	器面摩滅。
第100図 PL.93	62	土師器 埴	底面+27 口縁部下半～胴部下半					粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部外面は縦位のヘラ磨き。内面はナデ。胴部外面上位は斜位のヘラ磨き。中位以下は横位のヘラ磨き。内面は横位のヘラナデ。	
第100図 PL.93	63	土師器 埴	底面+5 胴部3/4	底	3.5			粗砂粒/良好/橙	狭小な平底。胴部外面は横位のヘラ磨き。最下位にヘラ削り。内面はヘラナデと考えられる。	胴部中位に直径0.9cmの焼成前穿孔あり。
第100図 PL.93	64	土師器 直口壺	底面直上 3/4	口 底	17.0 4.0	高	18.0	粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	外面の口縁部先端に横ナデ。以下頸部までは丁寧なナデ。縦位にヘラ磨きを重ねているか。胴部上半部は縦位にヘラ磨き。下半部はヘラ削り。内面の口縁部は斜位のヘラ磨き。胴部はヘラナデ。	器面摩滅。
第100図 PL.93	65	土師器 直口壺	底面+26 胴部～底部					粗砂粒/良好/明赤褐	胴部外面の上半部はナデか。下半部はヘラ削りの上にナデ。	器面摩滅顕著。
第100図 PL.93	66	土師器 直口壺	底面+1 頸部下位～胴部 中位3/4					粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙	外面上半部は縦位のハケ目。ハケの単位は不明。下半部は横位のヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第100図 PL.93	67	土師器 壺	底面直上 1/2	口 底	21.1 8.2	高	37.1	粗砂粒/良好/浅黄橙	口縁部に弱い交換点を有す。横ナデ。胴部外面上半部はヘラナデか。下半部は斜縦位あるいは斜横位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はほぼ全面が剥離。	器面は広い範囲で摩滅。外面に黒斑。
第100図 PL.94	68	土師器 壺	底面+5 口縁部	口	16.4			粗砂粒・角閃石粒/良好/橙	口縁部は中位で屈曲。さらに斜め上方に外反する二重口縁である。外面は先端が横ナデ。以下は縦位のヘラ磨き。内面はナデの上にヘラ磨きを重ねているか。	器面摩滅。
第100図 PL.94	69	土師器 壺	底面+3 口縁部～頸部片	口	17.8			粗砂粒・軽石粒・角閃石粒/良好/橙	口縁部の内面中位に交換点を有する二重口縁。外面は粘土を貼付し段をなす。外面は横ナデ。内面は横ナデの上にヘラ磨き。	器面摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第101図 PL.94	70	土師器 壺か	底面直上 口縁部～胴部上 位	口	23.6		粗砂粒・角閃石粒・ 軽石粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラナデか。内面は横 位のヘラナデと考えられる。	器面摩滅顕著 。整形状況観 察不可能。
第101図 PL.94	71	土師器 壺	底面直上 胴部～底部	底	5.9		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	外面上半部はハケ目。最上位は斜横位。以下は斜位。下半 部は斜縦位にヘラ削り。内面の頸部直下は横位のヘラナデ。 以下の上半部には横位のハケ目。下半部には横位のヘラナ デ。	器面摩滅。外 面の一部に炭 素吸着。黒班 状。
第101図 PL.94	72	土師器 甌	底面+3 胴部下位～底部	底	5.3		粗砂粒・白色鉍物 粒/良好/橙	やや凸面状を呈した底部の中心から外れた位置に直径1.8 cm、短径1.5cmの孔が穿たれている。胴部外面はヘラナデか。 内面はヘラナデ。底部外面はヘラナデ。	炭素吸着。被 熱。
第101図 PL.94	73	土師器 台付甕	底面+10 口縁部～胴部上 位片	口	15.0		粗砂粒・角閃石粒・ 雲母片/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の右上から左下にハケ目(7本/1 cm)。内面は頸部にヘラナデ。以下は指ナデ。	外面炭素吸着 。
第101図 PL.94	74	土師器 台付甕	底面直上 口縁部～胴部上 位片	口	16.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は右上から左下にハケ目(5～6 本/1cm)。内面はナデ。指頭圧痕。	器面摩滅。
第101図 PL.94	75	土師器 小型甕	底面+24 1/2	口 底	9.8 4.6	高 10.3	粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は中位に弱い稜をなす。横ナデ。胴部外面上半部は 横位のヘラ削り。下半部はヘラナデ。内面はナデ。	
第101図 PL.94	76	土師器 小型甕	底面+7 2/3	口 底	12.8 3.4	高 13.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部上位に横位のナデ。中位は縦 位のヘラ削り。下位はヘラ削りの上にナデを重ねる。底部 はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第101図 PL.94	77	土師器 小型甕	底面+4 口縁部中位～底 部1/2				粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上半部はナデ。下半部は横位 のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。一 部に炭素吸着 。黒斑。
第101図 PL.95	78	土師器 小型甕か	底面+15 胴部下半～底部				粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面の胴部中位はナデ。下位から底部はヘラ削り。内面は ヘラナデ。	被熱の為か器 面摩滅。
第102図 PL.95	79	土師器 甕	底面直上 2/3	口 底	15.0 6.2	高 19.4	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部にヘラナデか。下半部 はナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。一 部に炭素吸着 。
第102図 PL.95	80	土師器 甕	底面直上 2/3	口 底	15.0 5.3	高 20.6	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は胴部最上位に斜縦位の弱いタッ チのヘラ削り。以下は横位のヘラ削り。内面は口縁部に横位 のハケ目。先端のみ横ナデ。胴部は横位のヘラナデ。一部 にハケ目を残す。	器面摩滅。
第102図 PL.95	81	土師器 甕	底面+3 2/3	口 底	16.1 4.5	高 27.0	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。ハケ目を消す。胴部外面上位から中位は 斜縦位の粗いハケ目(4～5本/1cm)。下位はヘラ削りと考 えられる。内面は下半部にハケ目。上半部はヘラナデか。	外面炭素吸着 。器面摩滅。
第102図 PL.95	82	土師器 甕	底面直上 3/4	口 底	15.8 5.4	高 24.9	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ後、部分的にハケ目。胴部外面の上半部は 斜位のハケ目。下半部は斜位・横位のヘラ削り。内面の口 縁部はハケ目後、横ナデ。ハケ目を明瞭に残す。胴部は横 位のヘラナデ。底部はヘラ削り、ヘラナデ。	器面摩滅。
第102図 PL.95	83	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部中 位2/3	口	17.2		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	外面の口縁部は横ナデ。胴部上位は斜位のハケ目の上に部 分的に横位のヘラナデを重ねる。中位は横位に弱いタッ チのヘラ削り。内面は口縁部に横位のハケ目。先端は横ナ デでハケ目を消す。胴部は横位のヘラナデ。	器面摩滅。
第102図 PL.96	84	土師器 甕	底面直上 3/4	口	14.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。外面は口縁の下半部にハケ目を残す。胴 部全体はハケ目。上半部は斜位に、下半部は斜横位に。こ の上に一部ナデが重ねられる。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。
第103図 PL.96	85	土師器 甕	底面+7 口縁部～胴部下 位	口	16.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部の先端は外側に面を作る。横ナデ。胴部外面は上半 部がヘラナデ。下半部がヘラ削りの上に縦位のヘラ磨きを 重ねる。内面は斜横位あるいは横位に強いタッチのヘラナ デ。	器面、摩滅顕 著。
第103図 PL.96	86	土師器 甕	底面+2 口縁部～胴部下 半	口	15.6		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位はヘラ削りの上に斜縦位 のハケ目。中位以下は横位に棒状工具のような幅の狭いナ デ。内面は強いヘラナデ。	器面摩滅。炭 素吸着。
第103図 PL.96	87	土師器 甕	底面+8 口縁部～胴部下 位3/4	口	16.3		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜縦位、中位は斜縦位 と斜横位の、下位は斜横位のヘラ削り。部分的にこの上 にナデを重ねる。内面の頸部直下に指押しえ痕。以下は横 位のヘラナデ。	器面摩滅。被 熱の為か炭素 吸着。
第103図 PL.96	88	土師器 甕	底面+1 口縁部～胴部下 位1/3	口	15.6		粗砂粒/良好/橙	成形は粗雑で胴部の張り出しは均等でない。口縁部は横 ナデ。胴部外面は上半部がハケ目後、斜横位のヘラナデ。器 面の残存が良好な部分ではこの上に縦位のヘラ磨きを重 ねている。下半部は横位のヘラ削り。内面の上半部は横位 のハケ目。下半部は横位のヘラナデ。	被熱の為か外 面は灰黒色味 。内外面摩滅 。
第103図 PL.96	89	土師器 甕	底面+12 口縁部～胴部上 位1/3	口	18.6		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。頸部にハケ目を残す。胴部外面は斜縦位 のハケ目を消して横位のヘラ磨き。内面は縦位のヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第103図	90	土師器 甕	底面直上 口縁部～頸部片	口	17.0		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はハケ目(5本/1cm)。内面の頸部直下に指頭圧痕。以下はヘラナデ。
第104図 PL.97	91	土師器 甕	底面+4 口縁部～胴部中位	口	16.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられる。内面はヘラナデ。
第104図 PL.97	92	土師器 甕	底面+36 1/2	口	17.0		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の上位に斜横位のハケ目。中位は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。輪積み痕、指頭圧痕を残す。
第104図 PL.97	93	土師器 甕	底面+7 口縁部～胴部上位1/3	口	16.6		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/灰白	口縁部は中位に変換点を有し、外面には小さな稜をなす。横ナデ。胴部外面はヘラナデ。内面もヘラナデ。
第104図 PL.97	94	土師器 甕	底面直上 胴部1/3				粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	外面の頸部直下に縦位のヘラナデ。以下上半部は斜横位のヘラ削り。下半部は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。
第104図 PL.97	95	土師器 甕	底面+5 胴部上位～底部	底	4.4		粗砂粒・角閃石粒・ 軽石粒/良好/にぶい橙	底部から胴部への成形が粗雑で器形は歪む。胴部外面は一部を除いてナデに近いヘラ削り。上位は斜縦位。以下は横位。内面は横位のヘラナデ。
第104図 PL.97	96	土師器 甕	底面直上 3/4	口 底	13.8 5.7	高 24.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/浅黄	口縁部から胴部上位への移行には著しくバランスを欠いている。口縁部は横ナデ。胴部外面の上位は斜横位の、中位・下位が斜位のヘラ削り。全体にヘラナデに近い。内面は横位のヘラナデ。
第105図 PL.97	97	土師器 甕	底面直上 口縁一部欠損	口 底	18.3 5.9	高 18.6	粗砂粒/良好/黒	口縁部外面は横ナデ。内面は横位のハケ目の上にヘラ磨き状のナデ。胴部外面は上位から中位に縦位のハケ目。一部にヘラ磨き状のナデを重ねる。下位は斜横位にヘラ削り。内面の上位・中位は横位の、下位は斜位のヘラナデ。
第105図 PL.97	98	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部中位1/3	口	12.0		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は頸部直上に弱い変換点。そこまでが横ナデ。頸部に縦位のハケ目。口縁部内面には横位のハケ目。胴部外面は斜縦位のハケ目の上に斜縦位のヘラナデ。内面は斜横位のハケ目の上に粗雑なナデを重ねる。
第105図 PL.98	99	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部上位1/2	口	16.8		粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位にヘラ削り、ヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。
第105図 PL.98	100	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部中位2/3	口	15.5		粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位に細かく柔らかいタッチのハケ目。中位は横位のヘラナデ。内面はヘラナデか
第105図 PL.98	101	土師器 甕	底面直上 口縁部～胴部中位	口	20.8		粗砂粒/良好/浅黄橙	器形の歪みは大きい。口縁部から胴部上位の器肉は厚い。口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。頸部にハケ目を残す。内面は横位のヘラナデ。最上位に斜横位のハケ目を残す。
第105図 PL.98	102	土師器 甕	底面+7 口縁部～胴部中位1/3	口	15.8		粗砂粒・白色鈹物粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部上半は横ナデ。下半から頸部は縦位にハケ目状工具によるナデ。胴部外面は縦位、斜位、横位のヘラナデ。内面はヘラナデ。
第105図 PL.98	103	土師器 甕	底面+1 口縁部～胴部上位1/3	口	14.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下に横位のナデ。以下は斜縦位のナデに近いヘラ削り。内面は斜横位のヘラ削り。
第105図 PL.98	104	土師器 甕	口縁部～胴部上位1/3	口	16.0		粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にナデ状のヘラ削り。残存部下位にはヘラ磨きか。内面は横位のヘラ削り。
第105図 PL.98	105	土師器 甕	底面+12 口縁部～胴部上位1/2	口	14.2		粗砂粒・軽石粒/良好/にぶい黄橙	器肉厚い。口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデか。
第106図 PL.98	106	土師器 甕	底面直上 胴部下位～底部	底	7.1		粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。最下位に一部ハケ目を残す。内面は横位のヘラナデ。一部は削りに近い。
第106図	107	須恵器 甕	底面+39 口縁部片				白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。外面は突帯で区画された上下2段の区域内に波状文を各1段配する。
第106図 PL.98	108	土師器 手捏ね	底面直上 口縁部・胴部一部欠	口	2.3	高 2.6	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。以下外面はナデ。内面もナデ。
第106図 PL.98	109	土師器 手捏ね	底面+7 口縁部下半～底部片	底	1.4		細砂粒/良好/にぶい橙	平底の底部は中央がへこみ凹底状をなす。胴部外面はナデ。内面もナデ。
第106図 PL.98	110	土師器 手捏ね	底面+31 胴部～底部1/3	底	1.9		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい黄橙	狭小な平底。外面上半部はナデ。下半部は手持ちヘラ削り。口縁部欠損後、割れ口を調整して使用か。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚 重			
第106図 PL.98	111	石製品 石製模造品 (剣形)	底面+13 完形	長 幅	10.2 3.4	厚 重	1.0 41.3	滑石//	表面及ぶ裏面ともに、三つの平坦な作出面で構成されている。それぞれの作出面には擦痕が著しい。作成途上のものと考えられる。
第106図 PL.98	112	石製品 石製模造品 (剣形)	完形	長 幅	5.1 1.8	厚 重	0.4 4.2	滑石//	孔径1.5mm。表面、裏面ともに三つの平坦な作出面で構成される。それぞれの作出面には擦痕が著しい。
第106図 PL.98	113	石製品 砥石	底面直上 完形	長 幅	11.0 9.2	厚 重	9.7 549.6	粗粒輝石安山岩//	非常に粗粒の石材であるが、刃慣らし傷と想定される断面V字形の痕跡が全体的に認められ、砥石と判断した。
第106図 PL.98	114	礫石器 敲石	埋没土中 完形	長 幅	13.1 4.1	厚 重	2.8 226.7	雲母石英片岩//	棒状の円礫を素材とする。上下端部に敲打の痕跡が認められる。
第106図 PL.98	115	鉄製品 釘	底面+31 ほぼ完形	長 幅	3.9 2.4	厚 重	0.6 3.16		

4区7号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚 重			
第107図 PL.98	1	古銭	埋没土中 1/2	長 幅	- 2.492	厚 重	0.150 1.27		

1区3号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚 重			
第111図 PL.99	1	石製品 石製品	完形	長 幅	18.0 11.2	厚 重	7.3 839.8	二ツ岳軽石//	やや内湾した作出面があり、その端部に平ノミ状工具による痕跡が認められる。この面は、平ノミ状工具により作出されたものと考えられる。

1区4号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口 底	高				
第112図 PL.99	1	土師器 壺か	底面+1 胴部1/3				粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	外面上部は斜縦位に粗いハケ目。内面は横位にヘラナデと考えられる。下半部には表面と同じ工具によるハケ目が施されていたか。	内外面とも摩滅、顕著。	
第112図 PL.99	2	土師器 甕	底面+1 胴部下位~底部	底	3.3		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/赤橙	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデか。		
第112図 PL.99	3	土師器 手捏ね	底面+75 3/4	口 底	6.8 2.4	高	5.0	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部先端は波状か。口縁部外面は指押さえ。以下はナデか。内面は指ナデ。	器面摩滅。
第112図 PL.99	4	土師器 手捏ね	底面+52 底部~底部1/2				粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は欠損。丸底の鉢状。外面はナデ。内面は指ナデ。	外面は炭素吸着。	

1区7号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	幅	厚 重			
第113図 PL.99	1	石製品 石製品	埋没土中 完形	長 幅	17.3 6.4	厚 重	9.4 718.4	二ツ岳軽石//	やや内湾した面とやや外湾した面の二様の作出面が認められる。
第113図 PL.99	2	石製品 石製品	埋没土中 不明	長 幅	(7.0) (9.9)	厚 重	(5.3) 193.4	二ツ岳軽石//	二つの作出面が認められる。一つはほぼ平坦面であり、他の一つはやや内湾した形態を呈し、僅かに平ノミ状工具の痕跡が残る。

1区9号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口					
第114図 PL.99	1	須恵器 甕	底面+4 口縁部~胴部下 位1/3	口	31.2			白色鈹物粒多・黒 色鈹物粒少/還元 焰/灰	紐づくり後、口縁部をロクロ整形。胴部は叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕をきれいにナデ消す。

2区1号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図 PL.99	1	埴輪 円筒	底面+19 底部片					粗砂粒・軽石粒少/ 窖窯焼成/橙	基底部下半。外面に縦ハケ(7本/1cm)。内面は斜位のナデ。

3区1号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第115図 PL.100	1	土師器 甕	底面+54 胴部上位~下位 1/2					赤黒色粘土粒/良 好/にぶい黄橙	外面の上位は斜位にハケ目。中位上半はハケ目の上にヘラナデ。中位下半から下位は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。内面摩滅。

3区2号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第115図 PL.100	1	土師器 杯	底面直上 4/5	口	12.1	高	4.8	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。不定方向に傷状の擦痕あり旧事か。	内面炭素吸着。 器面摩滅。
第115図 PL.100	2	土師器 甕	底面+2 胴部中位～底部	底	8.6			赤黒色粘土粒・軽 石粒/良好/にぶい 褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位のみ横位のヘラ削り。内面はハケ状の工具により横位のヘラナデ。	器面炭素吸着。 摩滅。

3区3号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第116図 PL.100	1	土師器 埴	底面+56 口縁部1/3	口	11.0			赤色粘土粒/良好/ 浅黄橙	内外面ともハケ目。先端はこの上に横ナデ。	
第116図 PL.100	2	土師器 埴	底面+30 胴部～底部					粗砂粒/良好/橙	胴部外面はヘラ磨き。内面は横位のヘラナデ。	
第116図 PL.100	3	土師器 台付甕	底面+36 胴部下位～台部 上位	底	5.7			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面にハケ目(6本/1cm)。台部もハケ目。一部をナデ消す。内面胴部はヘラナデ。砂目粘土を充填。台部は指ナデ。中心寄りに砂目粘土。	
第116図 PL.100	4	土師器 小型甕	底面+18 底部片	底	5.2			粗砂粒少/良好/灰 黄褐	被熱のためか 摩滅のため、整形の観察不可能。	被熱のためか 炭素吸着。
第116図 PL.100	5	土師器 甕	底面+1 胴部下半部～底 部	底	6.2			粗砂粒多/良好/褐 灰	外面は横位に細い単位のヘラナデ。内面の下位は縦位、それ以下は横位のヘラナデ。底部内外面に砂目粘土を貼付。	器面炭素吸着。 。

3区4号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第116図 PL.100	1	土師器 高杯	底面+56 脚部3/4	底	13.0			粗砂粒/良好/橙	外面はナデか。内面の上半部に横位のヘラナデ。裾部は横ナデ。	器面摩滅。
第116図 PL.100	2	土師器 埴	底面+29 胴部	底	4.1			粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい橙	胴部外面の上位・中位はヘラナデ。下位はヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に 炭素吸着。黒 班状。

3区5号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重	底				
第117図 PL.100	1	石製品 石製品	埋没土中 1/2	長 幅	(24.0) (24.2)	厚 重	12.4 5506.5	二ツ岳石//	漏斗状の孔が認められ、上端部径約10cm、底部径約1.5cm、深さ約5cmを測る。正面、右側辺、下側辺に平ノミ状工具痕が、また上側辺には棒状工具痕が認められ、主にこの二種の工具により最終的に整形されたものと考えられる。	

4区2号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第117図 PL.100	1	土師器 甕	底面+32 完形	口	14.0	高	19.0	小礫多・粗砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面は頸部にヘラナデ。胴部上半は斜位のヘラナデ。下半部は縦位のヘラナデ後、横位のナデを重ねる。内面はヘラナデ。	胴部外面の広 範囲に煤付着 。

4区3号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第118図 PL.100	1	土師器 甕	底面+22 胴部下位～底部	底	8.2			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面の残存最上位にヘラナデか。以下縦位にハケ目。内面はヘラナデ。	割れ口は旧事 か。

2区10号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第126図 PL.101	1	土師器 杯	底面+2 一部欠	口	12.4	高	6.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。以下横位の手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部中央から放射状にヘラ磨き。	内面摩滅。
第126図 PL.101	2	土師器 鉢	底面+5 4/5	口 底	13.3 4.0	高	6.6	粗砂粒・角閃石粒/ 良好/にぶい橙	狭小な平底の底部。口縁部は横ナデ。外面は体部にナデ。底部寄りに手持ちヘラ削り。底部はナデ。内面は横位のナデ。	被熱の為、器 面摩滅。煤付 着。
第126図 PL.101	3	土師器 鉢	底面+4 2/3	口 底	19.5 7.6	高	9.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着 。摩滅。
第126図 PL.101	4	土師器 甕	底面+2 口縁部～胴部上 位	口	14.1			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。外面は頸部に粗雑なナデの痕を残す。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に 煤付着。

遺物観察表

2区105号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	底			
第141図 PL.101	1	堺・明石陶器 すり鉢	埋没土中 完形	口底	33.3 15.6	高	13.0	//橙	片口1箇所。口縁端部内面の突帯は退化して段差となる。体部外面回転削り。無釉。体部のすり目は底部に至る。底部内面中央のすり目「米」印状。

3区50号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	底				
第150図 PL.101	1	肥前磁器 染付筒形碗	底面+31 底部1/2	底	4.9			//白	口縁部から体部外面斜格子間に菊花文か。高台脇と高台外面1重圏線。底部内面1重圏線内に簡略化した五弁花。	
第150図	2	肥前磁器 染付筒形碗	底面+16 口縁部一部、底部完	底	3.8	高	5.7	//白	口縁部から体部外面欠損部多く文様不明。高台脇2箇所に松葉文。口縁部内面2重圏線。底部内面、1重圏線内にコンニャク印判による五弁花。	
第150図 PL.101	3	瀬戸・美濃陶器 練鉢	底面+10 口縁部から体部1/8	口底	(32.0)			//灰白	口縁部内湾し、外面は折り返す。内外面灰釉で残存部1箇所銅緑釉を流す。	
第150図	4	在地系土器 鉢か	底面+20 口縁部から体部片					//橙～灰白	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表橙色から灰白色。口縁部強い回転横撫で。口縁部端部外方に折れる。体部外面下端回転削り。	
第150図 PL.101	5	在地系土器 手焙り	底面+10 1/3	口底	(16.6) (14.0)	高	9.6	//灰白～黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。体部外面型による施文。口縁部外面磨き。内面上半回転横撫で、下半篋状工具による撫で。底部外面脚1箇所残存。3脚であろう。	
第150図 PL.101	6	在地系土器 火鉢か鉢	底面+21 口縁部1/3、底部一部	口底	(38.0) (25.3)	高	12.0～ 12.4	//にぶい橙	断面黒色、器表付近から器表にぶい橙色。内面から口縁部外面回転横撫で。体部外面撫で。底部外面型痕。	
第150図	7	在地系土器 火鉢	底面+20 体部下位以下1/3	口底	- (18.5)			//黒	断面にぶい橙色、器表黒色。体部外面型による施文。体部外面残存部上端に撫でが認められ、取っ手が貼り付けられていた可能性高い。高台貼り付け。高台外面磨き。	
第150図	8	在地系土器 焙烙	底面+20 口縁部から底部片					//浅黄橙	丸底。底部外面周縁低い段差。立ち上がり外面のみ煤付着。	
第150図 PL.101	9	在地系土器 焙烙	底面+20 ま	口底	(36.0) (34.0)	高	5.3	//黒	断面灰白色、器表黒色。内耳1箇所残存し、近接して内耳貼り付け痕が残る。内面中位轆轤目状の段差巡る。外面上位接合痕残る。外面下位回転横撫でにより型痕撫で消す。外面下端幅の狭い回転削り。	40069と同一個体か。
第151図	10	在地系土器 焙烙	底面+9 口縁部から底部片			高	5.1	//黒	断面灰白色、器表黒色。内面中位轆轤目状の段差巡る。外面上位接合痕残る。外面下位回転横撫でにより型痕撫で消す。外面下端幅の狭い回転削り。	40068と同一個体か。
第151図	11	在地系土器 焙烙	底面+10 口縁部から底部片	口底	(36.0) (32.0)	高	5.0	//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。体部中位肥厚。外面中央接合痕。外面下位回転横撫でが及ぶが型痕明瞭に残る。底部外面型痕。底部外面煤付着。	40071と同一個体か。
第151図	12	在地系土器 焙烙	底面+17 口縁部から底部片			高	5.2	//黒	断面暗灰色、器表付近灰白色、器表黒色。体部中位肥厚。体部外面下位回転横撫でを施すが型痕明瞭に残る。底部外面型痕。	
第151図	13	在地系土器 置輪	底面+24 1/6	口底	(36.0) (40.0)	高	5.7	//暗灰～黒	断面暗灰色、器表付近灰白色、器表暗灰色から黒色。受け部立ち上がり高い。	
第151図	14	在地系土器 置輪	底面+10 1/4	口底	(35.5) (40.0)	高	5.1	//黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。基部の器壁厚く、受け部立ち上がり低い。	
第151図	15	在地系土器 煎り鍋	底面+24 口縁部から底部片			高	2.4	//にぶい黄橙・黒	にぶい黄橙色、内面器表部分的に黒色。体部下位以下回転削り。口縁部から体部外面に取っ手貼り付け痕。	
第152図 PL.102	16	在地系土器 炬形土器	底面+10 1/5			高	18.8	//黒	断面暗灰色、器表付近灰白色、器表黒色。底部外面器表灰白色。口縁部上面と端部外面のみ丁寧な撫で。内面はやや丁寧な撫で。外面は篋状工具による粗い撫で。	炬燵か囲炉裏に使用か。
第152図 PL.102	17	在地系土器 羽口	底面+24 基部欠、先端部1/2欠			先	5.4	//灰白～黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦撫で。	使用痕認められない。
第152図 PL.102	18	在地系土器 羽口	底面+20 一部欠	長基	45.5 6.8～ 7.0	先	5.4～ 5.6	//灰白～黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦撫で。	設置痕、使用痕認められない。
第152図	19	在地系土器 羽口	底面+10 基部片	基	7.0			//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。外面撫で。内面型作りによると推定される皺状痕残る。	使用混認められない。
第152図	20	在地系土器 十能瓦	底面+24 基部片			高	4.6	//黒	断面中央灰色、器表付近灰白色、器表黒色。外面型痕。内面と上面撫で。取っ手と体部欠損。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
						厚			
第152図	21	在地系土器 十能瓦	底面+20 破片			厚 1.5	//灰白～黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰白から黒色。凸面型痕。凹面などでにより器表平滑。凹面の木口側撫での後、湾曲部内面幅広い撫で。凸面湾曲部側縁撫で。	
第152図	22	在地系土器 十能瓦か	底面+10 木口辺			厚 1.6	//灰白・暗灰	断面黒色、器表付近灰白色、凹面器表暗灰色、凸面器表灰白色。凹面型痕。凸面丁寧な撫でにより器表平滑。	
第152図	23	在地系土器 十能瓦か	底面+67 1/4			厚 1.5	//灰	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰色。凹面型痕、凸面丁寧な撫でにより平滑。側縁素地補修による盛り上がりとならぬ痕が残る。	
第153図	24	在地系土器 十能瓦か	底面+10 1/4			厚 1.5	//灰白～黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。凹面型痕。凸面撫で。側縁に焼成前穿孔1箇所。	
第153図 PL.102	25	在地系土器 不明棒状土 製品	底面+10 端部片	幅 4.7		厚 2.7	//にぶい黄橙	断面方形を呈し、1面は溝状に窪む。木口付近は形状が乱れる。器表全体に輝石か角閃石を主体とした微細な礫を付着させる。胎土中にも同じ微細礫を含むが、器表部分は明らかに数が多い。	
第153図 PL.102	26	石製品 石白(上白)	底面+6 1/4	径幅 31.0	厚重 10.1 3859.4		粗粒輝石安山岩//	側面に挽き手孔の一部残る。底面は摩滅し僅かに挽目の痕跡が認められる。底面中央部には直径約4cmの軸受孔の一部が残る。	
第153図 PL.102	27	石製品 石白(上白)	底面+6 不明	径幅	厚重 (10.4) 3164.2		粗粒輝石安山岩//	上面及び底面は平滑面で構成され、底面には挽目の痕跡が明瞭に認められる。底面中央部には直径約3.5cmの軸受孔の一部が残る。	
第153図 PL.102	28	石製品 石製品	底面+34 完形	長幅 8.6 5.5	厚重 6.5 216.0		二ツ岳軽石//	研磨に整形されたと考えられる平坦面が認められる。平ノミ状工具による整形痕および断面V字状の線状痕もまた認められる。	

3区57号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	厚重				
第154図 PL.102	1	石製品 石製品	底面+23 2/3	長幅 3.9	厚重 2.0 17.1		二ツ岳軽石//	上下の二つの面やや凸状の面が認められ、研磨により作出された磨面と考えられる。	
第154図 PL.102	2	石製品 石製品	底面+37 完形	長幅 5.1	厚重 4.7 245.1		二ツ岳軽石//	上下の二つの面やや凸状の作出面が認められ、研磨により作出されたと考えられる。	

3区60号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第156図 PL.102	1	肥前磁器 染付筒形碗	底面+5 口縁部から体部 一部欠	口底 7.2 3.7	高 5.2		//白	口縁部から体部外面斜格子間に菊花文5つ描く。高台脇と高台外面1重圏線。口縁部内面2重圏線。底部内面1重圏線内に簡略化した五弁花。	
第156図 PL.102	2	肥前磁器 染付筒形碗	底面+6 口縁部1/2、底 部4/5	口底 7.2 3.8	高 4.8		//白	やや器高低い。口縁部から体部外面斜格子間に菊花文5つか。高台脇と高台外面1重圏線。口縁部内面2重圏線。底部内面1重圏線内に簡略化した五弁花。貫入入る。	
第156図	3	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器か小 碗	底面+8 口縁部1/3	口 (6.1)			//灰白	体部外面下位回転篋削り。残存部内外面灰釉。貫入入る。	
第156図	4	瀬戸・美濃 陶器 小碗	底面+5 口縁部1/3	口 (6.2)			//灰白	外面中位以下回転篋削り。内面から外面下位灰釉。	
第156図 PL.102	5	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	底面+1 口縁部1/3、底 部1/2	口底 (9.2) 4.0	高 4.8		//白	器壁薄い。口縁部から体部外面唐草文。口縁部内面簡略化した文様帯。底部内面2重圏線内に不明文様。高台内不明銘。	
第156図 PL.102	6	在地系土器 皿	底面+7 口縁部1/5欠	口底 10.2 6.3	高 2.2～ 2.4		//浅黄橙	体部やや内湾。底部左回転糸切無調整であるが、撚りがほとんどない糸による切断と考えられる。	
第156図 PL.102	7	在地系土器 皿	底面+7 口縁部一部欠	口底 9.9～ 10.5 6.5	高 2.2～ 2.6		//橙	体部内湾。底部左回転糸切無調整。底部内面左回転螺旋状轆轤目。	
第156図 PL.103	8	在地系土器 甗	底面+5 口縁部から体部 2/3	口 40.2			//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。外面突帯以下篋状工具による縦位撫で。内面丁寧な撫で。口縁部回転横撫で。	
第156図 PL.103	9	在地系土器 手焙り	底面+8 2/3	口底 18.5 15.0	高 8.5		//褐灰～黒	断面にぶい橙色、器表褐灰から黒色。口縁部外面断面三角形の沈線1条。体部外面下端回転篋削り。底部外面3方を篋削り後、半球形の脚貼り付け。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高	高さ				
第156図	10	在地系土器 火鉢か鉢	底面+13 口縁部から体部 片				//浅黄橙	断面暗灰色、器表付近から器表にぶい黄橙色。内面から口縁部回転横撫で。口縁部上面凹線状に窪む。口縁部外面と体部外面沈線。体部沈線下は回転篋削りて下位は篋削り後に回転横撫で。沈線施文後、沈線間にスタンプか回転施文具による直線文。		
第156図 PL.103	11	在地系土器 焙烙	底面+10 2/3	口 底	35.7 32.7	高	4.7~ 5.3	//灰~黒	厚い部分の断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰色から黒色。体部中位肥厚。残存部1箇所内耳貼り付け痕残る。外面中位接合痕残る。外面下位回転横撫でで型痕消し切れていない。底部外面型痕。	
第157図 PL.103	12	在地系土器 焙烙	底面+2 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(39.5) (34.7)	高	4.9~ 5.3	//暗灰~黒	断面灰白色、器表暗灰色から黒色。底部外面暗灰色。残存部内耳1箇所。外面中位接合痕残る。外面下端わずかに回転横撫でが及ぶが型痕明瞭に残る。底部外面型痕。	
第157図	13	在地系土器 焙烙	底面+4 1/8	口 底	(36.0) (32.0)	高	5.0	//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。体部中位肥厚。外面中央接合痕。外面下位回転横撫でが及ぶが型痕明瞭に残る。底部外面型痕。底部外面煤付着。	40070と同一 個体か。
第157図	14	在地系土器 焙烙	底面+6 1/4	口 底	(34.0) (31.0)	高	5.0	//にぶい橙~黒	断面にぶい橙色から灰白色、器表にぶい橙色から黒色。外面中位接合痕、外面下位型痕明瞭に残る。底部外面型痕。口縁部から体部器表剥離箇所多い。	
157第図 PL.103	15	在地系土器 焙烙	底面+4 1/6	口	(33.9)			//にぶい橙	丸底。底部外面周縁低い段差。屈曲部外面回転篋削り。	
第157図	16	在地系土器 焙烙	底面+12 1/4	口	(33.4)			//にぶい橙	丸底。底部外面周縁幅広の低い段差。底部内面から体部内面2段に屈曲。	
第157図 PL.103	17	在地系土器 焙烙	底面+4 1/4	口 底	(38.0) (35.0)	高さ	4.9~ 5.3	//黒	断面灰白色、器表黒色。外面中位接合痕。外面下位回転横撫でが及ぶが、型痕明瞭に残る。底部外面型痕。内耳1箇所残存。	
第157図 PL.103	18	在地系土器 置輪	底面+3 2/3	口 底	31.5 36.7	高	4.6	//黒	断面暗灰色、器表付近橙色から灰白色、器表黒色。基部の器壁厚く、受け部の器壁はやや薄い。	
第158図 PL.104	19	在地系土器 置輪	底面+2 一部欠	口 底	33.5 38.3	高	5.4	//にぶい橙~黒	断面灰白色から橙色、器表にぶい橙色から黒色。割れ口で色調が異なり、二次比熱破片が混在する。内側器表は黒色部分が多い。基部は角張り、器壁も厚い。	
第158図 PL.104	20	在地系土器 火消壺	底面+3 体部から底部 1/4欠	口 底	14.9~ 15.2 17.5	高	16.6	//黒	断面から内面器表と外面器表黒色、外面器表付近のみ灰白色。内外面上半はやや丁寧な回転横撫で。口縁部は丁寧な回転横撫で。体部2箇所に取っ手貼り付け。底部外面型痕。	
第158図 PL.104	21	在地系土器 羽口	底面+4 基部欠			先	5.0~ 5.5	//灰白~黒	断面灰白色、器表灰白色から黒色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	使用痕認めら れない。
第158図 PL.104	22	在地系土器 羽口	底面+1 一部欠	長 基	46.2 6.3~ 7.2	先	5.2~ 5.6	//灰白	基部付近の断面中央黒色、他は灰白色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	使用痕、設置 痕認められ ない。先端に「  」押印。
第158図 PL.104	23	在地系土器 羽口	底面+6 3/4	長 基	45.6 6.8~ 7.3	先	5.6~ 5.9	//灰白~黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	設置痕、使用 痕認められ ない。
第159図 PL.104	24	在地系土器 羽口	底面+7 3/4	長	45.8	先	5.3~ 5.4	//橙色~黒	厚い部分の断面中央黒色、断面にぶい橙色から灰白色。器表橙色から黒色。先端部内径2.3~2.5cm。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	設置痕、使用 痕認められ ない。先端に「  」押印。
第159図	25	在地系土器 羽口	底面+3 先端部片			先	5.2~ 5.5	//灰白~黒	断面中央黒色、器表付近から器表灰白。1/2程の器表黒色。先端部内径2.3~2.4cm。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	使用痕認めら れない。
第159図	26	在地系土器 羽口	底面+3 基部付近片					//にぶい橙~黒	断面中央黒色からにぶい橙色、器表付近灰白色からにぶい橙色、器表にぶい橙色から黒色。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	
第159図	27	在地系土器 羽口	底面+7 先端部片			先	5.3~ 5.9	//灰白~黒	先端部内径2.1~2.5cm。内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	使用痕認めら れない。
第159図	28	在地系土器 羽口	底面+1 1/4					//灰白~黒	内面型作りによると推定される皺状痕残る。外面縦位撫で。	
第159図	29	在地系土器 十能瓦か	底面+5 1/4			厚	1.5	//黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。凹面に型痕。凸面は撫で調整で器表平滑。端部付近は撫で。	
第159図	30	在地系土器 十能瓦か	底面+5 破片			厚	1.4	//暗灰~灰白	断面黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色から灰白色。凹面は型痕。凸面は丁寧な撫でにより器表平滑。側縁に、焼成前の穿孔1箇所残る。穿孔は凸面側から開ける。	
第159図	31	在地系土器 十能瓦か	底面+4 1/6			厚	1.5	//灰白~黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。凹面型痕。凸面撫で。側縁に焼成前穿孔1箇所。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	厚	高			
第159図	32	在地系土器 十能瓦か	底面+3 1/6			1.5	//灰白～黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰白色から黒色。凹面型痕。凸面撫で。側縁に焼成前穿孔2箇所。	
第159図	33	在地系土器 不詳	底面+4 口縁部から底部 片				//黒・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、外面器表黒色、内面器表暗灰色。口縁部内側に突き出る。外面口縁部下突帯貼り付け。内面から突帯部回転横撫で。外面突帯以下篋削り。	

3区61号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	厚	高			
第160図 PL.105	1	在地系土器 皿	底面+8 1/4	口 底	(9.9) (6.2)	高 2.6	//橙・にぶい橙	断面から外面器表橙色、内面器表にぶい橙色。底部回転糸切無調整。底部焼成後の穿孔2箇所残存。	底部穿孔の二次加工。
第160図 PL.105	2	在地系土器 焙烙	底面直上 一部欠	口 底	36.0～ 37.0 34.0	高 5.4～ 5.7	//灰白～黒	断面中央暗灰色、器表付近灰白色。器表底部内面の器表一部と底部外面は灰白色、他は黒色。内耳3箇所貼り付け。体部外面下位は型痕を撫で消すための強い回転横撫でにより窪む。体部外面下端面取り状の篋削り。底部外面型痕。	
第160図	3	在地系土器 焙烙	底面直上 1/6	口 底	(39.0) (37.0)	高 5.3	//褐灰	断面暗灰色、器表付近灰白色、器表褐灰色。外面中位接合痕残る。体部外面下位から底部外面型痕。	

4区7号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第162図 PL.105	1	鉄製品	埋没土中 不明	長 幅	7.5 0.8	厚 重	0.7 7.21		

4区15号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	厚	高			
第163図 PL.105	1	土師器 埴	底面+4 口縁部～胴部上 半片	口 底	9.3			粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部に縦位のナデあるいは磨き、胴部は丁寧なナデ。内面はナデ。指頭圧痕。

4区30号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第165図 PL.105	1	石製品 白玉	底面+25 完形	長 幅	0.6 0.6	厚 重	0.4 0.16	滑石//	孔径2.5mm。上面は正面に対してほぼ直角をなし研磨も全体に行き届いているが、下面は正面に対して斜めであり研磨も一部にとどまる。正面は縦方向の線状痕がよく認められる。

4区52号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第168図 PL.105	1	鉄製品	底面直上 不明	長 幅	5.3 1.6	厚 重	0.4 2.49		

4区57号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第169図 PL.105	1	土製品 土錘	底面直上 完形	長 幅	2.5 1.0	厚 重	0.9 0.3	細砂粒/良好/黄褐	指頭による整形後、一方の小口は端部をヘラで切って整えている。

1区17号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	厚	高			
第171図 PL.105	1	土師器 杯	底面+14 1/4	口 底	12.0			粗砂粒/良好/明赤褐	外面の口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部はヘラ削り。内面はナデ。器面摩耗。

4区55号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	厚	高			
第182図	1	土師器 壺	底面+17 口縁部片	口 底	18.0			粗砂粒多/良好/橙	口縁部の先端は外側が肥厚する。外面下半はハケ目の上に横ナデを重ねる。内面はナデ。

遺物観察表

遺構外出土遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図 PL.106	1	縄文土器 深鉢	5区 胴部片				A//	縄文Rを横位施文し、半截竹管による集合沈線文を横位に施す。内面風化。	諸磯b式
第185図 PL.106	2	土師器 杯	1区1周 1/4	口 底	12.0 4.8	高 4.1	粗砂粒/良好/橙	外面は口縁部に横ナデ。体部はナデ。最下位のみヘラ削り。底部は砂底。周縁部に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第185図 PL.106	3	土師器 高杯	4区3溝 杯部1/3	口	18.1		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部先端は横ナデ。以下は丁寧なナデ。内面はナデ。	器面摩滅。
第185図 PL.106	4	土師器 高杯	3区7溝 杯部1/3	口	25.0		粗砂粒/良好/橙	杯部は2段になり外反する。外面は口縁部下半に軟らかなヘラ削り。受部は縦位のヘラナデ。内面は杯部、受部ともヘラ磨き。	器面摩滅。
第185図 PL.106	5	土師器 高杯	3区30土 杯部片	口	18.8		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	内外面とも横ナデ。外面中位の変換点下にヘラ削り。	
第185図 PL.106	6	土師器 高杯	3区7溝 杯部下位～脚部 2/3				粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は中位に段をなし、裾部が更に外反する。外面脚部下半はナデ・ミガキか。裾部はヘラ磨き。脚部内面の柱部は指ナデ。裾部は棒状工具によるナデ。	外面摩滅。外面脚裾部に赤色塗彩か。
第185図 PL.106	7	土師器 高杯	3区30土 脚部1/3	底	16.0		粗砂粒/良好/橙	上端は杯部を受けるための小孔が貫通している。外面は上位・中位に縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は上位・中位に一部ヘラ削りの他はヘラナデ。一部に輪積み痕を残す。裾部は横ナデ。	被熱の為か炭素吸着。
第185図 PL.106	8	土師器 高杯	3区30土 杯部下位～脚部 1/2				赤黒色粘土粒/良 好/明赤褐	外面は杯部に縦位のヘラ削り。脚部の柱部に縦位のヘラ削り。裾部は縦位のハケ目の上に横ナデを施すが、ハケ目を良く残す。内面は胴部上位が指ナデ、中位・下位はナデ。	器面摩滅。
第185図 PL.106	9	土師器 高杯	4区3溝 杯部下位～脚部 中位				粗砂粒/良好/橙	杯部口縁部は接合部分から欠落している。脚部中位には透孔3孔が不均等な配置で穿たれている。脚部外面はハケ目。ヘラ削り後、縦位のヘラナデ。内面は柱部上位に強い絞り痕を残す。中位・下位は横位のヘラ削り。輪積み痕が見られる。裾部は横ナデ。	器面摩耗。
第185図 PL.106	10	土師器 高杯	3区 脚部のみ	底	8.4		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦位のヘラ磨き。内面はヘラナデ。	
第185図 PL.106	11	土師器 高杯	3区2掘 脚部1/2	底	10.9		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	外面は縦位のナデ。ヘラ磨きを重ねているか。内面の上半部はナデ。	器面摩滅。
第185図 PL.106	12	土師器 鉢	3区11土 口縁部～底部 1/3欠	口 底	19.0 7.2	高 6.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	甕の製作を途中で変更して鉢として完成させたもの。口縁部先端は横ナデ。以下はヘラナデ。内面もヘラナデ。体部外面に木葉痕。	
第186図 PL.106	13	須恵器 杯	1区1周 1/3	口 底	13.0 5.8	高 4.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・軟質 /灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
第186図 PL.106	14	土師器 埴	4区3溝 3/4	口	6.9	高 9.0	粗砂粒/良好/淡黄	丸底。口縁部は横ナデ後、縦位にヘラ磨き。胴部外面は横位にヘラ削り。内面はナデ。	
第186図 PL.106	15	土師器 埴か	4区3溝 口縁一部欠	口 底	9.9 3.3	高 6.7	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	不安定で狭小な平底。口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面上位はナデ。中位以下は横位・斜横位のヘラ削り。内面は指ナデ、指押さえ。	外面やや摩滅。
第186図 PL.106	16	土師器 埴	4区3溝 胴部2/3	底	1.9		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	平底。外面の上位、中位は斜位のハケ目。下位は横位のヘラ削り。内面は頸部に指頭圧痕。以下は指ナデ。	器面摩滅。
第186図 PL.106	17	土師器 埴	3区29土 口縁部欠損	底	3.3		粗砂粒・軽石粒/良 好/にぶ い黄橙	狭小な平底。外面は上半部にナデの上に斜位にヘラ磨きを重ねる。下半部は横位・斜横位を主体としたヘラ削り。内面は指ナデ。	外面の一部炭素吸着。口縁部欠損後も利用か。
第186図 PL.106	18	土師器 埴	3区 胴上部から底部	底	3.8		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	胴部外面の上半部はナデ。下半部は手持ちヘラ削り。内面は指ナデと考えられる。	
第186図 PL.106	19	土師器 壺	4区3溝 口縁部～胴上部 1/3	口	14.5		小礫・粗砂粒/良好 /淡黄	口縁部は斜位のハケ目後、先端に横ナデ。胴部外面の頸部直下は斜位のそれ以下は斜横位のハケ目。この上に縦に間隔を開けてヘラ磨き。内面の頸部直下に指押さえ。上位はヘラナデ。中位は外面と異なる工具により斜横位のハケ目。	
第186図	20	土師器 壺か	4区3溝 胴部下半～底部	底	8.1		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/灰白	胴部外面は横位にヘラ削り。底部外面もヘラ削り。内面はヘラナデと考えられる。	外面炭素吸着。黒斑。
第186図 PL.107	21	須恵器 甕か	4区3溝 口縁部片	口	9.2		白色鈹物粒/還元 焰/黒	ロクロ整形(右回転か)。	内面に自然釉付着。
第186図 PL.107	22	土師器 甕	1区2柵 胴部下位～底部 片				粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	凸状の底部の中央に直径2.6cmの孔を穿つ。孔周辺の整形は粗雑。胴部外面は縦位のハケ目。底部寄りから底部外面はヘラ削り、ヘラナデ。内面はヘラナデ。	
第186図 PL.107	23	土師器 甕	3区30土 胴部下位～底部	底	6.1		粗砂粒/良好/灰褐	底部中央に直径1.4cmの小孔を穿つ。胴部外面はナデか。内面はヘラ磨き。	外面摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第186図 PL.107	24	土師器 台付甕	4区21土 口縁部～体部片	口	17.8		粗砂粒・角閃石粒・ 雲母粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は右上から左下にハケ目(6本/1cm)。内面はナデ。	
第186図 PL.107	25	土師器 甕	3区29土 3/4	口 底	19.0 7.6	高 27.7	粗砂粒・角閃石粒/ 良好/灰黄褐	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下に縦位の。これ以下は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面炭素吸着 。摩滅。
第186図 PL.107	26	土師器 甕	5区 口縁部～胴部上 位2/3	口	26.8		粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は右上から左下にハケ目(5本/1cm)。内面はナデか。台部が付く可能性あり。	
第186図 PL.107	27	土師器 甕	3区30土 口縁～胴部上 1/3	口	20.0		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は口縁部下半に非常に細かいハケ目を残す。胴部は斜縦位のハケ目。内面は横位のハケ目とヘラナデとが混在。	外面炭素吸着 。黒班状。
第186図 PL.107	28	土師器 甕	4区3溝 口縁部～胴部上 位片	口	16.6		白色鈹物粒/良好/ にぶい褐	口縁部は横ナデ。頸部直下はヘラナデ。その下にはハケ目状工具によるヘラ削りが施される。	
第186図 PL.107	29	須恵器 甕	2区7溝 台部のみ			台 21.8	粗砂粒/酸化焰/黄 橙	中位やや上寄りに円形の透孔有り。紐作り後、ロクロ整形によるナデ。	
第187図 PL.107	30	須恵器 甕か	4区3溝 口縁部片	口	38.2		粗砂粒・角閃石粒/ 還元焰/酸化焰ぎ み/淡橙	紐づくり後、ロクロ整形。罅部は本体整形後に貼付。周縁部にナデ調整。	
第187図 PL.108	31	土師器 手捏ね	2区3溝 胴部下半～底部 3/5	底	2.2		粗砂粒・角閃石粒/ 良好/黄橙	不安定な平底。外面は胴部上半部にナデ。下半部は手持ちヘラ削り。底部はヘラ削り。内面はナデ。	
第187図 PL.108	32	土師器 手捏ね	3区6溝 4/5	底	2.0		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	平底。外面はナデ。内面もナデ。	外面摩滅。
第187図 PL.108	33	土師器 手捏ね	3区6溝 口縁部欠損3/5	底	3.3		粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	平底。外面はナデ。内面もナデ。	
第187図	34	土師器 不明	4区 口縁部片				粗砂粒/良好/にぶ い橙	端部寄りに焼成前穿孔の直径4.5ミリの小孔あり。器面はナデ。	
第187図	35	埴輪 円筒	2区7溝 口縁部～胴部片				白色鈹物粒/窯窯 焼成/にぶい黄橙	外面に縦ハケ(9本/1cm)後、突帯貼付。周縁部に横ナデ。内面は斜横位のナデ。	
第187図	36	埴輪 円筒	2区7溝 口縁部片				粗砂粒/窯窯焼成/ にぶい橙	先端はシャープな平坦面を外方に向ける。外面に縦ハケ(9本/1cm)。先端に横ハケ。内面はナデ。	
第187図	37	埴輪 円筒	2区7溝 胴部片				粗砂粒/窯窯焼成/ にぶい黄橙	外面に縦ハケ(5本/1cm)後、断面M字形の突帯貼付。その後、周縁部に横ナデ。内面はナデ。	
第187図	38	埴輪 円筒	2区7溝 胴部片				粗砂粒・赤色粘土 粒少/窯窯焼成/淡 黄	器肉薄い。外面に縦ハケ(5本/1cm)。内面はナデ。	
第187図	39	埴輪 円筒	2区7溝 胴部片				粗砂粒/窯窯焼成/ にぶい黄橙	外面に斜ハケ(6本/1cm)後、幅広の断面台形の突帯貼付。その後、周縁部に横ナデ。	
第187図	40	埴輪 円筒か	2区7溝 胴部片				粗砂粒・赤色粘土 粒/窯窯焼成/橙	外面に縦ハケ(4本/1cm)。直径がやや小さく形象基部の可能性ある。	内面摩滅。
第187図	41	埴輪 円筒	2区7溝 底部部片				粗砂粒/窯窯焼成/ にぶい橙	外面に縦ハケ(5本/1cm)。内面はナデ。	
第187図	42	埴輪 円筒	3区50土 破片				粗砂粒/窯窯焼成/ にぶい橙	外面は斜縦位のハケ目(5本/1cm)後、断面台形の突帯貼付。周縁部に横ナデ。	
第187図	43	中国磁器 染付皿か	4区 口縁部片				//白	外面不明文様。内面2重圏線。	明代。
第187図	44	肥前磁器 染付碗	2区 体部一部、底部 3/4	底	4.6		//白	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。内面無文。	
第187図	45	製作地不詳 磁器 白磁小杯	2区 口縁部1/4、底 部完	口 底	(7.0) 1.5	高 3.1	//白	口縁部から体部鬚状に作る。残存部無文で上絵痕も認められない。	近現代。
第187図	46	製作地不詳 磁器 染付平碗	2区 口縁部1/3、底 部1/2	口 底	(11.0) (3.6)	高 6.0	//白	菊唐草文はゴム印版。口縁部外面の呉須は吹きつけによる。内面無文。高台端部付近無釉。高台端部外面面取り。	近現代。
第187図	47	製作地不詳 磁器 染付皿	2区 口縁部1/4、底 部1/3	口 底	(22.0) (12.2)	高 3.5	//白	内面型紙摺による牡丹文。花部分に濃みを入れる。口縁端部呉須塗り。裏文様は唐草文。高台端部無釉。	近現代。
第187図	48	益子・笠間 陶器 すり鉢	2区 口縁部1/8、底 部1/4	口 底	(27.5) (14.9)	高 12.4	//橙	口縁部丸みを帯び、内側は尖る。内面密なすり目を施した後、口縁部内面回転横撫でにより撫で消す。口縁部内面から体部下端、高台内錆色の鉄釉。高台幅広で体部外面下端面面取り。	近現代。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
						高				
第187図	49	在地系土器 焙烙	2区 口縁部から底部 片			高	5.4	//灰白	断面灰色、器表付近灰白色、器表灰色味の強い灰白色。体部中位肥厚。外面中位接合痕。外面下位軽く回転横撫でを施すが、型痕明瞭に残る。底部外面型痕。	
第188図	50	在地系土器 焙烙	2区 口縁部から底部 片			高	5.4	//灰	断面浅黄橙色、器表灰色。外面中位接合痕。外面下位軽く回転横撫でを施すが、型痕明瞭に残る。底部外面型痕。	
第188図	51	在地系土器 焙烙	2区 口縁部から底部 一部			高	5.6	//灰	断面灰白色、器表灰色。外面中位接合痕残る。外面下位型痕。外面下端回転篋削り。底部外面型痕。内耳1箇所残存。	
第188図	52	在地系土器 十能瓦	2区 1/6			厚	1.6	//黒	断面灰白色、器表黒色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。	0
第188図	53	在地系土器 十能瓦	2区 1/6			厚	1.4	//灰白～黒	断面灰白色、凹面器表黒色、凸面器表灰白色から灰色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。木口部に焼成前円孔1箇所残存。	
第188図	54	在地系土器 十能瓦	2区 1/8			厚	1.4	//灰白～黒	断面灰白色、器表灰白色から黒色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。	
第188図 PL.108	55	在地系土器 十能瓦	2区 1/3			厚	1.4	//黒	断面灰白色、器表黒色。側縁湾曲し、残存する側縁には素地補修による粘土貼り付け痕と高まりが明瞭に残る。凹面撫での後、凹面木口部撫での後、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。凹面「土□...□...」の窪による文字。	文字瓦。
第188図 PL.108	56	在地系土器 十能瓦	2区 1/3			厚	1.2	//灰～黒	断面灰白色、凹面器表黒色、凸面器表灰色から黒色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。	
第189図 PL.108	57	在地系土器 十能瓦	2区 1/2	長	27.4	厚	1.6	//黒	断面灰白色、器表黒色。凹面縦位撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。凸面器表の一部剥離。縦方向も凹面側にやや湾曲。	
第189図 PL.109	58	在地系土器 十能瓦	2区 2/3	長	27.5	厚	1.6	//灰白～黒	断面灰白色、器表灰白色～黒色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部撫で。凸面型痕。	
第189図 PL.109	59	在地系土器 十能瓦	2区 1/3			厚	1.4	//黒	断面灰白色、器表黒色。凹面撫での後、凹面木口部、側縁湾曲部の撫で。凸面型痕。側縁素地補修時の粘土貼り付け痕と盛り上がり残る。欠損する側縁付近に湾曲部撫でが一部認められる。	
第190図	60	在地系土器 軒先十能瓦	2区 1/4			厚	1.4	//灰白・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色で表面のみ灰白色。十能瓦木口部裏面に瓦頭を貼り付け。表面型痕。	40043と同文様。
第190図	61	在地系土器 軒先十能瓦	2区 1/4			厚	1.3	//灰白・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、表面と瓦頭面器表灰白色。裏面器表暗灰色。十能瓦木口部裏面に瓦頭を貼り付け。表面型痕。	
第190図	62	在地系土器 軒先十能瓦	2区 1/6			厚	1.4	//灰白	断面中央黒色、器表付近から器表灰白色。器表付近に比して器表は灰色味が強い。十能瓦木口部裏面に瓦頭貼り付け。表面型痕。	
第190図	63	在地系土器 軒先十能瓦	2区 1/6			厚	1.4	//灰白・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色で表面のみ灰白色。十能瓦木口部裏面に瓦頭を貼り付け。表面型痕。	40040と同文様。
第190図	64	在地系土器 十能瓦	2区 1/3			厚	1.4	//灰白・暗灰	断面から器表灰白色、器表部分的に暗灰色。凸面型痕。凹面木口部幅狭い撫で。凹面側面湾曲部幅広の撫で。	
第190図	65	在地系土器 十能瓦	2区 1/4			厚	1.2	//灰白・暗灰	断面中央暗灰色、器表付近から器表灰白色、器表部分的に暗灰色。凸面型痕。凹面木口部幅狭い撫での後、湾曲部幅広の撫で。	
第190図	66	在地系土器 十能瓦	2区 1/2	長	26.8	厚	1.4	//黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。凹面木口部幅狭い撫での後、湾曲部幅広い撫で。凸面型痕。	
第191図	67	在地系土器 篋	2区 口縁部から焼き 口片		(33.8)			//赤橙	体部内面指頭圧痕残る。体部外面丁寧な撫で後、櫛描文。口縁部回転横撫で。焼き口上部に鏝貼り付け。鏝外面指押さえ。口縁部内面から端部外面煤付着。	近現代。
第191図 PL.109	68	剥片石器 打製石斧	1区7溝 1/3	長 幅	(6.4) (7.6)	厚 重	(1.7) 121.5	ホルンフェルス//	大形の剥片素材と考えられる。上下端に折断面が認められ、折断面を打面とする二次加工痕が僅かに認められる。	
第191図 PL.109	69	剥片石器 石鏃	5区 4/5	長 幅	(2.0) 1.9	厚 重	0.5 1.6	チャート//	両面全面に押圧剥離を施し丁寧に整形している。押圧剥離によって、両側縁が鋸歯状を呈する。先端部欠損。	
第191図 PL.109	70	剥片石器 石鏃	4区 4/5	長 幅	2.8 (1.7)	厚 重	0.5 1.3	珪質頁岩//	両面全面に押圧剥離を施し丁寧に整形している。左側脚部欠損。	
第191図 PL.109	71	剥片石器 石鏃	4区3溝 ほぼ完形	長 幅	(2.5) 1.4	厚 重	0.5 1.1	黒曜石//	両面全面に二次加工を施し整形。先端部欠損。器形はやや厚手である。	
第191図 PL.109	72	剥片石器 石鏃	4区5溝 完形	長 幅	2.0 (1.4)	厚 重	0.5 0.4	黒曜石//	両面全面に二次加工を施し整形。	
第191図 PL.109	73	剥片石器 石鏃	3区21土 完形	長 幅	1.9 1.5	厚 重	0.5 0.9	黒曜石//	片面に主要剥離面の一部を残す。両面に押圧剥離を施し丁寧に整形している。	
第191図 PL.109	74	礫石器 磨石	3区5溝 完形	長 幅	9.9 8.9	厚 重	5.1 522.6	粗粒輝石安山岩//	片面のほぼ全面にわたり摩滅が認められる。	

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第191図 PL.110	75	石製品 砥石	2区 4/5	長 幅	(12.5) 3.5	厚 重	3.0 140.1	砥沢石//	正面及び右側面は、研ぎ減りによりやや内湾した形態を呈する。また、右側面には刃慣らし傷の痕跡が残る。上部欠損。
第191図 PL.110	76	石製品 砥石	3区 1/2	長 幅	(10.8) 3.9	厚 重	3.0 364.0	流紋岩//	正面、裏面及び右側面に研面が認められる。正面は、他の二面に比べ著しく滑らかである。左側辺から下部にかけて大きく欠損している。
第191図 PL.110	77	石製品 石製模造品 (勾玉)	4区 完形	長 幅	2.9 2.1	厚 重	0.5 5.8	滑石//	孔径1.5mm。表面、裏面ともに一つの平坦な作出面で構成される。それぞれの作出面には擦痕が著しい。
第191図 PL.110	78	石製品 石製模造品 (剣形)	4区 1/3	長 幅	(1.8) (2.5)	厚 重	(0.4) 2.6	滑石//	想定される孔径1.5mm。表面は一つの平坦な作出面が認められる。裏面には、一つの平坦な作出面と剥落面で構成される。上部及び下部欠損。
第191図 PL.110	79	石製品 管玉	2区50土 完形	長 幅	2.1 0.5	厚 重	0.5 0.77	滑石//	孔径は上面・下面ともに2.5mm。上面及び下面から孔の内部を観察すると、共に回転方向の細かい線状痕が認められる。表面は非常によく研磨されておりごく細かい線状痕が縦方向に僅かに観察される。
第192図 PL.110	80	石製品 石製品	2区9溝 完形	長 幅	27.8 21.0	厚 重	14.8 79400	二ツ岳石//	正面、下面及び底面は平坦面であり、平ノミ状工具痕が認められる。右側面は内湾した形態であり平ノミ状工具の加工痕が明瞭に残る。
第192図 PL.110	81	古銭 文久永寶	2区 ほぼ完形	長 幅	2.661 2.661	厚 重	1.71 4.01		
第192図 PL.110	82	銅製品 キセル	4区 ほぼ完形	長 幅	3.3 1.2	厚 重	1.2 4.31		
第192図 PL.110	83	鉄製品	4区 不明	長 幅	7.1 0.9	厚 重	0.8 7.33		
第192図 PL.110	84	鉄製品	4区 不明	長 幅	3.6 0.7	厚 重	0.6 2.04		
第192図 PL.110	85	鉄製品	4区 不明	長 幅	3.0 0.7	厚 重	0.6 2.09		
第192図 PL.110	86	鉄製品	4区 不明	長 幅	8.3 1.9	厚 重	1.5 14.29		

縄文土器胎土分類

分類	特 徴
A	中量の長石、黒・灰色石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。 ※各分類は肉眼観察による相対的なものである。